意思伝達装置

伝の心

取扱説明書

株式会社　日立ケーイーシステムズ

はじめに

このたびは、意思伝達装置「伝の心」をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。「伝の心」はシステム装置、プリンターなどの周辺機器からなる製品の商品名です。システム装置には、意思伝達装置ソフトウェアや周辺機器を使えるようにするためのソフトウェアなどが入っています。
本取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。「安全にお使いいただくために」を守っていただくとともに、各機器に添付されている取扱説明書もご参照ください。

重要なお知らせ

■ 保証について

無償保証期間は、本システム装置に同梱されている保証書に記載されている期間とします。
故障が発生した場合は、販売会社へご連絡ください。
なお、つぎに該当する場合は、保証の範囲から除外させていただきます。

●お客様の不適切な取扱い、使用による場合。
●故障の原因が納入品以外の事由による場合。
●納入者以外の改造または修理による場合。
●その他、天災、災害など納入者の責にあらざる場合。

ここで言う保証は納入品単体を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。また、保証は日本国内おいてのみ有効です。(Effective only Japan)

■ お断り

●本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用する事を禁止します。
●本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
●本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
●本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
●本製品は日本国内のみに使用してください。(For Japanese Domestic Use Only)

■ 商標と技術について

●「伝の心」は株式会社 日立ケーイーシステムズの登録商標です。
●Microsoft、Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。
●LINE、コミュニケーションアプリ「LINE (ライン) 」は、LINE 株式会社の登録商標です。
●その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
●音声合成機能は、株式会社 日立製作所の音声合成技術を使用しています。
●電子メール機能には、下記技術を使用しています。
ComponentOne Studio Copyright (C) 2004 GrapeCity inc.
Secure Mail for .NET Copyright (C) 2003 Dart Communications

Copyright © Hitachi KE Systems ,Ltd. 2007-2024 All rights reserved.

安全にお使いいただくために

本製品を安全に使用していただくため下記の内容をよく読み、十分理解してください。この項目は、いずれも安全に関する内容なので、必ず守ってください。

⚠ 警告	これを無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	これを無視して、誤った取扱をすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

本製品は日常生活のコミュニケーションを支援するものです。ナースコールなど生命維持に関わる用途や医療補助具等としての用途に使用しないでください。万一事故などが発生した場合には、当社は一切の責任を負いかねます。

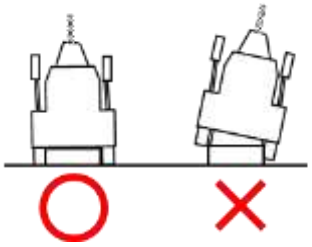
本製品を他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼす場合があります。ご使用前に隣接する機器に影響がないことをご確認ください。

お納めしたシステム品以外は使用しないでください。お納めしたシステム品以外を使用しますと、火災・感電・故障等の原因となります。

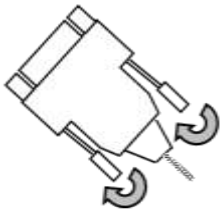
各機器に表示された電源条件以外では使用しないでください。火災・感電・故障等の原因となります。

各機器を接続または取り外す場合は、各機器の電源スイッチを切ってから行ってください。感電・故障等の原因となります。

各コネクタは挿入方向を確認して正しく挿入してください。挿入を誤ると発熱・破損等の原因となります。



各コネクタの挿入後はﾈｼﾞをしっかり締めてください。挿入が緩いと発熱・故障等の原因となります。



また、USBコネクタにはロックする機構が無いので、しっかりと差し込んでください。

各機器に水、コーヒー等の液体をこぼさないでください。火災・感電・故障等の原因となります。

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

万一、各機器から異常な発熱・煙・異臭などの異常が発生した場合は、直ちに電源スイッチを切ってください。異常な状態で使用を続けると、火災・感電等の原因となります。

各機器を過度の熱を発生するものに近づけないでください。

⚠ 注意

「伝の心」を終了させる場合、「伝の心」トップ画面のメインメニューの「終了」操作で終了させてください。直接システム装置の電源ボタンを押して終了させると、ファイルまたはハードウェアが破壊される場合があります。ただし、ホームページの閲覧または電子メールで回線が接続中に万が一回復不能なエラーが発生した場合、回線が切断されず接続中の場合もありますのでその時は、直接システム装置の電源ボタンを押して一度終了させてください。

コネクタを着脱する場合は、コネクタを持って、挿入位置を確認して正しく行ってください

各機器を床等に落下しないよう安定した状態でご使用ください。

落としたり、ぶつけたり強い衝撃を与えないでください。

1時間以上の連続使用は疲労を強めます。休憩を入れてください。
長くお使い頂くために、一日の使用時間は8時間を目安にしてください。

各機器に付属している取扱説明書をよく読み理解してご使用ください。

参照	補足説明・詳細説明等の参照項目、参照頁について示しています。
制限	使用上の制限事項について示しています。
補足	補足事項について示しています。

USB メモリについて

⚠ 警告

小さなお子様の手の届かないところで保管・使用してください。誤って飲み込むと、窒息する恐れがあります。	濡れた手で本製品に触れないでください。感電・故障の原因となります。
USB メモリを水に濡らしたら、すぐに水をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。水がついたまま使用された場合、感電・故障の原因となります。	次の場所で使用・保管をしないでください。感電、火災の原因となったり、USB メモリや伝の心に悪影響を及ぼしたりする ことがあります。 ・ 静電気が発生するところ。 ・ 電気的ノイズが発生するところ。 ・ 温度・湿度が各機器のマニュアルが定めた使用環境を超えるところ。 ・ 結露するところ。 ・ 腐食性があるところ。

⚠ 注意

USB メモリ内のデータは、次のような場合に、データが消失・破損する恐れがあります。 ・ 誤った使い方をしたとき。 ・ 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき。 ・ 故障したとき。 ・ USB メモリへのアクセス中に USB メモリを取り出したり、機器の電源を OFF したりした場合。 ・ 天災による被害を受けたとき。 上記の場合に限らずバックアップの作成を怠ったために、データを消失、破損した場合、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。	USB メモリは「伝の心」に常時挿したままで、ご使用ください。修理等で取り外した場合は、下記の事項に注意して取り付けてください。 ・ USB メモリにホコリ・ゴミが付着している状態で、取り付けないでください。 ・ USB メモリを正しい向きに、奥までしっかりと差し込んでください。誤った向きに差し込んだり、差し込みが不充分であったりする場合、正常に動作しません。
USB メモリは精密機器です。折り曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因となります。	静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
USB メモリには、防水性能はありません。水にぬらしたり、湿気の多い場所で使用したりしないでください。	ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、故障する可能性があります。

購入品の確認

ご使用になる前に、次の点をご確認ください。もし、不具合がありましたら、お買い求め先にご連絡ください。

●形式が注文したものであるか？
●輸送中に破損したところはないか？
●不足品はないか？（梱包箱を開け、同梱チェックリストにより確認）

目次

はじめに 2
安全にお使いいただくために 3
購入品の確認 6
目次 7

伝の心を準備する—電源を入れるまで— 17

作業の流れ 18
各部の名称と働き 19
外観図 19
名称説明 19
接続する 20
バッテリーの接続 20
マウス／キーボードの接続 20
ディスプレイの接続 20
リモコンの接続 20
スイッチの接続 21
プリンターの接続（プリンター有の機種のみ） 21
電源コードの接続 22

伝の心を知ろう—はじめて使うときはここから— 23

伝の心で出来る事 24
基本的な操作方法 26
操作用語の説明 26
スイッチモードとタッチモードについて 30
スイッチモードとタッチモードの切り替え 30
マウスの操作 32
メニュー／パネル選択の基本操作（スイッチモード） 34
1 点スイッチ入力（自動スキャン入力） 34
2 点スイッチ入力（手動スキャン入力） 38
メニュー一覧 42
日常使用文 43
会話 44
文書 45
リモコン 50
メール 52
ブラウザ操作 60
Windows 操作 61
伝の心　設定 62
電源を入れる/切る 65

文章を作成する 67

文章を作成する 68
文字入力の基本操作 68
ひらがな文字の入力（文字盤入力） 68
文字の入力カーソルを移動する 72
文字を削除する 74
カタカナ、英文字、数字、記号を入力する（文字盤の一覧） 77
全角／半角文字を入力する 78
定型句（よく使用する言葉）を使う 79
定型句入力の基本操作 79

目次

定型句入力を間違えた時 80
定型句入力を中止したい時 81
予測入力を使う 82
漢字を入力する 84
漢字入力の基本操作 84
詳細な漢字変換を行う(文節変換) 86
文章を編集する(文字入力の応用操作) 88
文字盤の機能一覧 88
日付・時刻の入力 97
範囲指定の操作方法 98
文章を読み出し/保存/削除する 100
文字・文章の保存の仕方 100
名前を付けて保存 101
上書き保存 103
保存した文書を呼び出す 104
保存した文書の並び替え 105
保存した文書の削除 107
誤って文書を削除した場合 108
外部記録メディア(USBメモリ等)の文書の操作 109
外部記録メディアへの文書の保存 109
外部記録メディアからの文書の読み出し 110
文書フォルダに新しいフォルダを追加する 111
文章に文書や絵を挿入する 112
編集中の文章に文書を挿入する 112
編集中の文章に画像を挿入する 113
文字のスタイルを変更する 115
字体(フォント)の設定 115
文字の大きさの設定 117
文字の装飾の設定 118
文字色の設定 120
行の配置(右寄せ/中央寄せ/左寄せ)設定 121
定型句を作成/削除する 122
定型句の登録 122
先頭 40 文字の定型句登録 122
範囲指定した文字の定型句登録 126
定型句の削除 128
編集中の文書を電子メールで送信する 129
一発メール送信のあて先を設定する 129
一発メール送信をする 133

音声を出す 137

はじめに 138
文章を音声で読み上げる 139
日常使用文を読み上げる 139
編集中の未確定文字列(文字下に破線表示)を読み上げる 140
編集中の文章を読み上げる(確定文字列) 141
読み上げを一時停止/再開する 142
読み上げを中止して元の画面に戻る 144
好きな位置から読み上げる 145
定型句を読み上げる 146
会話文字盤で会話をする 147
メニューや文字盤を読み上げる 149
メールの内容を読み上げる 151

編集中のメールを読み上げる 154
呼び出し音を鳴らす 156

文章をプリンターで印刷する 157

印刷の方法 158
印刷イメージの確認 159
印刷の設定 161
用紙の設定 161
印刷部数と印刷ページの設定 162
印刷色／用紙サイズ／余白の設定 163
プリンターの変更 167

リモコン操作を行う 169

リモコン操作の概要 170
リモコン操作の起動と終了 170
リモコン画面の共通メニュー 171
テレビを操作する 172
テレビのリモコン操作 172
テレビパネルの構成 173
テレビパネルの説明 174
簡単テレビのリモコン操作 177
ビデオを操作する 178
ビデオのリモコン操作 178
ビデオパネルの構成 179
ビデオパネルの説明 180
簡単ビデオのリモコン操作 184
その他の機器を操作する 185
エアコン 185
ゲーム操作 186
ページめくり機 187
照明 188
DVD 189
ビデオカメラ 191
ビデオカメラパネルの説明 192
地デジチューナー 194
地デジチューナーパネルの説明 195
お客様がリモコン登録された機器を操作する 197

伝の心を使いやすくする①―各種設定― 199

音の設定を行う 200
読み上げの設定 201
読み上げ優先／スキャン間隔優先の切替 203
声の性別 204
読み上げ速度 205
声の高さ 206
声の大きさ 207
その他の設定を行う 208
文書の表示文字の大きさ 209
文字盤やメニューリストの移動間隔 211
文字盤の大きさ 212
文字盤の拡大表示 213

目次

伝の心を使いやすくする②—支援者用設定—　215

支援者用設定について **216**

メインメニューの設定を行う **218**

ホームページ閲覧機能のメニューを有効にする 219
ウィンドウズ操作機能のメニューを有効にする 220
電子メール機能・LINE 操作機能のメニューを表示する 221
再起動のメニューを有効にする 222
バックアップして終了のメニューを有効にする 223
メインメニューを縦一列で表示する 224

バックアップの設定を行う **225**

任意の終了時にバックアップする 227
終了時に定期的にバックアップする 228
バックアップの間隔の設定 228
バックアップ先とバックアップ回数の設定 229

スイッチの設定を行う **230**

スイッチ入力監視時間の設定 230
スイッチ入力無効時間の設定 230
スイッチ押し続け監視の設定 232
1 点スイッチの設定 233
スキャン周回数の設定 234
2 点スイッチの設定 235
外部出力の設定 236
外部出力の設定を行う 236
呼び出し音と連動する 238

リモコンの設定を行う **239**

リモコンの設定手順 239
テレビ・ビデオリモコンの設定手順 240
エアコンリモコンの設定手順 241
ゲーム機リモコンの設定手順 242
DVD リモコンの設定手順 243
ビデオカメラリモコンの設定手順 245
照明リモコンの設定手順 247
ページめくり機リモコンの設定手順 249
地デジチューナーリモコンの設定手順 251
その他のリモコンの設定手順 253
リモコンメーカーの選択 255
新しくリモコンデータを登録する 257
登録したリモコンデータをリモコンパネルに登録する 262
リモコンデータをパネルボタンに登録 263
リモコンパネルを別のリモコンパネルから呼び出す 269
リモコン操作とパネル呼び出しを同時に行う 271
パネルボタンの入替や移動を行う 274

ホームページ閲覧の設定を行う **276**

ホームページを伝の心から呼び出せるようにする 276

電子メールの設定を行う **277**

電子メールの設定 277

ウィンドウズ操作の設定を行う **278**

ウィンドウズ操作を伝の心から呼び出す 278

ウィンドウズ操作画面の設定 278
ウィンドウズ操作の設定（ソフト項目の登録） 278
マウス操作盤の設定を行う **280**
マウス操作の設定（マウス移動） 280
アローモードの設定 280
クロスラインモードの設定 282
マウス操作のサブメニュー設定 283
メニュー項目を追加する 285
メニュー項目を削除する 287
メニュー項目の順番を変更する 288
呼び出し音の設定を行う **290**
予測入力を使う **292**
「定型句」の設定を行う **293**
定型句を使用する 293
定型句候補リストを表示する 294
定型句の変更 295
定型句の新規登録 297
「日常使用文」の編集をする **298**
日常使用文の変更 298
読み上げる文言を変更する 298
ボタンの入れ替えや移動を行う 300
スマートスピーカーやスマートフォンへの呼びかけに変更する 302
日常使用文の新規登録 304
新しいパネルを作成する 305
新しい日常使用文を登録する 308
新しい呼び出し音を登録する 310
日常使用文を簡易な表示で使用する（1 列で表示する） 312
日常使用文のファイル入出力（インポート/エクスポート） 314
ファイルに出力する（エクスポート） 314
ファイルから取り込む（インポート） 316

電子メール・ホームページ閲覧 319

はじめにお読みください **320**
メールアカウントの新規追加・既定・削除 322
メールアカウントを追加する 322
既定のメールアカウントを設定する 323
メールアカウントを削除する 323
メールアカウントの設定 325
アカウント情報 326
受信サーバー設定 327
送信サーバー設定 328
接続設定 329
設定の終了 330
メールのオプション設定 331
電子メール **332**
電子メールの起動と終了 332
受信箱を開いて受信メールを読む 333
アカウントの選択（メールアドレスの選択） 333
受信メールの選択 334
受信メールを読む 335

目次

受信メールから返信する（返信メール作成）……336
受信メールに添付されている画像ファイルを見る……337
送信箱を開いてメールを新しく作成する……338
アカウントの選択（メールアドレスの選択）……338
メールの編集画面を開く（新規作成）……338
メールの作成……339
作成したメールの保存（送信準備）……342
保存したメールを開く（メールの再編集）……344
メールにファイルを添付する……346
メールの送受信（回線接続）……348
アドレス帳の編集……349
新しいメールアドレスを登録する……350
メールアドレスの登録内容を変更する……352
メールアドレスを削除する……354
アドレス帳の整理（アドレスグループの作成）……355
新しいアドレスグループを登録する……356
アドレスグループにメールアドレスをコピー（複写）する……358
アドレスグループにメールアドレスを移動する……360
アドレスグループを削除する……362
受信箱の整理……363
フォルダを作成する……364
メールを移動する……366
フォルダを削除する……367
メールを削除する……368
送信箱の整理……370
メールを移動する……371
メールを削除する……372
ごみ箱を空にする……373
受信箱でごみ箱を空にする……373
送信箱でごみ箱を空にする……375
その他の機能……377
受信メール（本文）を印刷する……377
受信メールを保存する……377
受信メール（添付画像）を印刷する……378
受信メール（添付画像）を保存する……378
受信メールからのメールアドレスを登録する……379
ホームページ閲覧……380
ホームページの起動と終了……380
「お気に入り」を追加する……381
ウェブ検索を行う……382
アドレスを入力してホームページを表示する……383
ホームページ内のリンク項目の選択……384
アイテムの順次選択……384
マウス操作での選択……386
ホームページの入力項目に文字を入力する……387
編集メニューをもっと活用する……389
その他の機能……391
画面のスクロール……391
ページの移動（前頁／次頁／ホーム）……392
ページの切り替え（タブ切り替え）……393
ホームページ画面の切替（複数の Edge の切り替え）……394
ホームページ画面の拡大／縮小……395

デスクトップ画面の操作を行う（ウィンドウズ操作）　397

目次

ウィンドウズ操作の基本 **398**
始める／終わる 398
文字を入力する 399
文字盤の選択 399
マウスを操作する 400
マウス操作盤の起動と終了 400
マウスの移動 402
マウス移動速度の変更 403
マウスクリック 404
マウスドラッグ＆ドロップ 405
マウススクロール 406
登録したプログラムを呼び出す **407**
相手画面の位置や大きさを変える **408**
画面の移動 409
カーソルの移動 410
テキスト文書（メモ帳）で文字入力を行う **411**
メモ帳の起動 411
文字盤からの文字入力 412
その他の便利な機能 **413**
デスクトップのアイコンを簡単に選択して実行する 413
コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う **414**
LINE の起動と終了 416
Windows 操作からの起動と終了 416
メインメニューからの起動と終了 417
LINE の友だち追加 418
LINE の友だちリストからトークを開始する 421
LINE のトークルームリストからトークを開始する 422
LINE で文字入力して投稿する 423
LINE でスタンプを投稿する 424
LINE で絵文字を投稿する 425
LINE のヘルプを表示する 426

保守ツールを使う 429

保守ツールについて **430**
保守ツールで出来る事 432
ユーザーデータのバックアップ・リストア **433**
バックアップするデータについて 434
バックアップ元のファイル構成 434
バックアップ先のファイル構成 435
バックアップの実行 436
保守ツールからのバックアップ 436
伝の心終了時のバックアップ 437
バックアップツールを使用したバックアップ 437
バックアップしたユーザーデータを戻す 439
保守ツールからのリストア 439
リストアツールを使用したリストア 441
伝の心の復元 **443**
出荷時の状態に戻すファイルについて 443
「伝の心」ソフトウェアを復元する 445
メールの一時ファイルの再作成 **448**
一時ファイルの設定 448

目次

一時ファイルの再作成（メールは既読）……449
一時ファイルの再作成（メールは未読）……450
メールの既読化のみ行う……451
メールアドレス登録ツール……**452**
メールアドレス登録ツールの起動と終了……452
メールアドレス一覧の CSV ファイルを作成する……454
CSV ファイルからメールアドレス登録する……456
サンプルファイルの内容……458
同名のアドレス登録について……458

困ったときには 461

故障かなと思ったときには……**462**
スイッチで操作ができない……462
リモコンで機器の操作ができない……463
ホームページの閲覧ができない……464
メールが送信／受信できない……464
メールの移動・削除・閲覧ができない……466
ネットワークに接続できない……467
「メールアドレス登録ツール」が起動しない……467
LINE が起動しない……469
LINE 起動中画面にメッセージが表示される……470
音声がでない／音量が大きい、または小さい……471
印刷ができない……472
印刷がかすれる／違う色になる／インクが出ない……473
文字盤で選択した文字が編集域に入力されない……475
予測入力ができない／予測候補が表示されない……476
システム装置の電源が入らない……477
「伝の心」が起動しない……477
「伝の心」の操作ができなくなった……480
「伝の心」を終了できない……482
操作を間違えてしまった時には……**483**
パネル／メニューの選択操作で、選択を間違えてしまった……483
パネル／メニューの選択操作（スイッチ入力）で、マウス操作してしまった……483
文書作成（編集パネル）で、間違えて文字列を切り取ってしまった……483
定型句／漢字入力等の候補選択で間違えた候補を選択してしまった……483
間違えて文書／メールを削除してしまった……483
間違えてフォルダを開けてしまった……484
「支援者用設定」で間違えて「伝の心を非表示にする」設定をしてしまった……484
保守ツールで間違えて伝の心を出荷時の状態に戻してしまった……484
メッセージ画面が操作できない……**485**
「伝の心」を再起動するには……**486**

その他 487

日常のお手入れ……**488**
リモコンについて……**489**
USB メモリについて……**490**
主な操作説明について……**491**
日常使用文パネル一覧……**493**
日常使用文パネル 1 の構成と説明……493
日常使用文パネル1……493
日常使用文パネル1→▽あいさつパネル……494
日常使用文パネル 2 の構成と説明……495
日常使用文パネル 2……495

目次

日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽足首パネル 496
日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽脚パネル 497
日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽膝パネル 498
日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽足の指先パネル 499
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽腕パネル 500
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽手首パネル 501
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽手パネル 502
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽肘パネル 503
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽指パネル 504
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽喉パネル 505
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽腹パネル 506
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽胸パネル 507
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽背パネル 508
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽頭パネル 509
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽尻パネル 510
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽肩パネル 511
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽股パネル 512
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽首パネル 513
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽顎パネル 514
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽額パネル 515
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽頬パネル 516
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽唇パネル 517
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽目パネル 518
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽まぶたパネル 519
日常使用文パネル 2→▽視覚、聴覚、体感パネル 520
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽ベッドパネル 521
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽枕パネル 522
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽シーツパネル 523
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽布団パネル 524
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽クッションパネル 525
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽タオルケットパネル 526
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽衣服パネル 527
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽窓パネル 528
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽扉パネル 529
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽襖パネル 530
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽カーテンパネル 531
日常使用文パネル 2→▽家電製品パネル→▽照明パネル 532
日常使用文パネル 2→▽家電製品パネル→▽エアコンパネル 533
日常使用文パネル 2→▽家電製品パネル→▽オーディオパネル 534
日常使用文パネル 2→▽あいさつパネル 535
日常使用文パネル 2→▽感情パネル 536
日常使用文パネル 2→▽体調パネル 537
日常使用文パネル 2→▽返事パネル 538
日常使用文パネル 2→▽コメントパネル 539
日常使用文パネル 2→▽程度、方向パネル 540
日常使用文パネル 3 の構成と説明 541
日常使用文パネル 3 541
日常使用文パネル 3→▽スマートスピーカーサンプルパネル 542
日常使用文パネル 3→▽iPhone サンプルパネル 543
日常使用文パネル 3→▽"HeySiri"を設定パネル 544
リモコンデータについて 545
テレビ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時） 545
簡単テレビ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時） 548

目次

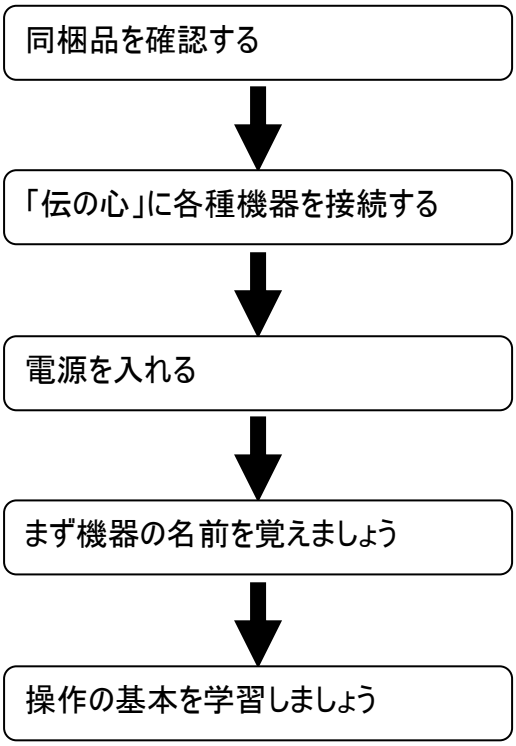
ビデオ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……549
簡単ビデオ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……552
エアコン　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……553
ゲーム機　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……554
DVD　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……555
ビデオカメラ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……556
照明　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……557
ページめくり機　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……557
地デジチューナー　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）……558
音声合成ユーザー辞書について……559
ユーザー辞書登録……559
新規登録……560
修正……561
削除……561
閉じる……562
スイッチの外部出力について……563
「伝の心」のメニューから外部出力する場合……563
スイッチ入力の方法によって外部出力する場合……564
入力側スイッチの長押しで外部出力を行う……564
入力側スイッチの 3 回連続押しで外部出力を行う……565
その他……566
「伝の心」をご購入時の状態に戻す……566
保守について……566
有償部品について……566

伝の心を準備する—電源を入れるまで—

ここでは、開梱してから「伝の心」の電源を入れるまでに行う、「伝の心」の接続方法について説明します。

作業の流れ

購入後、開梱してから「伝の心」の電源を入れるまでには、いくつかのステップがあります。



本書の**「購入品の確認」**の項をよく読んで、不足品が無いか確かめてください。

本書の**「接続する」**の項と**別紙「伝の心支援者向け　接続の仕方」**をよく読んで、システム装置と付属品、各種周辺機器を接続します。

本書の**「電源を入れる/切る」**の項より、「伝の心」の電源を入れます。

本書の**「各部の名称と働き」**には、「伝の心」の各部の名称が記載されていますので、読んでおきましょう。

本書の**「基本的な操作方法」**には、「伝の心」を使用する上で必要な操作の説明が記載されていますので、操作方法がよく分からない場合には、ここを読みましょう。

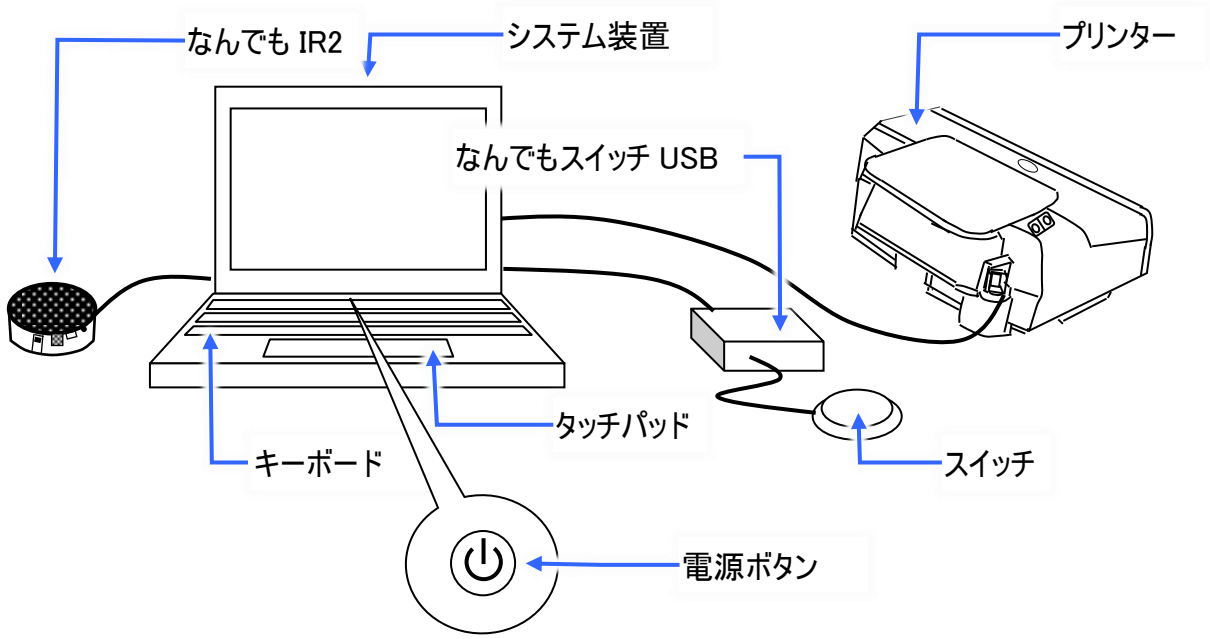
■ 困ったときには

本書の「困ったときには」の章をお読みください。
また各種機器の取扱説明書も併せてお読みください。

各部の名称と働き

外観図

■ ノート型



名称説明

■ **システム装置**
マウスやキーボードによって行われた操作を処理するところで、データを記憶するところです。

■ **電源ボタン**
システム装置に電源を入れて、「伝の心」を使用できるようにします。
電源ボタンの位置はシステム装置によって異なりますので、別紙「支援者向け接続の仕方」を参照ください。

■ **スイッチ**
「伝の心」のメニューやパネルの選択はこのスイッチの入力によって行われます。
スイッチはご利用者の身体状況に応じて各種あります。

■ **なんでもスイッチ USB**
システム装置とスイッチを中継する装置です。

■ **なんでも IR2**
「伝の心」のリモコン操作の機能を実現します。
リモコンで操作する機器の赤外線受光部とこのなんでも IR2 の赤外線送信部の間に障害物が無いように設置してください。

■ **タッチパッド**
ディスプレイのマウスポインターを動かしWindowsなどの各種操作を行う装置です。

■ **キーボード**
文字や数字などのデータをシステム装置に入力するための装置です。

■ **プリンター**
「伝の心」で作成した文書などを印刷するための装置です。

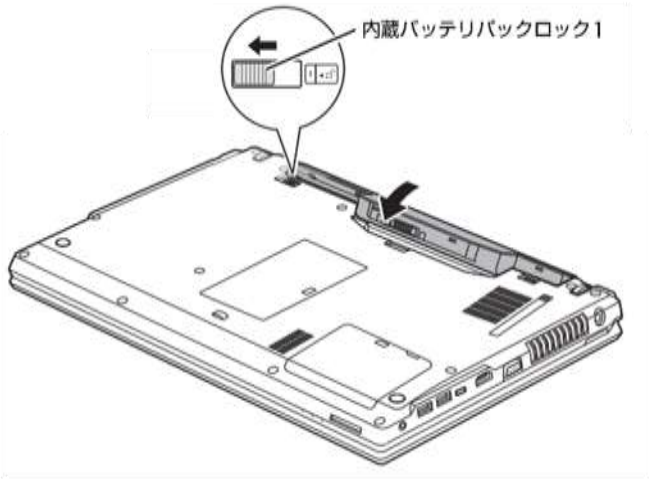
接続する

接続の方法は、システム装置によって異なりますので、別紙「支援者向け接続の仕方」を参照しながら、本項目をご覧ください。
本項での説明図も、実際のものとは異なる場合がありますので、ご了承下さい。

バッテリーの接続

■ ノート型

システム装置本体背面に、バッテリーを接続します。



マウス／キーボードの接続

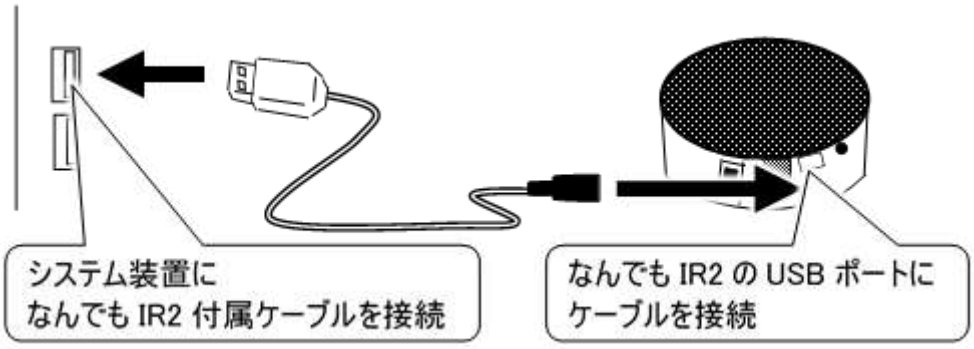
キーボードの接続の必要はありません。また、マウスの接続も特に必要はありません。

ディスプレイの接続

ディスプレイの接続の必要はありません。

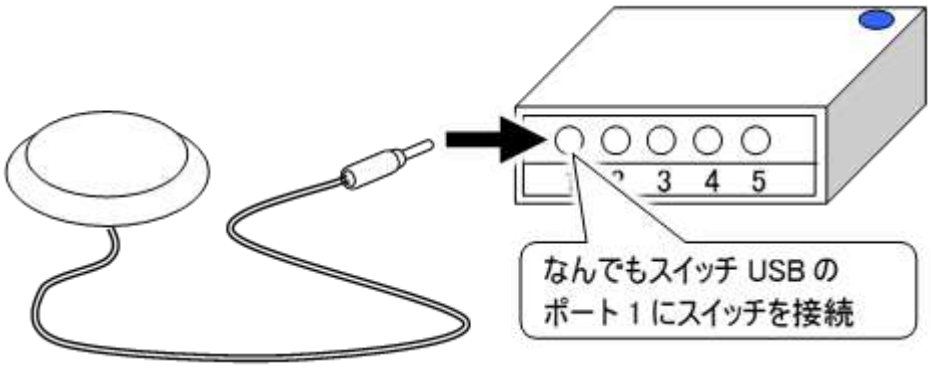
リモコンの接続

なんでも IR2 とシステム装置を接続します。

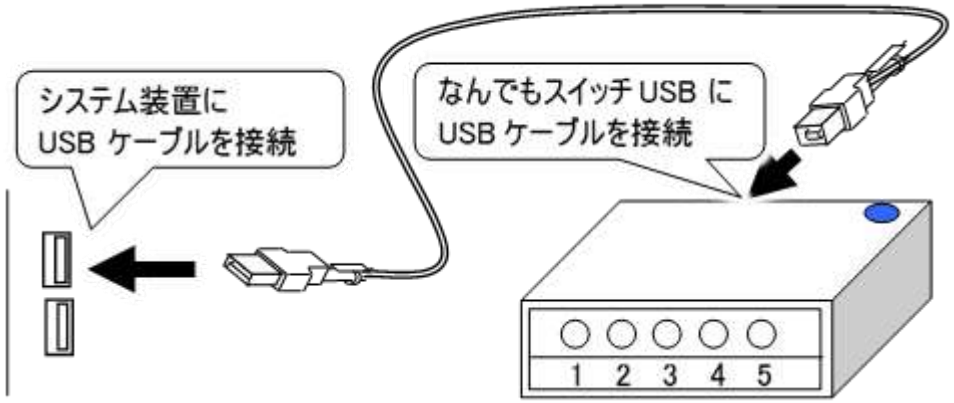


スイッチの接続

1 スイッチをなんでもスイッチ USB のポート 1 に接続します。

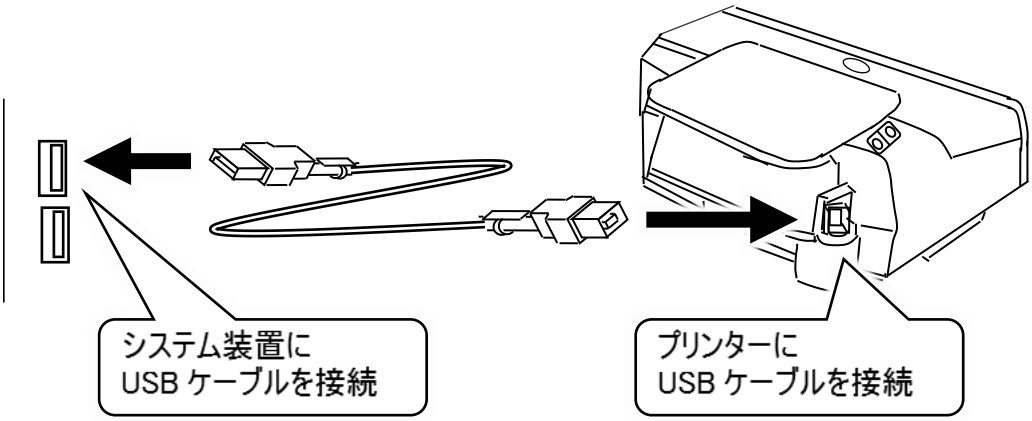


2 システム装置に、なんでもスイッチ USB を接続します。



プリンターの接続（プリンター有の機種のみ）

システム装置に、プリンターを接続します。

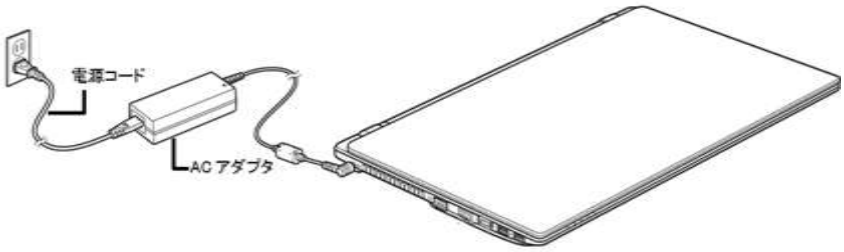


接続する

電源コードの接続

■ ノート型

1 システム装置に AC アダプターを接続し、電源コンセントに差し込みます。



2 プリンターにプリンターの電源コードを接続し、電源コンセントに差し込みます。

伝の心を知ろう―はじめて使うときはここから―

ここでは、「伝の心」の基本的な操作の方法について説明します。
電源の入/切もここで説明します。
初めてご使用になる場合は、必ずお読みください。

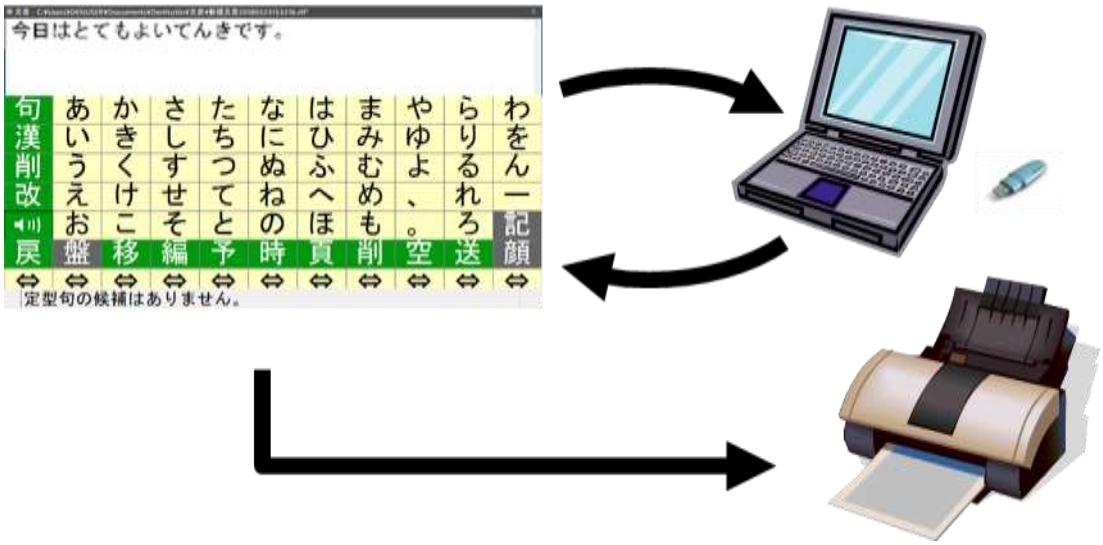
伝の心で出来る事

「伝の心」はシステム装置と周辺機器を用いてコミュニケーションを支援するシステムです。
各種スイッチ、センサーなどを操作し、次の機能を実現します。

① 日常使用文の読み上げ
日常よく使用する文（言葉）を一覧から選択すると、読み上げを行ないます。

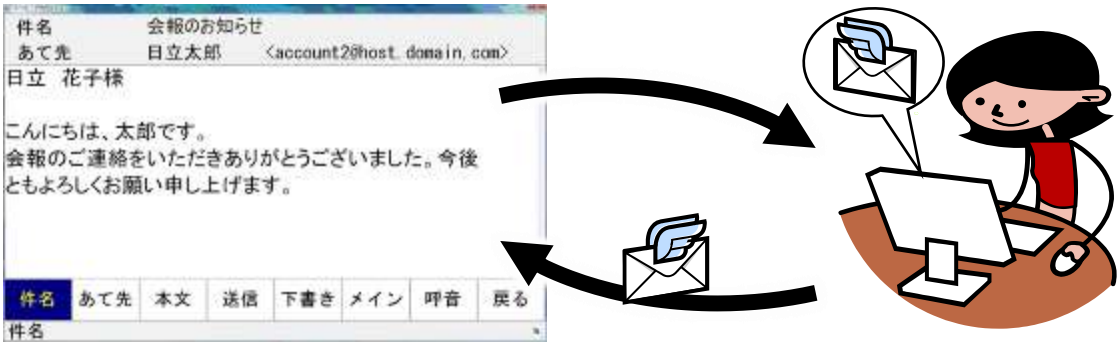
② 会話
会話のための文字盤で入力した文字を読み上げることができます。

③ 文書
画面上の文字盤より文字を選択入力し、文書作成を行います。
作成した文書をハードディスク（システム装置の中にある記憶装置）や USB メモリなどの外部記憶媒体に保存をしたり、読み出しを行ったりします。
また、文書をプリンターで印刷することも可能です。



④ 電子メール

メール(文章)を書いて送信したり、受信したメールを読んだりすることができます。



⑤ ホームページ閲覧

マウスやキーボードの操作なしでホームページの閲覧ができます。

⑥ 呼出

「伝の心」のほとんどの画面から、呼び出し音（ブザー）を鳴らすことができます。少し離れたところにいる相手に注意を促したり、呼び出したりするために用います。

⑦ リモコン操作

専用メニューよりなんでも IR2 を経由し、TV/レコーダーの電源 ON/OFF、チャンネル切換、音量設定、再生、録画などが行え、生活範囲が広がります。

⑧ デスクトップ画面の操作

「伝の心」以外の市販のソフトウェアの操作を、専用メニューの選択のみで行えます。

基本的な操作方法

操作用語の説明

ここでは、本取扱説明書で用いられている、「伝の心」の操作用語について説明します。

- **画面名称**
  「伝の心」の操作や設定を行う画面の名前。
- **ガイダンス行**
  現在選択されているメニュー項目の説明等を表示します。
- **メニュー**
  「伝の心」の操作や設定を行う画面項目のこと。
- **サブメニュー**
  メニュー画面から呼び出されるより詳細な操作や設定を行う画面項目のこと。
  この「サブメニュー」からさらに「サブメニュー」が表示されることもあります。
- **パネル**
  「メニュー」と同じ機能。
- **サブパネル**
  「サブメニュー」と同じ機能。
- **リスト**
  「メニュー」や「パネル」等で選択可能な全項目
- **スキャンカーソル**
  「伝の心」の操作画面で、スイッチ操作を受け付けるリスト内の位置を示します。本書で「カーソル」と記載した場合は、スキャンカーソルを意味します。
- **入力カーソル**
  「伝の心」の操作画面で、編集域が入力対象となっている場合の文字入力位置を示します。
- **マウスポインター**
  「伝の心」の操作画面で、マウス操作に対応した入力位置を示します。

基本的な操作方法

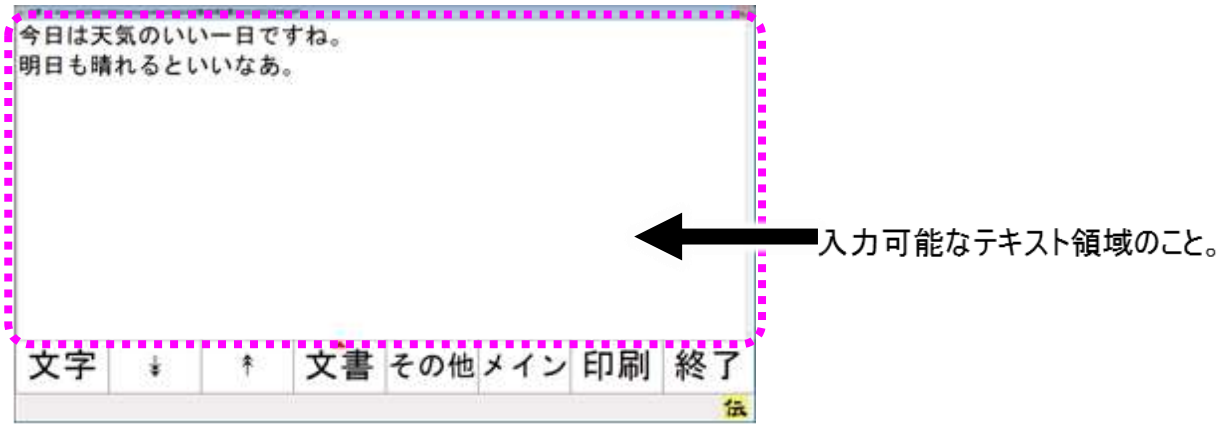
■ **カーソル位置**

テキストを入力した場合は、そのテキストが入力される位置。
リスト選択の場合は、選択可能な項目（項目は反転表示）

■ **反転表示**

テキストやリストが選択されているときの表示。
ご購入時の設定では、背景色が青色になり、文字色が黄色になっている状態。

■ **編集域**



■ **スキャン／列スキャン**

「伝の心」では、メニュー、パネル、リスト等の選択項目は特に断りの無い限り、自動的にカーソル位置が移動していきます。これをスキャンといいます。

■ **選択**

スイッチ入力によって、カーソル位置の項目を選択することをいいます。

■ **スキャン周回数**

スキャンは左端より始まり、右端に到着すると左端に戻ります。この動作 1 回をスキャン周回数 1 回と数え、スキャンの長さをスキャン周回数で表します。

■ **文字盤**

「伝の心」での文字入力は全てこの文字盤で行います。文字入力が必要な場合は画面下に表示されます。

基本的な操作方法

■ **スクロール**
「伝の心」の操作画面で、画面内に表示しきれない部分を表示するために、表示内容を上下左右に移動させること。

■ **未確定文字列**
文書画面で、文字入力すると、文字の下に破線が表示されます。
文字の下に破線が表示されている状態の文字列を、「未確定文字列」といいます。

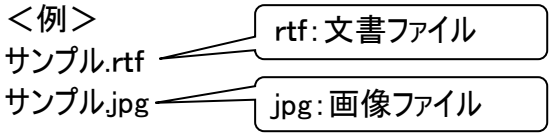
文字列を漢字やカタカナ等に変換する場合にはこの状態で行います。
変換しない場合は、[改行]の選択で文字入力が確定します。

■ **ファイル**
ハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROM などの記憶装置で、一連のデータをひと括りにする、データの単位。

■ **保存／上書き保存／名前をつけて保存**
「伝の心」で作成した文書やメールで受信した添付ファイルなどのデータは、システム装置の内部に保存することが可能です。
これを「保存」といいます。
また、保存するときは名前をつけて他のデータと区別がつくようにします。これが、「名前をつけて保存」です。
データは名前で管理するので、同じ名前で保存すると、変更前のデータは消滅して新しいデータがその名前で保存されます。これが「上書き保存」です。変更前のデータをとっておきたい場合は、「名前をつけて保存」で保存します。

■ **フォルダ**
ハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROM などの記憶装置で、ファイルを分類・整理するための保管場所（入れ物）。

■ **拡張子**
ファイルの名前（ファイル名）の末尾につけられたファイルの種類を識別するための文字列。



■ **アカウント**
使用権のこと。特にメールアカウントとは、メールアドレスを取得したユーザーに与えられる権限であるので、通常はメールアドレスと一対一に対応しています。詳細は、「電子メール」の項で説明しています。

■ **テンプレート**
ひな形のこと。背景や文字サイズ、またはフォントなどがあらかじめ設定されている文書です。

■ **日常使用文**
事前に登録された日常でよく使用する文章です。「伝の心」では、最大 10,125 種類の文章を登録することが可能です。

-
  読み上げを行うメニュー項目です。
-
  呼び出し音を鳴らすメニュー項目です。
-
  マウスで操作するメニュー項目です。

基本的な操作方法

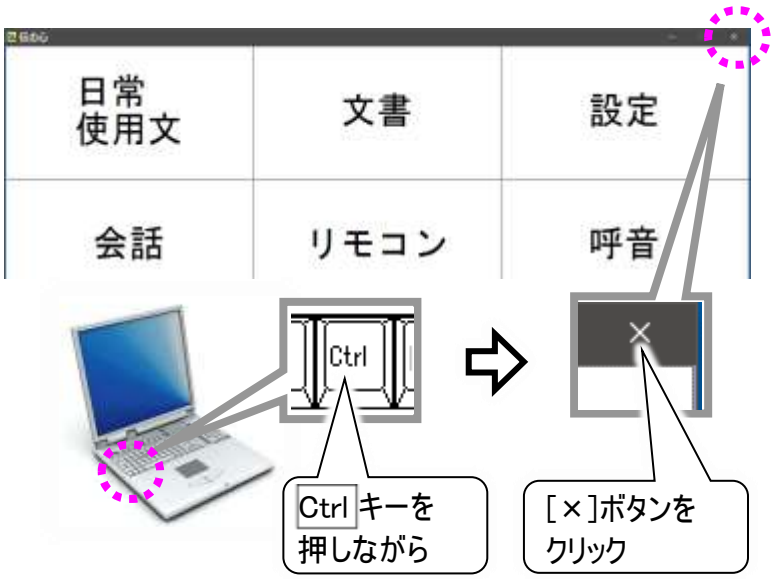
スイッチモードとタッチモードについて

「伝の心」はご購入時、スイッチやセンサーを操作して、項目を選択して操作する「スイッチモード」に設定されています。このモードは、マウスクリック操作で直接項目を選択する「タッチモード」に切り替えることが可能です。

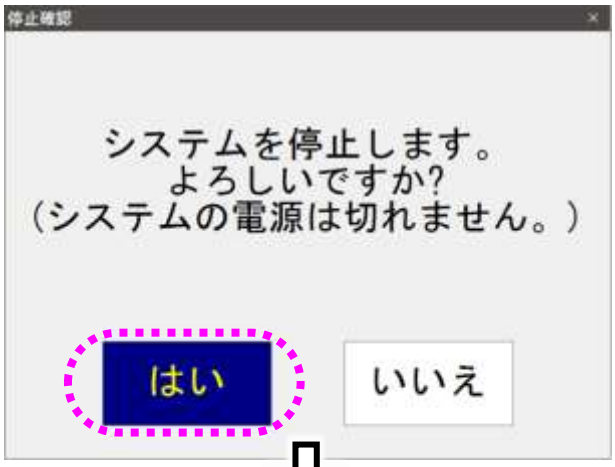
スイッチモードとタッチモードの切り替え

（1）まず、「伝の心」トップ画面より、「伝の心」ソフトウェアのみ終了させます。

キーボードの Ctrl キーを押しながら「伝の心」トップ画面の右上[×]ボタンをマウスでクリックします。

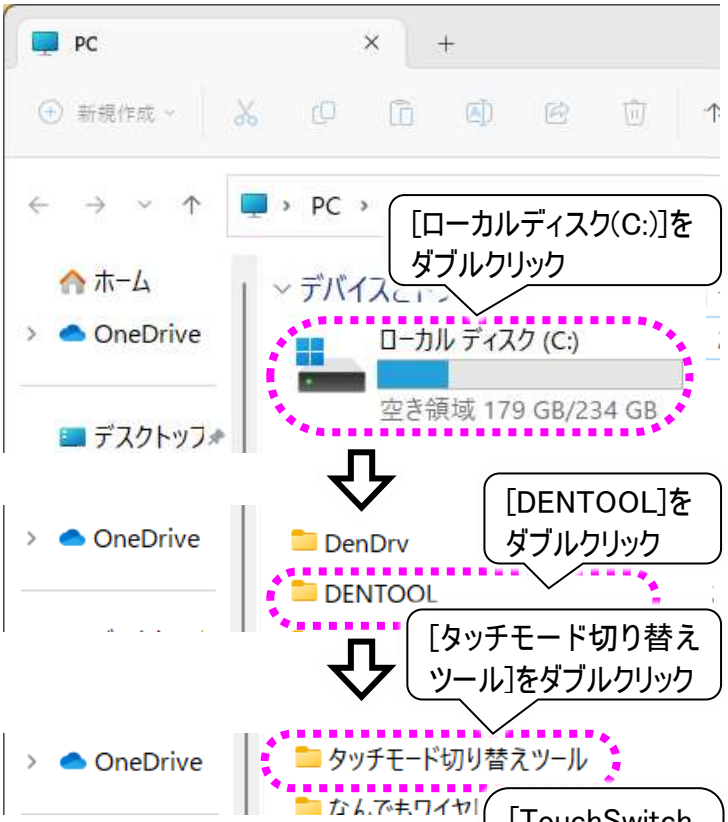


（2）確認メッセージが表示されるので、はいを選択すると、「伝の心」ソフトウェアのみが終了し、デスクトップ画面が表示されます。

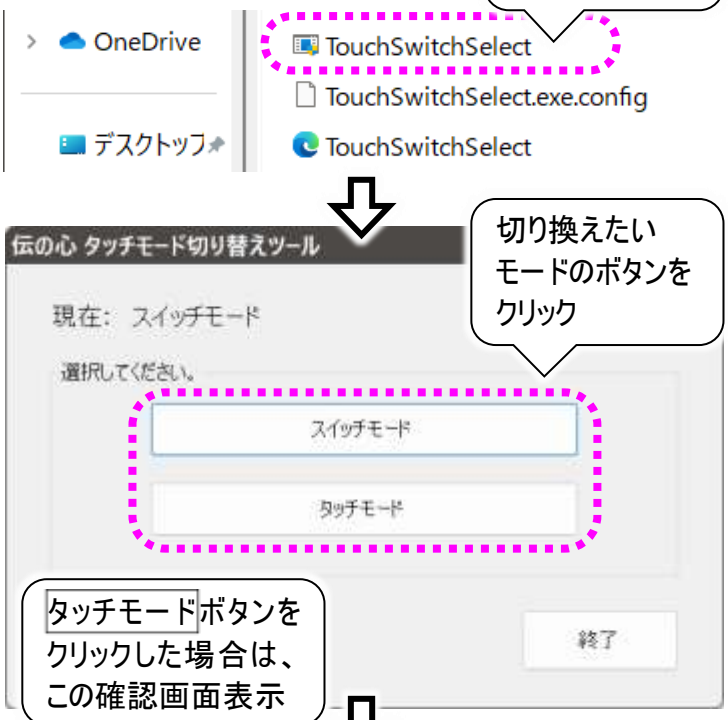


（3）デスクトップ画面下の[エクスプローラー]アイコンをマウスで右クリックするとサブメニューが表示されるので、[エクスプローラー] アイコンをマウスでクリックすると、PC 画面が表示されます。

（4）PC 画面にて、「ローカルディスク(C:)」→「DENTOOL」→「タッチモード切り替えツール」→の順番にマウスでダブルクリックしていきます。



（5）「TouchSwitchSelect.exe」をマウスでダブルクリックすると、タッチモード切り替えツール画面が表示されます。



タッチモードにする場合は、
タッチモードボタンをクリックしてください。
スイッチモードにする場合は、
スイッチモードボタンをクリックしてください。

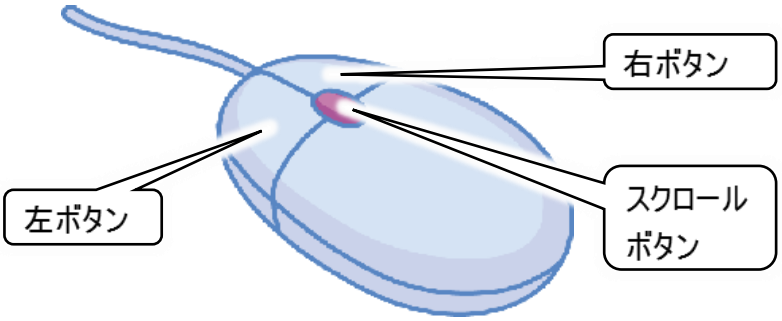
（6）確認画面が表示されるので、OK ボタンをクリックします。

（7）タッチモード切り替えツール画面は、終了ボタンをクリックして閉じてください。

基本的な操作方法

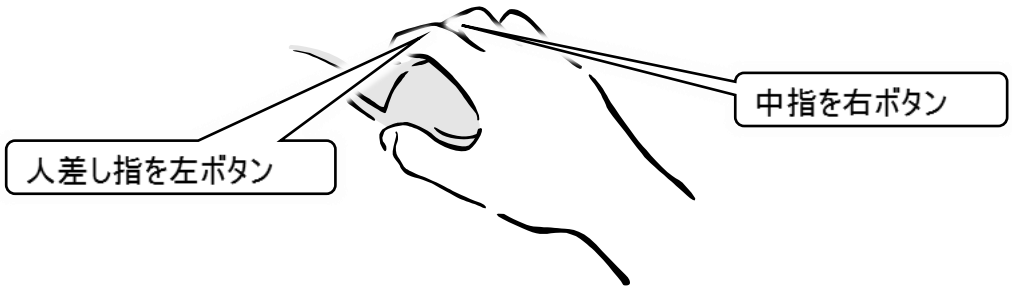
マウスの操作

「伝の心」では支援者用設定において、マウス操作を用います。
また、「タッチモード」で使用する場合もマウス操作を用います。
マウス操作がはじめての場合は、本項をよく読んで、マウスの使い方を覚えましょう。



■ マウスの握り方

マウスは手のひらで包み込むようにして、人差し指を左ボタン、中指を右ボタンにおいて軽く握ります。



■ マウスの動かし方

マウスを握り、動かすとシステム装置の画面の中で矢印が動きます。この矢印の先を目的の場所へ動かし、左ボタンを押すことでシステム装置操作をすることができます。

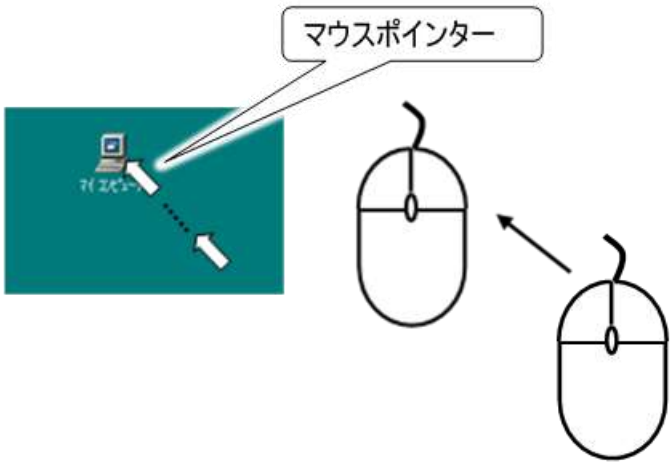
■ ボタンの押し方

ボタンを押したり、マウスを動かしたりする動作は軽く行うとスムーズにできます。

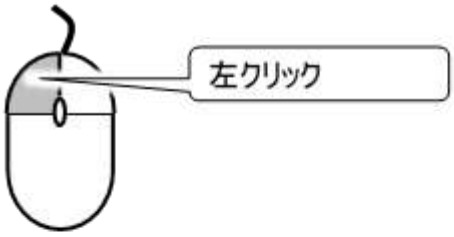
■ マウス操作

マウス操作には次のものがあります。

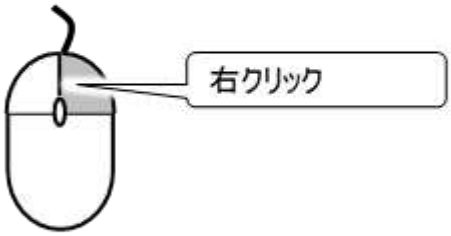
（1）ポイント
画面上のマウスポインターを動かし、目的のところまで移動させることです。
マウスポインターの矢印の先端部分を目的のところにあわせるようにします。



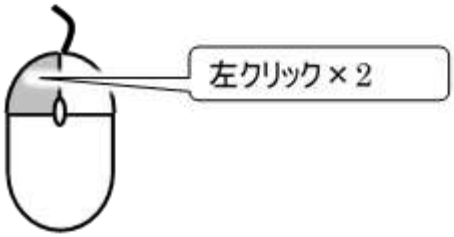
（2）左クリック
マウスの左ボタンを1回押して離すことを左クリックといいます。



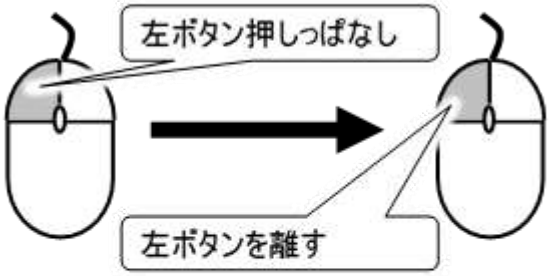
（3）右クリック
マウスの右ボタンを1回押して離すことを右クリックといいます。



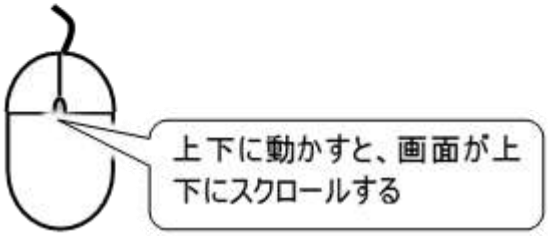
（4）ダブルクリック
マウスの左ボタンを2回続けて押して離すことをダブルクリックといいます。



（5）ドラッグ＆ドロップ
マウスの左ボタンを押しながらマウスを動かすことをドラッグといいます。
また、目的のところまでマウスを動かした後に、
左ボタンを離すことをドロップといいます。



（6）スクロール
スクロールボタンを動かすことにより画面（ウィンドウ）に表示されている表示内容を動かすことができます。ソフトウェアによっては対応していないものがあります。



補足	ポインティングパッドを使用したマウス操作については、ご使用のシステム装置の取扱説明書をご覧ください。
制限	マウスはお客様でご用意願います。またご用意されたマウスに関して、マウスの動作を保証するものではありませんので、ご注意願います。

基本的な操作方法

メニュー／パネル選択の基本操作（スイッチモード）

「伝の心」ではほとんどの操作が、メニューやパネルの選択によって行われます。
この基本操作は、「スイッチモード」ではスイッチ1つで操作する自動スキャン、スイッチ2つで操作する手動スキャンの2種類で操作することができます（ご購入時の設定は、スイッチ1つで操作する自動スキャンとなっています）。

制限	・「スイッチモード」では**支援者用設定画面**を除く、全ての画面では、マウス操作（クリックやダブルクリックなど）は行なわないようにしてください。 ・ 複数の画面が立ち上がった状態でメニューやパネル（文字盤、日常使用文、リモコンなど）をマウスクリックすると、突然スキャンカーソルが消えてしまう場合があります。これは、マウス操作により他の画面へスキャンカーソルが移動したことが原因です。このような場合は、マウス操作で「戻る」などを選択し、現在表示されている画面を一度終了させてください。
参照	**自動スキャン/手動スキャンの設定について** 230 ページの「スイッチの設定を行う」に、スイッチの設定方法を記載しています。

1点スイッチ入力（自動スキャン入力）

選択項目は自動的にスキャンされていくので、選択したい項目にスキャンカーソルがきたときに、スイッチ入力によってその項目を選択します。

■ **列スキャン時のカーソルの移動／選択**
スキャン方向：右方向の場合を例にスキャンカーソルの移動と選択の方法を説明します。

補足	**列スキャンの周回数について** ご購入時は2回に設定されていますが、変更可能です。詳しくは 234 ページの「スキャン周回数の設定」を参照ください。

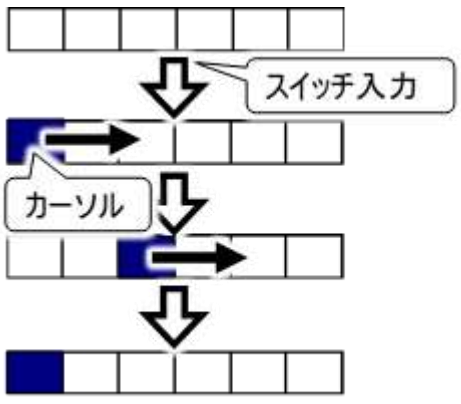
（8）メニューが 1 行の場合
【スキャンカーソル移動】

スキャン停止中の時はスキャンカーソルを表示しない

左から1列目にスキャンカーソルを表示する

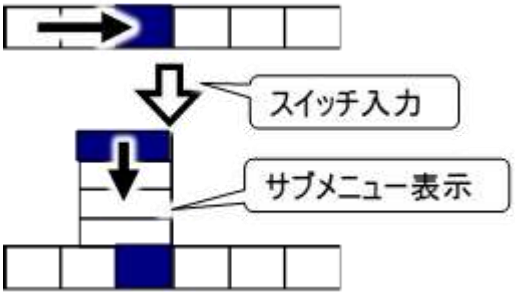
右方向にスキャンカーソルが移動を始める

設定されたスキャン周回数スキャンすると停止、
暫くするとスキャンカーソルは非表示になる



【メニューの選択】

スキャンカーソル移動中に選択したい項目でスイッチ入力する
サブメニューがなければメニューの選択はこれで完了

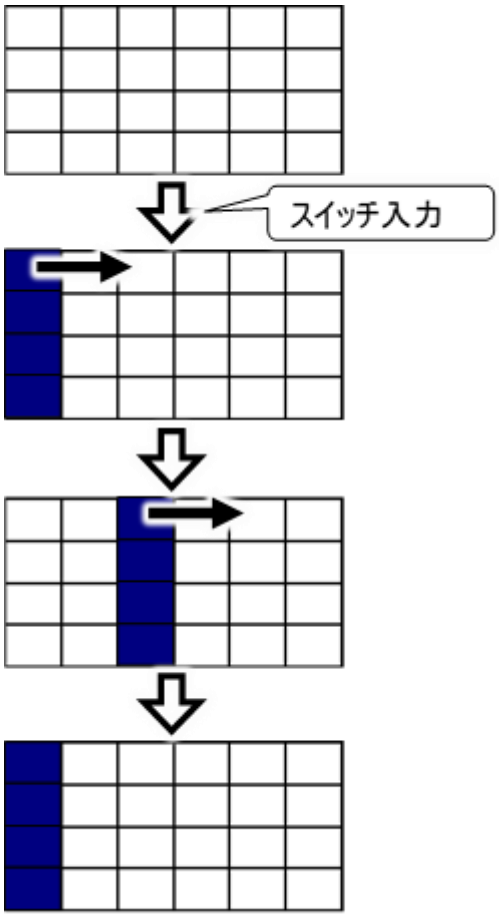


サブメニューがあれば表示され、行スキャンへ

（9）メニューが複数行（パネル）の場合

【スキャンカーソル移動】

スキャン停止中の時はスキャンカーソルを表示しない



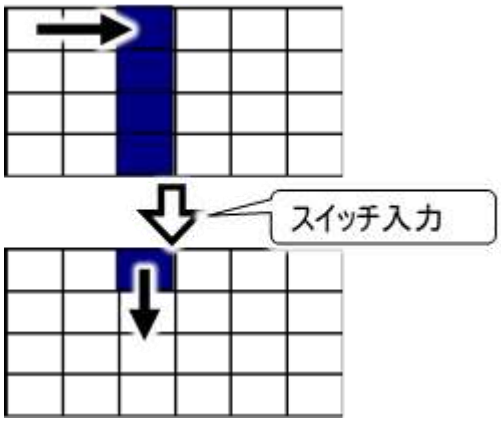
左から1列目にスキャンカーソルを表示する

右方向にスキャンカーソルが移動を始める

設定されたスキャン周回数スキャンすると停止、
暫くするとスキャンカーソルは非表示になる

【メニューの選択】

スキャンカーソル移動中に、選択したい項目でスイッチ入力する



選択した列の行スキャンが始まる

基本的な操作方法

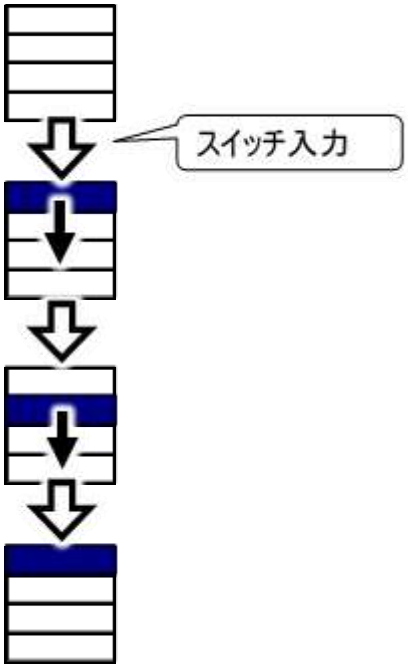
■ 行スキャン時のカーソルの移動／選択

スキャン方向：下方向の場合を例にカーソル移動と選択の方法を説明します。

（1）メニューが 1 列の場合

【スキャンカーソル移動】

スキャン停止中の時はスキャンカーソルを表示しない



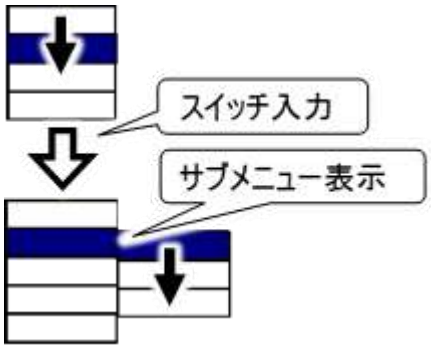
上から 1 行目にスキャンカーソルを表示する

下方向にスキャンカーソルが移動を始める

2 周スキャンすると停止、
暫くするとスキャンカーソルは非表示になる

【メニューの選択】

カーソル移動中に、選択したい項目でスイッチ入力する
サブメニューが無ければメニューの選択はこれで完了

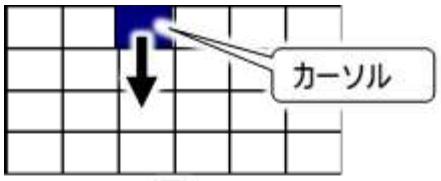


サブメニューがあれば表示され、行スキャンへ
※但し、サブメニューのスキャンは自動的に停止しません

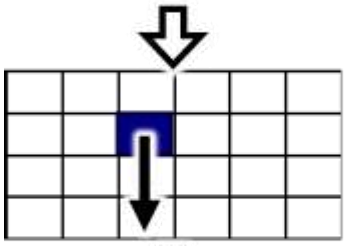
（2）メニューが複数行（パネル）の場合

【スキャンカーソル移動】

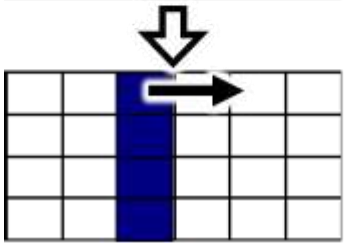
上から 1 行目にスキャンカーソルを表示する



下方向にスキャンカーソルが移動を始める

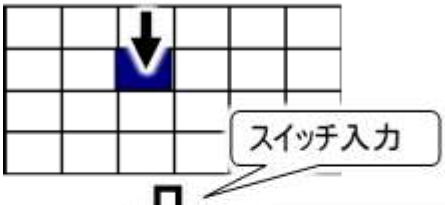


2 周スキャンすると停止、
暫くすると列スキャンに戻る

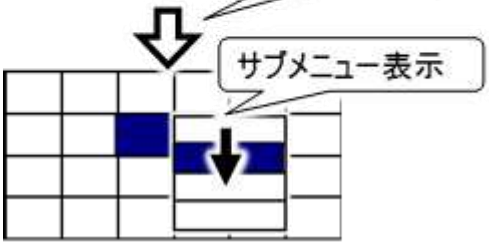


【メニューの選択】

スキャンカーソル移動中に、選択したい項目でスイッチ入力する
サブメニューが無ければメニューの選択はこれで完了



サブメニューがあれば表示され、行スキャンへ
※但し、サブメニューのスキャンは自動的に停止しません



基本的な操作方法

2 点スイッチ入力（手動スキャン入力）

スキャンカーソルを送るスイッチと選択/決定を行うスイッチの 2 つを使用して操作を行います。
スキャンカーソルを送りスイッチの入力で移動させていき、選択したい項目にスキャンカーソルがきたときに、決定スイッチの入力によってその項目を選択します。

■ 列スキャン時のカーソルの移動／選択

スキャン方向：右方向の場合を例にスキャンカーソル移動と選択の方法を説明します。

（1）メニューが 1 行の場合

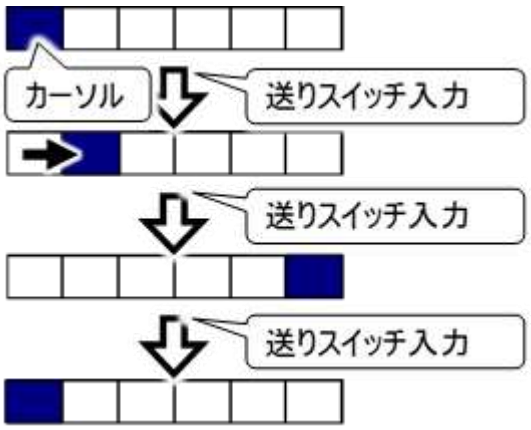
【スキャンカーソル移動】

左から1列目にスキャンカーソルを表示する

送りスイッチの入力で、右方向にスキャンカーソルが
1列移動する

スキャンカーソルを移動させたい分、
送りスイッチを入力する

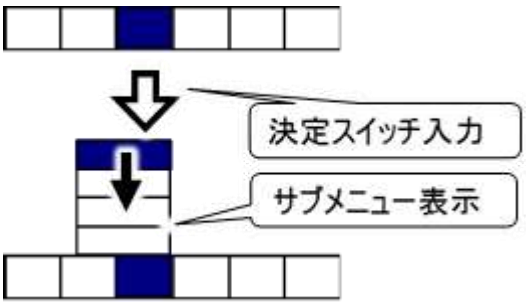
スキャンカーソルが右端に達すると、
次の入力で左端に移動する



【メニューの選択】

選択したい項目で決定スイッチを入力する
サブメニューがなければメニューの選択はこれで完了

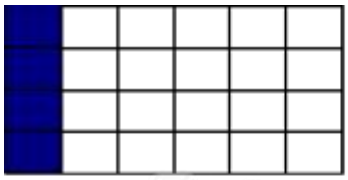
サブメニューがあれば表示され、
行スキャンを送りスイッチで開始する



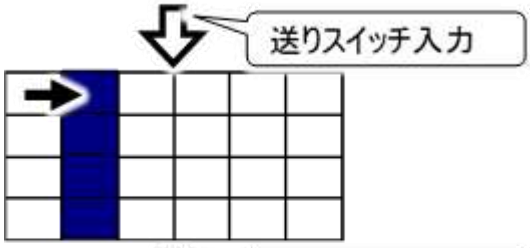
（2）メニューが複数行（パネル）の場合

【スキャンカーソル移動】

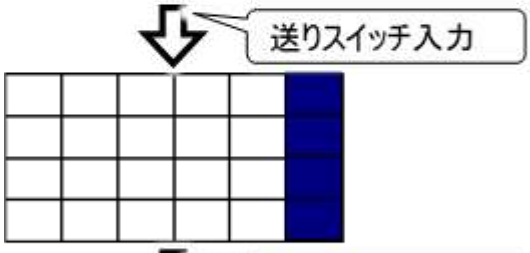
左から1列目にスキャンカーソルを表示する



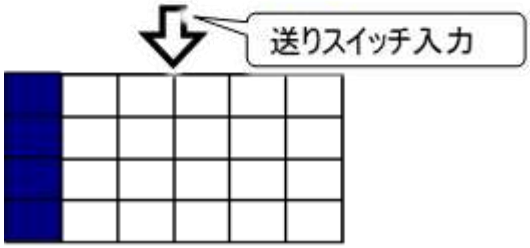
送りスイッチの入力で、
右方向にスキャンカーソルが1列移動する



スキャンカーソルを移動させたい分、
送りスイッチを入力する

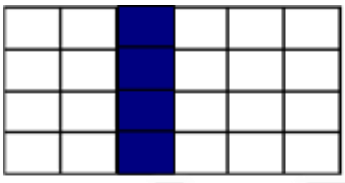


スキャンカーソルが右端に達すると、
次の入力で左端に移動する

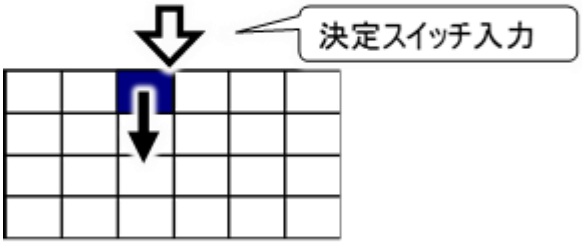


【メニューの選択】

選択したい項目で、決定スイッチを入力する



上から 1 行目にスキャンカーソルが移動するので、
行スキャンを送りスイッチで開始する



基本的な操作方法

■ 行スキャン時のカーソルの移動／選択

スキャン方向：下方向の場合を例にカーソル移動と選択の方法を説明します。

（1）メニューが 1 列の場合

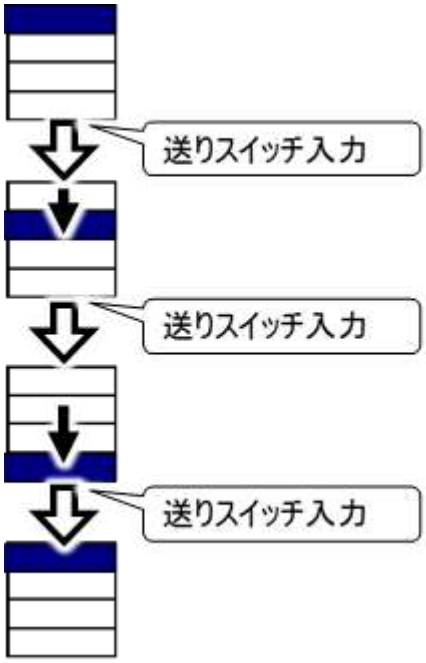
【スキャンカーソル移動】

上から 1 行目にスキャンカーソルを表示する

送りスイッチの入力で、
下方向にスキャンカーソルが 1 行移動する

スキャンカーソルを移動させたい分、
送りスイッチを入力する

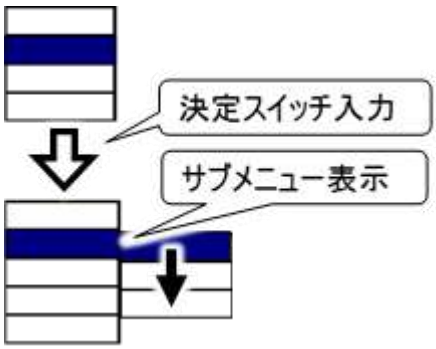
スキャンカーソルが下端に達すると、次の入力で上端に
移動する



【メニューの選択】

選択したい項目で、決定スイッチを入力する
サブメニューが無ければメニューの選択はこれで完了

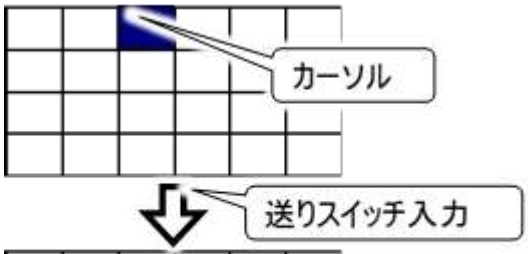
サブメニューがあれば表示され、
行スキャンを送りスイッチで開始する



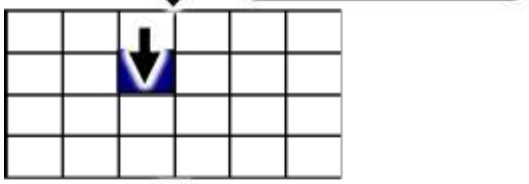
（2）メニューが複数行（パネル）の場合

【スキャンカーソル移動】

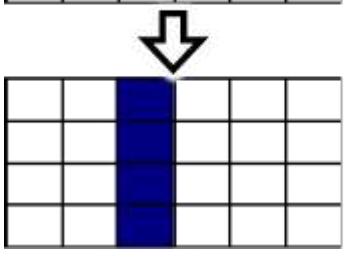
上から 1 行目にスキャンカーソルを表示する



送りスイッチの入力で、下方向にスキャンカーソルが
1 行移動する



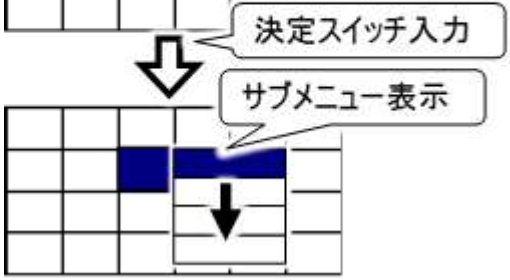
2 周スキャンすると列スキャンに戻る



【メニューの選択】

選択したい項目で決定スイッチを入力する
サブメニューが無ければメニューの選択はこれで完了

サブメニューがあれば表示され、
行スキャンを送りスイッチで開始する



補足

列スキャンの周回数について

ご購入時は2回に設定されていますが、変更可能です。詳しくは 234 ページの「スキャン周回数の設定」を参照ください。

メニュー一覧

「伝の心」の画面毎に表示されるメニューの説明をします。
メニューの表示項目はお客様で自由に変更できる部分もあります。ここでは、ご購入時の状態での説明となります。

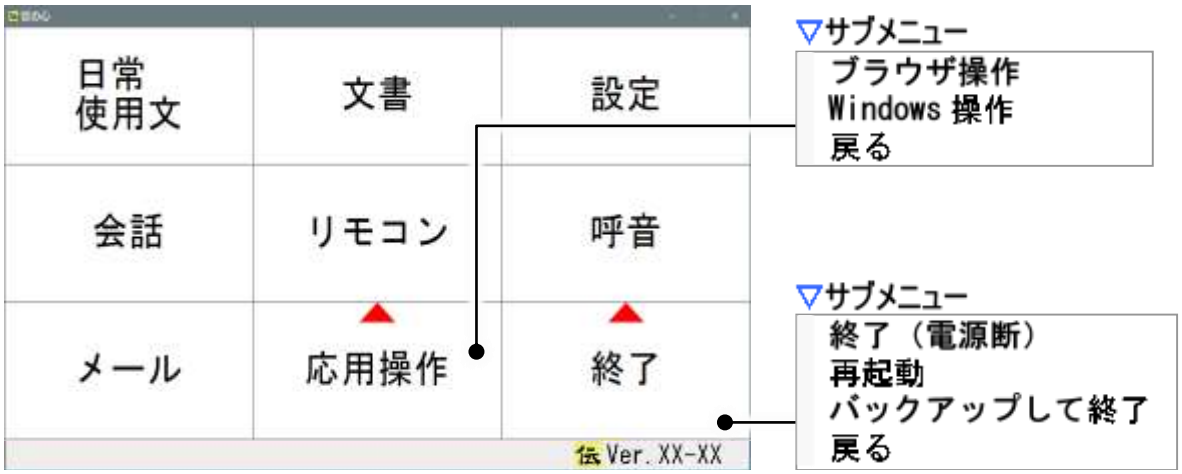
:読み上げを行うメニュー項目です。

:呼び出し音を鳴らすメニュー項目です。

:マウスで操作するメニュー項目です。

■ **「伝の心」トップ画面**:「伝の心」を起動するとこの画面が表示されます。

▽メインメニュー



メインメニュー	サブメニュー	機能
日常使用文	―――	日常使用文画面を表示します。
会話	―――	会話画面を表示します。
文書	―――	文書画面を表示します。
リモコン	―――	リモコン（リモコン操作）画面を表示します。
メール/LINE（注1）	―――	メール画面を表示します。LINE　操作画面の表示に切り替えることも可能です。（注1）
設定	―――	設定画面を表示します。
応用操作（注1）	ブラウザ操作（注1）	ホームページ閲覧画面を表示します。
	Windows 操作（注1）	Windows 操作画面を表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	終了（電源断）	伝の心を終了して、システム装置の電源を切ります。
	バックアップして終了（注1）	伝の心を終了し、ユーザーデータのバックアップを行い、システム装置の電源を切ります。
	再起動（注1）	伝の心を終了して、システム装置の電源を一度切って再度電源を入れなおします。

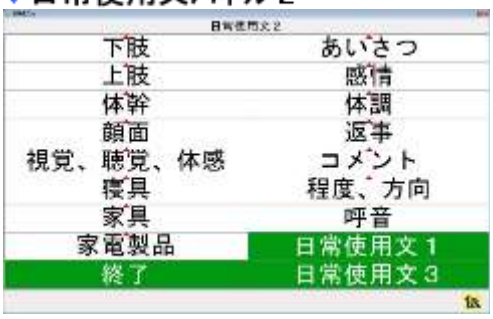
制限

（注1）ご使用の「伝の心」の設定によっては、表示されません。詳細は、218 ページの「メインメニューの設定を行う」にて説明します。

日常使用文

■ **日常使用文パネル 1**:「伝の心」トップ画面のメインメニューで[日常使用文]を選択するとこの画面が表示されます。(注 2)(139 ページ参照)

▽日常使用文パネル 2



▽ 日常使用文パネル 3

各パネル共通メニュー	サブメニュー	機能
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文2	―――	日常使用文パネル2を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	日常使用文画面を閉じます。 次回、日常使用文画面表示時は、この画面から始まります。

補足	(注2) 初めて日常使用文画面を表示したときには、日常使用文パネル 1 を表示しますが、次回からは日常使用文画面で[終了]を選択した画面から始まります。
参照	日常使用文は新規登録／変更／削除が可能です。詳細は、「298 ページの「日常使用文」の編集をする」で説明します。
参照	日常使用文パネル 1 の詳細は、493 ページの「日常使用文パネル 1 の構成と説明」を参照ください。 日常使用文パネル 2 の詳細は、495 ページの「日常使用文パネル 2 の構成と説明」を参照ください。 日常使用文パネル 3 の詳細は、541 ページの「日常使用文パネル 3 の構成と説明」を参照ください。

メニュー一覧

会話

■ **会話画面**：「伝の心」トップ画面のメインメニューで［会話］を選択するとこの画面が表示されます。
（147 ページ参照）

▽**トップメニュー （文字盤で戻を選択すると表示）**

文字	↟	↡	メイン	呼音	終了	

トップメニュー	サブメニュー	機能
文字	―――	会話をするための文字盤を表示します。（注 3）
↟	―――	次のスイッチ入力まで、編集域の表示内容を連続して上にスクロールします。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、編集域の表示内容を連続して下にスクロールします。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	会話画面を閉じます。

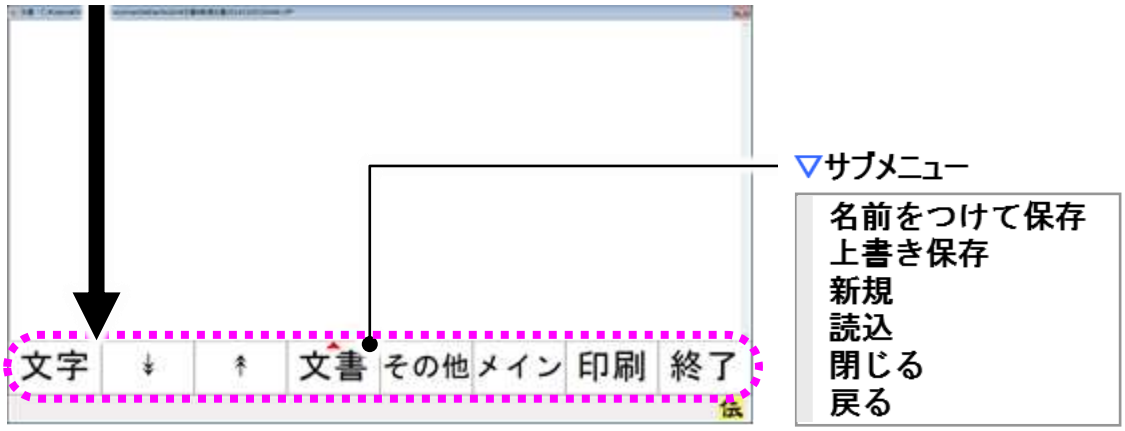
参照

（注3） 文字盤についての詳細は 77 ページの「カタカナ、英文字、数字、記号を入力する（文字盤の一覧）」、または 88 ページの「文字盤の機能一覧」を参照ください。

文書

■ **文書画面**:「伝の心」トップ画面のメインメニューで[文書]を選択するとこの画面が表示されます。
(67 ページ参照)

▽トップメニュー



トップメニュー	サブメニュー	機能
文字(注 4)	―――	今開いている文書を編集するための文字盤を表示します。
↟	―――	次のスイッチ入力まで、編集域の表示内容を連続して上にスクロールします。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、編集域の表示内容を連続して下にスクロールします。
文書(注 5)	名前をつけて保存	今開いている文書に名前をつけて保存するために、保存ファイル名の指定画面を表示します。
	上書き保存	今開いている文書を上書き保存します。
	新規	新しい文書の編集ができるようにします。
	読込	既に保存されている文書を読み込むために、文書ファイルの選択画面を表示します。
	閉じる	[新規][読込]で開いていた文書を閉じます。
	戻る	サブメニューを閉じます。
その他	―――	その他メニューに切り替えます。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
印刷	―――	印刷画面を表示します。
終了	―――	文書画面を閉じます。

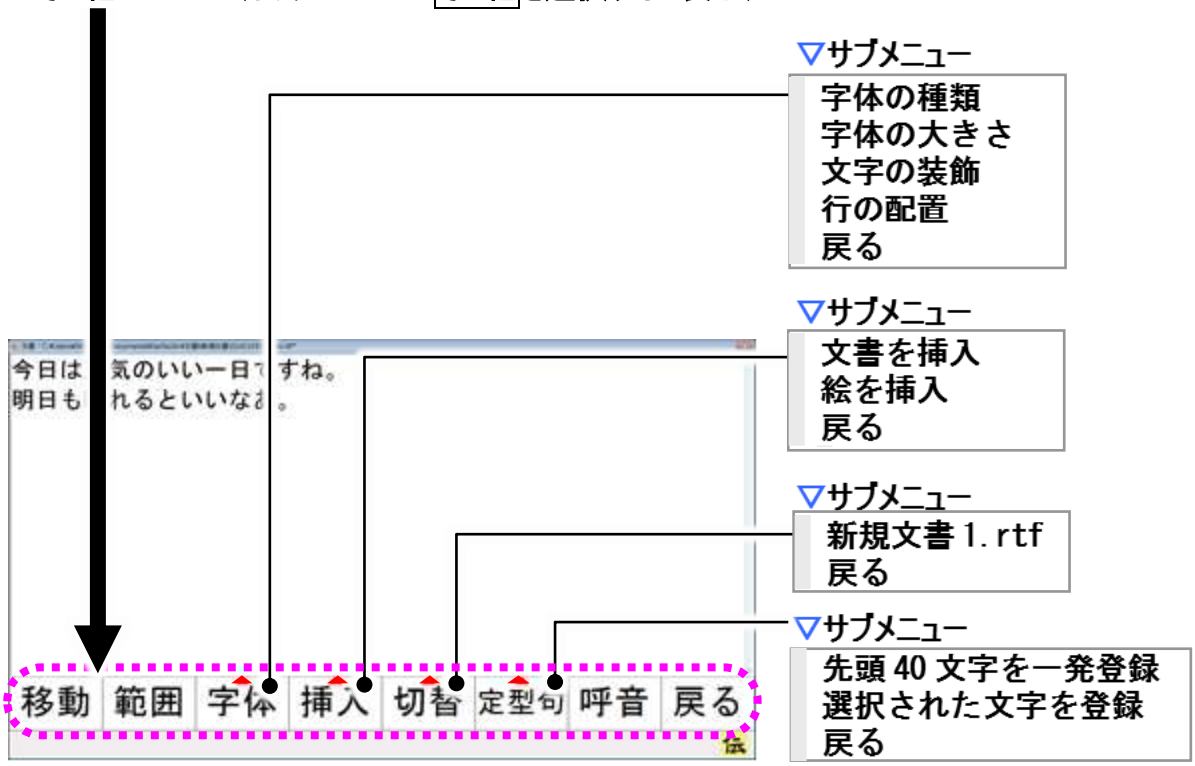
参照

(注4) 文字盤については 77 ページの「カタカナ、英文字、数字、記号を入力する(文字盤の一覧)」、または 88 ページの「文字盤の機能一覧」で詳細を説明します。

(注5) 詳細は 100 ページの「文章を読み出し/保存/削除する」を参照ください。

メニュー一覧

▽その他メニュー （トップメニューでその他を選択すると表示）



その他メニュー	サブメニュー	機能
移動	―――	移動メニューに切り替えます。
範囲	―――	範囲選択メニューに切り替えます。
字体（注 6）	字体の種類	フォント選択画面を表示します。
	字体の大きさ	文字の大きさ変更メニューに切り替えます。
	文字の装飾	文字の装飾メニューに切り替えます。
	行の配置	行の配置変更メニューに切り替えます。
	戻る	サブメニューを閉じます。
挿入（注 7）	文書を挿入	文書ファイルの選択画面を表示します。
	絵を挿入	画像ファイルの選択画面を表示します。
	戻る	サブメニューを閉じます。
切替	（注 8）	編集域を選択した文書に切り替えます。
	戻る	サブメニューを閉じます。
定型句	先頭 40 文字を一発登録	表示されている文書の先頭 40 文字を定型句として、定型句登録画面を表示します。
	選択された文字を登録	選択されている範囲の文字列を定型句として、定型句登録画面を表示します。
	戻る	サブメニューを閉じます。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	文書画面トップメニューに戻ります。

メニュー一覧

▽移動メニュー （その他メニューで移動を選択すると表示）

移動メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して上へ移動します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して下へ移動します。
↞	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して左へ移動します。
↠	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して右へ移動します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	文書画面その他メニューに戻ります。

▽範囲選択メニュー （その他メニューで範囲を選択すると表示）

範囲選択メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して上へ移動して、範囲選択します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して下へ移動して、範囲選択します。
↞	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して左へ移動して、範囲選択します。
↠	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して右へ移動して、範囲選択します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	文書画面その他メニューに戻ります。

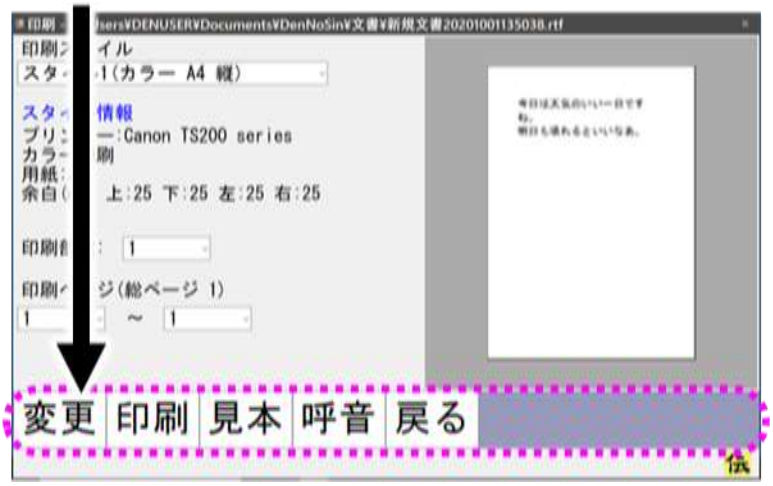
参照

（注6） 詳細は 115 ページの「文字のスタイルを変更する」を参照ください。
（注7） 詳細は 112 ページの「文章に文書や絵を挿入する」を参照ください。
（注8） 現在編集中の文書名がリストに表示されます。

メニュー一覧

■ **印刷画面**：文書画面のトップメニューで[文書]-[印刷]を選択するとこの画面が表示されます。（158ページ参照）

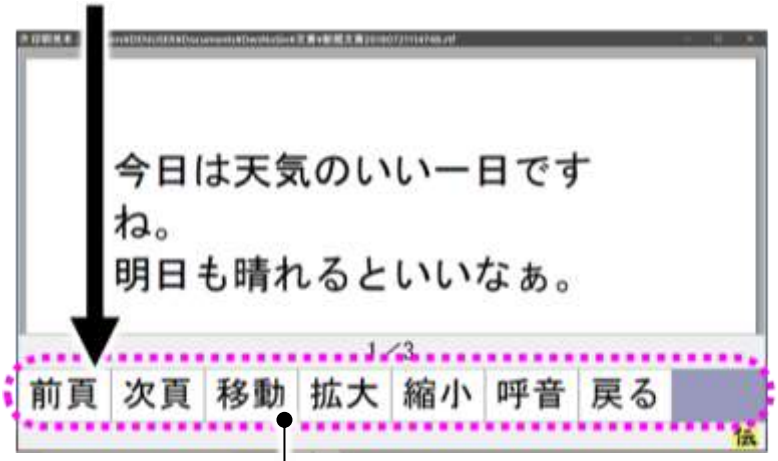
▽**印刷メニュー**



印刷メニュー	サブメニュー	機能
変更	―――	“印刷スタイル”→“印刷部数”→“印刷ページ”開始→“印刷ページ”終了の順番に設定項目間をスキャン移動します。スイッチを入力し、項目を選択すると、選択項目内をスキャンします。
印刷	―――	“印刷スタイル”で“　印刷部数”の数だけ、“印刷ページ”を、印刷します。
見本	―――	印刷見本画面を表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	文書画面トップメニューに戻ります。

■ **印刷見本画面**：印刷画面の印刷メニューで[見本]を選択するとこの画面が表示されます。

▽**印刷見本メニュー**



▽**移動メニュー**

印刷見本メニュー	サブメニュー	機能
前頁	―――	前の頁に移動します。先頭のページでは何もしません。
次頁	―――	次の頁に移動します。最終ページでは何もしません。
移動	―――	メニューを移動メニューに切り替えます。
拡大	―――	プレビュー領域”を拡大表示します。
縮小	―――	プレビュー領域”を縮小表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	印刷画面に戻ります。

移動メニュー	サブメニュー	機能
頁右	―――	プレビュー領域を右にスクロールさせます。
頁左	―――	プレビュー領域を左にスクロールさせます。
頁下	―――	プレビュー領域を下にスクロールさせます。
頁上	―――	プレビュー領域を上にスクロールさせます。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	印刷見本メニューに戻ります。

メニュー一覧

リモコン

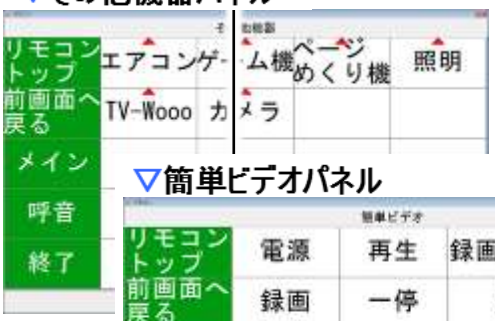
■ **リモコン画面**：「伝の心」トップ画面のメインメニューで[リモコン]を選択すると、この画面が表示されます。(注 9)(169 ページ参照)

▽トップメニュー

▽テレビメインパネル

▽ビデオパネル

▽その他機器パネル



▽簡単ビデオパネル

▽簡単テレビパネル

トップメニュー	サブメニュー	機能
テレビ	―――	テレビメインパネルを表示します。(注 10)
ビデオ(DVD/BD)	―――	ビデオパネルを表示します。(注 10)
簡単テレビ	―――	簡単テレビパネルを表示します。(注 10)
簡単ビデオ	―――	簡単ビデオパネルを表示します。(注 10)
その他機器	―――	その他機器パネルを表示します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	リモコン画面を閉じます。

制限	機器のリモコン操作を行なう前に、あらかじめ支援者用設定で使用するリモコン機器の選択、リモコンデータの転送等を行なってください。
補足	（注9） 初めてリモコン画面を表示したときには、トップメニューを表示しますが、次回からはリモコン画面で[終了]を選択した画面から始まります。
参照	（注10）テレビ、ビデオ、簡単テレビ、簡単ビデオパネルの詳細は、各々172 ページの「テレビのリモコン操作」、177 ページの「簡単テレビのリモコン操作」、184 ページの「簡単ビデオのリモコン操作」、178 ページの「ビデオのリモコン操作」、を参照ください。
参照	リモコンの設定、登録は 239 ページの「リモコンの設定を行う」で説明します。

▽その他機器パネル（リモコン画面でその他機器を選択すると表示）

その他機器パネル	サブメニュー	機能
エアコン	―――	エアコンメインパネルを表示します。（注 11）
ゲーム機	―――	ゲーム機パネルを表示します。（注 11）
ページめくり機	―――	ページめくり機パネルを表示します。（注 11）
照明	―――	照明パネルを表示します。（注 11）
DVD	―――	DVD パネルを表示します。（注 11）
カメラ	―――	ビデオカメラメインパネルを表示します。（注 11）
地デジチューナ	―――	地デジチューナメインパネルを表示します。（注 11）
リモコントップ	―――	リモコン画面のトップメニューを表示します。
前画面へ戻る	―――	一つ前の画面に戻ります。（ここではトップメニューへ）
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	リモコン画面を閉じます。 次回、リモコン画面表示時は、この画面から始まります。

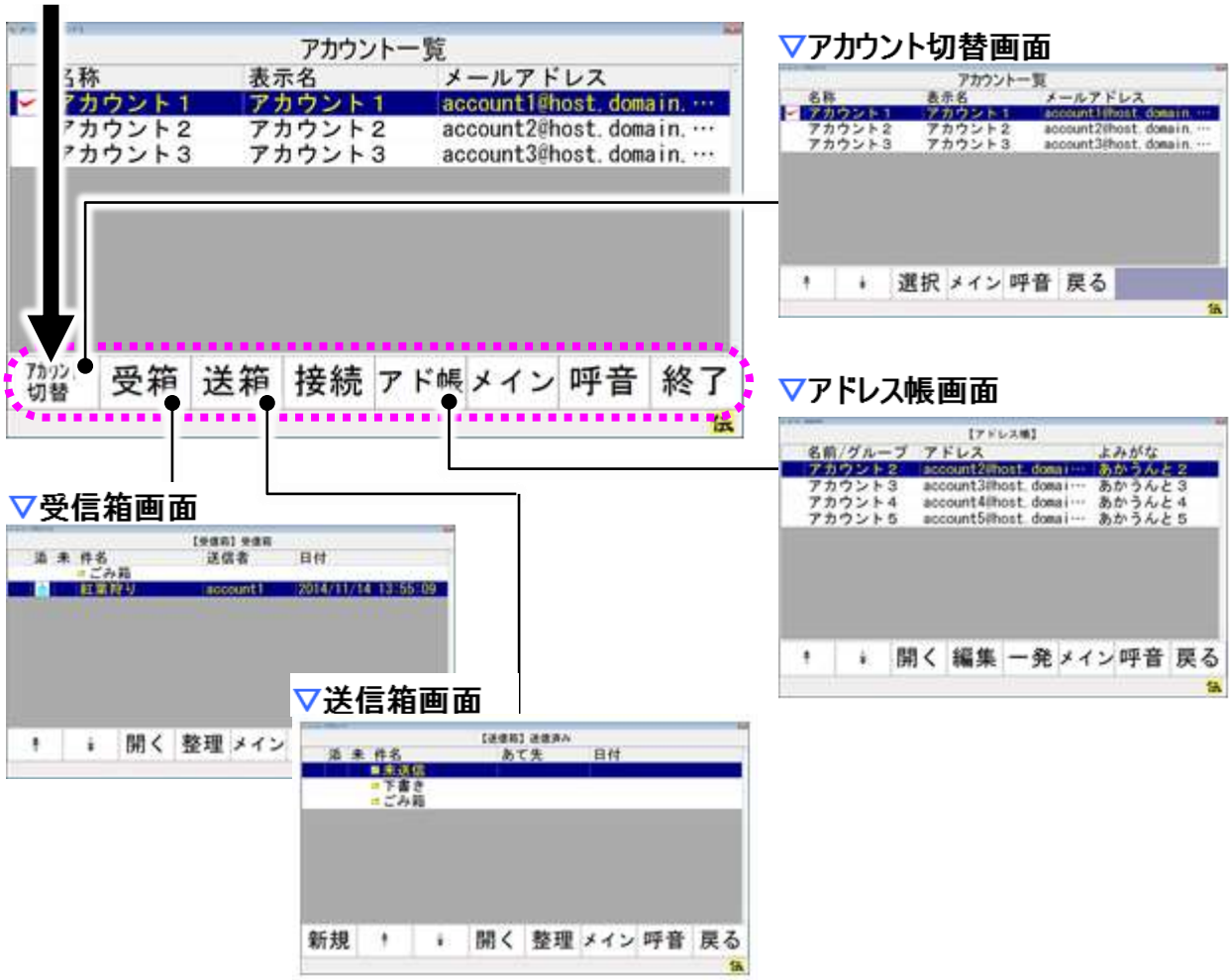
参照	（注11）パネルの詳細は 185 ページの「その他の機器を操作する」にて説明します。

メニュー一覧

メール

■ **メール画面**：「伝の心」トップ画面のメインメニューで[メール]を選択するとこの画面が表示されます。（332 ページ参照）

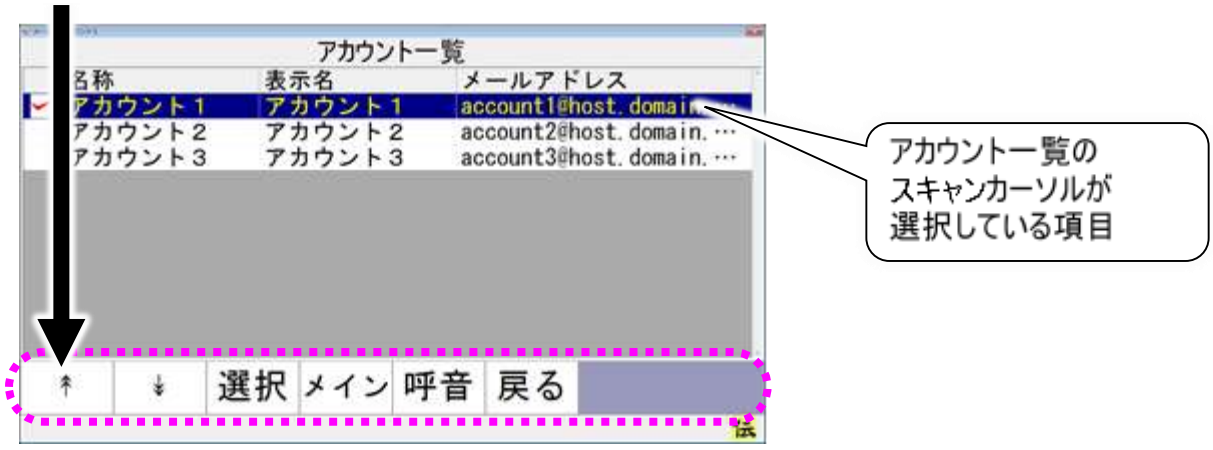
▽トップメニュー



トップメニュー	サブメニュー	機能
アカウント切替	―――	アカウント切替画面を表示します。
受箱	―――	受信箱画面を表示します。
送箱	―――	送信箱画面を表示します。
接続	―――	メールの送受信を行います。
アド帳	―――	アドレス帳画面を表示します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	メール画面を閉じます。

■ **アカウント切替画面**：メール画面で[アカウント切替] を選択するとこの画面が表示されます。

▽**アカウント切替メニュー**

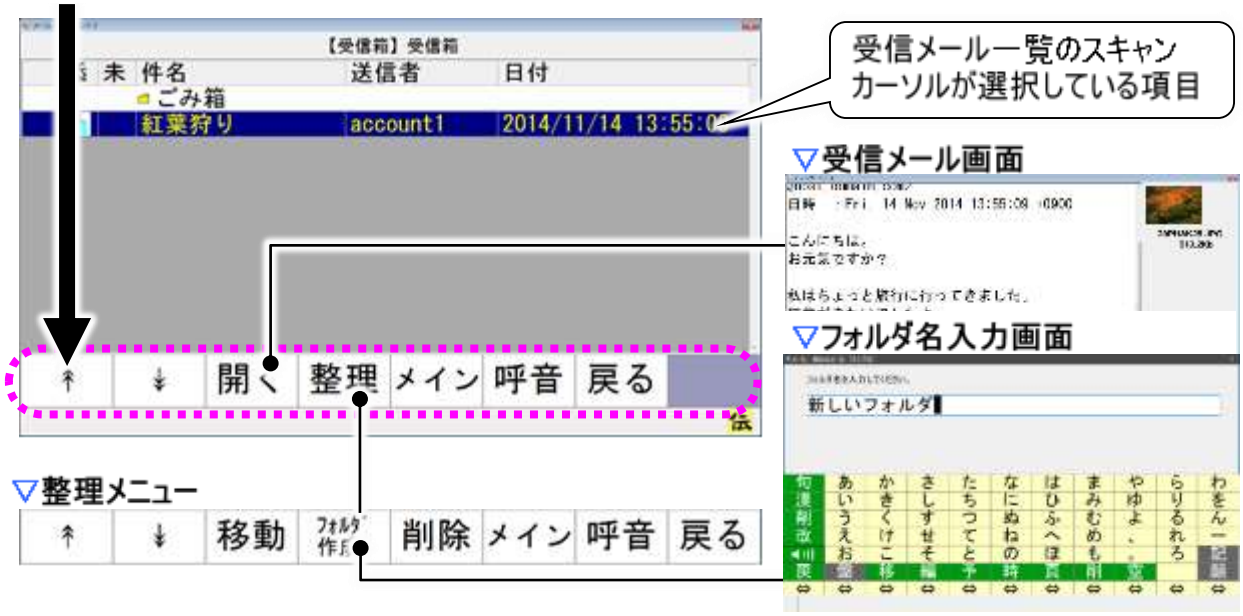


アカウント切替メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	次のスイッチ入力まで、アカウント一覧のスキャンカーソルを連続して上に移動します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、アカウント一覧のスキャンカーソルを連続して下に移動します。
選択	―――	アカウント一覧のスキャンカーソルが選択している項目（アカウント）を操作対象のアカウントとして切り換えます。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	メール画面に戻ります。

メニュー一覧

■ **受信箱画面**:メール画面で[受箱] を選択するとこの画面が表示されます。

▽受信箱メニュー



受信箱メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	次のスイッチ入力まで、受信メール一覧のスキャンカーソルを連続して上に移動します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、受信メール一覧のスキャンカーソルを連続して下に移動します。
開く(注 12)	―――	受信メール一覧のスキャンカーソルが選択している項目(受信メール)の内容を表示します。
整理	―――	整理メニューに切り替えます。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	メール画面に戻ります。

整理メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	受信箱メニューと同様。
↡	―――	受信箱メニューと同様。
移動(注 13)	―――	選択した項目の左端にチェックマークを付加します。
フォルダ作成	―――	現在表示しているフォルダ内にサブフォルダを作成するために、フォルダ名入力画面を表示します。
削除	―――	現在選択している項目(受信メール・フォルダ)をごみ箱に移動します。選択している項目(受信メール・フォルダ)が「ごみ箱」にある場合は完全に削除します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	受信箱画面受信箱メニューに戻ります。

■ **受信メール画面**：受信箱画面で[開く] を選択するとこの画面が表示されます。

▽**受信メールメニュー**

受信メールメニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	次のスイッチ入力まで、受信メールの内容を上方向にスクロール表示します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、受信メールの内容を下方向にスクロール表示します。
返信	―――	表示しているメールを元に、返信メールを作成し送信メールの編集画面を表示します。
その他	―――	その他メニューに切り替えます
読上	―――	受信メールの内容を読み上げます。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	受信箱画面に戻ります。

補足

（注12）選択している項目がフォルダの場合はそのフォルダの内容を受信メール一覧に表示します。

補足

（注13）すでにチェックマークが付いた状態では、移動対象から外したものとして処理しチェックマークを外します。
選択した項目がフォルダであった場合、移動先のフォルダを選択したものとして、事前にチェックマークを付けたファイルをフォルダに移動します。
チェックマークを付けたファイルが無い場合は、何もしません。

メニュー一覧

▽その他メニュー（受信メールメニューで**その他**を選択すると表示）

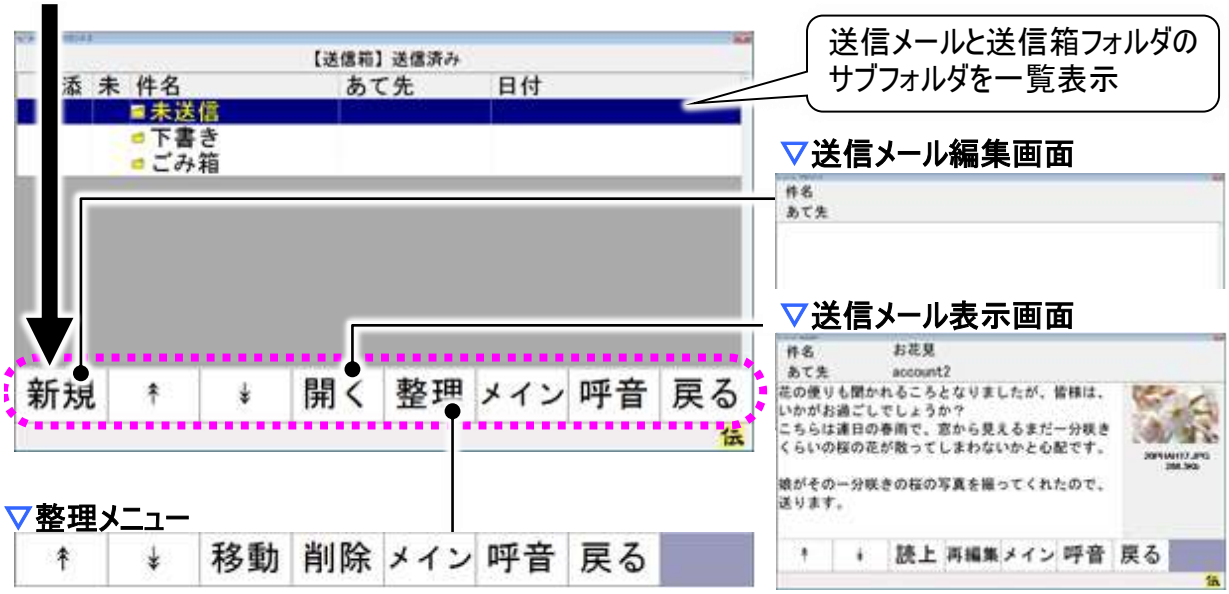
その他メニュー	サブメニュー	機能
添付表示		添付画像表示画面を表示します。（注 14）
添付保存	―――	添付ファイルを保存します。
@	―――	表示しているメールの送信者のメールアドレスを元に、アドレス編集画面を表示します。
印刷	―――	表示しているメールの内容を印刷します
操作	保存	現在表示している受信メールを保存します。
	削除	現在表示している受信メールを削除します。
	戻る	サブメニューを閉じます。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	受信メール画面受信メールメニューに戻ります。

参照

（注14）添付画像表示画面から、表示している画像ファイルを印刷できます。画像ファイルの印刷の詳細は 378 ページの「受信メール（添付画像）を印刷する」にて説明します。

■ **送信箱画面**：メール画面で[送箱] を選択するとこの画面が表示されます。

▽**送信箱メニュー**



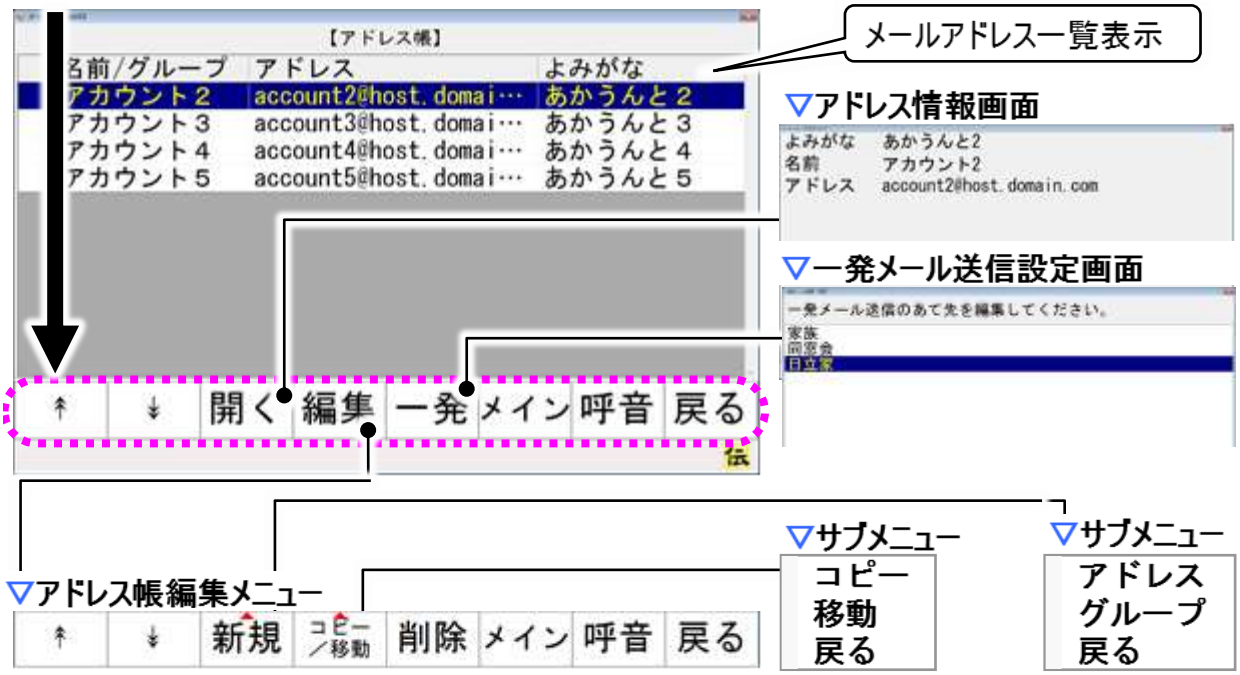
送信箱メニュー	サブメニュー	機能
新規	―――	送信メール編集画面を表示します。
↟	―――	次のスイッチ入力まで、送信メール一覧のスキャンカーソルを連続して上に移動します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、送信メール一覧のスキャンカーソルを連続して下に移動します。
開く	―――	スキャンカーソルがフォルダを選択している場合は、フォルダ内の項目を送信メール一覧に表示します。 スキャンカーソルがメールを選択している場合は、送信メール表示画面を表示し、メールの内容を表示します。
整理	―――	整理メニューに切り替えます。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	メール画面に戻ります。

整理メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	送信箱メニューと同様
↡	―――	送信箱メニューと同様
移動（注 13）	―――	選択した項目の左端にチェックマークを付加します。
削除	―――	現在選択している項目（送信メール・フォルダ）をごみ箱に移動します。選択している項目（送信メール・フォルダ）が「ごみ箱」にある場合は完全に削除します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	送信箱画面送信箱メニューに戻ります。

メニュー一覧

■ **アドレス帳画面**：メール画面で[アド帳] を選択するとこの画面が表示されます。

▽アドレス帳メニュー

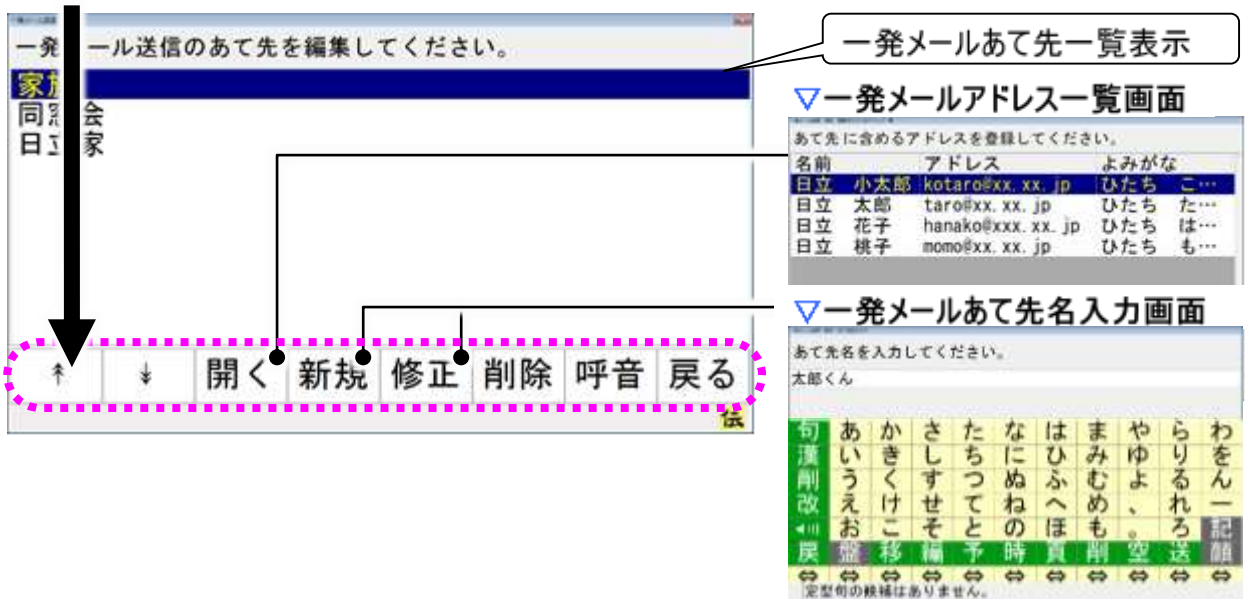


アドレス帳メニュー		サブメニュー	機能
↟	↡	―――	次のスイッチ入力まで、アドレス一覧のスキャンカーソルを連続して上または下に移動します。
開く		―――	アドレス情報画面を表示し、選択中の項目（アドレス）のアドレス情報を表示します。 スキャンカーソルがグループを選択している場合は、そのグループに登録されているアドレス一覧を表示します。
編集		―――	アドレス帳編集メニューに切り替えます。
一発		―――	一発メール送信設定画面を表示します。
メイン		―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音		―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る		―――	メール画面に戻ります。

アドレス帳編集メニュー		サブメニュー	機能
↟	↡	―――	アドレス帳メニューと同様
新規		アドレス	よみがな・名前・アドレスが空欄のアドレス編集画面を表示します。
		グループ	アドレスグループ名入力画面を表示します。
コピー/移動		コピー	アドレスコピーメニューに切り替えます。
		移動	アドレス移動メニューに切り替えます。
削除		―――	選択中の項目（アドレス）の削除を行います。
メイン		―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音		―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る		―――	アドレス帳メニューに戻ります。

■ **一発メール送信設定画面**：アドレス帳画面で[一発] を選択するとこの画面が表示されます。

▽**一発メール送信設定メニュー**



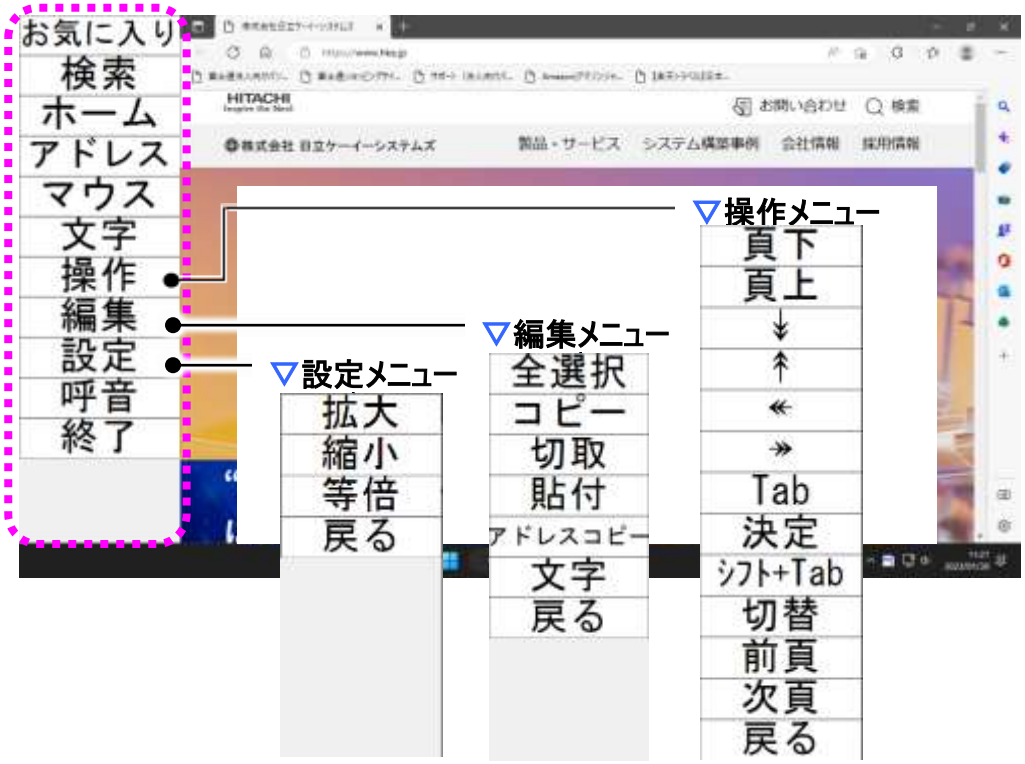
一発メール送信設定メニュー	サブメニュー	機能
↟	―――	次のスイッチ入力まで、一発メール送信あて先一覧のスキャンカーソルを連続して上に移動します。
↡	―――	次のスイッチ入力まで、一発メール送信あて先一覧のスキャンカーソルを連続して下に移動します。
開く	―――	一発メール送信あて先一覧のスキャンカーソルのあるあて先について、一発メールアドレス一覧画面を表示します。
新規	―――	一発メールあて先名入力画面を表示します。
修正	―――	一発メールあて先名入力画面を表示し、一発メール送信あて先一覧内でスキャンカーソルのあるあて先を「あて先名」に表示します。
削除		一発メール送信あて先一覧内でスキャンカーソルのあるあて先を削除します。
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
戻る	―――	アドレス帳画面に戻ります。

メニュー一覧

ブラウザ操作

■ **ホームページ閲覧画面**：「伝の心」トップ画面のメインメニューで[応用操作]-[ブラウザ操作] を選択するとこの画面が表示されます。（380 ページ参照）

▽トップメニュー



トップメニュー	サブメニュー	機能
お気に入り	―――	現在表示されているページを、お気に入りに追加します。
検索	―――	Edgeの検索入力欄に入力カーソルを移動し、文字盤を表示します。
ホーム	―――	Edgeの「ホーム」に設定されているページを表示します。
アドレス	―――	EdgeのURL入力欄に入力カーソルを移動し、文字盤を表示します。
マウス	―――	マウス操作盤を表示します。
文字	―――	文字盤を表示し、文字入力を行える状態にします。
操作	―――	操作メニューを表示します。（注15）
編集	―――	編集メニューを表示します。
設定	―――	設定メニューを表示します。（注16）
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	ホームページ閲覧画面を閉じます。

参照

（注15）操作メニューの詳細は、391 ページの「画面のスクロール」にて説明します。
（注16）設定メニューの詳細は、395 ページの「ホームページ画面の拡大／縮小」にて説明します。

Windows 操作

■ **Windows 操作画面**:「伝の心」トップ画面のメインメニューで[応用操作]－[Windows 操作] を選択するとこの画面が表示されます。(397 ページ参照)

▽トップメニュー

トップメニュー	サブメニュー	機能
基本マウス	―――	マウス操作盤を表示します。(注 17)
拡張マウス		マウス操作盤を表示します。(注 17)
文字盤	―――	文字盤を表示し、文字入力を行える状態にします。
アイコン	―――	アイコンスキャンメニューに切り替えます。(注 18)
画面操作	―――	画面操作メニューを表示します。(注 19)
画面切替	―――	現在実行中のアプリケーションを順次選択します。次のスイッチ入力まで動作を継続します。
ソフト	外部プログラム1	登録されているプログラムを起動します。
	外部プログラム2	
	外部プログラム3	
LINE	―――	LINE を起動し、LINE 操作画面を表示します。(注 20)
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	Windows 操作画面を閉じます。

参照

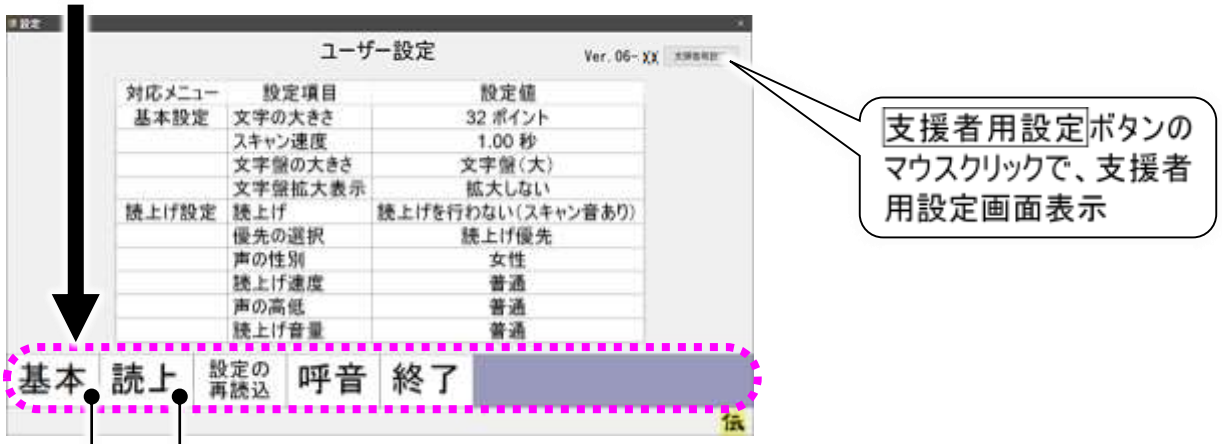
(注17)基本と拡張の違いは、マウス操作盤のサブメニューのみです。
(注18)アイコンスキャンメニューの詳細は、413 ページの「デスクトップのアイコンを簡単に選択して実行する」にて説明します。
(注19)画面操作メニューの詳細は、408 ページの「相手画面の位置や大きさを変える」にて説明します。
(注20)LINE 操作画面の詳細は 414 ページの「コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う」にて説明します。

メニュー一覧

伝の心 設定

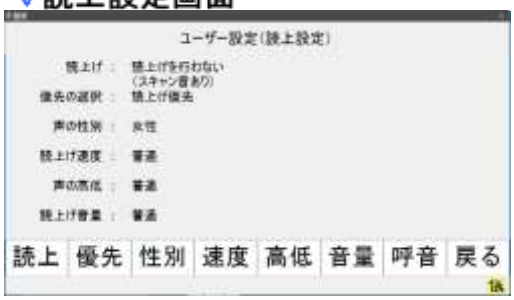
■ **ユーザー設定画面**:「伝の心」トップ画面のメインメニューで[設定] を選択するとこの画面が表示されます。(199 ページ参照)

▽トップメニュー



▽基本設定画面

▽読上設定画面



トップメニュー	サブメニュー	機能
基本	―――	基本設定画面を表示します。(注 21)
読上	―――	読上設定画面を表示します(注 22)
設定の再読込	―――	編集中の設定を破棄し、設定ファイルから現在使用中の設定を読み込みます。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	伝の心設定画面を閉じます。

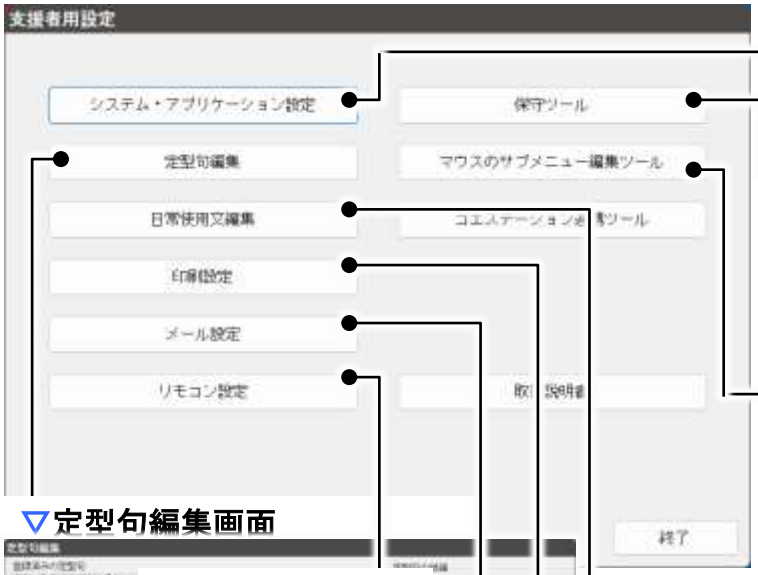
参照

(注21)基本設定画面の説明は、208 ページの「その他の設定を行う」にて説明します。

(注22)読上設定画面の説明は、200 ページの「音の設定を行う」にて説明します。

■ **支援者用設定画面**：伝の心設定画面で支援者用設定ボタンをマウスクリックするとこの画面が表示されます。（215 ページ参照）

▽ボタンメニュー

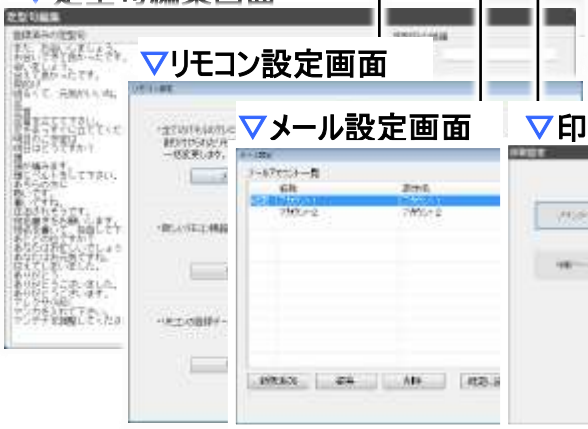


▽システム・アプリケーションの設定画面

▽保守ツール画面

▽マウスのサブメニュー編集ツール画面

▽定型句編集画面



▽リモコン設定画面

▽メール設定画面

▽印刷設定画面

▽日常使用文編集画面

ボタンメニュー	サブメニュー	機能
システム･アプリケーション設定	―――	システム･アプリケーション設定画面を表示します。（注 23）
定型句編集	―――	定型句編集画面を表示します（注 24）
日常使用文編集	―――	日常使用文編集画面を表示します。（注 25）
印刷設定	―――	印刷設定画面を表示します。（注 26）
メール設定	―――	メール設定画面を表示します。（注 27）
リモコン設定	―――	リモコン設定画面を表示します。（注 28）
保守ツール	―――	保守ツール画面を表示します。（注 29）
マウスのサブメニュー編集ツール	―――	マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示します。（注 23）
コエステーション連携ツール	―――	コエステーション連携ツール画面を表示します。（注 30）
取扱説明書	―――	取扱説明書を格納しているフォルダが開きます

参照

（注23）詳細は、215 ページの「伝の心を使いやすくする②―支援者用設定―」にて説明します。

（注24）詳細は、293 ページの「「定型句」の設定を行う」にて説明します。

（注25）詳細は、298 ページの「「日常使用文」の編集をする」にて説明します。

（注26）詳細は、161 ページの「印刷の設定」にて説明します。
（注27）詳細は、325 ページの「メールアカウントの設定」にて説明します。
（注28）詳細は、239 ページの「リモコンの設定を行う」にて説明します。
（注29）詳細は、429 ページの「保守ツールを使う」にて説明します。
（注30）詳細は、伝の心添付資料の「コエステーションの音声を「伝の心」で使うには」にて説明しています。

電源を入れる/切る

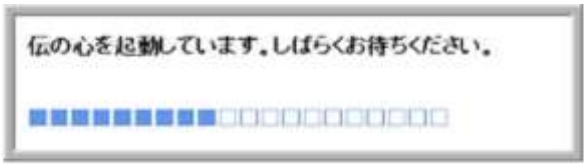
■ 電源を入れる

1 周辺機器（プリンターやモニタ）の電源が全て ON になっていることを確認します。

2 初めて使う場合や、機器の交換を行った場合は、正しく接続されているかご確認ください。

3 システム装置の電源ボタンを押します。
ご使用になる「伝の心」の型式によって、電源ボタンの位置は違います。
詳しくは、添付資料（伝の心支援者向け　接続の仕方）をご覧ください。

4 システム装置が起動し、伝の心が自動起動します。起動中は右記画面を表示します。



5 伝の心が起動すると、右記「伝の心」トップ画面が表示されます。

制限

ご使用の「伝の心」の設定によっては、表示されないメニューもあります。

補足

メニューの表示/非表示

メニューの表示/非表示の設定は、システム・アプリケーション設定画面にて行います。

システム・アプリケーション設定画面の表示方法は「伝の心」トップ画面にて、[設定]を選択し、伝の心設定画面にて支援者用設定ボタンをマウスクリック、さらに支援者用設定画面にて、システム・アプリケーション設定ボタンをマウスクリックして表示します。（218 ページの「メインメニューの設定を行う」参照）

電源を入れる/切る

■ 電源を切る

1 「伝の心」トップ画面にて、[設定 呼音　終了]列を選択し、さらに[終了]を選択します。

2 サブメニューが表示されるので、[終了(電源断)]を選択します。

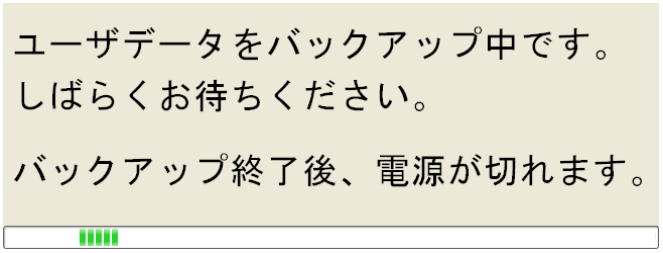
3 右記確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

4 「伝の心」が終了して、システム装置の電源が切れます。

補足

ユーザーデータバックアップ中の表示

伝の心終了時、下記のような画面が表示される場合があります。



この場合、ユーザーデータのバックアップを行っています。バックアップ終了後に電源が切れますので、暫くお待ちください。

ユーザーデータのバックアップの設定は、225 ページの「**バックアップの設定を行う**」を参照ください。

文章を作成する

ここでは、「伝の心」での文章の作成方法について説明します。
文書管理の方法についてもここで説明します。
初めて文章を作成する場合は、必ずお読みください。
また、会話文字盤を初めて使用する場合も、ここをお読みください。

文章を作成する

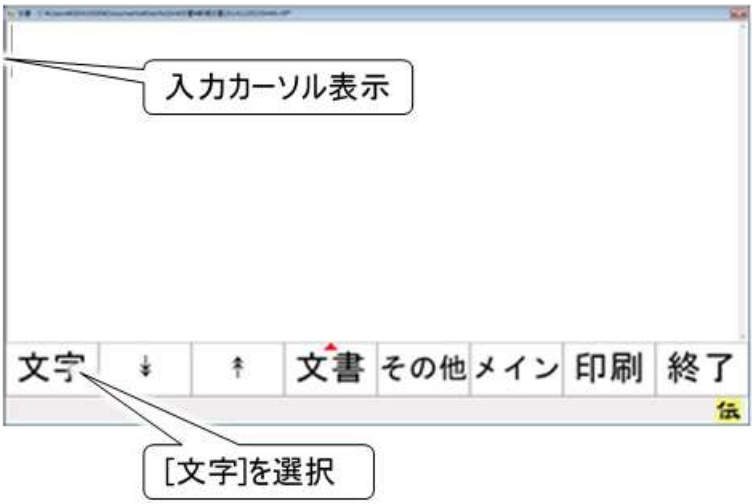
文字入力の基本操作

ひらがな文字の入力（文字盤入力）

まず、「きょうは、びっくりしたよ！」という文を入力してみましょう。

1 メイン画面から[文書]を選択すると、文書画面を表示します（編集中の文書が無い場合は、新規文書を作成します）。

2 文書画面に入力カーソルが現れ、文字入力可能となるので、[文字]を選択します。



3 ひらがな文字盤が画面下に表示され、列スキャンが左端より始まります。

※タッチモードの場合
スキャンは始まりません。

制限

入力モード「ローマ字入力／かな入力」について

「伝の心」の文字盤は入力モードが「かな入力」でないと、正常に動作しません。入力モードを「ローマ字入力」に変更した場合は、**「かな入力」に必ず戻してください。**

「かな入力」への戻す方法は、475 ページの「文字盤で選択した文字が編集域に入力されない」を参照ください。

補足

定型句候補リスト表示領域について

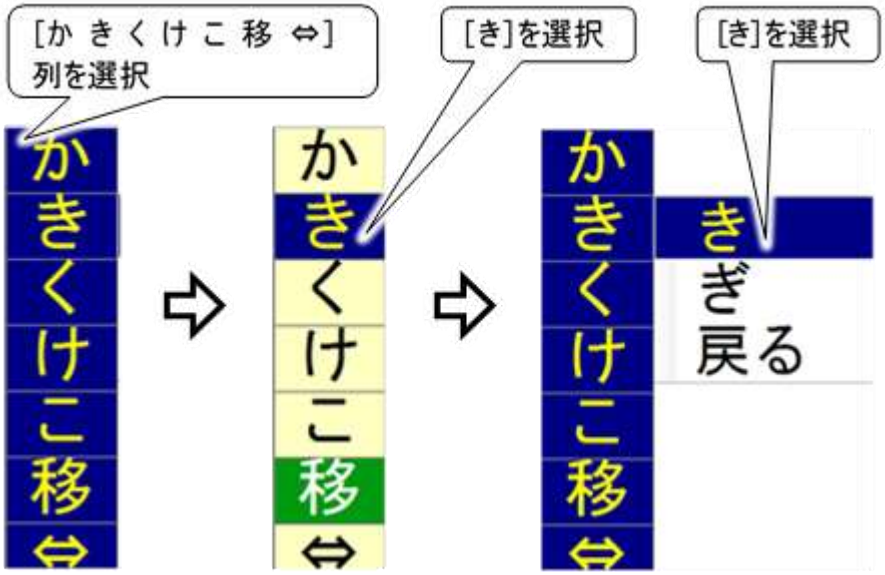
未確定文字を入力すると、対応した定型句の候補が文字盤右上の定型句候補リスト表示領域に表示されます。

実際にその定型句を選択する場合は、[句]を選択して行います。定型句の詳細は 79 ページの「定型句（よく使用する言葉）を使う」を参照ください。

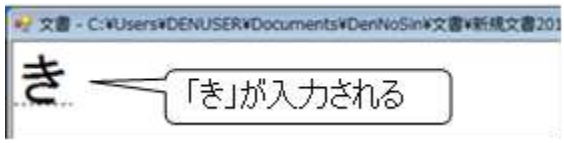
定型句候補リスト表示領域は「文書」と「メール」の一部のみ表示されます。「会話」「ブラウザ操作」「Windows 操作」では表示されません。

4 [か き く け こ 移 ⇔]列を選択して、さらにこの列の中から[き]を選択します。

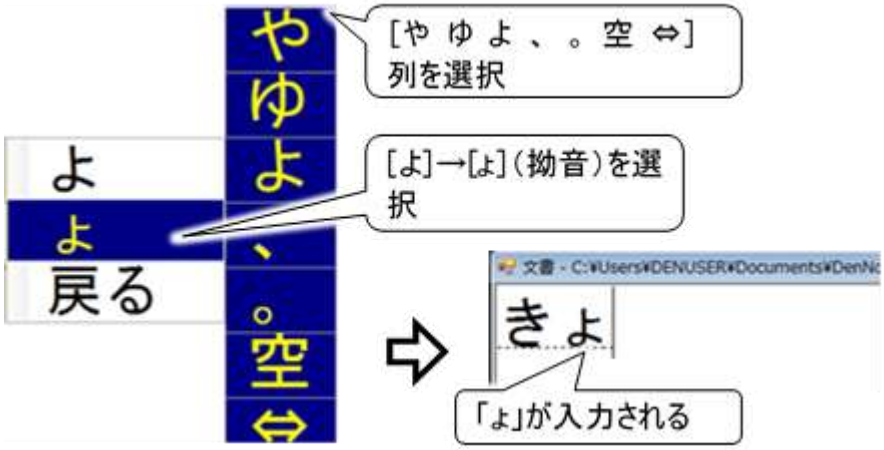
5 サブメニュー[き ぎ 戻る]が表示されるので、[き]を選択します。



6 編集域の入力カーソル位置に「き」が入力されます。



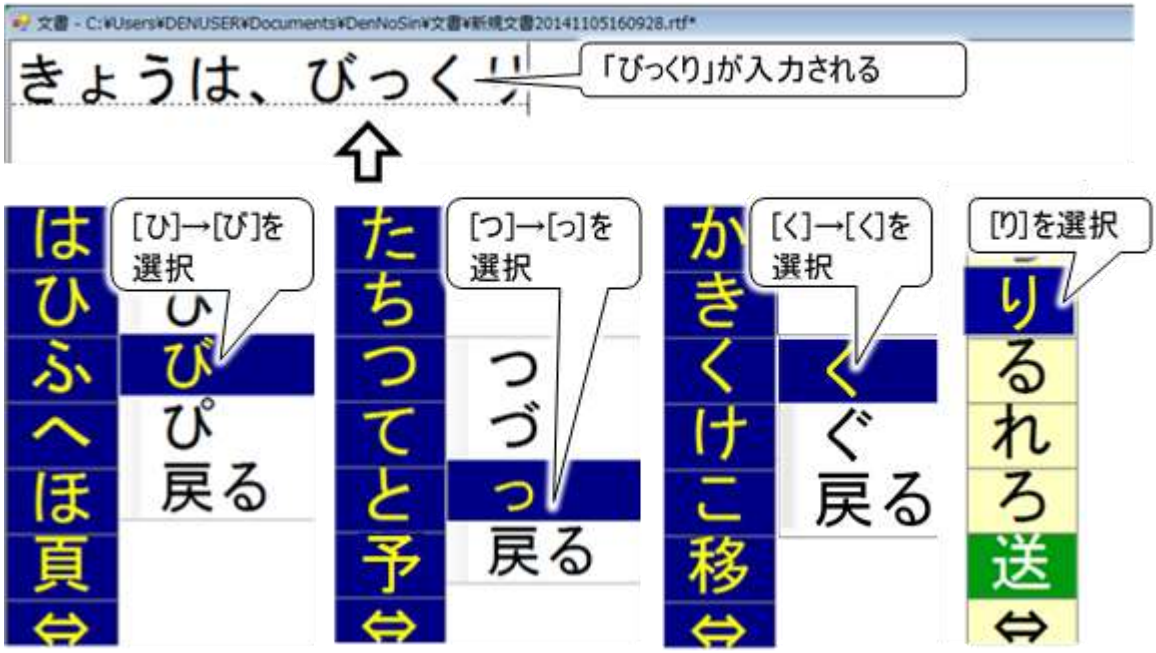
7 同様にして、[や ゆ よ 、 。 空 ⇔]列を選択して、[ょ](拗音)を入力します。



8 [う][は][、]の 3 文字も同様にして入力していきます。

文章を作成する

9 [びっくり]は下記のようにして入力して行きます。



補足

小文字(拗音)・濁音・半濁音の入力

それぞれの文字盤の文字を選択したときに表示されるサブメニューから選択できるようになっています。

例:[ツ]を選択すると、サブメニューとして[ツ ヅ ッ 戻る]が表示される。

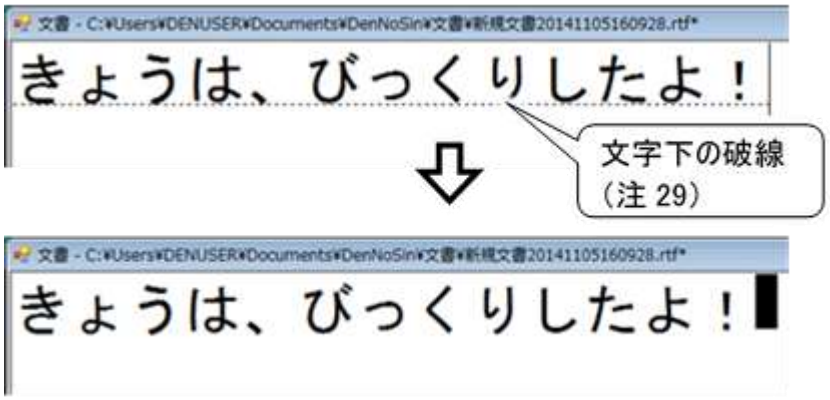
例:[は]を選択すると、サブメニューとして[は ば ぱ 戻る]が表示される。

10 [し][た][よ]の 3 文字も同様にして入力していきます。

11 [!]は、[わ を ん ー 記 顔 ⇔]列を選択して入力します。

12 次に[句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、[改]を選択します。
サブメニュー[改行 改行2回 戻る]が表示されるので[改行]を選択します。

13 編集域の「きょうは、びっくりしたよ！」文字下の破線がなくなって、「きょうは、びっくりしたよ！」の入力が確定できました。



補足	（注31）文字の下に破線が表示されている状態の文字列を、「未確定文字列」といいます。 文字列を漢字やカタカナ等に変換する場合にはこの状態で行います。 変換しない場合は、[改行]の選択で文字入力が確定します。
参照	**漢字変換について** 「こんにちは」を「今日は」に変換する方法は 84 ページの「漢字入力の基本操作」で説明しています。 **文書の保存について** この文書の保存方法は 100 ページの「文字・文章の保存の仕方」で説明しています。

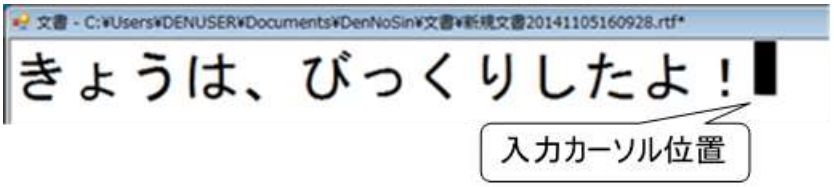
文章を作成する

文字の入力カーソルを移動する

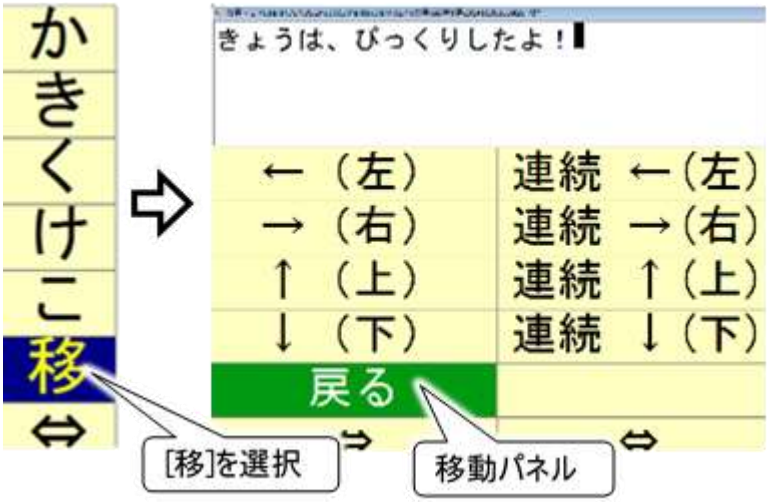
「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項で入力した「きょうは、びっくりしたよ！」という文の入力カーソル位置を、「！」の右側の位置から「は」の左側の位置に移動してみましょう。

■ スイッチモードの場合

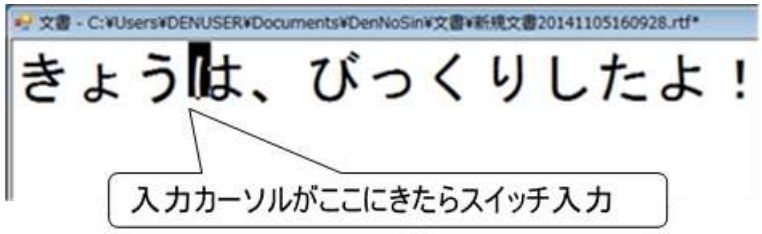
1 編集域に「きょうは、びっくりしたよ！」の文字が入力されている状態です。入力カーソルは「！」の文字の後ろにあります。



2 まず、文字盤の[か き く け こ 移 ⇔]列を選択して、さらにこの列の中から[移]を選択します。文字盤が移動パネルに切り替わります。



3 移動パネルから[連続←（左） 連続→（右） 連続↑（上） 連続↓（下）] 列を選択して、さらにこの列の中から[連続←（左）]を選択します。

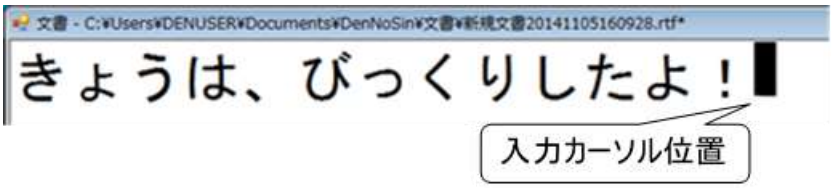


4 編集域の入力カーソルが、「！」の後ろから左に移動を始めます。入力カーソルが「う」と「は」の間にきたら、もう一度スイッチ入力を行います。（マウスでは操作できません）

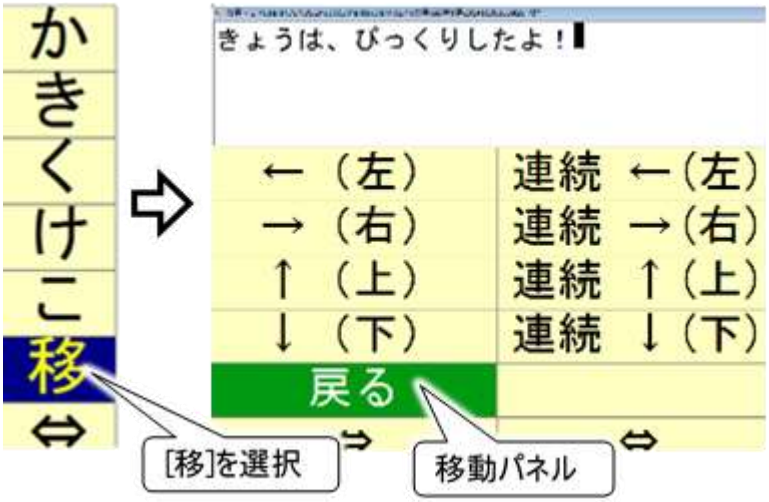
入力カーソルが左に行き過ぎてしまった場合は、[連続→（右）]または[→（右）]等を選択して入力カーソルを戻してください。

■ タッチモードの場合

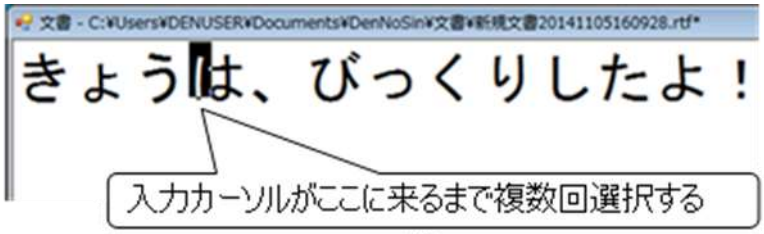
1 編集域に「きょうは、びっくりしたよ！」の文字が入力されている状態です。入力カーソルは「！」の文字の後ろにあります。



2 まず、文字盤の[か き く け こ 移 ⇔]列を選択して、さらにこの列の中から[移]を選択します。文字盤が移動パネルに切り替わります。



3 移動パネルから[←（左） →（右） ↑（上） ↓（下） 戻る]列を選択して、さらにこの列の中から[←(左)]を選択します。



4 入力カーソルが左に1文字移動するので、入力カーソル位置を移動したい文字まで[←(左)]を複数回選択します。

補足

タッチモードでの連続移動について

タッチモードの場合、「連続←（左）」などの、スイッチモードでは連続して移動するボタンは連続では動きません。「←（左）」などの **1 回動作するボタンと同様の動作となります。**

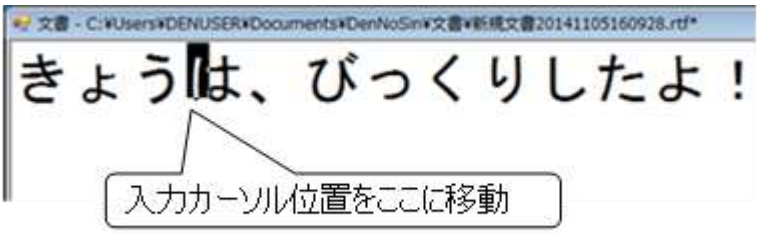
文章を作成する

文字を削除する

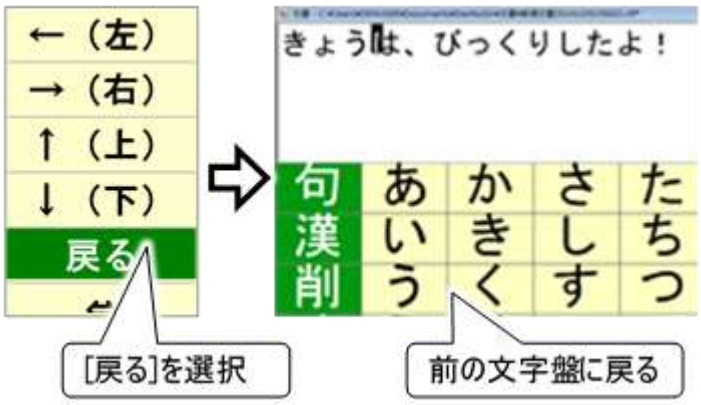
「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項で入力した「きょうは、びっくりしたよ！」という文の「は」を削除してみましょう。

■ スイッチモードの場合

1 編集域に「きょうは、びっくりしたよ！」の文字が入力されている状態です。
編集域の入力カーソル位置を 72 ページの「文字の入力カーソルを移動する」を参照して「う」と「は」の間まで移動します。

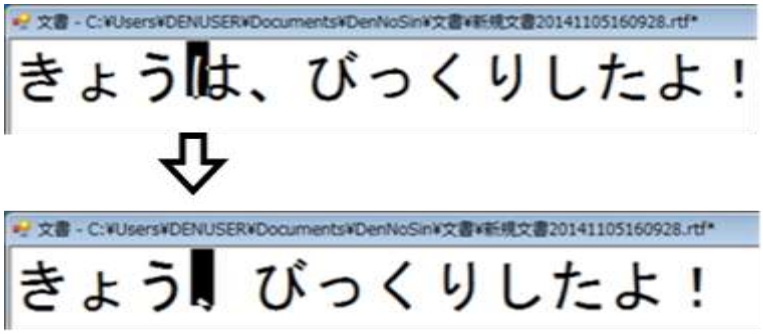


2 編集域の入力カーソルが「う」と「は」の間で停止している状態で[←（左） →（右） ↑（上） ↓（下） 戻る]列を選択して、さらに[戻る]を選択します。
移動パネルがひらがな文字盤に戻ります。



3 [句 漢 削 改 戻 ⇔]または[ま み む め も 削 ⇔]列を選択して、さらに[削]を選択します。
サブメニューが表示されるので、[1文字削除 右（Del）] を選択します。

4 編集域の「は」の文字が削除され、「きょう、びっくりしたよ！」になりました。



補足

連続移動について

③で[連続削除　右（Del）]を選択すると、「は」の文字から右の文字が順番に削除されていきます。削除を止めるときは、もう一度スイッチ入力を行います。連続削除は、削除する文字がなくなると自動的に終わります。

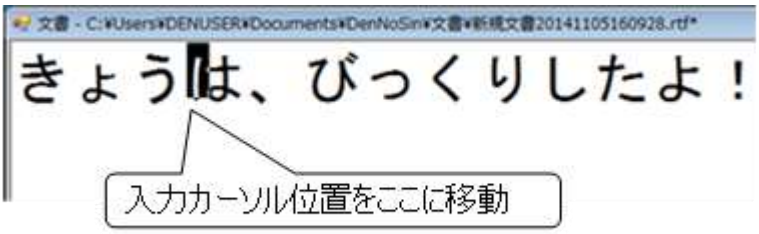
左方向への削除

③で[１文字削除　左（BS）][連続削除　左（BSl）] を選択すると、入力カーソル位置から左方向に１文字削除または連続削除ができます。

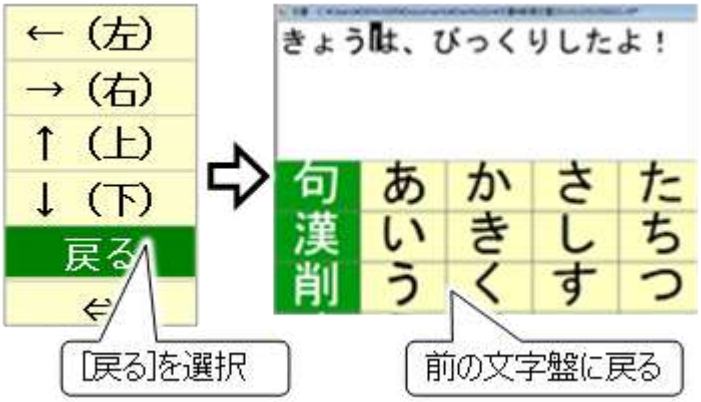
文章を作成する

■ タッチモードの場合

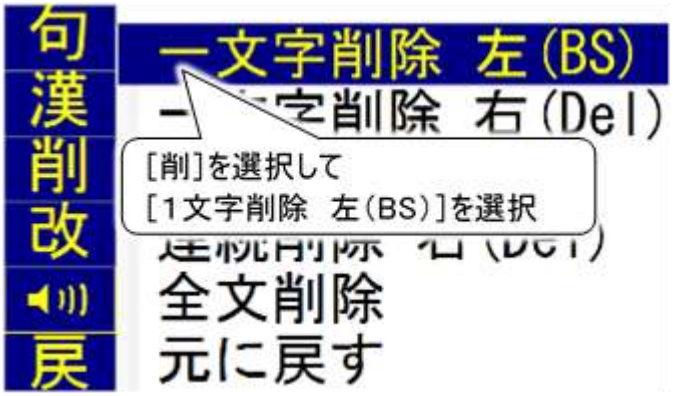
1 編集域に「きょうは、びっくりしたよ！」の文字が入力されている状態です。
編集域の入力カーソル位置を 72 ページの「文字の入力カーソルを移動する」を参照して「う」と「は」の間まで移動します。



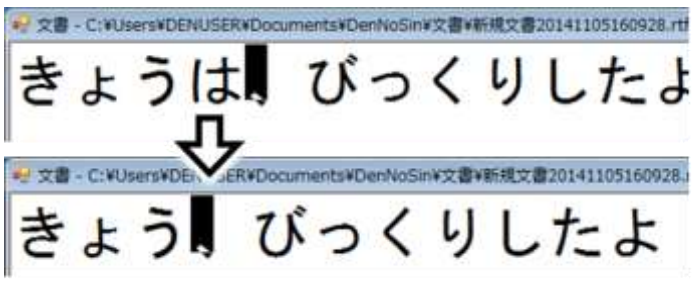
2 編集域のカーソル位置が「う」と「は」の間で停止している状態で[←（左） →（右） ↑（上） ↓（下） 戻る]列を選択して、さらに[戻る]を選択して移動パネルからひらがな文字盤に戻ります。



3 [句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、さらに[削]を選択します。
サブメニューが表示されるので、[1文字削除　左(BS)] を選択します。



4 編集域の「は」の文字が削除され、「きょう、びっくりしたよ！」になりました。



補足

タッチモードでの連続削除について

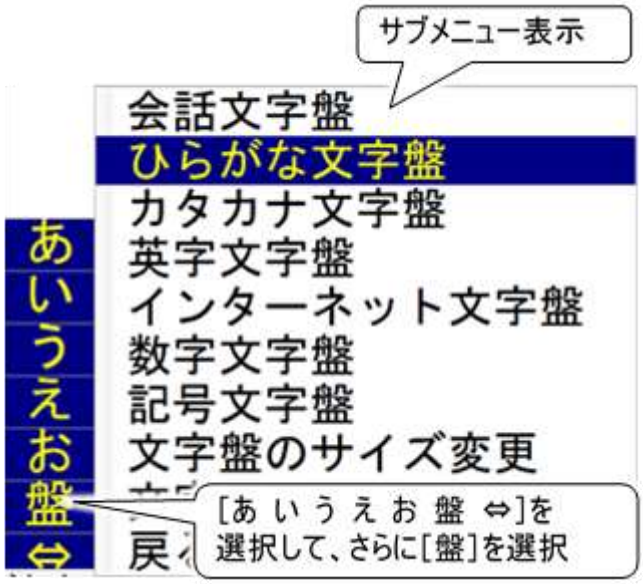
タッチモードの場合、「連続削除　左(BS)」などの、スイッチモードでは連続して削除するボタンは連続では動きません。「1文字削除　左(BS)」などの**1回動作するボタンと同様の動作となります。**

カタカナ、英文字、数字、記号を入力する（文字盤の一覧）

ひらがな以外の入力を行う場合は、文字盤を切り替えて行います。切り替えの方法と各文字盤の一覧を記載します。各文字盤の文字入力の方法はひらがな文字盤と同じです。
文字盤の機能詳細は 88 ページの「文字盤の機能一覧」で説明しています。

1 文字盤の[あ い う え お 盤 ⇔]列を選択して、さらにこの列の中から[盤]を選択します。

2 カタカナを入力する場合は、サブメニューから[カタカナ文字盤]を選択します。
ひらがな文字盤がカタカナ文字盤に切り替わります。



句	ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
漢	イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	ユ	リ	ヲ
削	ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ヨ	ル	ン
改	エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	、	レ	ー
🔊	オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	。	ロ	記
戻	盤	移	編	予	時	頁	削	空		全
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

3 英文字を入力する場合は、サブメニューから[英字文字盤]を選択します。
ひらがな文字盤が英字文字盤に切り替わります。

句	A	F	K	P	U	a	f	k	p	u	,
削	B	G	L	Q	V	b	g	l	q	v	.
改	C	H	M	R	W	c	h	m	r	w	ー
🔊	D	I	N	S	X	d	i	n	s	x	?
	E	J	O	T	Y	e	j	o	t	y	!
戻	盤	移	編	空	Z	削	予	削	全	z	～
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

文章を作成する

4 数字を入力する場合は、サブメニューから[数字文字盤]を選択します。
ひらがな文字盤が数字文字盤に切り替わります。

句	1	2	3	+	#
削	4	5	6	−	／
改	7	8	9	*	¥
🔊	,	0	.	=	$
戻	盤	移	編	空	全
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

5 記号を入力する場合は、サブメニューから[記号文字盤]を選択します。
ひらがな文字盤が記号文字盤に切り替わります。

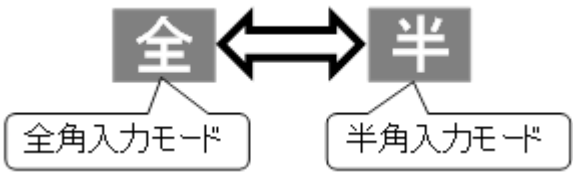
句	(	)	+	;	¥	?
削	<	>	−	:	$	!
改	[	]	*	,	%	&
🔊	「	」	／	.	#	^
	‘	’	=	・	@	”
戻	盤	移	編	削	空	全
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

6 また、サブメニューから[インターネット文字盤]を選択すると、下記インターネット文字盤を表示します。
この文字盤は、ホームページやメールのアドレスを入力するときに用いると便利です。

句	a	f	k	p	u	@	.co.jp	.com	;	,
削	b	g	l	q	v	http://	.ne.jp	.net	:	.
改	c	h	m	r	w	https://	.go.jp	.org	#	−
🔊	d	i	n	s	x	www.	.ac.jp	.com	／	?
Edge	e	j	o	t	y	.jp	.or.jp	.edu	*	!
戻	盤	移	編	削	z	~	^	_	1-5	6-0
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

全角／半角文字を入力する

文字盤の[全]を選択すると、半角入力モードになり、文字盤の表示が[全]から[半]に切り替わります。また[半]を選択すると、全角入力モードになり、文字盤の表示が[半]から[全]に切り替わります。
この機能のある文字盤は、カタカナ文字盤、英字文字盤、数字文字盤と記号文字盤です。



定型句（よく使用する言葉）を使う

文章を作成する上で、定型句を使うと、文書作成時間の短縮になるので便利です。

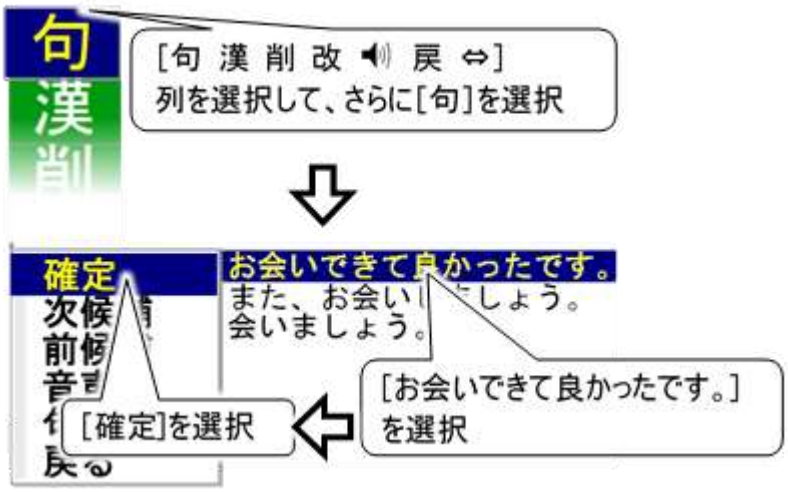
定型句入力の基本操作

「お会いできて良かったです。」という定型句を入力してみましょう。

1 ひらがな文字盤で、「あい」と入力します。
入力の方法は「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項を参照してください。

2 [句 漢 削 改 戻 ⇔] 列を選択して、さらに[句]を選択します。
文字盤が定型句入力画面に切り替わります。

3 定型句リストから[お会いできて良かったです。] を選択すると、サブメニューが表示されるので、[確定] を選択します。



4 編集域に「お会いできて良かったです。」が入力されました。

補足	「あい」の入力で「お会いできて良かったです。」の定型句候補が出るのは、定型句の読みが「あいできてよかったです」と登録されているからです。詳細は、122 ページの「定型句の登録」または 295 ページの「定型句の変更」を参照ください。
注意	定型句入力の直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、選択した定型句に置き換わります）。ご注意ください。

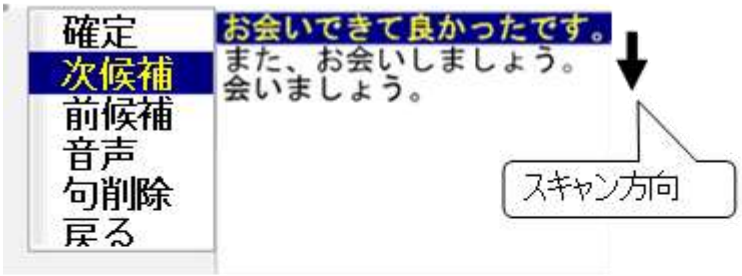
文章を作成する

定型句入力を間違えた時

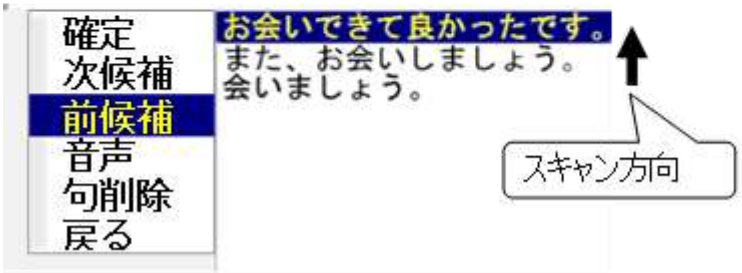
「定型句入力の基本操作」で、定型句リストから誤った定型句を選んでしまった場合は、次のようにして正しい定型句を再選択できます。

■ スイッチモードの場合

1 「定型句入力の基本操作」③で表示されるサブメニューより[次候補]または[前候補]を選択します。選択メニューの再び定型句が選択できる状態に戻ります。

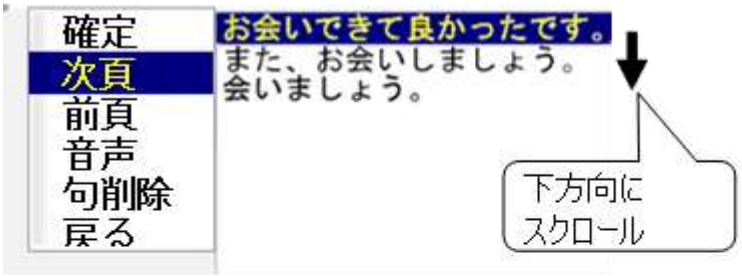


2 定型句リストのスキャンカーソルが、[次候補]では下方向（↓）、[前候補]では上方向（↑）へと移動します。

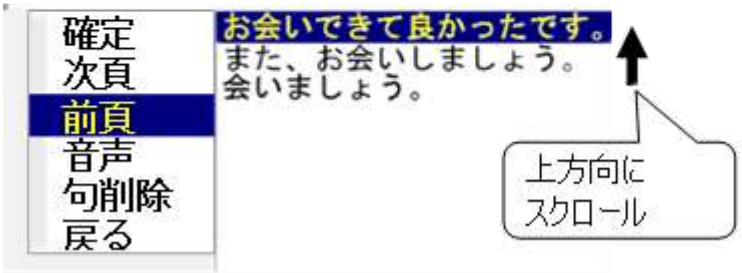


■ タッチモードの場合

1 「定型句入力の基本操作」③で表示されるサブメニューより[次頁]または[前頁]を選択します。選択メニューの再び定型句が選択できる状態に戻ります。



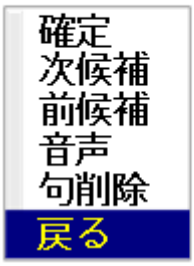
2 定型句リストが、[次頁]では下方向（↓）、[前頁]では上方向（↑）へとスクロールします。



定型句入力を中止したい時

1 「定型句入力の基本操作」③で表示されるサブメニューより[戻る] を選択します。

スイッチモード
のサブメニュー



タッチモード
のサブメニュー

2 定型句入力画面が文字盤に切り替わります。編集域の文字に変化はありません。

参照

定型句の登録／編集／削除

新しい定型句を登録したり、現在の定型句を変更したりすることできます。
詳しくは 293 ページの「「定型句」の設定を行う」で説明しています。

文章を作成する

予測入力を使う

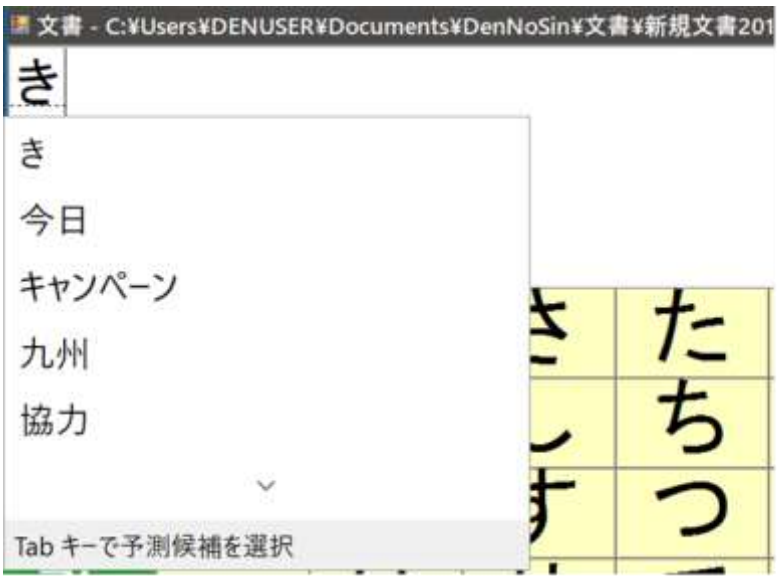
文章を作成する上で、予測入力機能を使うことも可能です。予測入力とは、今までに入力した文字列を履歴に蓄えて、 これから入力する文字列を予測して候補を表示する機能のことです。

参照	予測入力を行えるようにするためには、予測入力の設定が必要です。詳細は292 ページの「予測入力を使う」を参照ください。
注意	予測入力パネルで[戻る]を選択すると、未確定文字が確定されることがあります。ご注意ください。

予測入力で、「今日」という文字を入力してみましょう。

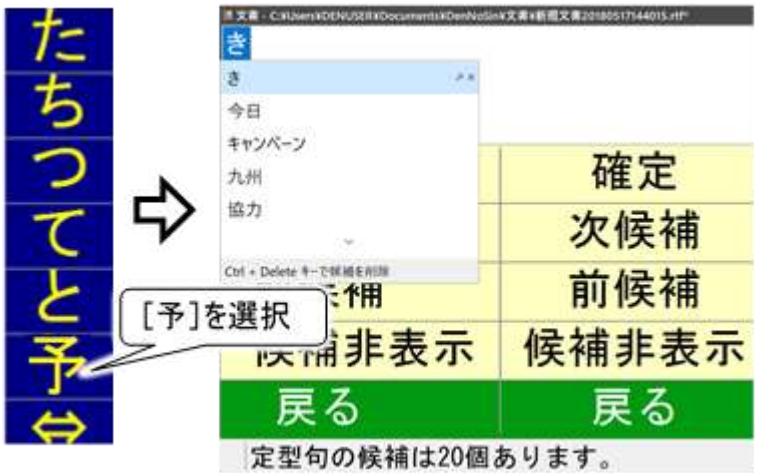
1 ひらがな文字盤で、「き」と入力します。
入力の方法は「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項を参照してください。

2 予測入力が使えるようになっている場合、「き」の下に予測候補リストが表示されます。

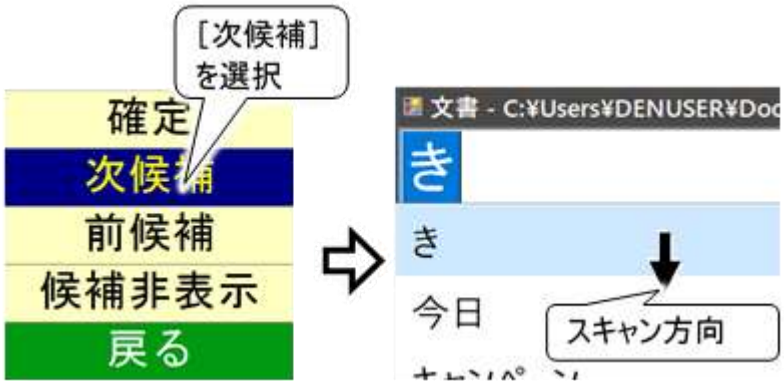


3 [た ち つ て と 予 ⇔]列を選択して、さらに[予]を選択します。

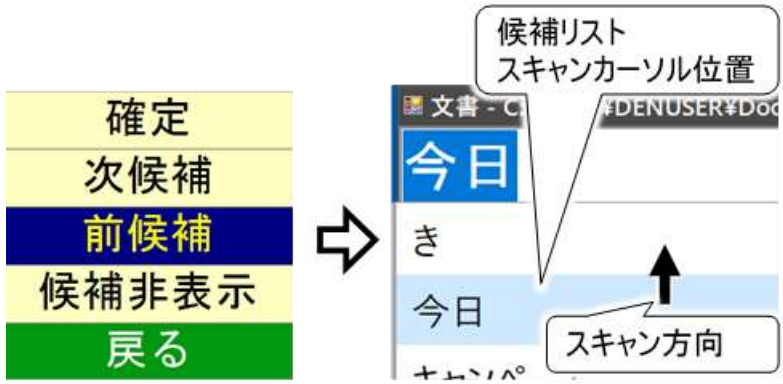
文字盤が予測入力パネルに切り替わります。



4 予測入力パネルの［次候補]を選択すると、予測候補リストのスキャンカーソルは順次下に移動していきますので、[今日]にスキャンカーソルがきたときに、もう一度スイッチ入力を行います。

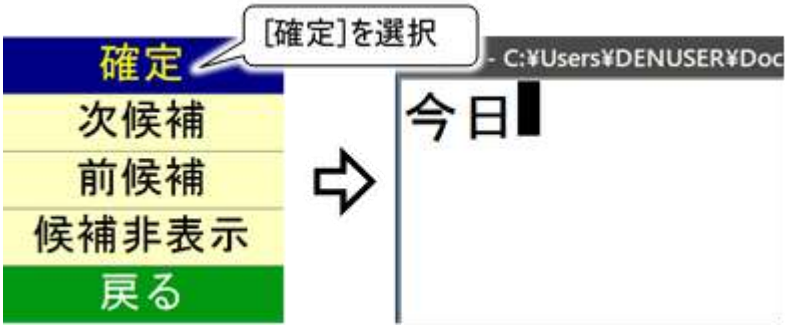


5 この状態（文字の反転表示）ではまだ確定していないので、誤った選択をしてしまった場合には、［次候補］ または[前候補]を選択して、予測候補リストから正しい文字列を再選択できます。



6 編集域の文字が「今日」に変わったら、[確定]を選択します。

7 「今日」が確定されて予測入力パネルが文字盤に戻ります。



参照	予測入力を行えるようにするためには、予測入力の設定が必要です。詳細は292 ページの「予測入力を使う」を参照ください。
注意	予測入力パネルで[戻る]を選択すると、未確定文字が確定されることがあります。ご注意ください。

文章を作成する

漢字を入力する

漢字入力の基本操作

「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」で入力した「きょうは、びっくりしたよ！」の「きょう」を、「今日」に変換してみましょう。

1 「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項の①～⑪の手順で、編集域に「きょうは、びっくりしたよ！」の文字を入力します。

2 次に[句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、[漢]を選択します。

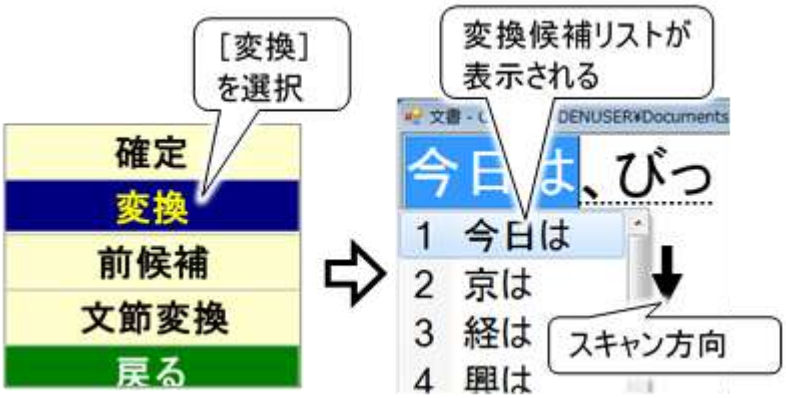
文字盤が漢字変換パネルに切り替わります。

3 漢字変換パネルの［変換]を選択すると、編集域の文字の下に変換候補リストが表示されます。

4

■スイッチモードの場合

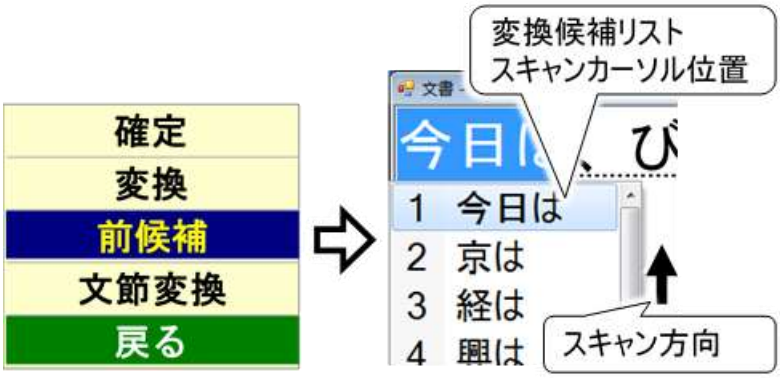
変換候補リストのカーソルは順次移動していきますので、[今日は]にカーソルがきたときに、もう一度スイッチ入力を行います。



■タッチモードの場合

[変換]を選択するたびに変換候補リストのカーソルは順次下に移動していきます。[今日は]が変換候補リスト現れたら、タッチして選択してください。

5 この状態（文字の反転表示）ではまだ確定していないので、誤った選択をしてしまった場合には、[変換] または[前候補]を選択して、変換候補リストから正しい文字列を再選択できます。



6 編集域の文字が「今日は」に変わったら、[確定]を選択します。

7 「今日は、びっくりしたよ！」が確定されて漢字変換パネルが文字盤に戻ります。

補足

漢字変換の取り消し

⑥で[文節変換]を選択して文節変換パネルを表示し、[取消]を選択すると、未確定文字列に戻すことができます。その後、[戻る]を選択することによって、漢字変換パネルを文字盤に戻すことができます。

文章を作成する

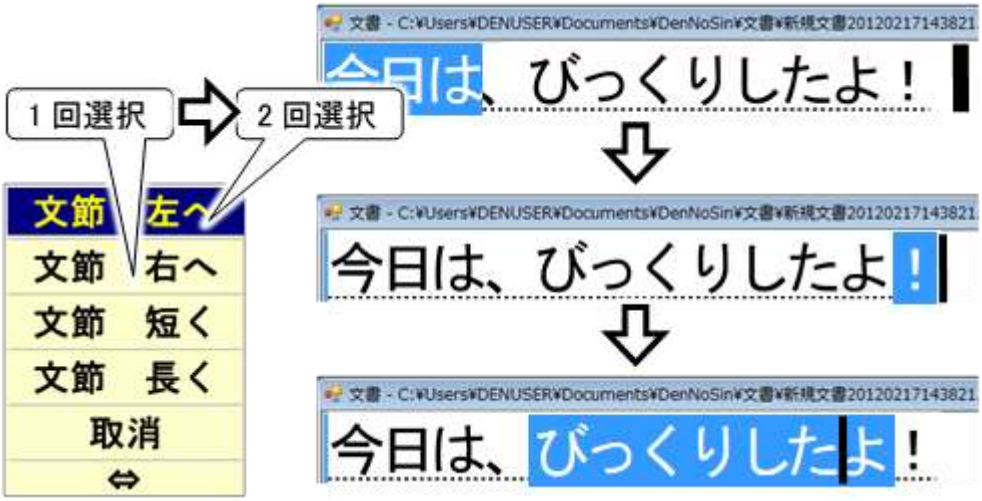
詳細な漢字変換を行う（文節変換）

未確定文字列（文字下破線表示）のある一部分だけ変換したい場合もあります。
ここでは、「きょうは、びっくりしたよ！」の「びっくり」だけを「ビックリ」に変換してみましょう。

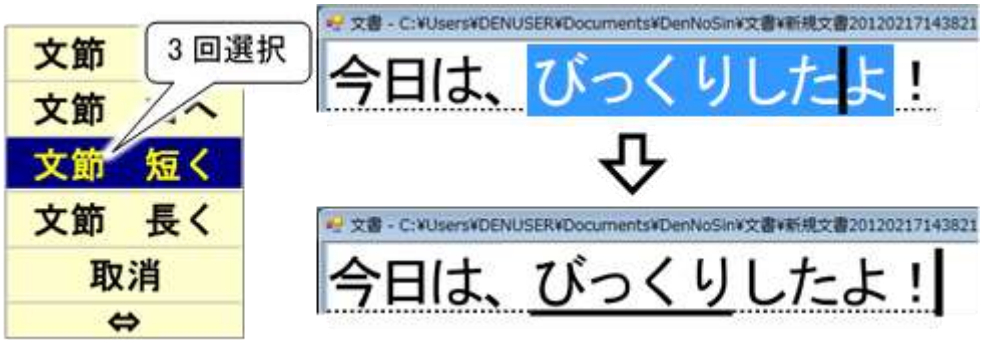
1 「漢字入力の基本操作」の①～②の手順で、文字盤を漢字変換パネルに切り替えます。
編集域の文字の表示は反転表示になっています。

2 漢字変換パネルの[文節変換] を選択すると、文節変換パネルが表示されます。

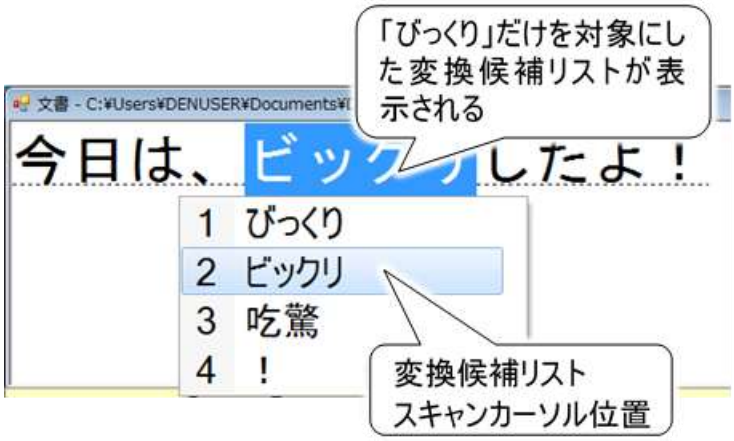
3 文節変換パネルの[文節左へ 文節右へ 文節短く 文節長く 取消 ⇔]列を選択して、さらに[文節右へ]を 1 回、[文節左へ] 2 回を選択すると、「今日は」の反転表示が「びっくりしたよ」の反転表示に切り替わります。



4 次に[文節短く]を 3 回選択して、反転表示が文字下の実線表示に切り替わり、実線が「びっくり」の下だけ表示されるようにします。



5 この状態で[確定　変換　前候補　部分確定　戻る　⇔]列を選択して、さらに[変換]を選択すると、「びっくり」だけを対象にした変換候補リストが文字の下に表示されます。



6 変換候補リストのスキャンカーソルは順次移動していきますので、[ビックリ]にスキャンカーソルがきたときに、もう一度スイッチ入力を行います。

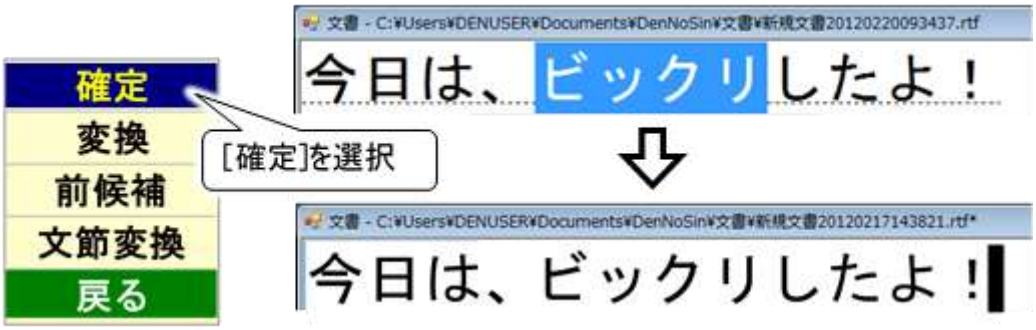
7 編集域の文字が「今日は、ビックリしたよ！」に変わりました。

補足

他の文節の変換

⑦の後、[文節　左へ]を選択して「今日は」の下に実線を移すと、⑥～⑧の手順で「今日は」の漢字変換もできます。

8 [確定　変換　前候補　文節変換　戻る]列の[確定]を選択します。



9 「今日は、ビックリしたよ！」が確定されて漢字変換パネルが文字盤に戻ります。

補足

部分確定

⑦で[確定　変換　前候補　部分確定　戻る]列の[部分確定]を選択すると、「ビックリ」のみが確定され、「したよ」は反転表示になり、引き続き「したよ」に対して変換が可能になります。

文章を作成する

文章を編集する（文字入力の応用操作）

文字盤の機能一覧

文字盤の機能一覧を下記に記載します。

■ ひらがな文字盤／カタカナ文字盤

ボタン表示名	サブメニュー	機能
句	―――	未確定文字列が存在し、定型句候補が存在する場合、定型句入力画面を表示します。(注 32)(注 39) 未確定文字列なし、定型句候補なしの場合は、何もしません。
漢	―――	文字盤を漢字変換パネルへ切り替えます。(注 33)
予	―――	文字盤を予測入力パネルへ切り替えます。(注 34)
削	一文字削除　右(Del)	入力カーソルの右側の文字を1文字削除します。(Delete キー相当)
	一文字削除　左(BS)	入力カーソルの左側の文字を1文字削除します。(BS キー相当)
	連続削除　右(Del)	入力カーソルの右側の文字を次のスイッチ入力まで連続して削除します。(Delete キー相当)
	連続削除　左(BS)	入力カーソルの左側の文字を次のスイッチ入力まで連続して削除します。(BS キー相当)
	全文削除	編集中の文書を全部削除します。
	元に戻す	編集操作の一つ前の状態に戻ります。
改	改行	改行を行います。段落の区切りのように、次の文字から行を変えたい時に使います。未確定文字列がある場合は確定を行います。

ボタン表示名	サブメニュー	機能
	改行2回	改行を2回行います。 未確定文字列がある場合は確定+改行を行います。
🔊	―――	入力中の未確定文字列を読み上げます。未確定文字列がない場合は、文字盤を読み上げ画面へ切り替え、確定文字列の読み上げが行われます。(注 39)
戻	―――	未確定文字列を確定して、文字盤を終了します。
⇔	―――	スキャン方向を切り替えます。(反転させる)
盤	会話文字盤	文字盤を会話文字盤へ切り替えます。
	ひらがな文字盤	文字盤をひらがな文字盤へ切り替えます。
	カタカナ文字盤	文字盤をカタカナ文字盤へ切り替えます。
	英字文字盤	文字盤を英字文字盤へ切り替えます。
	インターネット文字盤	文字盤をインターネット文字盤へ切り替えます。
	数字文字盤	文字盤を数字文字盤へ切り替えます。
	記号文字盤	文字盤を記号文字盤へ切り替えます。
	文字盤のサイズ変更	1回選択する毎に、大→中→小の順に文字盤サイズを切り替えます。
	文字盤の移動	文字盤の表示位置を上下に切り替えます。 ※ブラウザ操作画面と Windows 操作画面のみで機能します。
移	―――	文字盤を移動パネルに切り替えます。(注 35)
編	―――	文字盤を編集パネルへ切り替えます。(注 36)
時	―――	日時入力画面を表示します。(注 37) 現在のシステム日時を選択・入力できます。
頁	―――	改ページ記号(ページ)を入力します。(注 39)
空	空	スペースを 1 個入力します。
	空連続	次のスイッチ入力まで連続してスペースを入力します。
送	―――	一発メール送信画面を表示します。(注 38)
全	―――	全角モードを半角モードに切り替えます。
半	―――	半角モードを全角モードに切り替えます。
記	？ ！ ～ ・ . 。	表示文字を入力します。

補足

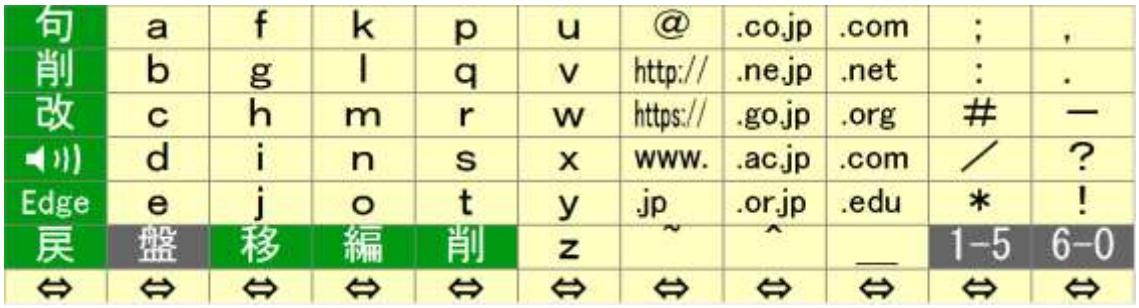
表に記載されていないボタンは全て、ボタン表示文字を入力します。

参照

(注32)定型句入力画面は 79 ページの「定型句入力の基本操作」を参照してください。
(注33)漢字変換パネルは後述の「漢字変換パネル」を参照してください。
(注34) 予測入力パネル後述の「予測入力パネル」を参照してください。
(注35)移動パネルは後述の「移動パネル」を参照してください。
(注36)編集パネルは後述の「編集パネル」を参照してください。
(注37)日時入力画面は 97 ページの「日付・時刻の入力」を参照してください。
(注38) [送]の機能は、文書画面のみ表示されます。一発メール送信画面は 129 ページの「編集中の文書を電子メールで送信する」を参照してください。

補足	（注39）ブラウザ操作画面と Windows 操作画面では、[頁]は無効、[🔊] は読み上げ画面へ切り替えしません。また[句]、[🔊]が無効な場合もあります（※文字の入力対象によって異なります）。

■ インターネット文字盤／会話文字盤



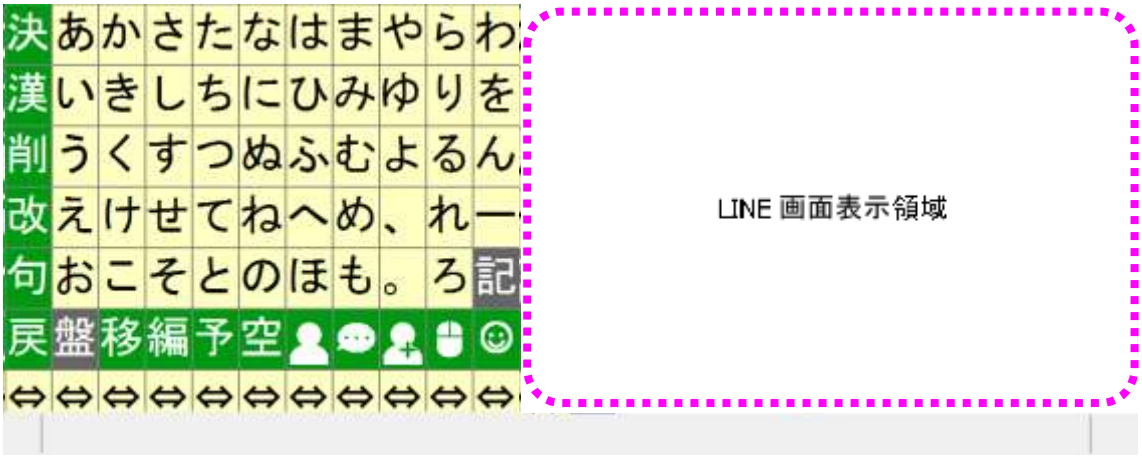
ボタン 表示名	サブメニュー	機能
1-5 （注 41）	1 2 3 4 5	表示文字を入力します。
	戻る	サブメニューを閉じます。
6-0 （注 41）	6 7 8 9 0	表示文字を入力します。
	戻る	サブメニューを閉じます。
顔 （注 42）	(*^.^*)	表示文字を入力します。（嬉しい）
	(-_-#)	表示文字を入力します。（青筋）
	(T_T)	表示文字を入力します。（泣き顔）
	(^o^)	表示文字を入力します。（笑顔）
	(;°　▽°　)	表示文字を入力します。（驚き）
	戻る	サブメニューを閉じます。
Edge （注 43）	検索	Edge　画面の検索欄に入力カーソルを移動します。（注 40）
	アドレス	Edge　画面のアドレス欄に入力カーソルを移動します。（注 40）
	戻る	サブメニューを閉じます。

補足

（注40）Edge＝マイクロソフトエッジ（Web ブラウザ）。
（注41）インターネット文字盤と会話文字盤にのみあります。
（注42）会話文字盤とひらがな文字盤にのみあります。
（注43）インターネット文字盤のみあり、ブラウザ操作画面の操作時のみ表示されます。

文章を作成する

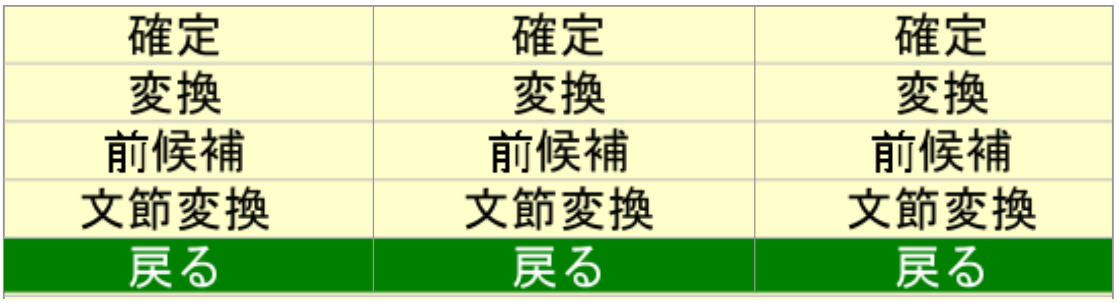
■ LINE 文字盤



ボタン表示名	サブメニュー	機能
決	―――	LINE 操作画面の表示文字を、LINE に転送します。
	↟	LINE の友だちリストを表示します。次のスイッチ入力まで連続して、友だちの選択位置を上または下へ順次スキャンカーソルを移動していきます。
	↡	
	戻る	サブメニューを閉じます。
	先頭	LINE のトークルームリストを表示し、先頭に表示されたトークルームを選択します。
	↟	LINE のトークルームリストを表示します。次のスイッチ入力まで連続して、トークルームの選択位置を上または下へ順次スキャンカーソルを移動していきます。
	↡	
	末尾	LINE のトークルームリストを表示し、末尾に表示されたトークルームを選択します。
	戻る	サブメニューを閉じます。
	―――	LINE の友だち追加リストを表示します。
	―――	基本マウス操作盤を表示して、LINE 文字盤を非表示にします（基本マウス操作盤を終了させると、LINE 文字盤が表示されます）。
	―――	LINE のスタンプリストを表示し、基本マウス操作盤を表示します。LINE 文字盤は非表示になります（基本マウス操作盤を終了させると、LINE 文字盤が表示されます）。

参照 LINE 文字盤の使い方は、414 ページの「コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う」を参照ください。

■ 漢字変換パネル／文節変換パネル機能一覧



ボタン 表示名	サブメニュー	機能
⇔	―――	スキャン方向を切り替えます。（反転させる）
確定	―――	入力・変換中の未確定文字列を確定し、元の文字盤に戻ります。
変換	―――	次の変換候補を表示します。次のスイッチ入力まで連続して、次の変換候補へ順次スキャンカーソルを移動していきます。
前候補	―――	前の変換候補を表示します。次のスイッチ入力まで連続して、前の変換候補へ順次スキャンカーソルを移動していきます。
文節変換	―――	文節変換パネルを表示します。
戻る	―――	元の文字盤へ戻ります。
文節 左へ	―――	変換対象を示す注目文節を前（左）の文節に移動します。
文節 右へ	―――	変換対象を示す注目文節を次（右）の文節に移動します。
文節 短く	―――	変換対象を示す注目文節を（右側から）短くします。
文節 長く	―――	変換対象を示す注目文節を（右側へ）長くします。
取消	―――	変換操作を取り消します。
部分確定	―――	変換対象を示す注目文節のみ確定します。

参照 漢字変換パネルの使用例は、86 ページの「詳細な漢字変換を行う（文節変換）」に記載されています。

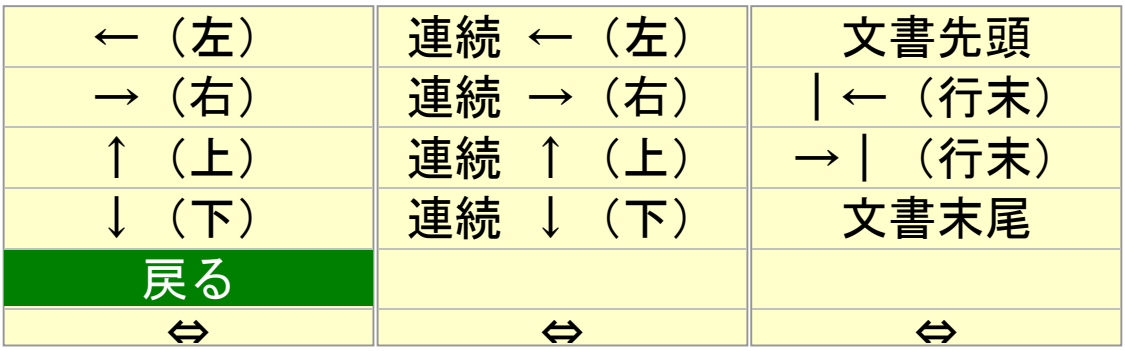
文章を作成する

■ 予測入力パネル機能一覧

ボタン 表示名	サブメニュー	機能
確定	―――	選択している予測候補を確定し、元の文字盤に戻ります。
次候補	―――	次の予測候補を表示します。次のスイッチ入力まで連続して、次の予測候補へ順次スキャンカーソルを移動していきます。
前候補	―――	前の予測候補を表示します。次のスイッチ入力まで連続して、前の予測候補へ順次スキャンカーソルを移動していきます。
候補非表示	―――	選択している予測候補をリストから非表示にします。
戻る	―――	元の文字盤へ戻ります。

参照	予測入力パネルの使用例は、82 ページの「予測入力を使う」に記載されています。
制限	予測入力パネルは、ブラウザ操作画面で使用できません（文字盤の「予」ボタンが非表示になります）。

■ 移動パネル機能一覧



ボタン 表示名	サブメニュー	機能
⇔	―――	スキャン方向を切り替えます。（反転させる）
←(左)	―――	入力カーソルを左へ移動します。
→(右)	―――	入力カーソルを右へ移動します。
↑(上)	―――	入力カーソルを上へ移動します。
↓(下)	―――	入力カーソルを下へ移動します。
戻る	―――	元の文字盤へ戻ります。
連続 ←(左)	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して左へ移動します。
連続 →(右)	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して右へ移動します。
連続 ↑(上)	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して上へ移動します。
連続 ↓(下)	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して下へ移動します。
文書先頭	―――	入力カーソルを文頭に移動します。
|←(行頭)	―――	入力カーソルを行頭に移動します。
→|(行末)	―――	入力カーソルを行末に移動します。
文書末尾	―――	入力カーソルを文末に移動します。

参照 移動パネルの使用例は、74 ページの「文字を削除する」に記載されています。

文章を作成する

■ 編集パネル機能一覧

コピー	範連 ←	←	連続 ←	文書 先
切取り	範連 →	→	連続 →	|←(行)
貼付け	範連 ↑	↑	連続 ↑	→|(行)
元に戻	範連 ↓	↓	連続 ↓	文書 末
戻る	範囲 全	範 行頭	範 行末	
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

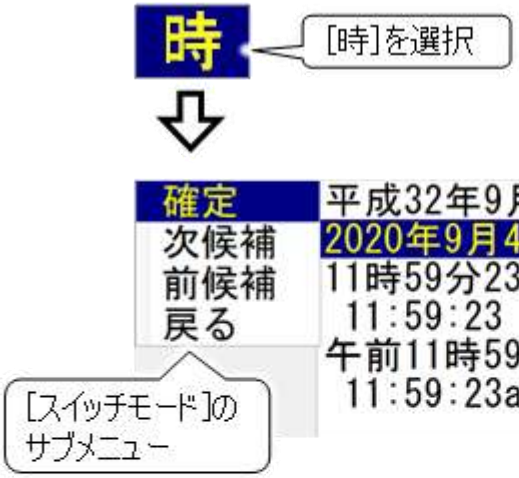
ボタン表示名	サブメニュー	機能
⇔	―――	スキャン方向を切り替えます。(反転させる)
コピー	―――	選択文字列をクリップボードにコピーします。
切取り	―――	選択文字列をクリップボードにコピーし、本文中より削除します。
貼付け	―――	クリップボード内の情報を現入力カーソル位置に貼り付けます。
元に戻	―――	編集操作前の状態に戻ります。
戻る	―――	元の文字盤へ戻ります。
範連 ←	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して左へ移動して、範囲選択します。
範連 →	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して右へ移動して、範囲選択します。
範連 ↑	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して上へ移動して、範囲選択します。
範連 ↓	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して下へ移動して、範囲選択します。
範囲 全	―――	文書全体を範囲選択します。
←	―――	入力カーソルを左へ移動します。
→	―――	入力カーソルを右へ移動します。
↑	―――	入力カーソルを上へ移動します。
↓	―――	入力カーソルを下へ移動します。
範 行頭	―――	現入力カーソル位置から、行頭までを範囲選択します。
連続 ←	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して左へ移動します。
連続 →	―――	次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して右へ移動します。
連続 ↑		次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して上へ移動します。
連続 ↓		次のスイッチ入力まで、入力カーソルを連続して下へ移動します。
範 行末		現入力カーソル位置から、行末までを範囲選択します。
文書 先		入力カーソルを文頭に移動します。
|←(行)		入力カーソルを行頭に移動します。
(行)→|		入力カーソルを行末に移動します。
文書 末		入力カーソルを文末に移動します。

参照 編集パネルの使用例は、98 ページの「範囲指定の操作方法」に記載されています。

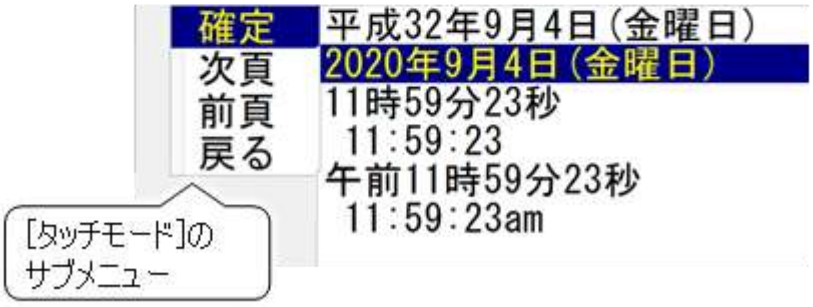
日付・時刻の入力

現在の日付や時刻を文書に挿入する場合は、以下のような手順で行います。

1 ひらがな文字盤、カタカナ文字盤または会話文字盤の[時]を選択します。
文字盤が日時入力画面に切り替わります。
下はひらがな文字盤の例です。



2 日時リストから[2020 年 9 月 4 日(金曜日)]を選択すると、サブメニューが表示されるので、[確定]を選択します。



3 編集域の入力カーソル位置に「2020 年 9 月 4 日(金曜日)」が挿入入力されます。

⚠ **注意**	日時入力画面からの日時入力をした場合、直前の文書のコピーは取り消されます(コピー(複写)した内容は、選択した日時に置き換わります)。ご注意ください。

文章を作成する

範囲指定の操作方法

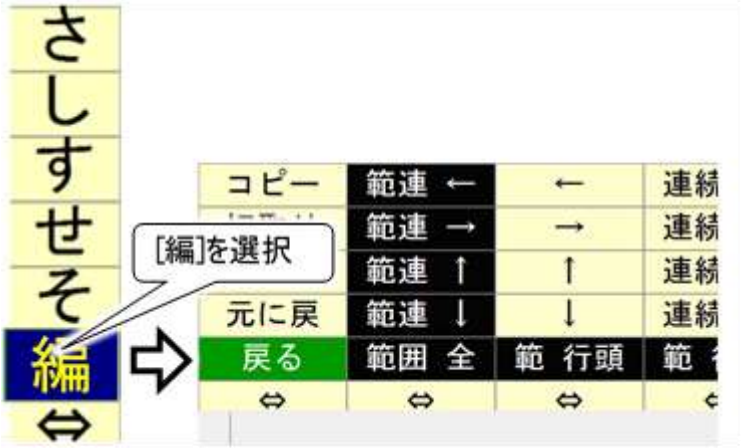
文字の切取りとコピー（複写）には、範囲指定する作業があります。ここでは、切取りを例にして範囲指定の方法を説明します。まず、範囲指定したい部分がある文章を画面に表示させておきます。下記の四角の中に入っているような文を例に、下線部分を範囲指定して切取りしてみましょう。

お子さんの「大人はいいなあ」ということを聞いたことのある、両親も多いと思います。
今のお子さんたちはＴＶやシネマを見て、大人の世界をよく知っています。小さなお子さんたちは大人のやっていることに興味をもつのも、あたりまえのことかもしれません。

入力カーソル位置

■ スイッチモードの場合

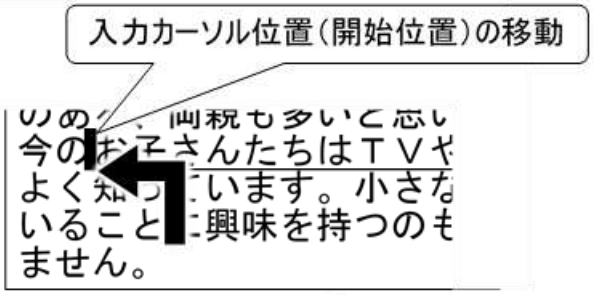
1 文字盤の[さ し す せ そ 編 ⇔]列を選択して、さらに[編]を選択します。



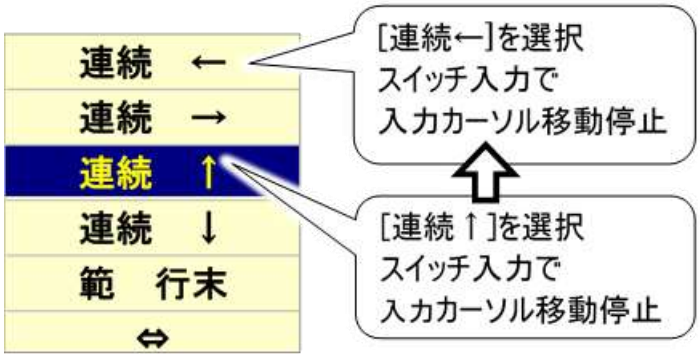
文字盤が編集パネルに切り替わります。

2 [連続← 連続→ 連続↑ 連続↓ 範行末 ⇔]列を選択して、さらに[連続↑]を選択します。

入力カーソルが上に移動を始めるので、範囲指定したい文字のある行に入力カーソルがきたら、もう一度スイッチ入力を行います。

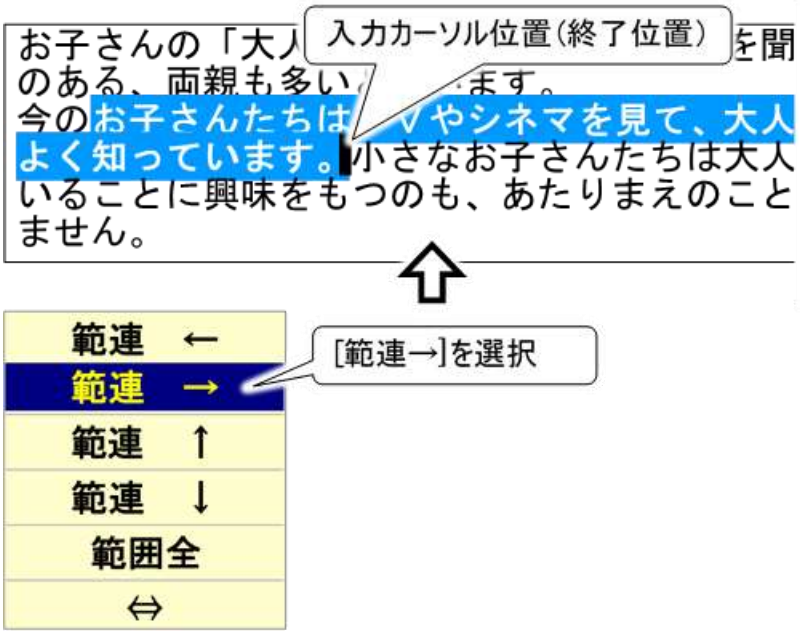


3 次に[連続←]を選択すると、入力カーソルが左に移動を始めるので、範囲指定したい文字の先頭に入力カーソルがきたら、もう一度スイッチ入力を行います。



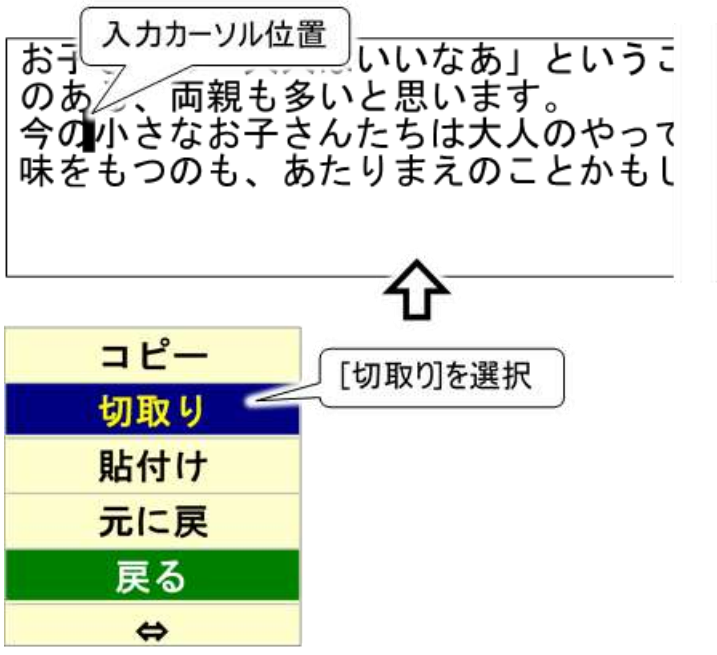
4 開始位置の指定が終わったら、今度は終了位置を指定します。
[範連← 範連→ 範連↑ 範連↓ 範囲全 ⇔]列を選択して、さらに[範連→]を選択します。

入力カーソルが右に移動を始めます。このとき編集域の文字は反転表示していきます。



5 範囲指定したい文字の終了位置まできたら、もう一度スイッチ入力を行います。
入力カーソルの位置は終了位置に移動します。

6 [コピー 切取り 貼付け 元に戻 戻る ⇔]列を選択して、さらに[切取り]を選択します。
反転表示の文字列が切り取られます。



■ **タッチモードの場合**

スイッチモードと同様に操作可能です。ただし、「連続←(左)」などの、スイッチモードでは連続して移動するボタンは連続では動きません。「←(左)」などの **1 回動作するボタンと同様の動作となります。**

文章を読み出し/保存/削除する

一生懸命入力した文字や文章をとっておけたらうれしいものです。また、その文章を活用して手直しするといったこともできると、非常に便利です。
入力した文字または文章は、お使いの「伝の心」に登録する（保存する）ことができます。一度登録しておけば、何度でも呼び出して使うことができます。このようなデータの登録・呼出しといった作業を「文書管理」といいます。

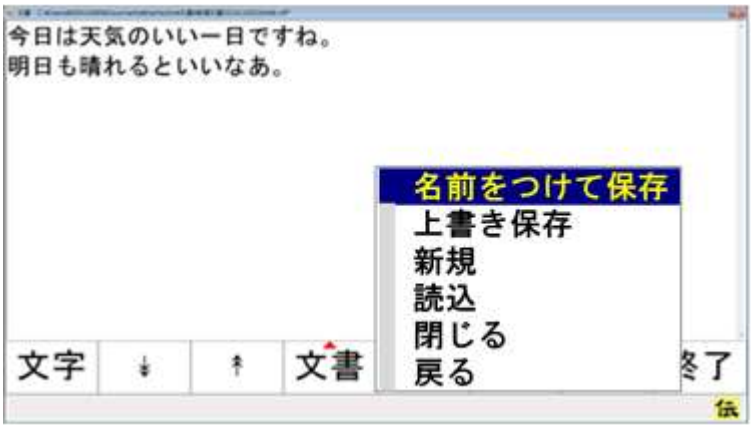
文字・文章の保存の仕方

84 ページの「漢字入力の基本操作」で作成した文を含めて、「今日は、天気のいい一日ですね。(改行)明日も晴れるといいなあ」という文章を作成しました。この文章を保存してみましょう。

1 文字盤の[句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、[戻]を選択します。

2 文字盤がトップメニューに切り替わるので、[文書]を選択するとサブメニューが表示されます。

3 [名前をつけて保存]または、[上書き保存]を選択します。

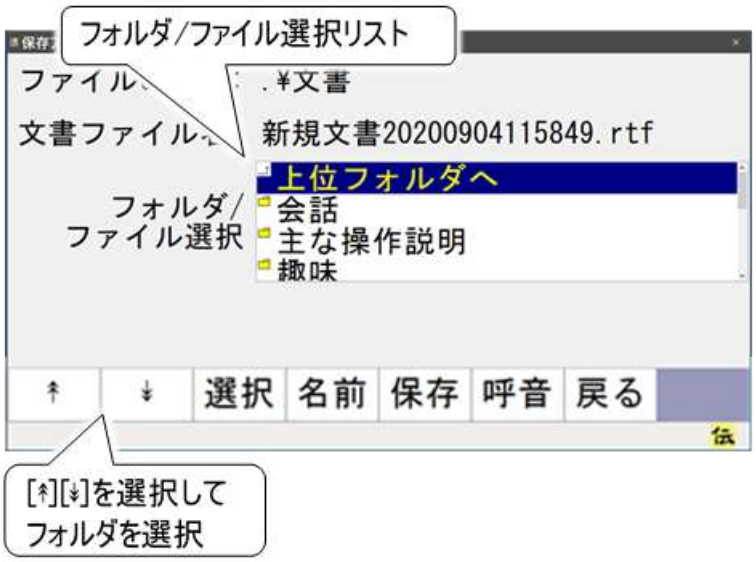


文章を読み出し/保存/削除する

名前を付けて保存

1 「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[名前をつけて保存]を選択すると保存ファイルの指定画面が表示されるので、文書をどこへ保存するかを決めます。
メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから保存したい場所（フォルダ）を選択します。
文書の下に保存する場合はこの操作は必要ありません。

フォルダを選択して[選択]を選択すると、選択したフォルダの内容が表示されます。



補足

ファイルとフォルダの違い
フォルダはフォルダ名の左端に が表示されています。
ファイルはファイル名の左端に が表示されています。

参照

ファイルの上書き
ファイルを選択して[選択]を選択すると、上書き確認のメッセージが表示されます。上書き保存については 103 ページの「上書き保存」を参照してください。

新しいフォルダの作成
文書画面からはできません。フォルダの作成については、111 ページの「文書フォルダに新しいフォルダを追加する」を参照してください。

2 続いて文書の名前を登録します。
メニューから「名前」を選択すると、保存ファイル名の編集画面が表示されます。

補足

新規文書の名前について
また一度も保存していない文書は、「新規文書+日付.rtf」の名称になっています。（例：2020 年 9 月 4 日 11 時 58 分 49 秒に新規作成された文書：新規文書 20200903115849.rtf）

補足

2 点スイッチでの操作について
2 点スイッチにて操作している場合は、「名前」を選択した後、送りスイッチを選択すると保存ファイル名の編集画面が表示されます。

文章を読み出し/保存/削除する

注意

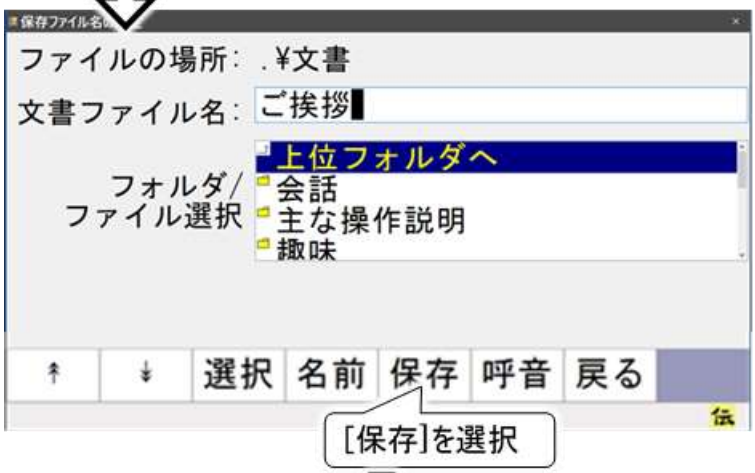
ファイル名の定型句入力について

ファイル名には[句]で定型句が入力できますが、改行やタブを含んだ定型句を入力すると、保存できませんのでご注意ください。

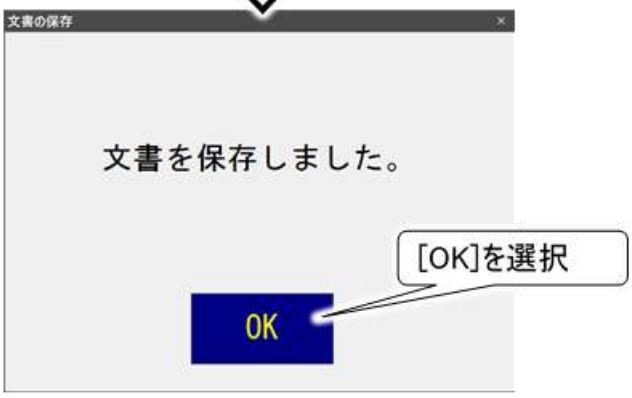
※文書ファイル名の入力欄に、定型句で改行やタブを入力すると、非常に狭い幅のスペース(空文字)のように表示されます。

3 ここから文字を選択して名前をつけます。どんな文書が入っていたのか後でわかりやすいよう、内容に合った名前をつけましょう。

4 名前が入力できたら文字盤の[句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、[戻]を選択すると保存ファイルの指定画面へ戻ります。



5 そこで[保存]を選択すると文書の登録が行われ、確認画面が表示されるので、[OK]を選択してください。文書画面に戻ります。



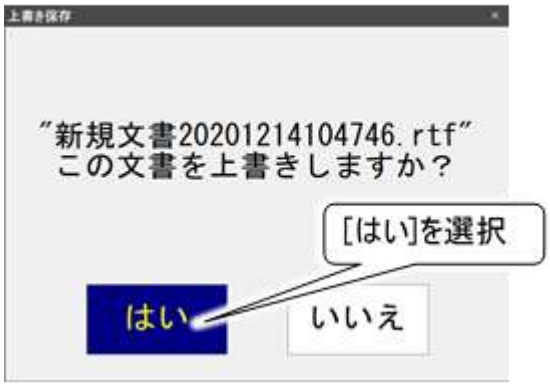
文章を読み出し/保存/削除する

上書き保存

「伝の心」を使っている時に突然停電が起きたり、「伝の心」が故障したりすると、せっかく入力したデータを失ってしまいます。そんな事態を防ぐため、文書はこまめに保存しておきましょう。一度登録した名前のままどんどん上書きしていくことができるので、操作は簡単です。この保存の方法を「上書き保存」といいます。
また一度名前をつけて保存した文書に、追加や削除といった修正を加えた後に再び登録する時も、この「上書き保存」を使用します。

1 「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[上書き保存]を選択すると下記画面が表示されます。

2 [はい]を選択すると、自動的に同じ名前で文書を上書き保存します。修正前に保存されていた同じ文書名のデータは、この時点で消えてしまいます。



制限	一度上書き保存してしまうと、データは元に戻りませんのでご注意ください。 修正前のデータも残したい時は、上書き保存しないで、別の名前をつけて、保存してください。

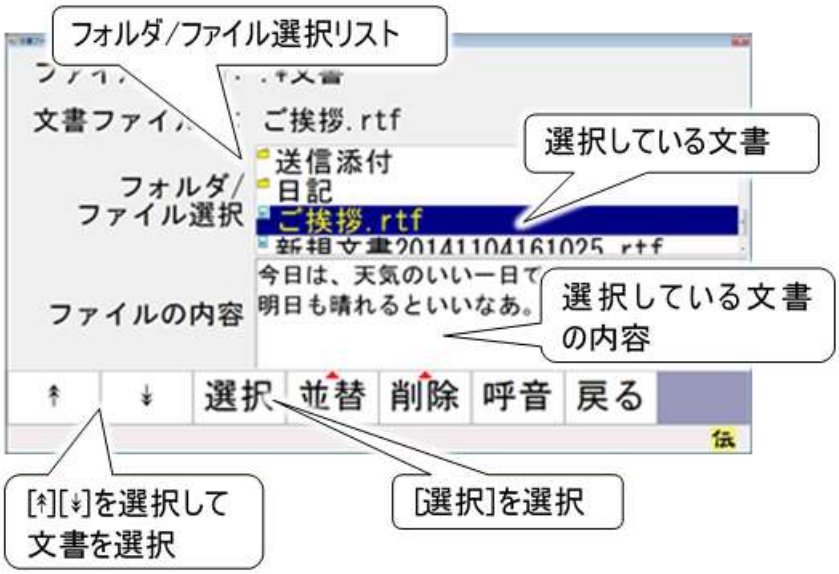
文章を読み出し/保存/削除する

保存した文書を呼び出す

既に保存してある文書を呼び出して再び使いたい時、次の手順で読み出し作業を行います。

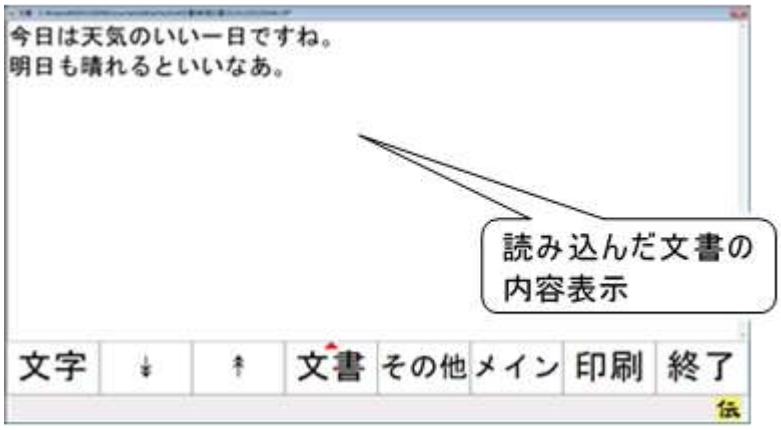
1 「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[読込]を選択すると文書ファイルの選択画面が表示されるので、文書をどこから読んでくるのかを決めます。

メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから文書を選択します。



補足 選択しているのがフォルダや“上位フォルダへ”の場合、選択したフォルダに移動し、フォルダ／ファイル選択リストの内容を更新します。

2 メニューより[選択]を選択すると、フォルダ/ファイル選択リストで選択している文書が読み込まれて、文書画面に戻ります。



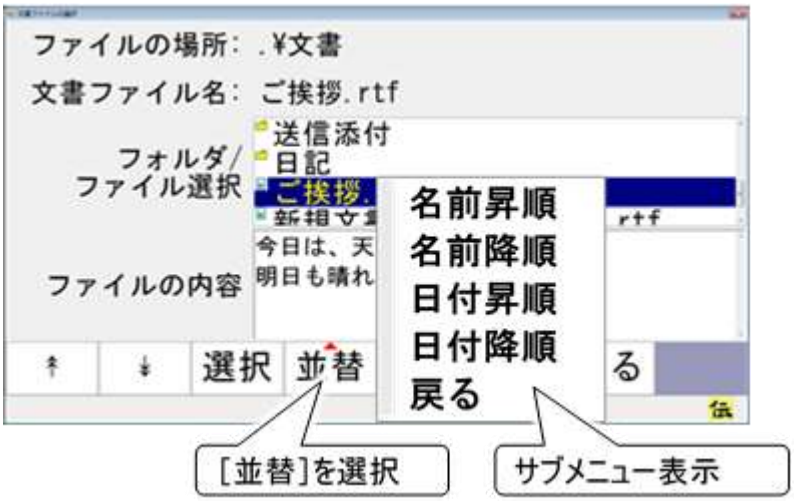
文章を読み出し/保存/削除する

保存した文書の並び替え

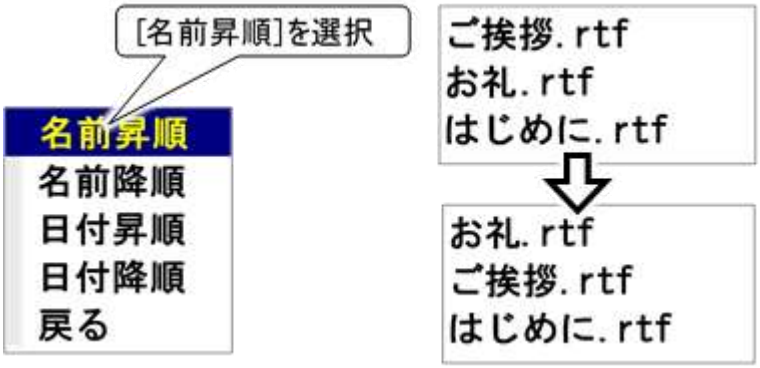
既に保存してある文書がたくさんある場合、読み出す時文書を探すのに苦労します。そこで、名前順や保存した日付順にリストを並び替えると、文書を探すのに便利です。

■ 名前順に並び替える

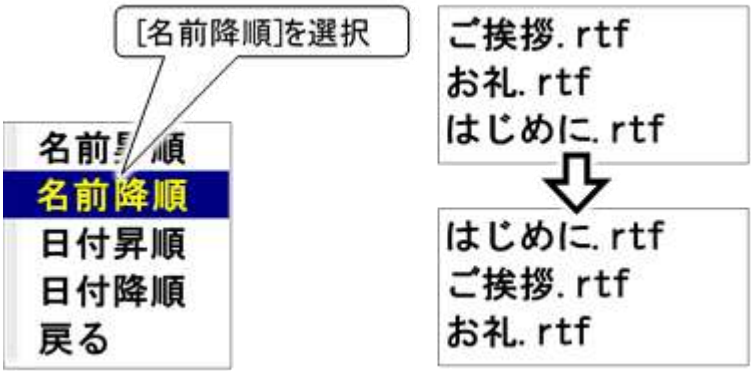
1 「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[読込]を選択すると文書ファイルの選択画面が表示されるので、メニューから[並替]を選択します。



2 サブメニューが表示されるので、[名前昇順]を選択すると、フォルダ/ファイル選択リストを文書名のあいうえお昇順に並び替えます。



3 [名前降順]を選択すると、フォルダ/ファイル選択リストを文書名のあいうえお降順に並び替えます。



文章を読み出し/保存/削除する

補足	並び替えるのはファイルのみです。フォルダの並び替えは行いません。
補足	漢字は、音読みのあいうえお順になります。(JIS 第一水準文字の場合) 英文字、かな、漢字が含まれている場合、昇順で、英文字、かな、漢字の順で並びます。 ＜昇順の例＞ BUNSYO.rtf ぶんしょ.rtf 文書.rtf

■ **日付順に並び替える**

1 「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[読込]を選択すると文書ファイルの選択画面が表示されるので、メニューから[並替]を選択します。

2 サブメニューが表示されるので、[日付昇順]を選択すると、フォルダ/ファイル選択リストを保存した日付の昇順に並び替えます。

3 [日付降順]を選択すると、フォルダ/ファイル選択リストを保存した日付の降順に並び替えます。

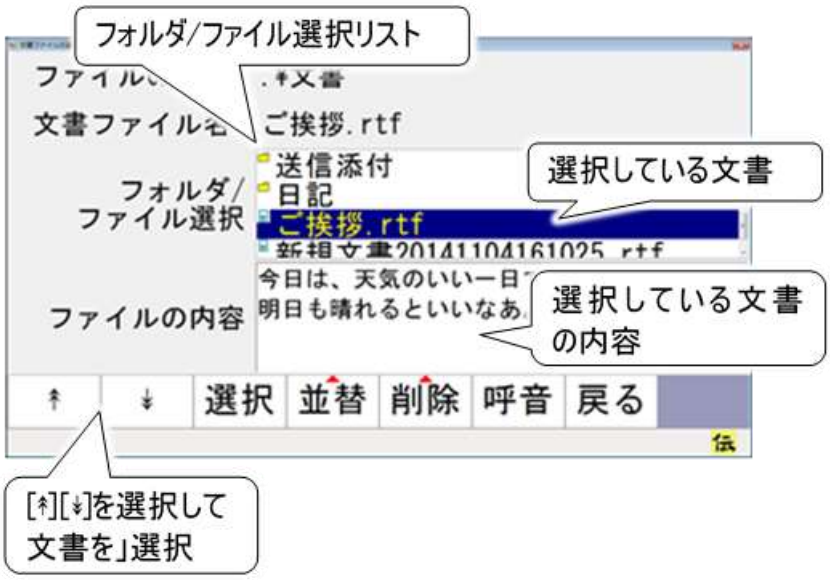
補足	並び替えるのはファイルのみです。フォルダの並び替えは行いません。 保存した日付は、初めて保存した日付(作成日)ではなく、一番最近保存した日付(更新日)です。

文章を読み出し/保存/削除する

保存した文書の削除

1 「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[読込]を選択すると文書ファイルの選択画面が表示されるので、どの文書を削除するのかを決めます。

メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから文書を選択します。



2 削除したい文書が、フォルダ/ファイル選択リストで反転表示されていることを確認して、メニューから[削除]を選択します。

サブメニューが表示されるので、[削除する]を選択します。

3 右記画面が表示されますので、[はい]を選択するとフォルダ/ファイル選択リストで反転表示されている文書が、削除されます。

削除をしない場合は、[いいえ]を選択してください。

制限	削除した文書は、「ごみ箱」へ移動します。ただし、フロッピーディスクまたは USB メモリ等の外部メモリから削除を行った場合は、「ごみ箱」へ移動せずに削除されますのでご注意ください。

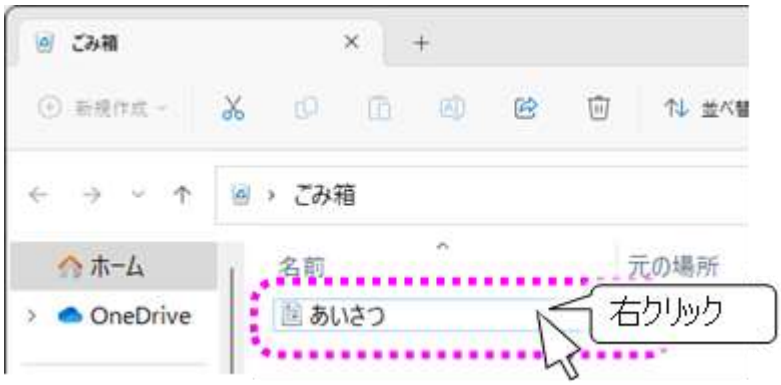
文章を読み出し/保存/削除する

誤って文書を削除した場合

誤って文書を削除してしまった場合は、Windows 操作機能を使い下記手順で文書を「ごみ箱」から文書の各保存先へ移動させてください。
ここで使用する Windows 操作機能については、400 ページの「マウスを操作する」、399 ページの「文字を入力する」等を参照ください。

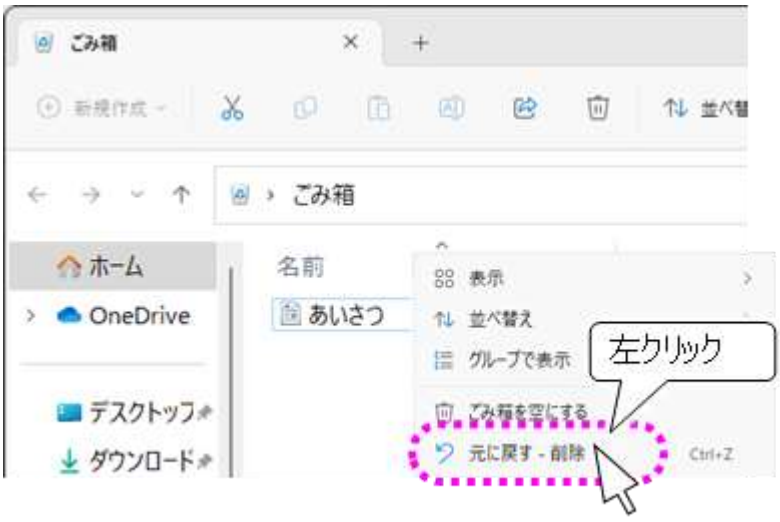
1 デスクトップ上にある「ごみ箱」を「左ダブル」で開きます。
（マウス操作盤は、Windows 操作のトップメニューから「基本マウス」を選択して表示）

2 誤って削除を行った文書にマウスポインターを合わせます。



3 アイコン上で「右クリック」→[元に戻す]を選択し、「左クリック」します。

4 文書が「ごみ箱」に移動する前の状態に戻ります。



制限 ごみ箱には最大容量があります。最大容量を超過すると古いものから自動的に消えますので、ご注意ください。

文章を読み出し/保存/削除する

外部記録メディア（ＵＳＢメモリ等）の文書の操作

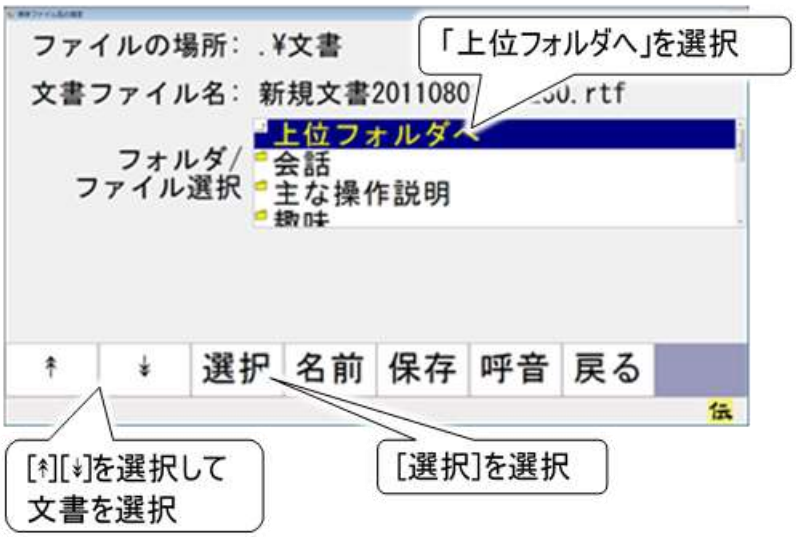
文書を保存する「文書フォルダ」以外の、外部記録メディア（USBメモリなどのリムーバブルディスク）に、文書を保存したり、読み出したりすることができます。
外部記録メディアの「伝の心」への接続は、支援者の方にお願いします。
以下、外部記録メディアが「伝の心」に接続されている状態での手順を説明します。

外部記録メディアへの文書の保存

1 100 ページの「文字・文章の保存の仕方」を参照して、保存ファイルの指定画面を表示します（「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[名前をつけて保存]を選択すると表示されます）。

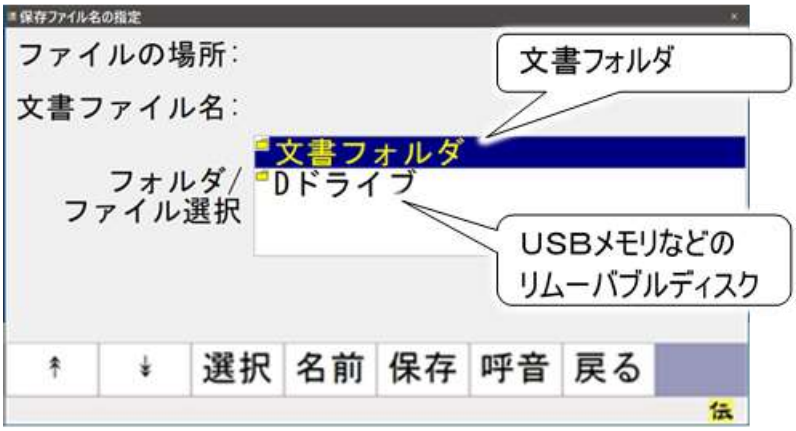
2 メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから「上位フォルダへ」を選択します。

[選択]を選択すると、「文書フォルダ」と、外部記録メディアが表示されます。



3 メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから保存したい外部記録メディアを選択します。「文書フォルダ」に戻る場合は、「文書フォルダ」を選択します。

4 後の操作は、101 ページの「名前を付けて保存」と同様です。



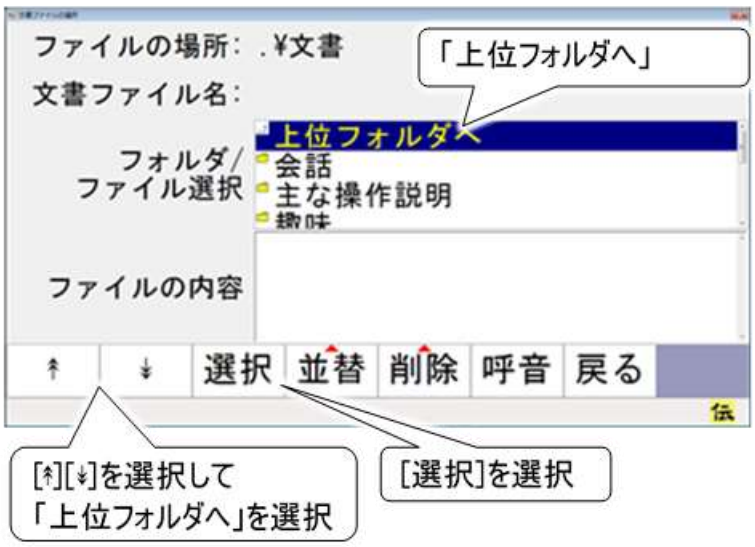
文章を読み出し/保存/削除する

外部記録メディアからの文書の読み出し

1 100 ページの「文字・文章の保存の仕方」を参照して、文書ファイルの選択画面を表示します（「文字・文章の保存の仕方」の③にて、[読込]を選択すると表示されます）。

2 メニューより[↟]または[↡]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから「上位フォルダへ」を選択します。

[選択]を選択すると、「文書フォルダ」と、外部記録メディアが表示されます。



3 メニューより[↟]または[↡]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから保存したい外部記録メディアを選択します。「文書フォルダ」に戻る場合は、「文書フォルダ」を選択します。

4 後の操作は、104 ページの「保存した文書を呼び出す」と同様です。

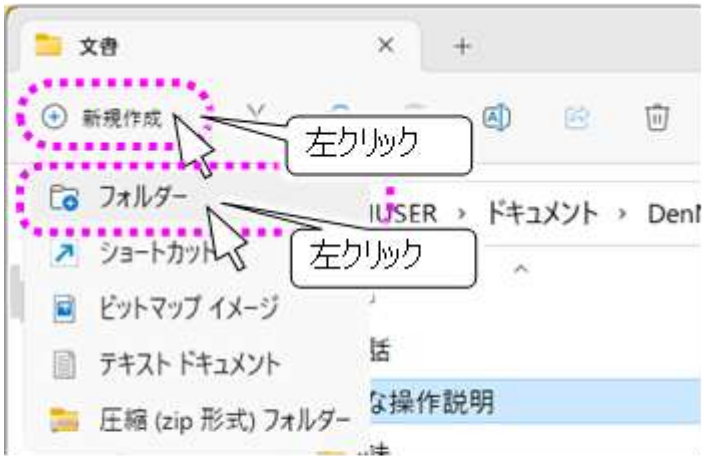
文章を読み出し/保存/削除する

文書フォルダに新しいフォルダを追加する

文書を保存するフォルダには、ご購入時、「会話」「主な操作説明」「趣味」「署名」「日記」のフォルダがあります。これらのフォルダ以外にフォルダを作成する場合は、Windows 操作機能を使い下記手順で作成してください。
ここで使用する Windows 操作機能については、400 ページの「マウスを操作する」、399 ページの「文字を入力する」等を参照ください。

1 デスクトップ上にある「「伝の心」文書」を「左ダブル」で開きます
（マウス操作盤は、Windows 操作のトップメニューから「基本マウス」を選択して表示します）。

2 フォルダメニューの「新規作成」にマウスポインターを合わせて、「左クリック」するとホームメニューが表示されるので、「フォルダー」にマウスポインターを合わせて、「左クリック」します。



3 「文書」フォルダの下に「新しいフォルダ」が作成されるので、文字盤でフォルダ名を入力してください（文字盤は Windows 操作のトップメニューから「文字」を選択して表示します）。

4 画面右上の×ボタンの「左クリック」で画面は閉じます。

補足

フォルダ名の編集
編集するフォルダにマウスポインターを合わせて、「右クリック」→[名前の変更]を選択し、「左クリック」します。フォルダ名の編集が可能になります。

フォルダの削除
作成したフォルダを削除する場合は、削除するフォルダにマウスポインターを合わせて、「右クリック」→[削除]を選択してください。フォルダが「ごみ箱」フォルダに移動します（フォルダ内のファイルも一緒に移動します）。

文章に文書や絵を挿入する

制限

「文書」フォルダのフォルダ名の編集／フォルダの削除
以前保存した文書の読込ができなくなります。絶対に行わないでください。
間違えて削除した場合は、108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照して、元に戻してください。

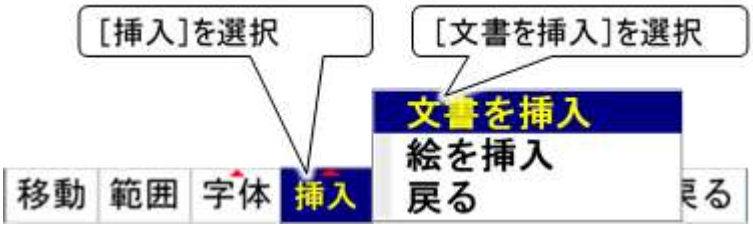
編集中の文章に文書を挿入する

「保存した文書を呼び出す」で読み出した文章に、別の文書を挿入してみましょう。

1 「保存した文書を呼び出す」の②で、文書を読み出した状態で、トップメニューから[その他]を選択します。

2 メインメニューがその他メニューに切り替わるので、[挿入]を選択して、さらにサブメニューから[文書を挿入]を選択します。

3 文書ファイルの選択画面を表示するので、「保存した文書を呼び出す」の項と同様の手順で文書を読み込みます。



4 編集域の入力カーソル位置に読み込んだ文書が挿入されます。

文章に文書や絵を挿入する

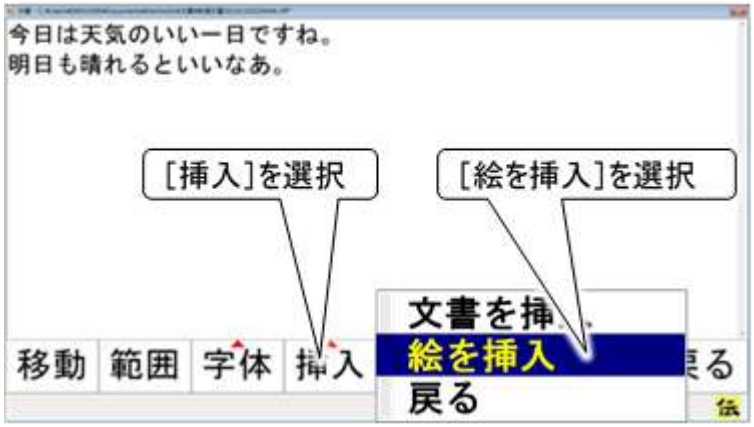
編集中の文章に画像を挿入する

「保存した文書を呼び出す」で読み出した文章に、画像を挿入してみましょう。

⚠ 注意	画像の挿入を行った場合、直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、選択した画像に置き換わります）。ご注意ください。
⚠ 注意	文書に挿入する画像ファイルは、あまり大きいサイズだと、読み込みや保存に時間が掛かったり、読み込みや保存ができなくなったりすることがあります。画像ファイルの大きさの目安としては、1024×768 ピクセル程度です。また 1024×768 ピクセル程度の画像ファイルでも、5 個以上挿入すると、読み込みや保存ができなくなることがあります。ご注意ください。

1 「編集中の文章に文書を挿入する」の②でサブメニューから[絵を挿入]を選択します。

2 画像ファイルの選択画面が表示されるので、メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから画像を選択します。



3 メニューより[選択]を選択すると、フォルダ/ファイル選択リストで選択している画像が読み込まれて、文書画面に戻ります。

補足	選択しているのがフォルダや“上位フォルダへ”の場合、選択したフォルダに移動し、フォルダ／ファイル選択リストの内容を更新します。

文章に文書や絵を挿入する

4 編集域の入力カーソル位置に読み込んだ画像が挿入されます。

補足

挿入可能な画像ファイルの種類

文書に挿入可能な画像ファイルは、拡張子が JPG、JPEG、JPE、JFIF、BMP、DIB、GIF、PNG の 8 種類のファイルです。

※拡張子とは、ファイル名の末尾につけられたファイルの種類を識別するための文字列です

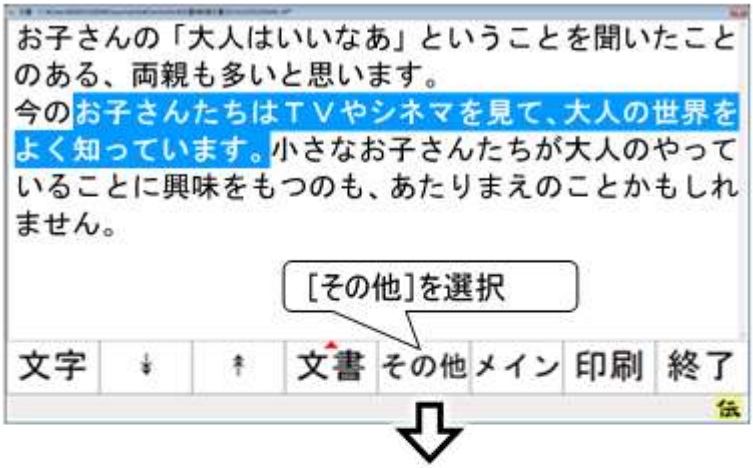
文字のスタイルを変更する

98 ページの「範囲指定の操作方法」で選択した文字列のスタイルを変更してみましょう。

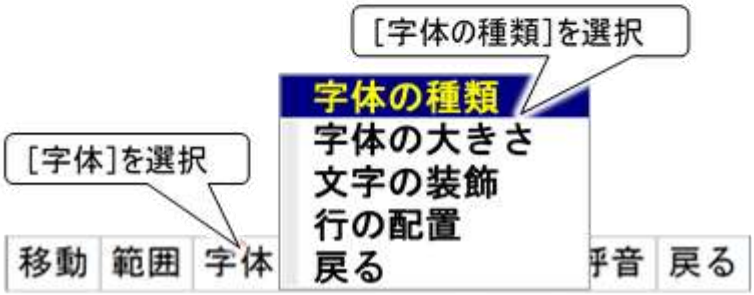
お子さんの「大人はいいなあ」ということを聞いたことのある、両親も多いと思います。
今のお子さんたちはＴＶやシネマを見て、大人の世界をよく知っています。小さなお子さんたちは大人のやっていることに興味をもつのも、あたりまえのことかもしれません。

字体（フォント）の設定

1 文書画面のトップメニューより[その他]を選択します。

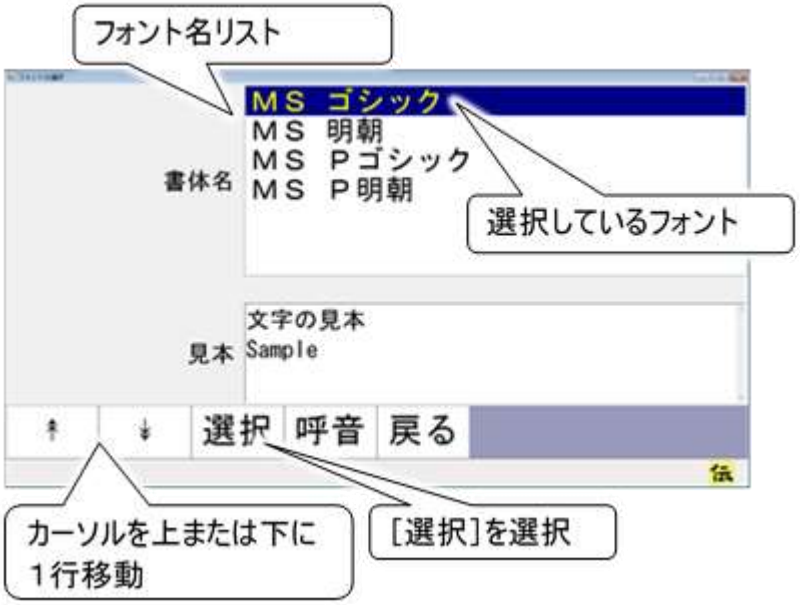


2 文書画面のトップメニューがその他メニューに切り替わるので、[字体]を選択して、さらにサブメニューより[字体の種類]を選択します。

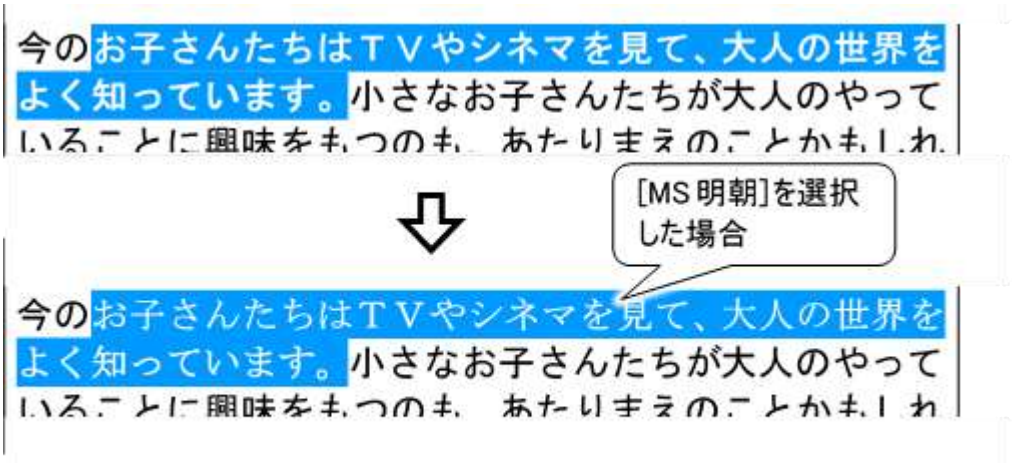


文字のスタイルを変更する

3 フォント選択画面を表示するので、メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォント名リストから字体（フォント）を選択します。



4 メニューより[選択]を選択すると、前項で選択していた字体（フォント）を編集画面の範囲選択している文字列に反映して、編集画面に戻ります。

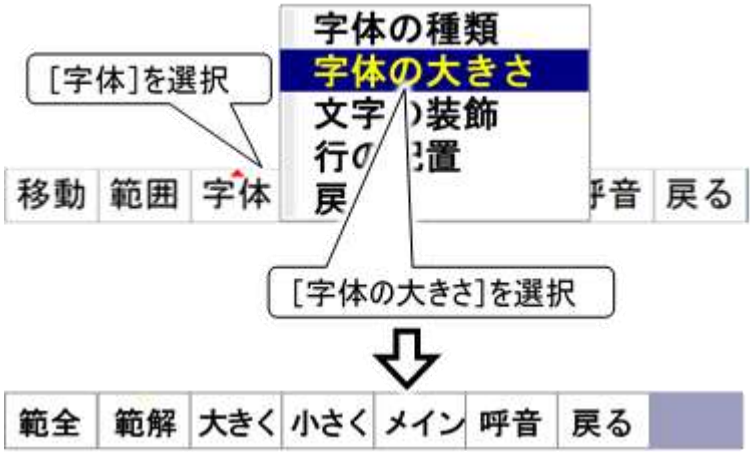


文字のスタイルを変更する

文字の大きさの設定

1 文書画面のトップメニューより[その他]を選択します。

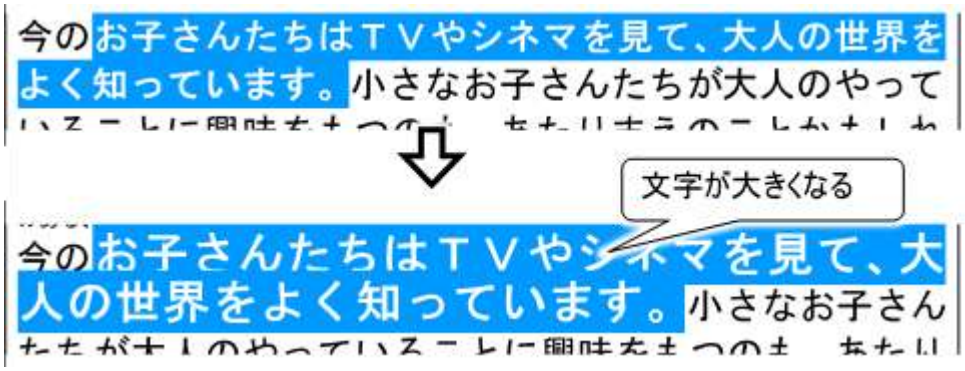
2 文書画面のトップメニューがその他メニューに切り替わるので、[字体]を選択して、さらにサブメニューより[字体の大きさ]を選択します。



3 その他メニューが文字の大きさ変更メニューに変更されます。

4 ■スイッチモードの場合

[大きく]を選択すると、選択した文字列がだんだん大きくなります。もう一度スイッチ入力を行うと大きさの変更が止まります。
最大 72 ポイントまで大きくできます。

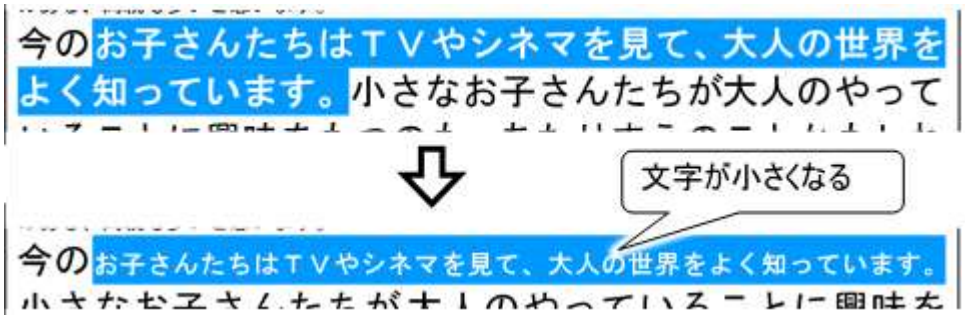


■タッチモードの場合

[大きく]を選択すると、選択した文字列が 2 ポイント大きくなります。

5 ■スイッチモードの場合

[小さく]を選択すると、選択した文字列がだんだん大きくなります。もう一度スイッチ入力を行うと大きさの変更が止まります。
最小 8 ポイントまで小さくできます。



文字のスタイルを変更する

■タッチモードの場合

[小さく]を選択すると、選択した文字列が 2 ポイント小さくなります。

補足

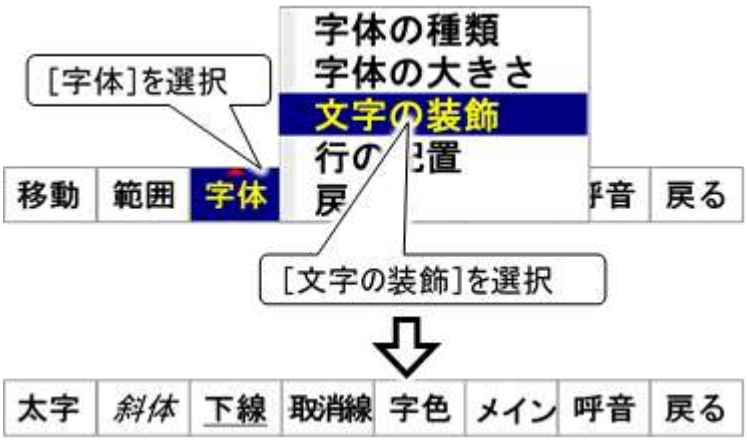
新規文書の文字の大きさ

文書を作成する度に、文字の大きさを変更するのは手間がかかります。伝の心設定画面で予め既定の文字の大きさを設定しておけば、その大きさで文字入力が始まります。（209 ページの「文書の表示文字の大きさ」参照）

文字の装飾の設定

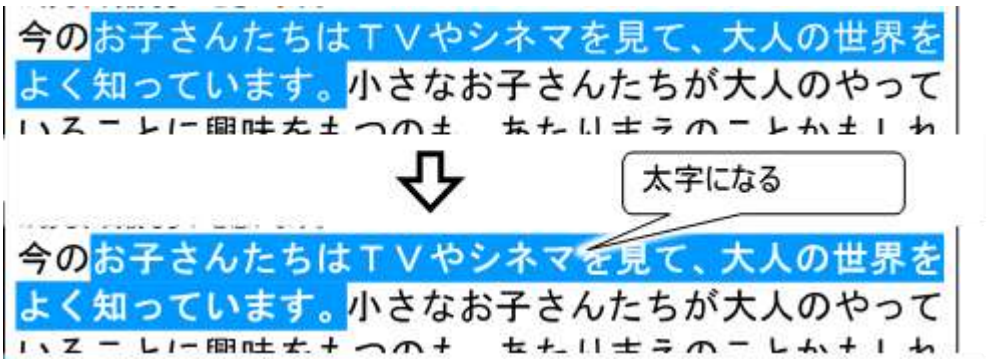
1 文書画面のトップメニューより[その他]を選択します。

2 文書画面のトップメニューがその他メニューに切り替わるので、[字体]を選択して、さらにサブメニューより[文字の装飾]を選択します。



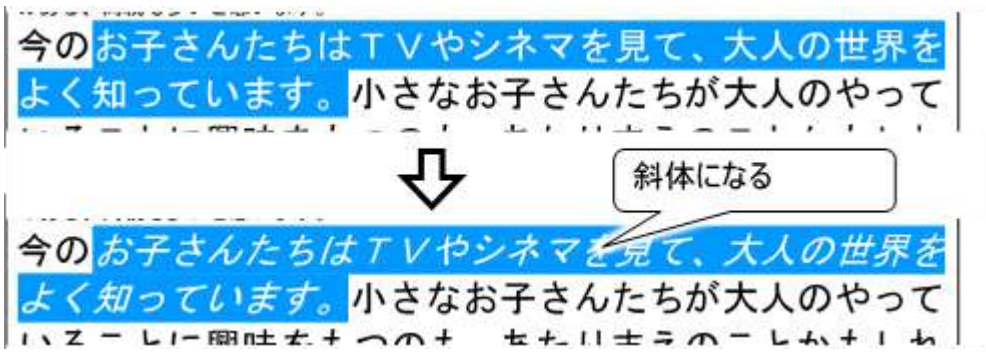
3 その他メニューが文字の装飾変更メニューに変更されます。

4 [太字]を選択すると、選択した文字列が太字になります。既に太字の場合は、太字が解除されます。

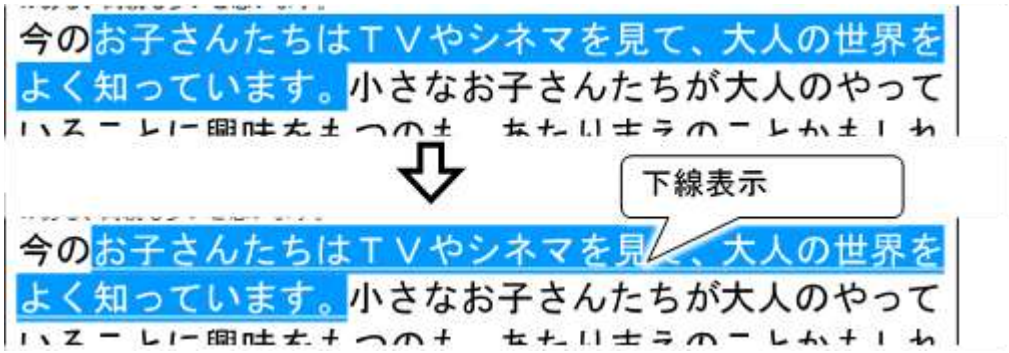


文字のスタイルを変更する

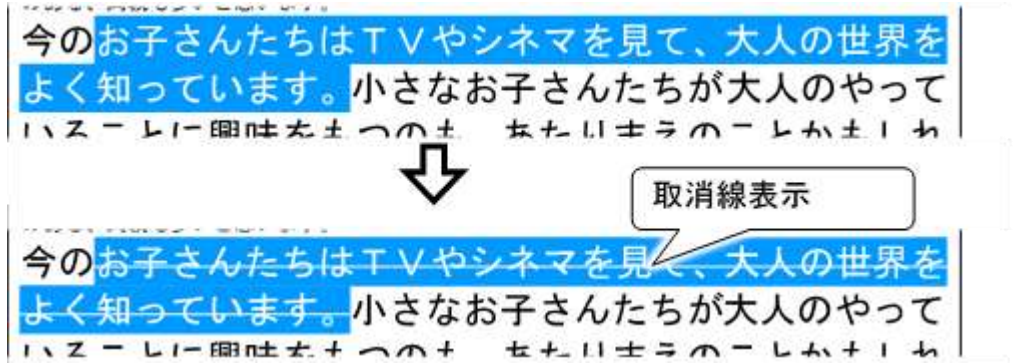
5 [斜体]を選択すると、選択した文字列が斜体になります。既に斜体の場合は、斜体が解除されます。



6 [下線]を選択すると、選択した文字列に下線が表示されます。既に下線表示の場合は、下線が解除されます。



7 [取消線]を選択すると、選択した文字列に取消線が表示されます。既に取消線表示の場合は、取消線が解除されます。

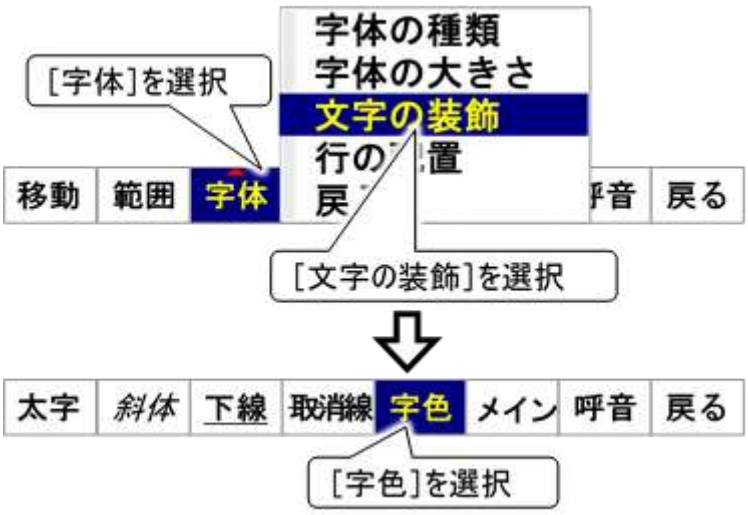


文字のスタイルを変更する

文字色の設定

1 文書画面のトップメニューより[その他]を選択します。

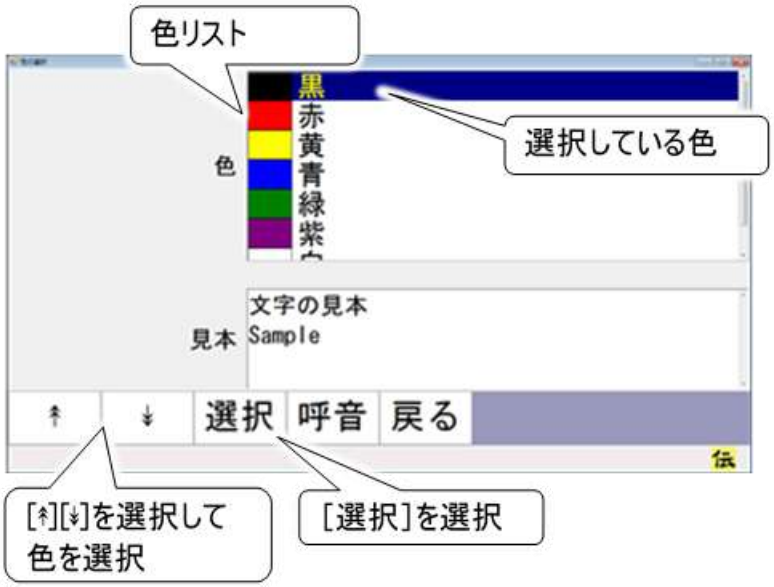
2 文書画面のトップメニューがその他メニューに切り替わるので、[字体]を選択して、さらにサブメニューより[文字の装飾]を選択します。



3 その他メニューが文字の装飾変更メニューに変更されるので、[字色]を選択します。

4 色選択画面を表示するので、メニューより[↑]または[↓]を選択して、色リストから色を選択します。

5 メニューより[選択]を選択すると、前項で選択した色を編集画面の範囲選択している文字列に反映して、編集画面に戻ります。



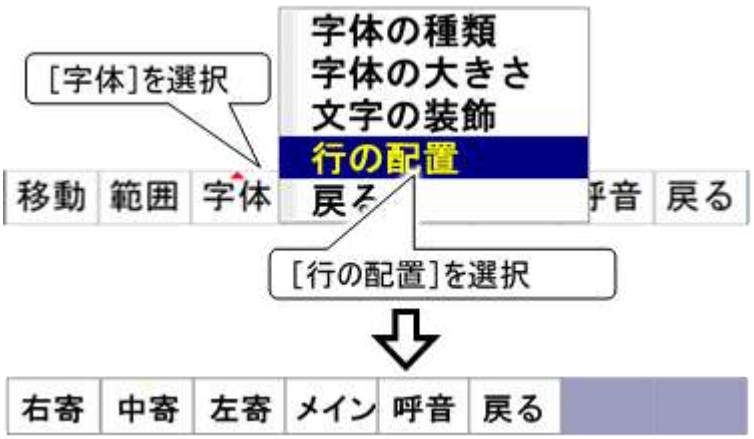
補足 範囲選択した文字列は青地に白文字のままです。選択した色に変わったことを確認するには、その他メニューの[移動]で入力カーソルを移動してください。

文字のスタイルを変更する

行の配置（右寄せ／中央寄せ／左寄せ）設定

1 文書画面のトップメニューより[その他]を選択します。

2 文書画面のトップメニューがその他メニューに切り替わるので、[字体]を選択して、さらにサブメニューより[行の配置]を選択します。



3 その他メニューが行の配置変更メニューに変更されます。

4 [右寄]を選択すると、編集画面の範囲選択している文字列の段落が、右寄せになります。

[中寄]を選択すると、編集画面の範囲選択している文字列の段落が、中寄せになります。

[左寄]を選択すると、編集画面の範囲選択している文字列の段落が、左寄せになります。

お子さんの「大人はいいなあ」ということを聞いたことのある、両親も多いと思います。
今のお子さんたちはＴＶやシネマを見て、大人の世界をよく知っています。小さなお子さんたちは大人のやっていることに興味をもつのも、あたりまえのことかもしれません。

[右寄]を選択した場合

お子さんの「大人はいいなあ」というこ　聞いたことのある、両親も多いと思います。
今のお子さんたちはＴＶやシネマを　て、大人の世界をよく知っています。小さなお子さんたちは大人のやっていることに興味をもつのも、あたりまえのことかもしれません。

補足	段落とは、文章における 1 ブロックのことであり、改行で区切られた文字列のことです。上の例では、「お子さんの～思います。」、「今の～しれません。」が各々段落になります。
補足	行の配置を変更する場合は、範囲選択しなくても、入力カーソル位置の段落が変更の対象になります。

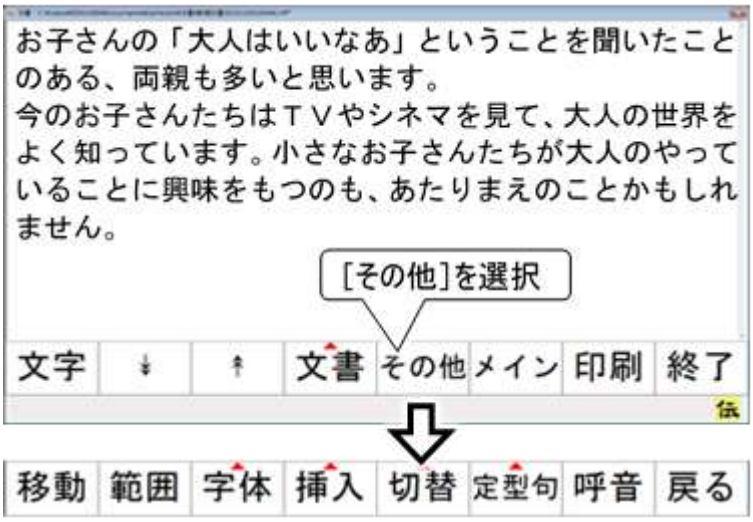
定型句を作成／削除する

定型句の登録

表示されている文章の文字列を、定型句として登録することができます。よく使う言葉を定型句として登録しておくと便利です。
では、98 ページの「範囲指定の操作方法」で使用した文章を使って、定型句を作成してみましょう。

1 文書画面のトップメニューより[その他]を選択します。

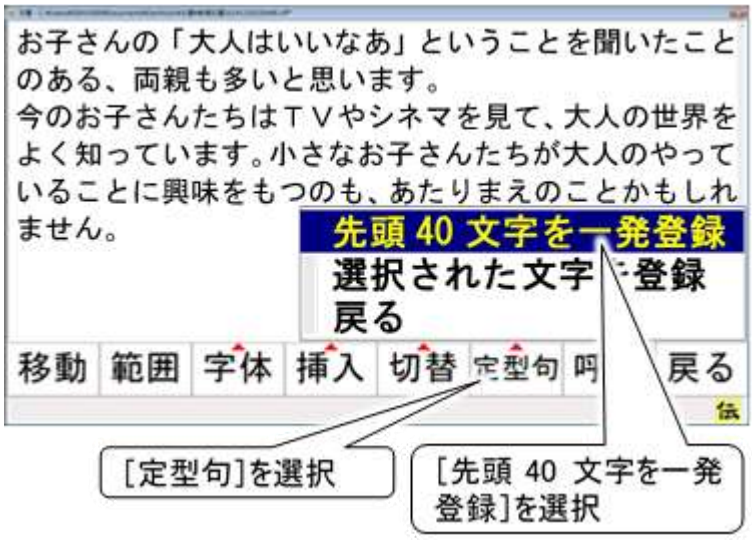
2 文書画面のその他メニューに切り替わります。定型句の登録は、このメニューから行います。



先頭 40 文字の定型句登録

表示されている文書の先頭から 40 文字を、定型句として登録します。

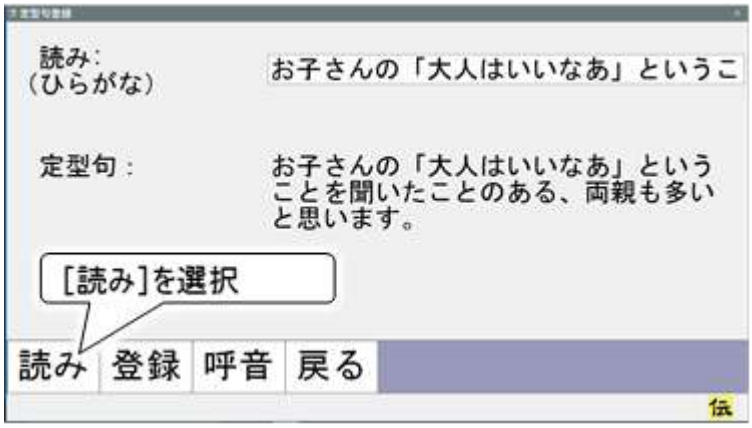
1 その他メニューより[定型句]を選択し、さらにサブメニューより[先頭 40 字を一発登録] を選択します。



定型句を作成／削除する

2 定型句登録画面を表示します。
「読み」と「定型句」には、文書の先頭から 40 文字を表示します。

3 定型句登録メニューより[読み]を選択すると、文字盤が表示され「読み」が編集可能になります。



補足

2 点スイッチでの操作について

2 点スイッチにて操作している場合は、「読み」を選択した後、送りスイッチを選択すると文字盤が表示されます。

4 文字盤の[編]を選択し、文字盤を編集パネルに切り替えます。

5 編集パネルより[文書　先]を選択すると、「読み」の入力カーソルが左端に移動します。

移動したら、[戻る]を選択して文字盤に戻ります。

6 文字盤の[漢]を選択し、文字盤を漢字変換パネルに切り替えます。

定型句を作成／削除する

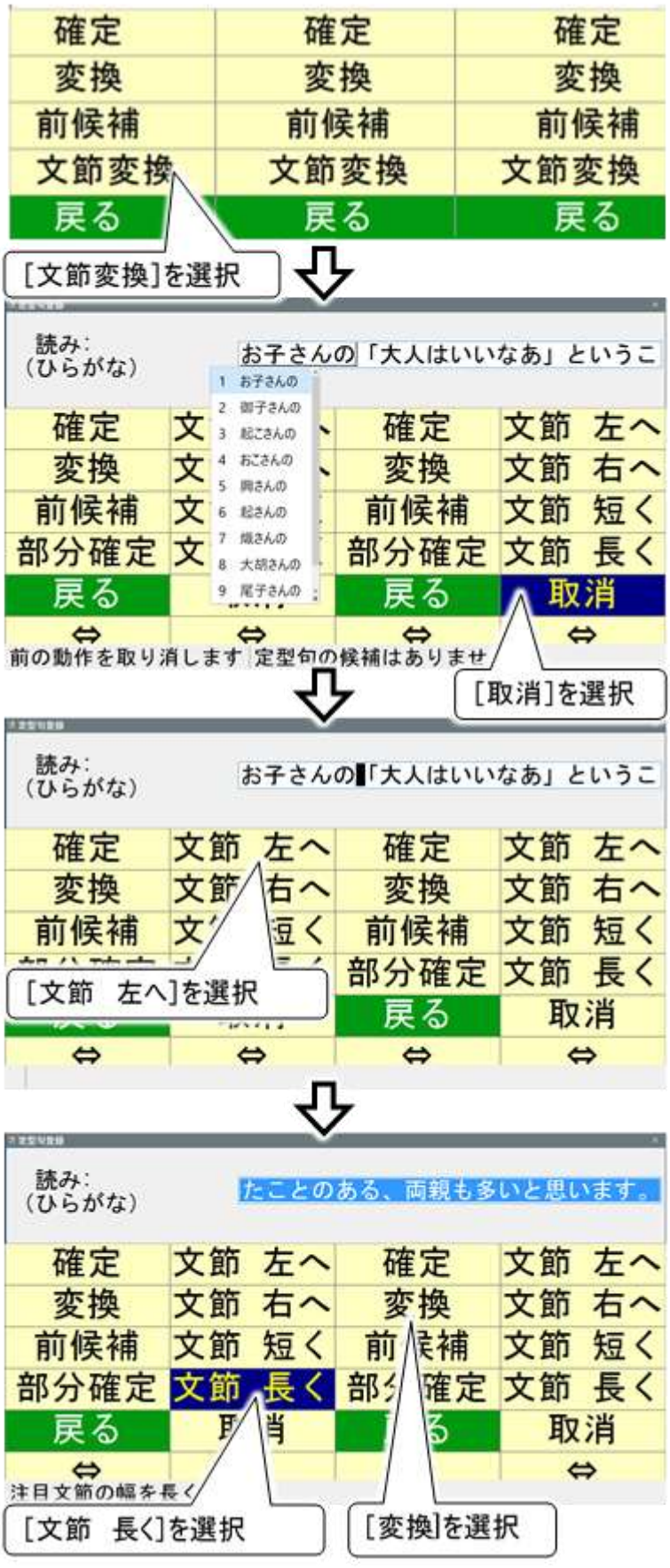
7 漢字変換パネルの[文節変換]を選択して、文節変換パネルを表示します。

8 文節変換パネルの[取消] を複数回選択して、候補リストや文字の下線部分を取り消していきます。

9 次に[文節　左へ]を複数回選択し、入力カーソルを左端に持っていきます。

10 入力カーソルが左端にきたら、[文節　長く]を複数回選択し、全文字反転表示させます。

全文字反転表示させたら、[変換]を選択し変換リストを表示させます。



定型句を作成／削除する

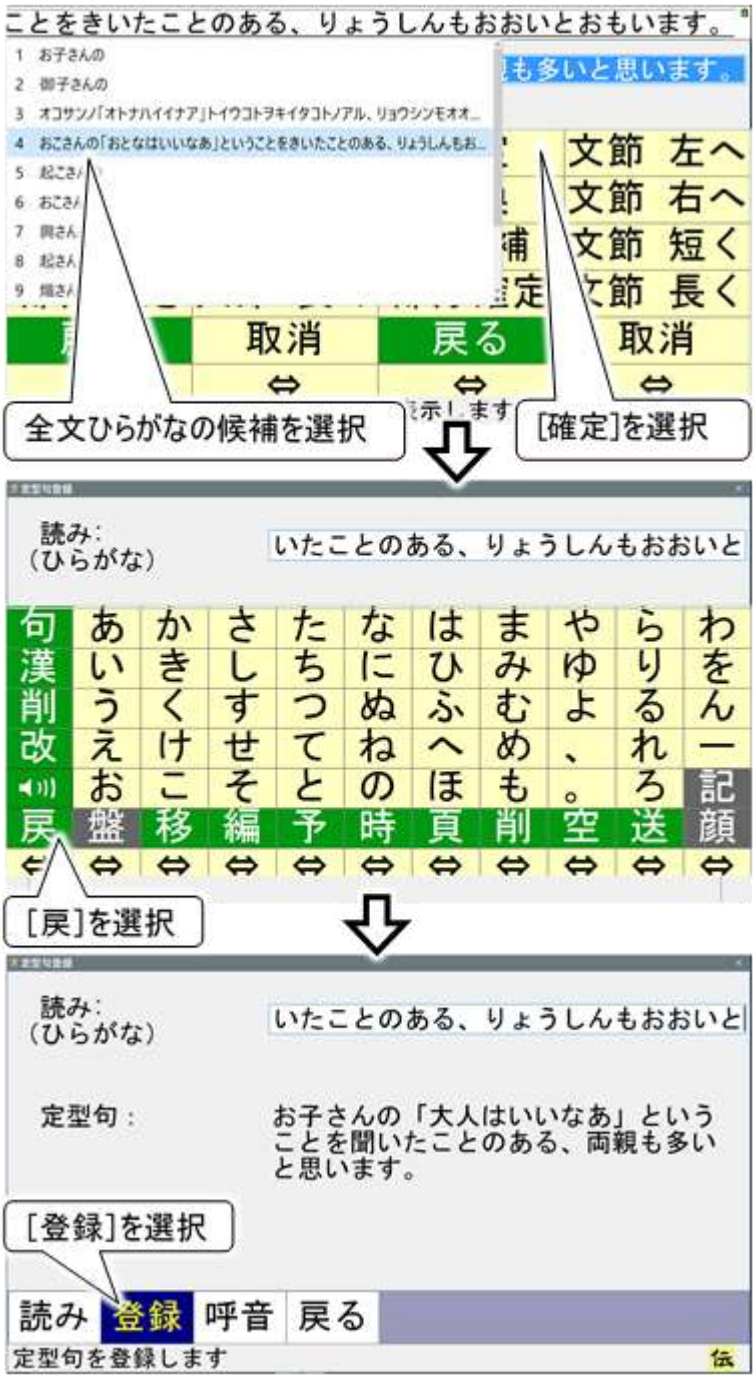
11 変換リストから、全文ひらがなの候補を選択し、[確定]を選択して文字盤に戻ります。

12 「読み」が全てひらがなになります。

文字盤の[戻]を選択し、文字盤を終了させます。

13 定型句登録メニューから[登録]を選択すると、「定型句」に表示された文字が定型句として登録され、前画面に戻ります。

「読み」に表示された文字は、定型句候補リストに追加されます。



補足	定型句の作成、削除、変更は、支援者用設定にて、より詳細な編集が可能です。ただし、この支援者用設定での操作は全てマウスで行います（スイッチ操作はできません）。
補足	定型句での「読み」は、定型句リストに表示するための文字列です。読み上げに使用される読みとは異なります。

定型句を作成／削除する

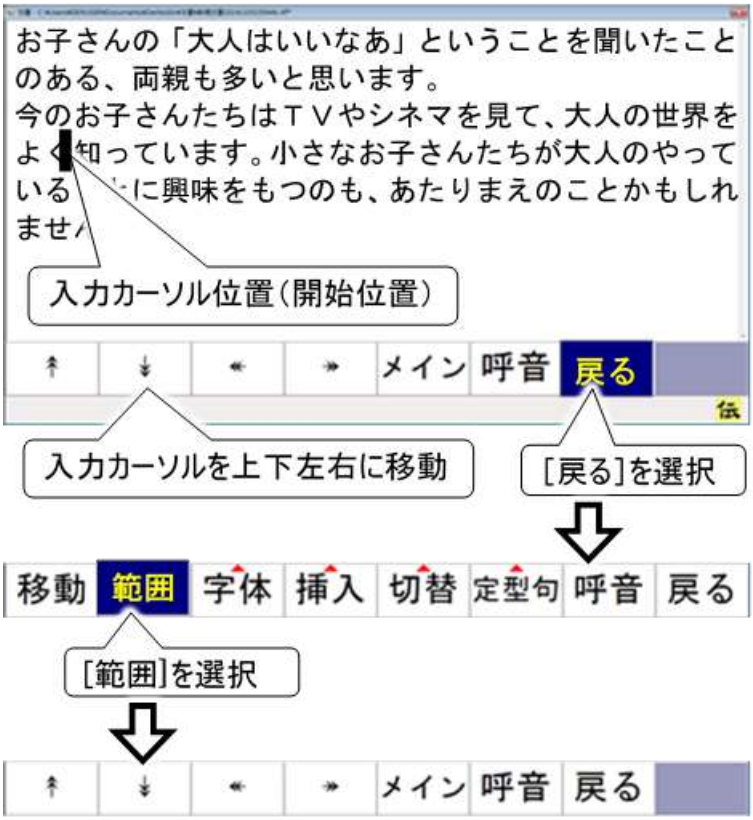
範囲指定した文字の定型句登録

文字盤から切り替える編集パネルや、文書の範囲選択メニューの操作で範囲指定した文字を、定型句として登録できます。
編集パネルでの範囲指定の方法は、98 ページの「範囲指定の操作方法」で説明されています。ここでは、その他メニューより範囲指定する方法で説明します。
それでは、「知っています」という定型句を登録してみましょう。

1 その他メニューから[移動]を選択すると、メニューが移動メニューに切り替わります。

2 移動メニューの[↑][↓][←][→]を選択します。
入力カーソルが選択した方向に移動を始めるので、移動を止めたい位置に入力カーソルがきたら、もう一度スイッチ入力を行います。

3 入力カーソルが範囲指定したい文字の先頭まで移動したら、[戻る]を選択して、その他メニューに戻ります。



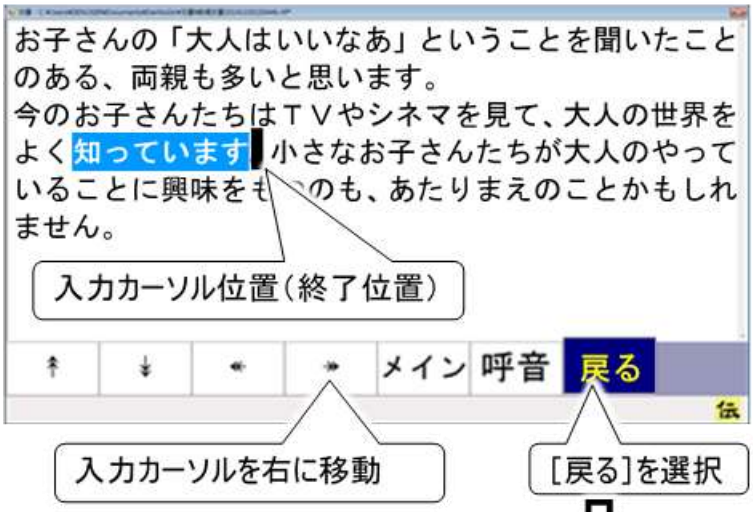
4 今度は、その他メニューから[範囲]を選択すると、メニューが範囲選択メニューに切り替わります。

5 範囲選択メニューの[→]を選択すると、入力カーソルが右に移動を始めます。
このとき編集域の文字は反転表示していきます。

定型句を作成／削除する

6 範囲指定したい文字の終了位置まできたら、もう一度スイッチ入力を行います。
入力カーソルの位置は終了位置に移動します。

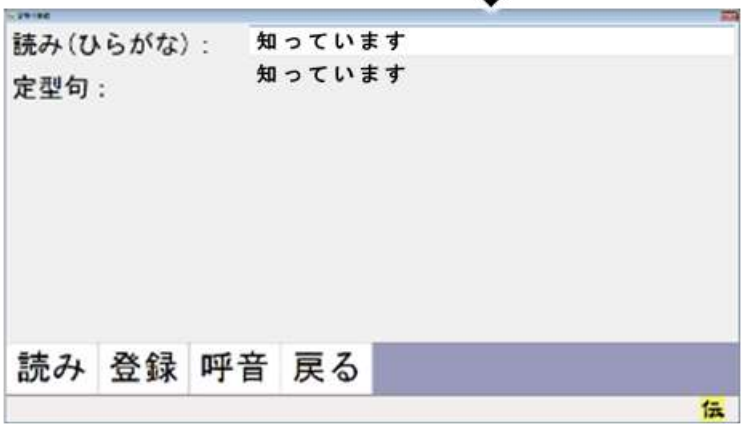
7 [戻る]を選択して、その他メニューに戻ります。



8 その他メニューより[定型句]選択し、さらにサブメニューより[選択された文字を登録]を選択すると、定型句登録画面を表示します。

「読み」と「定型句」には、範囲指定した（反転表示中の）文字を表示します。

9 122 ページの「先頭 40 文字の定型句登録」と同様にして、定型句を登録します。



注意	手順⑥の操作の後、⑦⑧の操作の前に、文書文字等のコピー（複写）を行うと、手順⑥での文字選択が解除されてしまいます（コピー（複写）した文字に置き換わります）。ご注意ください。
補足	**タッチモードでの連続範囲指定について** タッチモードの場合、「»」などのスイッチモードでは連続して動作するボタンは、連続では動作しません。範囲指定の終了位置まで、**複数回ボタンをクリックしてください。**

定型句を作成／削除する

定型句の削除

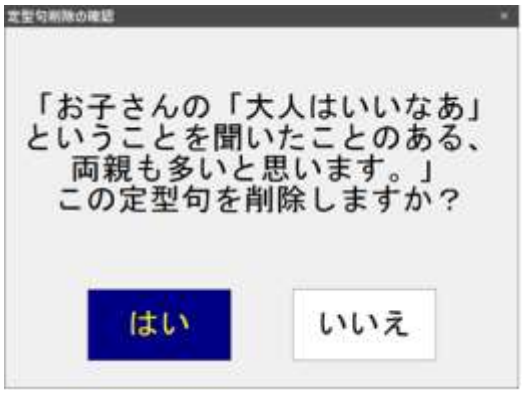
使わない定型句がたくさんあると、定型句入力時の選択リストが多くなり、目当ての定型句に辿り着くのに時間がかかります。使わない定型句は削除すると、選択リストがすっきりとします。
ここでは、122 ページの「先頭 40 文字の定型句登録」で登録した、「お子さんの「大人はいいなあ」ということを聞いたことのある、両親も多いとおもいます。」を削除してみましょう。

1 ひらがな文字盤で、「おこ」と入力します。
入力の方法は 68 ページの「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項を参照してください。

2 文字盤より[句]を選択すると、文字盤が定型句入力画面に切り替わります。

3 定型句リストから[お子さんの「大人はいいなあ」とい] を選択すると、サブメニューが表示されるので、[句削除] を選択します。

4 確認画面が表示されますので、[はい] を選択すると、「お子さんの「大人はいいなあ」とい」という定型句が削除され、文字盤に戻ります。



編集中の文書を電子メールで送信する

文書作成後、その文書をメールで送信することができます。メールの送り先を事前に設定しておくことで、簡単な操作で行うことができます。

一発メール送信のあて先を設定する

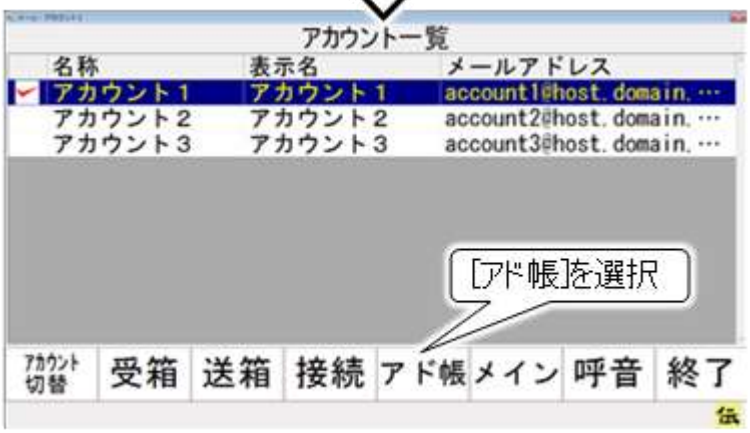
あて先の設定は、「メール」画面で行います。
電子メールを利用するために、まず、最初にインターネットの設定を行ないます。

1 322 ページの「メールアカウントの新規追加・既定・削除」または、325 ページの「メールアカウントの設定」の項を参照して、インターネット、メールの設定を行ないます。
既に済んでいる場合は、次に進みます。

制限	**既定のアカウント** 一発メール送信では、「既定」に設定されたアカウント情報に基づいてメールを送信します。 メールの設定で複数のアカウントを登録した場合は、一発メール送信で使用するアカウントを「既定」に設定してください。

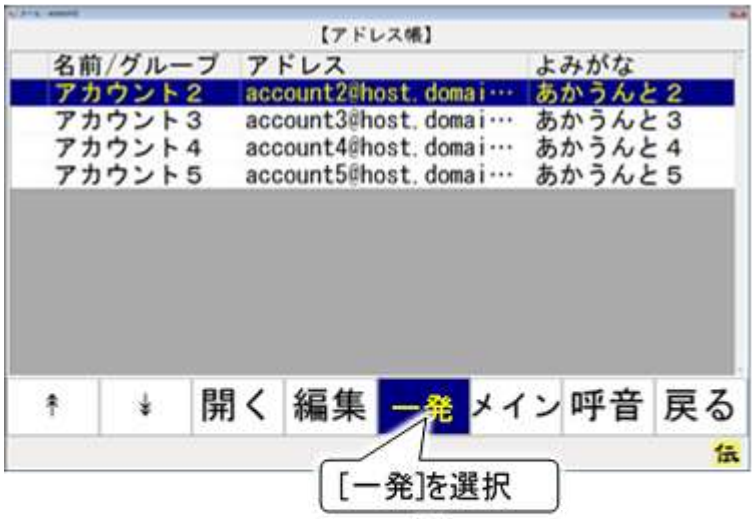
2 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[メール]を選択すると、電子メールメイン画面が表示されます。

3 電子メールメイン画面のトップメニューより[アド帳]を選択します。



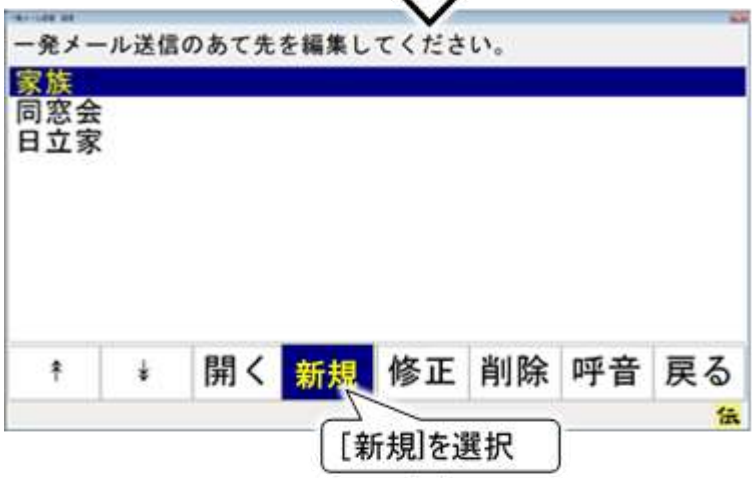
編集中の文書を電子メールで送信する

4 アドレス帳画面が表示されるので、[一発]を選択します。

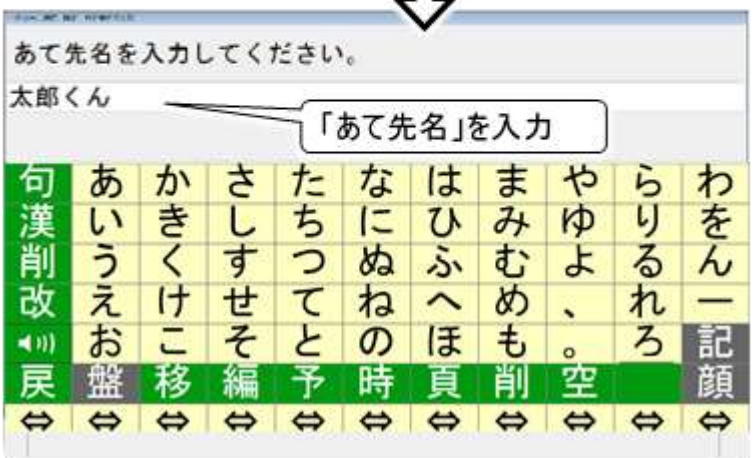


5 一発メール送信設定画面が表示されるので、新しくあて先を設定する場合は[新規]を、既に設定済みのあて先を編集する場合は[開く]を選択してください。

ここでは、[新規]を選択します。



6 あて先名入力画面が表示されるので、文字盤であて先名称を入力します。



補足　一発メール送信で送るあて先は 1 度に複数アドレス設定できます。家族全員に送るなら「家族」など、分かりやすい「あて先名」をつけましょう。

編集中の文書を電子メールで送信する

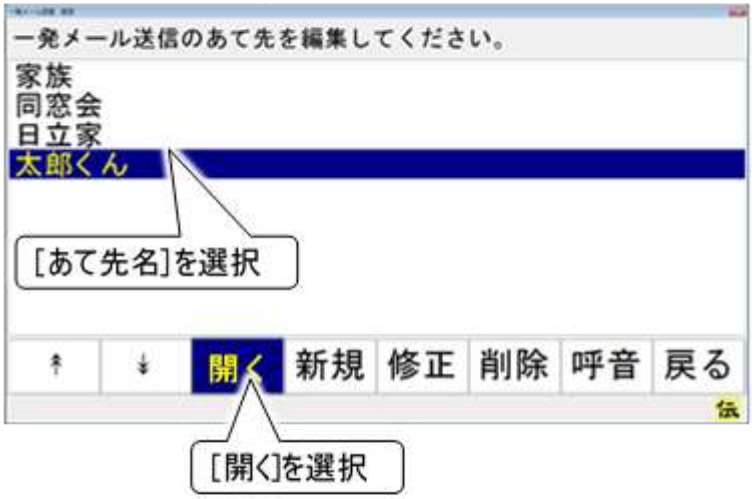
7

文字盤より[戻]を選択すると、
右記のような確認画面が表示されます。

[はい]を選択すると、一発メール送信設定画面に戻ります。

8

あて先名が決定したら、そのあて先名に、実際送りたい送り先のメールアドレスを設定します。



[↟][↡]であて先名を選択して、[開く]を選択してください。

9

選択したあて先名で登録されている、メールアドレス一覧が表示されます。

登録されているメールアドレスがない場合には、一覧が空で表示されます。

新しいメールアドレスを登録する場合は[登録]、登録されているメールアドレスを解除する場合は[解除]を選択します。

ここでは、[登録]を選択します。

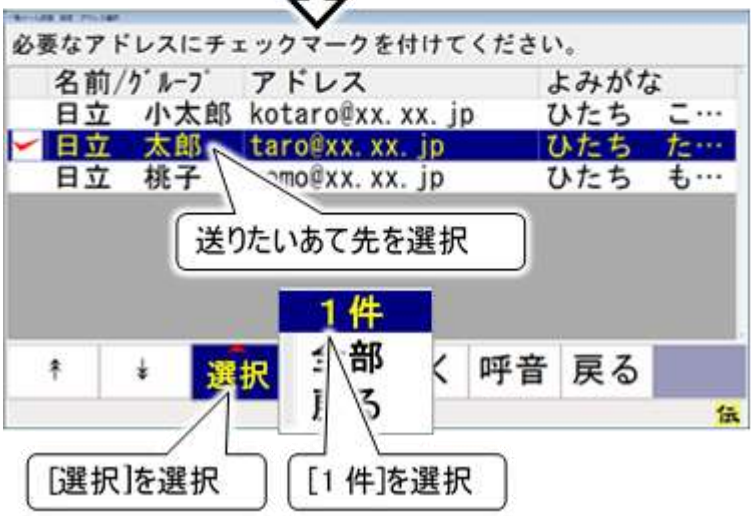
編集中の文書を電子メールで送信する

10 アドレス帳選択画面が表示されます。
登録したいメールアドレスが登録されているアドレス帳のアカウントを、[↑][↓]で選択します。

[選択]を選択すると、選択されているアカウントのアドレス帳が表示されます。

11 アドレス選択画面のメニューより[↑][↓]を選択して、選択したいメールアドレスのところにスキャンカーソルを合わせます。

12 [選択]を選択すると、サブメニューが表示されるので、[１件]を選択してください。スキャンカーソル位置のメールアドレスの左端に✓チェックが入ります。



※全てのアドレスを選択したい場合は、[全部]を選択します。

制限	**TO/CC/BCC** 一発メール送信で設定できる送信者は「TO」のみです。「CC」や「BCC」設定はできません。
補足	**アドレス選択の解除** 選択の解除は、[解除]を選択します。サブメニューが表示されるので、[１件]を選択すると、スキャンカーソル位置のメールアドレスの左端の✓チェックが外れます。

13 これで設定は終わりです。画面のメニューより[戻る]を数回選択して、画面を戻り、[メイン]または[終了]の選択で「伝の心」メインメニューに戻ります。

編集中の文書を電子メールで送信する

一発メール送信をする

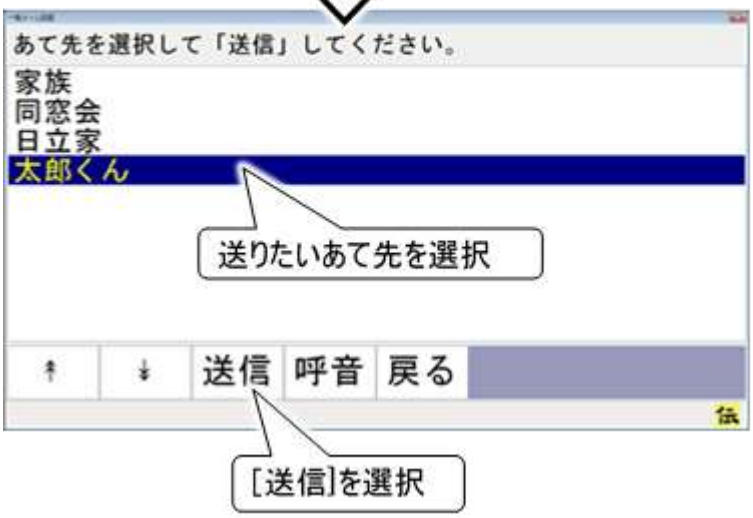
129 ページの「一発メール送信のあて先を設定する」で設定した、「太郎くん」というあて先に、一発メールを送信してみましょう。

1 文書画面のトップメニューより[文字]を選択します。

2 ひらがな文字盤が表示されるので、[送]を選択します。

画面が一発メール送信画面に切り替わります。

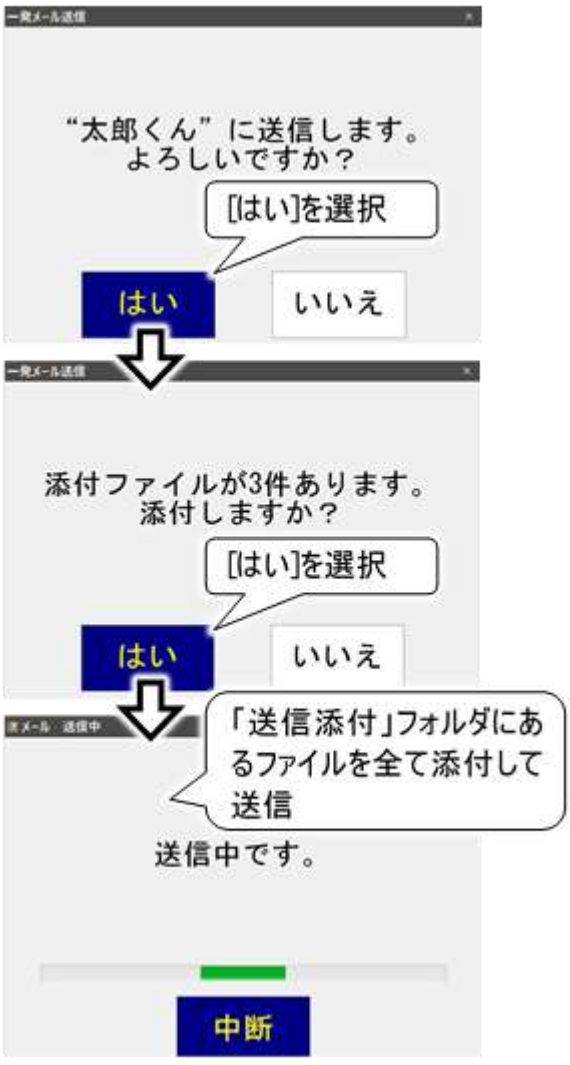
3 [↑][↓]を選択して、スキャンカーソルを送りたいあて先に合わせ、[送信]を選択します。



編集中の文書を電子メールで送信する

4 確認画面が表示されますので、[はい] を選択すると、メールが送信され、確認画面がメール送信中画面に替わります。

5 一発メールにファイルを添付する事もできます。「送信添付」フォルダにファイルがあれば下記確認画面が表示されますので、[はい] を選択すると、メールに「送信添付」フォルダにあるファイルを全て添付して送信します。



編集中の文書を電子メールで送信する

補足

ファイルを添付する場合

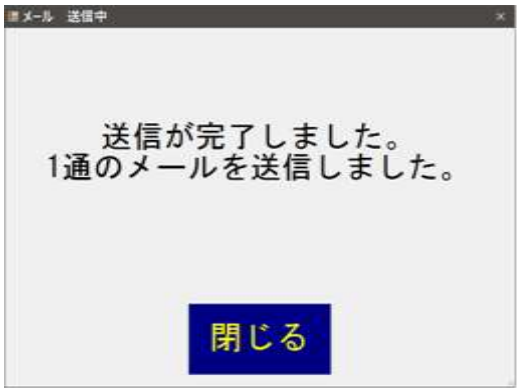
「送信添付」フォルダに、事前に添付ファイルをコピーする必要があります。
詳細は 346 ページの「メールにファイルを添付する」を参照してください。

注意

「送信添付」フォルダのファイルの削除

添付ファイルは、メールに添付後「ごみ箱」へ移動します。
「ごみ箱」のファイルを元に戻す場合は、108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照してください。

6 メールの送信が終了すると、下記画面が表示されるので、[閉じる] を選択すると、文字盤に戻ります。



補足

正常に送信されたメールは、電子メール機能の「送信箱」内に送信済みメールとして保存されます。送信できなかったとき（送信エラー発生時など）は、「送信箱」には保存されませんので、必要な場合は、文書保存をするようにしてください。

※ 電子メール機能の「送信箱」の表示内容の更新は、電子メール機能にて送受信を行ったときに行います。「送信済み」フォルダに一発メールで送ったメールがない場合は、電子メールのトップメニューから[接続]を選択して、送受信を行ってみてください。
表示内容の更新が行われて、「送信済み」フォルダに一発メールで送ったメールが表示されます。

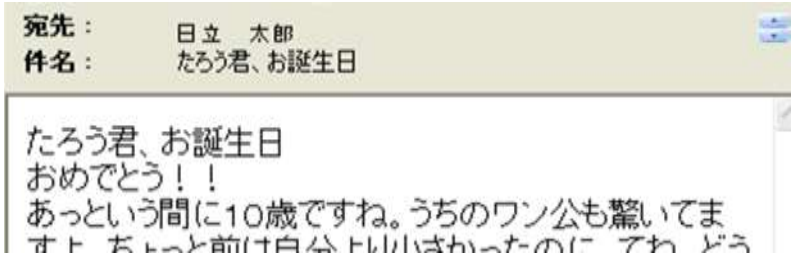
制限

メールの装飾や画像

一発メール送信では、文字色や行の配置などの文字の装飾は全て取り消されて送信されます。また、貼り付けた画像も送れません（「伝の心」メール機能に準じます）。

メールの件名

文書の 1 行目がメールの件名として送信されます。例えば、この項で例文として用いている文書では、「たろう君、お誕生日」が件名になります。



編集中の文書を電子メールで送信する

音声を出す

ここでは、「伝の心」の音声機能を説明します。

はじめに

「伝の心」の読み上げ機能は、音声合成技術を使用しています。日本語(漢字かな混じり文字列)を解析し、自然性・明瞭性の高い合成音を育成しておりますが、下記幾つかの制限事項あります。

制限	対象の文章や単語によっては読み上げが正しくできない場合があります。
制限	人名、地名、固有名詞、英文字などで正しく読み上げができない場合があります。
制限	単語の「読み」と「アクセント位置」を修正することはできますが、音質の変更や韻律調整はできません。 単語の「読み」と「アクセント位置」の修正は、559 ページの「音声合成ユーザー辞書について」をご参照ください。
制限	音声合成は肉声と同等ではありません。
制限	対象の文章や単語によっては、読み上げ速度の変更や声の高さの変更を行っても調整されない、または音質が悪くなる場合があります。

文章を音声で読み上げる

日常使用文を読み上げる

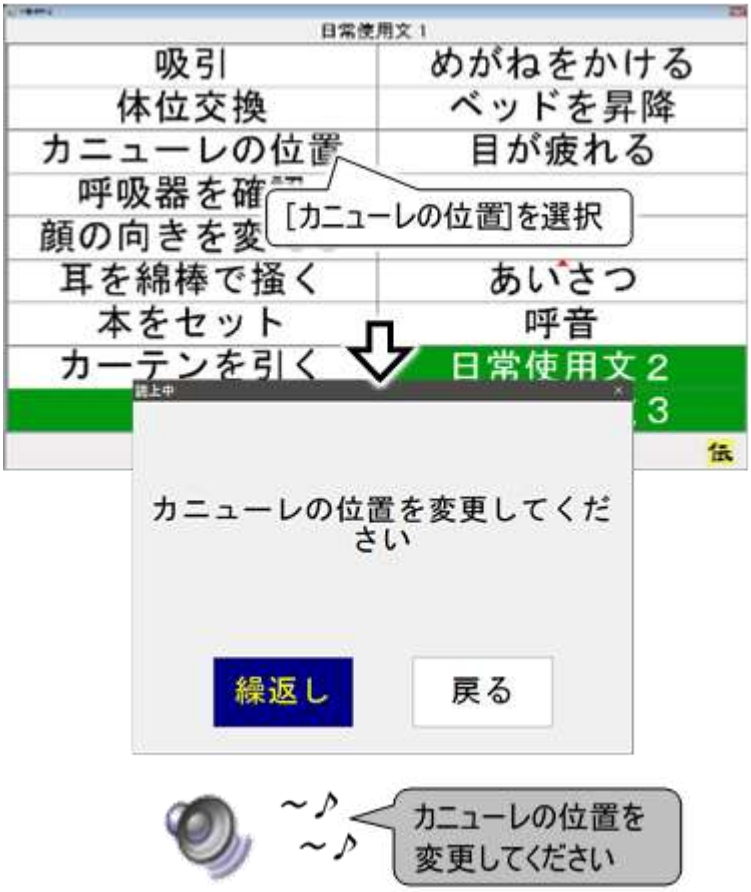
日常でよく使用する文（言葉）を「伝の心」に登録しておくと、メニューの選択だけで登録した文章を読み上げることができます。
では、「カニューレの位置を変更してください」という文を読み上げてみましょう。

1 メイン画面から[日常使用文]を選択すると日常使用文パネル 1 が表示され、列スキャンが左端より始まります。

2 左列を選択すると、左列の行スキャンが始まるので、[カニューレの位置]を選択します。

3 スピーカより、「カニューレの位置を変更してください」と音声が出力されます。

4 [繰返し]を選択すると、読み上げを中断して、最初から読み上げが始まります。
[戻る]を選択すると、日常使用文パネル 1 に戻ります。



補足	前回、日常使用文パネル 1 以外の画面から終了した場合は、終了した時の日常使用文画面を表示します。
参照	日常使用文の新規登録／変更／削除の詳細は、298 ページの「「日常使用文」の編集をする」を参照してください。
参照	出荷時に登録されている日常使用文は 493 ページの「日常使用文パネル 1 の構成と説明」、495 ページの「日常使用文パネル 2 の構成と説明」、541 ページの「日常使用文パネル 3 の構成と説明」に記載されています。
補足	**空欄（空白）のパネルボタンのスキャンについて** パネルボタンが空欄（空白）の場合でもスキャンカーソルの移動時、スキャン対象となります。空欄（空白）のスキャンのスキップは行われません。

文章を音声で読み上げる

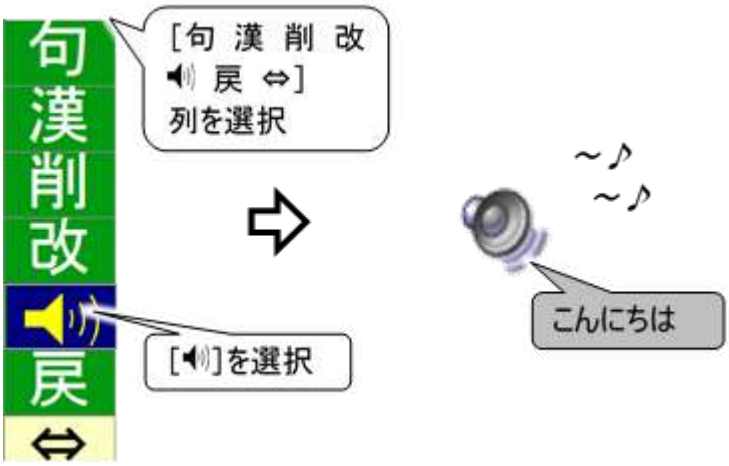
編集中の未確定文字列（文字下に破線表示）を読み上げる

文書画面や会話画面の未確定文字列（文字下に破線表示）を読み上げることができます。
では、「こんにちは」という未確定文字列を読み上げてみましょう。

1 68 ページの「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項①～⑥を参照して、編集域に「こんにちは」と入力します。

2 次に[句 漢 削 改 🔊 戻 ⇔]列を選択して、[🔊]を選択します。
スピーカより、「こんにちは」と音声が出力されます。

3 再度、読み上げを行う場合は、[🔊]を再度選択してください。
読み上げが始まり、スピーカより、「こんにちは」と音声が出力されます。



補足	途中で読み上げを中止する時は、もう一度スイッチ入力してください。
補足	文章に未確定文字列（文字下に破線表示）が無い場合は、確定文字列を読み上げます。詳細は 141 ページの「編集中の文章を読み上げる（確定文字列）」に記載されています。
注意	読み上げを行った場合、直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、読み上げた文章に置き換わります）。ご注意ください。

文章を音声で読み上げる

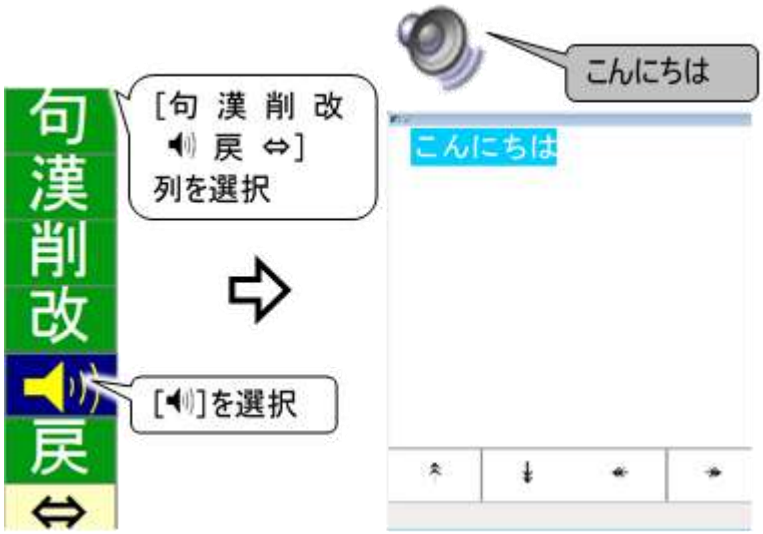
編集中の文章を読み上げる（確定文字列）

文書画面や会話画面の未確定文字列（文字下に破線表示）がない場合は、確定文字列を読み上げます。では、「こんにちは」という確定文字列を読み上げてみましょう。

1 68 ページの「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項①～⑫を参照して、編集域に「こんにちは」と入力します。

2 次に[句 漢 削 改 🔊 戻 ⇔]列を選択して、[🔊]を選択します。
画面が読み上げ画面に切り替わり、確定文字が反転表示され、スピーカより、「こんにちは」と音声が出力されます。

3 読み上げが終了すると、画面は自動的に元に画面に戻り、文字盤が表示されます。



4 再度、読み上げを行う場合は、[🔊]を再度選択してください。

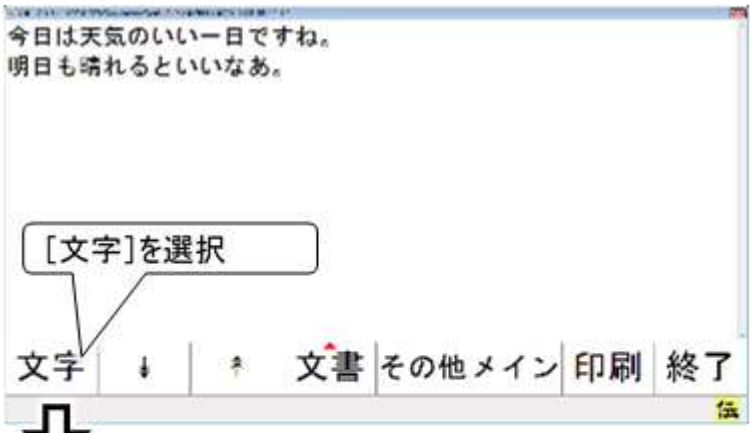
補足	文章に未確定文字列（文字下に破線表示）がある場合は、未確定文字列を読み上げます。詳細は 140 ページの「編集中の未確定文字列（文字下に破線表示）を読み上げる」に記載されています。
注意	読み上げを行った場合、直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、読み上げた文章に置き換わります）。ご注意ください。
注意	読み上げる文章が長いと、読み上げ画面が表示されるまでに時間が掛かります。また、文章の中に画像が挿入されている場合も、同様です。 4000 文字(32 ポイントで約 30 頁)、挿入画像の合計サイズが 1MB を超える場合は、文書ファイルを分割することをお勧めします。

文章を音声で読み上げる

読み上げを一時停止／再開する

確定文字列は、読み上げ中に、読み上げを一時停止したり、再開したりすることができます。104 ページの「保存した文書を呼び出す」で読み出した文章を、この機能を使って読み上げてみましょう。

1 「保存した文書を呼び出す」の②で、文書を読み出した状態で、トップメニューから[文字]を選択し、文字盤を表示します。



2 文字盤より[句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、[🔊]を選択すると、画面が読み上げ画面に切り替わります。

3 句点、読点で区切られた文節が反転表示され、スピーカより音声が出力され始めます。

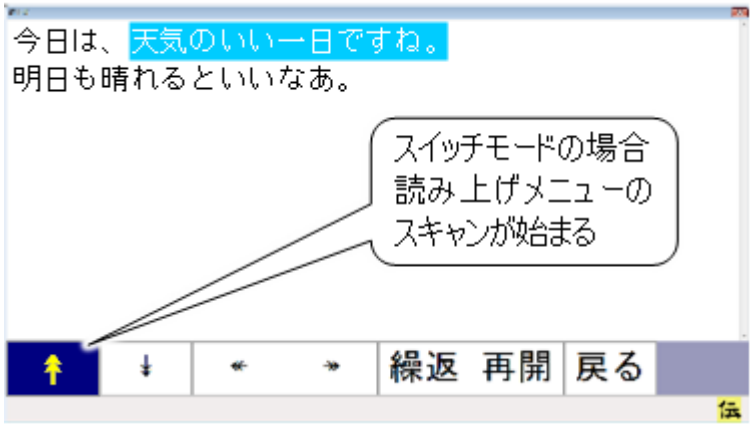
4 文節の読み上げが終わると、次の文節が反転表示され、その文節の読み上げが始まります。

文章を音声で読み上げる

5

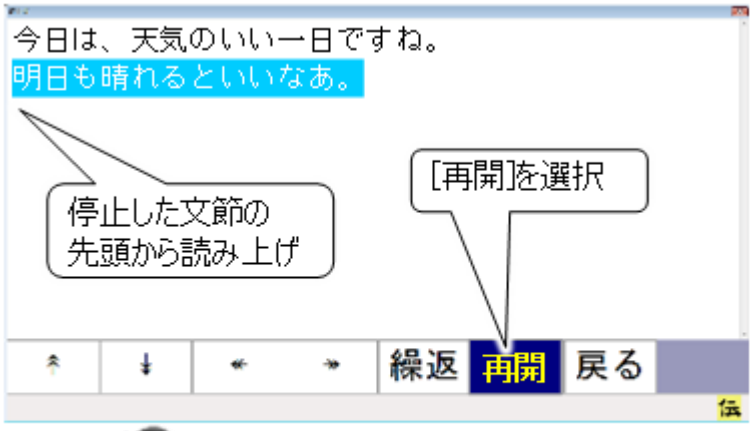
■スイッチモードの場合
読み上げ中にスイッチ入力を行なうと、読み上げが一時停止して、読み上げメニューのスキャンが始まります。

■タッチモードの場合
読み上げ中に読み上げメニューのクリックを行うと、読み上げが一時停止します。



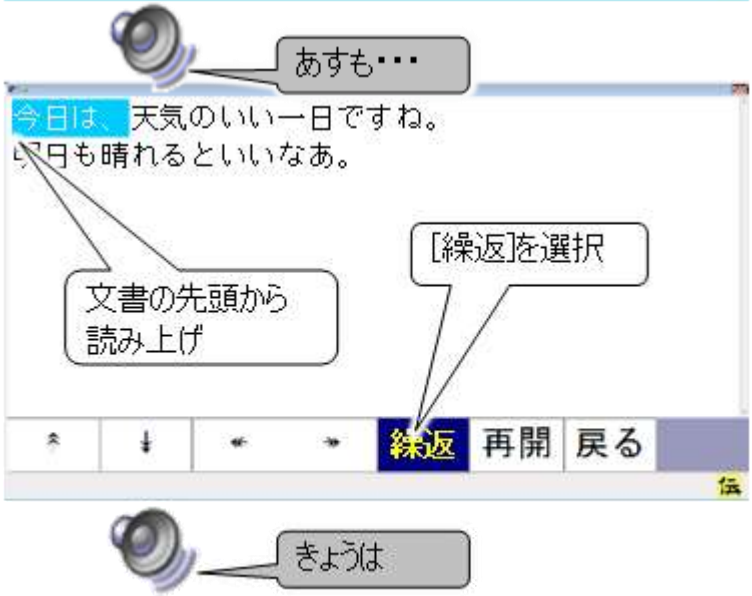
6

読み上げメニューの[再開]を選択すると、読み上げを停止した文節の先頭から読み上げを開始します。



7

また、[繰返]を選択すると、文書の先頭から読み上げを開始します。



補足

一度に読み上げる文節について(読み上げ時反転表示部)
基本的には「、」「。」で区切られた文節単位で読み上げます。但し、文節の長さが 128 文字を超えると、128 文字で区切って読み上げます。

文章を音声で読み上げる

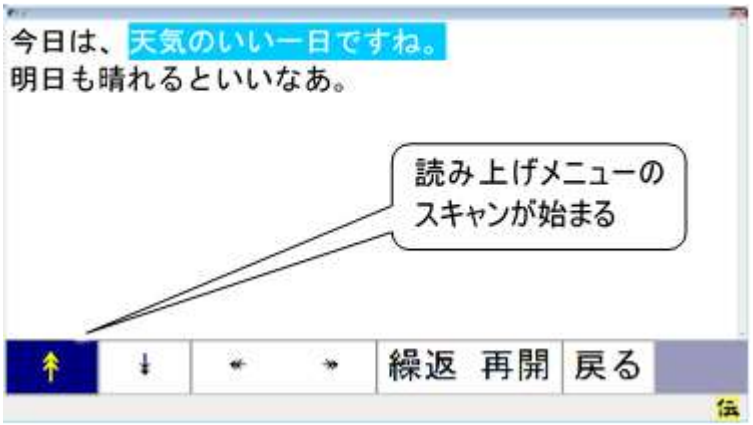
読み上げを中止して元の画面に戻る

間違えて読み上げにしてしまった場合や、長い文章の読み上げを途中で止めたい場合、読み上げメニューから読み上げを中止して、元の画面に戻ることができます。

1

■スイッチモードの場合
読み上げ中にスイッチ入力を行なって、読み上げを一時停止させてください。

■タッチモードの場合
読み上げ中に読み上げメニューをクリックして、読み上げを一時停止させてください。

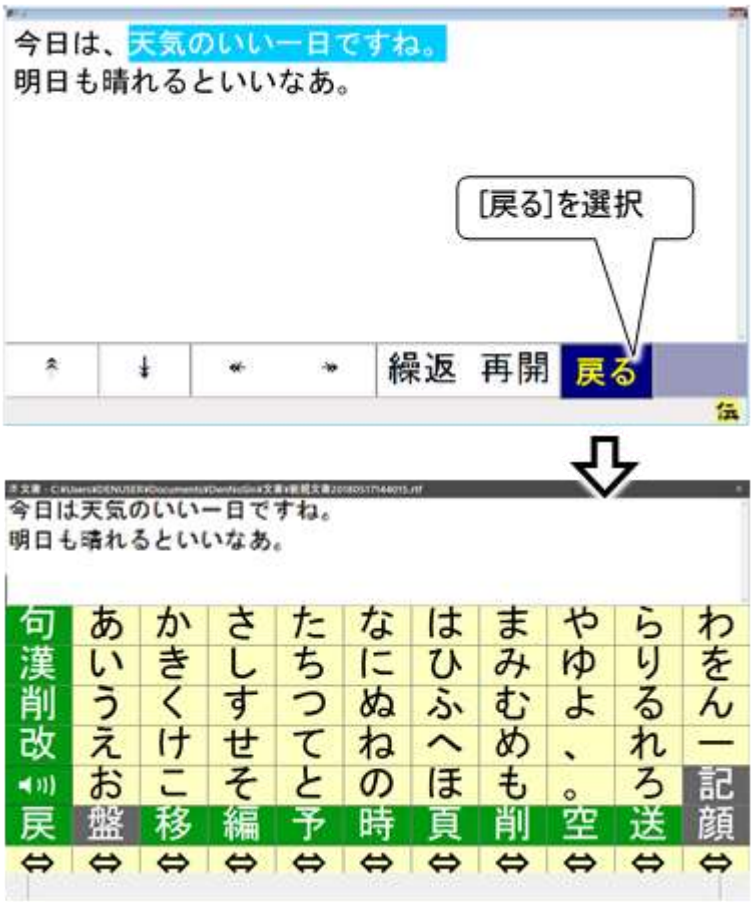


2

スイッチモードの場合は
読み上げが一時停止すると、読み上げメニューのスキャンが始まります。

3

読み上げメニューの[戻る]を選択すると、元の画面に戻ります。



文章を音声で読み上げる

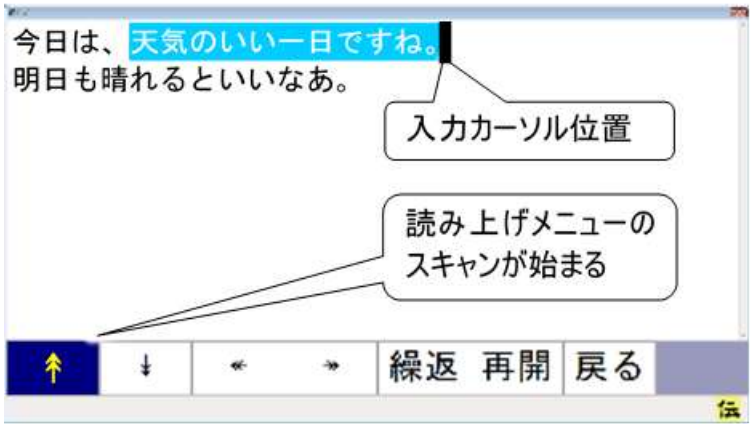
好きな位置から読み上げる

読み上げを開始する位置を自由に選ぶことができます。

1

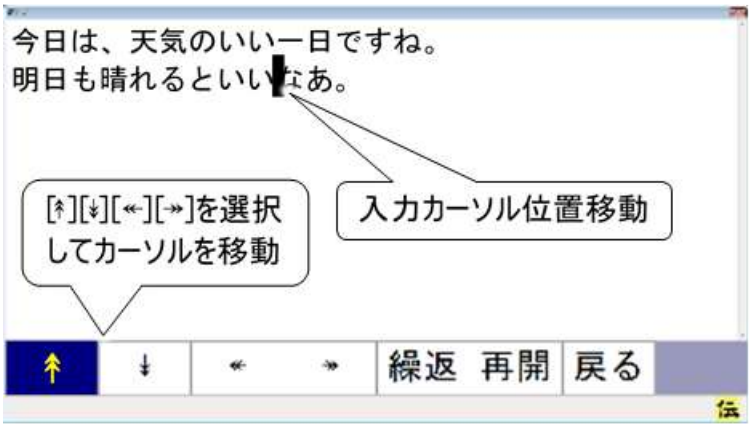
■スイッチモードの場合
読み上げ中にスイッチ入力を行なって、読み上げを一時停止させてください。

■タッチモードの場合
読み上げ中に読み上げメニューをクリックして、読み上げを一時停止させてください。
読み上げ中にスイッチ入力を行なって、読み上げを一時停止させてください。



2

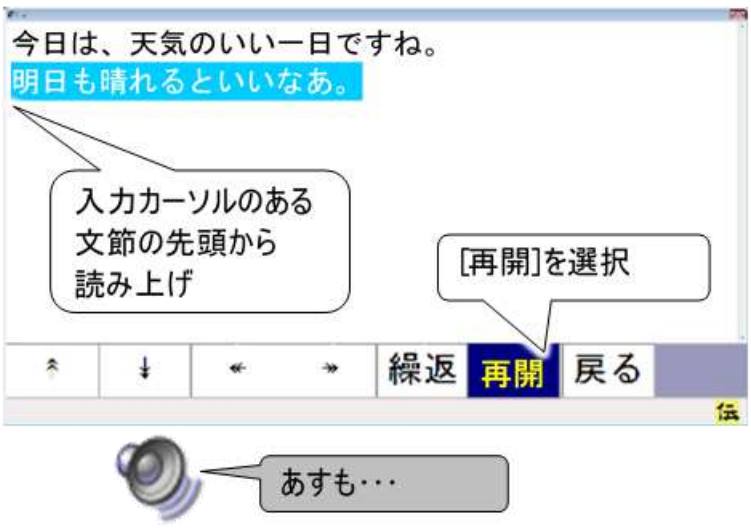
スイッチモードの場合は
読み上げが一時停止すると、読み上げメニューのスキャンが始まります。



3

読み上げメニューの[↑][↓][←][→]を選択して入力カーソルを移動し、読み上げを開始したい位置に移動させます。

※スイッチモードの場合、
入力カーソルの移動は、再度のスイッチ入力で停止します。



4

読み上げメニューの[再開]を選択すると、入力カーソルのある文節の先頭から読み上げを開始します。

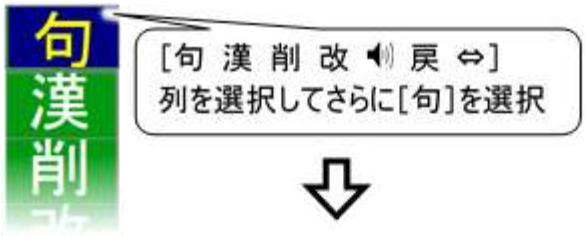
文章を音声で読み上げる

定型句を読み上げる

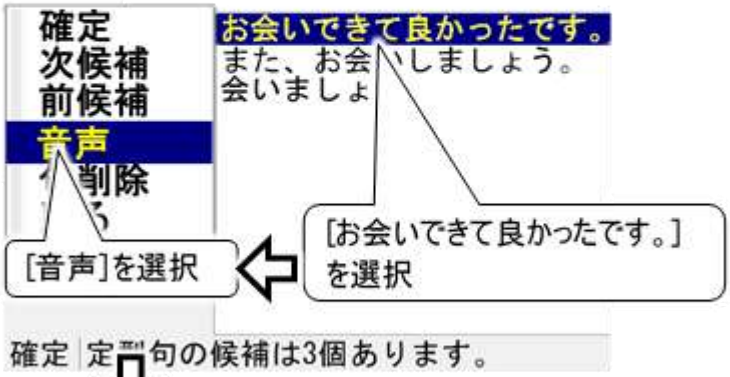
文書画面や会話画面で選択した定型句を読み上げることができます。
では、「お会いできて良かったです。」という定型句を読み上げてみましょう。

1 ひらがな文字盤で、「あい」と入力します。
入力の方法は 68 ページの「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」の項を参照してください。

2 [句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、さらに[句]を選択します。
文字盤が定型句入力画面に切り替わります。



3 定型句リストから[お会いできて良かったです。] を選択すると、サブメニューが表示されるので、［音声］を選択します。



4 スピーカより、「お会いできて良かったです。」と音声が出力されます。

5 文字盤に戻る場合は、③で表示されるサブメニューの[戻る]を選択してください。

文章を音声で読み上げる

会話文字盤で会話をする

会話画面の会話文字盤で、「こんにちは」という文を作成し、読み上げてみましょう。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューで[会話]を選択すると、会話画面を表示するので、68 ページの「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」項を参照して、編集域に「こんにちは」と入力します。

2 次に[さ し す せ そ 🔊 ⇔]列を選択して、[🔊]を選択します。

3 画面が読み上げ画面に切り替わり、文字が反転表示され、スピーカより、「こんにちは」と音声が出力されます。

4 読み上げが終了すると、画面は自動的に元の画面に戻り、文字盤が表示されます。

5 再度、読み上げを行う場合は、[🔊]を再度選択してください。

文章を音声で読み上げる

補足	**読み上げの一時停止** スイッチモードの場合 読み上げ中にスイッチ入力が行なわれると、読み上げが一時停止します。 タッチモードの場合 読み上げ中に読み上げメニューのクリックが行なわれると、読み上げが一時停止します。 **読み上げの再開** 読み上げが一時停止している状態で、読み上げメニューの選択が可能になりますので、[再開]を選択すると、読み上げを停止した文節の先頭から読み上げを開始します。 **任意の位置からの読み上げの開始** 読み上げを一時停止し、読み上げメニューの[↑][↓][←][→]を選択して入力カーソルを移動し、読み上げを開始したい位置に移動させ、[再開]を選択すると、入力カーソルのある文節の先頭から読み上げを開始します。 **最初から読み上げ** 読み上げを一時停止し、[繰返]を選択すると、テキスト先頭から読み上げを開始します。 **読み上げの中止** 読み上げを一時停止し、[戻る]を選択すると、元の画面に戻ります。 また、読み上げが終了した場合は、自動的に元の画面に戻ります。
参照	**読み上げの一時停止/再開、最初から読み上げ** 142 ページの「読み上げを一時停止／再開する」を参照ください。 **読み上げの中止** 142 ページの「読み上げを一時停止／再開する」を参照ください。 **任意の位置からの読み上げの開始** 145 ページの「好きな位置から読み上げる」を参照ください。
補足	会話画面で入力した会話の内容は、「伝の心」文書の「会話」フォルダに自動的に保存されます。104 ページの「保存した文書を呼び出す」を参照して内容を読み出すこともできます。 会話ファイルは日付毎に保存されています。 （例：2020 年 12 月 1 日の会話ファイルのファイル名は「20201201.log」）
注意	会話文字盤で文字入力を行った場合、直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、直前の入力文字に置き換わります）。ご注意ください。
注意	読み上げを行った場合、直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、読み上げた文章に置き換わります）。ご注意ください。

メニューや文字盤を読み上げる

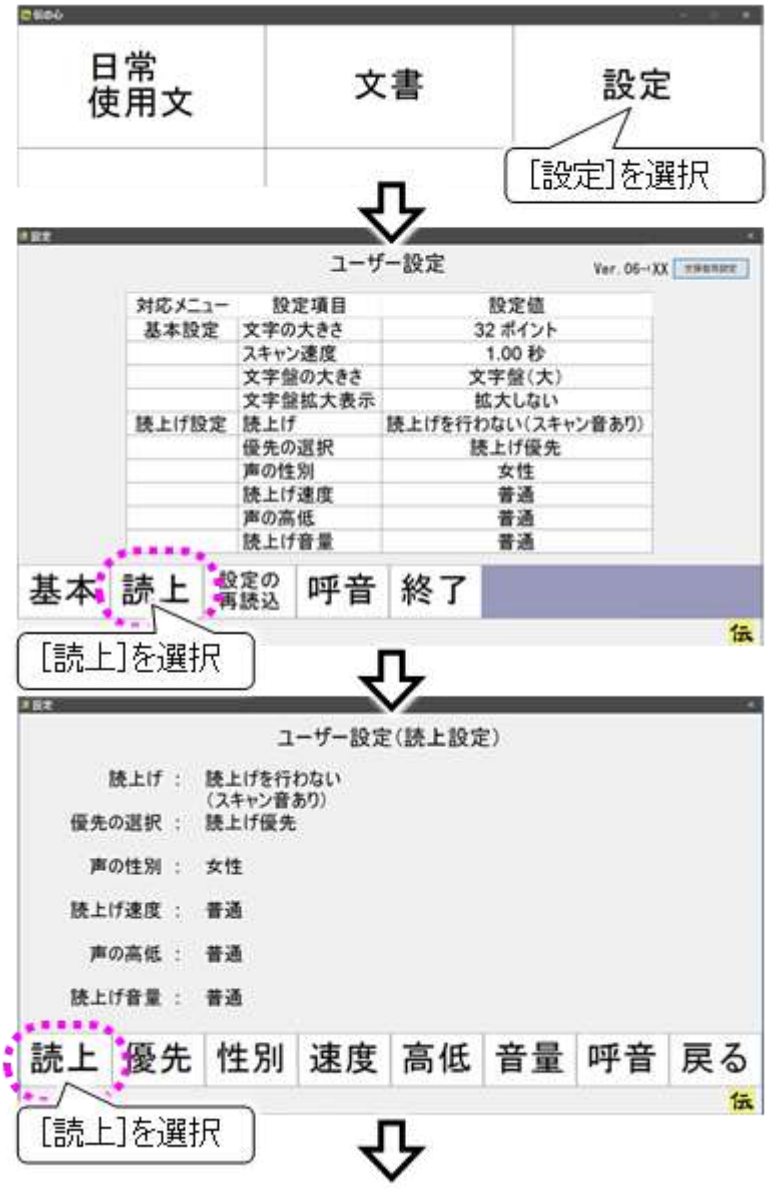
「伝の心」ではメニューや文字盤の上をスキャンカーソルが上下、左右の方向に移動しています。この動きに合わせて文字盤やメニューを読み上げることができます。ご購入時の設定は、スキャンカーソルの動きに合わせてスキャン音（“ピッ”という短い音）が鳴る設定になっています。

制限	伝の心設定画面を表示する前に、メインメニュー以外の画面を全て終了させてください。（[終了]メニューを選択）終了していないと、終了を促す確認メッセージが表示され、伝の心設定画面は表示されません。
制限	ブラウザ操作画面のメニューとウィンドウズ操作画面のメニューは、音声読み上げは行いません。 また、タッチモードの場合は、メニューの読み上げは行いません。ただし文字盤に関しては、「読上げを行う」の設定の場合、文字を編集領域に入力する際に入力する文字を読み上げます。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択すると、伝の心ユーザー設定画面を表示します。

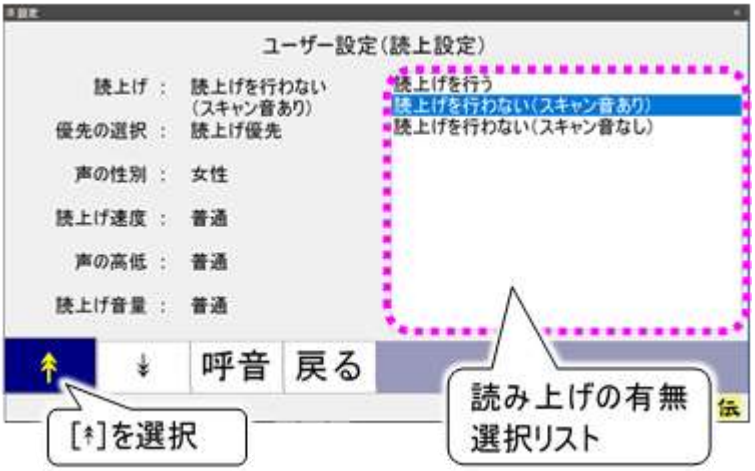
2 ユーザー設定画面のトップメニューより[読上]を選択すると、読上設定画面に切り替わります。

3 さらに、読上設定画面のメニューより[読上]を選択すると、読上選択画面に切り替わります。

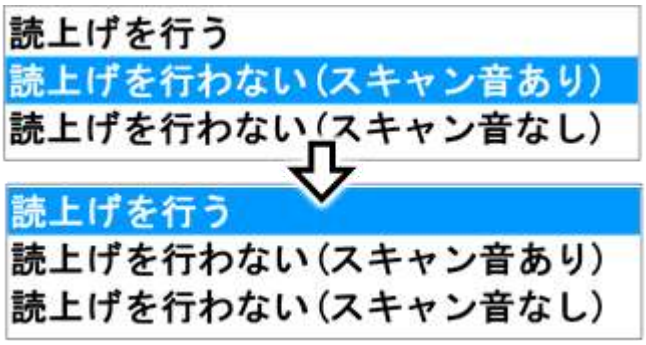


メニューや文字盤を読み上げる

4 読上の有無選択画面の右側には読み上げの有無選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。



5 ご購入時の設定の場合、読上選択画面のメニューの[↟]を選択して、読み上げの有無選択リストの反転表示行を１行上に上げ、[読上げを行う]を反転表示にします。



6 次に[戻る]を選択して読上設定画面に戻り、さらに[戻る]の選択で設定画面に戻ります。

7 [終了]を選択すると、変更確認画面を表示します。[はい]を選択すると、設定が反映されて「伝の心」が再起動(一度終了して再度起動)します。

設定中は「設定を反映しています。しばらくお待ちください」画面を表示します。

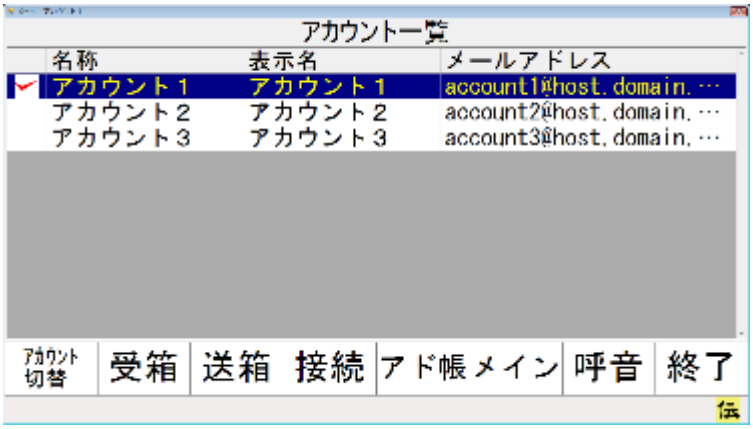
8 スキャンカーソルの動きに合わせて、文字盤やメニューを読み上げる設定になりました。

メールの内容を読み上げる

「伝の心」のメールの機能を使うと、表示したメールの内容を読み上げることができます。

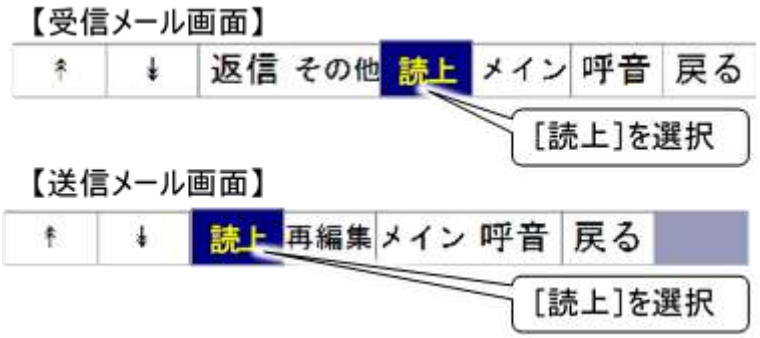
制限	電子メールを利用するためには、最初にインターネットの設定を行ってください。設定の方法は 320 ページの「はじめにお読みください」を参照ください。 また、ご購入時の設定では、メールはメインメニューにありません。222 ページの「再起動のメニューを有効にする」を参照して、メインメニューに追加してください。
注意	読み上げを行った場合、直前の文書のコピーは取り消されます（コピー（複写）した内容は、読み上げた文章に置き換わります）。ご注意ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[メール]を選択すると、電子メールメイン画面が表示されます。



2 334 ページの「受信メールの選択」または 344 ページの「保存したメールを開く（メールの再編集）」を参照して、読み上げたいメールを表示させます。

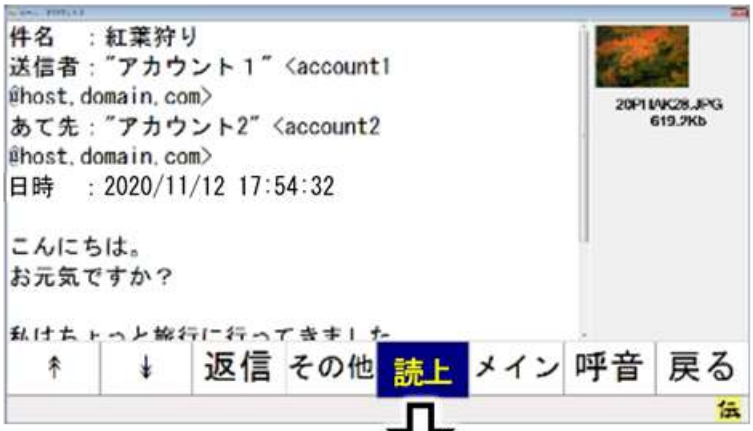
3 受信メールの場合は、受信メール画面のメニューより[読上]を、送信メールの場合は、送信メール表示画面のメニューより[読上]を選択します。

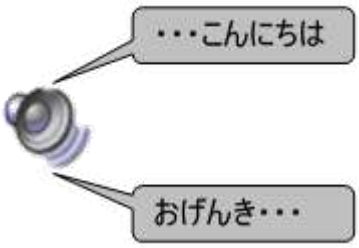


メールの内容を読み上げる

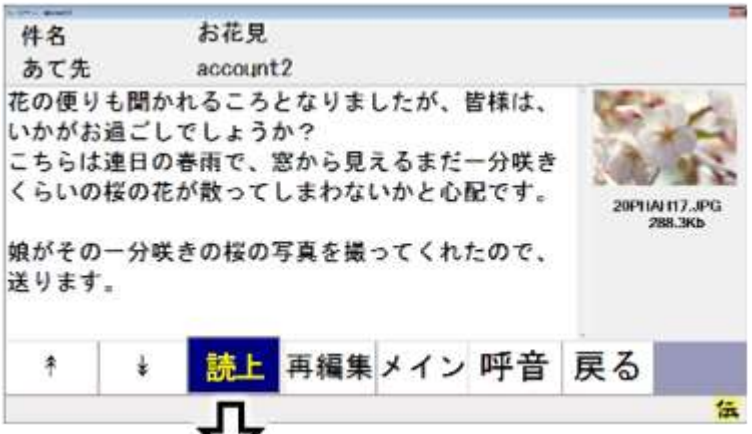
4 画面が読み上げ画面に切り替わって、メールの内容を先頭から読み上げます。

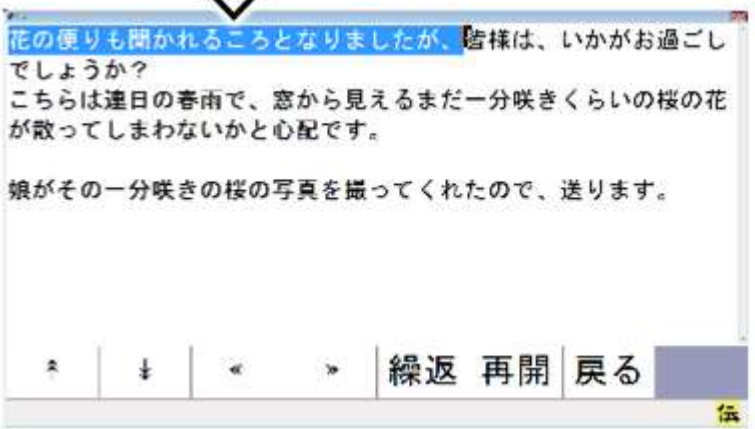
【受信メール画面】→

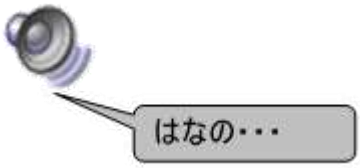




【送信メール表示画面】→







5 読み上げが終了すると、画面は自動的に元に画面に戻ります。

メールの内容を読み上げる

6 再度、読み上げを行う場合は、メニューより[読上]を選択してください。

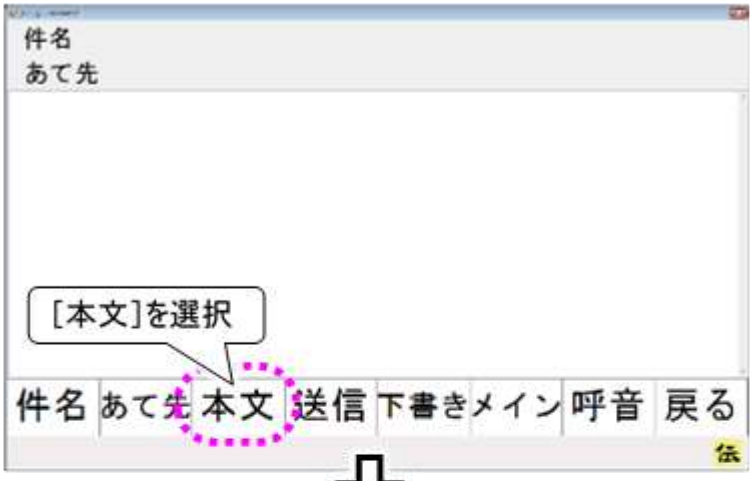
補足	**読み上げの一時停止** スイッチモードの場合 読み上げ中にスイッチ入力が行なわれると、読み上げが一時停止します。 タッチモードの場合 読み上げ中に読み上げメニューのクリックが行なわれると、読み上げが一時停止します。 **読み上げの再開** 読み上げが一時停止している状態で、読み上げメニューの選択が可能になりますので、[再開]を選択すると、読み上げを停止した文節の先頭から読み上げを開始します。 **任意の位置からの読み上げの開始** 読み上げを一時停止し、読み上げメニューの[↑][↓][←][→]を選択して入力カーソルを移動し、読み上げを開始したい位置に移動させ、[再開]を選択すると、入力カーソルのある文節の先頭から読み上げを開始します。 **最初から読み上げ** 読み上げを一時停止し、[繰返]を選択すると、テキスト先頭から読み上げを開始します。 **読み上げの中止** 読み上げを一時停止し、[戻る]を選択すると、元の画面に戻ります。 また、読み上げが終了した場合は、自動的に元の画面に戻ります。
参照	**読み上げの一時停止/再開、最初から読み上げ** 142 ページの「読み上げを一時停止／再開する」を参照ください。 **読み上げの中止** 142 ページの「読み上げを一時停止／再開する」を参照ください。 **任意の位置からの読み上げの開始** 145 ページの「好きな位置から読み上げる」を参照ください。

メールの内容を読み上げる

編集中のメールを読み上げる

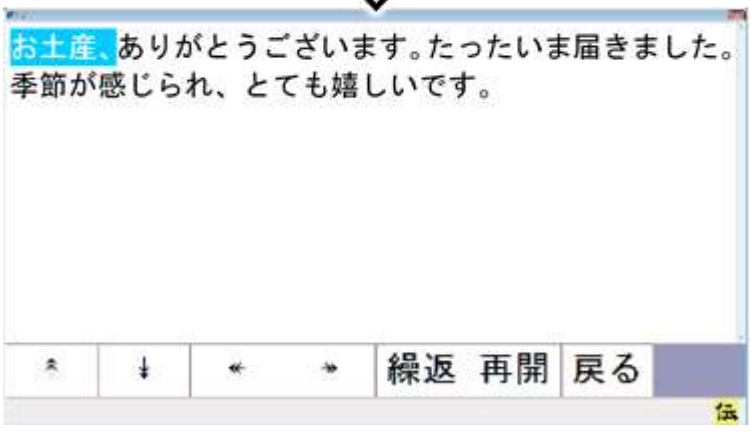
メールの作成中に、今書いているメールの内容を読み上げることができます。

1 339 ページの「メールの作成」を参照して、送信メール編集画面を表示します。



2 メニューより[本文]を選択して文字盤を表示し、メールの本文を作成します。

3 文字盤より[句 漢 削 改 戻 ⇔]列を選択して、[🔊]を選択します。
画面が読み上げ画面に切り替わり、メールの内容を先頭から読み上げます。



4 読み上げが終了すると、画面は自動的に元に画面に戻り、文字盤が表示されます。

5 再度、読み上げを行う場合は、[🔊]を再度選択してください。

補足	**文章に未確定文字列（文字下に破線表示）がある場合** 未確定文字列のみを読み上げ、画面は読み上げ画面に切り替わりません。 詳細は、140 ページの「編集中の未確定文字列（文字下に破線表示）を読み上げる」に記載されています。

呼び出し音を鳴らす

「伝の心」のほとんどの画面から、呼び出し音（ブザー）を鳴らすことができます。少し離れたところにいる相手に素早く注意を促したり、呼び出したりするために用いると便利です。

⚠ 警告	呼び出し音の機能を、ナースコールなど生命維持に関わる用途や医療補助具等としての用途に使用しないでください。万一事故などが発生した場合には、当社は一切の責任を負いかねます。

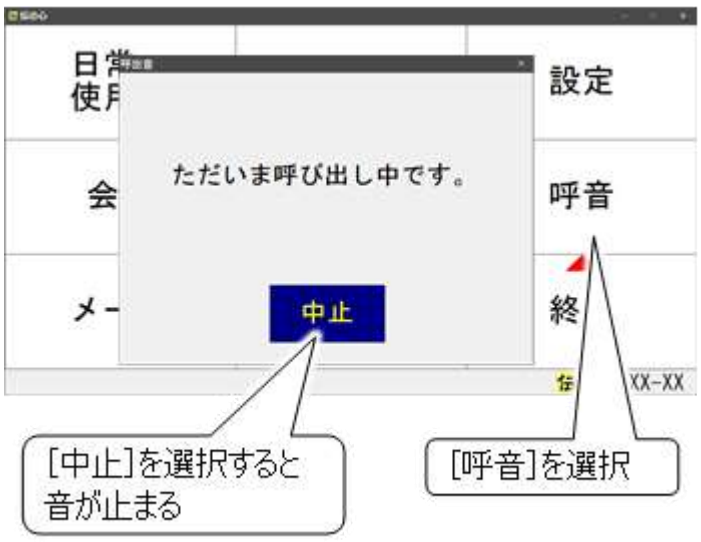
■ 呼び出し音を鳴らすことの可能な画面一覧

画面名称	表示方法
トップ画面	「伝の心」の起動時に表示されます。
文書画面	トップ画面のメインメニューで[文書]を選択し、さらに文書画面で[その他]を選択すると表示されます。
会話画面	トップ画面のメインメニューで[会話]を選択、さらに会話画面で[戻]を選択すると表示されます。
日常使用文画面	トップ画面のメインメニューで[日常使用文]を選択すると表示されます。
リモコン操作画面	トップ画面のメインメニューで[リモコン]を選択すると表示されます。
伝の心設定画面	トップ画面のメインメニューで[設定]を選択すると表示されます。
電子メール画面	トップ画面のメインメニューで[メール]を選択すると表示されます。
ホームページ閲覧画面	トップ画面のメインメニューで[応用操作]を選択して、さらにサブメニューより[ブラウザ操作]を選択すると表示されます。
Windows 操作画面	トップ画面のメインメニューで[応用操作]を選択して、さらにサブメニューより[Windows 操作]を選択すると表示されます。

それでは、トップ画面で呼び出し音（ブザー）を鳴らしてみましょう。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより、[設定 呼音 終了]列を選択し、さらに[呼音]を選択します。

2 呼出音画面を表示して、呼び出し音（ブザー）を鳴らし始めます。
[中止]を選択（もう一度スイッチ入力）すると音が止まります。



文章をプリンターで印刷する

ここでは、「伝の心」で作成した文書印刷方法について説明します。
ただし、ご購入の型式によっては印刷機能のないもの（プリンターなしの機種）もあります。その場合はこの章の機能はご使用になれません。

印刷の方法

入力した文章をプリンターから印字してみましょう 21 ページの「プリンターの接続（プリンター有の機種のみ）」の章を参考に、システム装置とプリンターをつないでください。

1 文書画面のトップメニューより[印刷]を選択すると、印刷画面が表示されます。

2 印刷画面のメニューより[印刷]を選択すると、画面右に表示されているプレビューのイメージで、印刷されます。

補足

印刷時に表示サイズと違う文字サイズを使用する場合

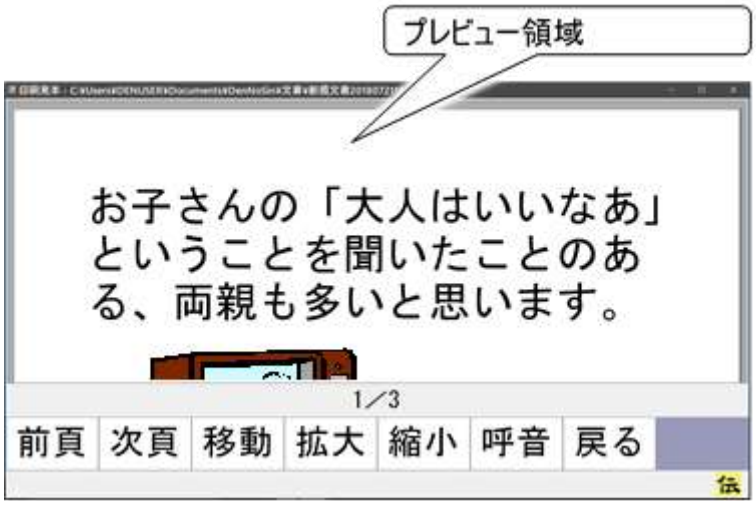
印刷ページ設定画面で、「印刷フォントサイズで印刷」を選択し、フォントサイズを設定すると、文書画面で表示されている文字サイズではなく、印刷ページ設定画面で設定した印刷フォントサイズで印刷されます。

詳細は、163 ページの「印刷色／用紙サイズ／余白の設定」を参照ください。

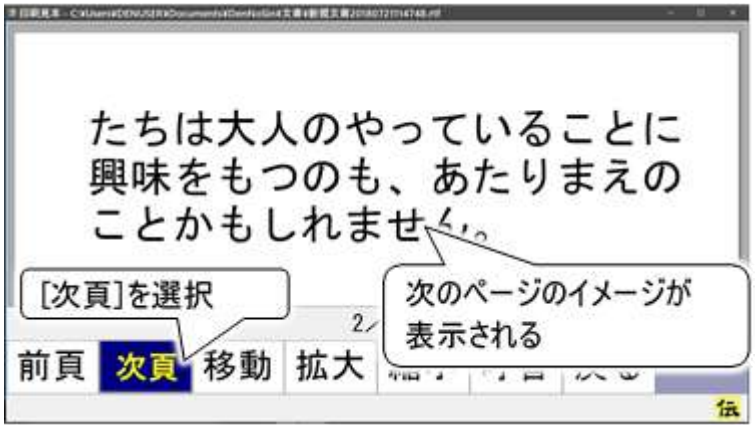
印刷イメージの確認

印刷を行う前に、どのような印刷物（印刷イメージ）ができあがるのか確認することができます。

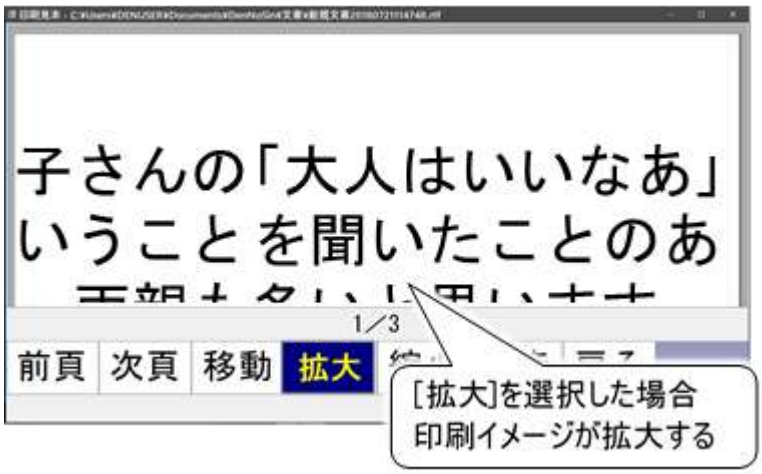
1 158 ページの「印刷の方法」で表示した印刷画面のメニューより[見本]を選択すると、印刷見本画面が表示され、プレビュー領域に1ページ目の印刷イメージが表示されます。



2 メニューより[次頁]を選択すると、次のページのイメージが表示されます。
[前頁]を選択すると前のページのイメージが表示されます。



3 メニューより[拡大]を選択すると、印刷イメージを拡大表示します。
[縮小]を選択すると、印刷イメージを縮小表示します。



印刷イメージの確認

4 メニューより[移動]を選択すると、メニューが移動メニューに切り替わります。

5 移動メニューより[頁右][頁左][頁下][頁上]を選択して、プレビュー領域の表示内容を上下左右にスクロールさせることができます。
上下左右に隠れていた表示内容を見る場合に、これを選択します。

表記	機能概要
頁右	プレビュー領域の表示内容を右にスクロールさせます。(注 44)
頁左	プレビュー領域の表示内容を左にスクロールさせます。(注 44)
頁下	プレビュー領域の表示内容を下にスクロールさせます。(注 44)
頁上	プレビュー領域の表示内容を上にスクロールさせます。(注 44)

参照

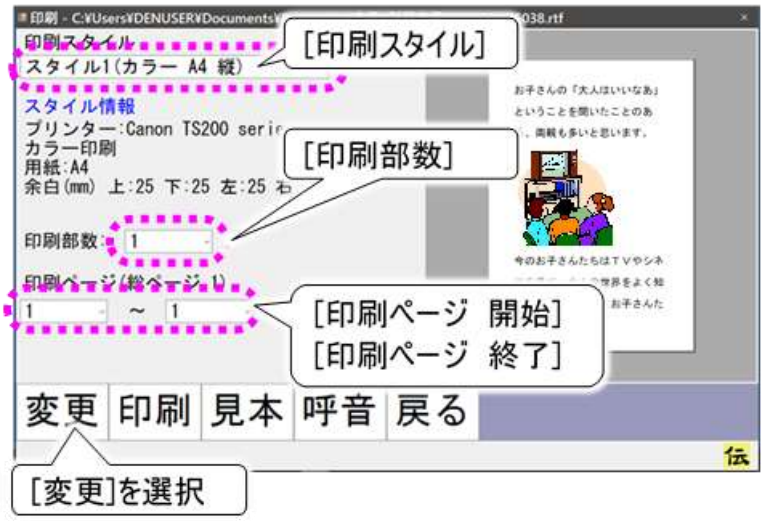
(注44)スイッチモードの場合
次のスイッチ入力があるまで、連続実行します。
連続入力の間隔の設定は 211 ページの「文字盤やメニューリストの移動間隔」を参照ください。
タッチモードの場合
1 回だけスクロールします。

用紙の設定

■ スイッチモードの場合

1 印刷画面のメニューより[変更]を選択すると、[印刷スタイル]→[印刷部数]→[印刷ページ　開始]→[印刷ページ　終了]の順番にスキャンカーソルが移動を始めるので、[印刷スタイル]のところでもう一度スイッチ入力します。

2 [印刷スタイル]の下に印刷スタイルリストが表示され、リストの先頭からスキャンカーソルが移動を始めます。



3 設定したいスタイルのところで、もう一度スイッチ入力します。

■ タッチモードの場合

1 印刷画面のメニューより[印刷スタイル]を選択すると、メニューが印刷スタイルメニューに変更されます。

2 [↑]または[↓]を選択すると、印刷スタイルが選択する度に切り替わります。

3 設定したいスタイルの表示になったら、[戻る]を選択して印刷メニューに戻ります。

印刷の設定

参照 印刷スタイルの設定は 163 ページの「印刷色／用紙サイズ／余白の設定」で説明します。

印刷部数と印刷ページの設定

■ スイッチモードの場合

1 「用紙の設定」と同様に、印刷画面のメニューより[変更]を選択して、次に[印刷部数]のところでもう一度スイッチ入力します。

2 [印刷部数]の下に印刷部数リスト（1～10，15，20，30）が表示され、リストの先頭からスキャンカーソルが移動を始めます。

3 印刷したい部数のところで、もう一度スイッチ入力します。

4 同様にして、[印刷ページ　開始]と[印刷ページ　終了]を設定します。

■ タッチモードの場合

1 用紙の設定」と同様に、[印刷部数]を選択すると、メニューが印刷部数メニューに変更されます。

2 [↑]または[↓]を選択すると、印刷部数（1～10，15，20，30）が選択する度に切り替わります。

3 印刷したい部数の表示になったら、[戻る]を選択して印刷メニューに戻ります。

4 同様にして、[印刷ページ　開始]と[印刷ページ　終了]を設定します。

印刷色／用紙サイズ／余白の設定

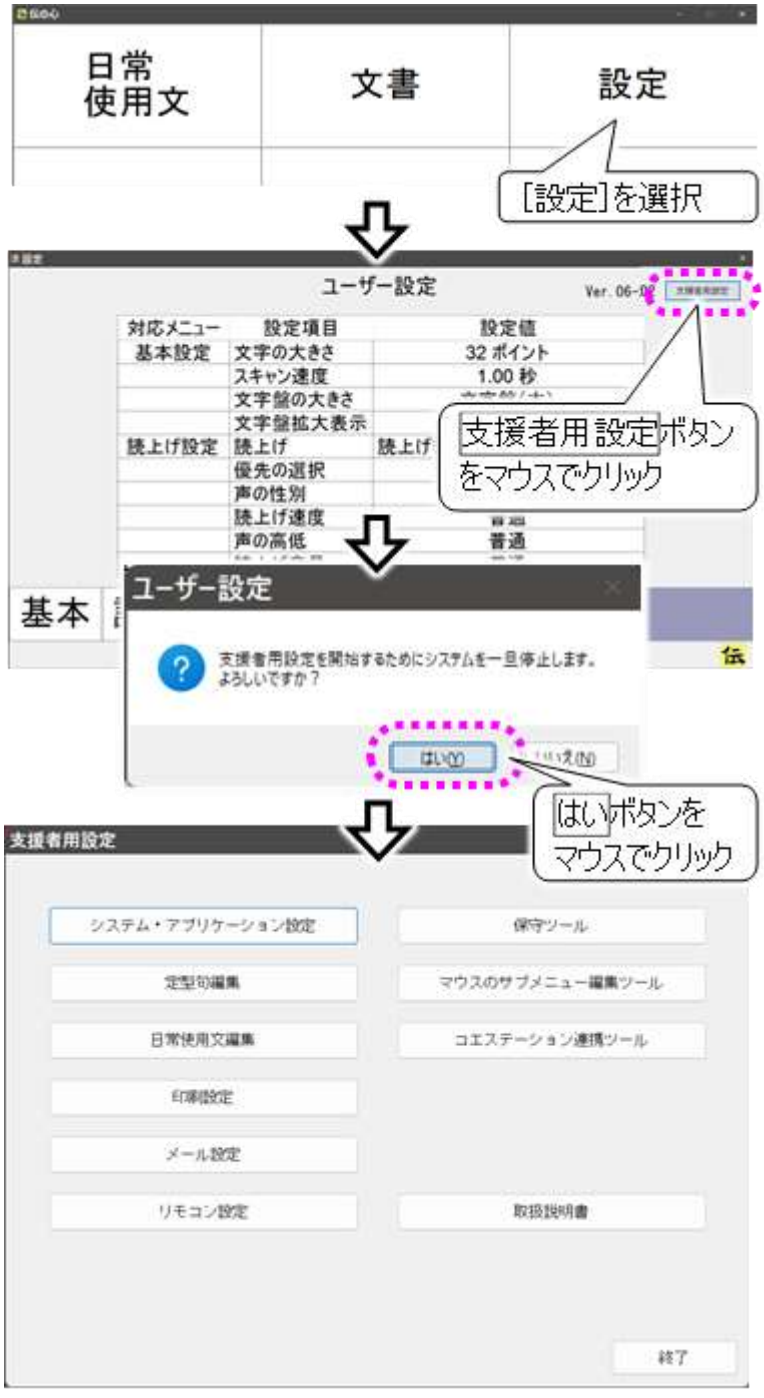
印刷色／用紙サイズ／余白の設定は、支援者用設定画面から行います。マウス操作になりますので、ご注意下さい。

制限	伝の心設定画面を表示する前に、メインメニュー以外の画面を全て終了させてください。（[終了]メニューを選択）終了していないと、終了を促す確認メッセージが表示され、伝の心設定画面は表示されません。

1 伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択します。

2 伝の心設定画面が表示されるので、画面右上の支援者用設定ボタンをマウスでクリックしてください。

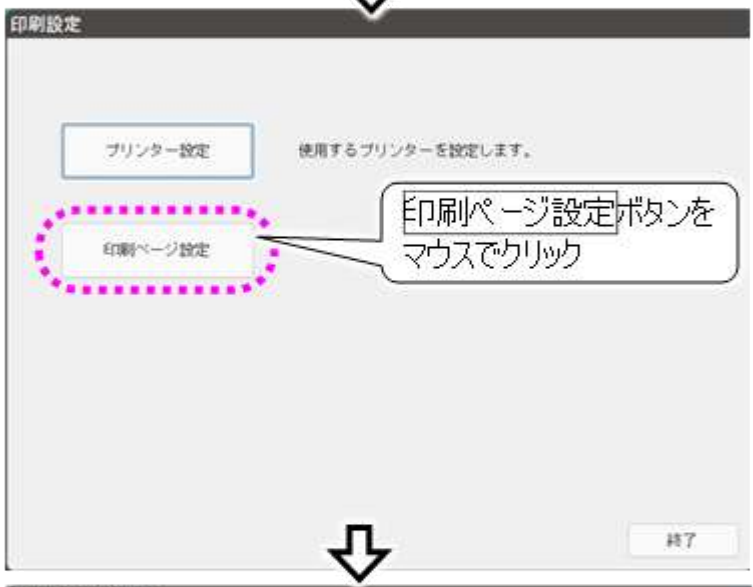
3 確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面が表示されます。



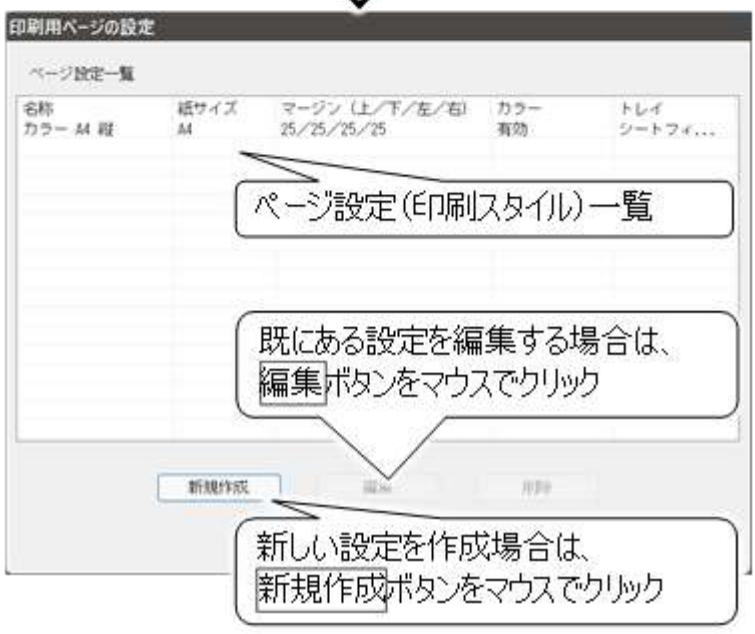
印刷の設定

4 支援者用設定画面の印刷設定ボタンをマウスでクリックすると、印刷設定画面が表示されます。

5 印刷設定画面の印刷ページ設定ボタンをマウスでクリックすると、印刷ページ設定画面が表示されます。



6 既にある設定を編集する場合は、[ページ設定一覧]より編集する設定をマウスでクリックして、編集ボタンをマウスでクリックします。
新しくページ設定を作成する場合は、新規作成ボタンをマウスでクリックします。



7 印刷ページ設定画面が表示されます。
印刷ページ設定画面で編集ボタンをマウスでクリックした場合は、既にある設定の内容が画面に表示されます。

8 [ページ名称][色][サイズ][トレイ][マージン]を設定して、決定ボタンをマウスでクリックすると、印刷ページ設定画面に戻ります。

設定項目	説明
ページ名称	印刷画面の[印刷スタイル]に表示される名称。 設定が分かりやすい名称を付けましょう。
色	印刷色。 カラーとモノクロ（白黒）が選べます。
サイズ	印刷用紙サイズ。 ご使用のプリンターによって、選択できる内容は異なります。
トレイ	プリンターの用紙トレイ。 ご使用のプリンターによって、選択できる内容は異なります。
マージン	余白の設定。 入力可能な範囲は、10～99mm です。
印刷フォントサイズ	印刷する時の文字サイズ。 選択可能なサイズは、40, 32, 26, 20, 18, 14, 12, 10 です。 「表示フォントサイズと同じ」に設定すると、文書の画面で表示されている通りのサイズ・字体・文字の装飾で印刷されます。

注意

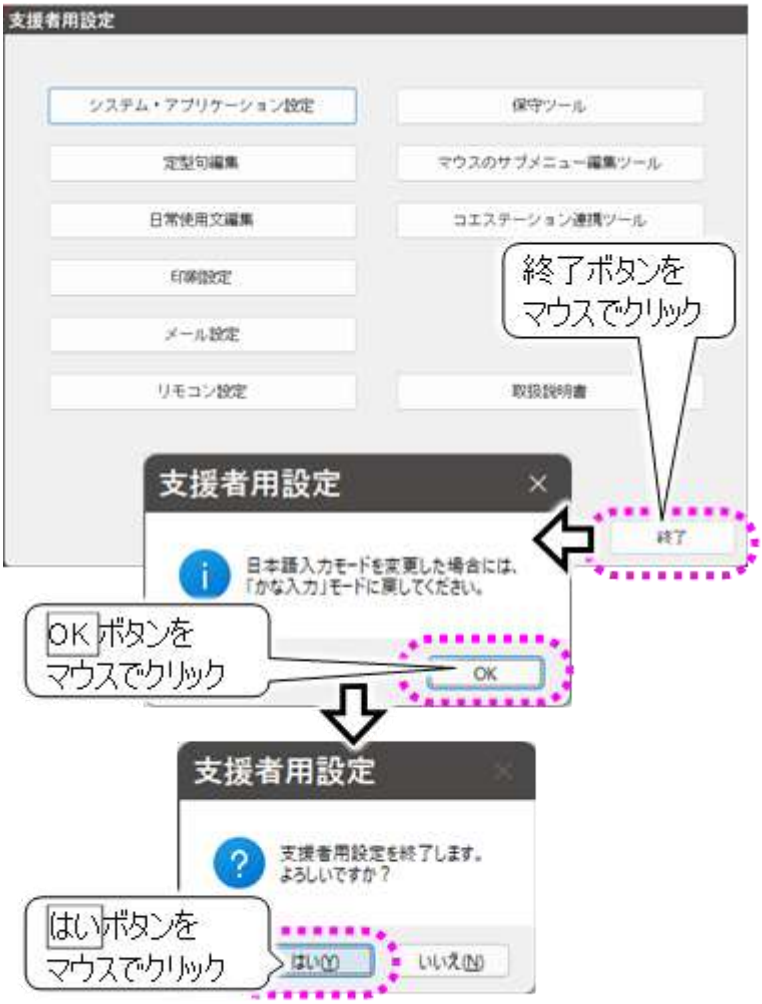
「印刷フォントサイズで印刷」について
「印刷フォントサイズで印刷」に設定すると、字体の種類は「MS ゴシック」で印刷されます。文字の装飾(太字・斜体・取消線等)は、印刷時は適用されませんのでご注意ください。
また、上記の設定は全てのページ設定（印刷スタイル）に適用されますので、ご注意ください。

印刷の設定

9 印刷ページ設定画面の終了ボタンをマウスでクリックすると、印刷設定画面に戻るので、ここでも終了ボタンをマウスでクリックします。

確認メッセージが表示されるので、はいボタンをマウスでクリックします。

10 支援者用設定画面に戻ります。ここで終了ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、OK→はいボタンを順にマウスでクリックしてください。



11 支援者用設定画面が閉じて、設定が反映されます。設定中は「設定を反映しています。しばらくおまちください」画面を表示します。

プリンターの変更

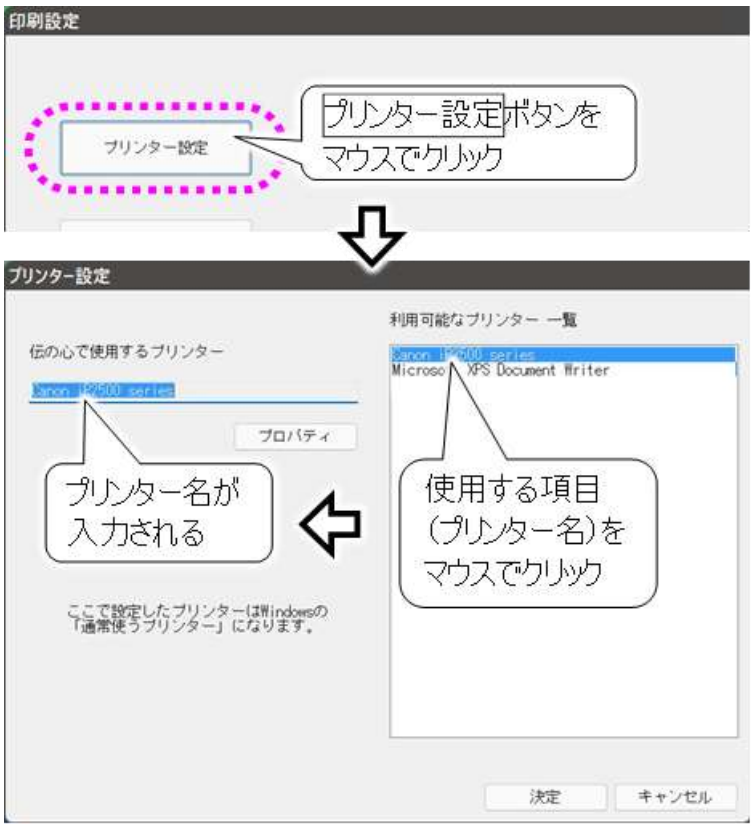
「伝の心」で使用するプリンターを選択／変更できます。
ご購入時、プリンター有でご購入された場合は、ご購入のプリンターが選択されています。プリンターを変更する場合や、お客様で準備されたプリンターをご使用になる場合に、使用してください。

制限	プリンター有でご購入されたプリンター以外のプリンターをご利用になる場合は、別途、プリンタードライバのインストールが必要になります。詳細は、ご利用になるプリンターの取扱説明書をご覧ください。

1 163 ページの「印刷色／用紙サイズ／余白の設定」の①～④を参照して、印刷設定画面を表示します。

2 印刷設定画面の[プリンター設定]ボタンをマウスでクリックすると、プリンター設定画面が表示されます。

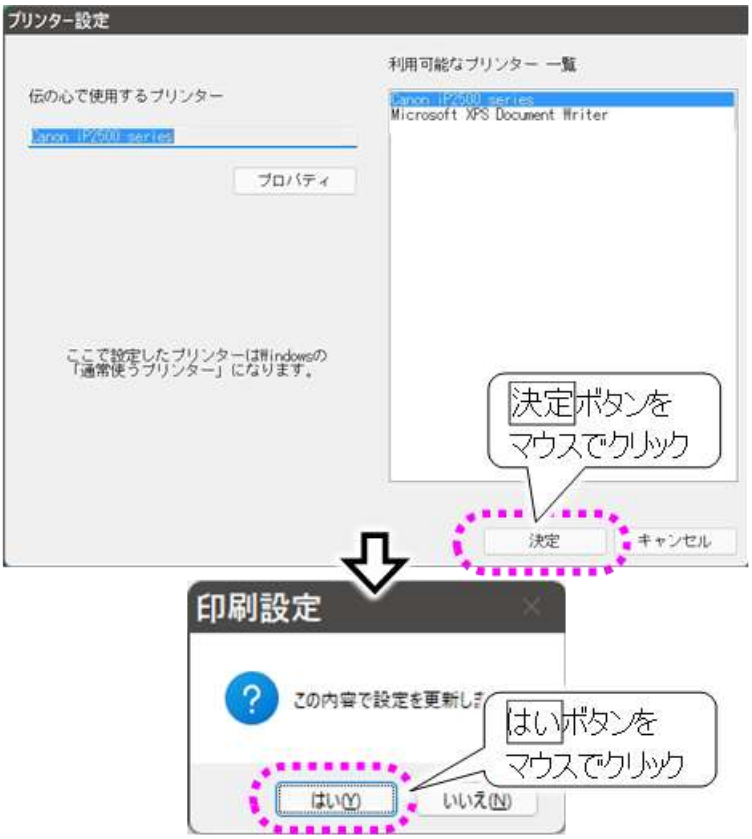
3 利用可能なプリンター一覧から、使用する項目（プリンター名）をマウスでクリックします。
「伝の心で使用するプリンター」にクリックされたプリンター名が入力されます。



制限	接続されていないプリンターを選択すると、「このプリンターは接続されていません。それでも使用しますか？」という警告メッセージが表示されます。

印刷の設定

4 決定ボタンをマウスでクリックすると、確認メッセージが表示されるので、はいボタンをマウスでクリックします。



5 印刷設定画面に戻るので、ここでも終了ボタンをマウスでクリックします。

6 163 ページの「印刷色／用紙サイズ／余白の設定」の⑨～⑪を参照して、設定を反映させます。

補足	**通常使うプリンター** プリンター設定画面で選択したプリンターは、Windows の通常使うプリンターに設定されます。
制限	接続されていないプリンターを選択すると、「このプリンターは接続されていません。それでも使用しますか？」という警告メッセージが表示されます。

リモコン操作を行う

ご家庭のリモコン機器を「伝の心」に登録することで、「伝の心」のスイッチ入力操作だけで登録したリモコン機器の操作が可能になります。
生活の行動範囲が広がる便利な機能です。

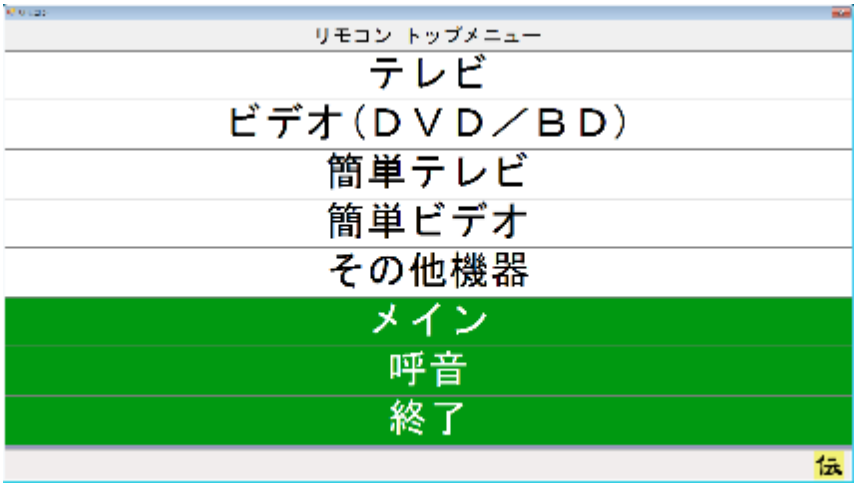
リモコン操作の概要

制限	機器のリモコン操作を行なう前に、あらかじめ支援者用設定で使用するリモコン機器の選択、リモコンデータの転送等を行なってください。
制限	基本的な機器のリモコンデータを登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。 動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。
参照	リモコンの設定は 239 ページの「リモコンの設定を行う」で説明します。 機能の一覧は「メニュー一覧」に記載されています。

リモコン操作の起動と終了

■ リモコン操作を始める

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。
始めて起動した場合は、リモコントップメニューを表示します。

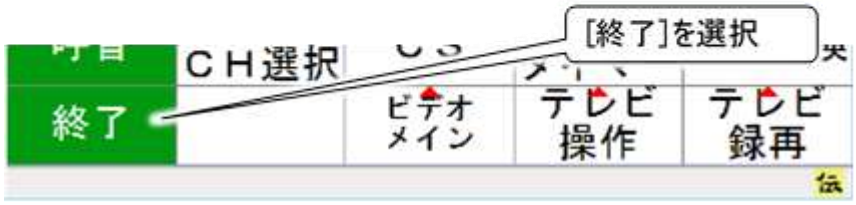


補足	前回、トップメニュー以外の画面から終了した場合は、終了した時のリモコン画面を表示します。

■ リモコン操作を終わる

1 リモコン画面のトップメニューまたは、各リモコン画面のメニューより[終了]を選択します。

2 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択します。



3 リモコン画面を終了して、「伝の心」トップ画面に戻ります。
次回リモコン操作開始時は、終了した画面から始まります。

リモコン画面の共通メニュー

リモコン画面の各パネルには、背景色が緑色の共通メニューがあります。この共通メニューの機能は以下の通りです。

テレビメインパネル	サブパネル	機能
リモコントップ	―――	リモコン画面のトップメニューを表示します。
前画面へ戻る	―――	一つ前の画面に戻ります。(注 45)
メイン	―――	「伝の心」トップ画面へ戻ります。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	リモコン画面を閉じます。 次回、リモコン画面表示時は、この画面から始まります。

補足	(注45)前画面が「伝の心」トップ画面の場合は、画面遷移はしません。
補足	**空欄(空白)のパネルボタンのスキャンについて** パネルボタンが空欄(空白)の場合でもスキャンカーソルの移動時、スキャン対象となります。空欄(空白)のスキャンのスキップは行われません。

テレビを操作する

制限	機器のリモコン操作を行なう前に、あらかじめ支援者用設定で使用するリモコン機器の選択、リモコンデータの転送等を行なってください。
制限	基本的な機器のリモコンデータを登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。 動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。
参照	リモコンの設定は 239 ページの「リモコンの設定を行う」で説明します。 機能の一覧は「メニュー一覧」に記載されています。

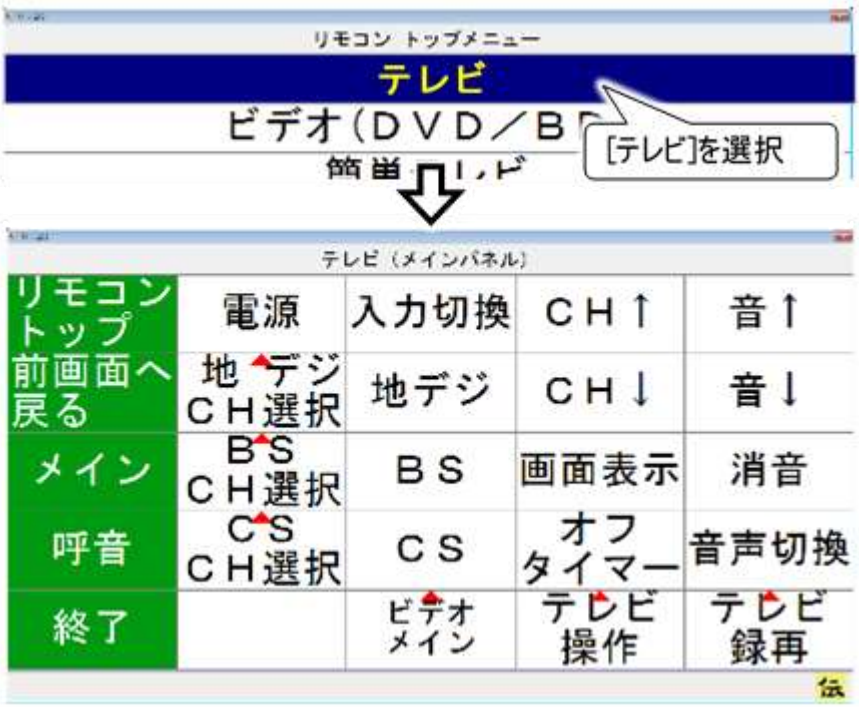
テレビのリモコン操作

参照	初めてご使用になる場合、又はテレビを変更された場合ははじめにリモコンの登録を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[テレビ]を選択すると、トップメニューがテレビメインパネルに切り替わります。

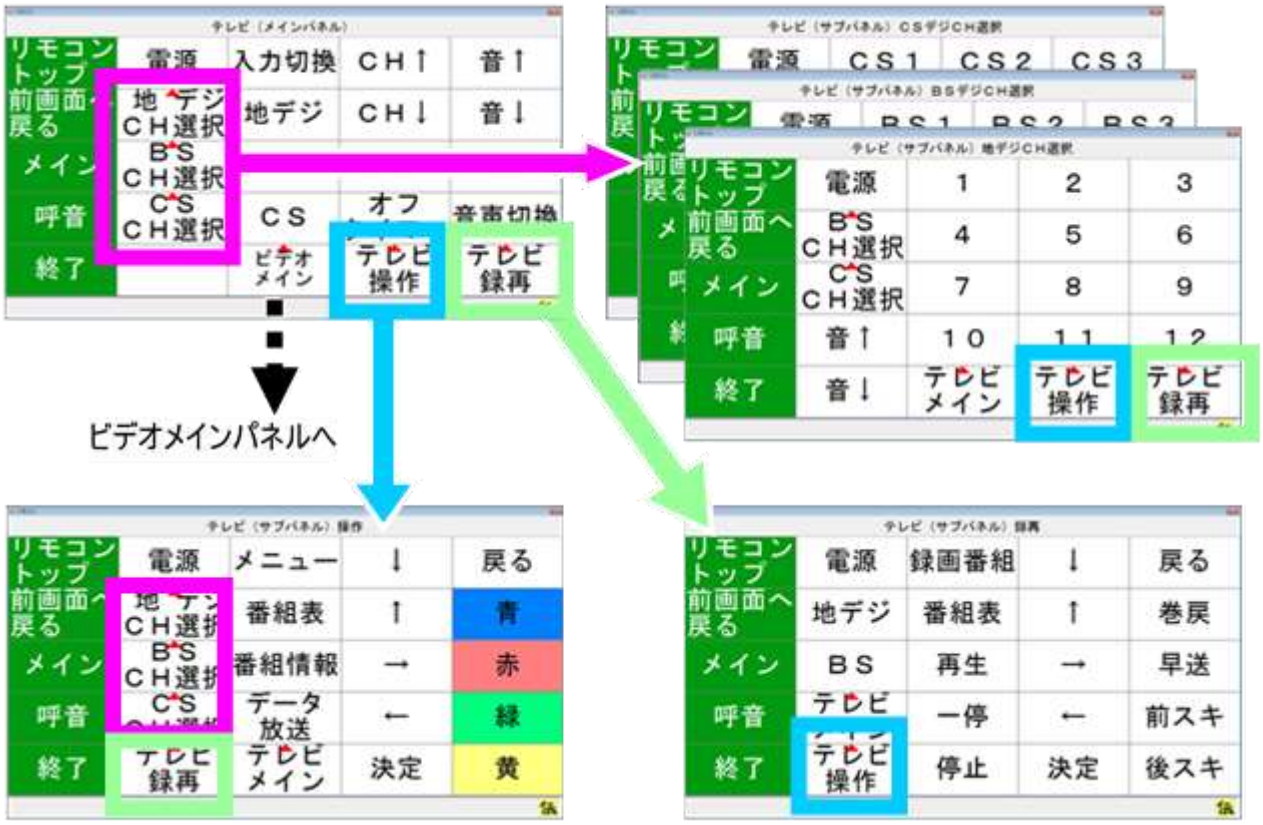
3 [電源]を選択すると、テレビの電源の入/切が行われます。



[地デジ　CH選択]、[BS　CH選択]または[CS　CH選択]を選択すると、CH選択パネルに切り替わります（チャンネル番号を選択できます）。
[テレビ操作]を選択すると、操作パネルに切り替わります（リモコンの番組表ボタンなどの機能が使えます）。

テレビパネルの構成

テレビパネルは、メインパネルと 5 種類のサブパネルで構成されています。また、メインパネルからはビデオパネルのメインパネルに切り替えることも可能です。
下図は、各パネルの遷移図を示しています。



テレビを操作する

テレビパネルの説明

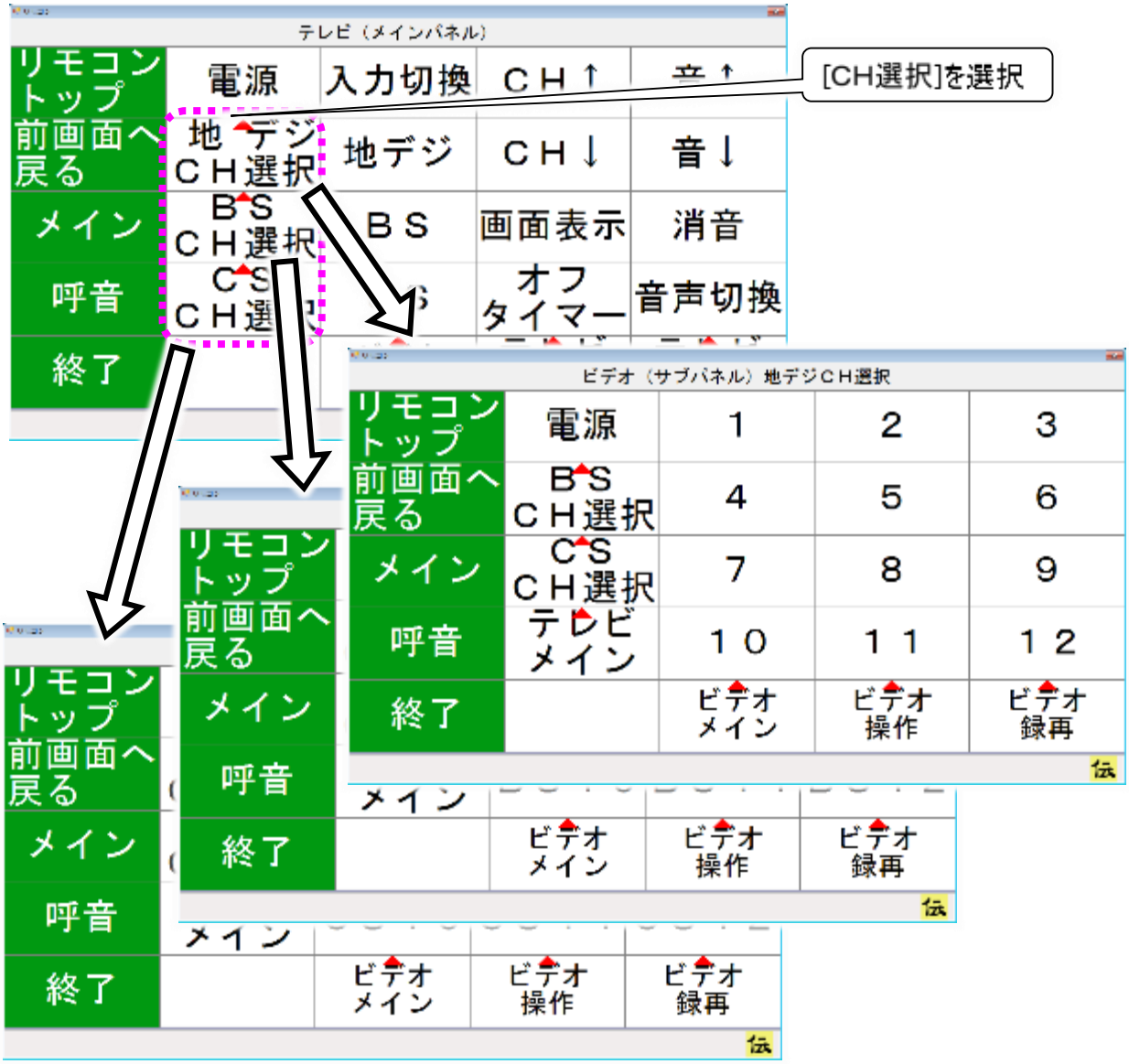
■ テレビメインパネル

テレビメインパネル	サブパネル	機能
電源	―――	テレビリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ CH選択	次頁参照	地上デジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
BS CH選択	次頁参照	BSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
CS CH選択	次頁参照	CSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
入力切換	―――	テレビリモコンの入力切換ボタンと同じ機能です。
地デジ	―――	テレビリモコンのデジタルボタンと同じ機能です。
BS	―――	テレビリモコンの BS ボタンと同じ機能です。
CS	―――	テレビリモコンの CS ボタンと同じ機能です。
CH↑	―――	テレビリモコンのチャンネルアップボタンと同じ機能です。
CH↓	―――	テレビリモコンのチャンネルダウンボタンと同じ機能です。
画面表示	―――	テレビリモコンの画面表示ボタンと同じ機能です。
オフタイマー	―――	テレビリモコンのオフタイマーボタンと同じ機能です。
音↑	―――	テレビリモコンの音声アップボタンと同じ機能です。
音↓	―――	テレビリモコンの音声ダウンボタンと同じ機能です。
消音	―――	テレビリモコンの消音ボタンと同じ機能です。
音声切換	―――	リモコンの音声切換ボタンと同じ機能です。
ビデオメイン		ビデオメインパネルを表示します。
テレビ操作	次々頁参照	操作パネルを表示します。
テレビ録再	次々頁参照	録再パネルを表示します。

制限

ご使用のテレビによってはご利用になれない機能もございます。お持ちのテレビリモコンの取扱説明書をご確認ください。

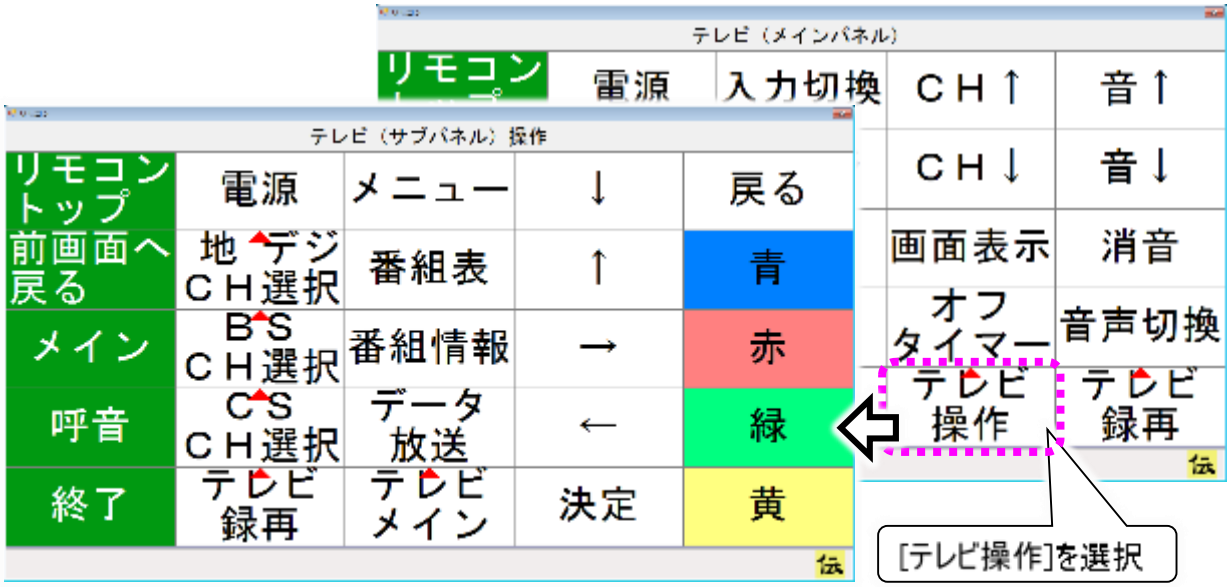
▽サブパネル（地デジCH選択パネル）（BSデジCH選択パネル）（CSデジCH選択パネル）



CH選択パネル	サブパネル	機能
1～12	―――	各ボタンの番号に対応したチャンネルに切り替えます。
電源	―――	テレビリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ CH選択	本頁で説明	地上デジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
BS CH選択	本頁で説明	BSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
CS CH選択	本頁で説明	CSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
音↑	―――	テレビリモコンの音声アップボタンと同じ機能です。
音↓	―――	テレビリモコンの音声ダウンボタンと同じ機能です。
テレビメイン	前頁参照	テレビメインパネルを表示します。
テレビ操作	次頁参照	操作パネルを表示します。
テレビ録再	次々頁参照	録再パネルを表示します。

テレビを操作する

▽サブパネル（操作パネル）



操作パネル	サブパネル	機能
電源	―――	テレビリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ CH選択	前頁参照	地上デジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
BS CH選択	前頁参照	BSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
CS CH選択	前頁参照	CSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
メニュー	―――	テレビリモコンのメニューボタンと同じ機能です。
番組表	―――	テレビリモコンの番組表ボタンと同じ機能です。
番組情報	―――	テレビリモコンの番組情報ボタンと同じ機能です。
データ放送	―――	テレビリモコンのデータ放送ボタンと同じ機能です。
↑、↓、→、←	―――	テレビリモコンの↑、↓、→、←ボタンと同じ機能です。
決定	―――	テレビリモコンの決定ボタンと同じ機能です。
戻る	―――	テレビリモコンの戻るボタンと同じ機能です。
青	―――	テレビリモコンの青ボタンと同じ機能です。
赤	―――	テレビリモコンの赤ボタンと同じ機能です。
緑	―――	テレビリモコンの緑ボタンと同じ機能です。
黄	―――	テレビリモコンの黄ボタンと同じ機能です。
テレビメイン	前々頁参照	テレビメインパネルを表示します。
テレビ録再	次頁で説明	録再パネルを表示します。

制限

ご使用のテレビによってはご利用になれない機能もございます。お持ちのテレビリモコンの取扱説明書をご確認ください。

補足

ご使用のテレビによっては、ボタンの名前が異なる場合があります。
例：　メニュー　⇒　メニュー、ホーム　　データ放送　⇒データ、連動データ

簡単テレビのリモコン操作

参照 初めてご使用になる場合、又はテレビを変更された場合ははじめにリモコンの登録を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[簡単テレビ]を選択すると、トップメニューが簡単テレビパネルに切り替わります。

3 パネルの機能は下記の通りです。

簡単テレビパネル	サブパネル	機能
1～12	―――	各ボタンの番号に対応したチャンネルに切り替えます。
電源	―――	テレビリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
音↑	―――	テレビリモコンの音声アップボタンと同じ機能です。
音↓	―――	テレビリモコンの音声ダウンボタンと同じ機能です。
CH↑	―――	テレビリモコンのチャンネルアップボタンと同じ機能です。
CH↓	―――	テレビリモコンのチャンネルダウンボタンと同じ機能です。
入力切換	―――	テレビリモコンの入力切換ボタンと同じ機能です。
簡単ビデオ	184 頁参照	簡単ビデオパネルを表示します。

ビデオを操作する

制限	機器のリモコン操作を行なう前に、あらかじめ支援者用設定で使用するリモコン機器の選択、リモコンデータの転送等を行なってください。
制限	基本的な機器のリモコンデータを登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。 動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。
参照	リモコンの設定は 239 ページの「リモコンの設定を行う」で説明します。 機能の一覧は「メニュー一覧」に記載されています。

ビデオのリモコン操作

参照	初めてご使用になる場合、又はビデオ（レコーダー）を変更された場合ははじめにリモコンの登録を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[ビデオ（DVD/BD）]を選択すると、トップメニューがビデオメインパネルに切り替わります。

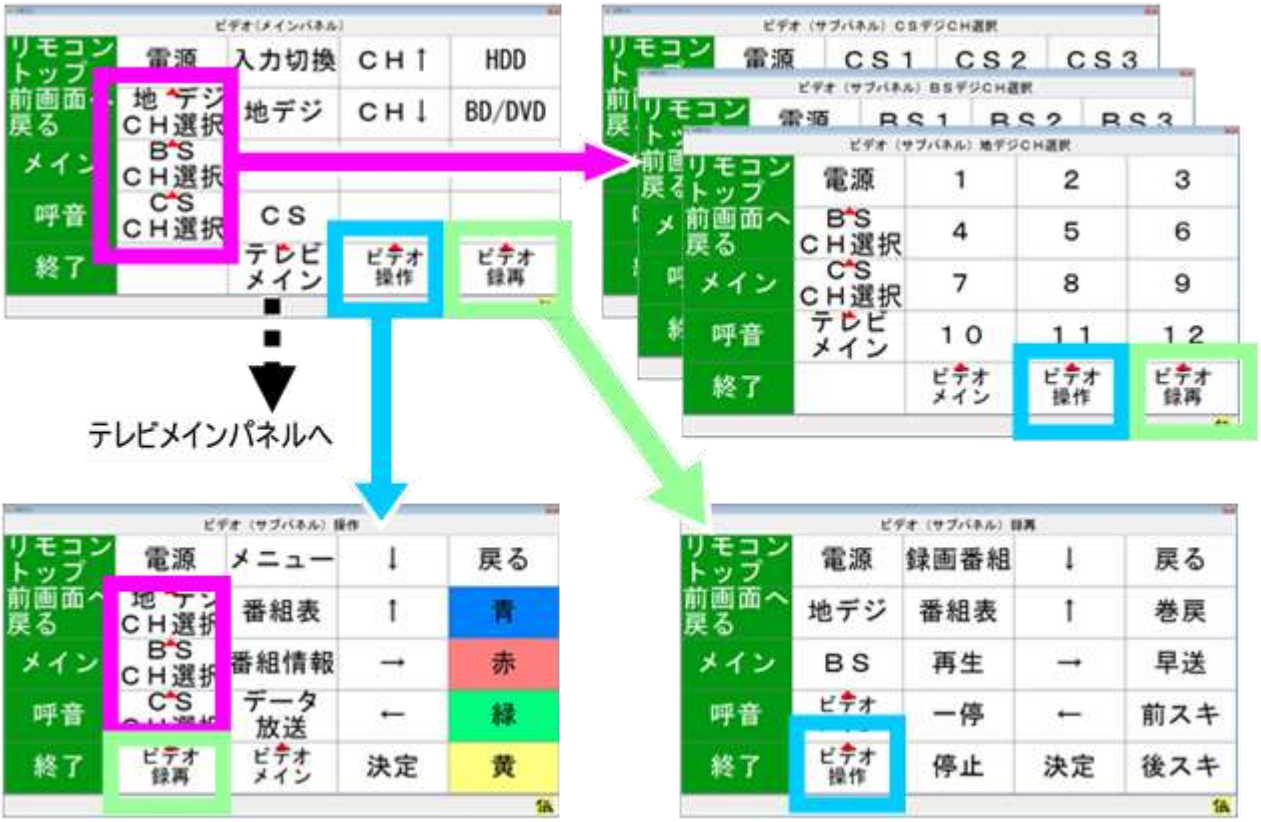
3 [電源]を選択すると、ビデオ（レコーダー）の電源の入/切が行われます。

[地デジ　CH選択]、[BS　CH選択]または[CS　CH選択]を選択すると、CH選択パネルに切り替わります（チャンネル番号を選択できます）。
[ビデオ操作]を選択すると、操作パネルに切り替わります（リモコンの番組表ボタンなどの機能が使えます）。

ビデオパネルの構成

ビデオパネルは、メインパネルと 5 種類のサブパネルで構成されています。また、メインパネルからはテレビパネルのメインパネルに切り替えることも可能です。

　下図は、各パネルの遷移図を示しています。



ビデオを操作する

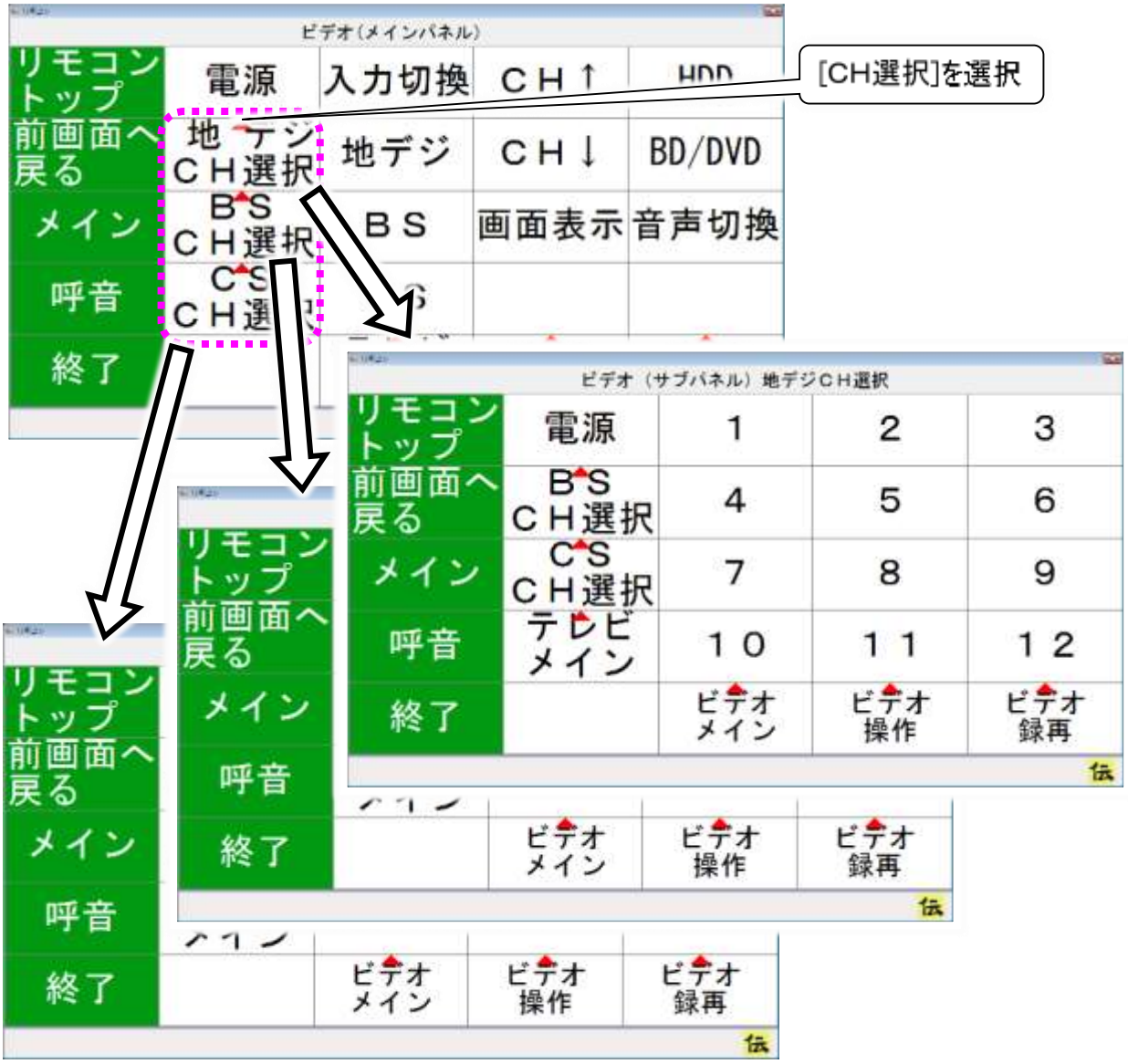
ビデオパネルの説明

■ ビデオメインパネル

ビデオメインパネル	サブパネル	機能
電源	―――	ビデオリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ CH選択	次頁参照	地上デジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
BS CH選択	次頁参照	BSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
CS CH選択	次頁参照	CSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
入力切換	―――	ビデオリモコンの入力切換ボタンと同じ機能です。
地デジ	―――	ビデオリモコンのデジタルボタンと同じ機能です。
BS	―――	ビデオリモコンの BS ボタンと同じ機能です。
CS	―――	ビデオリモコンの CS ボタンと同じ機能です。
CH↑	―――	ビデオリモコンのチャンネルアップボタンと同じ機能です。
CH↓	―――	ビデオリモコンのチャンネルダウンボタンと同じ機能です。
画面表示	―――	ビデオリモコンの画面表示ボタンと同じ機能です。
HDD	―――	ビデオリモコンの HDD ボタンと同じ機能です。
BD/DVD	―――	ビデオリモコンの BD/DVD ボタンと同じ機能です。
音声切換	―――	ビデオリモコンの音声切換ボタンと同じ機能です。

制限	ご使用のビデオ（レコーダー）によってはご利用になれない機能もございます。お持ちのビデオリモコンの取扱説明書をご確認ください。
補足	ご使用のビデオ（レコーダー）によっては、ボタンの名前が異なる場合があります。 例：HDD ⇒ HDD、ドライブ切換　　データ放送 ⇒データ、連動データ

▽サブパネル（地デジCH選択パネル）（BSデジCH選択パネル）（CSデジCH選択パネル）



CH選択パネル	サブパネル	機能
1～12	―――	各ボタンの番号に対応したチャンネルに切り替えます。
電源	―――	ビデオリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ CH選択	本頁で説明	地上デジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
BS CH選択	本頁で説明	BSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
CS CH選択	本頁で説明	CSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
テレビメイン	174 頁参照	テレビメインパネルを表示します。
ビデオメイン	前頁参照	テレビメインパネルを表示します。
ビデオ操作	次頁参照	操作パネルを表示します。
ビデオ録再	次々頁参照	録再パネルを表示します。

ビデオを操作する

▽サブパネル（操作パネル）

操作パネル	サブパネル	機能
電源	―――	ビデオリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ CH選択	前頁参照	地上デジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
BS CH選択	前頁参照	BSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
CS CH選択	前頁参照	CSデジタルのチャンネル番号選択パネルを表示します。
メニュー	―――	ビデオリモコンのメニューボタンと同じ機能です。
番組表	―――	ビデオリモコンの番組表ボタンと同じ機能です。
番組情報	―――	ビデオリモコンの番組情報ボタンと同じ機能です。
データ放送	―――	ビデオリモコンのデータ放送ボタンと同じ機能です。
↑、↓、→、←	―――	ビデオリモコンの↑、↓、→、←ボタンと同じ機能です。
決定	―――	ビデオリモコンの決定ボタンと同じ機能です。
戻る	―――	ビデオリモコンの戻るボタンと同じ機能です。
青	―――	ビデオリモコンの青ボタンと同じ機能です。
赤	―――	ビデオリモコンの赤ボタンと同じ機能です。
緑	―――	ビデオリモコンの緑ボタンと同じ機能です。
黄	―――	ビデオリモコンの黄ボタンと同じ機能です。
ビデオメイン	前々頁参照	ビデオメインパネルを表示します。
ビデオ録再	次頁で説明	録再パネルを表示します。

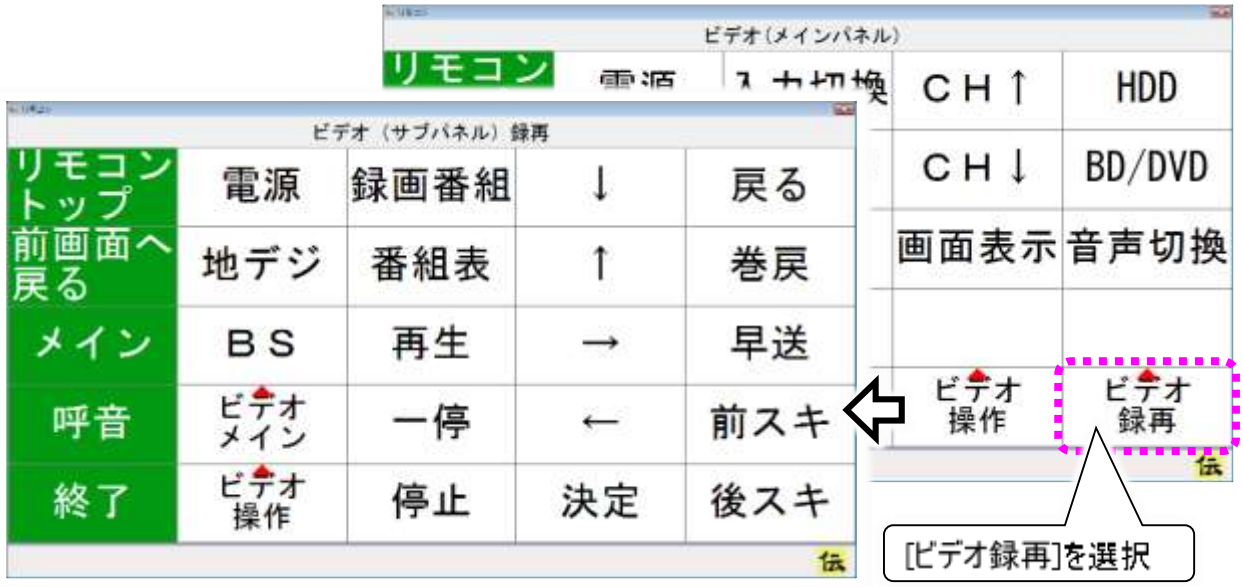
制限

ご使用のビデオ（レコーダー）によってはご利用になれない機能もございます。お持ちのビデオリモコンの取扱説明書をご確認ください。

補足

ご使用のビデオ（レコーダー）によっては、ボタンの名前が異なる場合があります。
例：　メニュー　⇒　メニュー、ホーム　　データ放送　⇒データ、連動データ

▽サブパネル（録再パネル）



録再パネル	サブパネル	機能
電源	―――	ビデオリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
地デジ	―――	ビデオリモコンのデジタルボタンと同じ機能です。
BS	―――	ビデオリモコンの BS ボタンと同じ機能です。
録画番組	―――	ビデオリモコンの録画番組ボタンと同じ機能です。
番組表	―――	ビデオリモコンの番組表ボタンと同じ機能です。
再生	―――	ビデオリモコンの再生▶ボタンと同じ機能です。
一停	―――	ビデオリモコンの一時停止❙❙ボタンと同じ機能です。
停止	―――	ビデオリモコンの停止■ボタンと同じ機能です。
↑、↓、→、←	―――	ビデオリモコンの↑、↓、→、←ボタンと同じ機能です。
決定	―――	ビデオリモコンの決定ボタンと同じ機能です。
戻る	―――	ビデオリモコンの戻るボタンと同じ機能です。
巻戻	―――	ビデオリモコンの巻戻し◀◀ボタンと同じ機能です。
早送	―――	ビデオリモコンの早送り▶▶ボタンと同じ機能です。
前スキ	―――	ビデオリモコンのスキップ❙◀◀ボタンと同じ機能です。
後スキ	―――	ビデオリモコンのスキップ▶▶❙ボタンと同じ機能です。
ビデオメイン	前々頁参照	ビデオメインパネルを表示します。
ビデオ操作	前頁参照	操作パネルを表示します。

制限

ご使用のビデオ(レコーダー)によってはご利用になれない機能もございます。お持ちのビデオリモコンの取扱説明書をご確認ください。

補足

ご使用のテレビによっては、ボタンの名前が異なる場合があります。
例：録画番組　⇒　録画番組、録画リスト　　一停　⇒　一時停止、静止

ビデオを操作する

簡単ビデオのリモコン操作

参照 初めてご使用になる場合、又はビデオ（レコーダー）を変更された場合ははじめにリモコンの登録を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[簡単ビデオ]を選択すると、トップメニューが簡単ビデオパネルに切り替わります。

3 パネルの機能は下記の通りです。

簡単ビデオパネル	サブパネル	機能
電源	―――	テレビリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
再生		ビデオリモコンの再生▶ボタンと同じ機能です。
一停	―――	ビデオリモコンの一時停止❙❙ボタンと同じ機能です。
巻戻	―――	ビデオリモコンの巻戻◀◀ ボタンと同じ機能です。
早送	―――	ビデオリモコンの早送▶▶ボタンと同じ機能です。
停止	―――	ビデオリモコンの停止■ボタンと同じ機能です。
録画	―――	ビデオリモコンの録画●ボタンと同じ機能です。
録画番組	―――	ビデオリモコンの録画番組ボタンと同じ機能です。
↑、↓、→、←	―――	ビデオリモコンの↑、↓、→、←ボタンと同じ機能です。
メニュー	―――	ビデオリモコンのメニューボタンと同じ機能です。
決定	―――	ビデオリモコンの決定ボタンと同じ機能です。
戻る	―――	ビデオリモコンの戻るボタンと同じ機能です。
前スキ	―――	ビデオリモコンのスキップ❙◀◀ボタンと同じ機能です。
後スキ	―――	ビデオリモコンのスキップ▶▶❙ボタンと同じ機能です。
簡単テレビ	177 頁参照	簡単テレビパネルを表示します。

その他の機器を操作する

制限	機器のリモコン操作を行なう前に、あらかじめ支援者用設定で使用するリモコン機器の選択、リモコンデータの転送等を行なってください。
制限	基本的な機器のリモコンデータを登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。 動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。
参照	リモコンの設定は 239 ページの「リモコンの設定を行う」で説明します。 機能の一覧は「メニュー一覧」に記載されています。

エアコン

参照	初めてご使用になる場合、又はエアコンを変更された場合ははじめにリモコンの登録を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。

3 その他機器パネルより[エアコン]を選択すると、エアコンメインパネルにパネルが切り替わります。

その他の機器を操作する

4 各パネルの機能は下記の通りです。

エアコンメインパネル	サブパネル	機能
暖房(温度)	―――	温度指定の暖房運転を行います。
冷房(温度)	―――	温度指定の冷房運転を行います。
除湿(%)	―――	湿度指定の除湿運転を行います。
停止	―――	エアコンの運転を停止します。

ゲーム操作

参照	初めてご使用になる場合、又はゲーム機を変更された場合は、はじめにメーカー選択を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。
制限	メーカーの選択画面で、ゲーム機のメーカーを「ダブル技研」にした場合、L3、R3 ボタンは使用できません(リモコンデータがありません)。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。

3 その他機器パネルより[ゲーム機]を選択すると、ゲーム機パネルにパネルが切り替わります。

4 各パネルの機能は下記の通りです。

ゲーム機パネル	サブパネル	機能
STR	―――	リモコンの START ボタンに対応します。
↓、↑、←、→	―――	リモコンの方向キーに対応します。
SEL	―――	リモコンの SELECT ボタンに対応します。
○、□、△、×	―――	リモコンの○、□、△、×ボタンに対応します。
L1、L2、L3	―――	リモコンのL1、L2、L3ボタンに対応します。
R1、R2、R3	―――	リモコンのR1、R2、R3ボタンに対応します。

補足 リモコンの各ボタンに対応する機能は、ゲームによって異なりますので、詳しくはゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

ページめくり機

参照 初めてご使用になる場合、又はページめくり機を変更された場合は、はじめにパネルボタンの割り当て確認を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。

3 その他機器パネルより[ページめくり機]を選択すると、ページめくり機パネルにパネルが切り替わります。

その他の機器を操作する

4 各パネルの機能は下記の通りです。

ページめくり機パネル	サブパネル	機能
電源	―――	電源の入/切を切り替えます。
左ページ、右ページ	―――	ページを左または右にめくります。
にげ	―――	読書の邪魔にならないように、「めくりローラユニット」を左右いずれかの位置に移動します。
厚紙	―――	厚紙対応用の動作を行います。
たるみ	―――	ページのたるみを補正します。

照明

制限	照明のリモコンデータは登録しておりません。お客様機器でのリモコンデータを登録してください。
参照	初めてご使用になる場合、又は照明を変更された場合ははじめにリモコンの登録を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。

3 その他機器パネルより[照明]を選択すると、照明パネルにパネルが切り替わります。

4 各パネルの機能は下記の通りです。

照明パネル	サブパネル	機能
全灯	―――	明るさの設定を最大にします。
消灯	―――	照明器具の電源を切ります。
明るく	―――	明るさの設定を上げます。
暗く	―――	明るさの設定を下げます。
スイッチ	―――	1スイッチのリモコンのスイッチボタンに対応します。

DVD

参照	初めてご使用になる場合、又は DVD を変更された場合ははじめにパネルボタンの割り当て確認を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。
制限	日立・三菱製 DVD のリモコンデータを登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。また、他社製 DVD のリモコンデータは登録しておりません。 動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。

3 その他機器パネルより[DVD]を選択すると、DVD パネルにパネルが切り替わります。

4 [電源]を選択すると、DVDの電源の入/切が行われます。
[再生]の選択でDVDの

その他の機器を操作する

再生、[停止]の選択でDVDの停止ができます。

5 各パネルの機能は下記の通りです。

DVDパネル	サブパネル	機能
電源	―――	DVD リモコンの電源ボタンと同じ機能です。
再生		DVD リモコンの再生 ▶ボタンと同じ機能です。
早送	―――	DVD リモコンの早送 ▶▶ボタンと同じ機能です。
巻戻	―――	DVD リモコンの巻戻◀◀ ボタンと同じ機能です。
一停	―――	DVD リモコンの一時停止 ❙❙ボタンと同じ機能です。
停止	―――	DVD リモコンの停止 ■ボタンと同じ機能です。
次スキ	―――	DVD リモコンの次のチャプターへスキップするボタンと同じ機能です。
前スキ	―――	DVD リモコンの前のチャプターへスキップするボタンと同じ機能です。
↓	―――	DVD リモコンの ↓ ボタンと同じ機能です。
↑	―――	DVD リモコンの ↑ ボタンと同じ機能です。
→	―――	DVD リモコンの→ボタンと同じ機能です。
←	―――	DVD リモコンの←ボタンと同じ機能です。
決定	―――	DVD リモコンの決定ボタンと同じ機能です。
メニュー	―――	DVD リモコンのメニューボタンと同じ機能です。

制限 ご使用の DVD によってはご利用になれない機能もございます。お持ちの DVD リモコンの取扱説明書をご確認ください。

その他の機器を操作する

ビデオカメラ

制限	キャノン製リモコンビデオカメラ「VC-C50i」のリモコンデータは登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。 また、他社のビデオカメラのリモコンデータはありませんので、お客様機器でリモコンデータを登録してください。
参照	初めてご使用になる場合、又はビデオカメラを変更された場合は、はじめにパネルボタンの割り当て確認を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。

3 その他機器パネルより[カメラ]を選択すると、ビデオカメラメインパネルにパネルが切り替わります。

4 [設定]を選択すると、設定パネルにパネルが切り替わります。

その他の機器を操作する

ビデオカメラパネルの説明

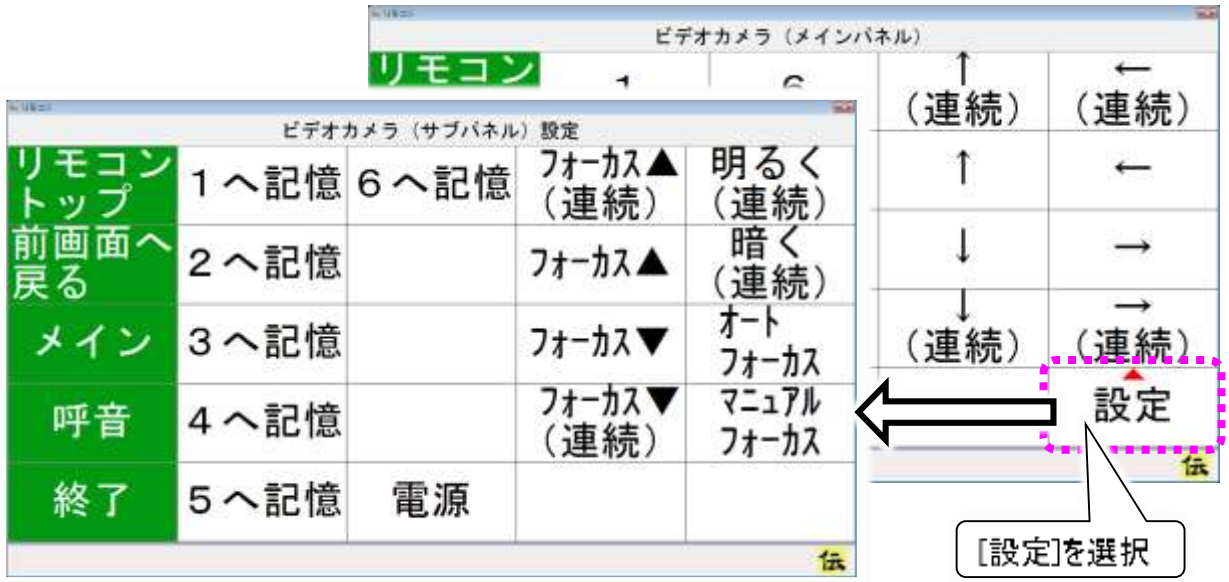
■ ビデオカメラメインパネル

ビデオカメラメインパネル	サブパネル	機能
1～6	―――	プリセット番号 1～6 にビデオカメラをセットします。
拡大	―――	ビデオ映像を拡大（ズームイン）します。
縮小	―――	ビデオ映像を縮小（ズームアウト）します。
拡大（連続）（注 46）	―――	ビデオ映像を連続で拡大（ズームイン）します。
縮小（連続）（注 46）	―――	ビデオ映像を連続で縮小（ズームアウト）します。
↑	―――	ビデオカメラを上に向けます。
↓	―――	ビデオカメラを下に向けます。
←	―――	ビデオカメラを左に向けます。
→	―――	ビデオカメラを右に向けます。
↑（連続）（注 46）	―――	ビデオカメラを連続で上に向けます。
↓（連続）（注 46）	―――	ビデオカメラを連続で下に向けます。
←（連続）（注 46）	―――	ビデオカメラを連続で左に向けます。
→（連続）（注 46）	―――	ビデオカメラを連続で右に向けます。
設定	次頁で説明	設定パネルを表示します。

参照

（注46）次のスイッチ入力があるまで、連続実行します。
連続入力の間隔の設定は 263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照ください。

▽サブパネル（設定パネル）



設定パネル	サブパネル	機能
1へ記録～6へ記録	―――	現在のビデオカメラ位置/ズーム/明るさをプリセット番号 1～6 に記録します。
明るく（連続）（注 47）	―――	ビデオ映像を連続で明るくします。
暗く（連続）（注 47）	―――	ビデオ映像を連続で暗くします。
オートフォーカス	―――	ビデオカメラの焦点を自動で調整します。
マニュアルフォーカス	―――	ビデオカメラの焦点を手動で調整します。（注 48）
フォーカス▲	―――	ビデオカメラの焦点を遠くに設定します。
フォーカス▼	―――	ビデオカメラの焦点を近くに設定します。
フォーカス▲（連続）	―――	ビデオカメラの焦点を連続で遠くに設定します。（注 48）
フォーカス▼（連続）	―――	ビデオカメラの焦点を連続で近くに設定します。（注 48）
電源	―――	ビデオカメラの電源の入/切を切り替えます。

参照

（注47）次のスイッチ入力があるまで、連続実行します。
連続入力の間隔の設定は 263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照ください。

制限

（注48）フォーカス▲、フォーカス▼、フォーカス▲（連続）、フォーカス▼（連続）を選択する前に、[マニュアルフォーカス]を選択して、マニュアルフォーカスに切り替えてください。

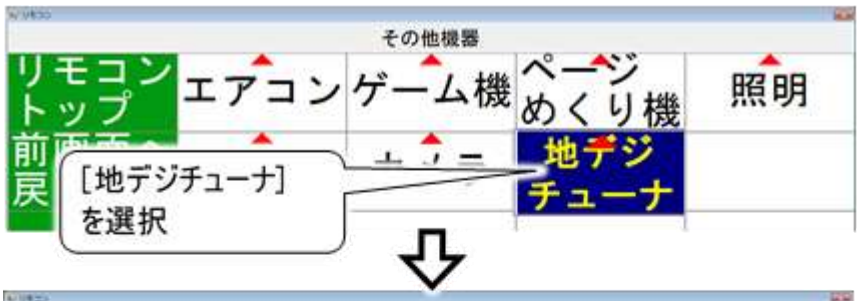
その他の機器を操作する

地デジチューナー

制限	PIXELA 製地デジチューナーのリモコンデータは登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。 また、他社の地デジチューナーのリモコンデータはありませんので、お客様機器でリモコンデータを登録してください。
参照	初めてご使用になる場合、又は地デジチューナーを変更された場合は、はじめにパネルボタンの割り当て確認を行ってください。詳細は 239 ページの「リモコンの設定を行う」をご覧ください。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[リモコン]を選択すると、リモコン画面を表示します。

2 リモコン画面のトップメニューより[その他機器]を選択すると、トップメニューがその他機器パネルに切り替わります。



3 その他機器パネルより[地デジチューナ]を選択すると、地デジチューナーメインパネルにパネルが切り替わります。

4 [電源]を選択すると、地デジチューナーの電源の入/切が行われます。
[操作]を選択すると、操作パネルにパネルが切り替わります。

地デジチューナーパネルの説明

■ 地デジチューナーメインパネル(チャンネル番号選択パネル)

地デジチューナーメインパネル	サブパネル	機能
電源	―――	地デジチューナーリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
操作	次頁で説明	操作パネルを表示します。
CH↑	―――	地デジチューナーリモコンのチャンネルアップボタンと同じ機能です。
CH↓	―――	地デジチューナーリモコンのチャンネルダウンボタンと同じ機能です。
1～12	―――	各ボタンの番号に対応したチャンネルに切り替えます。

その他の機器を操作する

▽サブパネル（操作パネル）

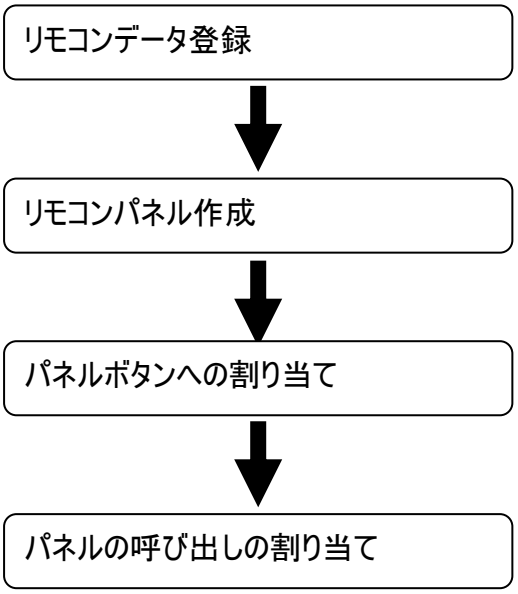
操作パネル	サブパネル	機能
電源	―――	地デジチューナーリモコンの電源ボタンと同じ機能です。
メニュー	―――	地デジチューナーリモコンのメニューボタンと同じ機能です。
戻る	―――	地デジチューナーリモコンの戻るボタンと同じ機能です。
↑、↓、→、←	―――	地デジチューナーリモコンの↓、↓、→、←ボタンと同じ機能です。
決定	―――	地デジチューナーリモコンの決定ボタンと同じ機能です。
画面表示	―――	地デジチューナーリモコンの画面表示ボタンと同じ機能です。
画面モード	―――	地デジチューナーリモコンの画面モードボタンと同じ機能です。
字幕切換	―――	地デジチューナーリモコンの字幕切換ボタンと同じ機能です。
音声切換	―――	地デジチューナーリモコンの音声切換ボタンと同じ機能です。

制限	ご使用の地デジチューナーによってはご利用になれない機能もございます。お持ちの地デジチューナーの取扱説明書をご確認ください。
補足	ご使用の地デジチューナーによっては、ボタンの名前が異なる場合があります。 例：画面モード　⇒　画面モード、画面サイズ

お客様がリモコン登録された機器を操作する

リモコン画面のパネルは、お客様によって編集／新規登録／削除が可能です。
リモコンデータの登録の方法は、257 ページの「新しくリモコンデータを登録する」で説明しています。
リモコンデータをパネルのボタンに登録する方法は 262 ページの「登録したリモコンデータをリモコンパネルに登録する」で説明しています。リモコン登録したパネルは、テレビやビデオのパネルと同じように操作できます。

リモコンの登録の手順は下記の通りです。253 ページの「その他のリモコンの設定手順」にも手順が記載されていますので、ご参照ください。



257 ページの「新しくリモコンデータを登録する」を参照して、リモコンデータを「伝の心」に登録します。

リモコンデータを割り当てるパネルを作成します。既にあるパネルを使用する場合は、パネルの作成は必要ありません。

262 ページの「登録したリモコンデータをリモコンパネルに登録する」を参照して、リモコンデータをパネルボタンに割り当てます。

作成したリモコンパネルを、どのパネルから呼び出すか設定します。

お客様がリモコン登録された機器を操作する

伝の心を使いやすくする①―各種設定―

ここでは、「伝の心」の音の設定や文字盤の設定、スキャンカーソルの移動間隔の設定について説明します。
ここでの操作はスイッチ入力で行えます

音の設定を行う

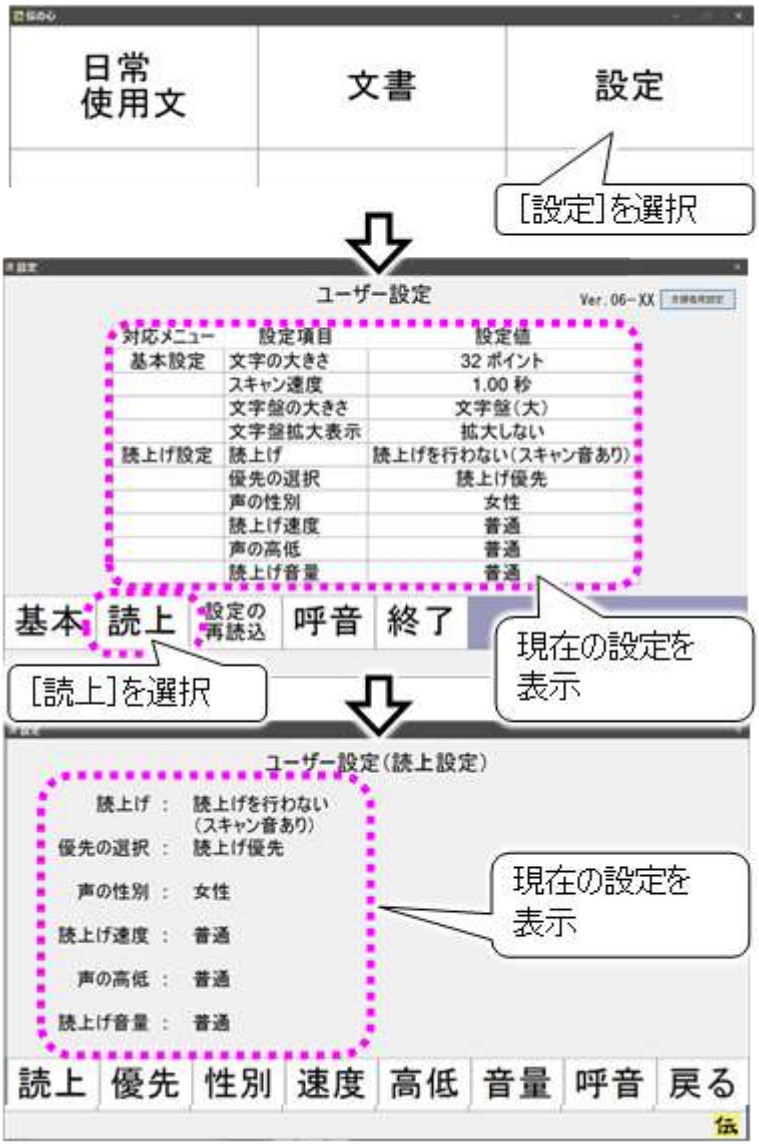
「メニューや文字盤を読み上げる」の項で、文字盤やメニューを読み上げる設定を説明しましたが、ここでは、その他の音の設定を説明します。
「伝の心」の音声の設定は、下記の手順で、伝の心設定画面を表示して行います。

制限	伝の心設定画面を表示する前に、メインメニュー以外の画面を全て終了させてください。([終了]メニューを選択)終了していないと、終了を促す確認メッセージが表示され、伝の心設定画面は表示されません。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択します。

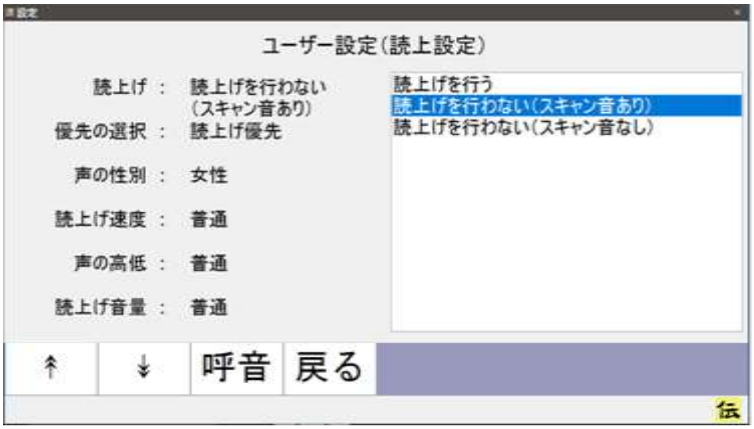
2 伝の心ユーザー設定画面が表示されるので、メニューより[読上]を選択します。

3 読上設定画面が表示されます。音の設定はこの画面から行います。



読み上げの設定

1 149 ページの「メニューや文字盤を読み上げる」の項を参照して、設定を行います。



2 設定項目は下記の通りです。

設定項目	機能
読上げを行う	スキャンのたびに項目を読み上げます。
読上げを行わない(スキャン音あり)	スキャンのたびにスキャン音を鳴らします。 (ご購入時の設定)
読上げを行わない(スキャン音なし)	何も鳴らしません。

制限

「読上げを行う」場合

ブラウザ操作画面のメニューとウィンドウズ操作画面のメニューは、読み上げは行いません。

またタッチモードの場合、メニューの読み上げは行いませんが、文字盤に関しては、文字を編集領域に入力する際に入力する文字を読み上げます。

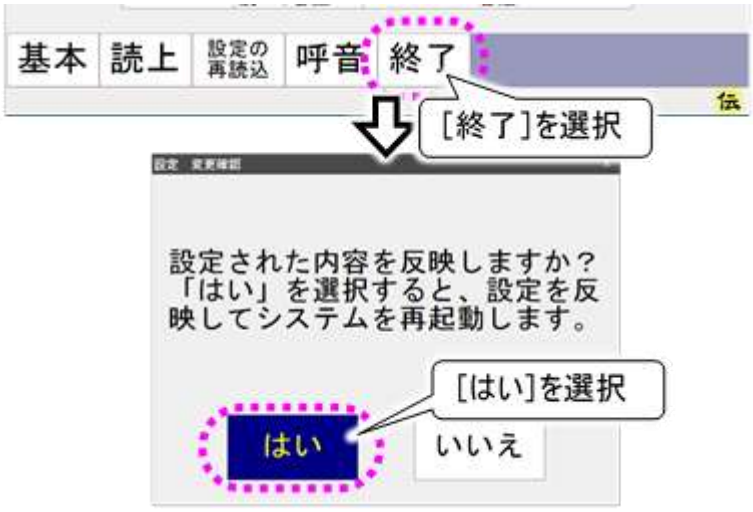
「読上げを行わない(スキャン音あり)」場合

タッチモードの場合は、スキャン音は鳴りません。

3 次に[戻る]を選択して読上設定画面に戻り、さらに[戻る]の選択でユーザー設定画面に戻ります。

音の設定を行う

4 ［終了］を選択すると、変更確認画面を表示します。［はい］を選択すると、設定が反映されて「伝の心」が再起動（一度終了して再度起動）します。

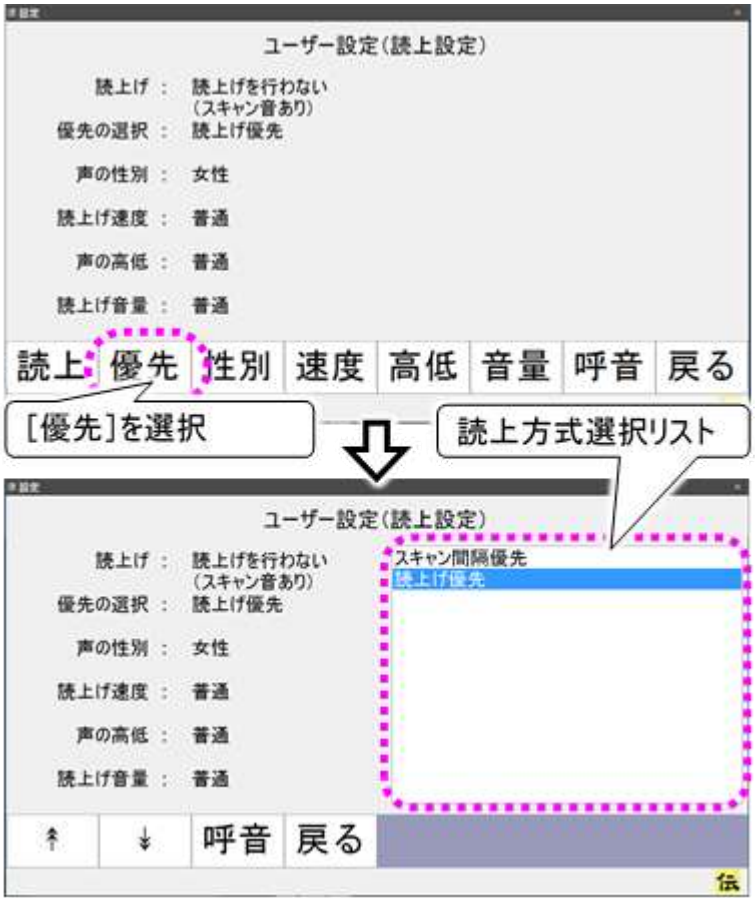


5 設定中は「設定を反映しています。しばらくお待ちください」画面を表示します。

読み上げ優先／スキャン間隔優先の切替

メニューや文字盤の読み上げをする設定にした場合、スキャンカーソルが上下、左右の方向に移動していく間隔（スキャン間隔）を優先にするのか、メニューや文字盤の読み上げを待ってスキャンカーソルを移動するのか、選択する事ができます。

1 読上設定画面のメニューにて[優先]を選択すると、読上方式選択画面に切り替わります。



読上方式選択画面の右側には読上方式選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。

2 読上方式選択画面のメニューの[↑]または[↓]を選択して、読上方式選択リストの反転表示行を設定したい読上方式に合わせます。

設定項目	機能
読上げ優先	メニューや文字盤の読み上げを待ってスキャンカーソルを移動します。（ご購入時の設定）
スキャン間隔優先	スキャン間隔で読み上げを中断して、次の項目にスキャンカーソルを移動します。

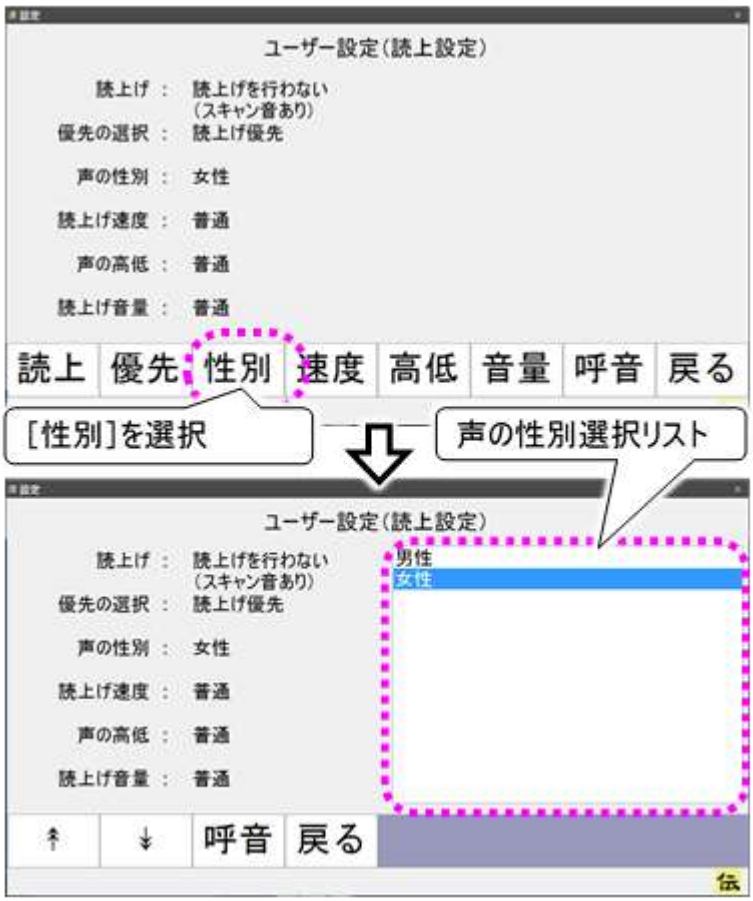
3 「読み上げの設定」の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

音の設定を行う

声の性別

読み上げる声を男性の声か女性の声か選択します。

1 読上設定画面のメニューにて[性別]を選択すると、声の性別選択画面に切り替わります。



声の性別選択画面の右側には声の性別選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。

2 声の性別選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択して、声の性別選択リストの反転表示行を設定したい声に合わせます。

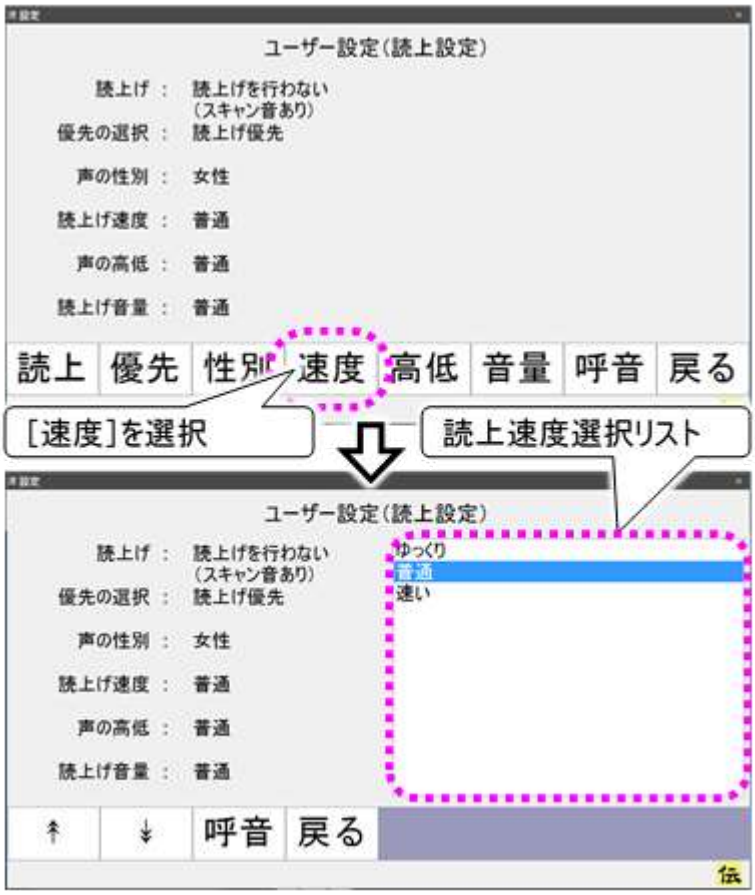
設定項目	説明
男性	落ち着いた男性の声
女性	落ち着いた女性の声 （ご購入時の設定）

3 「読み上げの設定」の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

読み上げ速度

読み上げるときの速度を設定します。

1 読上設定画面のメニューにて[速度]を選択すると、読上速度選択画面に切り替わります。



読上速度選択画面の右側には読上速度選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。

2 読上速度選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択して、読上速度選択リストの反転表示行を設定したい速度に合わせます。

設定項目	機能
ゆっくり	普通よりゆっくり読み上げます。
普通	ご購入時の設定です。
速い	普通より速く読み上げます。

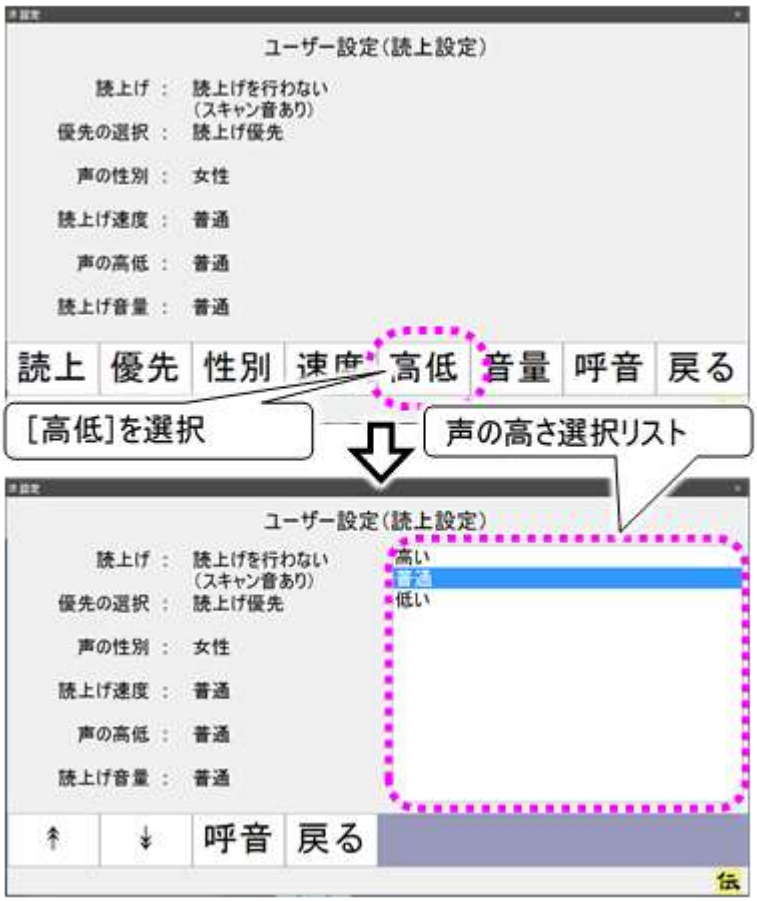
3 「読み上げの設定」の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

音の設定を行う

声の高さ

読み上げる声の高さを設定します。

1 読上設定画面のメニューにて[高低]を選択すると、声の高さ選択画面に切り替わります。



声の高さ選択画面の右側には声の高さ選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。

2 声の高さ選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択して、声の高さ選択リストの反転表示行を設定したい声の高さに合わせます。

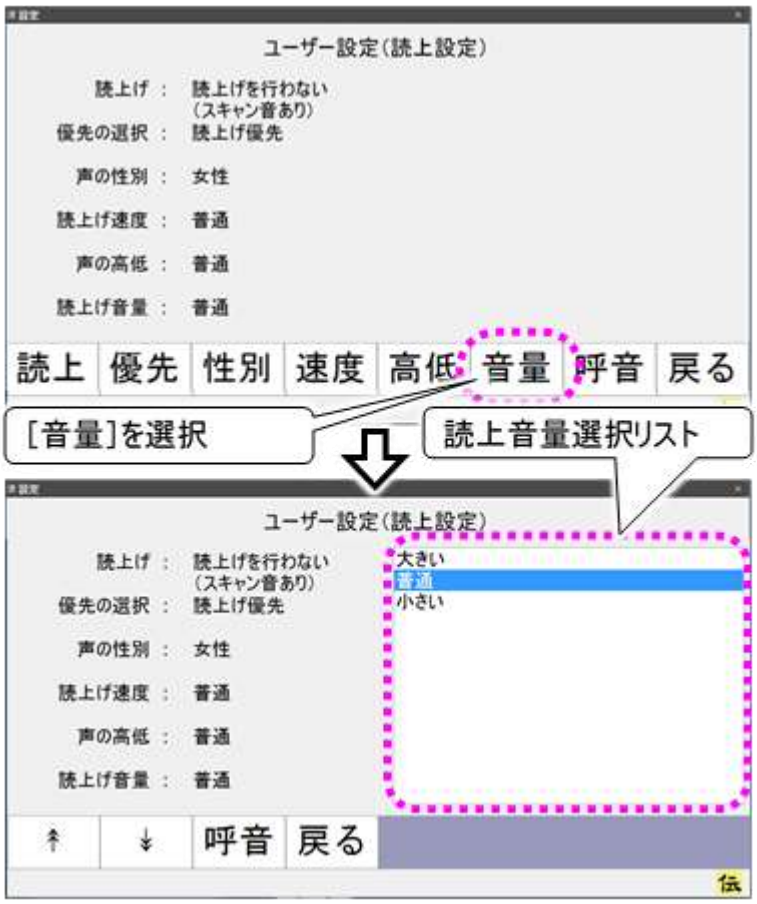
設定項目	機能
高い	普通より高い音で読み上げます。
普通	ご購入時の設定です。
低い	普通より低い音で読み上げます。

3 「読み上げの設定」の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

声の大きさ

読み上げる声の大きさを設定します。

1 読上設定画面のメニューにて[音量]を選択すると、読上音量選択画面に切り替わります。



読上音量選択画面の右側には読上音量選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。

2 読上音量選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択して、読上音量選択リストの反転表示行を設定したい音量に合わせます。

設定項目	機能
大きい	普通より大きい音で読み上げます。
普通	普通の音量で読み上げます。(ご購入時の設定)
小さい	普通より小さい音で読み上げます。

3 「読み上げの設定」の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

その他の設定を行う

「音の設定を行う」と同様に、伝の心設定画面から設定を行います。

制限	伝の心設定画面を表示する前に、メインメニュー以外の画面を全て終了させてください。([終了]メニューを選択)終了していないと、終了を促す確認メッセージが表示され、伝の心設定画面は表示されません。

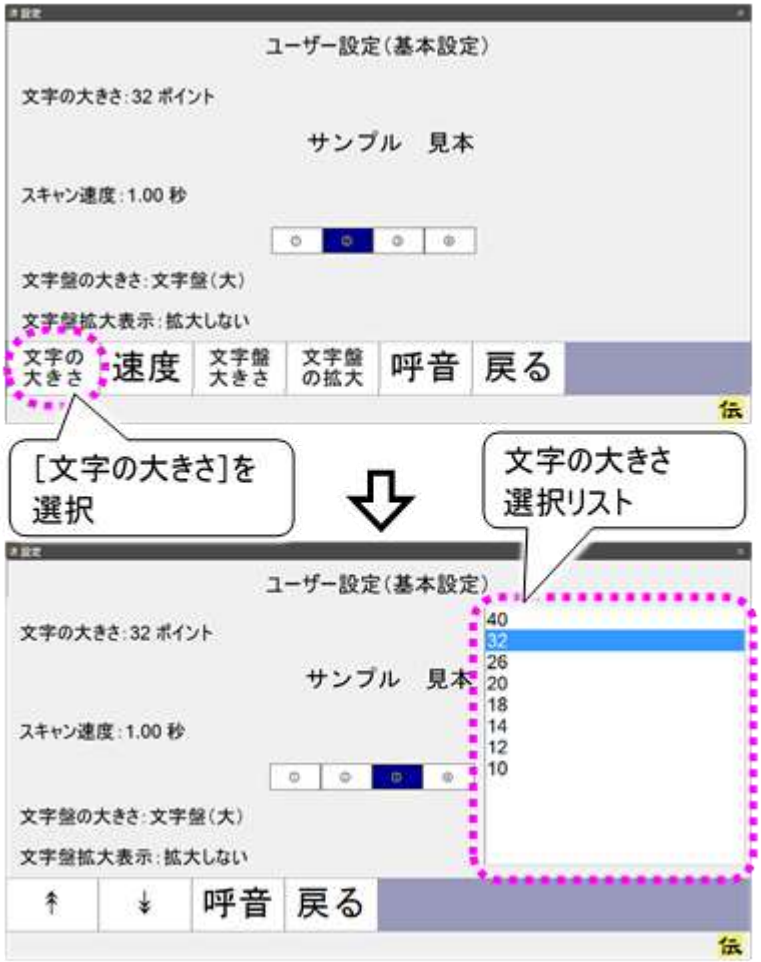
1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択します。

2 伝の心ユーザー設定画面が表示されるので、メニューより[基本]を選択します。

3 基本設定画面が表示されます。以下の設定はこの画面から始めます。

文書の表示文字の大きさ

1 基本設定画面のメニューより[文字の大きさ]を選択すると、文字の大きさ選択画面に切り替わります。



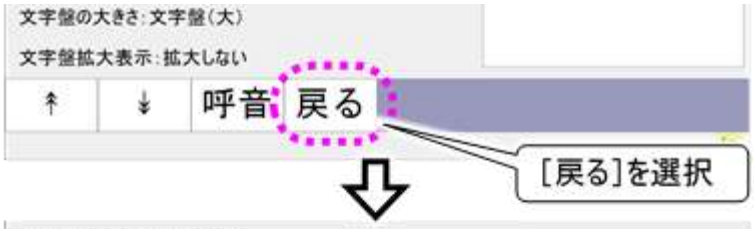
文字の大きさ選択画面の右側には、文字の大きさ選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。

2 文字の大きさ選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択して、文字の大きさ選択リストの反転表示行を設定したい文字の大きさに合わせます。

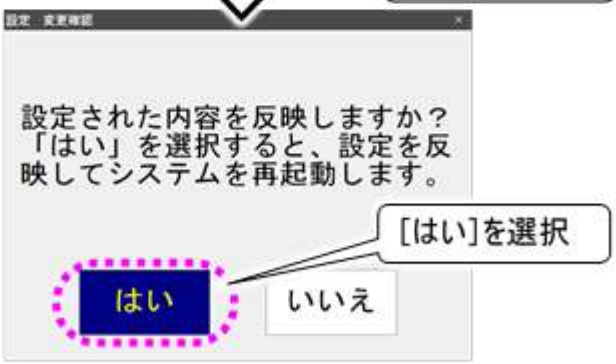
設定項目	機能
40	40ポイントにします。
32	32ポイントにします。(ご購入時の設定)
26	26ポイントにします。
20	20ポイントにします。
18	18ポイントにします。
14	14ポイントにします。
12	12ポイントにします。
10	10ポイントにします。

その他の設定を行う

3 次に[戻る]を選択して基本設定画面に戻り、さらに[戻る]の選択で設定画面に戻ります。



4 [終了]を選択すると、変更確認画面を表示します。[はい]を選択すると、設定が反映されて「伝の心」が再起動(一度終了して再度起動)します。

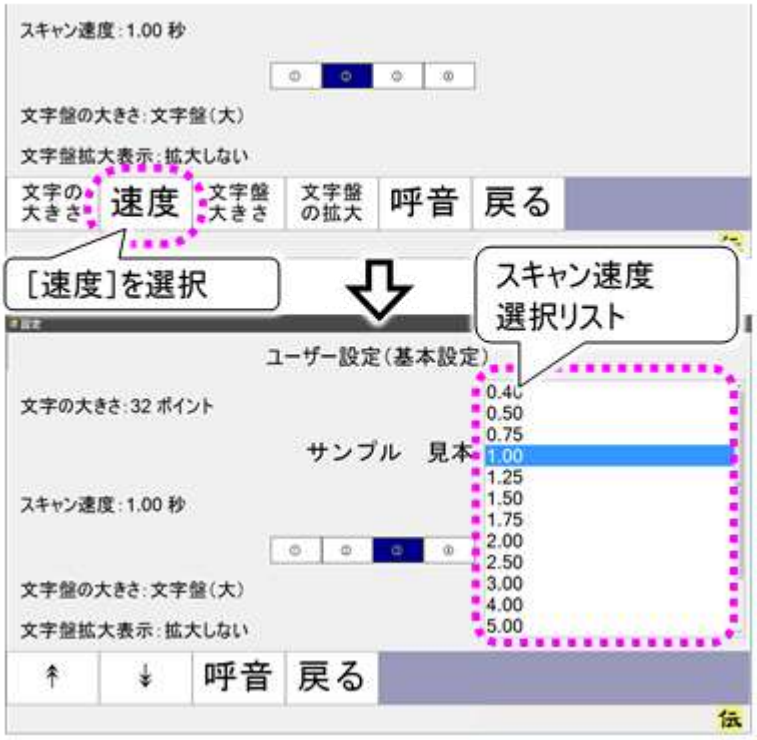


5 設定中は「設定を反映しています。しばらくお待ちください」画面を表示します。

文字盤やメニューリストの移動間隔

1 基本設定画面のメニューより[速度]を選択すると、スキャン速度選択画面に切り替わります。

スキャン速度選択画面の右側にはスキャン速度選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。



2 スキャン速度選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択してスキャン速度選択リストの反転表示行を設定したいスキャン速度に合わせます。

設定項目	機能
0．40	スキャンカーソルの移動間隔を0．40秒に設定します。
0．50	スキャンカーソルの移動間隔を0．50秒に設定します。
0．75	スキャンカーソルの移動間隔を0．75秒に設定します。
1．00	スキャンカーソルの移動間隔を1．00秒に設定します。(ご購入時の設定)
1．25	スキャンカーソルの移動間隔を1．25秒に設定します。
1．50	スキャンカーソルの移動間隔を1．50秒に設定します。
1．75	スキャンカーソルの移動間隔を1．75秒に設定します。
2．00	スキャンカーソルの移動間隔を2．00秒に設定します。
2．50	スキャンカーソルの移動間隔を2．50秒に設定します。
3．00	スキャンカーソルの移動間隔を3．00秒に設定します。
4．00	スキャンカーソルの移動間隔を4．00秒に設定します。
5．00	スキャンカーソルの移動間隔を5．00秒に設定します。
6．00	スキャンカーソルの移動間隔を6．00秒に設定します。
7．00	スキャンカーソルの移動間隔を7．00秒に設定します。
8．00	スキャンカーソルの移動間隔を8．00秒に設定します。

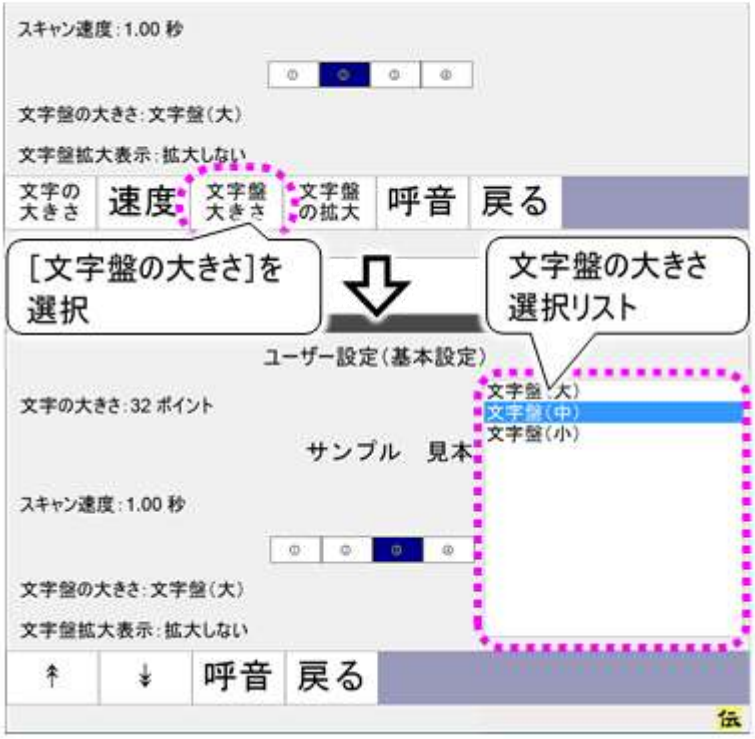
3 「文書の表示文字の大きさ」の項の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

その他の設定を行う

文字盤の大きさ

1 基本設定画面のメニューより[文字盤大きさ]を選択すると、文字盤の大きさ選択画面に切り替わります。

文字盤の大きさ選択画面の右側には、文字盤の大きさ選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。



2 文字盤の大きさ選択画面のメニューの[↑]または[↓]を選択して、文字盤の大きさ選択リストの反転表示行を設定したい文字盤の大きさに合わせます。

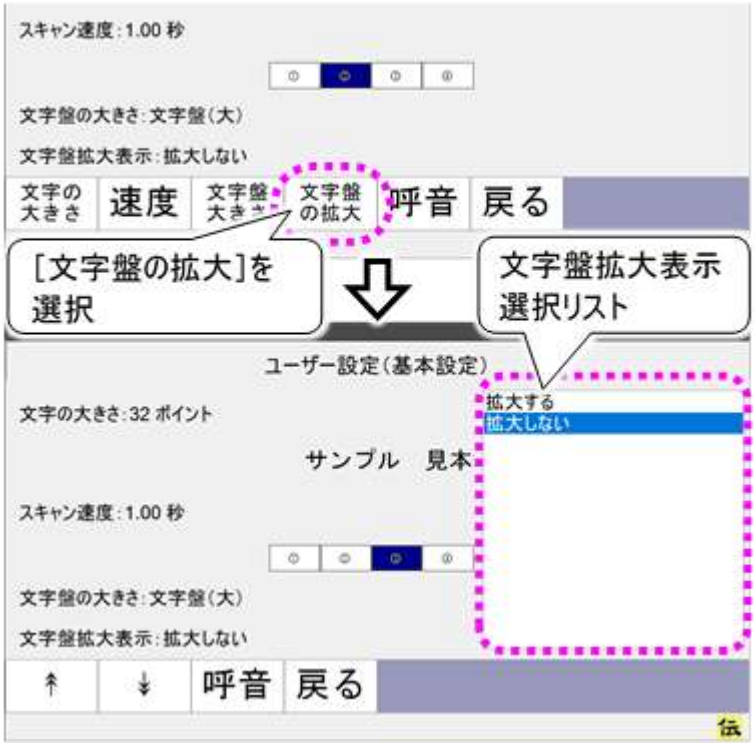
設定項目	機能
文字盤(大)	文字盤のサイズを大に設定します。(ご購入時の設定)
文字盤(中)	文字盤のサイズを中に設定します。
文字盤(小)	文字盤のサイズを小に設定します。

3 「文書の表示文字の大きさ」の項の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

文字盤の拡大表示

1 基本設定画面のメニューより[文字盤の拡大]を選択すると、文字盤の拡大選択画面に切り替わります。

文字盤拡大表示選択画面の右側には、文字盤拡大表示選択リストが表示されます。
現在選択されている設定は、反転表示されています。



2 文字盤拡大表示選択画面のメニューの[↟]または[↡]を選択して、文字盤拡大表示選択リストの反転表示行を設定したい項目に合わせます。

設定項目	機能
拡大する	文字盤の選択文字の一部が拡大表示されます。
拡大しない	文字盤の拡大表示は行われません。(ご購入時の設定)

制限 文字盤のサブメニューや漢字変換パネル、予測入力パネル、日時入力画面、定型句入力画面、移動パネル、編集パネルでは、拡大表示はされません。

3 「文書の表示文字の大きさ」の項の③④と同様にして、ユーザー設定を終了します。

その他の設定を行う

伝の心を使いやすくする②―支援者用設定―

ここでは、支援者の方によるリモコン機器の設定、通信機器の設定
および定型句編集などの高度な設定方法について説明します。
ここでの操作は全てマウスで行います（スイッチ操作はできません）。

支援者用設定について

支援者用設定について

ここでの設定は、支援者の方にマウス操作で設定して頂きます。まず下記の手順で、支援者用設定画面を表示させてください。

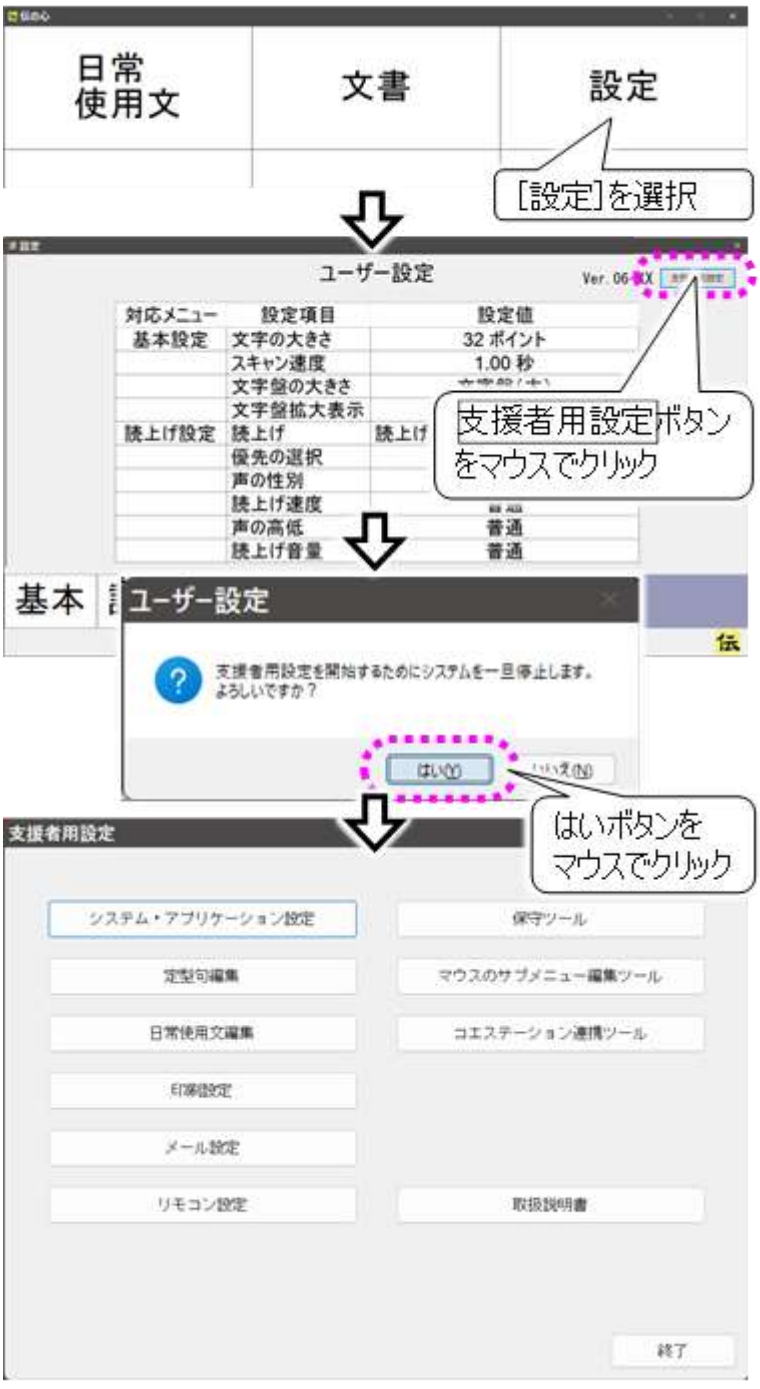
制限	伝の心設定画面を表示する前に、メインメニュー以外の画面を全て終了させてください。([終了]メニューを選択)終了していないと、終了を促す確認メッセージが表示され、伝の心設定画面は表示されません。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択します。

2 伝の心設定画面が表示されるので、画面右上の支援者用設定ボタンをマウスでクリックしてください。

3 確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。

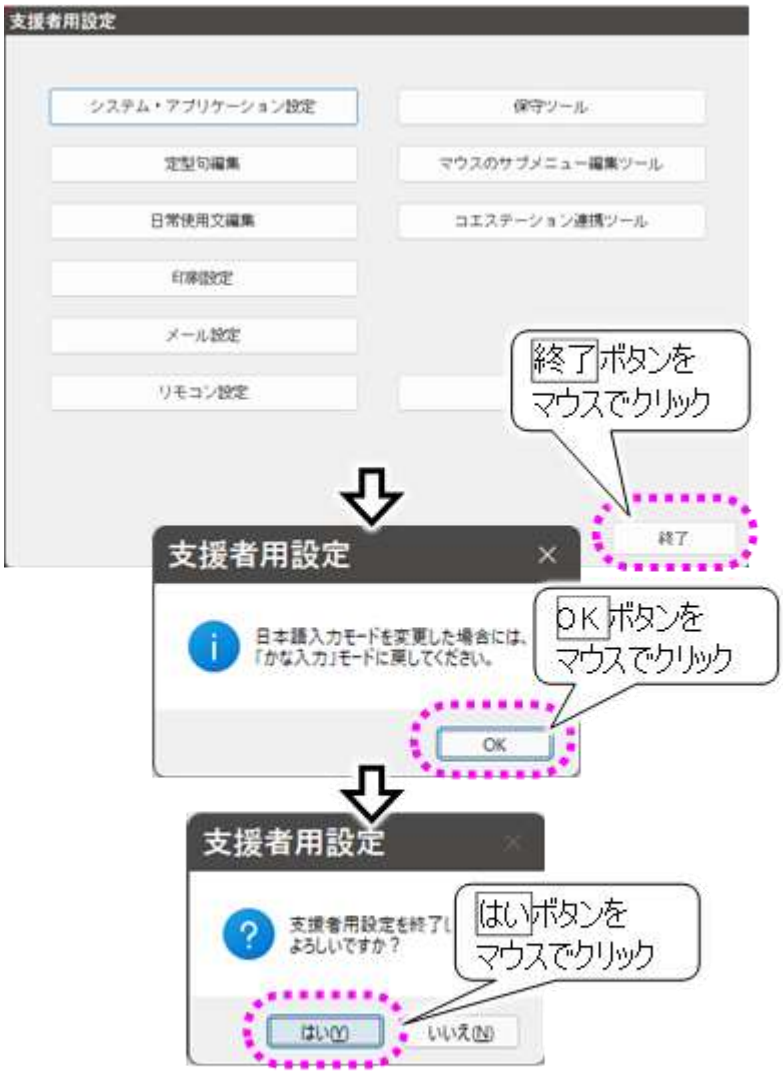
4 支援者用設定画面が表示されます。



支援者用設定について

5 支援者用設定画面を終了するときは、終了ボタンをマウスでクリックしてください。

6 確認画面が表示されるので、OK→はいボタンを順にマウスでクリックしてください。支援者用設定画面が閉じて、設定が反映されます。



7 設定中は「設定を反映しています。しばらくお待ちください」画面を表示します。

制限

入力モード「ローマ字入力／かな入力」について

マウス操作で文字入力をする場合、入力モードは「かな入力」になっています。このモードを「ローマ字入力」に変更した場合は、**「かな入力」に必ず戻してください。**「伝の心」の文字盤は入力モードが「かな入力」でないと、正常に動作しません。

メインメニューの設定を行う

メインメニューの設定を行う

ご購入時（初期設定）は、「伝の心」トップ画面のメインメニューは下記のようになっています。

このメニューは支援者用設定画面から、表示/非表示の設定が行えます。
全てのメニューを表示すると、下記のような画面になります。
ただし[ブラウザ操作][Windows 操作]は、[応用操作]のサブメニューに含まれます。
[メール/LINE]のサブメニューには、[メール][LINE]が含まれます。

また、メインメニューの表示形式を、下記のように縦一列表示に変更することも行えます。

制限

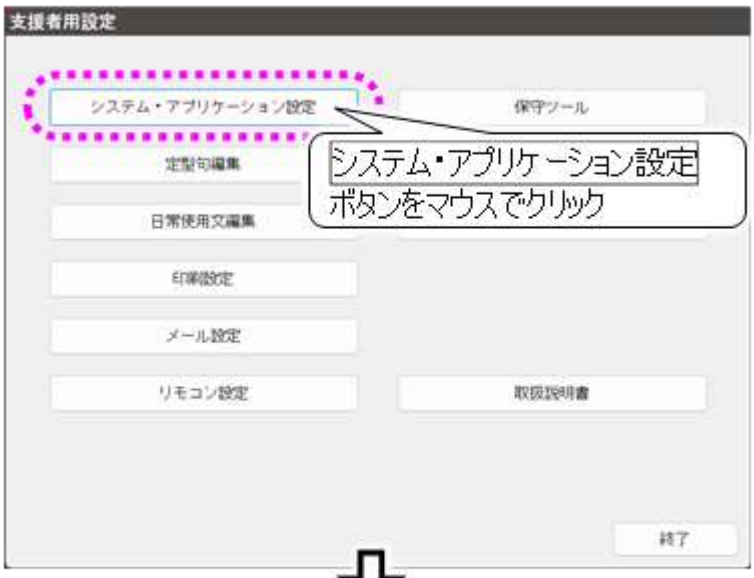
タッチモードの場合
[応用操作]のサブメニュー[ブラウザ操作][Windows 操作]は使用できません。

メインメニューの設定を行う

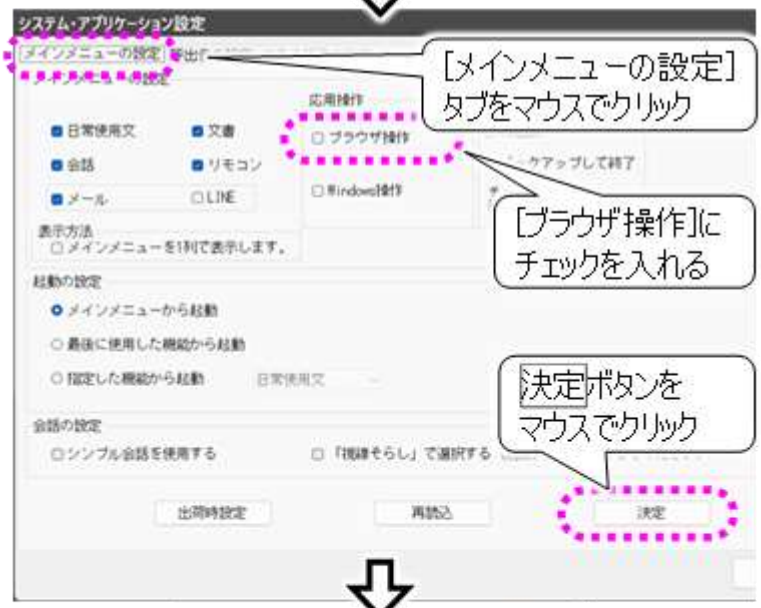
ホームページ閲覧機能のメニューを有効にする

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

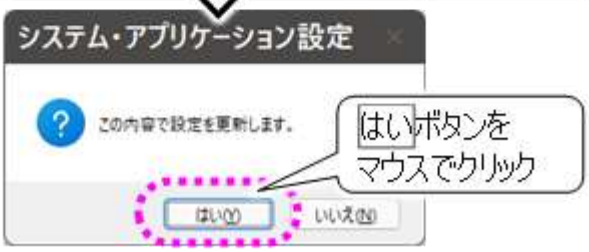
2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。



3 システム・アプリケーション設定画面の[メインメニューの設定]タブをクリックして、[ブラウザ操作]にチェック☑を入れます。



4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、「伝の心」のメインメニューに[応用操作]ー[ブラウザ操作]の項目が追加されます。



5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

制限

タッチモードの場合

設定はできません。表示も変更できない表示になります。

メインメニューの設定を行う

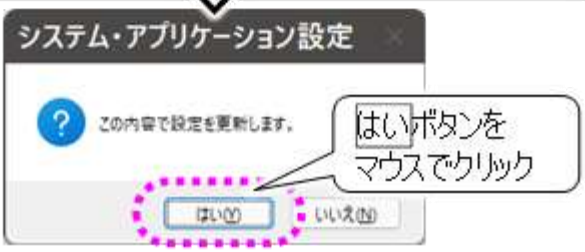
ウィンドウズ操作機能のメニューを有効にする

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[メインメニューの設定]タブをクリックして、[Windows 操作]にチェック☑を入れます。

4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、「伝の心」のメインメニューに[応用操作]－[Windows 操作]の項目が追加されます。



5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

制限

タッチモードの場合

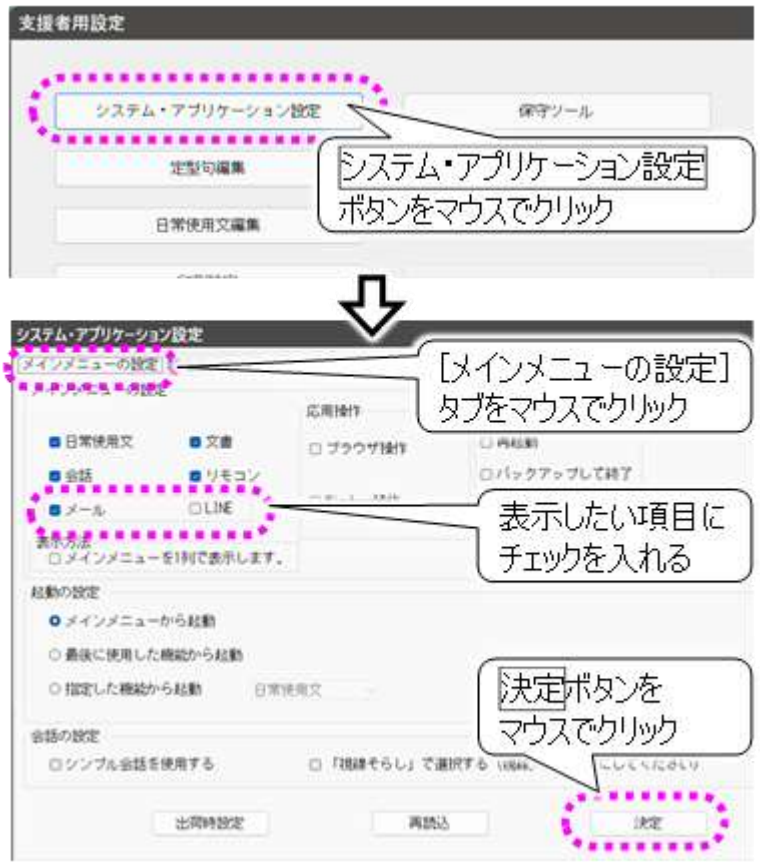
設定はできません。表示も変更できない表示になります。

メインメニューの設定を行う

電子メール機能・LINE 操作機能のメニューを表示する

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。



3 システム・アプリケーション設定画面の[メインメニューの設定]タブをクリックして、[メール][LINE]にチェック☑を入れる、または外します。

チェックの入れ方によって、メインメニューの表示が下表のように変わります。

設定項目	機能
メールのみチェック☑	メインメニュー左下に[メール]を表示（ご購入時の設定）
LINE のみチェック☑	メインメニュー左下に[LINE]を表示
両方チェック☑	メインメニュー左下に[メール/LINE]を表示 [メール/LINE]のサブメニューに[メール] [LINE]を表示
両方チェックなし	メインメニュー左下はメニュー表示なし

4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、「伝の心」のメインメニュー左下の項目が変更されます。

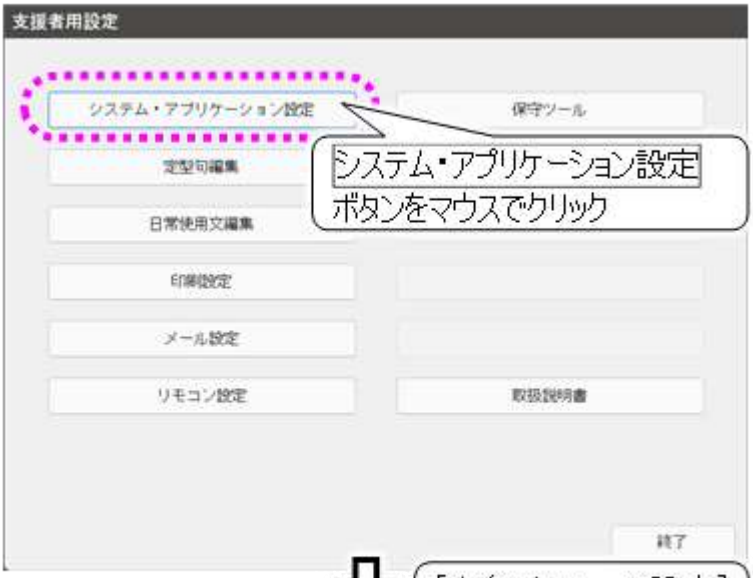
5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

メインメニューの設定を行う

再起動のメニューを有効にする

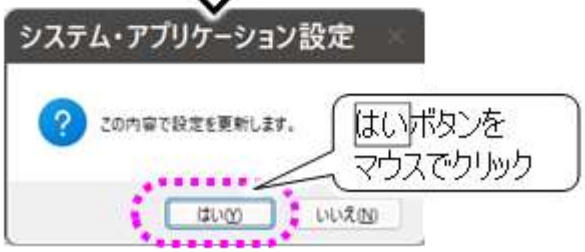
1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。



3 システム・アプリケーション設定画面の[メインメニューの設定]タブをクリックして、[再起動]にチェック☑を入れます。

4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、「伝の心」のメインメニューに[終了]ー[再起動]の項目が追加されます。



5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

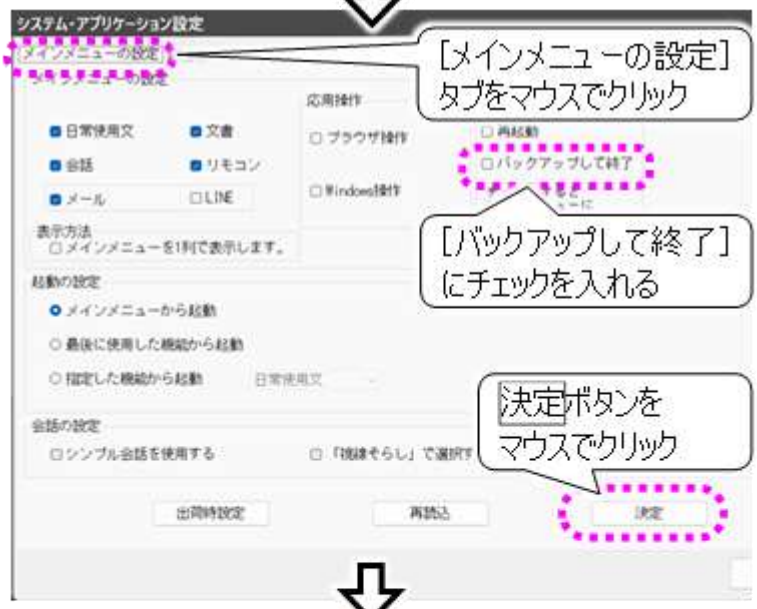
メインメニューの設定を行う

バックアップして終了のメニューを有効にする

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[メインメニューの設定]タブをクリックして、[バックアップして終了]にチェック☑を入れます。



4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、「伝の心」のメインメニューに[終了]ー[バックアップして終了]の項目が追加されます。

5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

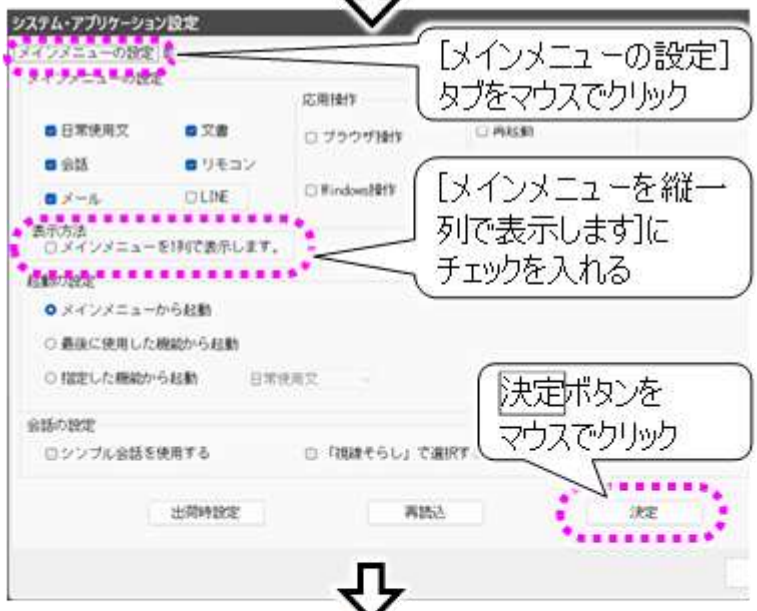
メインメニューの設定を行う

メインメニューを縦一列で表示する

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[メインメニューの設定]タブをクリックして、[メインメニューを縦一列で表示します]にチェック☑を入れます。



4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、「伝の心」のメインメニューが縦一列表示になります。

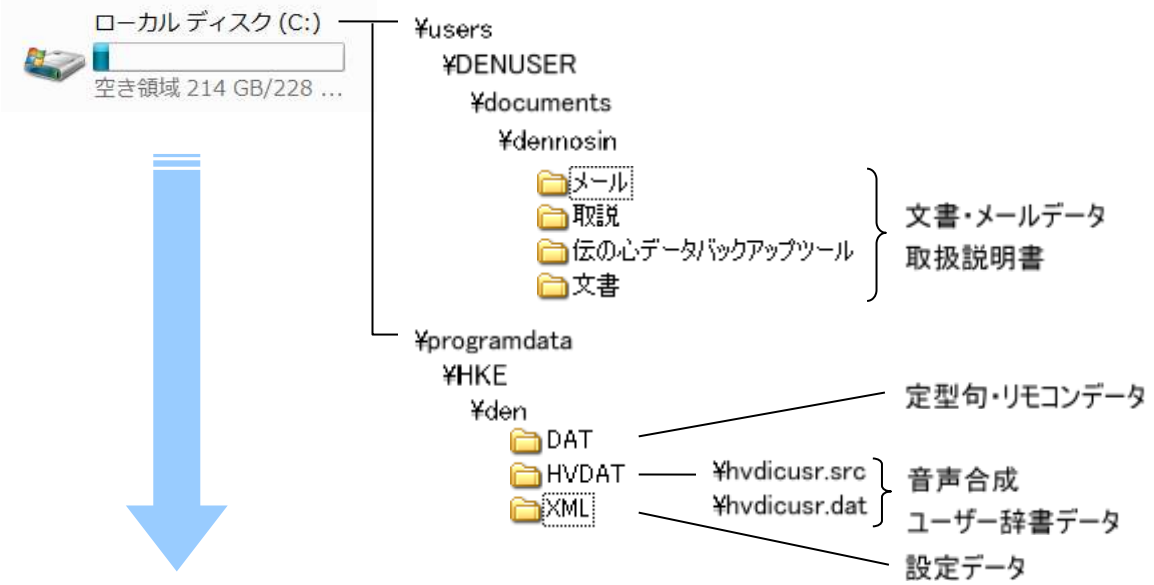
5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

バックアップの設定を行う

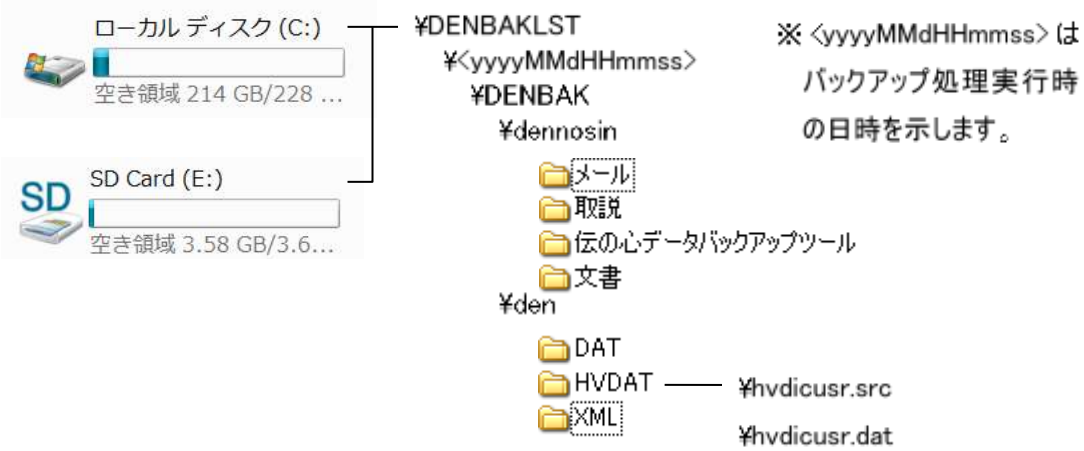
「伝の心」終了時、システム装置内の USB メモリに、ユーザーデータをバックアップする機能があります。
バックアップするデータは下記の通りです。

- 「伝の心」の「文書」「メール」「定型句」「リモコン」のデータ
- 「伝の心」取扱説明書（電子マニュアル）
- 音声合成ユーザー辞書データ
- 「伝の心」各種設定データ

バックアップ元のファイル構成



バックアップ先のファイル構成



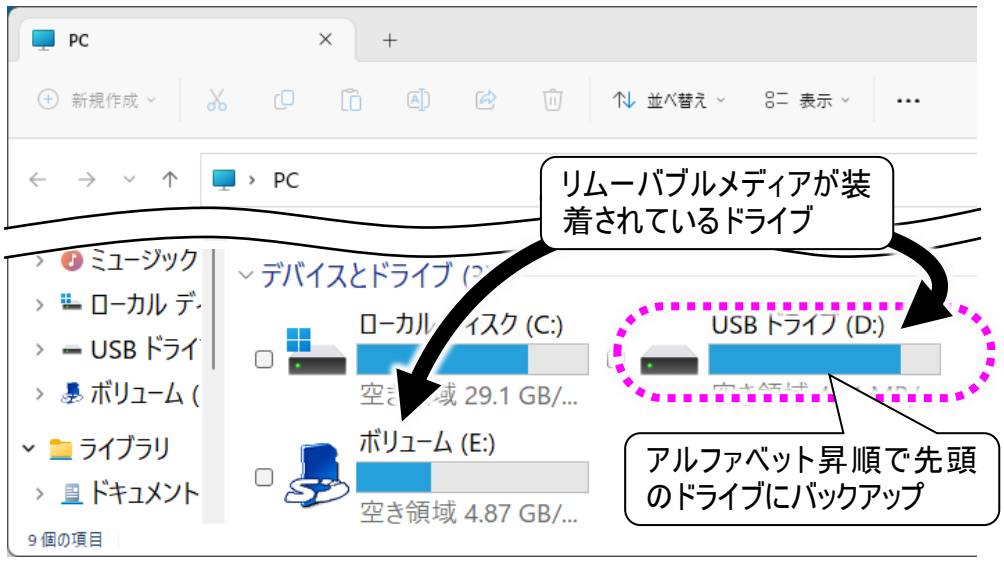
補足

バックアップ先ドライブについて

出荷時設定のバックアップ先は、C ドライブです。バックアップ先を「USB メモリ」に設定した場合は、**最初に見つかった書き込み可能なリムーバブルメディアの装着されているドライブ**です。

バックアップの設定を行う

下の図では、リムーバブルメディアが装着されているドライブは「D:」と「E:」で、「伝の心」はアルファベット昇順で検索するので、バックアップ先のドライブは「D:」となります。



制限	伝の心のユーザーデータをバックアップする機能は、バックアップメディアのデータを保証するものではありません。バックアップメディアに記録されたデータの破壊、消失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
制限	バックアップデータが USB メモリの容量よりも大きくなった場合は、別途容量の大きい USB メモリをご購入ください。但し、お客様がご購入された USB メモリに関する保証は、いかなる場合もその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
制限	DVD にバックアップされたデータをリストアすると、ユーザーデータの属性が「読み取り専用」になってしまうので、**DVD にユーザーデータをバックアップしないでください。**

バックアップに関する設定は下記になります。

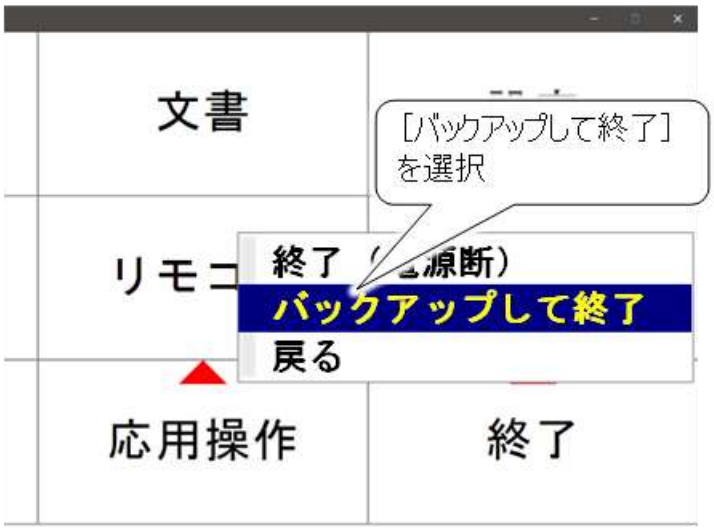
バックアップの設定を行う

任意の終了時にバックアップする

伝の心の終了時に終了のサブメニューから[バックアップして終了]を選択すると、バックアップ行った後に、伝の心の終了（電源断）を行います。

サブメニューに[バックアップして終了]がない場合は、223 ページの「バックアップして終了のメニューを有効にする」を参照して、設定してください。

定期的にバックアップする場合は、228 ページの「終了時に定期的にバックアップする」を参照してください。



バックアップの設定を行う

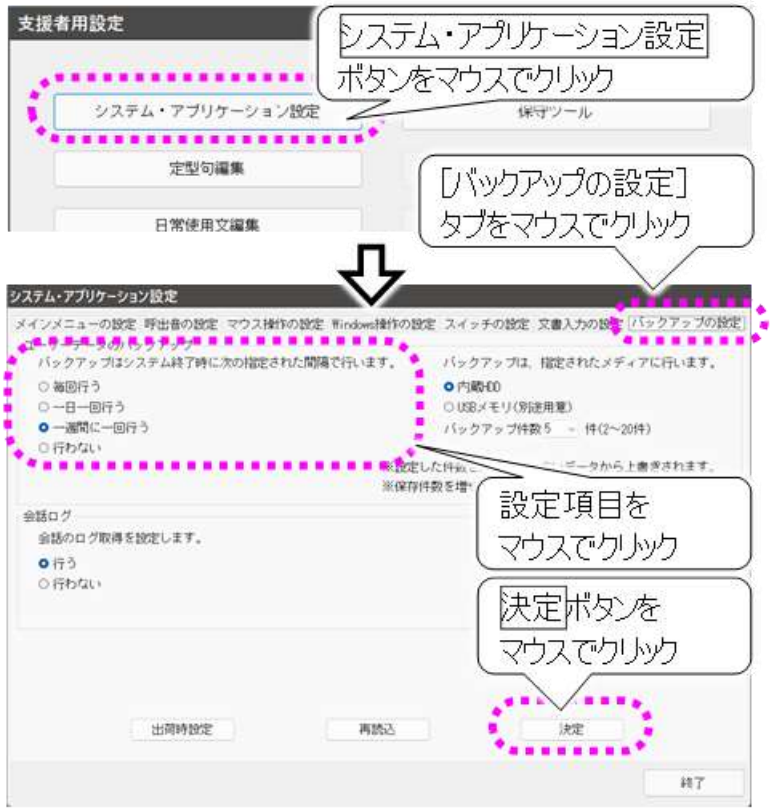
終了時に定期的にバックアップする

バックアップの間隔の設定

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

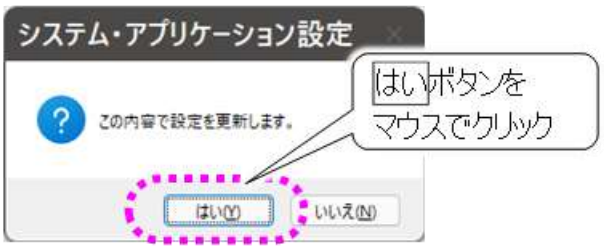
2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックして、システム・アプリケーション設定画面を開き、[バックアップの設定]タブをマウスでクリックします。

3 設定したいバックアップの間隔をマウスでクリックします。



設定項目	機能
毎回行う	「伝の心」終了時に毎回バックアップを行う
一日一回行う	その日の最初に「伝の心」を終了する時にバックアップを行う
一週間に一回行う	最後に行った日から一週間後の「伝の心」を終了する時にバックアップを行う(ご購入時の設定)
行わない	バックアップを行わない

4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、バックアップの間隔の設定が更新されます。



5 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

バックアップの設定を行う

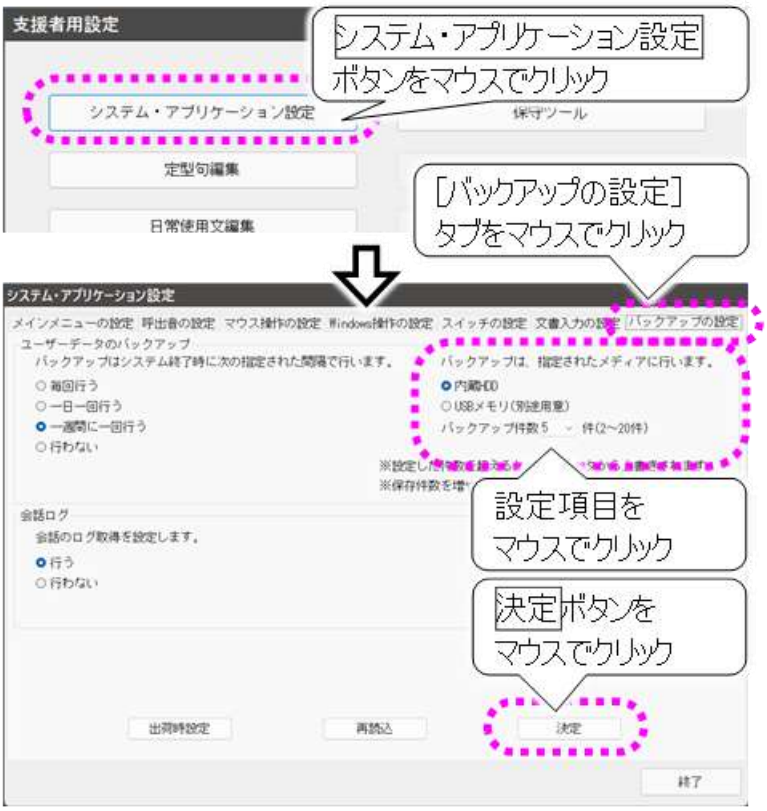
バックアップ先とバックアップ回数の設定

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックして、システム・アプリケーション設定画面を開き、[バックアップの設定]タブをマウスでクリックします。

3 設定したいバックアップ先をマウスでクリックします。

4 バックアップ回数をリストから選択します。



設定項目	機能
内臓 HDD	C ドライブにバックアップを行う(ご購入時の設定)
USB メモリ(別途用意)	最初に見つかった書き込み可能なリムーバブルメディアの装着されているドライブにバックアップを行う
バックアップ回数	バックアップデータ個数。2 回～15 回まで設定可能です。 同じドライブにバックアップデータがバックアップ回数以上あった場合は、古いバックアップデータから削除されます。 ご購入時の設定は 5 回です。

5 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、バックアップ先と回数の設定が更新されます。

6 [終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

スイッチの設定を行う

スイッチ入力監視時間の設定

スイッチ入力無効時間の設定

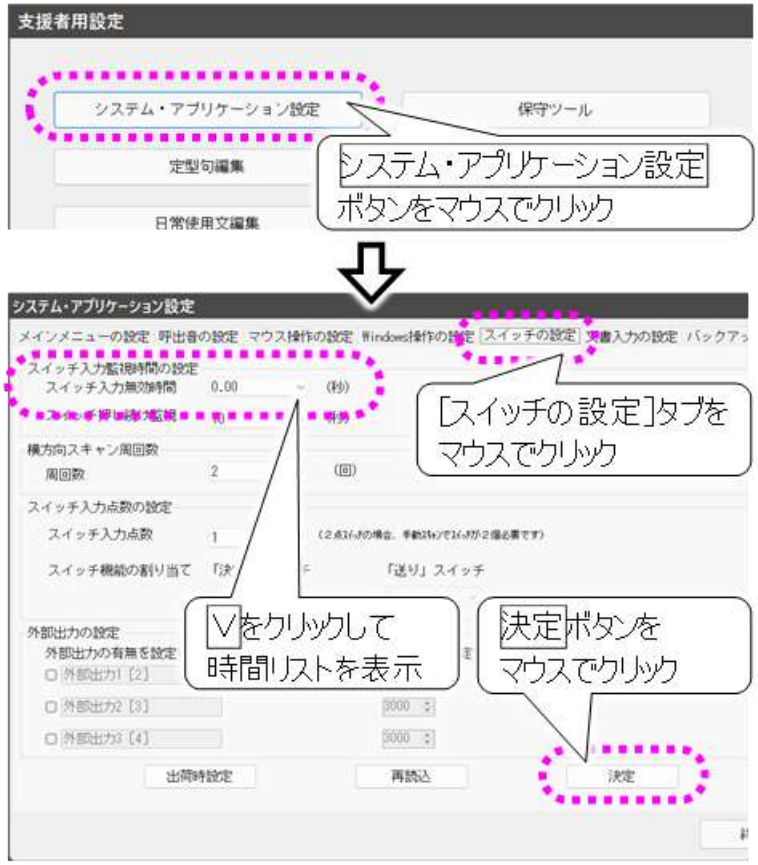
振戦などにより、意図せずスイッチを複数回押してしまうと、スキャンカーソルが行き過ぎたり、文字が複数回入力されたりと、うまく操作できないことがあります。そのような場合は、入力無効時間を設定すると、設定した時間内に何回スイッチを押しても 1 回と数えます。

1 まず、216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[スイッチの設定]タブをクリックして設定画面を開きます。

4 スイッチ入力無効時間の[V]をクリックしてスイッチ入力無効時間を表示し、時間を選択します。



設定項目	機能
0.00	スイッチ入力無効時間なし(ご購入時の設定)
0.40	スイッチ入力後 0.4 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
0.50	スイッチ入力後 0.5 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
0.75	スイッチ入力後 0.75 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
1.00	スイッチ入力後 1 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
1.25	スイッチ入力後 1.25 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
1.50	スイッチ入力後 1.5 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
1.75	スイッチ入力後 1.75 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
2.00	スイッチ入力後 2 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
2.50	スイッチ入力後 2.5 秒間次のスイッチ入力を無効にします。

設定項目	機能
3.00	スイッチ入力後 3 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
4.00	スイッチ入力後 4 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
5.00	スイッチ入力後 5 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
6.00	スイッチ入力後 6 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
7.00	スイッチ入力後 7 秒間次のスイッチ入力を無効にします。
8.00	スイッチ入力後 8 秒間次のスイッチ入力を無効にします。

制限

タッチモードの場合

設定はできません。表示も変更できない表示になります。

5 決定ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックします。これで、入力無効時間の設定が更新されます。

6 終了ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。支援者用設定画面に戻ります。

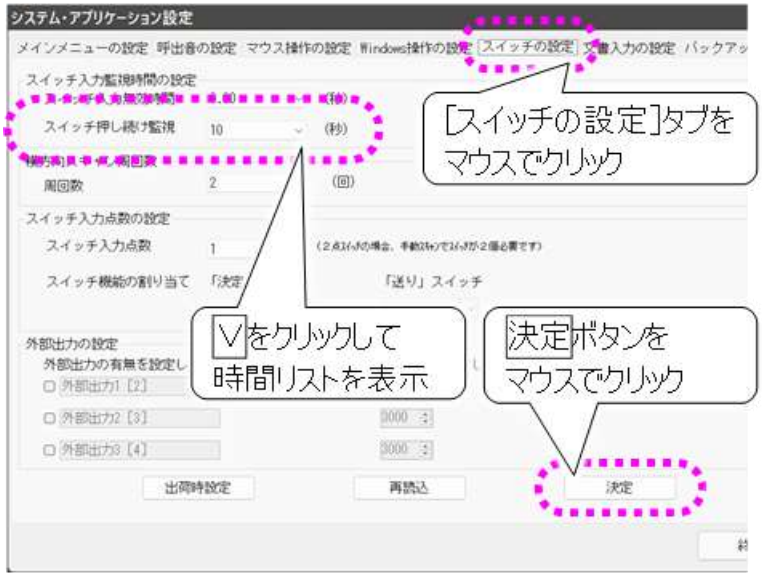
スイッチの設定を行う

スイッチ押し続け監視の設定

介護等の日常生活において、誤ってスイッチが入力し続けている状態になった場合、スイッチ入力ができないため、利用者が周囲の方々にそれを知らせる術がありません。
「伝の心」では、スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らすように設定されています。

1 230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」と同様にして、設定画面を開きます。

2 スイッチ押し続け監視の▽をクリックしてスイッチ押し続け監視時間を表示し、時間を選択します。



設定項目	機能
しない	スイッチ押し続け監視をしない。
5	5 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。
10	10 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。（ご購入時の設定）
20	20 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。
30	30 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。
40	40 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。
50	50 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。
60	60 秒間スイッチが押し続けの場合、警告音を鳴らす。

制限

タッチモードの場合
設定はできません。表示も変更できない表示になります。

3 230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」の⑤⑥と同様にして、設定を更新します。

補足

スイッチ抜けの監視について
「伝の心」では、なんでもスイッチが認識できない場合、スイッチが押し続けの場合と同様に、警告音を鳴らすように設定されています。

1 点スイッチの設定

ここでは、自動スキャンカーソルを、スイッチ 1 つで操作する入力方式の設定について説明します。ご購入時の設定はこの設定になっています。

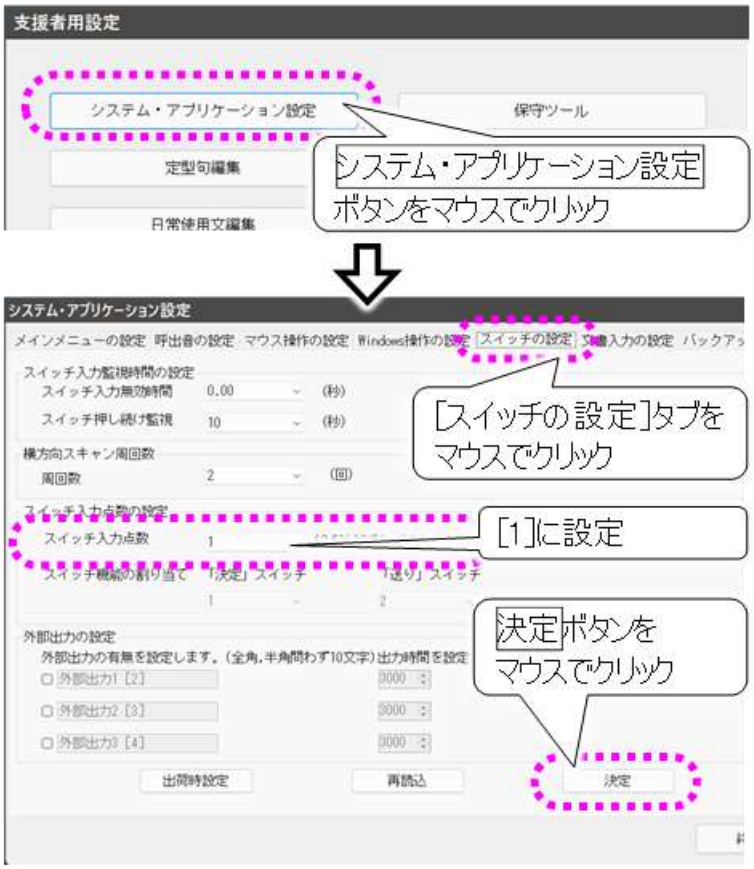
1 まず、216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[スイッチの設定]タブをクリックして設定画面を開きます。

4 スイッチ入力点が[1]に設定されている事を確認してください。[1]になっていない場合は、[1]に設定してください。

5 230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」の⑤⑥と同様にして、設定を更新します。



制限

タッチモードの場合

設定はできません。表示も変更できない表示になります。

スイッチの設定を行う

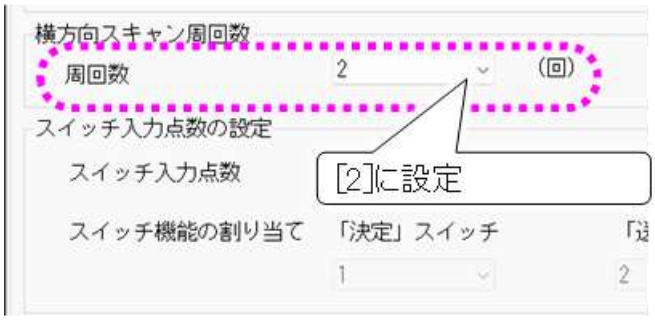
スキャン周回数の設定

スキャンは左端より始まり、右端に到着すると左端に戻ります。この動作 1 回をスキャン周回数 1 回と数えます。
また自動スキャンは、自動的に停止する/しないを選択できます。
自動スキャンを停止する場合、自動停止をするスキャン周回数を選択できます。設定後は、230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」の⑤⑥と同様にして、設定を更新します。

制限	**行スキャン（縦方向スキャン）の周回数について** 2回に設定されており、変更できません。
制限	**タッチモードの場合** 設定はできません。表示も変更できない表示になります。

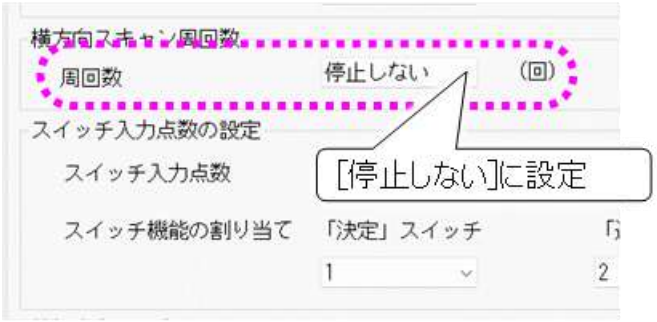
■ スキャン周回数 2 回でスキャンを自動停止する場合（ご購入時の設定）

横方向スキャン周回数：2　で設定してください。



■ 自動スキャンを停止しない場合

横方向スキャン周回数：停止しない　で設定してください。



スイッチの設定を行う

2 点スイッチの設定

ここでは、スキャンカーソルを、スイッチ2つで手動操作する入力方式の設定について説明します。この場合、スキャンカーソルを送るスイッチと選択/決定を行うスイッチの2種類のスイッチが必要になります。

制限

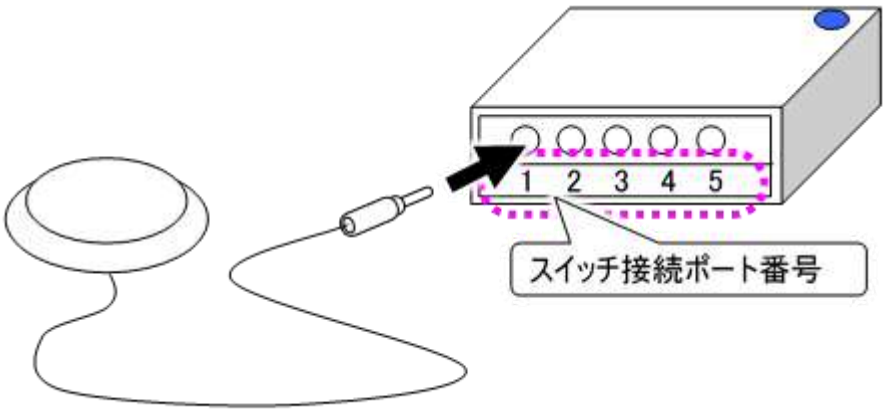
タッチモードの場合
設定はできません。表示も変更できない表示になります。

1 233 ページの「1 点スイッチの設定」と同様にして、設定画面を開きます。

2 スイッチ入力点数を[2]に設定してください。

3 決定スイッチと送りスイッチの番号を設定してください。

番号は、なんでもスイッチのスイッチ接続ポート番号です。

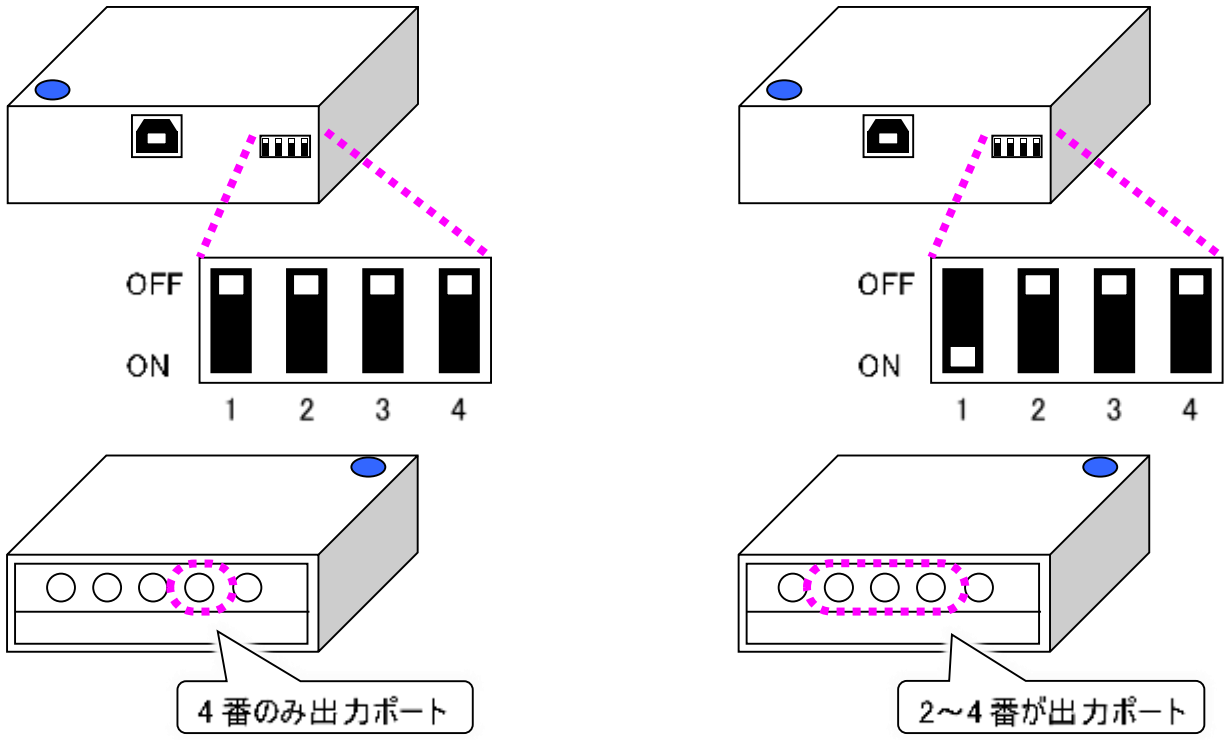


4 230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」の⑤⑥と同様にして、設定を更新します。

スイッチの設定を行う

外部出力の設定

なんでもスイッチプラスを使用すると、スイッチ接続ポート（入力ポート）を外部出力ポートに変更することができます。なんでもスイッチプラスのディップスイッチの設定で、出力ポートを増減可能です。

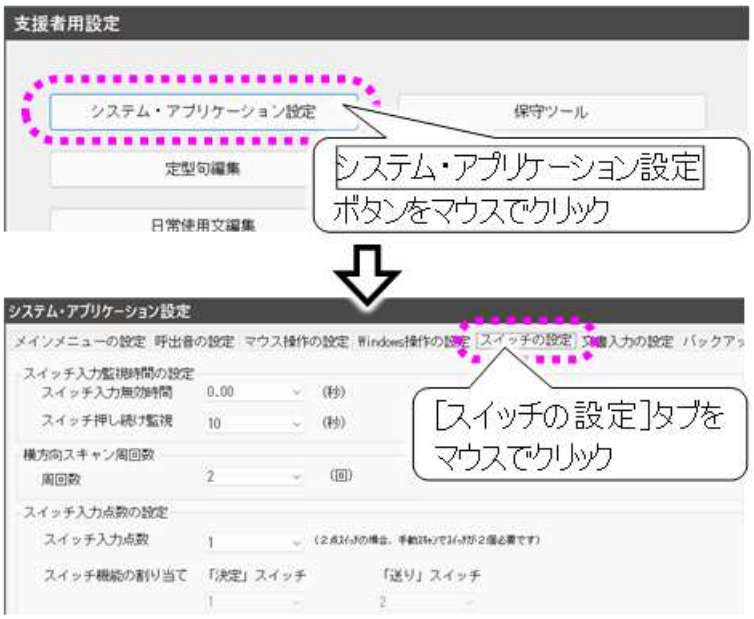


外部出力の設定を行う

1 まず、216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

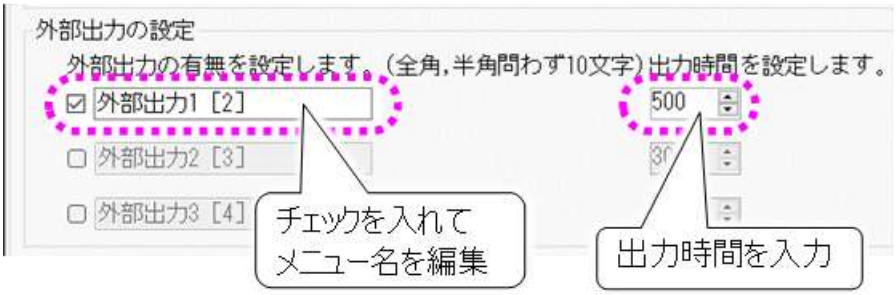
2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[スイッチの設定]タブをクリックして設定画面を開きます。



スイッチの設定を行う

4 外部出力の設定で、出力させたいポートにチェックを入れます。



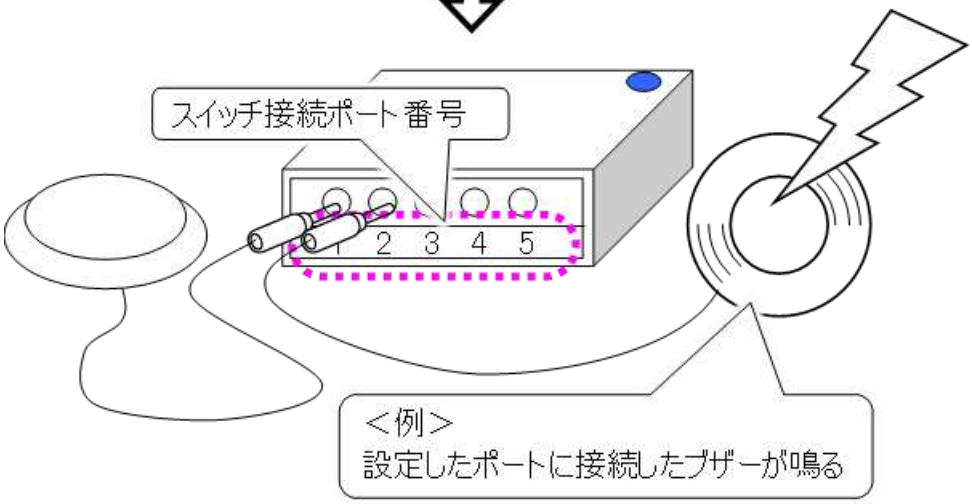
5 メニューの編集ができるようになるので、メニュー名を変更する場合は、キーボードにて入力してください。

6 次に出力時間の設定が可能になるので、ミリ秒単位で入力してください。入力した時間スイッチが押しっぱなしの状態の信号が出力されます。スイッチが押されている間ブザーが鳴るような出力機器を接続する場合は、ブザーを連続で鳴らしたい時間を設定します。

7 230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」の⑤⑥と同様にして、設定を更新します。

8 外部出力の設定を行うと、「伝の心」メインメニューの応用操作のサブメニューに外部出力のメニューが追加されます。

9 外部出力のメニューを選択すると指定した外部出力ポートに、指定した時間信号が出力されるようになります。



スイッチの設定を行う

呼び出し音と連動する

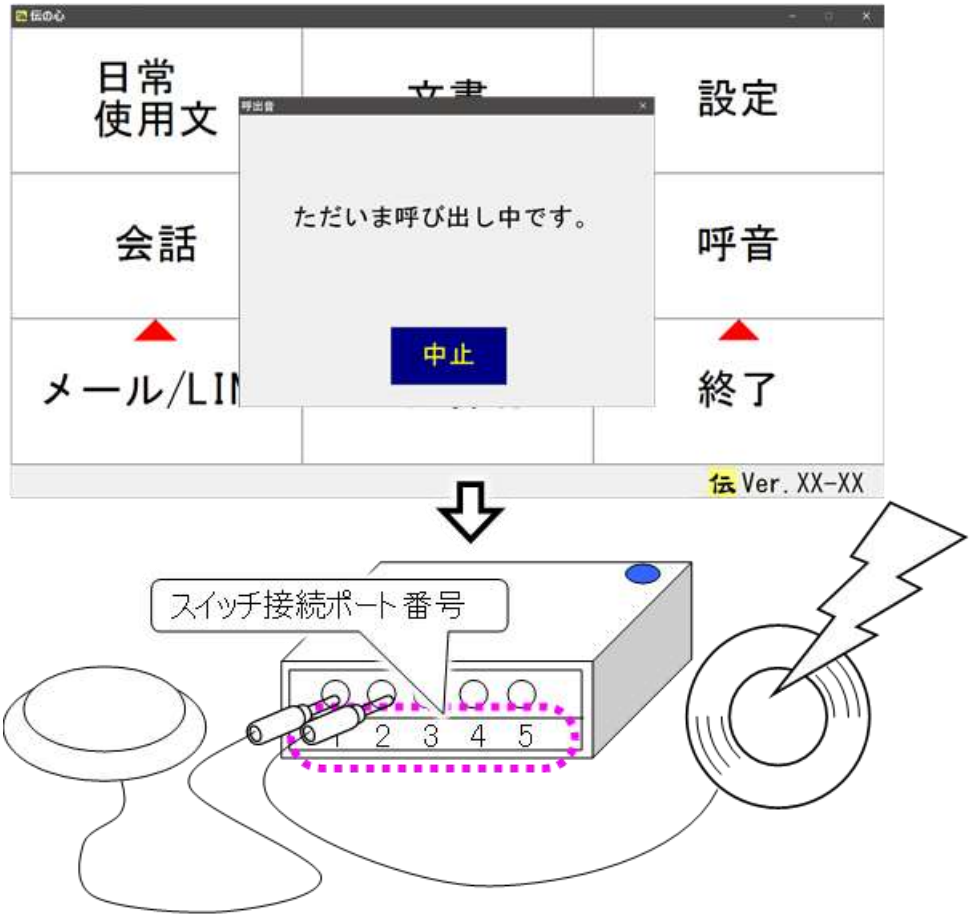
「伝の心」のメニューにて「呼音」を選択すると、「伝の心」から呼び出し音が鳴りますが、それと連動して外部出力ポートに信号を出力することが可能です。

1 236 ページの「外部出力の設定を行う」にて外部出力の何れかにチェックを入れて外部出力が可能な状態にします。

2 呼音連動の設定が可能になるので、リストから、236 ページの「外部出力の設定を行う」にて設定したメニュー名を選択します。

3 230 ページの「スイッチ入力無効時間の設定」の⑤⑥と同様にして、設定を更新します。

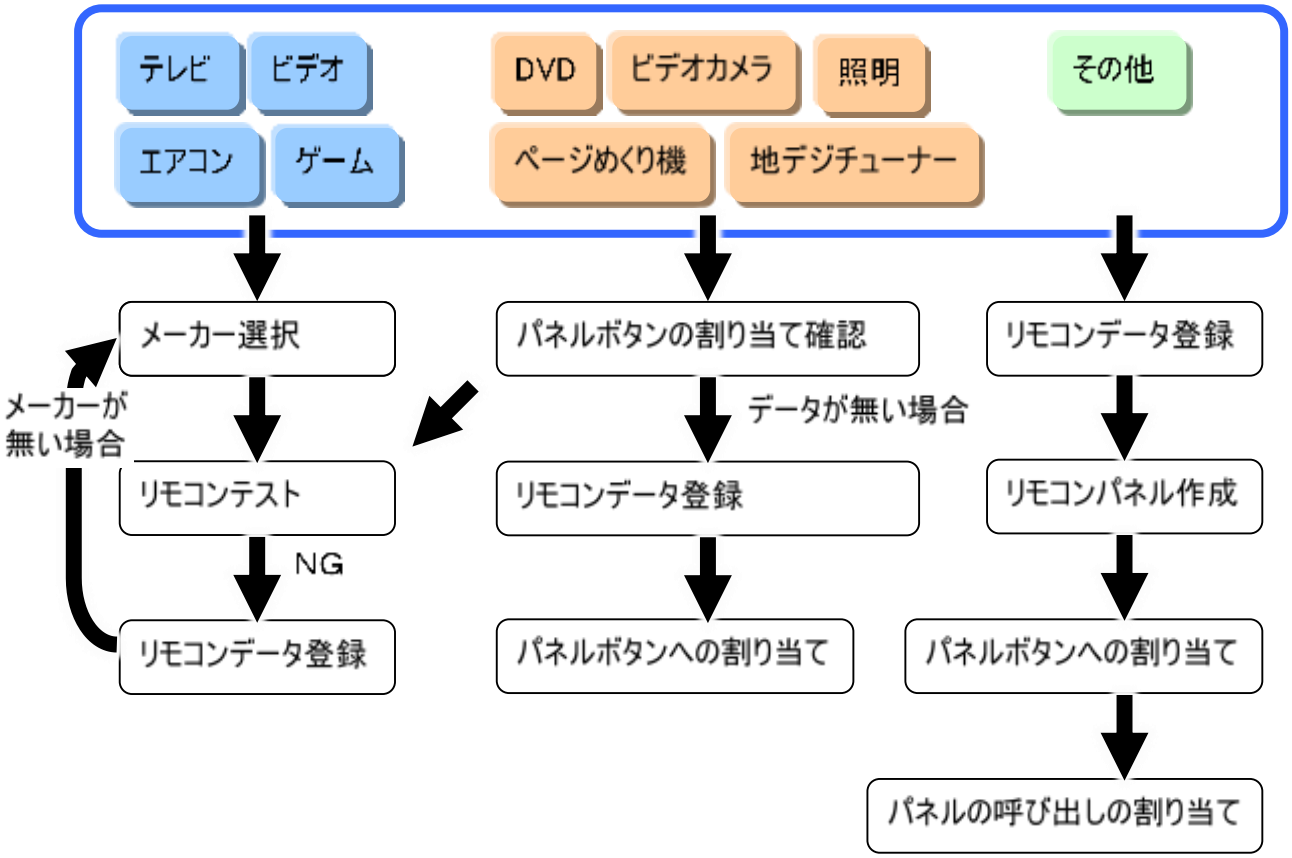
4 「伝の心」の「呼音」を選択すると、指定した外部出力ポートにも、指定した時間信号が出力されるようになります。



リモコンの設定手順

リモコンの設定の手順は、リモコンの種類によって異なります。下記の手順を参考にして、設定を行ってください。

【リモコンの種類】



手順項目	説明
メーカー選択	255 ページの「リモコンメーカーの選択」を参照して、リモコンのメーカーを選択します。
パネルボタンの割り当て確認	263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照して、使用するリモコンのメーカーを確認します。 メーカーが違う場合はメーカーを選択しなおしてください。データが無い場合は、リモコンデータ登録を行ってください。
リモコンデータ登録	257 ページの「新しくリモコンデータを登録する」を参照して、リモコンデータを「伝の心」に登録します。
リモコンテスト	実際にリモコン操作して確認してください。 リモコン操作できない場合は、リモコンデータ登録を行ってください。
リモコンパネル作成	263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照して、リモコンデータを割り当てるパネルを作成します。既にあるパネルを使用する場合は、パネルの作成は必要ありません。

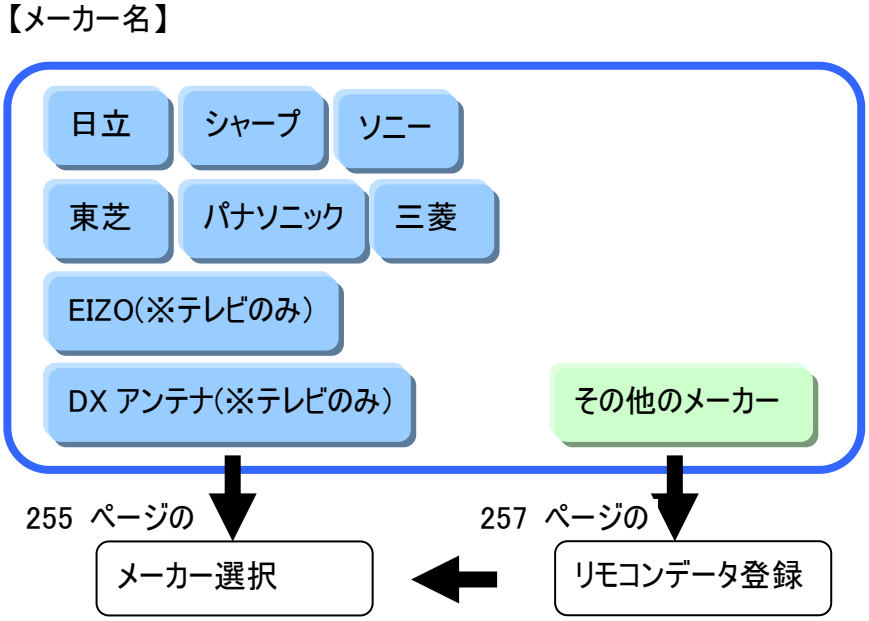
リモコンの設定を行う

手順項目	説明
パネルボタンへの割り当て	263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照して、リモコンデータをパネルボタンに割り当てます。
パネルの呼び出しの割り当て	269 ページの「リモコンパネルを別のリモコンパネルから呼び出す」を参照して、作成したリモコンパネルを、どのパネルから呼び出すか設定します。

テレビ・ビデオリモコンの設定手順

テレビ・ビデオのメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1 まず、テレビまたはビデオのメーカーから、メーカー選択で登録可能かどうか調べます。
下記のフローを参考にして、メーカー選択が可能な場合はメーカー選択に進み、不可能な場合(リモコンデータなしの場合)はリモコンデータの登録に進み、その後メーカー選択に進みます。



補足

メーカー選択について

上記のフローは、ご購入時の状態です。新しくテレビまたはビデオのメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、メーカー選択時、メーカー名のリストに追加されます。

2 メーカー選択後は、リモコンテストを行ってください。
172 ページの「テレビを操作する」または 178 ページの「ビデオを操作する」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

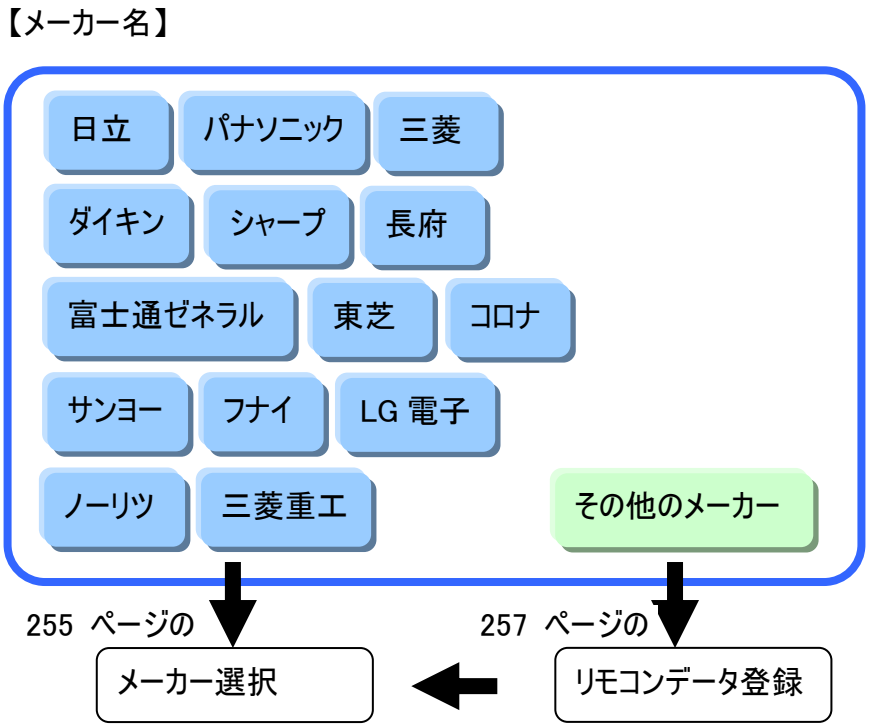
ご購入時のリモコンデータについて

545 ページの「テレビ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」、548 ページの「簡単テレビ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」、549 ページの「ビデオ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」、552 ページの「簡単ビデオ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、テレビ・ビデオの各パネルのパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

エアコンリモコンの設定手順

エアコンのメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1 まず、エアコンのメーカーから、メーカー選択で登録可能かどうか調べます。
下記のフローを参考にして、メーカー選択が可能な場合はメーカー選択に進み、不可能な場合（リモコンデータなしの場合）はリモコンデータの登録に進み、その後メーカー選択に進みます。



補足

メーカー選択について

上記のフローは、ご購入時の状態です。新しくエアコンのメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、メーカー選択時、メーカー名のリストに追加されます。

2 メーカー選択後は、リモコンテストを行ってください。
185 ページの「エアコン」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

リモコンの設定を行う

参照

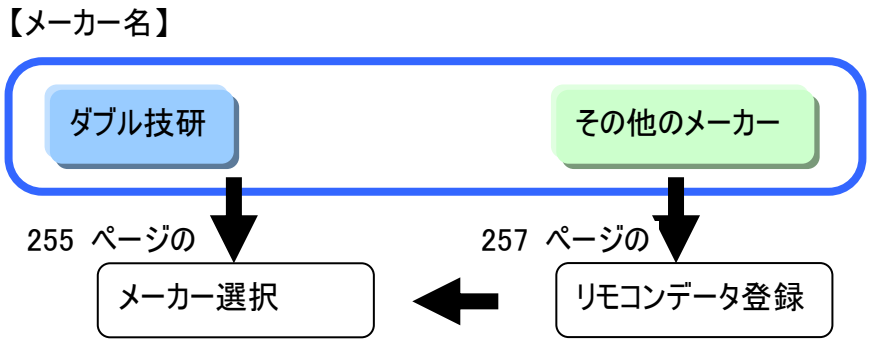
ご購入時のリモコンデータについて

553 ページの「エアコン　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、エアコンパネルのパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

ゲーム機リモコンの設定手順

ゲーム機のメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない場合もあります。

1 まず、ゲーム機のメーカーから、メーカー選択で登録可能かどうか調べます。
下記のフローを参考にして、メーカー選択が可能な場合はメーカー選択に進み、不可能な場合(リモコンデータなしの場合)はリモコンデータの登録に進み、その後メーカー選択に進みます。



補足

メーカー選択について

上記のフローは、ご購入時の状態です。新しくゲームのメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、メーカー選択時、メーカー名のリストに追加されます。

2 メーカー選択後は、リモコンテストを行ってください。
186 ページの「ゲーム操作」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

ご購入時のリモコンデータについて

554 ページの「ゲーム機　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、ゲーム機パネルのパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

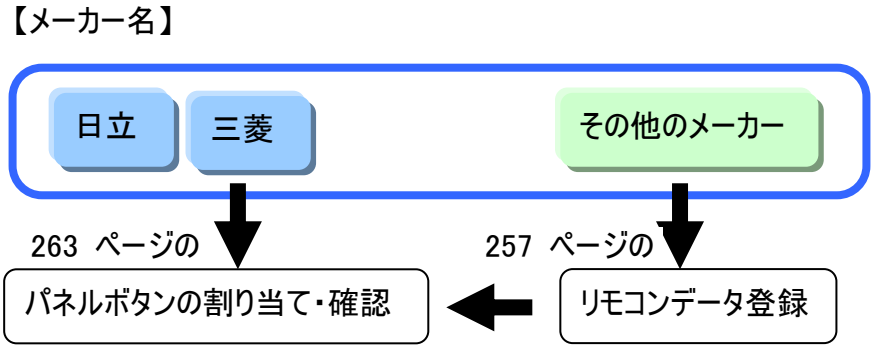
リモコンの設定を行う

DVD リモコンの設定手順

DVD プレーヤーのメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1

まず、DVD プレーヤーのメーカーから、リモコンデータが登録されているかどうか調べます。
下記のフローを参考にして、リモコンデータが登録されている場合はパネルボタンの割り当て確認に進み、リモコンデータなしの場合はリモコンデータの登録に進み、その後パネルボタンの割り当てに進みます。



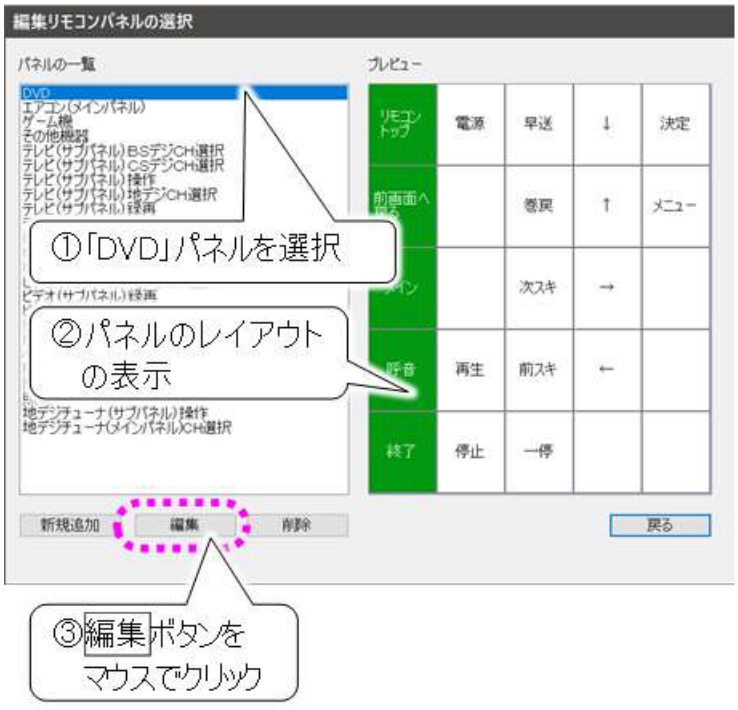
補足

その他のメーカーについて

上記のフローは、ご購入時の状態です。新しく DVD プレーヤーのメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、リモコンデータ登録は行わずパネルボタンの割り当て・確認からでよい場合もあります。

2

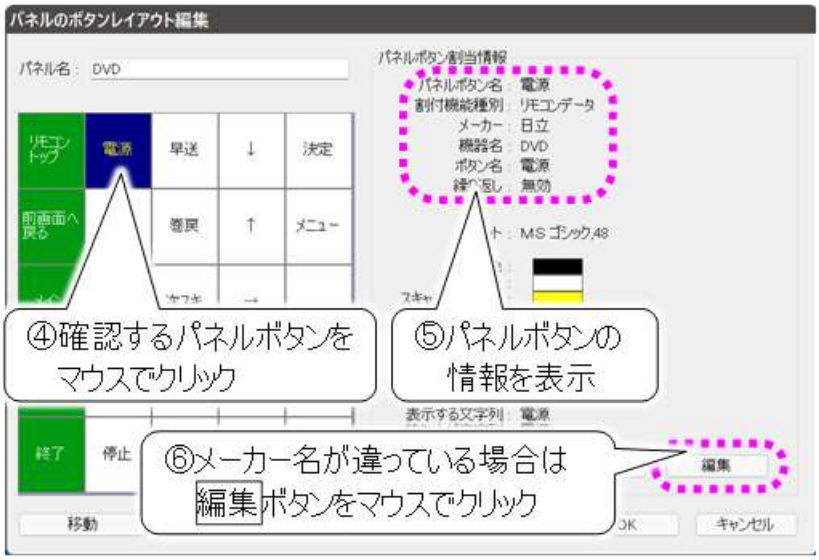
パネルボタンの割り当て・確認は、まず、パネル編集メイン画面から、「DVD」パネルを選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、パネルの編集画面を表示するところから始めます。



リモコンの設定を行う

3 「DVD」パネルの編集画面の左側パネルボタンをマウスでクリックすると、右側にパネルボタンの割り当て情報が表示されるので、ここで DVD プレーヤーのメーカー名を確認します。

メーカー名が違っている場合は、編集ボタンをマウスでクリックして、リモコンデータの割り当てを行ってください。



4 パネルボタンの割り当て・確認後は、リモコンテストを行ってください。
189 ページの「DVD」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

ご購入時のリモコンデータについて

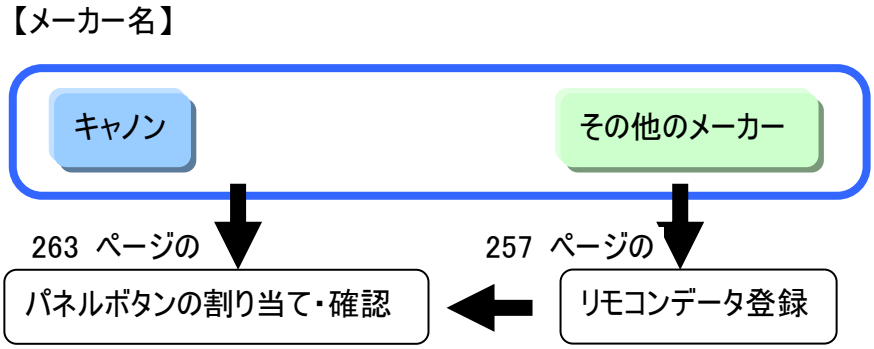
555 ページの「DVD パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、DVD パネルのパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

リモコンの設定を行う

ビデオカメラリモコンの設定手順

リモコンビデオカメラのメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1 まず、リモコンビデオカメラのメーカーから、リモコンデータが登録されているかどうか調べます。下記のフローを参考にして、リモコンデータが登録されている場合はパネルボタンの割り当て確認に進み、リモコンデータなしの場合はリモコンデータの登録に進み、その後パネルボタンの割り当てに進みます。

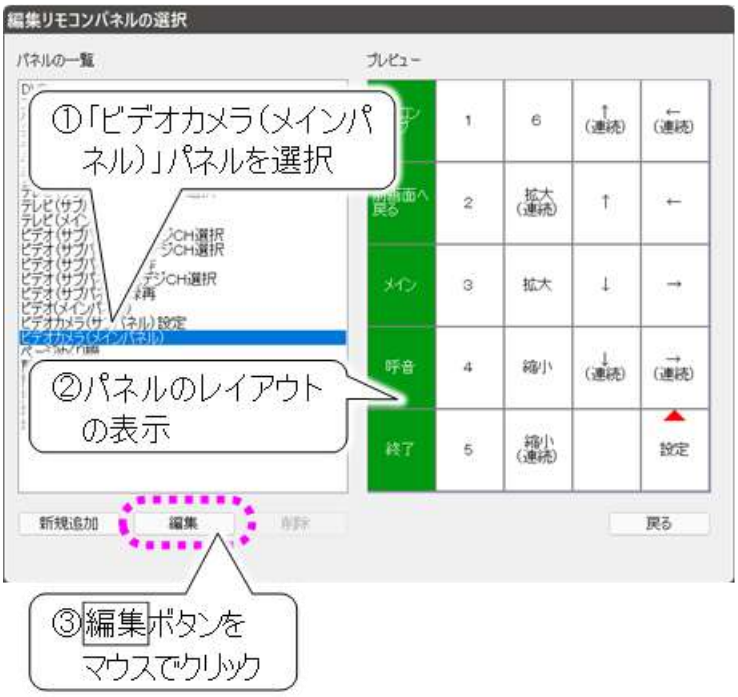


補足

その他のメーカーについて

上記のフローは、ご購入時の状態です。新しくリモコンビデオカメラのメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、リモコンデータ登録は行わずパネルボタンの割り当て・確認からでよい場合もあります。

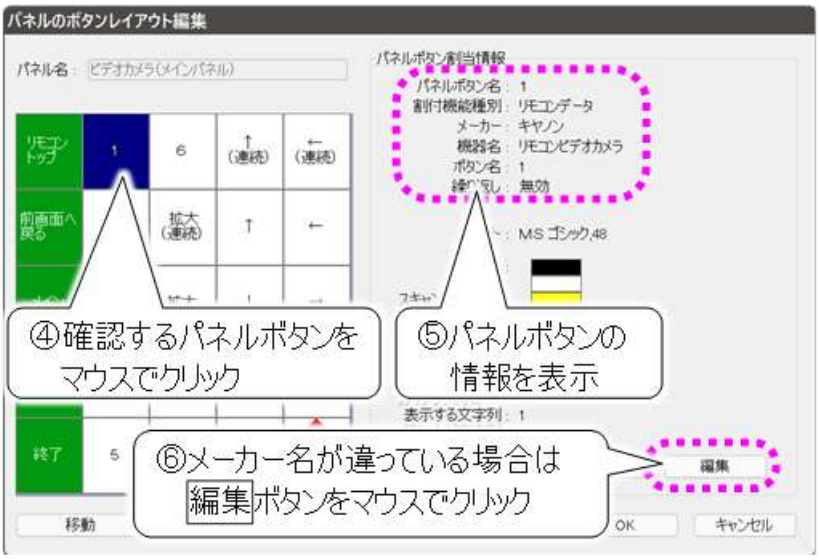
2 パネルボタンの割り当て・確認は、まず、パネル編集メイン画面から、「ビデオカメラ(メインパネル)」パネルまたは「ビデオカメラ(サブパネル)設定」を選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、パネルの編集画面を表示するところから始めます。



リモコンの設定を行う

3 「ビデオカメラ」パネルの編集画面の左側パネルボタンをマウスでクリックすると、右側にパネルボタンの割り当て情報が表示されるので、ここでリモコンビデオカメラのメーカー名を確認します。

メーカー名が違っている場合は、編集ボタンをマウスでクリックして、リモコンデータの割り当てを行ってください。



4 パネルボタンの割り当て・確認後は、リモコンテストを行ってください。
191 ページの「ビデオカメラ」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

ご購入時のリモコンデータについて

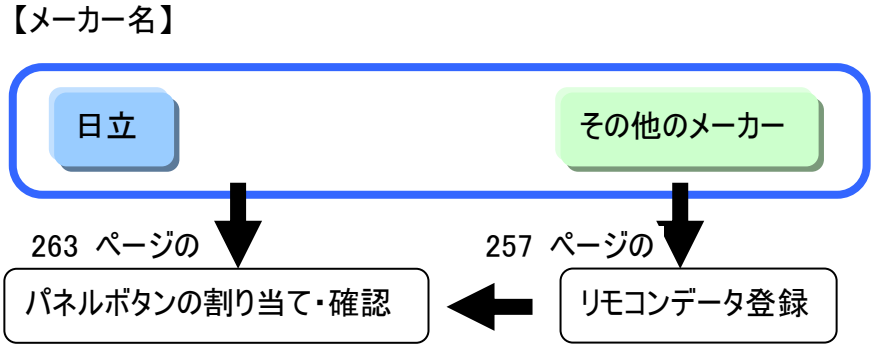
556 ページの「ビデオカメラ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、ビデオカメラのパネル毎のパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

リモコンの設定を行う

照明リモコンの設定手順

照明のメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1 まず、照明のメーカーから、リモコンデータが登録されているかどうか調べます。
下記のフローを参考にして、リモコンデータが登録されている場合はパネルボタンの割り当て確認に進み、リモコンデータなしの場合はリモコンデータの登録に進み、その後パネルボタンの割り当てに進みます。

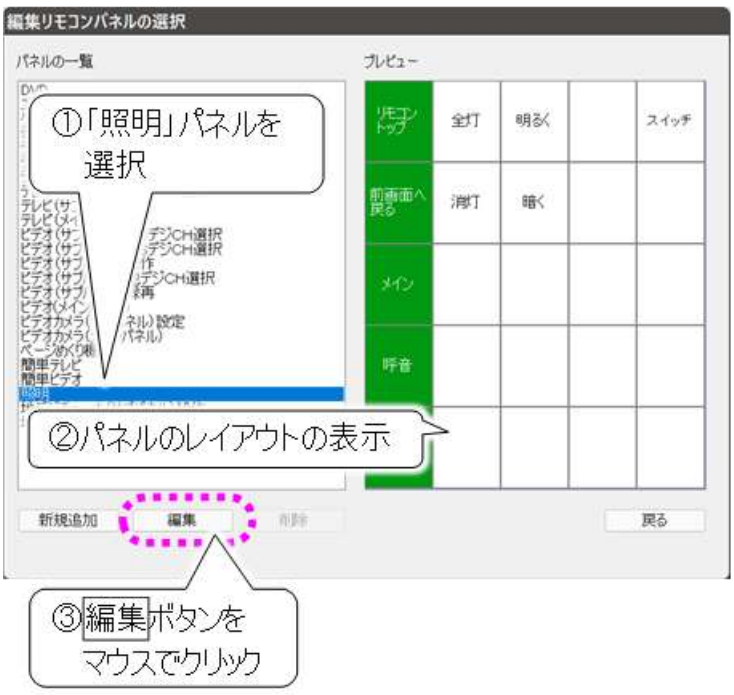


補足

その他のメーカーについて

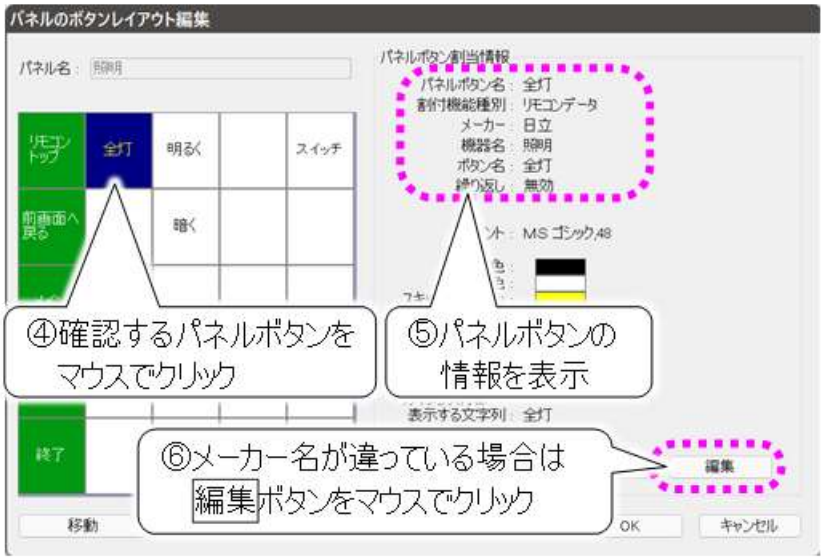
上記のフローは、ご購入時の状態です。新しく照明のメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、リモコンデータ登録は行わずパネルボタンの割り当て・確認からでよい場合もあります。

2 パネルボタンの割り当て・確認は、まず、パネル編集メイン画面から、「照明」を選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、パネルの編集画面を表示するところから始めます。



リモコンの設定を行う

3 「照明」パネルの編集画面の左側パネルボタンをマウスでクリックすると、右側にパネルボタンの割り当て情報が表示されるので、ここで照明のメーカー名を確認します。メーカー名が違っている場合は、編集ボタンをマウスでクリックして、リモコンデータの割り当てを行ってください。



4 パネルボタンの割り当て・確認後は、リモコンテストを行ってください。
191 ページの「ビデオカメラ」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

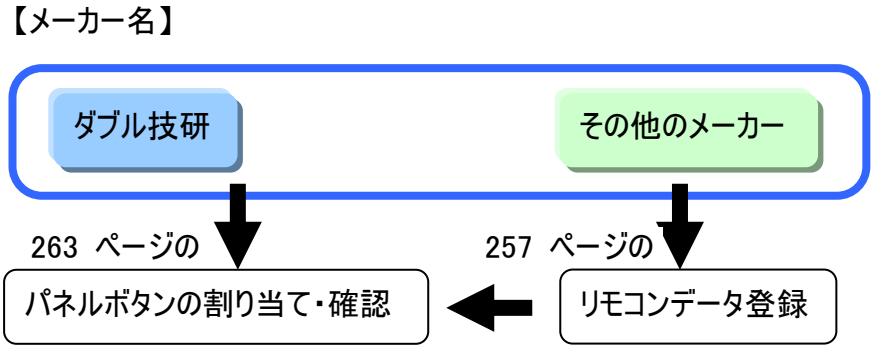
ご購入時のリモコンデータについて

556 ページの「ビデオカメラ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、ビデオカメラのパネル毎のパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

ページめくり機リモコンの設定手順

ページめくり機のメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1 まず、ページめくり機のメーカーから、リモコンデータが登録されているかどうか調べます。
下記のフローを参考にして、リモコンデータが登録されている場合はパネルボタンの割り当て確認に進み、リモコンデータなしの場合はリモコンデータの登録に進み、その後パネルボタンの割り当てに進みます。

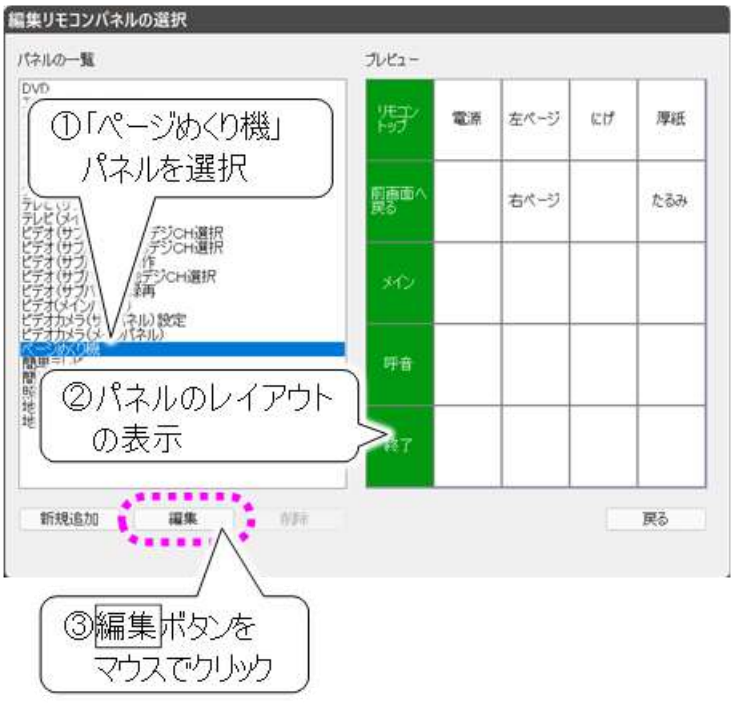


補足

その他のメーカーについて

上記のフローは、ご購入時の状態です。新しくページめくり機のメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、リモコンデータ登録は行わずパネルボタンの割り当て・確認からでよい場合もあります。

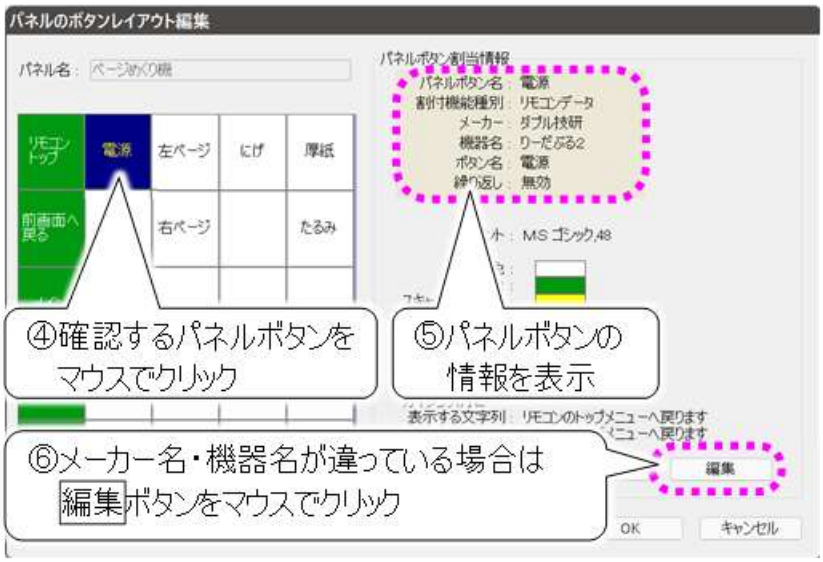
2 パネルボタンの割り当て・確認は、まず、パネル編集メイン画面から、「ページめくり機」を選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、パネルの編集画面を表示するところから始めます。



リモコンの設定を行う

3 「ページめくり機」パネルの編集画面の左側パネルボタンをマウスでクリックすると、右側にパネルボタンの割り当て情報が表示されるので、ここでページめくり機のメーカー名を確認します。

メーカー名・機器名が違っている場合は、編集ボタンをマウスでクリックして、リモコンデータの割り当てを行ってください。



制限

ご購入時の設定は、メーカー名：ダブル技研、機器名：りーだぶる 2 でリモコンデータが割り当てられています。また、パネルには割り当てられていませんが、りーだぶる 1 のリモコンデータも登録されています。
ただし、これは操作を保証するものではありません。
動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。

4 パネルボタンの割り当て・確認後は、リモコンテストを行ってください。
187 ページの「ページめくり機」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

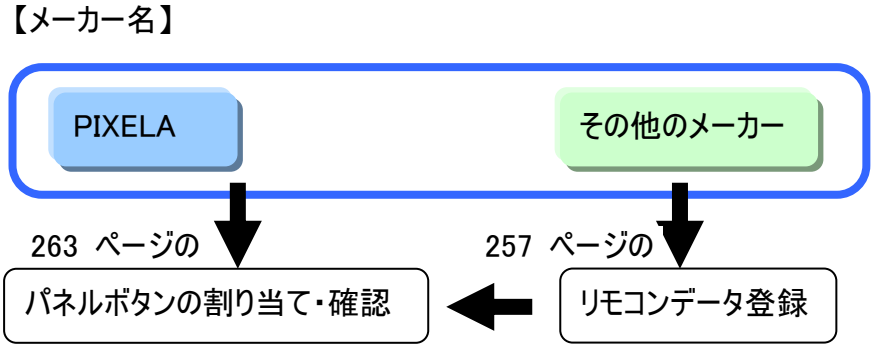
ご購入時のリモコンデータについて
557 ページの「ページめくり機　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、ページめくり機パネルのパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

リモコンの設定を行う

地デジチューナーリモコンの設定手順

地デジチューナーのメーカーによって設定手順が異なります。また、同じメーカーであってもリモコンデータを再登録しなくてはならない機器もあります。

1 まず、地デジチューナーのメーカーから、リモコンデータが登録されているかどうか調べます。
下記のフローを参考にして、リモコンデータが登録されている場合はパネルボタンの割り当て確認に進み、リモコンデータなしの場合はリモコンデータの登録に進み、その後パネルボタンの割り当てに進みます。

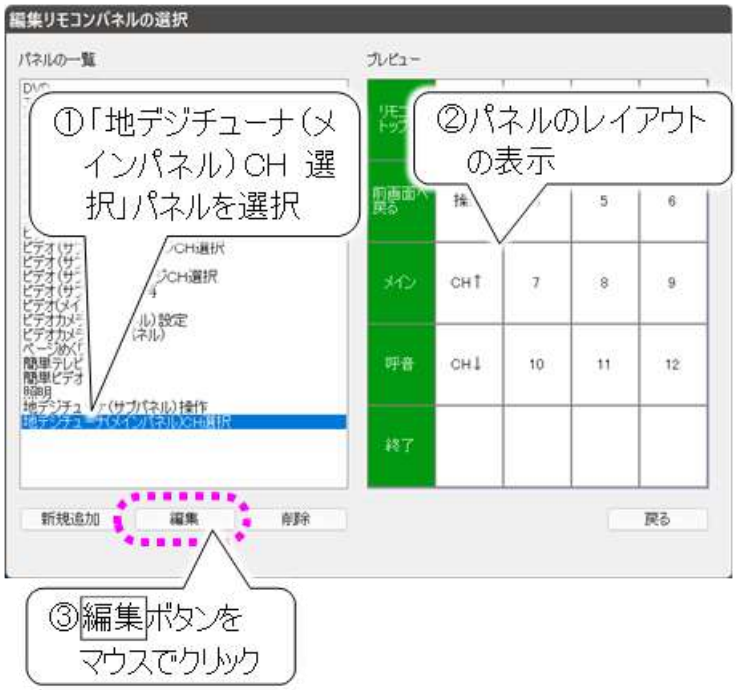


補足

その他のメーカーについて

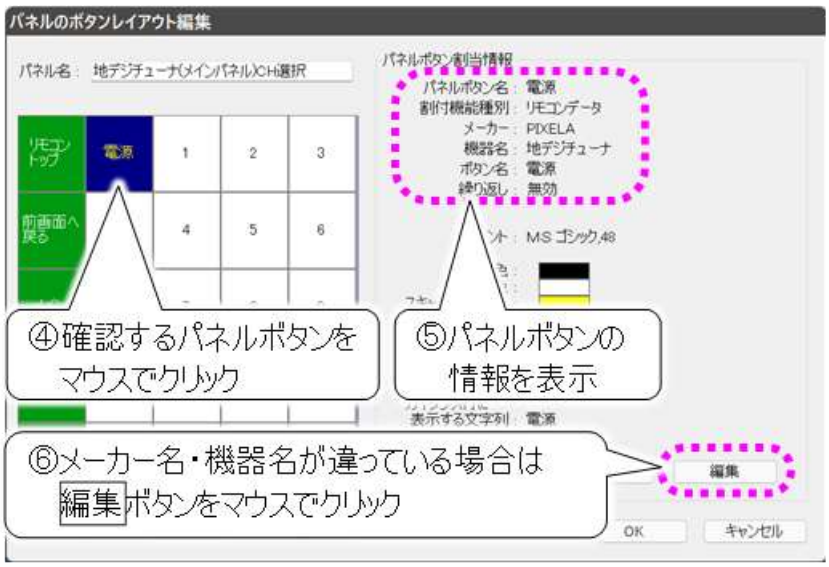
上記のフローは、ご購入時の状態です。新しく地デジチューナーのメーカーをリモコンデータ登録で登録した場合は、リモコンデータ登録は行わずパネルボタンの割り当て・確認からでよい場合もあります。

2 パネルボタンの割り当て・確認は、まず、パネル編集メイン画面から、「地デジチューナ（メインパネル）CH 選択」パネルまたは「地デジチューナ（サブパネル）設定」を選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、パネルの編集画面を表示するところから始めます。



リモコンの設定を行う

3 「地デジチューナー」パネルの編集画面の左側パネルボタンをマウスでクリックすると、右側にパネルボタンの割り当て情報が表示されるので、ここで地デジチューナーのメーカー名を確認します。



メーカー名・機器名が違っている場合は、編集ボタンをマウスでクリックして、リモコンデータの割り当てを行ってください。

4 パネルボタンの割り当て・確認後は、リモコンテストを行ってください。
194 ページの「地デジチューナー」を参照して実際にリモコン操作を行います。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

参照

ご購入時のリモコンデータについて

558 ページの「地デジチューナー　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）」に、地デジチューナーの各パネルのパネルボタンに割り当てられているご購入時のリモコンデータの一覧を記載しています。

その他のリモコンの設定手順

240 ページから紹介してきたリモコン機器以外のリモコン機器を設定する場合、または、同じ種類のリモコン機器を 2 台使用したい場合は、新しくリモコンパネルを作成する必要があります。
ここでは、その方法を簡単にご紹介します。

1 リモコンデータ登録
新規に登録するので、まず 257 ページの「新しくリモコンデータを登録する」を参照して、リモコンデータを登録します。

補足

同じ種類のリモコン機器を 2 台同時に使用したい場合の設定
メーカー名と機器名が 2 つとも同じ場合は、機器名もしくはメーカー名を違う名前で登録してください。

例: 日立製テレビ 1 台目⇒メーカー名:日立、機器名:テレビ
日立製テレビ 2 台目⇒メーカー名:日立、機器名:テレビ 2

但し、テレビ・ビデオ・エアコン・ゲームの機器名を変更すると、メーカー選択で全データを一括変更するメーカーの選択画面でリストに載らなくなります。
上記の例で説明すると、日立製テレビ 1 台目はリストから選択できますが、日立製テレビ 2 台目は選択できません。

2 リモコンパネル作成
新しいリモコン機器用に、新規にリモコンパネルを作成します。
263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照して、リモコンデータを割り当てるパネルを作成してください。
既にあるパネルを使用する場合は、パネルの作成は必要ありませんが、1 枚のリモコンパネルには 1 種類のリモコン機器を登録する方が、後で管理が簡単になります。

3 パネルボタンへの割り当て
②で作成したパネルにパネルボタンを登録し、パネルボタンに①で登録したリモコンデータを割り当てます。
263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」を参照して、パネルボタンの登録、リモコンデータの割り当てを行ってください。

4 パネルの呼び出しの割り当て
269 ページの「リモコンパネルを別のリモコンパネルから呼び出す」を参照して、③でモコンデータを割

リモコンの設定を行う

り当てたリモコンパネルを、どのパネルから呼び出すか設定します。
新しいリモコン機器なので、「その他機器」パネルがお勧めです。

5

パネルボタンの割り当て・確認後は、リモコンテストを行ってください。
作成したパネルをリモコン操作で表示して確認します。
「選択されたリモコンは登録されていません」というメッセージが表示された場合は、再度、リモコンデータ登録を行ってください。
動作しないボタン、期待した動きと違う動きをするボタンがある場合も同様です。

リモコンメーカーの選択

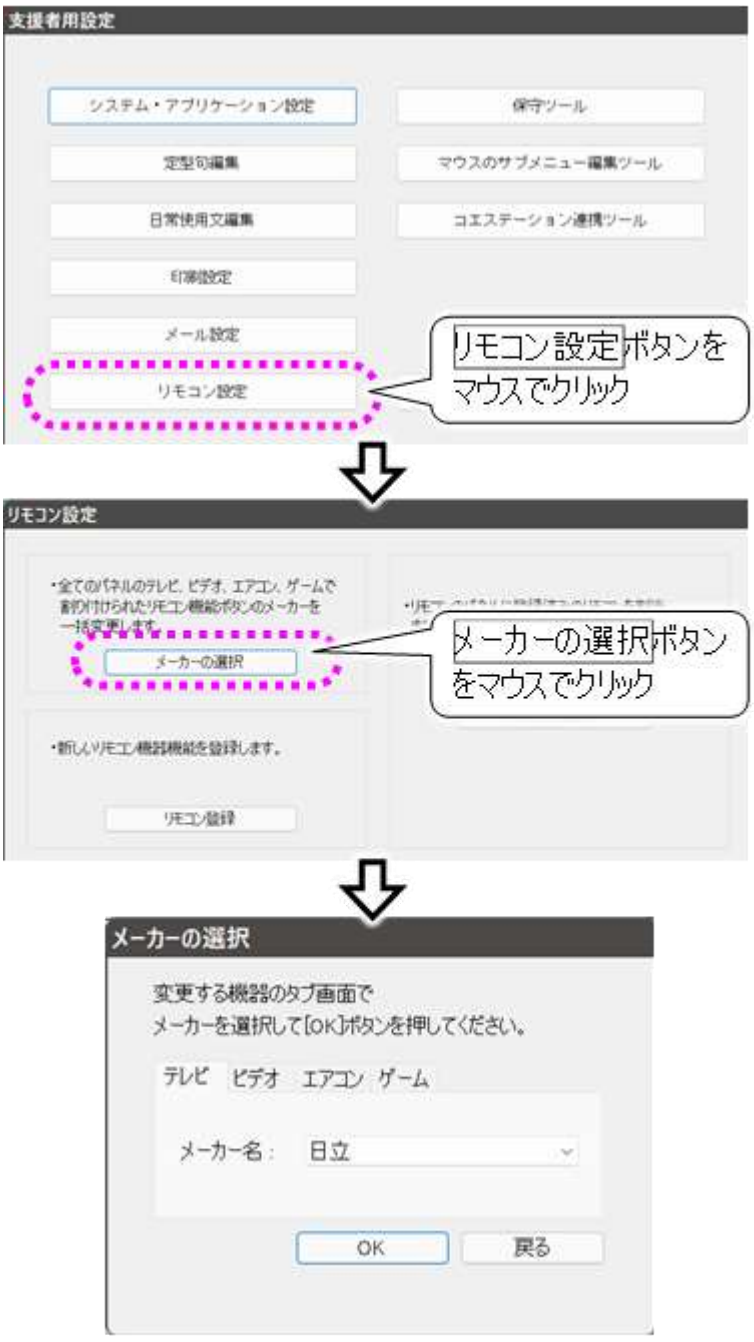
テレビ・ビデオ・エアコン・ゲームのリモコン設定は、メーカー選択のみで一括登録可能です。

制限	基本的な機器のリモコンデータを登録していますが、全ての操作を保証するものではありません。 動作しない場合は、お客様機器でリモコンデータを再登録してください。

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[リモコン設定]ボタンをマウスでクリックすると、リモコン設定画面が表示されます。

3 リモコン設定画面の[メーカーの選択]ボタンをマウスでクリックすると、メーカーの選択画面が表示されます。

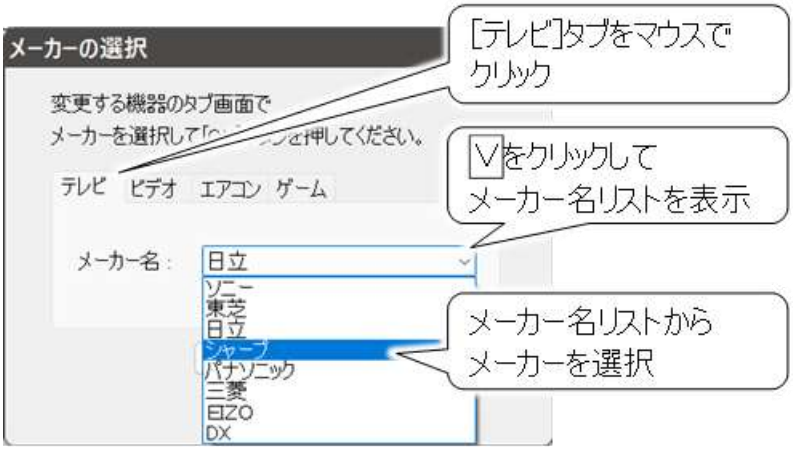


リモコンの設定を行う

■ テレビリモコンの選択

1 メーカーの選択画面の[テレビ]タブをクリックし、メーカー名の[V]をクリックしてメーカー名リストを表示してメーカーを選択します。

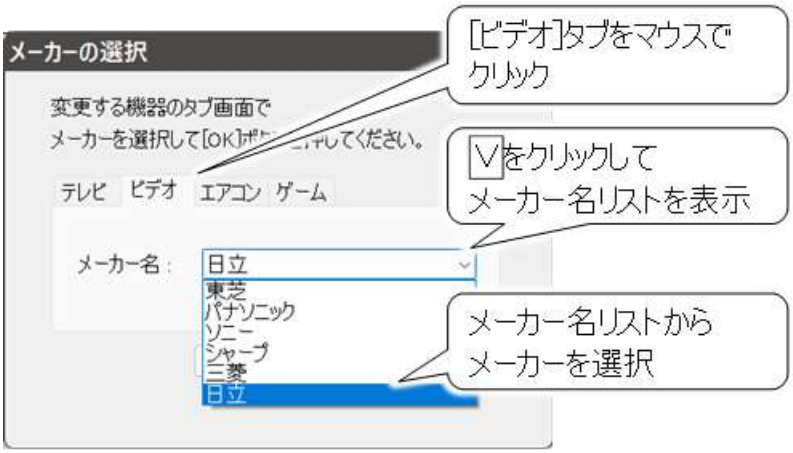
2 [OK]ボタンをマウスでクリックすると、リモコンメーカーの設定が変更され、リモコン設定画面に戻ります。



■ ビデオリモコンの選択

1 メーカーの選択画面の[ビデオ]タブをマウスでクリックし、メーカー名の[V]をクリックしてメーカー名リストを表示してメーカーを選択します。

2 [OK]ボタンをマウスでクリックすると、リモコンメーカーの設定が変更され、リモコン設定画面に戻ります。



■ エアコン／ゲームリモコンの選択

「テレビリモコンの選択」や「ビデオリモコンの選択」と同様にして、エアコンリモコンの設定は[エアコン]タブを、ゲームリモコンの設定は[ゲーム]タブをマウスでクリックして、設定を行います。

リモコンの設定を行う

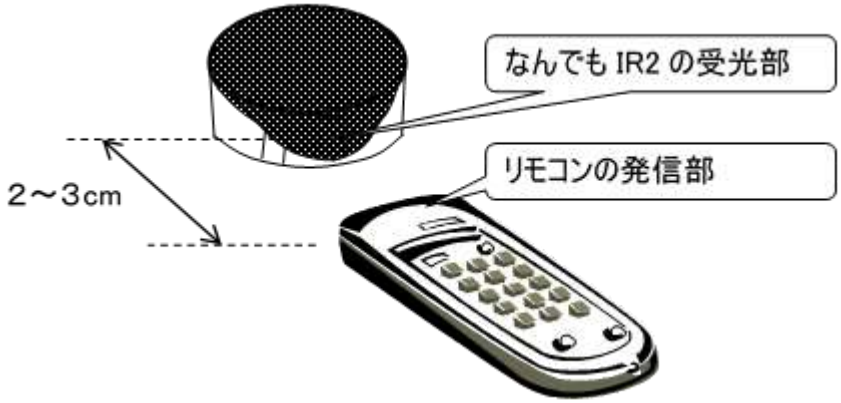
新しくリモコンデータを登録する

リモコンデータの登録は、リモコンのボタン 1 つに対して 1 つの登録になります。同じリモコンで複数のボタンを登録する場合は、その登録するボタンの数だけ登録が必要です。

制限 あまり多くのリモコンデータを登録すると、画面の表示や操作が遅くなることがありますので、ご注意ください。

1 まず、登録するリモコンを用意してください。

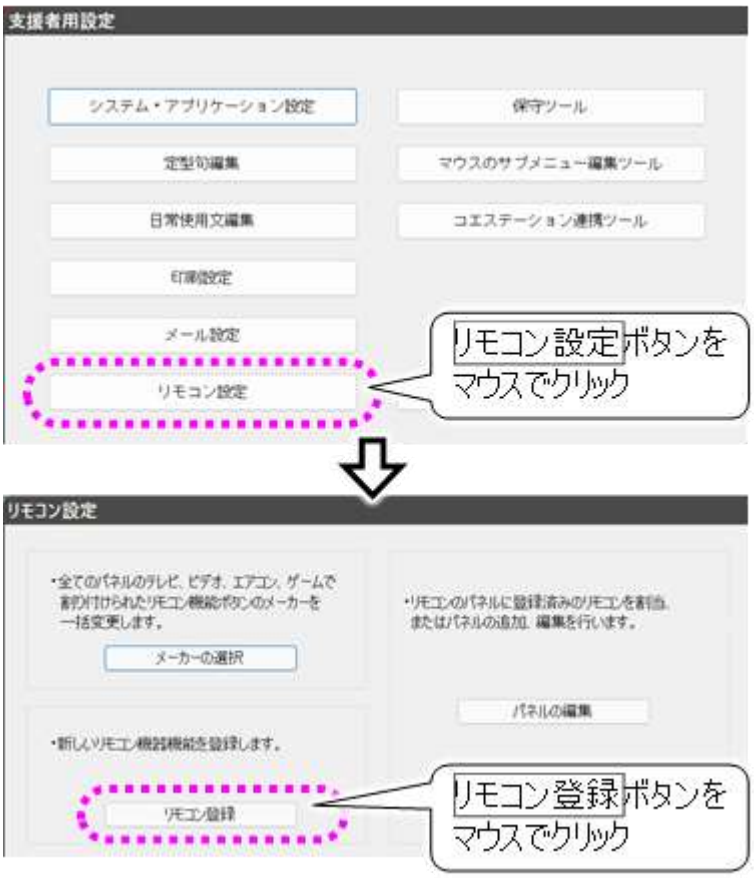
2 リモコンの発信部と、なんでも IR2 の受光部を、2～3cm 離して向かい合わせに置いてください。



3 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

4 255 ページの「リモコンメーカーの選択」と同様に、支援者用設定画面の リモコン設定 ボタンをマウスでクリックすると、リモコン設定画面が表示されます。

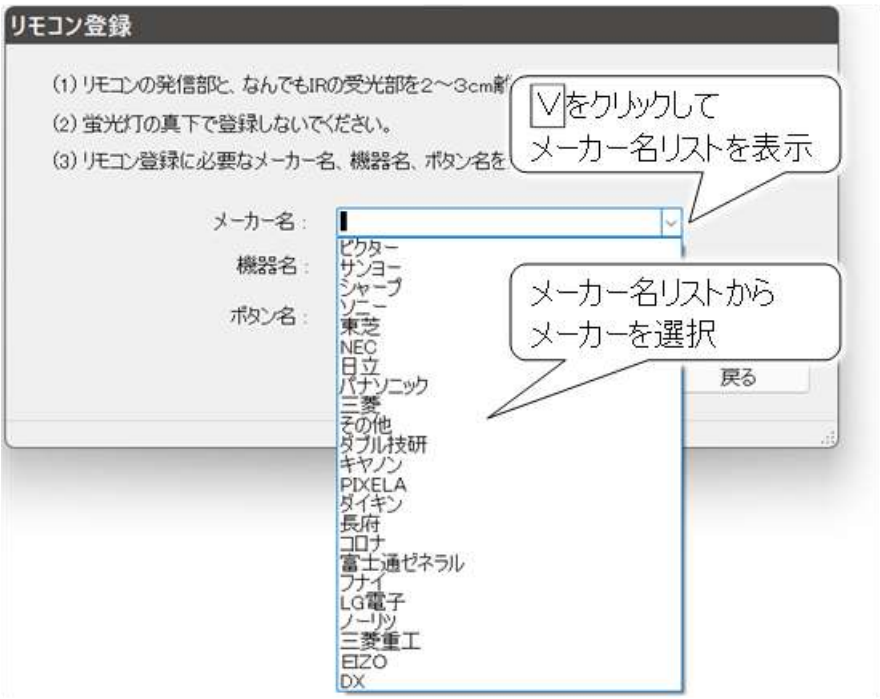
5 リモコン設定画面の リモコン登録 ボタンをマウスでクリックすると、リモコン登録画面が表示されます。



リモコンの設定を行う

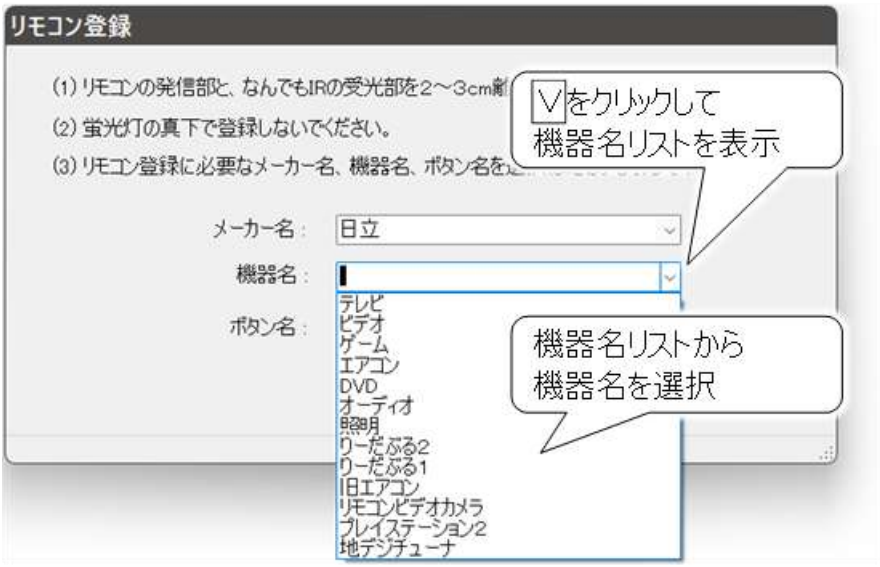
6 まず、リモコンのメーカー名をメーカー名リストから選択します。

リストにメーカーがない場合は、キーボードから直接メーカー名を入力できます。



7 次に、リモコンで操作する機器名を機器名リストから選択します。
リストに機器名がない場合は、キーボードから直接機器名を入力できます。

8 さらに登録するリモコンのボタン名をボタン名リストから選択します。
ボタン名リストは機器によって異なります。
リストにボタン名がない場合は、キーボードから直接ボタン名を入力できます。



制限

機器名とボタン名リスト

機器名が、「テレビ」「ビデオ」「ゲーム」「エアコン」「DVD」「オーディオ」「照明」の場合は、後述のボタン名リストを表示しますが、それ以外の機器名の場合、既に登録されているリモコンデータであっても、ボタン名は表示されません。ご注意ください。

テレビボタンリスト			ビデオボタンリスト	
電源	地上デジ CH01	メニュー	電源	メニュー
入力切替	⋮	ホーム	入力切替	サブメニュー
チャンネル+	地上デジ CH12	ツール	チャンネル+	戻る
チャンネル−	地上アナ CH01	→	チャンネル−	↑
音量+	⋮	←	巻戻し	↓
音量−	地上アナ CH12	↑	再生	→
1	BS デジ CH01	↓	早送り	←
2	⋮	戻る	一時停止	決定
3	BS デジ CH12	決定	停止	アクトビラ
4	CS デジ CH01	終了	録画	画面表示
5	⋮	べんり	開/閉	消去
6	CS デジ CH12	スイーベル	HDD	データ放送
7	チャンネル番号入力	さがす	BD/DVD	録画モード
8	お好み選局/登録	見る	SD	G コード
9	テレビ/ラジオ/データ	再生	前スキップ	ch番号入力
10	データ放送	停止	後スキップ	音声切換
11	CATV	録画停止	10 秒戻し	字幕
12	裏番組	早送り	30 秒送り	再生設定
1CH	静止	巻戻し	15 秒送り	タイムワープ
地上アナログ	デジタル登録	一時停止	地デジ	地上デジ CH01
地上デジタル	AV ポジション	前スキップ	BS	⋮
BS デジタル	画面サイズ	次スキップ	CS	地上デジ CH12
CS デジタル	映像切換	録画	ガイド	BS デジ CH01
番組表	ワイド切換	録画モード/残量	予約確認	⋮
青ボタン	字幕	10 秒バック	録画番組	BS デジ CH12
赤ボタン	(字幕)メニュー	30 秒スキップ	番組表	CS デジ CH01
緑ボタン	iLINK	再生リスト	青ボタン	⋮
黄ボタン	Wooo リンク	マニュアルスキップ	赤ボタン	CS デジ CH12
番組情報	ネット(アクトビラ)	一発予約	緑ボタン	+10
録画番組		いきいきボイス	黄ボタン	
画面表示	インターネット	GR		
オフタイマー	音声切替			
	消音			

リモコンの設定を行う

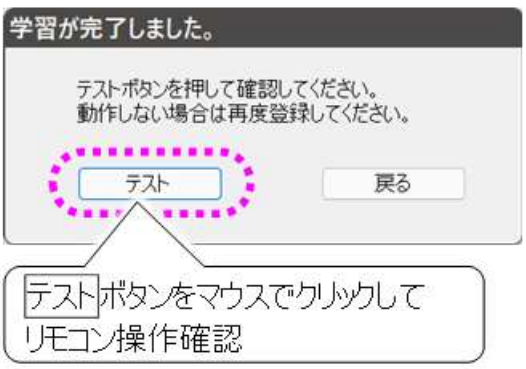
ゲーム ボタンリスト	DVD ボタンリスト	エアコン ボタンリスト	オーディオ ボタンリスト	照明 ボタンリスト
↑	電源	電源オフ	電源	全灯
←	入力切替	自動運転＋3℃	再生	調光
↓	再生	自動運転＋2℃	一時停止	常夜灯
→	一時停止	自動運転＋1℃	停止	消灯
←↑	停止	自動運転±0℃	≪	スイッチ
←↓	早送り	自動運転－1℃	≫	
↓→	巻戻し	自動運転－2℃	音量+	
↑→	→	自動運転－3℃	音量-	
○	↑	暖房 28℃		
△	↓	暖房 26℃		
□	←	暖房 24℃		
×	決定	暖房 22℃		
L1	DVD メニュ	暖房 20℃		
L2	ー	暖房 18℃		
L3	戻る	暖房 16℃		
R1	次スキップ	除湿 28℃		
R2	前スキップ	除湿 27℃		
R3		除湿 26℃		
Select		除湿 24℃		
Start		除湿 22℃		
押し続け		除湿 21℃		
押し続け解除		除湿 20℃		
押し続け解除単独		除湿 18℃		
		冷房 28℃		
		冷房 26℃		
		冷房 24℃		
		冷房 22℃		
		冷房 20℃		
		冷房 18℃		
		停止		
		除湿 40%		
		除湿 50%		
		除湿 60%		
		除湿 70%		

9 リモコン登録画面の登録開始ボタンをマウスでクリックします。

10 登録が始まるので、登録するリモコンのボタンを押します。.

⚠ 注意	リモコンのボタンは、長押しすると、リモコンデータが連続で登録されてしまいます（なんでも IR2 でのリモコン操作時、操作が複数回繰り返されてしまいます）。ご注意ください。 リモコンのボタンを押す時間は、0.5 秒程度で十分です。

11 登録が完了したら、右記画面を表示します。
テストボタンをマウスでクリックして、なんでも IR2 から登録したリモコンのボタンと同じ機能のリモコン操作ができることを確認してください。



12 登録できていなかった場合は、なんでも IR2 受光部とリモコン送信部との距離と位置を確認して、⑥からやり直してください。

リモコンの設定を行う

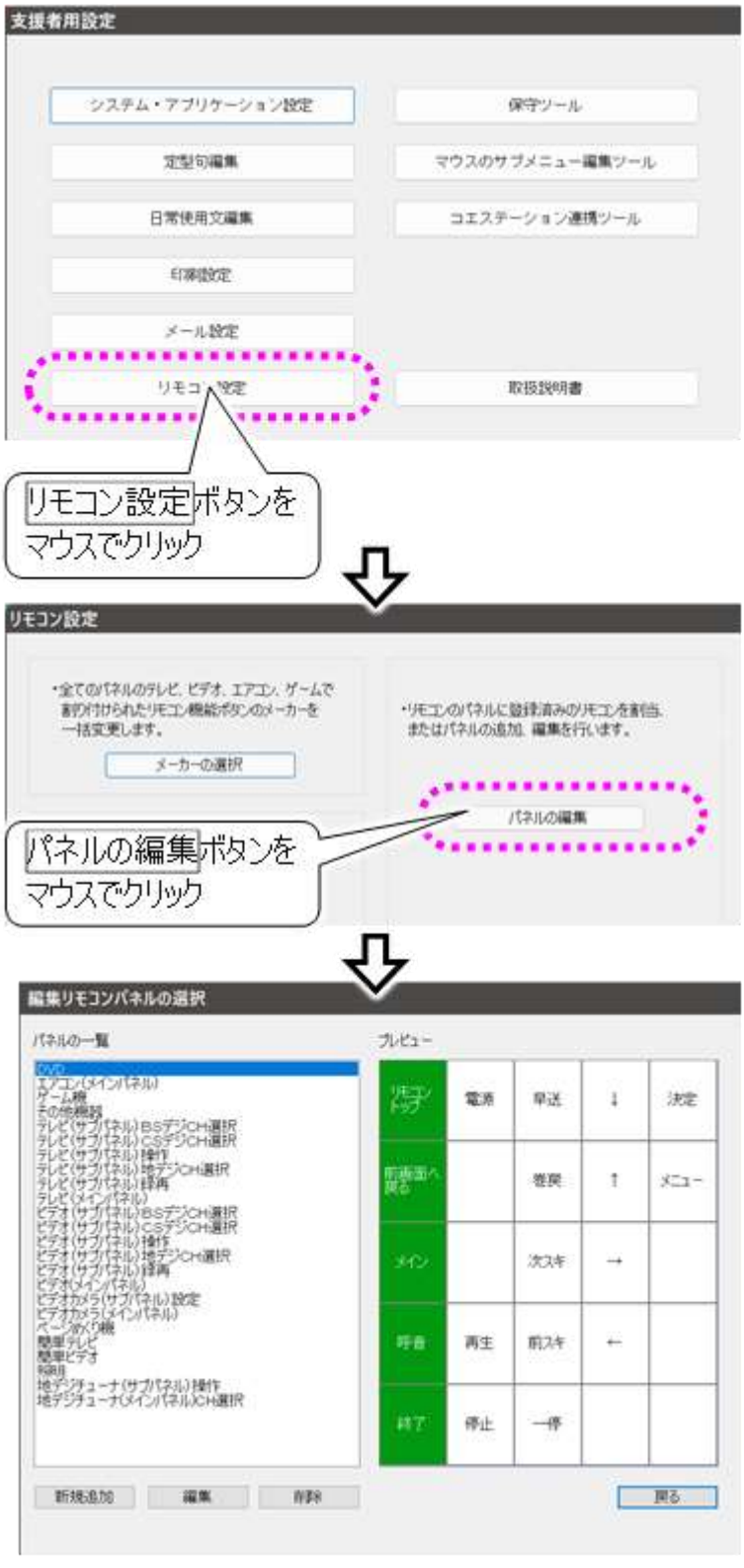
登録したリモコンデータをリモコンパネルに登録する

登録したリモコンデータをリモコンパネルに追加して、「伝の心」のメニューから操作できるようにします。

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 255 ページの「リモコンメーカーの選択」と同様に、支援者用設定画面の[リモコン設定]ボタンをマウスでクリックすると、リモコン設定画面が表示されます。

3 リモコン設定画面の[パネルの編集]ボタンをマウスでクリックすると、パネル編集メイン画面が表示されます。



リモコンデータをパネルボタンに登録

1 登録したリモコンデータを新しいパネルで使用する場合は、パネル編集メイン画面の新規追加ボタンをマウスでクリックして、新しいリモコンパネルを追加します。

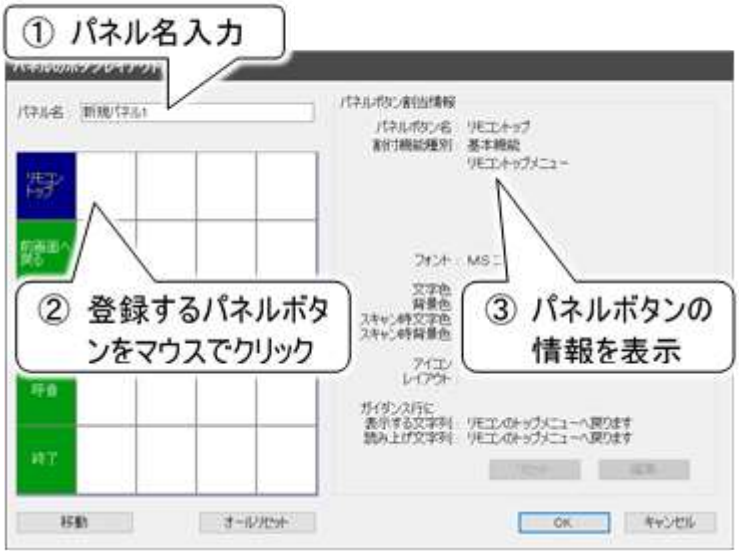
既存のパネルにリモコンデータを追加・変更して使用する場合は、画面左のパネル一覧から、既存のリモコンパネルを選んでください。

新規作成した場合も、既存のパネルを選択した場合も、画面右のプレビューに選択したリモコンパネルのレイアウトが表示されます。

制限 あまり多くのパネルを新規作成すると、画面の表示や操作が遅くなることがありますので、ご注意ください。

2 次に、パネル編集メイン画面の編集ボタンをマウスでクリックすると、選択したリモコンパネルのボタンレイアウト編集画面が表示されます。

3 新しいリモコンパネルの編集をする場合は、リモコンパネルの名前をつけましょう。「パネル名」にキーボードで入力して下さい。
※分かりやすい名前にしましょう。



4 リモコンデータを登録するパネルボタンを、マウスでクリックします。
対象ボタンが反転表示されるとともに、パネルボタンの情報が画面右側に表示されます。

リモコンの設定を行う

■ パネルボタンの名称を決める

1 パネルのボタンレイアウト編集画面の編集ボタンをマウスでクリックすると、パネルのボタンの機能割当画面が表示されます。

2 「パネルボタン名」にパネルボタンに表示される名称をキーボードで入力してください。
※登録するリモコンの機能が分かる名称をつけましょう。

3 「パネルボタン名」を複数行表示にする場合は、改行位置に「¥n」を入力ください。

ボタン名セットボタンをマウスでクリックすると、パネルのイメージが左側に表示されます。

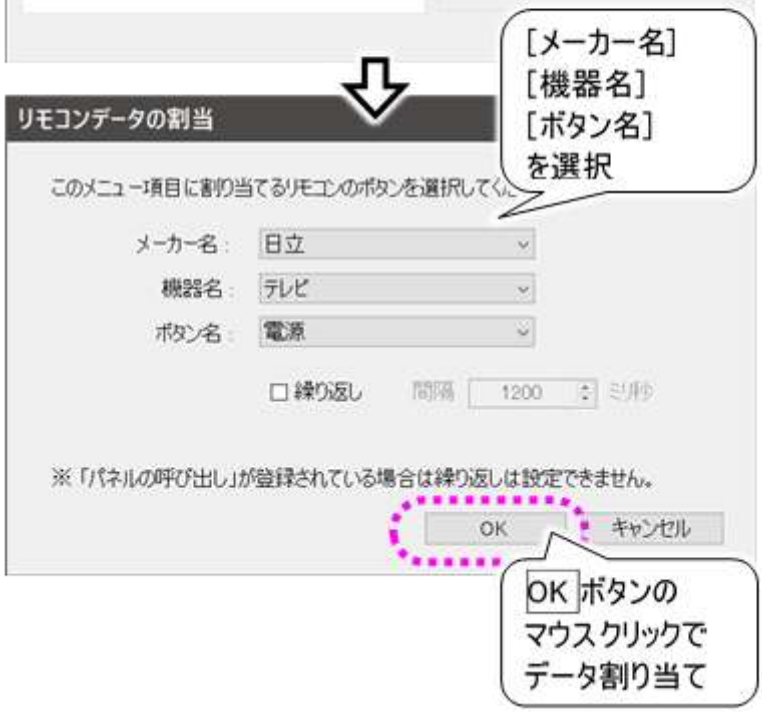
4 文字の表示は左揃えです。表示を中央揃えにはできませんが、全角スペースや半角スペースを行の先頭に挿入することによって、中央揃えのような表示にすることができます。

制限 「パネルボタン名」必須入力項目です。空欄のままパネルボタンの編集を終了することはできません（エラーメッセージが表示されます）。

■ パネルボタンにリモコンデータを割り当てる

1 パネルのボタンの機能割当画面の設定項目の[機能]タブをクリックして、リモコンデータを割り当てるボタンをマウスでクリックすると、リモコンデータ割当画面を表示します。

2 257 ページの「新しくリモコンデータを登録する」で登録したリモコンの[メーカー名][機器名][ボタン名]を選択して、OK ボタンをマウスでクリックします。



補足

連続実行について

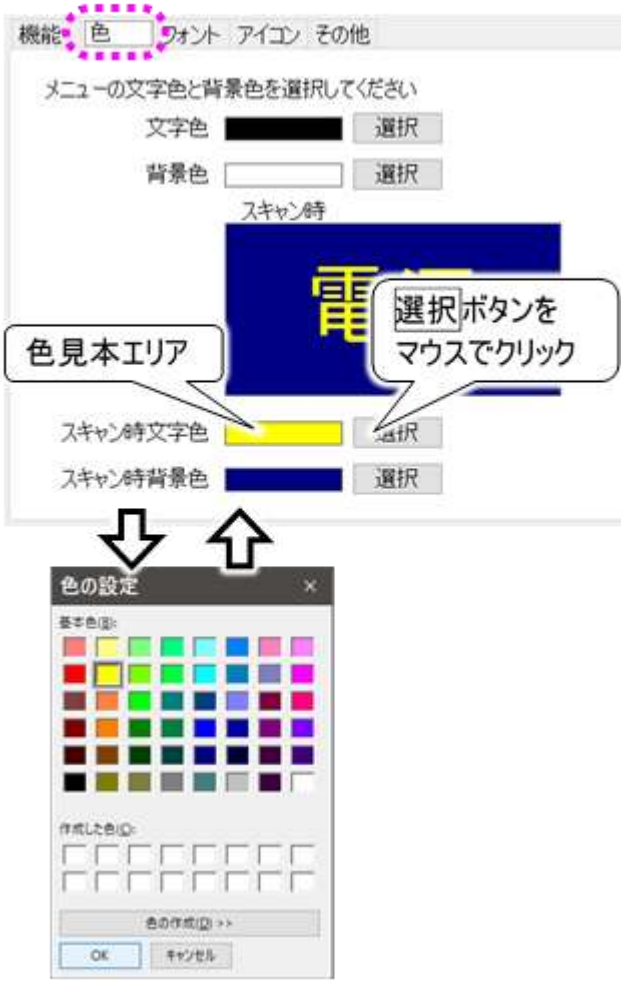
[繰り返し]にチェック☑を入れると、次のスイッチ入力があるまで、ボタンに割り当てられた動作を繰り返し実行させることができます。

繰り返し間隔は[間隔]で設定できます。設定範囲は 25～60000 ミリ秒、初期値は 1200 ミリ秒です。設定値は、▲ ▼をマウスでクリックして増減するか、キーボードで数値を入力してください。

リモコンの設定を行う

■ パネルボタンの文字色と背景色を設定する

1 パネルのボタンの機能割当画面の設定項目の[色]タブをクリックして、パネルボタンの文字色、背景色、スキャン時の文字色、スキャン時の背景色を変更することも可能です。
初期設定は、
パネルボタンの文字色：黒、
パネルボタンの背景色：白、
スキャン時の文字色：黄、
スキャン時の背景色：濃い青
になります。



2 選択ボタンをマウスでクリックすると、色の指定画面が表示されるので、設定したい色をマウスでクリックして OK ボタンをマウスでクリックします。

3 色見本エリアが選択した色に変わります。

■ パネルボタンの文字のフォントとサイズを設定する

1 パネルのボタンの機能割当画面の設定項目の[フォント]タブをクリックして、パネルボタンの文字のフォントとサイズを変更できます。

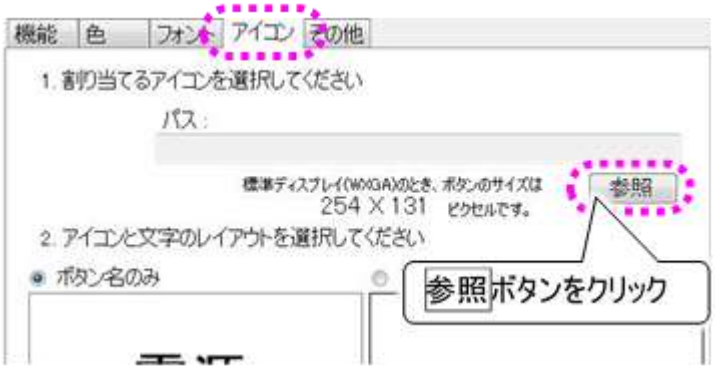
初期設定は、
フォント：MS ゴシック、サイズ：48 ポイントです。

2 フォントやサイズの▼をクリックしてリストを表示し、フォントやサイズを選択します。

■ パネルボタンにアイコン(絵)を表示する

1 パネルのボタンの機能割当画面の設定項目の[アイコン]タブをクリックして、パネルボタンにアイコンを表示する設定に変更できます。

参照ボタンをマウスでクリックして、ファイルを開く画面を表示します。



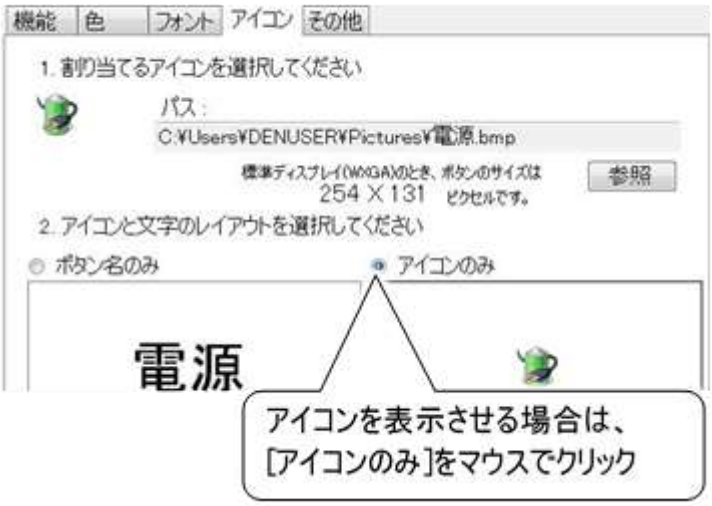
2 画像ファイルのある場所を、「ファイルの場所」から選択して、表示したい画像を表示します。

表示したい画像ファイルをマウスでクリックします。

選択した画像ファイル名が「ファイル名」に表示されるのを確認したら、開くボタンをマウスでクリックします。

3 アイコンのパスとレイアウトが表示されます。

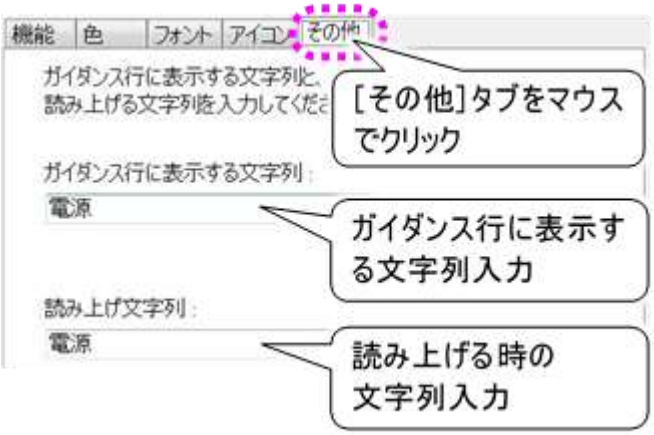
4 パネルボタンにアイコンを表示させる場合は、[アイコンのみ]をクリックしてください。



リモコンの設定を行う

■ パネルボタンのガイダンスと読み上げ文字列を設定する

1 パネルのボタンの機能割当画面の設定項目の[その他]タブをクリックして、メニューアイコンがスキャンされたときにガイダンス行に表示する文字列と、読み上げる時の文字列を設定します。



■ パネルボタンの編集を終了する

1 パネルのボタンの機能割当画面の OK ボタンをマウスでクリックすると、パネルボタンに設定した内容を反映して、パネルのボタンレイアウト編集画面に戻ります。

設定内容を破棄する場合は、キャンセル ボタンをクリックしてください。

2 リモコンデータをさらに登録する場合は、263 ページの「リモコンデータをパネルボタンに登録」の②に戻って、今回設定したパネルボタンとは別のパネルボタンを選択して、編集します。

3 パネルのボタンレイアウト編集画面の OK ボタンをマウスでクリックすると、当該パネルのパネルボタンに設定した内容を保存してパネル編集メイン画面に戻ります。

リモコンパネルを別のリモコンパネルから呼び出す

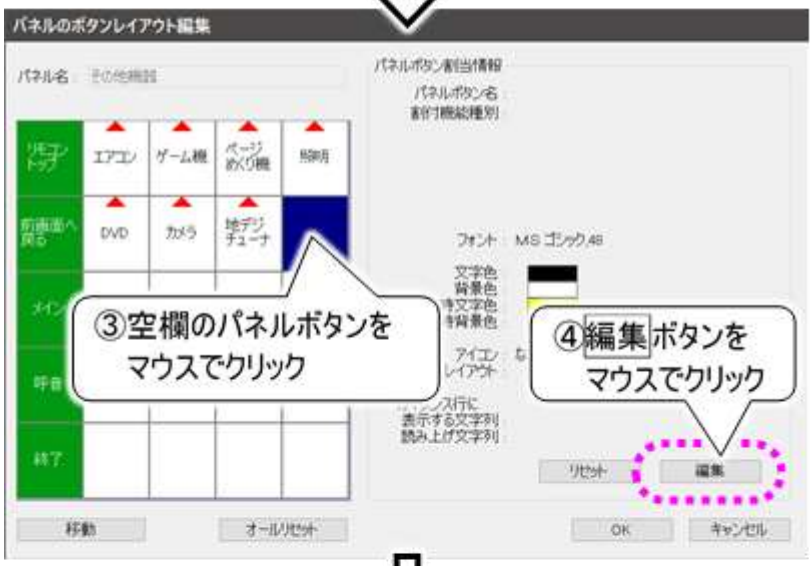
ここでは一例として、前項で新規作成したリモコンパネルを、別のリモコンパネルから呼び出す手順を説明します。

1 パネル編集メイン画面より、前項で新規作成したリモコンパネルとは別のリモコンパネルを、パネルの一覧から選択して、編集ボタンをマウスでクリックします。

右記は「その他機器」パネルを選択した場合です。

2 パネルのボタンレイアウト編集画面が表示されます。

空欄のパネルボタンをマウスでクリックして、編集ボタンをマウスでクリックします。

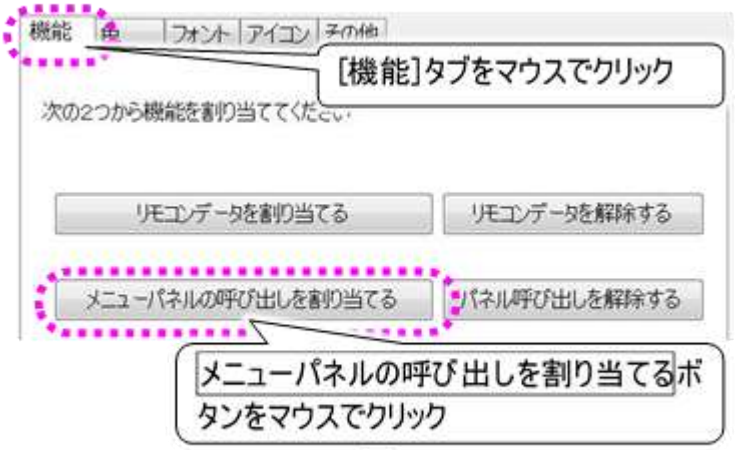


3 パネルのボタンの機能割当画面が表示されます。パネルボタンの名称を「パネルボタン名」にキーボードで入力してください。

※呼び出したいリモコンパネルの名称が分かりやすいでしょう。

リモコンの設定を行う

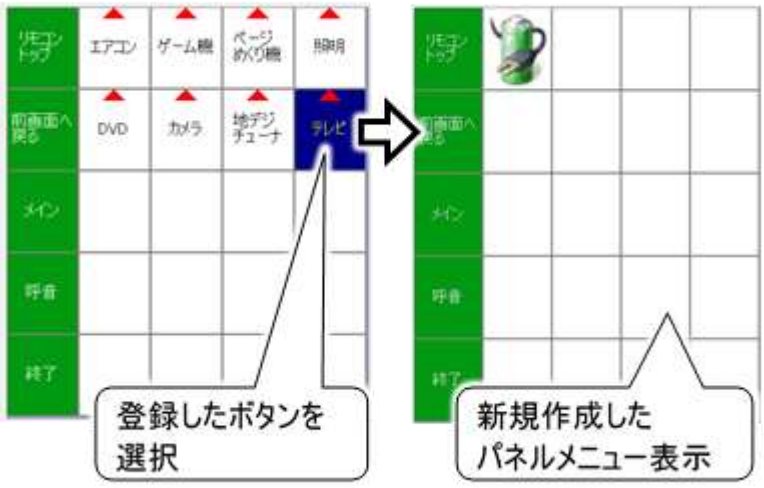
4 次に、設定項目の[機能]タブをマウスでクリックして、メニューパネルの呼び出しを割り当てるボタンをマウスでクリックします。



5 パネルの割当画面が表示されます。

前項で作成したパネルを選択し、OKボタンをマウスでクリックします。

6 これで、前項で新規作成したリモコンパネルを、既にあるリモコンパネルから呼び出せるようになりました。



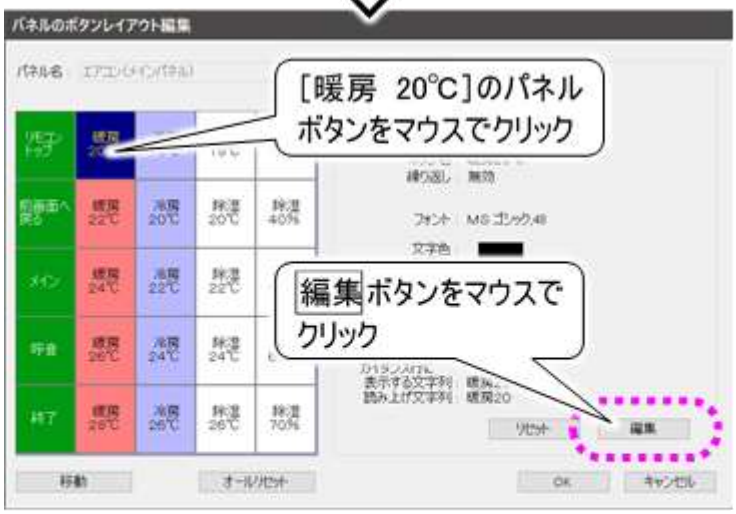
リモコンの設定を行う

リモコン操作とパネル呼び出しを同時に行う

リモコン操作とパネル呼び出しを、同時に行うように設定することが可能です。何かのリモコン操作をした後、必ず別のパネルを呼び出す操作を行う場合、この設定を使うと便利です。
ここでは、エアコンメインパネルで[暖房　20℃]を選択すると、[暖房　20℃]のリモコン操作に加えて、その他機器パネルに戻る(呼び出す)ように設定します。

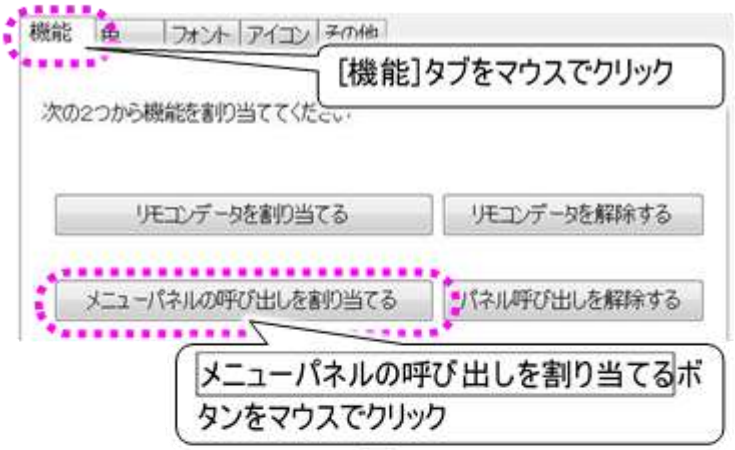
1 パネル編集メイン画面左のパネル一覧から、[エアコン(メインパネル)]を選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、ボタンレイアウト編集画面を表示させます。

2 [暖房　20℃]のパネルボタンをマウスでクリックして、編集ボタンをマウスでクリックします。



リモコンの設定を行う

3 パネルのボタンの機能割当画面が表示されるので、設定項目の[機能]タブをマウスでクリックして、メニューパネルの呼び出しを割り当てるボタンをマウスでクリックします。



4 パネルの割当画面が表示されるので、[その他機器]パネルを選択し、OKボタンをマウスでクリックします。

補足

パネルの呼び出しを止める場合

メニューパネルの呼び出しを解除するボタンをマウスでクリックしてください。

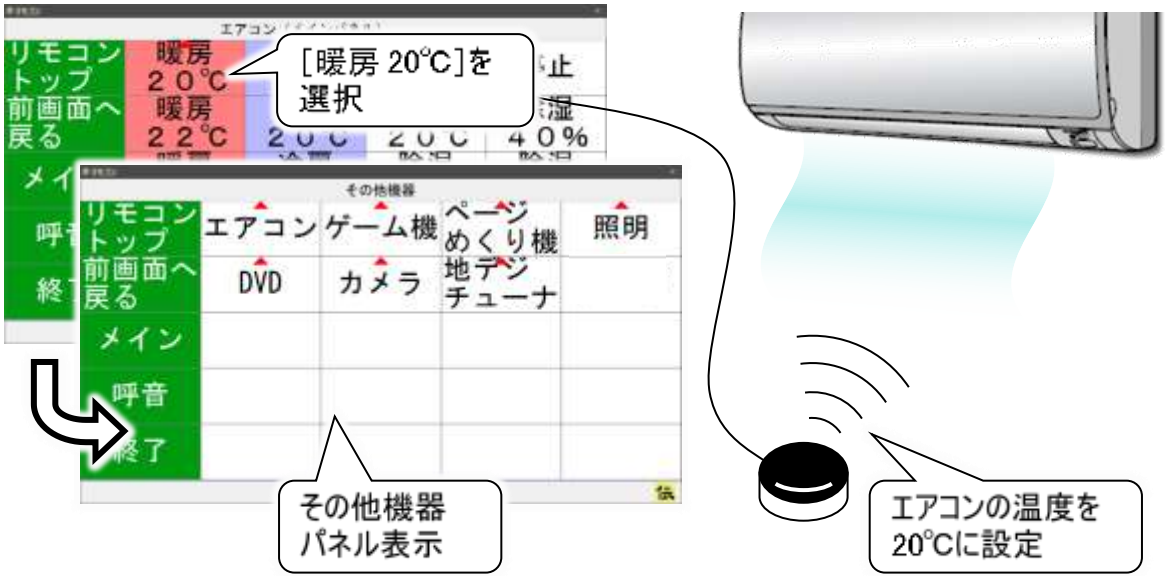
リモコン操作を取り消す場合

リモコンデータを解除するボタンをマウスでクリックしてください。

5 パネルの呼び出しが[その他機器]になっていることを確認して、OKボタンをマウスでクリックします。

6 ボタンレイアウト編集画面に戻るので、OKボタンをマウスでクリックします。

7 これで、エアコンメインパネルで[暖房 20℃]を選択すると、エアコンの温度を 20℃に設定して、その他機器パネルに戻るようになりました。



リモコンの設定を行う

パネルボタンの入替や移動を行う

同一のリモコンパネル内において、パネルボタンの入れ替えや移動が可能です。連続して使う機能を縦一列に並べ替える場合、この機能を使うと便利です。
ここでは、その他機器パネルにおいて、[照明]と、[DVD]を入れ替えてみます。

1 パネル編集メイン画面左のパネル一覧から、[その他機器]を選択し、編集ボタンをマウスでクリックして、パネルのボタンレイアウト編集画面を表示させます。

2 パネルのボタンレイアウト編集画面にて、移動ボタンをマウスでクリックして、ボタン配置変更モードに入ります。

制限

ボタン配置変更モードについての制限事項
移動ボタンをクリックすると、パネルボタンの選択は「リモコントップ」にリセットされます。
緑色背景のパネルボタンは移動することができません。

3 ボタン配置変更モードに入ると移動ボタンが移動をやめるボタンに変化し、「移動元を選択してください。」のガイダンスが表示されます。

4 [DVD]をクリックすると、ガイダンスが「移動先を選択してください。」に変化します。

移動元の選択を間違えた場合は、移動をやめるボタンをクリックして、2項からやり直してください。

5 移動先として[照明]をクリックすると、[DVD]と[照明]のパネルボタンが入れ替わり、ボタン配置変更モードが終了します。

ボタン配置変更モードが終了すると、移動をやめるボタンが移動ボタンに変化し、「移動先を選択してください。」のガイダンスがなくなります。

ホームページ閲覧の設定を行う

ホームページを伝の心から呼び出せるようにする

219 ページの「ホームページ閲覧機能のメニューを有効にする」を参照して、メインメニューの設定を行うと、「伝の心」のメインメニューに[応用操作]-[ブラウザ操作]の項目が追加され、このパネルの選択によって呼び出すことが可能になります。

制限

タッチモードの場合

設定はできません。表示も変更できない表示になります。

電子メールの設定を行う

電子メールの設定

322 ページの「メールアカウントの新規追加・既定・削除」または、325 ページの「メールアカウントの設定」にて説明しているので、参照ください。

制限	インターネットに接続可能な環境の構築は、ご契約のインターネット接続業者より受け取られた設定資料に基づいて、行ってください。不明点は、ご契約のインターネット接続業者にお問い合わせください。
制限	ネットワーク接続機器（モデム・ルーター・ハブ等）をご使用になる場合は、それぞれの機器について設定が必要です。ネットワーク接続機器の不明点は、ご購入先にお問い合わせください。

ウィンドウズ操作の設定を行う

制限

タッチモードの場合

設定はできません。表示も変更できない表示になります。

ウィンドウズ操作を伝の心から呼び出す

220 ページの「ウィンドウズ操作機能のメニューを有効にする」の設定を行うと、「伝の心」のメインメニューに[応用操作]-[Windows 操作]の項目が追加され、このパネルの選択によって呼び出すことが可能になります。

ウィンドウズ操作画面の設定

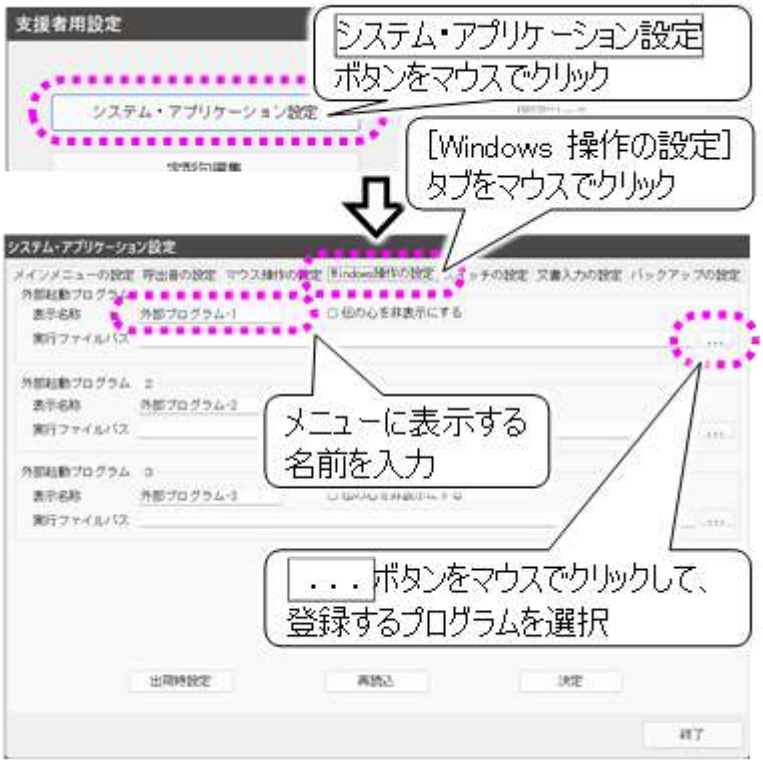
ウィンドウズ操作の設定（ソフト項目の登録）

ここでは、ウィンドウズ操作画面のトップメニューの[ソフト]にて呼び出せるプログラムの登録／変更を行います。

1. 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2. 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム設定・アプリケーション設定画面が表示されます。

3. システム設定・アプリケーション設定画面の[Windows 操作の設定]タブをクリックします。



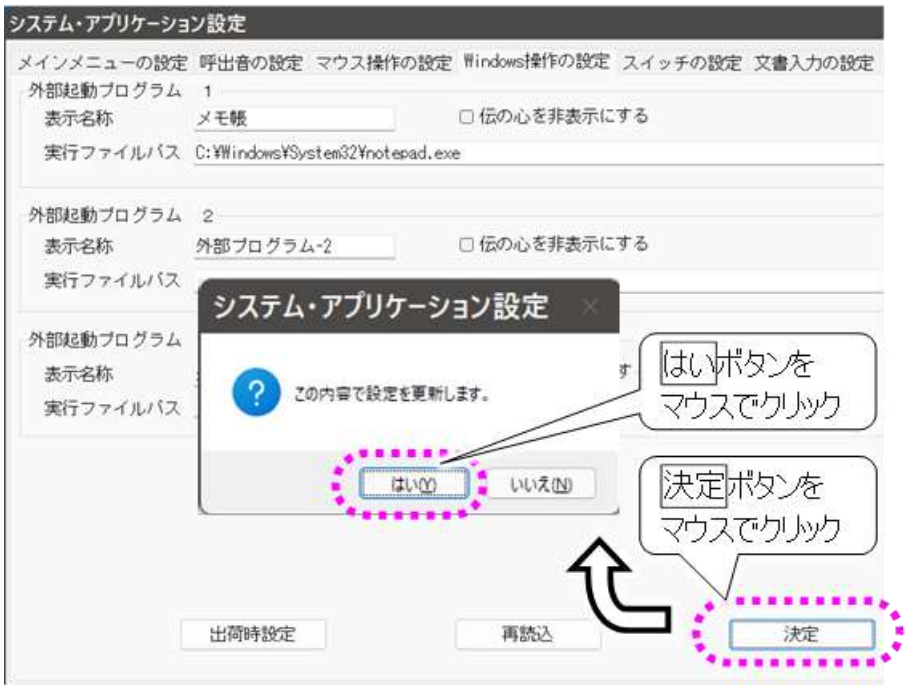
4. [表示名称]に、メニューに表示する名前をキーボードより入力します。
[実行ファイルパス]に、登録するプログラムのあるアドレスをキーボードより入力してください。
[. . .]ボタンをマウスでクリックすると、ファイル選択画面が表示されるので、そこから選択することも可能です。

ウィンドウズ操作の設定を行う

5 ．．．ボタンをマウスでクリックした場合、ファイルを開く画面が表示されるので、プログラムファイル（実行ファイル）のある場所を、選択または入力して、プログラムファイルを表示します。
登録したいプログラムファイルをクリックすると、プログラムファイル名が「ファイル名」に表示されるので、開くボタンをマウスでクリックします。

6 プログラムは3個まで登録可能です。

7 決定ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックして、登録します。



注意

[伝の心を非表示にする]設定について

[伝の心を非表示にする]にチェック を入れると、ウィンドウズ操作画面のトップメニューの[ソフト]にて呼びだした際に、**ウィンドウズ操作メニューを非表示にします。**
呼び出したアプリが終了しないと、ウィンドウズ操作メニューが表示できません。またその間**スイッチでの操作はできませんのでご注意ください。**
この設定は、「伝の心」のスイッチ以外でウィンドウズ操作を行うアプリを[ソフト]に登録した場合などにご利用ください。

マウス操作盤の設定を行う

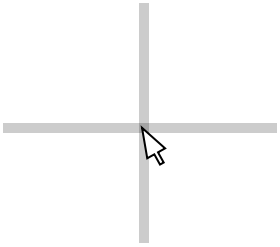
マウス操作盤の設定には、マウス移動の設定とサブメニューの設定があります。各々下記の手順を参考にして、設定を行ってください。

マウス操作の設定（マウス移動）

マウス操作盤の表示には、アローモードとクロスラインモードの 2 つの表示形態があります。各々操作方法に特徴があります。

【アローモードの場合】

【クロスラインモードの場合】



補足

アローモードとクロスラインモードについて

アローモードは、あらかじめマウスの移動方向を決めて動かすモード、
クロスラインモードは、自動的に動く縦と横のラインをスイッチ入力で停止させてラインが交わっている位置にマウスを移動させるモードです。

アローモードの設定

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックして、システム設定・アプリケーション設定画面が表示させ、システム設定・アプリケーション設定画面の[マウス操作の設定]タブをクリックします。

3 まず、動作モードで[アローモード]を選択します。

マウス操作盤の設定を行う

4 マウス操作盤の移動速度の設定を[移動速度][加速倍率][加速突入距離]で設定します。
また、[マウス移動方向指定]にて、マウス操作盤の移動方向を選択します。
[マウスポインタが画面の端まで移動したら]にて、その後のマウスの動作を選択します。
[折り返す]の選択で逆向きに移動開始、[停止する]で移動終了になります。

5 決定ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックして、登録します。

補足

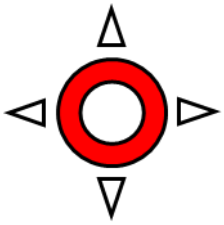
マウス移動設定

[移動速度]:マウス操作盤の初期移動速度です。

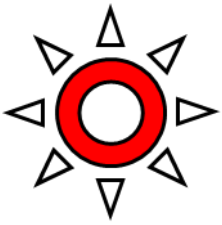
[加速突入距離]移動後、[移動速度]×[加速倍率]の速度に変更されます。

マウス移動方向設定

[4 方向]



[8 方向]



マウス操作盤の設定を行う

クロスラインモードの設定

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面のシステム・アプリケーション設定ボタンをマウスでクリックして、システム設定・アプリケーション設定画面が表示させ、システム設定・アプリケーション設定画面の[マウス操作の設定]タブをクリックします。

3 まず、動作モードで[クロスラインモード]を選択します。

4 マウス操作盤の移動速度の設定は[移動速度][加速倍率][加速突入距離]で設定します。

5 起動時の設定では、マウス操作盤起動時に、マウス操作のサブメニューを表示するか、すぐにマウス移動を始めるかを、[サブメニューを表示する]または[マウスカーソルを移動する]で選択します。

6 動作後の設定では、マウス操作のサブメニューにて、「左クリック」などのマウス移動以外の項目を選択した後の動作を選択できます。
再度サブメニューを表示する場合は[サブメニューを表示する]、マウス移動を始める場合は[マウスカーソルを移動する]を選択します。

7 移動の順番は、マウス操作盤起動

マウス操作盤の設定を行う

時すぐにマウス移動を始める場合、またはマウス操作のサブメニューにて[移動]を選択したときのマウス操作盤移動の順番です。
[縦移動]または[横移動]の何れかを選択してください。

8 縦移動の順番は、マウス操作盤の縦移動開始時、上下どちらから移動を開始するかの設定です。
[上移動]または[下移動]の何れかを選択してください。

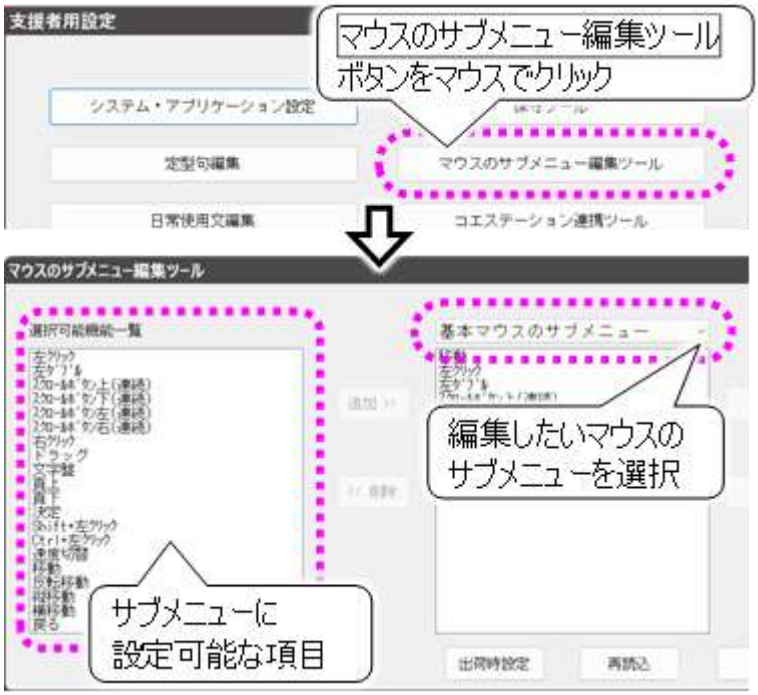
9 横移動の順番は、マウス操作盤の横移動開始時、左右どちらから移動を開始するかの設定です。
[左移動]または[右移動]の何れかを選択してください。

マウス操作のサブメニュー設定

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面のマウスのサブメニュー編集ツールボタンをマウスでクリックして、マウスのサブメニュー編集ツール画面が表示させます。

3 右上のプルダウンメニューから、編集したいマウスのサブメニューを選択すると、選択したマウスの現在のサブメニューが表示されます。



4 マウスのサブメニューの項目変更や表示位置の変更は、ここから行います。
サブメニューとして設定可能な項目は下記の通りです。

サブメニュー設定項目	機能
左クリック	現在位置で左クリックを行います。
左ダブル	現在位置で左ダブルクリックを行います。
スクロールボタン上(連続)	再度スイッチ入力するまで、スクロールボタンに対応している画面でウィンドウが上にスクロールします。
スクロールボタン下(連続)	再度スイッチ入力するまで、スクロールボタンに対応している画面でウィンドウが下にスクロールします。

マウス操作盤の設定を行う

サブメニュー設定項目	機能
ｽｸﾛｰﾙﾎﾞﾀﾝ左(連続)	再度スイッチ入力するまで、スクロールボタンに対応している画面でウィンドウが左にスクロールします。
ｽｸﾛｰﾙﾎﾞﾀﾝ右(連続)	再度スイッチ入力するまで、スクロールボタンに対応している画面でウィンドウが右にスクロールします。
右クリック	現在位置で右クリックを行います。
ドラッグ	現在位置で左クリックが入りっぱなしになります(ドラッグ動作)。 再度◎を選択すると左クリックが解除されます(ドロップ動作)。
文字盤	文字盤が表示されます
頁上	カーソルのある画面の表示内容を上方向にスクロールします。
頁下	カーソルのある画面の表示内容を下方向にスクロールします。
決定	現在位置で「Enter」キーが入力されます。
Shift+左クリック	現在位置で「Shift」キーを押しながら左クリックを行います。
Ctrl+左クリック	現在位置で「Ctrl」キーを押しながら左クリックを行います。
速度切替	現在のマウス操作盤の移動速度が低速の場合は高速(サブメニュー表示は[低速→高速])、現在の速度が高速の場合は低速(サブメニュー表示は[高速→低速])に移動速度を切り替えます。
移動	**【アローモードの場合】** サブメニューを閉じ、マウス操作盤の表示に戻ります。 スキャン方向は上矢印から時計回りとなります。 **【クロスラインモードの場合】** サブメニューを閉じ、現在のマウスポインター位置から横または縦方向に自動的に横ラインまたは縦ラインが動き、それに合わせてマウスポインターが動いていきます。
反転移動	**【アローモードの場合】** サブメニューを閉じ、マウス操作盤の表示に戻ります。 ただし、スキャン方向は上矢印から反時計回りとなります。 **【クロスラインモードの場合】** サブメニューを閉じ、現在のマウスポインター位置から横または縦方向に自動的にマウスポインターが動き、それに合わせてマウスポインターが動いていきます。 ただし、移動方向はマウス操作盤の設定と逆方向となります。
縦移動	**【アローモードの場合】** サブメニューを閉じ、マウス操作盤の表示に戻ります。 ただし、スキャンの開始位置は上矢印からとなります。 **【クロスラインモードの場合】** サブメニューを閉じ、現在のマウスポインター位置から縦方向に自動的にラインが動き、それに合わせてマウスポインターが動いていきます。
横移動	**【アローモードの場合】** サブメニューを閉じ、マウス操作盤の表示に戻ります。 ただし、スキャンの開始位置は右矢印からとなります。 **【クロスラインモードの場合】**

マウス操作盤の設定を行う

サブメニュー設定項目	機能
	サブメニューを閉じ、現在のマウスポインター位置から横方向に自動的にラインが動き、それに合わせてマウスポインターが動いていきます。
戻る	サブメニューを閉じて、マウス操作盤も閉じます。

制限

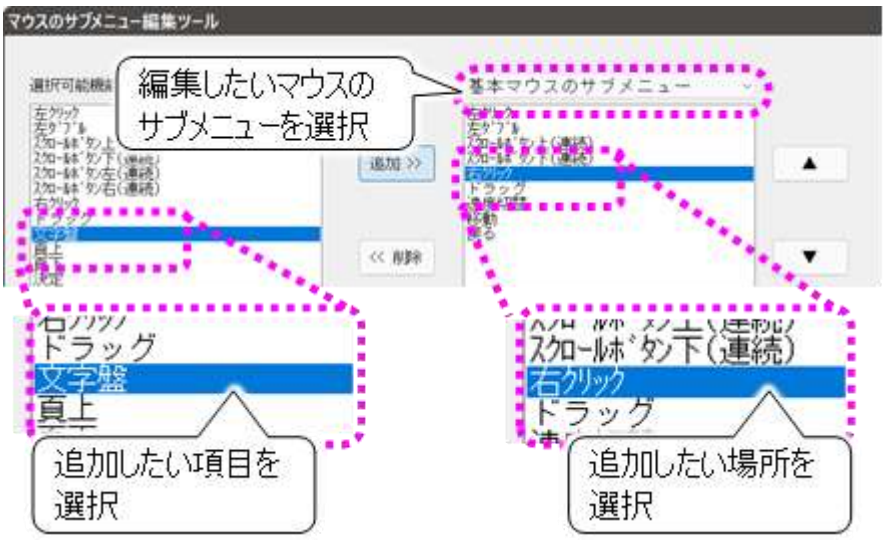
スクロールボタンについて

アプリによっては、ウィンドウがスクロールしない場合があります。

メニュー項目を追加する

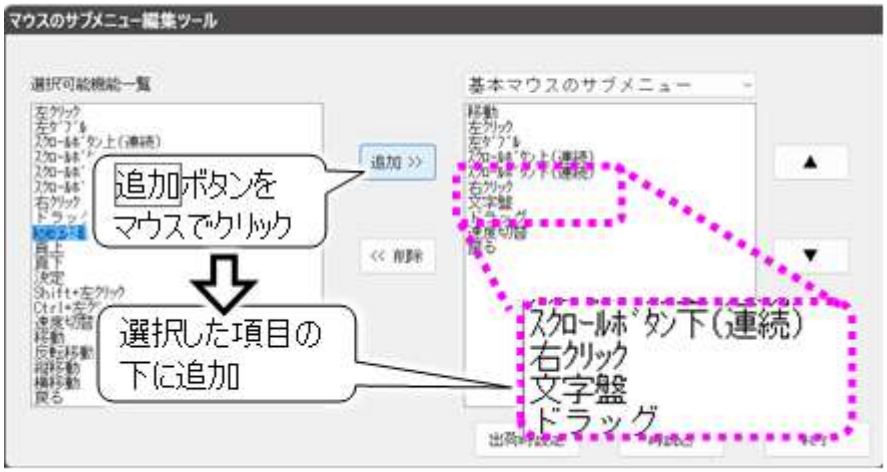
マウスのサブメニューに項目を追加することができます。ここでは、基本マウスのサブメニューに「文字盤」の項目を追加する例を説明します。

1 283 ページの「マウス操作のサブメニュー設定」を参照して、マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示させます。



2 右上のプルダウンメニューから、編集したいマウスのサブメニューを選択すると、選択したマウスの現在のサブメニューが表示されます。
ここでは一例として「基本マウスのサブメニュー」を選択します。

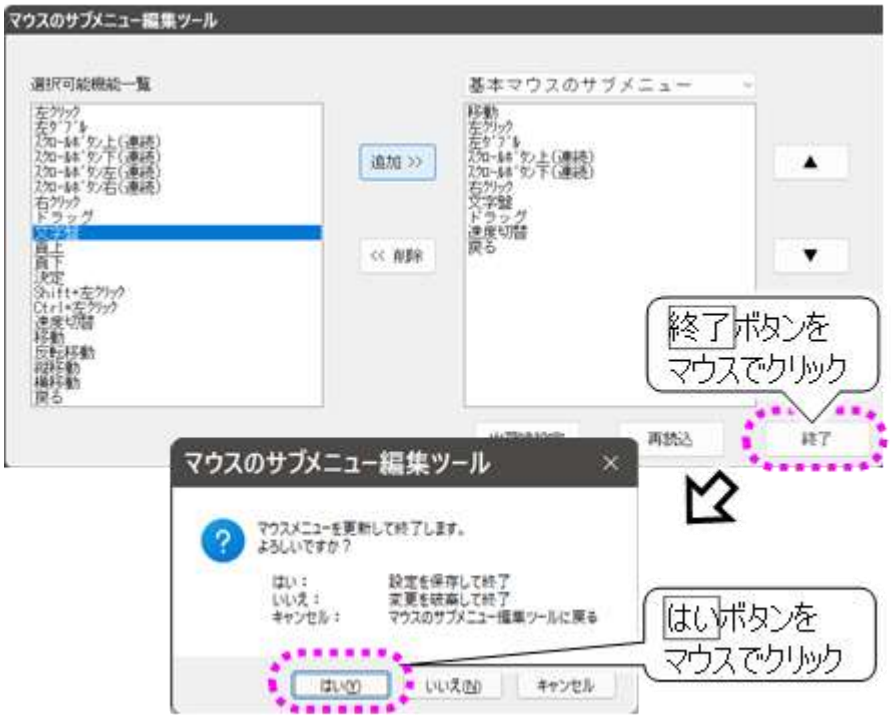
3 左側の選択可能機能一覧から、追加したい項目をマウスでクリックして選択します。
ここでは一例として「文字盤」を選択します。
右側のサブメニューにて、追加したい場所をマウスでクリックします。



マウス操作盤の設定を行う

4 追加ボタンをマウスでクリックすると、左側の選択可能機能一覧で選択した項目が、右側のサブメニューで選択した項目の下に追加されます。

5 終了ボタンをマウスでクリックし、確認画面で、はいボタンをマウスでクリックすると、変更したマウスのサブメニューを保存して支援者用設定画面に戻ります。



制限	サブメニューに設定可能な項目数は 14 個までです。
補足	③項にて、右側のサブメニューの追加したい場所を選択しなかった場合は、④項を実行すると、右側のサブメニューの一番上に追加したい項目が追加されます。
補足	同じ項目を複数設定することが可能です。よく使う項目を数か所に配置するなど、使い勝手に応じて変更してください。
補足	変更を破棄したい場合は、再読込ボタンをマウスでクリックしてください。マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示した時の状態に戻ります。
補足	マウスのサブメニューを、ご購入時の設定まで戻したい場合は、出荷時設定ボタンをマウスでクリックしてください。

マウス操作盤の設定を行う

メニュー項目を削除する

マウスのサブメニューの項目は削除することができます。ここでは、基本マウスのサブメニューの「速度切替」の項目を削除する例を説明します。

1 283 ページの「マウス操作のサブメニュー設定」を参照して、マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示させます。

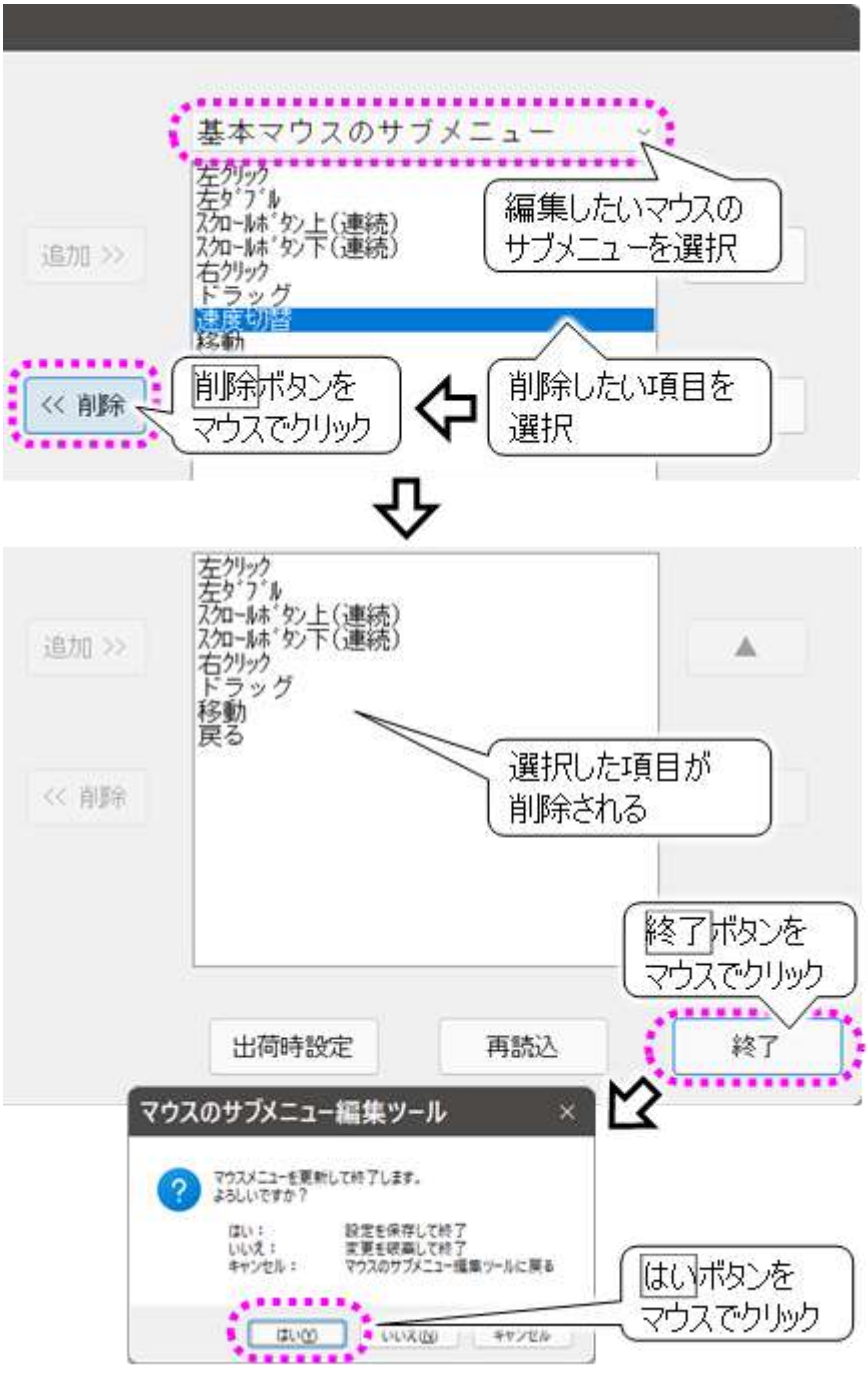
2 右上のプルダウンメニューから、編集したいマウスのサブメニューを選択すると、選択したマウスの現在のサブメニューが表示されます。

ここでは一例として「基本マウスのサブメニュー」を選択します。

3 右側のサブメニューから、削除したい項目をマウスでクリックして選択します。
ここでは一例として「速度切替」を選択します。

4 削除ボタンをマウスでクリックすると、右側のサブメニューで選択した項目が削除されます。

5 終了ボタンをマウスでクリックし、確認画面で、はいボタンをマウスでクリックすると、変更したマウスのサブメニューを保存して支援者用設定画面に戻ります。



マウス操作盤の設定を行う

制限	サブメニューには、「移動」と「戻る」が必ず 1 個ずつ必要です。「移動」や「戻る」が 1 個も存在しない編集をした場合は、内容を保存できません。
補足	変更を破棄したい場合は、再読込ボタンをマウスでクリックしてください。マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示した時の状態に戻ります。
補足	マウスのサブメニューを、ご購入時の設定まで戻したい場合は、出荷時設定ボタンをマウスでクリックしてください。

メニュー項目の順番を変更する

マウスのサブメニューの項目は使いやすいように順番を入れ替えることができます。ここでは、基本マウスのサブメニューの「右クリック」のを例に説明します。

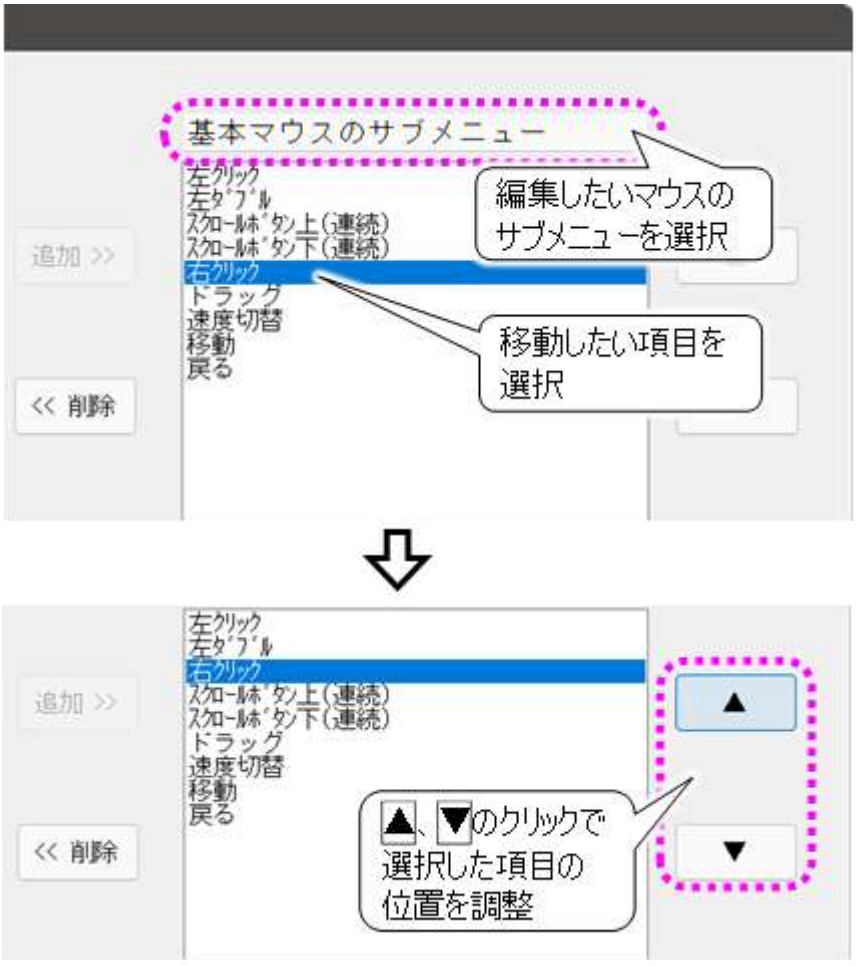
1 283 ページの「マウス操作のサブメニュー設定」を参照して、マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示させます。

2 右上のプルダウンメニューから、編集したいマウスのサブメニューを選択すると、選択したマウスの現在のサブメニューが表示されます。

ここでは一例として「基本マウスのサブメニュー」を選択します。

3 右側のサブメニューから、移動したい項目をマウスでクリックして選択します。
ここでは一例として「右クリック」を選択します。

4 ▲ボタンをマウスでクリックすると、選択した項目の順番が一つ上に上がります。
▼ボタンをマウスでクリックすると、選択した項目の順番が一つ下に下がります。



マウス操作盤の設定を行う

5 終了ボタンをマウスでクリックし、確認画面で、はいボタンをマウスでクリックすると、変更したマウスのサブメニューを保存して支援者用設定画面に戻ります。

補足	変更を破棄したい場合は、再読込ボタンをマウスでクリックしてください。マウスのサブメニュー編集ツール画面を表示した時の状態に戻ります。
補足	マウスのサブメニューを、ご購入時の設定まで戻したい場合は、出荷時設定ボタンをマウスでクリックしてください。

呼び出し音の設定を行う

呼び出し音の設定を行う

[呼音]メニューで再生される、呼び出し音の音声ファイルを変更することができます。

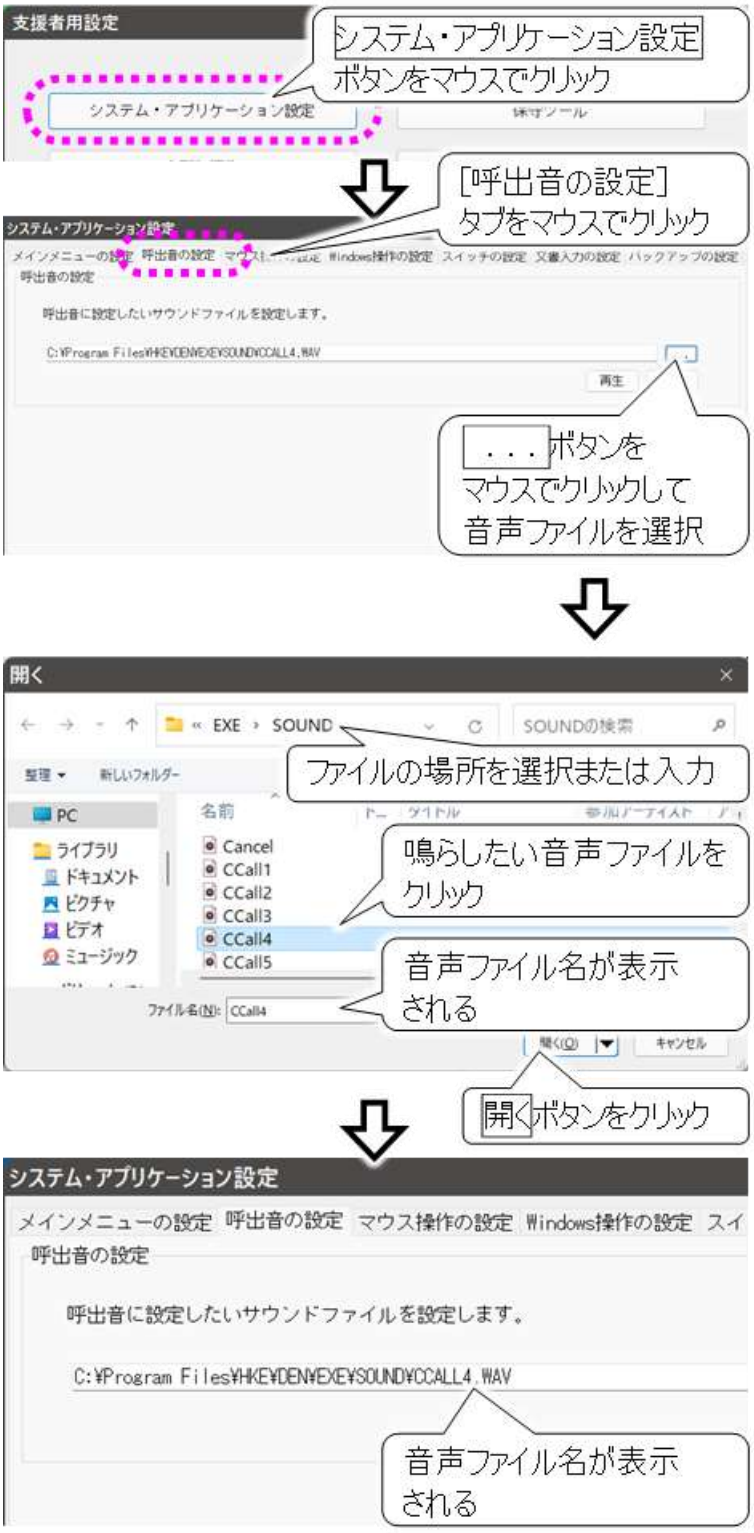
1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[呼出音の設定]タブをクリックして、[．．．]ボタンをマウスでクリックします。

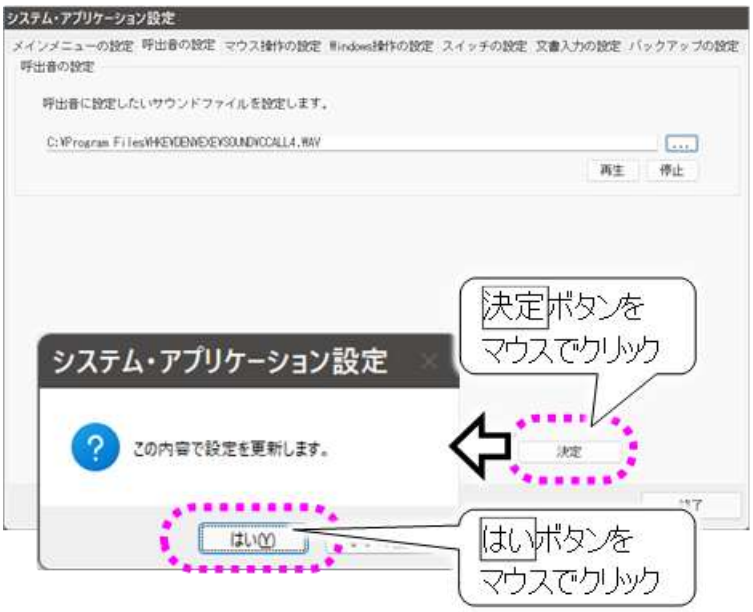
4 ファイルを開く画面が表示されるので、音声ファイル（WAVE ファイル）のある場所を、選択または入力して、音声ファイルを表示します。
鳴らしたい音声ファイルをクリックすると、音声ファイル名が「ファイル名」に表示されるので、[開く]ボタンをマウスでクリックします。

5 システム・アプリケーション設定画面に音声ファイルのパスが表示されます。
[再生]ボタンをマウスでクリックすると音声が再生されるので、音声の確認ができます。再生を途中で中止する場合は、[停止]ボタンをマウスでクリックしてください。



呼び出し音の設定を行う

6 決定ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックして、登録します。



⚠ **警告**	呼び出し音の機能を、ナースコールなど生命維持に関わる用途や医療補助具等としての用途に使用しないでください。万一事故などが発生した場合には、当社は一切の責任を負いかねます。
⚠ **注意**	**無音の呼び出し音について** 「C:¥Program Files¥HKE¥DEN¥SOUND」フォルダ内には、「null.wav」という無音の呼び出し音も用意されています。呼び出し音の機能を使用しない場合は、この音声ファイルをご使用ください。 各画面で呼音を選択すると「ただいま呼び出し中です」画面は表示されますが、呼び出し音は鳴りません。 また、間違えて「null.wav」を選択すると、呼び出し音は鳴りませんのでご注意ください。
補足	**日常使用文の呼び出し音について** 日常使用文画面での[呼音]は、日常使用文設定画面で個別に設定可能です。逆に、**ここで呼出し音の設定を行っても、日常使用文画面での[呼音]は変更されません。** 日常使用文画面での[呼音]は日常使用文設定画面で設定してください。

予測入力を使う

予測入力を使う

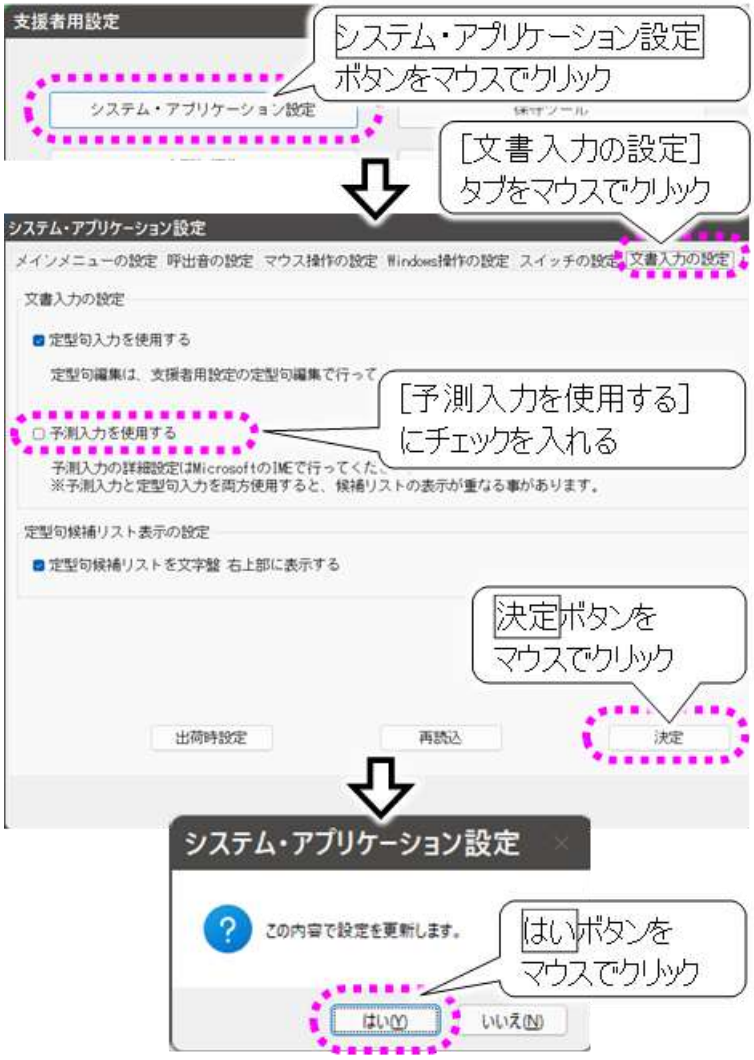
予測入力を使用する設定にすると、システム装置の予測入力機能をオンに設定し、文字盤では予測入力を支援するための「予測入力パネル」が表示されるようになります。
※ご購入時は「予測入力パネル」を表示しない設定になっています。

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[文書入力の設定]タブをクリックして、[予測入力を使用する]にチェック☑を入れます。

4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、予測入力が使用できるようになります。また、文字盤に予測入力パネルを表示できるようになります。



注意	**予測入力と定型句入力について** 予測候補リストと定型句リストは同時に表示すると、互いにリストを隠し合います。予測入力と定型句入力を同時に使用する場合はご注意ください。
補足	**予測入力パネルについて** 予測入力パネルは文字盤の[予]ボタンの選択で表示することができます。 **予測入力の詳細設定について** Microsoft IME の詳細設定にて行えます。476 ページの「予測入力ができない／予測候補が表示されない」を参照してください。

定型句を使用する

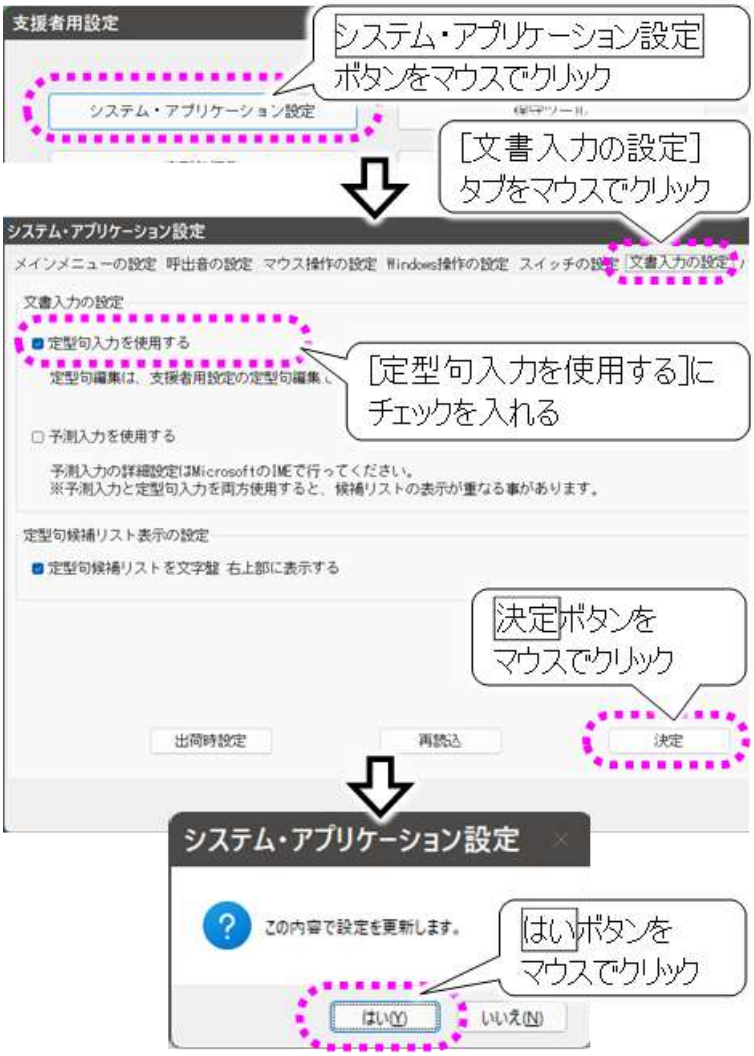
文字盤から定型句入力画面を表示または非表示にすることができます。
※ご購入時は表示する設定になっています。

1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[システム・アプリケーション設定]ボタンをマウスでクリックすると、システム・アプリケーション設定画面が表示されます。

3 システム・アプリケーション設定画面の[文書入力の設定]タブをクリックして、[定型句入力を使用する]にチェック☑を入れます。

4 [決定]ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをマウスでクリックします。これで、定型句入力が使用できるようになります。また、文字盤から定型句入力画面を表示できるようになります。



注意	**予測入力と定型句入力について** 予測候補リストと定型句リストは同時に表示すると、互いにリストを隠し合います。予測入力と定型句入力を同時に使用する場合はご注意ください。
補足	**定型句入力パネルについて** 定型句入力画面は文字盤の[句]ボタンの選択で表示することができます。

「定型句」の設定を行う

定型句候補リストを表示する

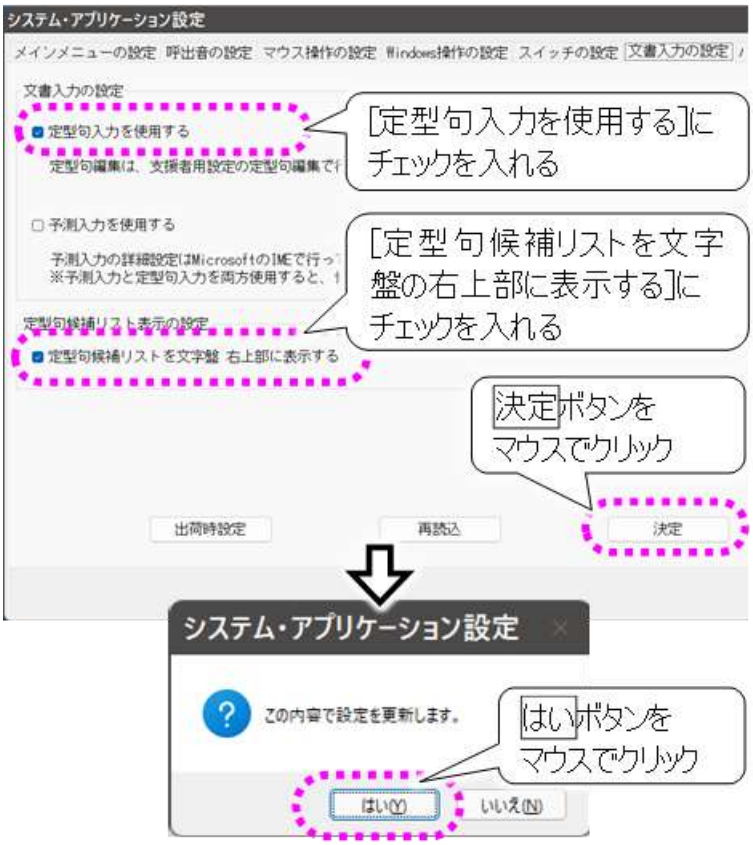
文字盤から定型句入力画面を表示する設定にした場合、文字入力時に定型句候補リストを文字盤の右上に表示または非表示にすることができます。
※ご購入時は表示する設定になっています。

1 システム・アプリケーション設定画面の[文書入力の設定]タブをクリックして、[定型句入力を使用する]にチェック☑を入れます。

2 定型句候補リスト表示の設定が選択可能になります。

3 [定型句候補リストを文字盤の右上部に表示する]にチェック☑を入れます。

4 決定ボタンをマウスでクリックすると確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックします。これで、定型句候補リストが文字盤の右上に表示できるようになります。



制限

定型句候補リストを表示可能な画面
定型句候補リストを文字盤の右上に表示できるのは、「文書」と「メール」の一部のみ表示されます。「会話」「ブラウザ操作」「Windows 操作」では表示されません。

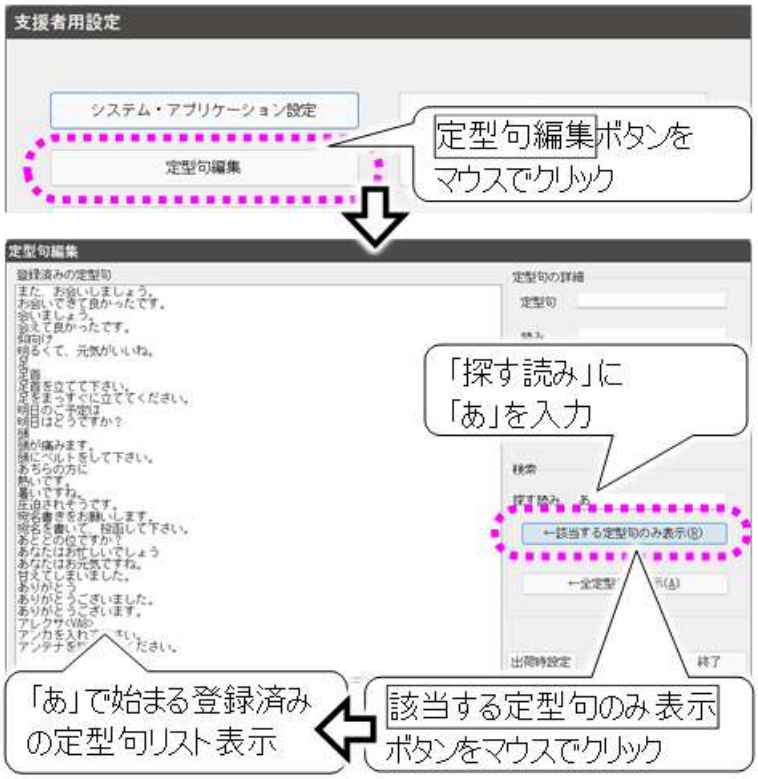
「定型句」の設定を行う

定型句の変更

登録済みの定型句「明るくて、元気がいいね。」を「明るくて、元気がいいですね。」に変更してみましょう。

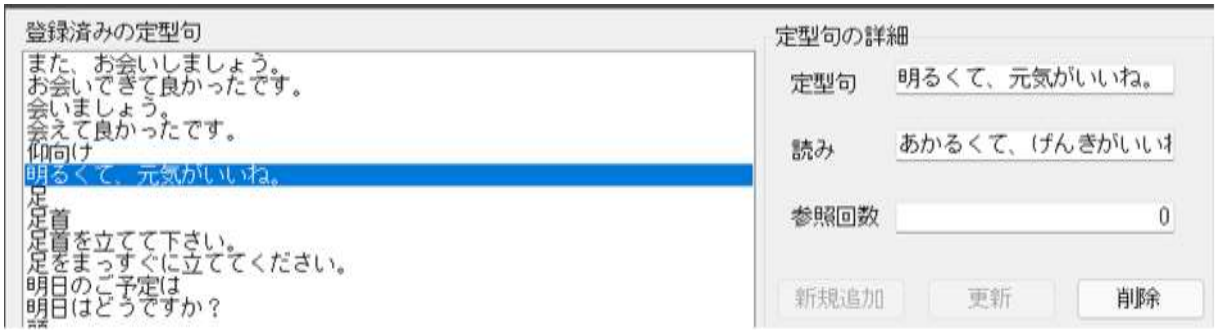
1 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の定型句編集ボタンをマウスでクリックすると、定型句編集画面が表示されます。



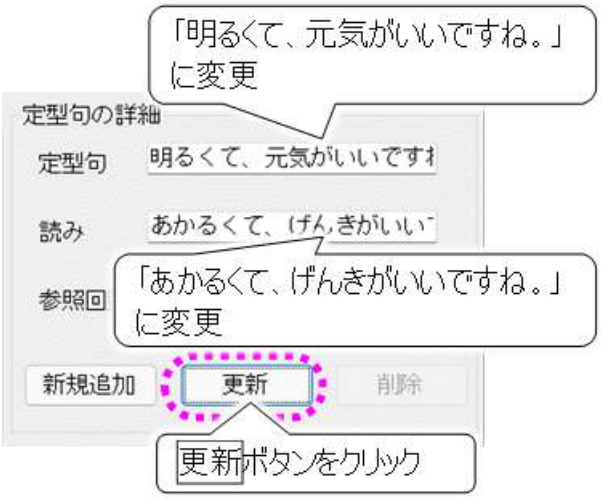
3 検索項目の「探す読み」にキーボードで「あ」と入力して、該当する定型句のみ表示ボタンをマウスでクリックします。
「あ」で始まる登録済みの定型句リストが画面左に表示されます。

4 登録済みの定型句リストから、[明るくて、元気がいいね。] をクリックすると、定型句の詳細に「定型句」と「読み」「参照回数」が表示されます。

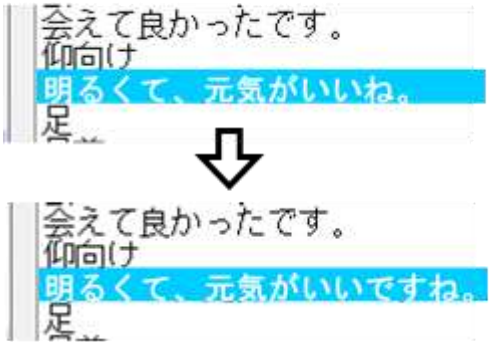


「定型句」の設定を行う

5 「定型句」の「明るくて、元気がいいね。」を「明るくて、元気がいいですね。」に変更します。
「読み」の「あかるくて、げんきがいいね。」を「あかるくて、げんきがいいですね。」に変更します。

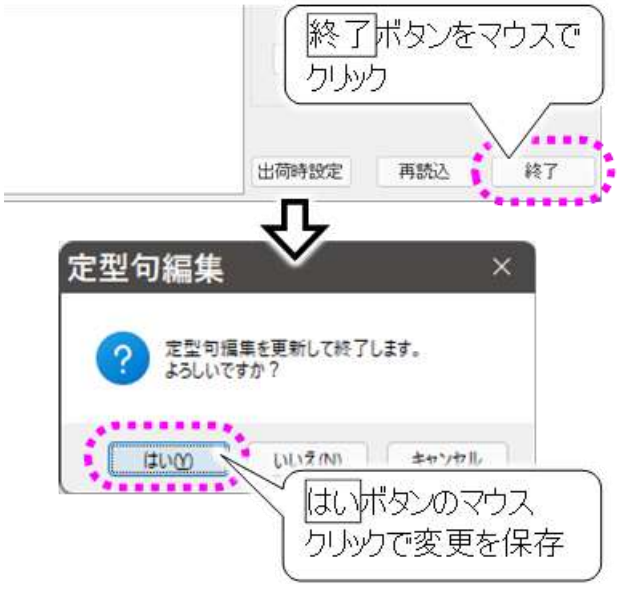


6 更新ボタンをマウスでクリックすると、定型句の変更が行われて、画面左の定型句リストの[明るくて、元気がいいね。]が［明るくて、元気がいいですね。］に変わります。



補足	定型句の変更を破棄したい場合は、再読込ボタンをマウスでクリックしてください。定型句編集画面を表示した時の状態に戻ります。
補足	定型句の登録状態を、ご購入時の設定まで戻したい場合は、出荷時設定ボタンをマウスでクリックしてください。
補足	定型句での「読み」は、定型句リストに表示するための文字列です。読み上げに使用される読みとは異なります。

7 終了ボタンのクリックで、確認画面が表示されます。はいボタンをマウスでクリックすると変更が保存されて、支援者用設定画面に戻ります。
変更を破棄して戻る場合は、いいえボタンをマウスでクリックしてください。
また、支援者用設定画面に戻らない場合は、キャンセルボタンをマウスでクリックしてください。



「定型句」の設定を行う

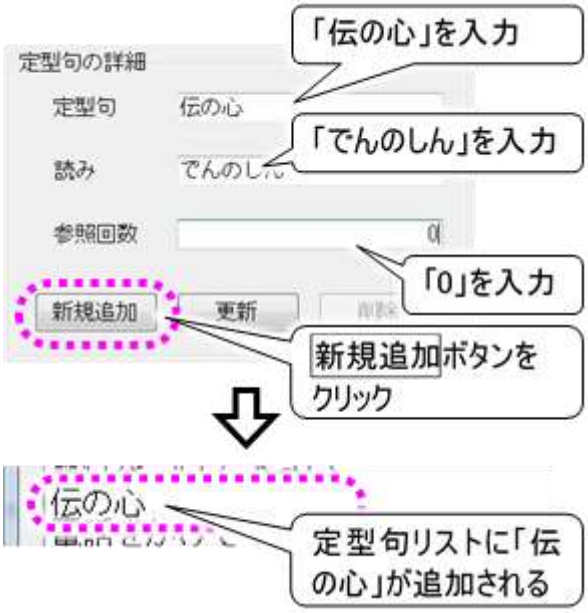
定型句の新規登録

「伝の心」を定型句として登録してみましょう。

1 295 ページの「定型句の変更」の①と同様にして、定型句編集画面を表示させます。

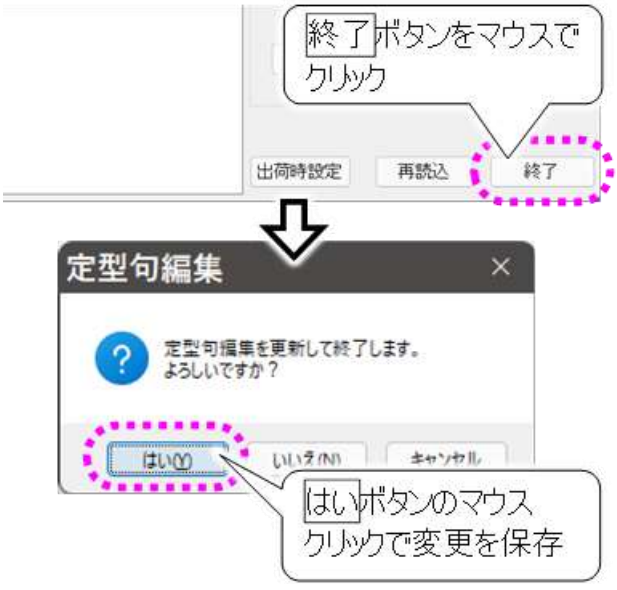
2 定型句の詳細の「定型句」に「伝の心」、「読み」に「でんのしん」、「参照回数」に「0」を入力します。

3 新規追加ボタンをマウスでクリックすると、定型句が追加されて、画面左の定型句リストに「伝の心」が表示されます。



補足	定型句の変更を破棄したい場合は、再読込ボタンをマウスでクリックしてください。定型句編集画面を表示した時の状態に戻ります。
補足	定型句の登録状態を、ご購入時の設定まで戻したい場合は、出荷時設定ボタンをマウスでクリックしてください。
補足	定型句での「読み」は、定型句リストに表示するための文字列です。読み上げに使用される読みとは異なります。

4 終了ボタンのクリックで、確認画面が表示されます。はいボタンをマウスでクリックすると変更が保存されて、支援者用設定画面に戻ります。変更を破棄して戻る場合は、いいえボタンをマウスでクリックしてください。



「日常使用文」の編集をする

日常使用文の変更

読み上げる文言を変更する

登録済みの日常使用文「吸引して下さい」を「吸引お願いします」に変更してみましょう。

1 支援者用設定画面の日常使用文編集ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文編集画面が表示されます。

2 日常使用文編集画面の日常使用文１ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文階層編集画面が表示され、日常使用文パネル1の内容が表示されます。

制限	「1.編集対象選択」のボタンで、背景色が緑色になっているものは、必須項目なので、編集できません。
制限	「日常使用文１」「日常使用文２」「日常使用文３」のパネルの名称は変更可能ですが、背景色が緑色になっている「日常使用文１」「日常使用文２」「日常使用文３」のボタンの名称を変更することはできません。

「日常使用文」の編集をする

3 変更したい日常使用文吸引をクリックして、文を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、機能割り当て画面が表示されます。

[音声合成]の[読上文字]を「吸引して下さい」から「吸引お願いします」に変更します。

4 試聴ボタンをマウスでクリックすると音声が再生されるので、音声の確認ができます。

5 OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻るので、戻るボタンをマウスでクリックし、日常使用文編集画面に戻ります。

6 日常使用文編集画面で終了ボタンをマウスでクリックし、確認画面で、はいボタンをマウスでクリックすると、編集した日常使用文を保存して支援者用設定画面に戻ります。

7 これで、日常使用文パネルの[吸引]を選択すると、「吸引お願いします」と音声がでるようになりました。

「日常使用文」の編集をする

ボタンの入れ替えや移動を行う

同一の日常使用文パネル内において、ボタンの入れ替えや移動が可能です。連続して使う機能を縦一列に並べ替える場合、この機能を使うと便利です。
ここでは、日常使用文パネル１において、[吸引]と、[あいさつ]を入れ替えてみます。

1 298 ページの「日常使用文の変更」の①と同様にして、日常使用文編集画面を表示します。

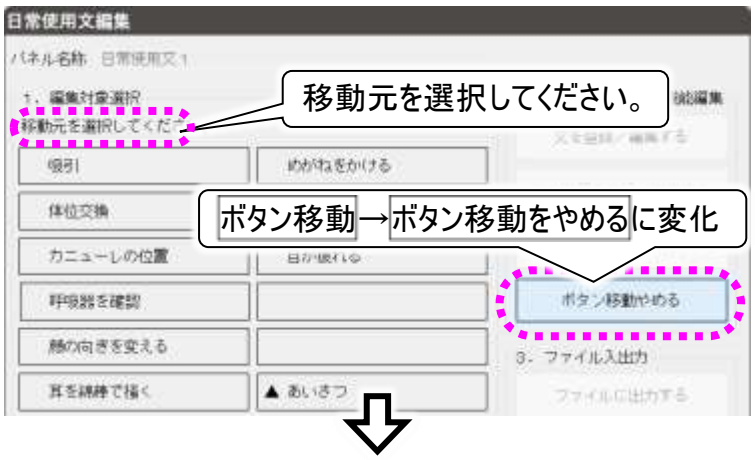
2 日常使用文編集画面の日常使用文１ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文階層編集画面が表示され、日常使用文パネル１の内容が表示されます。

3 日常使用文階層編集画面にて、ボタン移動ボタンをマウスでクリックして、ボタン配置変更モードに入ります。

制限

ボタン配置変更モードについての制限事項
移動ボタンをクリックすると、ボタンの選択はリセットされます。
背景色が緑色になっているボタンは移動することができません。

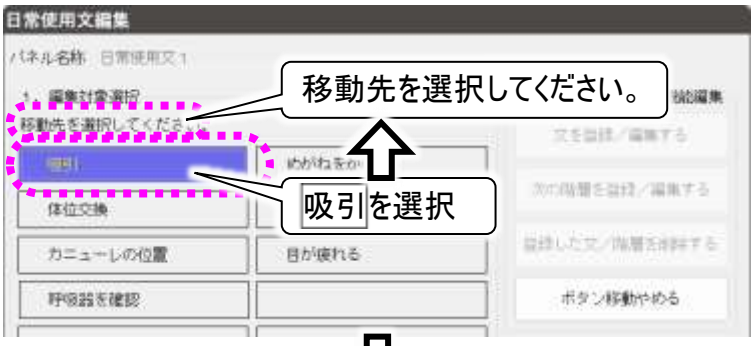
4 ボタン配置変更モードに入るとボタン移動ボタンがボタン移動をやめるボタンに変化し、「移動元を選択してください。」のガイダンスが表示されます。



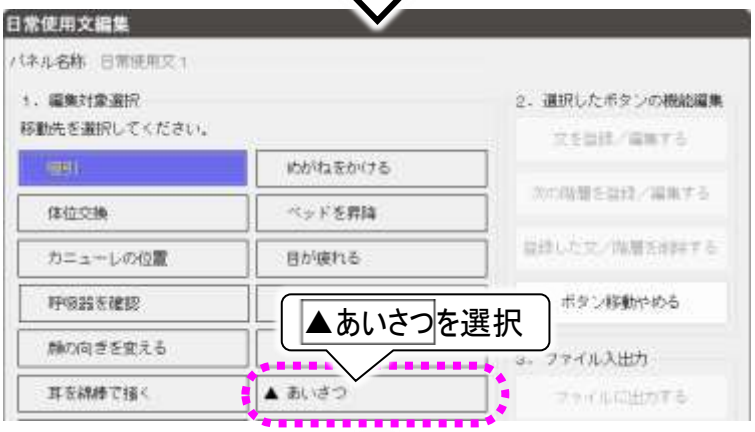
「日常使用文」の編集をする

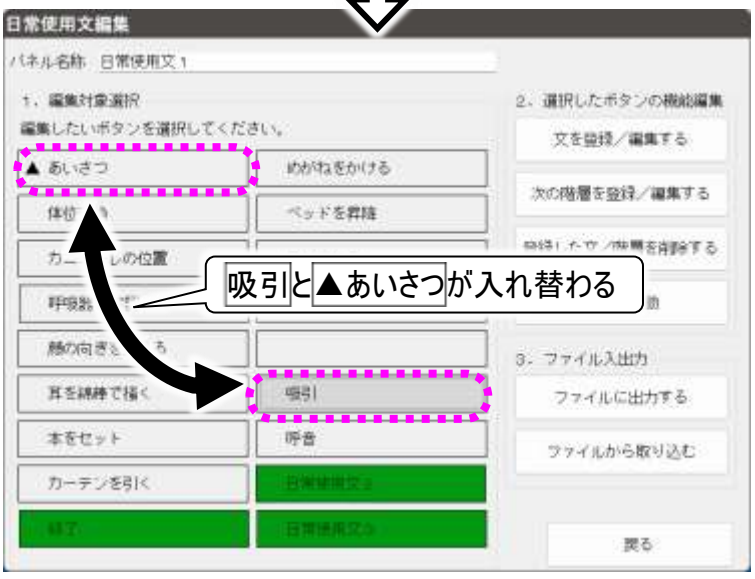
5 吸引をクリックすると、ガイダンスが「移動先を選択してください。」に変化します。

移動元の選択を間違えた場合は、ボタン移動をやめるボタンをクリックして、3 項からやり直してください。



6 移動先としてあいさつをクリックすると、吸引とあいさつのボタンが入れ替わり、ボタン配置変更モードが終了します。





「日常使用文」の編集をする

スマートスピーカーやスマートフォンへの呼びかけに変更する

登録済みの日常使用文「おはよう」をスマートスピーカーやスマートフォンへの呼びかけに変更してみましょう。

補足	**スマートスピーカー・スマートフォンの種類** 「GoogleHome・Android」と「Amazon　Echo」「Siri（iPhone）」に対応しています。設定すると読み上げ文字の前に「オッケーGoogle」や「アレクサ」などのスマートスピーカーへの呼びかけ、「ヘイ Siri」の iPhone への呼びかけが追加されます。
制限	**スマートスピーカー・スマートフォン等の設定** スマートスピーカーやスマートフォンなどの機器はお客様でご用意願います。スマートスピーカーやスマートフォンなどの機器をご使用になる場合は、それぞれの機器について設定が必要です。それぞれの機器の不明点は、ご購入先にお問い合わせください。また、スマートスピーカーやスマートフォンへの呼びかけに対してそれぞれの機器の動作を保証するものではありませんので、ご注意願います。

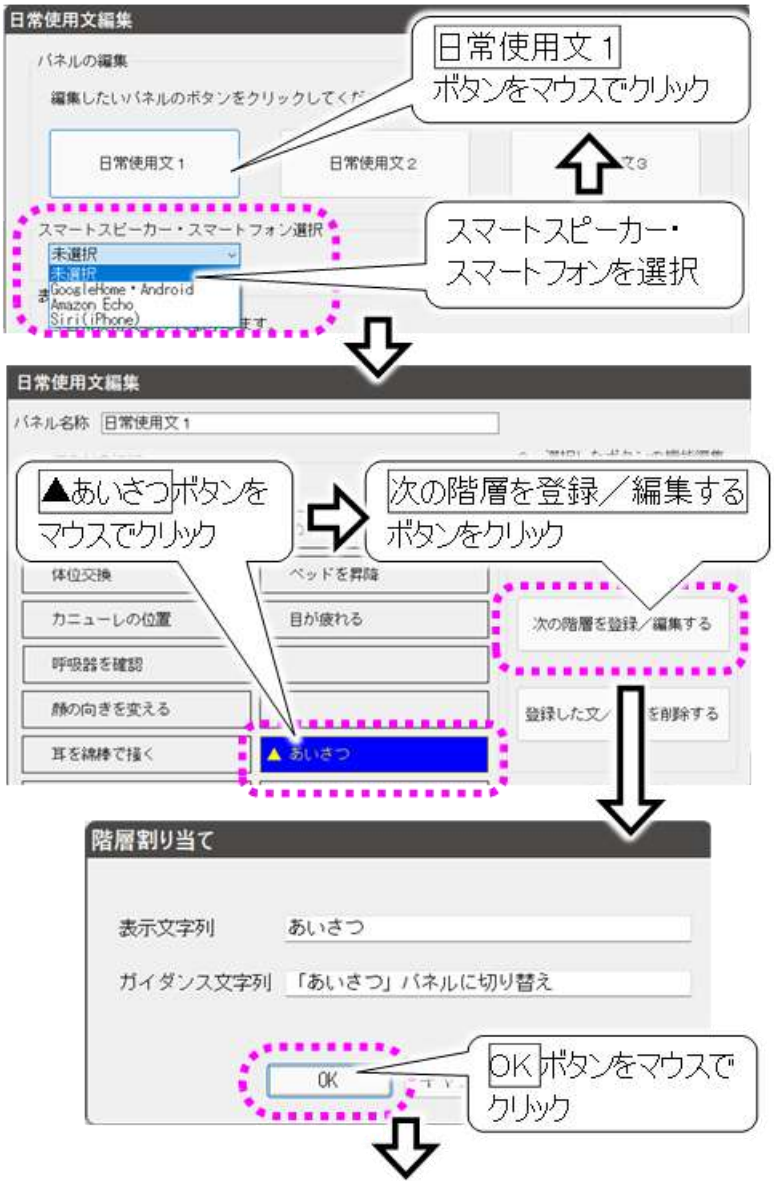
1 日常使用文編集画面の「スマートスピーカー・スマートフォン選択」の項目から、お持ちの機器に合わせて、「Google Home・Android」または「Amazon Echo」、「Siri（iPhone）」を選択します。

2 次に日常使用文「おはよう」を編集していきます。

日常使用文１ボタンをマウスでクリックし、日常使用文パネル１の内容を表示します。

3 ▲あいさつボタンをマウスでクリックして、次の階層を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、

階層割り当て画面が表示されますので、OK ボタンをマウスでクリックして、あいさつパネルの内容を表示させます。



「日常使用文」の編集をする

4 変更したい日常使用文おはようをクリックして、文を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、機能割り当て画面が表示されます。

5 「スマートスピーカー・スマートフォン」にチェック☑を入れて、OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻るので、298 ページの「読み上げる文言を変更する」と同様にして支援者用設定画面に戻ります。

6 216 ページの「支援者用設定について」を参照して、支援者用設定画面を終了し、「伝の心」に戻ります。

7 日常使用文 1 のあいさつパネルで「おはよう」を選択してみてください。
「おはよう」の前に「アレクサ」や「オッケーGoogle」などのスマートスピーカー等の機器への呼びかけが追加されて読み上げられます。

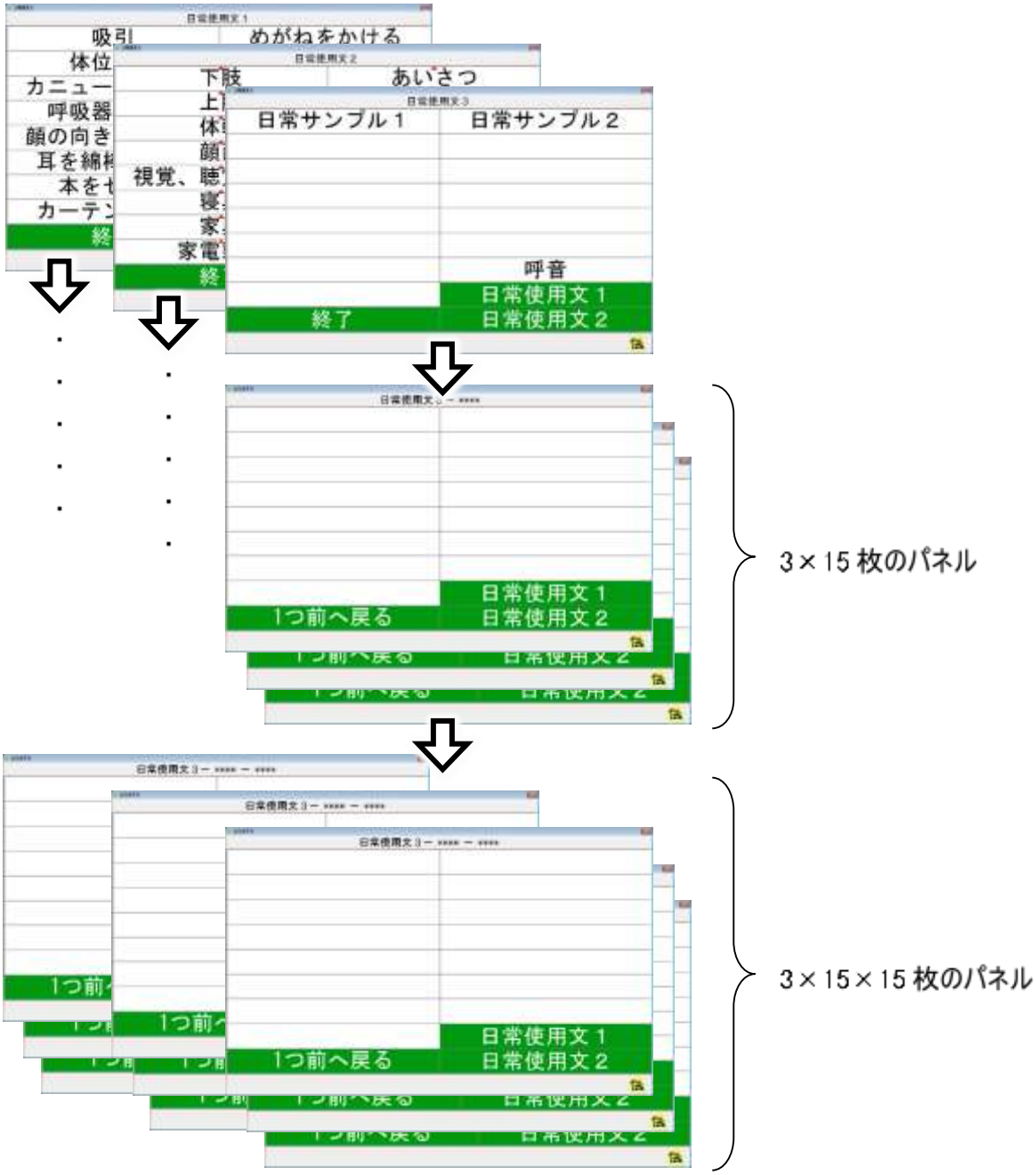
8 例えば、「GoogleHome・Android 」をスマートスピーカー・スマートフォン選択で設定した場合、「おはようございます・・・」と応答して答えてくれます。

補足 スマートスピーカー・スマートフォンによっては、読み上げの音量を大きくしないと応答しないものもあります。音量が足りない場合は、外付けスピーカーをご用意いただき、「伝の心」に接続してご利用ください。

「日常使用文」の編集をする

日常使用文の新規登録

日常使用文のパネルは日常使用文 1 パネル、日常使用文 2 パネル、日常使用文 3 パネルの3つのパネルから構成されています。各パネルには、自由に変更できるボタンが 15 個存在し、そのボタンからパネルを呼び出すことが可能です。呼び出したパネルからさらにパネルを呼び出すことも可能です。
つまり、理論的には 3×15+3×15×15 の 720 枚のパネルの登録をサポートします。ボタンに関しては 10800 個の登録をサポートします。



制限

あまり多くのパネルを作成すると、画面の表示や操作が遅くなることがありますので、ご注意ください。

「日常使用文」の編集をする

新しいパネルを作成する

日常使用文 3 パネルの下に「飲食パネル」を作成してみましょう。

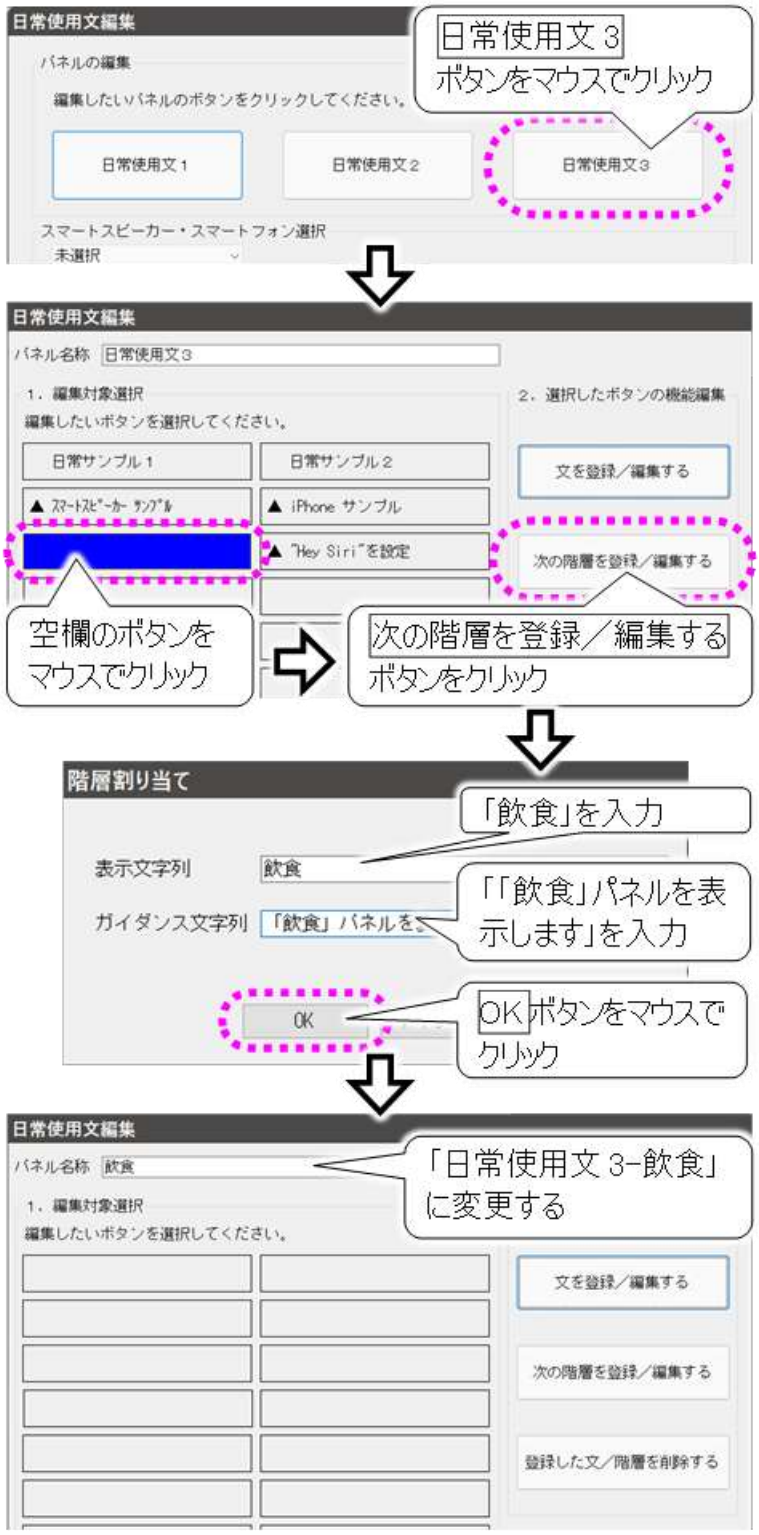
1 298 ページの「日常使用文の変更」の①と同様にして、日常使用文編集画面を表示します。

2 日常使用文編集画面の日常使用文 3 ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文階層編集画面が表示され、日常使用文 3 パネルの内容が表示されます。

3 空欄のボタンをマウスでクリックして、次の階層を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、階層割り当て画面が表示されます。

4 「表示文字列」に「飲食」、「ガイダンス文字列」に「「飲食」パネルを表示します」を入力します。
OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻り、飲食パネルの内容が表示されます。

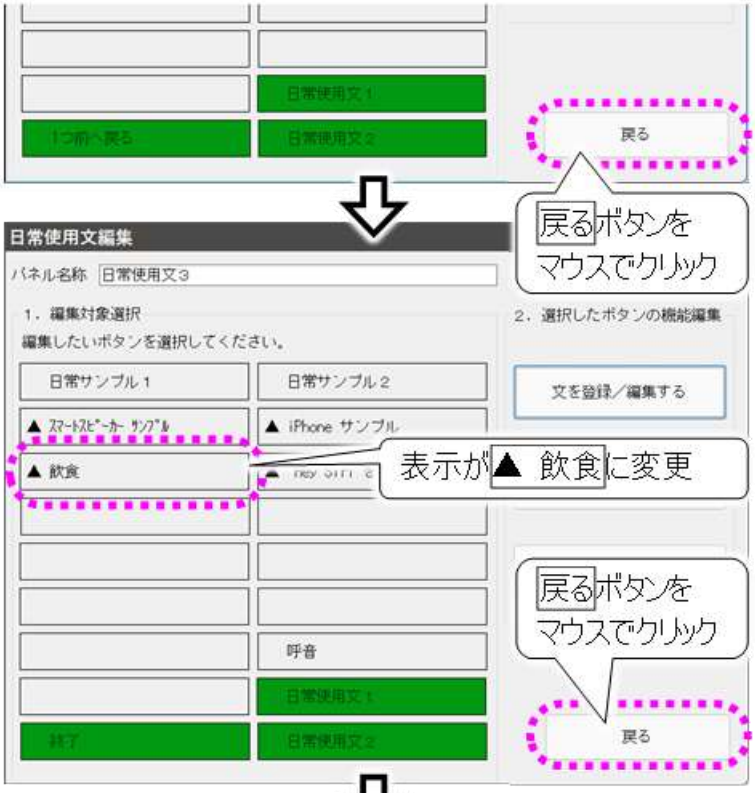
5 「パネル名称」に「飲食」が表示されていますので、「日常使用文 3-飲食」に変更します。



「日常使用文」の編集をする

6 戻るボタンをマウスでクリックすると、日常使用文 3 パネルの内容が表示されます。

先ほどの空欄のボタンは、
▲ 飲食に変更されます。



7 戻るボタンをマウスでクリックすると、日常使用文編集画面に戻るので、終了ボタンをマウスでクリックし、確認画面ではいボタンをマウスクリックすると、支援者用設定画面に戻ります。

「日常使用文」の編集をする

8 「伝の心」のメインメニューより[日常使用文]を選択して、飲食パネルを確認してみましょう。

「日常使用文」の編集をする

新しい日常使用文を登録する

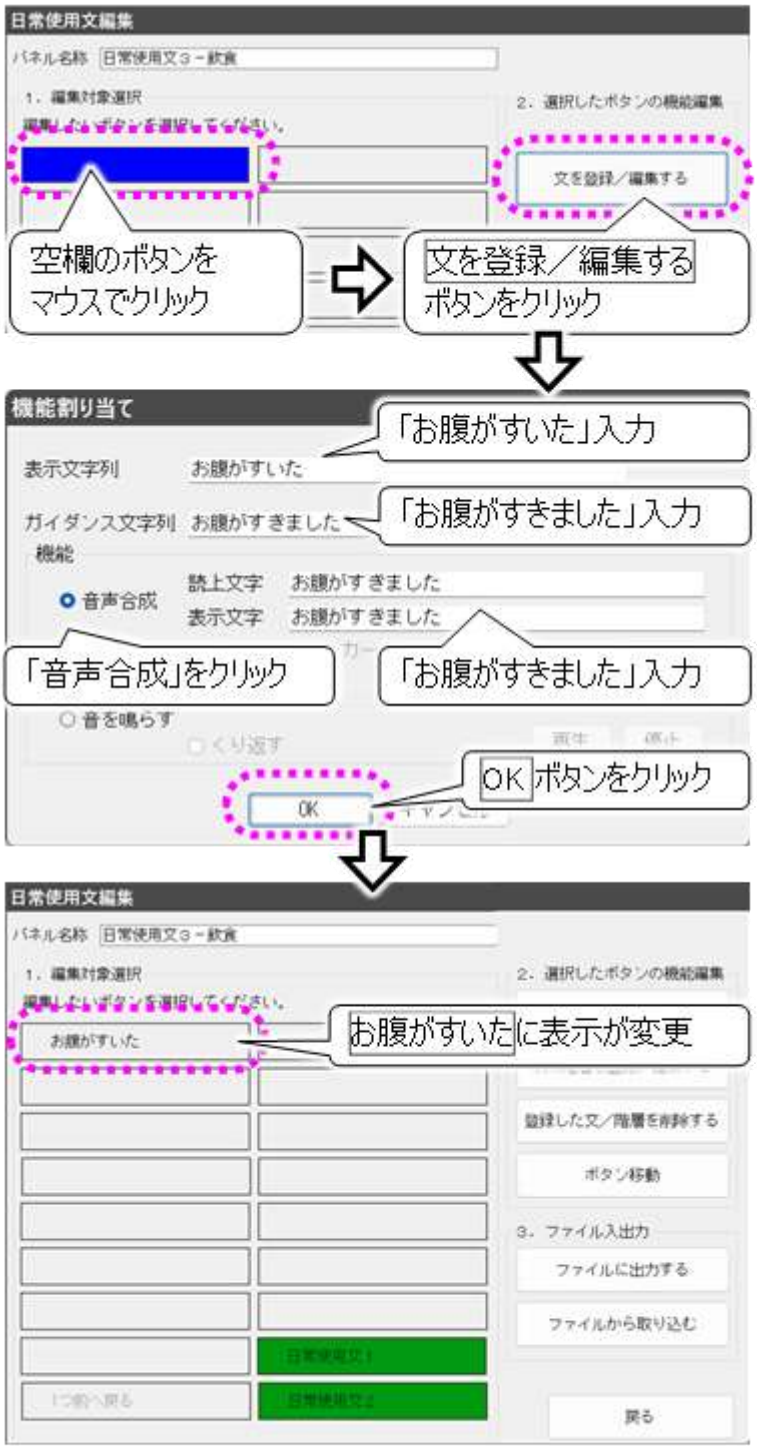
作成した「飲食パネル」に「お腹がすいた」を登録してみましょう。

1 前項に引き続き、日常使用文階層編集画面で「飲食パネル」の内容を表示させます。

2 空欄のボタンをマウスでクリックして、文を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、機能割り当て画面が表示されます。

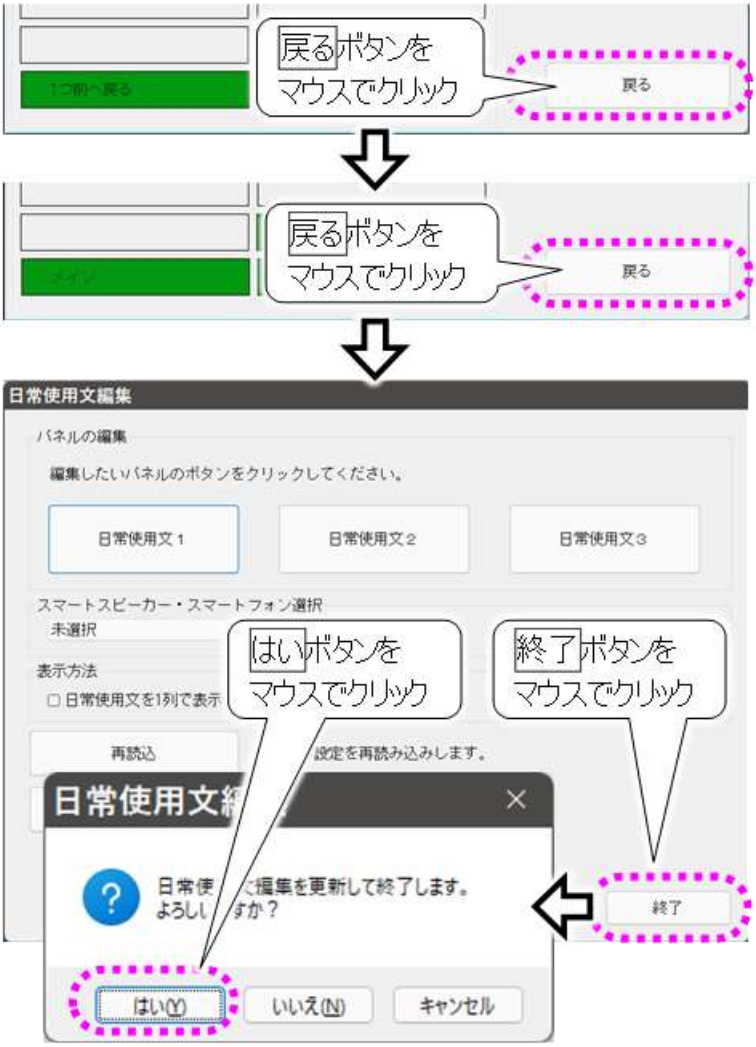
3 「表示文字列」に「お腹がすいた」、「ガイダンス文字列」に「お腹がすきました」を入力します。
また、「機能」の「音声合成」をクリックして、[読上文字]と[表示文字]に「お腹がすきました」を入力します。
OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻ります。

4 先ほどの空欄のボタンは、お腹がすいたに表示が変更されます。



「日常使用文」の編集をする

5 戻るボタンを 2 回クリックすると、日常使用文編集画面に戻るので、終了ボタンをマウスでクリックして、はいボタンのマウスクリックで、支援者用設定画面に戻ります。



6 「伝の心」のメインメニューより[日常使用文]を選択して、飲食パネルを確認してみましょう。

「日常使用文」の編集をする

新しい呼び出し音を登録する

作成した「飲食パネル」に新しい呼び出し音の項目を登録してみましょう。

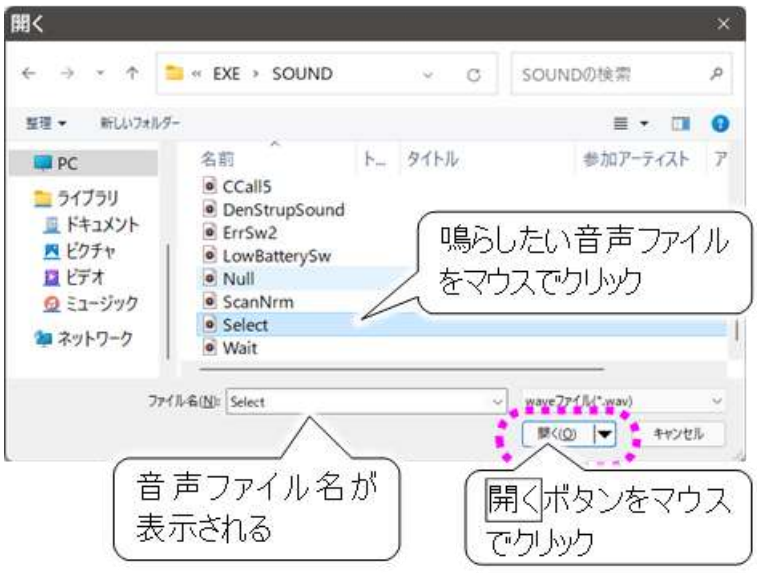
1 前項に引き続き、日常使用文階層編集画で「飲食パネル」の内容を表示させます。

2 前項と同様に空欄のボタンをマウスでクリックして、文を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、機能割り当て画面が表示されます。

3 「表示文字列」に「食事」、「ガイダンス文字列」に「食事の用意をお願いします」を入力します。

また、「機能」の「音を鳴らす」をクリックして、. . .ボタンをマウスでクリックします。

4 ファイルを開く画面が表示されるので、鳴らしたい音声ファイルをクリックすると、音声ファイル名が「ファイル名」に表示されるので、開くボタンをマウスでクリックします。

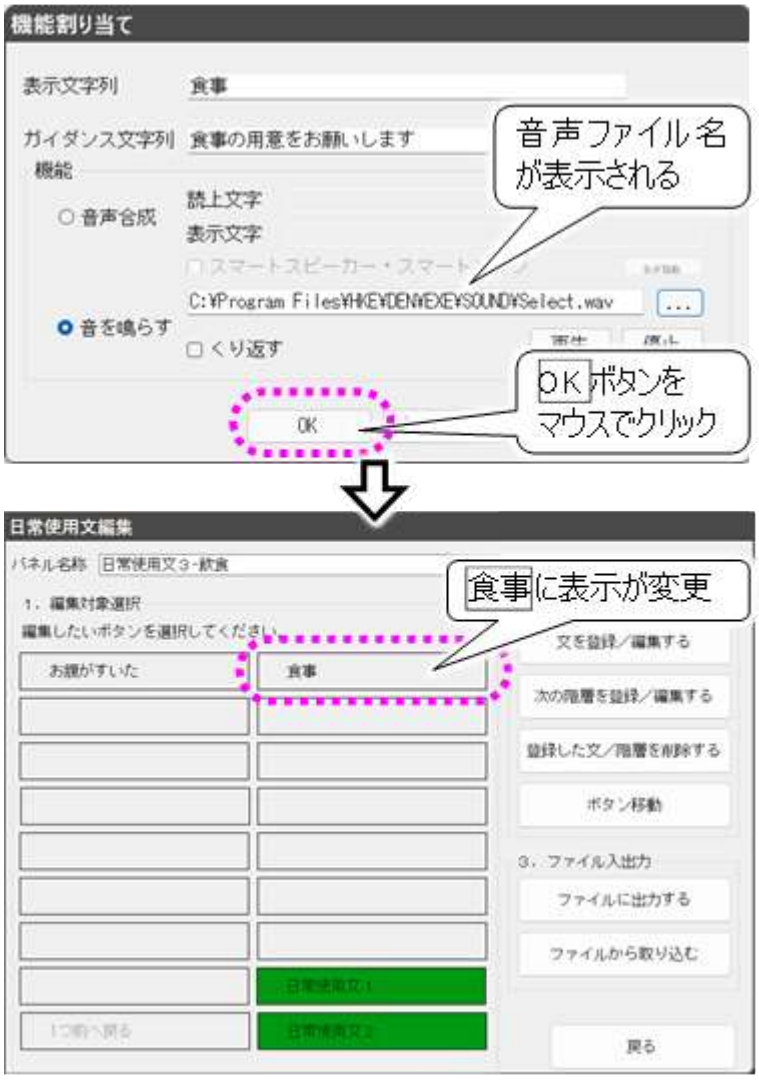


「日常使用文」の編集をする

5 機能割り当て画面に音声ファイルのパスが表示されます。

再生ボタンをマウスでクリックすると音声が再生されるので、音声の確認ができます。再生を途中で中止する場合は、停止ボタンをマウスでクリックしてください。

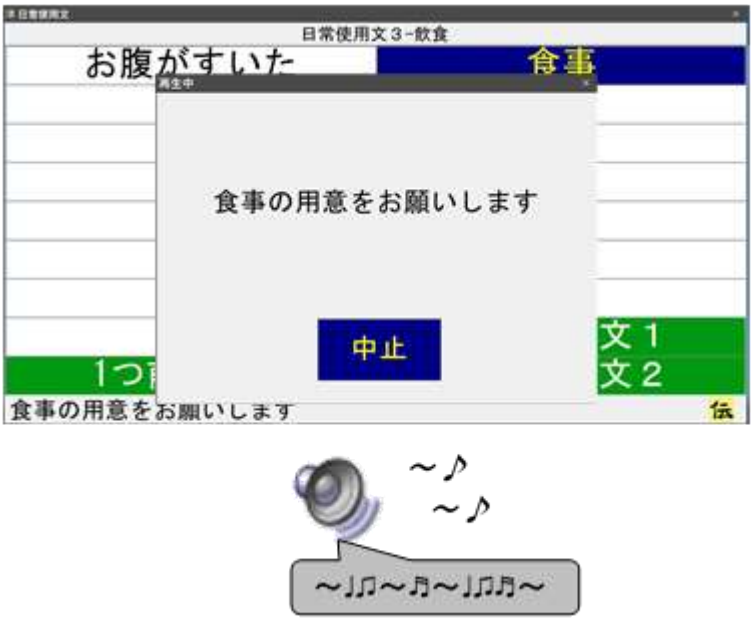
音声を繰り返し再生する場合は、[繰り返す]にチェック☑を入れてください。



6 OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻ります。
先ほどの空欄のボタンは、食事に表示が変更されます。

7 前項と同様に、戻るボタンを 2 回クリックすると、日常使用文編集画面に戻るので、終了ボタンをマウスでクリックして、はいボタンのマウスクリックで、支援者用設定画面に戻ります。

8 「伝の心」のメインメニューより[日常使用文]を選択して、飲食パネルを確認してみましょう。

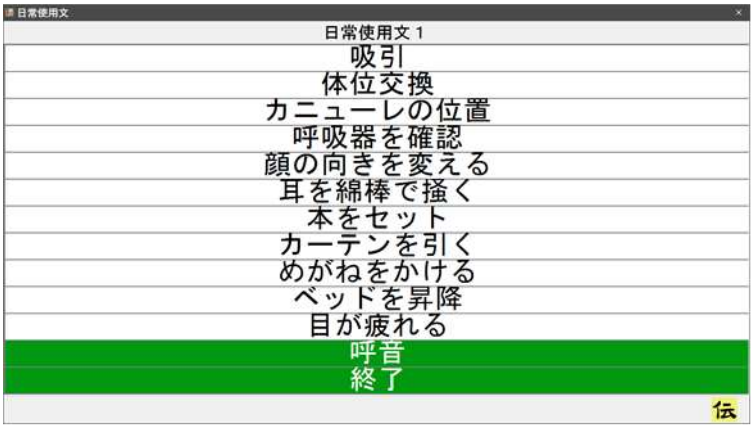


「日常使用文」の編集をする

日常使用文を簡易な表示で使用する（1 列で表示する）

ご購入時（初期設定）は、「日常使用文」の画面は下記のようなパネル表示になっています。

このメニューは支援者用設定画面から、パネル表示/１列表示の設定が行えます。
１列表示にすると、下記のような画面になります。



制限

１列表示にした場合、日常使用文 2 パネル、日常使用文 3 パネルは表示されません。日常使用文 1 パネルのみの表示となります。また表示件数も 15 項目から 11 項目と少なくなります。また階層表示（パネルの切替）もできません。階層表示（パネルの切替）に設定している項目は非表示（空白のパネル）になります。

それでは、「日常使用文」の画面を１列表示に設定してみましょう。

1 298 ページの「日常使用文の変更」の①と同様にして、日常使用文編集画面を表示します。

2 [日常使用文を 1 列で表示します]にチェック☑を入れます。

「日常使用文」の編集をする

3 日常使用文 2 ボタンと日常使用文 3 ボタンがグレーアウトして、選択できなくなります。

4 日常使用文１ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文階層編集画面が表示され、日常使用文パネル１の内容が表示されますが、
右図のように、編集できない項目や、選択できないボタンがグレーアウトで表示されます。

5 前項と同様に、日常使用文編集画面で、終了ボタンをマウスでクリックして、はいボタンのマウスクリックで、支援者用設定画面に戻ります。

「日常使用文」の編集をする

日常使用文のファイル入出力（インポート/エクスポート）

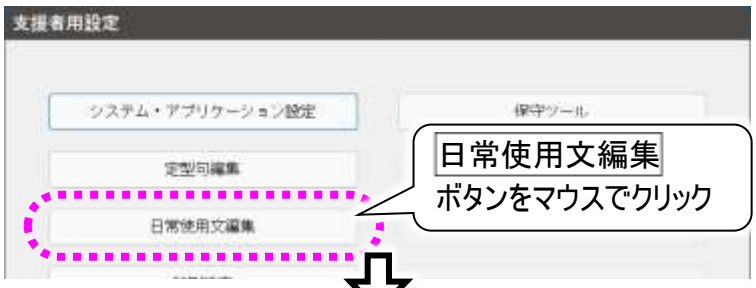
日常使用文のパネルは、パネル単位でファイルとして書き出したり、読み込んだりすることが可能です。
作成したパネルのバックアップなどにご利用ください。

制限	次の階層を登録しているボタンの情報は、ボタン名のみ出力されます。次の階層の登録は、ファイルから取り込んだ後、再度行ってください。

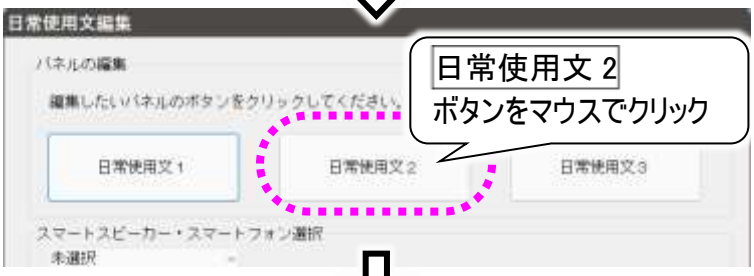
ファイルに出力する（エクスポート）

日常使用文 2 の 2 階層目「返事」パネルをファイルに出力してみましょう。

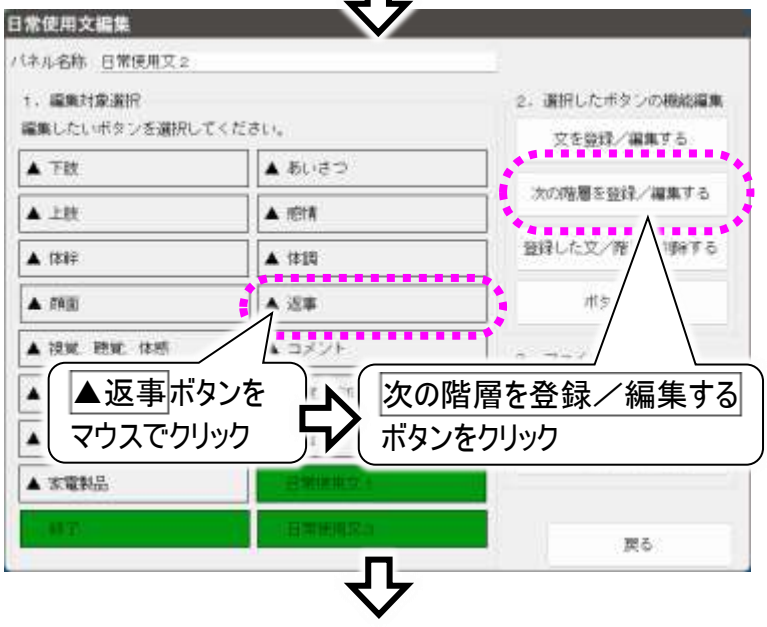
1 支援者用設定画面の日常使用文編集ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文編集画面が表示されます。



2 日常使用文編集画面の日常使用文 2 ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文階層編集画面が表示され、日常使用文パネル 2 の内容が表示されます。

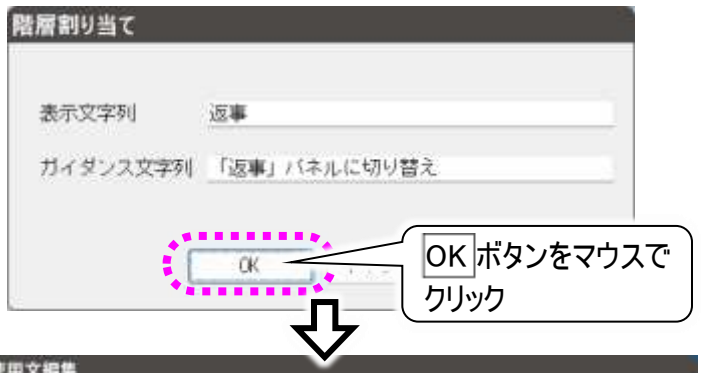


3 ▲返事ボタンをマウスでクリックして、次の階層を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、階層割り当て画面が表示されます。

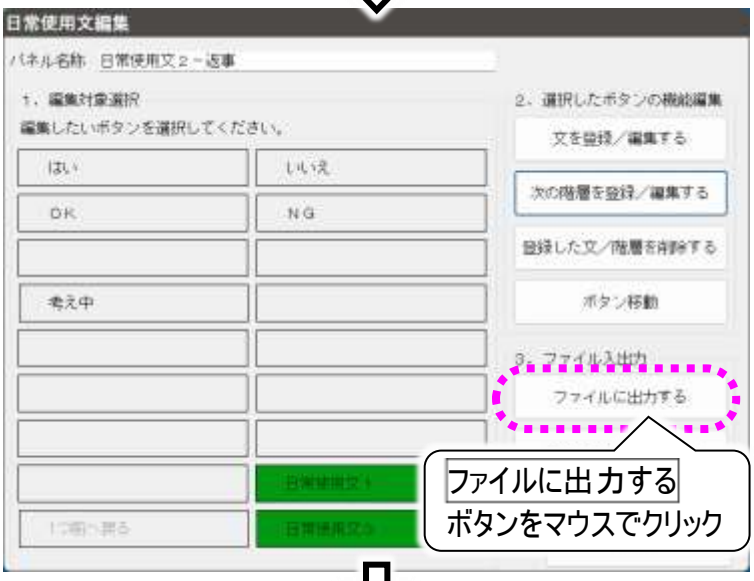


「日常使用文」の編集をする

4 階層割り当て画面で OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻り、返事パネルの内容が表示されます。



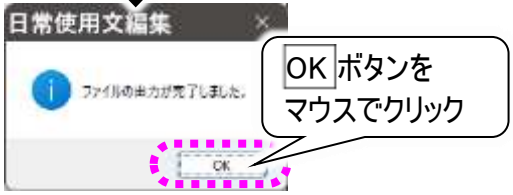
5 返事パネルの内容が表示されている状態でファイルに出力するボタンをマウスでクリックすると、保存画面が表示されます。



6 保存場所を選択して、ファイル名を入力し、保存ボタンをマウスでクリックします。

ファイル名はパネル名称が初期表示になっています。

7 戻るボタンをマウスでクリックすると、日常使用文編集画面に戻るので、終了ボタンをマウスでクリックし、確認画面ではいボタンをマウスクリックすると、支援者用設定画面に戻ります。



「日常使用文」の編集をする

ファイルから取り込む（インポート）

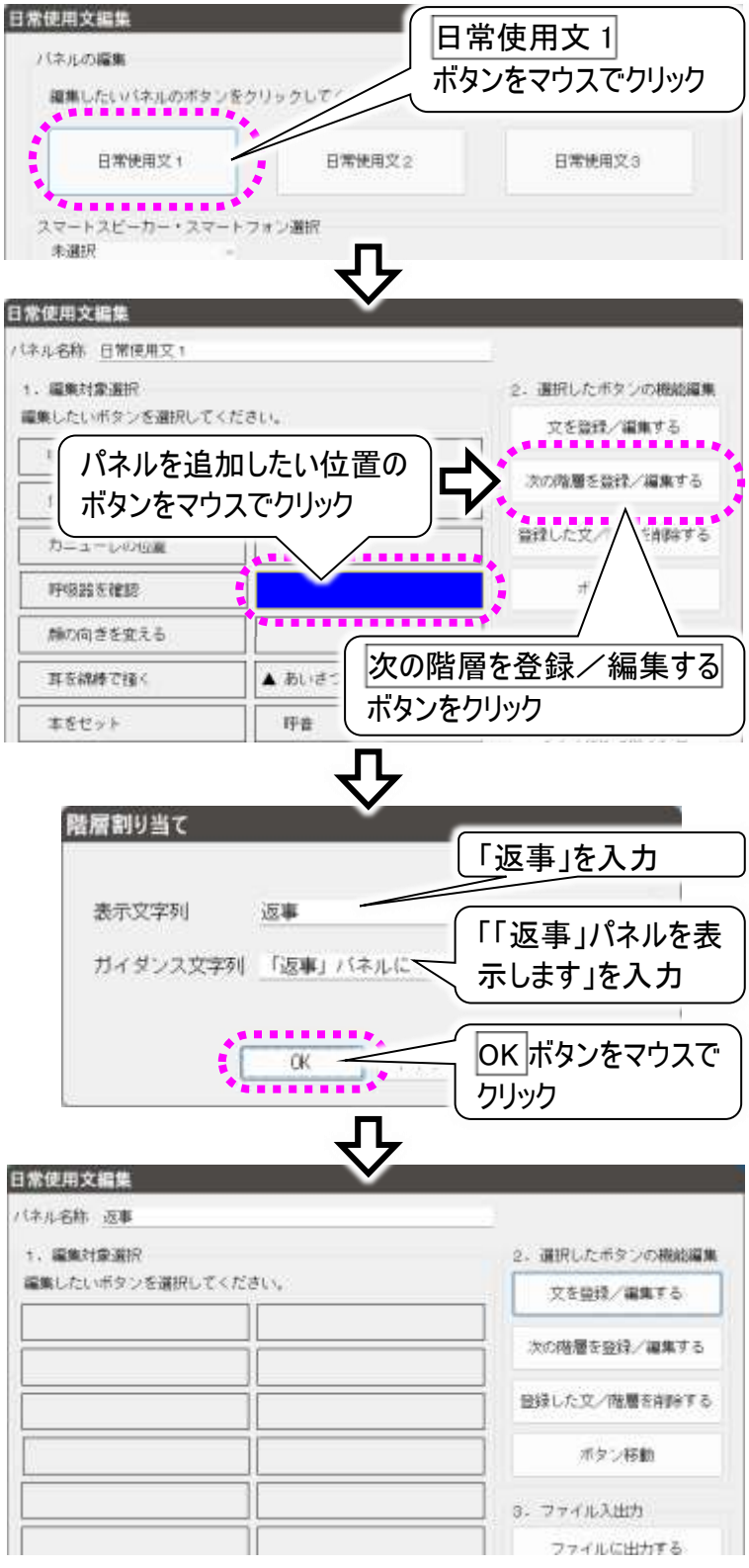
前項で出力した日常使用文２の２階層目「返事」パネルを、日常使用文１に取り込んでみましょう。

1 前項に引き続き、日常使用文編集画面で日常使用文１ボタンをマウスでクリックして、日常使用文パネル１の内容を表示させます。

2 パネルを追加したい位置のボタンをマウスでクリックして、次の階層を登録／編集するボタンをマウスでクリックすると、階層割り当て画面が表示されます。

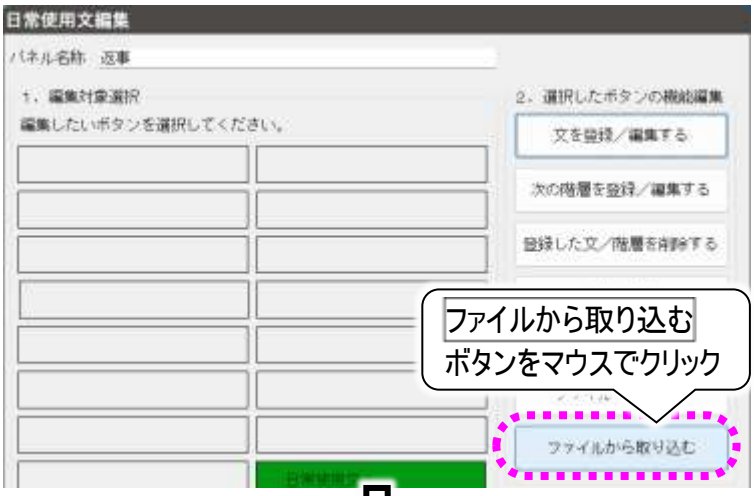
3 ここでは「返事」パネルを取り込む予定なので、「表示文字列」に「返事」、「ガイダンス文字列」に「「返事」パネルを表示します」を入力します。

4 OK ボタンをマウスでクリックすると日常使用文階層編集画面に戻り、返事パネルの内容が表示されます。
ここではまだ内容はすべて空欄です。

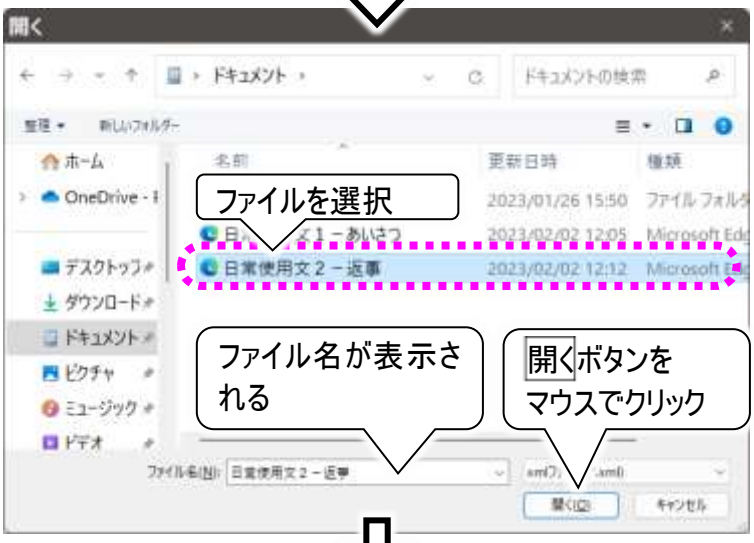


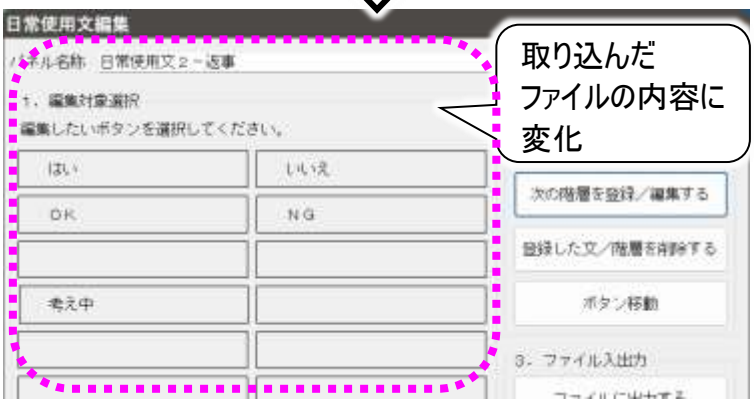
「日常使用文」の編集をする

5 ここで[ファイルから取り込む]ボタンをマウスでクリックすると、ファイルを開く画面が表示されます。



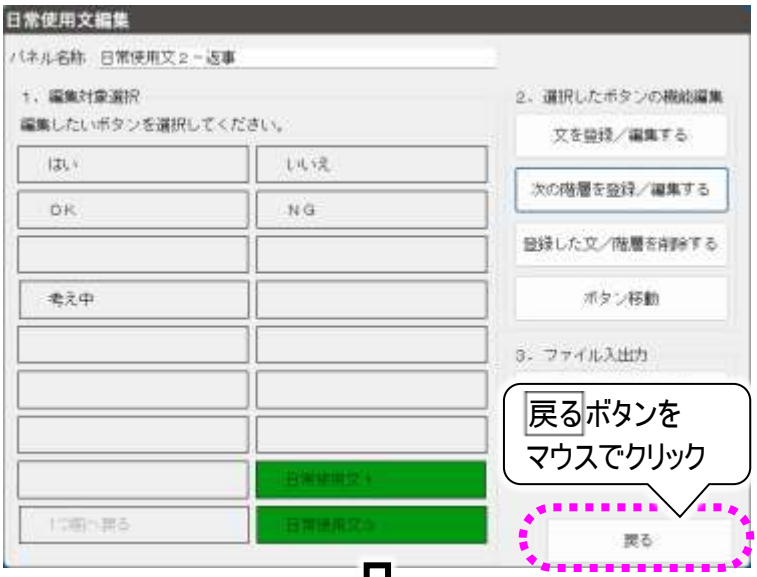
6 前項で保存したファイルを選択して[開く]ボタンをマウスでクリックすると、日常使用文階層編集画面に戻り、保存したファイルの内容が表示されます。



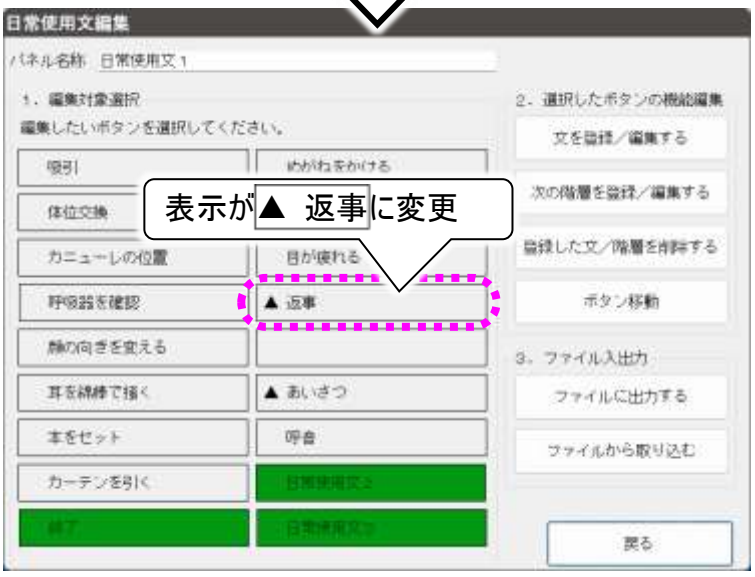


「日常使用文」の編集をする

7 戻るボタンをマウスでクリックすると、日常使用文パネル1の内容に戻ります。



先ほどの空欄のボタンは、▲ 返事に変更されます。



8 前項と同様に、戻るボタンを 2 回クリックすると、日常使用文編集画面に戻るので、終了ボタンをマウスでクリックして、はいボタンのマウスクリックで、支援者用設定画面に戻ります

電子メール・ホームページ閲覧

「伝の心」はインターネットに接続して、電子メールの送受信や、ホームページの閲覧ができます。
この章では、インターネットの設定と電子メールの利用方法、ホームページの閲覧の方法について説明します。

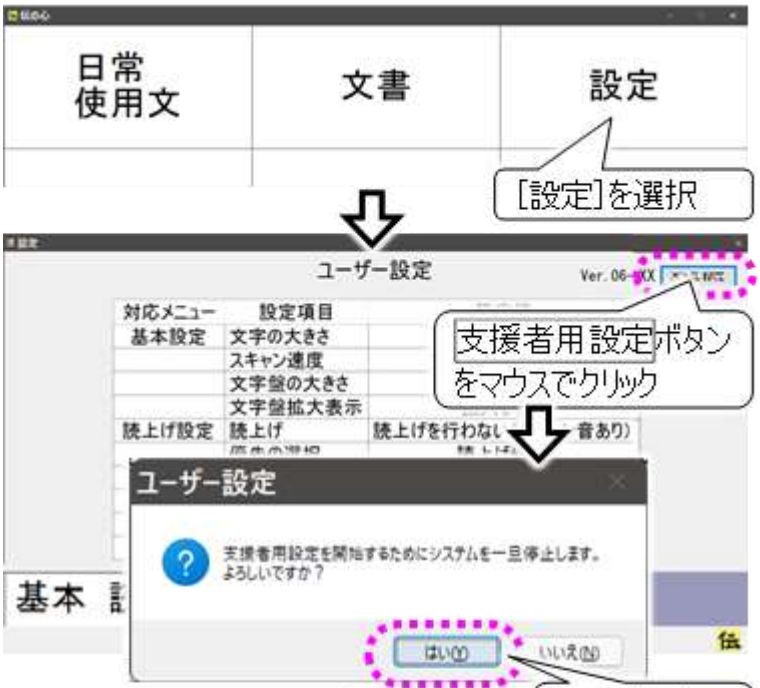
はじめにお読みください

電子メールおよびホームページを利用するために、まず、最初に次の手順でインターネットの設定を行ないます。

1 「新しいネットワークのセットアップ」等を利用して、インターネットに接続可能な環境を構築します。

制限	インターネットに接続可能な環境の構築は、ご契約のインターネット接続業者より受け取られた設定資料に基づいて、行ってください。不明点は、ご契約のインターネット接続業者にお問い合わせください。
制限	ネットワーク接続機器（モデム・ルーター・ハブ等）をご使用になる場合は、それぞれの機器について設定が必要です。ネットワーク接続機器の不明点は、ご購入先にお問い合わせください。

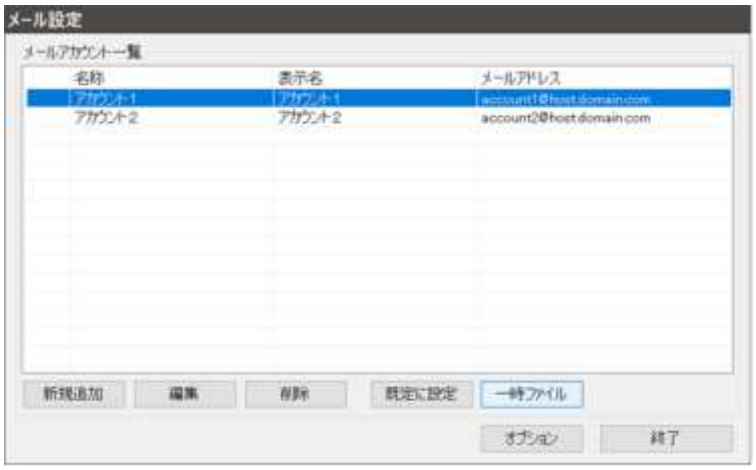
2 電子メールの設定を行います。
「伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択します。



3 伝の心設定画面が表示されるので、画面右上の支援者用設定ボタンをマウスでクリックすると支援者用設定画面が表示されます。

4 支援者用設定画面のメール設定ボタンをマウスでクリックすると、メール設定画面が表示されます。

5 電子メールの設定はこの画面から始めます。322 ページの「メールアカウントの新規追加・既定・削除」または、325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、設定を行ってください。



6 次に、219 ページの「ホームページ閲覧機能のメニューを有効にする」を参照して、「伝の心」のメインメニューより[ブラウザ操作]が選択できるようにします。

7 システム装置を回線に接続してください。

はじめにお読みください

メールアカウントの新規追加・既定・削除

メールアカウントをはじめて設定する場合は、新規追加から始めてください。
複数設定している場合は、既定のアカウントとしてどれを使用するか設定できます。また、作成したメールアカウントの削除も可能です。必要に応じて行ってください。

メールアカウントを追加する

1 メール設定画面の新規追加ボタンをマウスでクリックすると、新しいメールアカウントの設定画面が表示されます。

補足

メールアカウントの新規追加時の規定のメールアカウント変更について

メールアカウントを新規に追加すると、そのアカウントが既定のアカウントに設定されます。
別のメールアカウントを既定にしたい場合は、323 ページの「既定のメールアカウントを設定する」を参照して変更してください。

既定のメールアカウントを設定する

1 メール設定画面のメールアカウント一覧より、既定のアカウントにしたいアカウント行を選択します。

2 既定に設定ボタンをマウスでクリックすると、選択したアカウント行の左端に「既定」の表示が移ります。

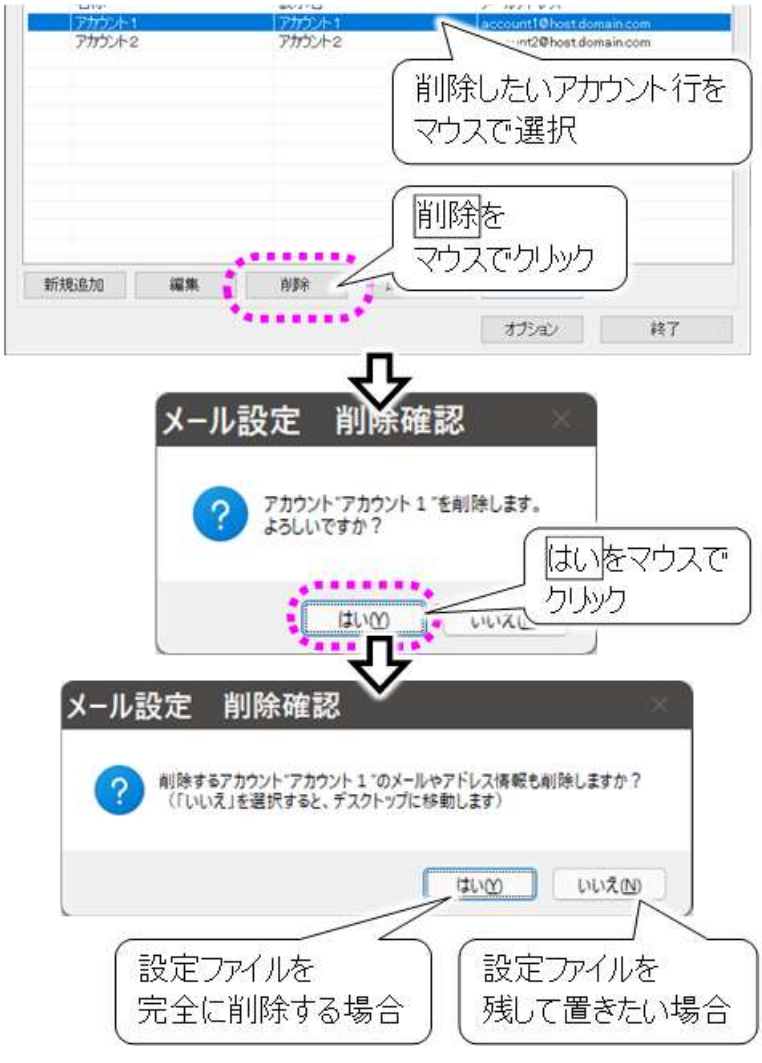
メールアカウントを削除する

1 メール設定画面のメールアカウント一覧より、削除したいアカウント行を選択します。

2 削除ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいをクリックしてください。

3 設定ファイルを完全に削除するか確認する画面が表示されるので、

設定ファイルを残して置きたい場合はいいえボタンを、
完全に削除する場合はボタンをマウスでクリックしてください。



はじめにお読みください

注意	はいボタンを選択した場合は、設定ファイルはデスクトップの「ごみ箱」に移動しますので、ご注意ください。間違えて削除した場合は、108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照して、元に戻してください。

4 ③項でいいえボタンを選択した場合は、デスクトップに設定ファイルが移動します。

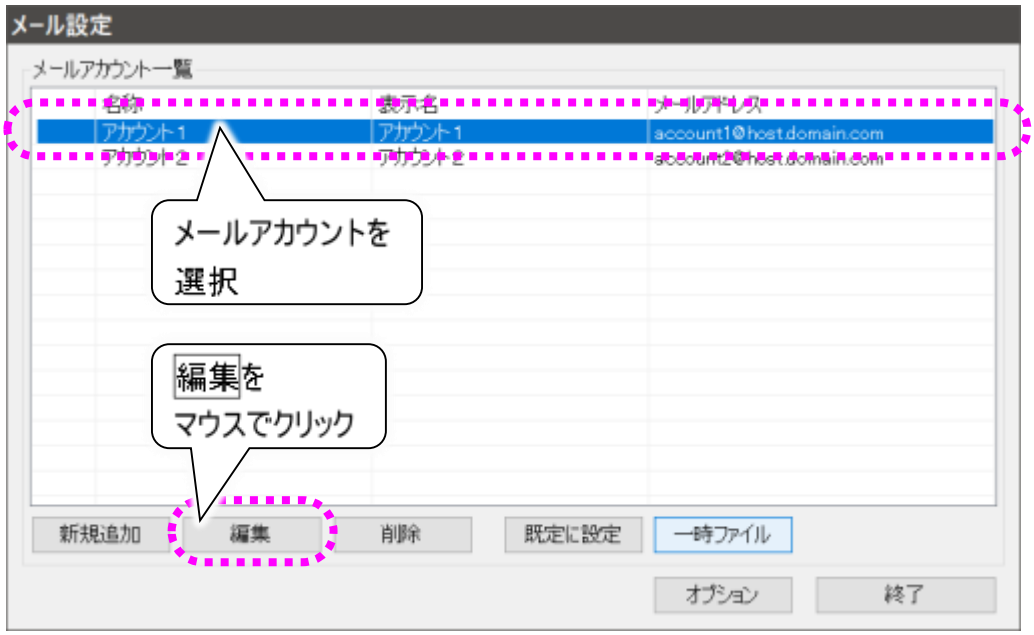
5 削除した設定を元に戻す場合は、デスクトップ上の設定ファイルをフォルダごと「C:¥Users¥DENUSER¥Documents¥DenNoSin¥メール」の下に移動させてください。

制限	**「メール」フォルダのフォルダ名の編集／フォルダの削除** 以前保存したメールの読込ができなくなります。絶対に行わないでください。 間違えて削除した場合は、108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照して、元に戻してください。

メールアカウントの設定

1 メール設定画面の新規追加ボタンをマウスでクリックすると、新しいメールアカウントの設定画面が表示されます。

2 既にあるメールアカウントの設定変更を行う場合は、変更したいメールアカウントを選択して編集をマウスでクリックしてください。



はじめにお読みください

アカウント情報

1

メールアカウントの設定画面の[アカウント情報]タブをマウスでクリックして、「メールアカウント」「名前」「電子メールアドレス」の項目をキーボードより入力します。
（※必須）

「返信アドレス」は必要に応じて入力してください。

入力項目	説明
メールアカウント	アカウントに付ける名前。 設定範囲は 32 文字までです。
名前	アカウントのメールアドレスに付ける名前。 メールを送った相手には送信者としてこの名前が表示されます。
電子メールアドレス	アカウントのメールアドレス。 設定範囲は 320 文字までです。
返信アドレス	メールを送った相手が返信するときに表示される返信先メールアドレス。電子メールアドレスと違うアドレスに返信してもらいたい時に設定します。

受信サーバー設定

2 次にメールアカウントの設定画面の[受信サーバー設定]タブをマウスでクリックして、「受信メール(POP3)名」「受信メール(POP3)ポート番号」「ユーザー名」「パスワード」の項目をキーボードより入力します。
(※必須)

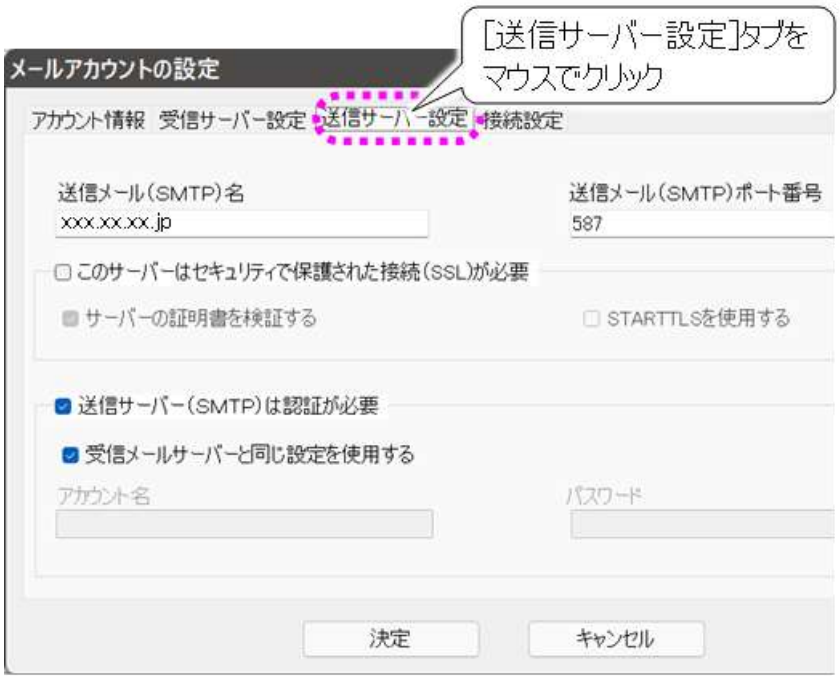
それ以外の機能は、必要に応じて設定してください。

入力項目	説明
受信メール(POP3)名	POPサーバーの名前。もしくはIPアドレス。
受信メール(POP3)ポート番号	POPサーバーのポート番号。 設定範囲は 0～65535。初期値は 110。
ユーザー名	POPサーバーの認証用アカウント。文字列最大長は 255。
パスワード	POPサーバーの認証用パスワード。文字列最大長は 255。
受信メールのコピー	[サーバーにメッセージのコピーを置く]にチェック☑をいれると、受信しても、受信サーバーに受信メールのコピーが残ります。
サーバーから削除	[サーバーから削除する]にチェック☑をいれると、受信サーバーに残っている受信メールのコピーが[削除される日数]経過後に削除されます。
削除される日数	受信メールのコピー使用時のサーバーから削除されるまでの日数。 単位は日。設定範囲は 1～999。
SSL 接続	受信サーバーが SSL 接続方式である場合、[このサーバーはセキュリティで保護された接続(SSL)が必要] にチェック☑を入れてください。 その場合、POPサーバーのポート番号は 995 になります。 また、受信サーバーがサーバーの電子証明書を確認している場合は、[サーバーの証明書を検証する]にチェック☑を入れてください。 受信サーバーが STARTTLS を使用している場合は、[STARTTLS を使用する]にチェック☑を入れてください。
自動受信	[メールを定期的に確認する]にチェック☑をいれると、[間隔] に設定した時間毎に自動受信行います。
間隔 (自動受信間隔)	自動受信使用時の受信処理間隔。 単位は分。設定範囲は 1～480。

送信サーバー設定

3 次にメールアカウントの設定画面の[送信サーバー設定]タブをマウスでクリックして、「送信メール(SMTP)名」「送信メール(SMTP)ポート番号」の項目をキーボードより入力します。
(※必須)

それ以外の機能は、必要に応じて設定してください。



入力項目	説明
送信メール(SMTP)名	SMTP サーバーの名前。もしくはIPアドレス。
送信メール(SMTP) ポート番号	SMTP サーバーのポート番号。 設定範囲は 0～65535。初期値は 587。
SSL 接続	送信サーバーが SSL 接続方式である場合、[このサーバーはセキュリティで保護された接続(SSL)が必要] にチェック☑をいれてください。その場合 SMTP サーバーのポート番号は 465 になります。 また、送信サーバーがサーバーの電子証明書を確認している場合は、[サーバーの証明書を検証する]にチェック☑を入れてください。 送信サーバーが STARTTLS を使用している場合は、 [STARTTLS を使用する]にチェック☑を入れてください。
送信サーバー(SMTP) は認証が必要	チェック☑をいれると、SMTP 認証を使用します。 その場合、SMTP サーバーのポート番号は 587 になります。 ※ただし SSL 接続方式である場合は 465 になります。
受信メールサーバー と同じ設定を使用する	チェック☑をいれると、下の[アカウント名][パスワード]を無効にして、[受信サーバー設定]タブで設定した[ユーザー名][パスワード]を SMTP 認証用のアカウント・パスワードとして使用します。
アカウント名	SMTP 認証用のアカウント。文字列最大長は 255。 [送信サーバー(SMTP)認証が必要]にチェック☑を入れた場合、空欄は不可。 ただし、[受信メールサーバーと同じ設定を使用する]にもチェック☑を入れた場合は空欄可。
パスワード	SMTP 認証用のパスワード。文字列最大長は 255。

接続設定

4 最後に、メールアカウントの設定画面の[接続設定]タブをマウスでクリックして、必要に応じてダイヤルアップの設定を行います。

光回線等で LAN 回線による接続を行う場合は、「メールの送受信時にダイヤルアップ接続を自動で行う。」のチェック☑を外してください。

入力項目	説明
メール送受信時にダイヤルアップ接続を自動で行う	チェック☑をいれると、ダイヤルアップを使用する場合、メール画面で送受信時に、ダイヤルアップ接続を自動で行います。
使用するダイヤルアップ接続	ダイヤルアップで使用する名。 空欄の場合は、ダイヤルアップを制御しません。
送受信完了後にダイヤルアップ接続を切断する	チェック☑をいれると、ダイヤルアップを使用する場合、メール画面で送受信完了後、ダイヤルアップ切断を行います。

補足

LAN 接続の場合

・[メールの送受信時にダイヤルアップ接続を自動で行う。] のチェック☑を**外してください。**

ダイヤルアップ接続の場合

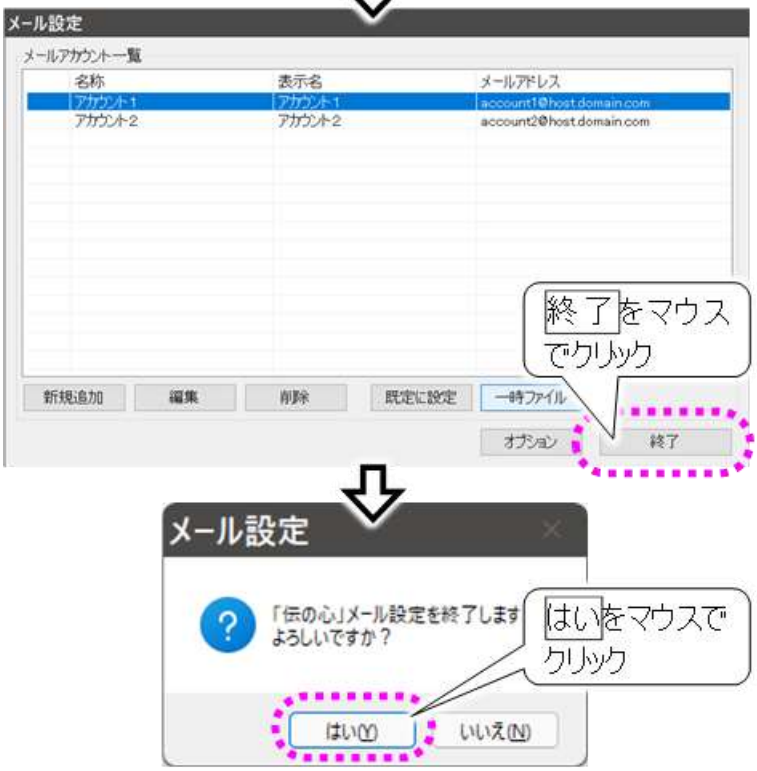
・[メールの送受信時にダイヤルアップ接続を自動で行う。] のチェック☑を**入れてください。**

・[使用するダイヤルアップ接続] を選択してください。

設定の終了

5 決定ボタンをマウスでクリックすると、メール設定画面に戻ります。

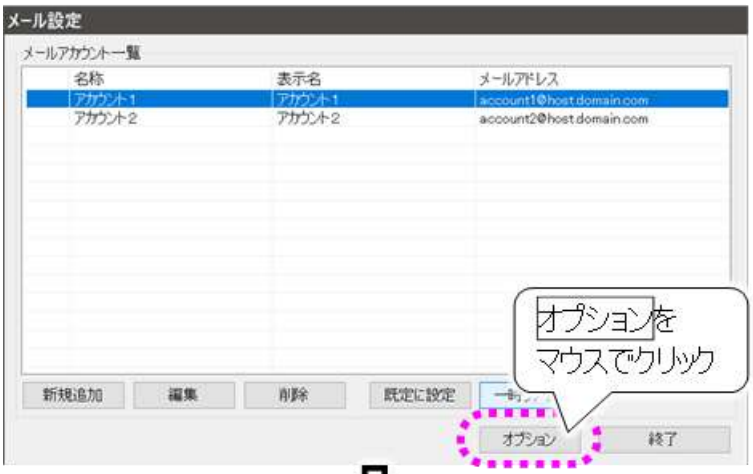
6 メール設定画面で終了ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいをクリックしてください。



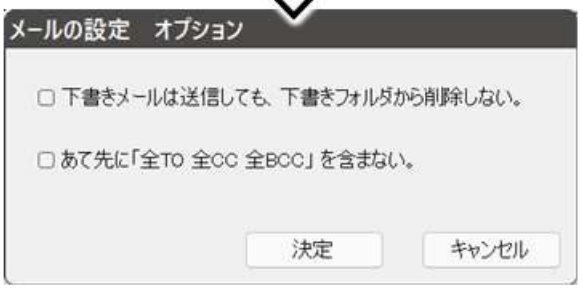
メールのオプション設定

ここでの設定は、電子メールをより使いやすくする設定項目です。必要に応じて設定してください。

1 メール設定画面の[オプション]ボタンをマウスでクリックすると、メール設定オプション画面が表示されます。

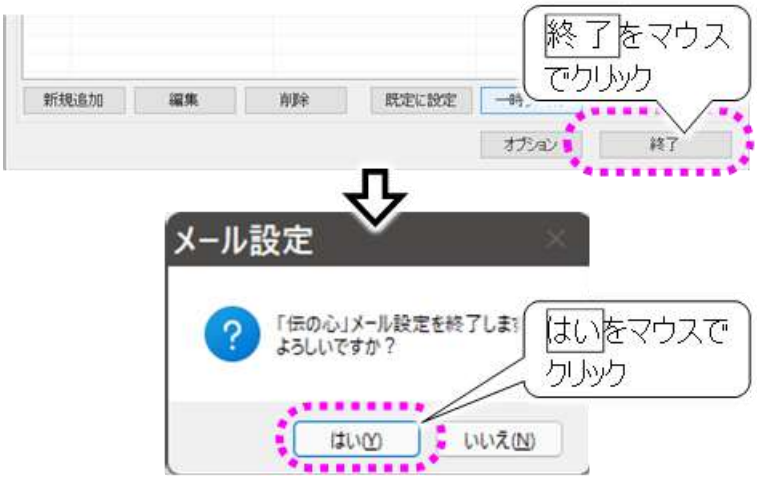


2 [決定]ボタンをマウスでクリックすると、メール設定画面に戻ります。



入力項目	説明
下書きメールは送信しても、下書きフォルダから削除しない	チェック☑をいれると、下書きフォルダ内にあるメールを編集して送信する場合、下書きフォルダ内の元のメールを削除しません。
あて先に「全 TO 全 CC 全 BCC」を含まない	チェック☑をいれると、あて先選択画面のメニュー[選択]のサブメニューに全 TO、全 CC、全 BCC を表示しません。

3 メール設定画面で[終了]ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、[はい]をクリックしてください。



電子メール

電子メールの起動と終了

■ 電子メールを始める

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[メール]を選択します。

2 電子メールメイン画面が表示されます。

■ 電子メールを終わる

1 電子メールメイン画面のトップメニューより[終了]を選択します。

2 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

3 電子メールメイン画面を終了して、「伝の心」トップ画面に戻ります。

制限	[終了]ではなく[メイン]を選択した場合も「伝の心」トップ画面に戻りますが、電子メールは終了していません。「自動受信」が設定されている場合は、他の画面を表示している間でも、定期的にメールの受信を行いますので、画面の表示や操作が遅くなることがあります。ご注意ください。

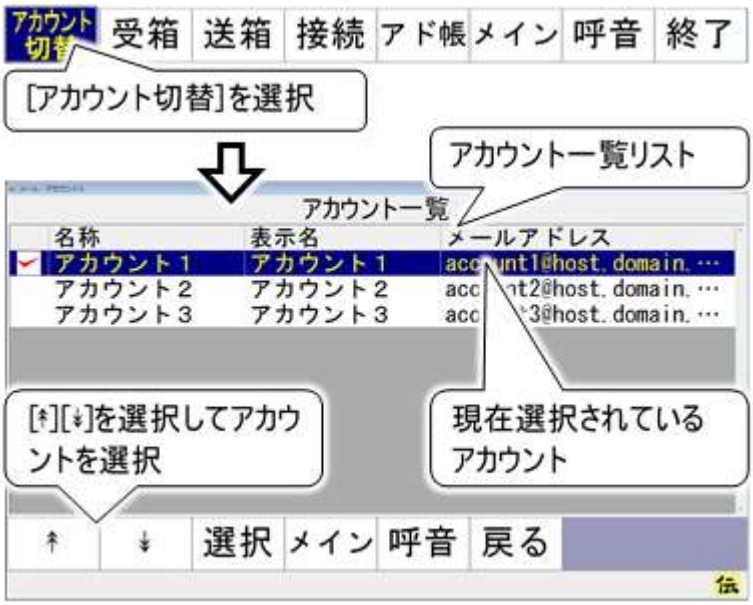
受信箱を開いて受信メールを読む

電子メールの郵便受けは「受信箱」です。それでは受信箱を開いて、メールを読んでみましょう。

アカウントの選択（メールアドレスの選択）

受信箱は、宛先毎（各個人毎）にあります。メールアドレスが複数登録されている場合はまず、電子メールメイン画面から、あなたのメールアドレスを選択します。
メールアドレスがひとつしかない場合は既に選択されていますので、この項は無視してください。

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[アカウント切替]を選択すると、アカウント切替画面を表示します。



2 アカウント切替画面のメニューより[↑]または[↓]を選択すると、アカウント一覧リストのスキャンカーソルが下から上方向、または上から下方向に順次移動していきます。選択したいアカウントのところでもう一度スイッチを入力すると、スキャンカーソルの移動はそこで停止します。

3 アカウント切替画面のメニューより[選択]を選択すると、スキャンカーソル位置のアカウントの左端に✓チェックが入って、アカウントが切り替わります。

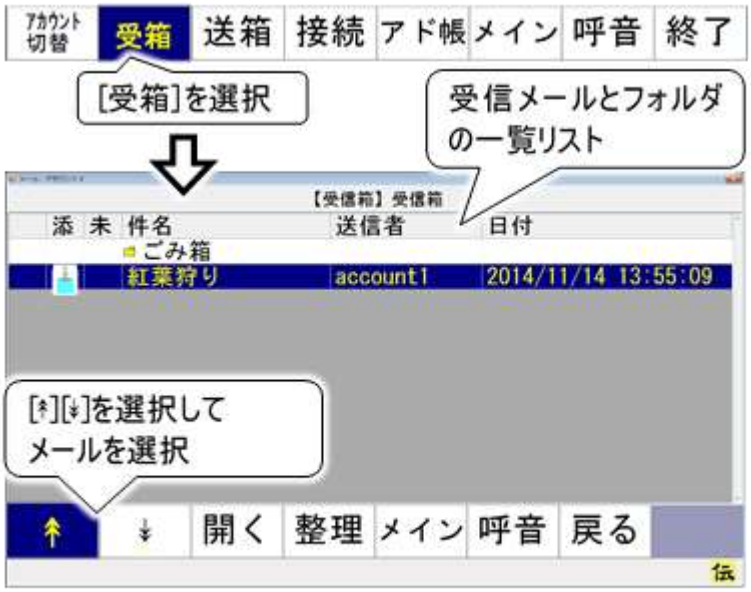
4 アカウント切替画面のメニューより[戻る]を選択して、電子メールメイン画面に戻ります。

電子メール

受信メールの選択

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[受箱]を選択すると、受信箱画面を表示します。
画面には、選択中のアカウントの受信メールとフォルダの一覧を表示します。

受信メールが、未読（一度も開いていない）の場合は を、添付ファイルがある場合はを、メールの左端に表示します。

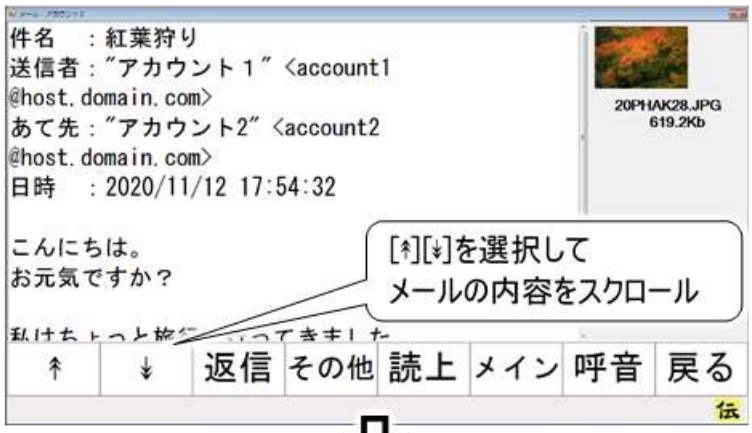


2 受信箱画面のメニューより[↟]または[↡]を選択すると、受信メールとフォルダの一覧リストのスキャンカーソルが下から上方向、または上から下方向に順次移動していきます。
選択したいメールのところでもう一度スイッチを入力すると、スキャンカーソルの移動はそこで停止します。

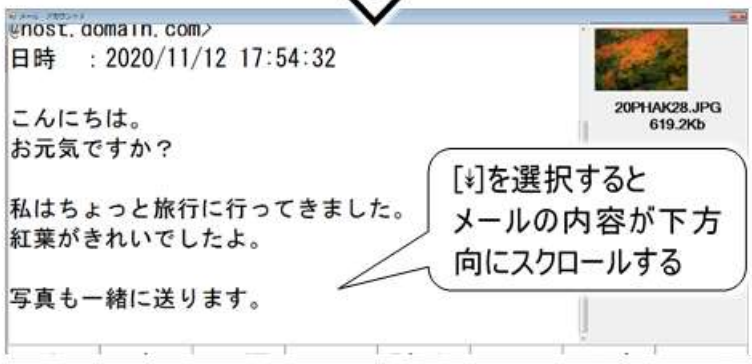
3 受信箱画面のメニューより[開く]を選択すると、受信メール表示画面を表示し、スキャンカーソル位置のメールの内容が画面に表示されます。

受信メールを読む

1 受信メール表示画面にメールが入りきれていない場合は、メニューより[↟]または[↡]を選択すると、上下に隠れていた表示内容を見ることができます。



メールの内容は下から上方向、または上から下方向にスクロールしていきますので、スクロールを止めたいところでもう一度スイッチを入力すると、スクロールはそこで停止します。



2 受信メールを音声で読み上げる場合は、メニューより[読上]を選択してください。
画面が読み上げ画面に切り替わって、メールの内容を先頭から読み上げます。

3 再度スイッチ入力を行うと、読み上げを中断し読み上げ画面のメニューのスキャンが始まります。

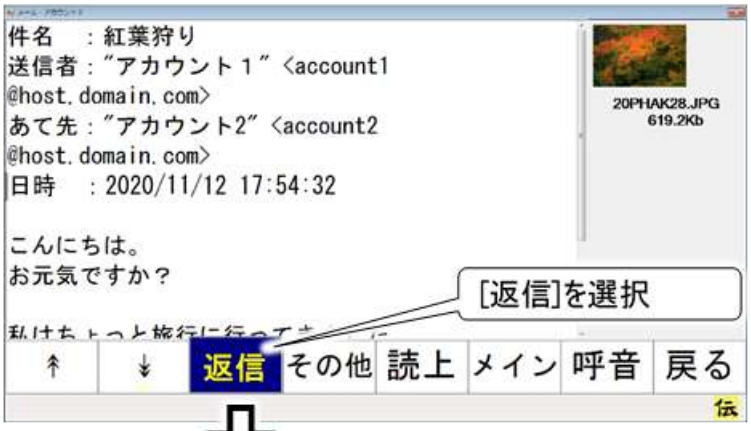
[繰返]を選択すると、、メールの内容を先頭から再び読み上げます。
読み上げを中止して読み上げ画面を閉じる場合は、[戻る]を選択してください。

[再開]を選択し、入力カーソルのある文節の先頭から再び読み上げを始めることもできます。
[↟][↡][↞][↠]を選択して入力カーソル位置を変更してから[再開]を選択することも可能です。

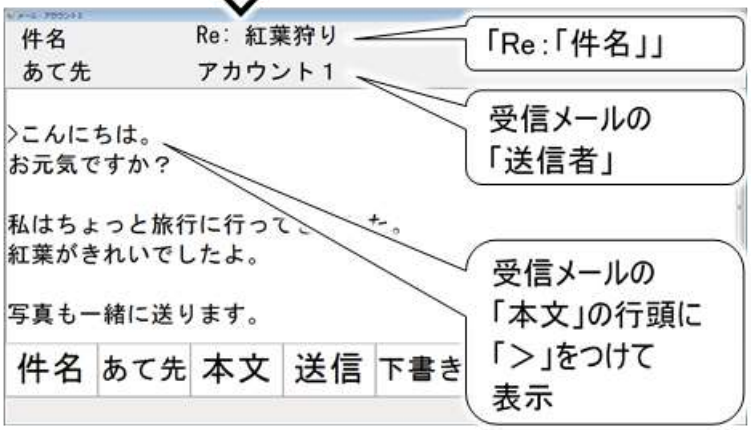
電子メール

受信メールから返信する（返信メール作成）

1 受信メール表示画面のメニューより[返信]を選択すると、送信メール編集画面を表示します。



2 送信メール編集画面には、受信メールの「件名」が「Re:「件名」」として表示されます。
また、受信メールの「送信者」が「あて先」に表示されます。
送信メールの「本文」には、受信メールの「本文」の行頭に「＞」をつけて表示されます。



3 「件名」「あて先」の変更、返信メール「本文」の入力方法は、339 ページの「メールの作成」で説明しています。ご参照ください。

制限

メールの転送

受信したメールの転送はできません。ご注意ください。

受信メールに添付されている画像ファイルを見る

1 受信メールに添付ファイルがある場合、受信メール画面の右側に添付ファイル表示域が表示されて、添付ファイルの一覧が表示されます。

2 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

3 その他メニューより[添付表示]を選択すると、添付画像表示画面を表示します。

4 画像ファイルが複数ある場合は、[前頁]または[次頁]を選択して、見たいファイルを表示させてください。

電子メール

送信箱を開いてメールを新しく作成する

電子メールを新しく作成する場合は、「送信箱」で作業をします。
それでは送信箱を開いて、メールを作成してみましょう。

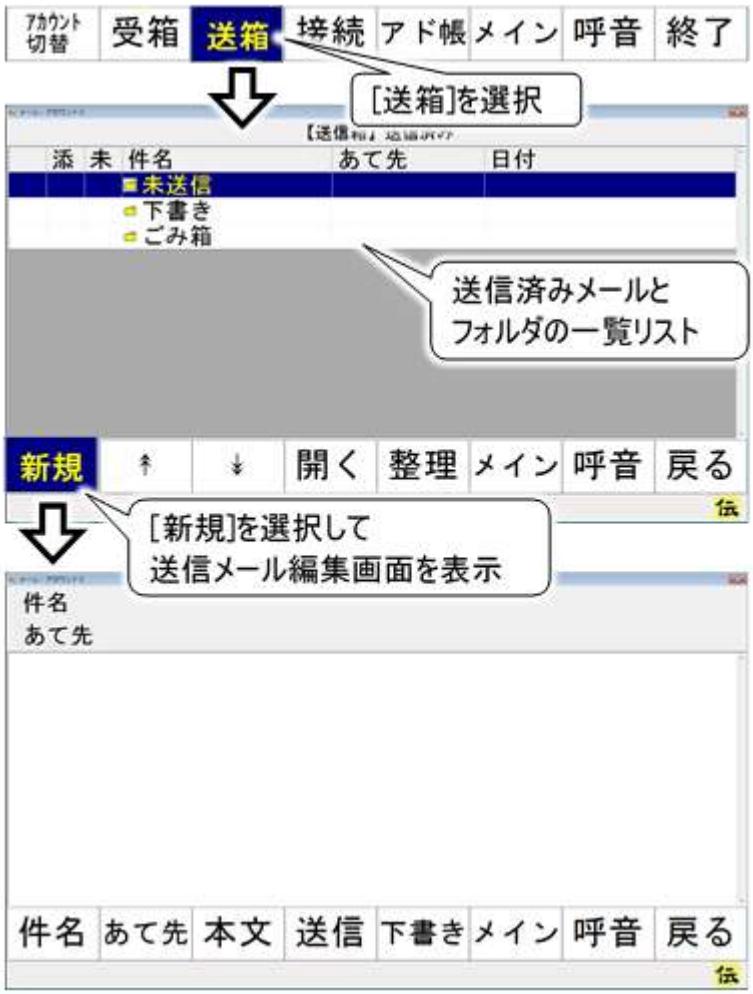
アカウントの選択（メールアドレスの選択）

送信箱は、宛先毎（各個人毎）にあります。メールアドレスが複数登録されている場合はまず、電子メールメイン画面から、あなたのメールアドレスを選択します。
詳細は 333 ページの「受信箱を開いて受信メールを読む」で説明していますので、参照ください。
メールアドレスがひとつしかない場合は既に選択されていますので、この項は無視してください。

メールの編集画面を開く（新規作成）

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[送箱]を選択すると、送信箱画面を表示します。
画面には、選択中のアカウントの送信済みメールとフォルダの一覧を表示します。

2 送信箱画面のメニューより[新規]を選択すると、送信メール編集画面を表示します。
この画面から、送信メールの編集ができます。



メールの作成

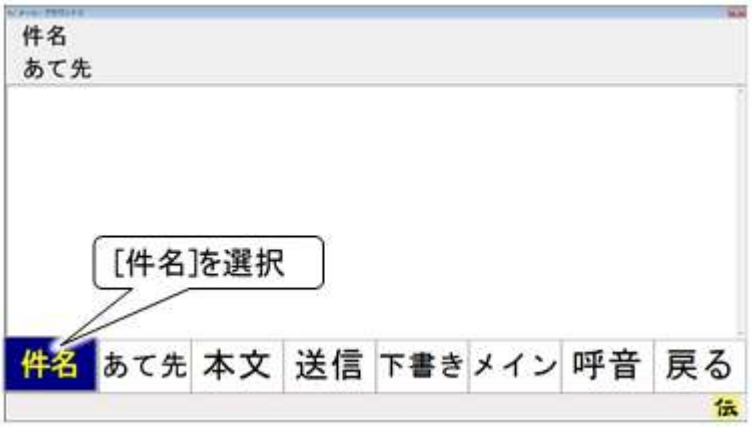
参照

添付ファイルについて

作成メールに画像等のファイルを添付する場合は、346 ページの「メールにファイルを添付する」を参照して添付してください。

■ メールに題名（件名）をつける

1 送信メール編集画面のメニューより[件名]を選択すると、画面下に文字盤が表示され、「件名」の入力ができるようになります。



2 文字盤で文字を入力すると、件名入力欄に文字が表示されます。

文字盤の[戻]を選択すると、文字盤が閉じて、元の画面に戻ります。

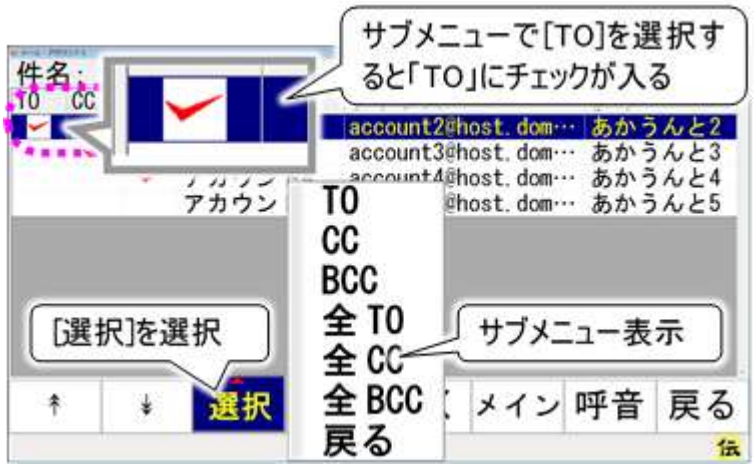
電子メール

■ メールのあて先を入力する

1 送信メール編集画面のメニューより[あて先]を選択すると、あて先選択画面を表示します。

2 あて先選択画面のメニューより[↟]または[↡]を選択すると、メールアドレス一覧リストのスキャンカーソルが下から上方向、または上から下方向に順次移動していきます。選択したいメールアドレスのところでもう一度スイッチを入力すると、スキャンカーソルの移動はそこで停止します。

3 あて先選択画面のメニューより[選択]を選択すると、サブメニューが表示されるので、[TO][CC][BCC]のいずれかを選択してください。スキャンカーソル位置のメールアドレスの左端「TO」「CC」「BCC」の該当する項目に✔チェックが入ります。



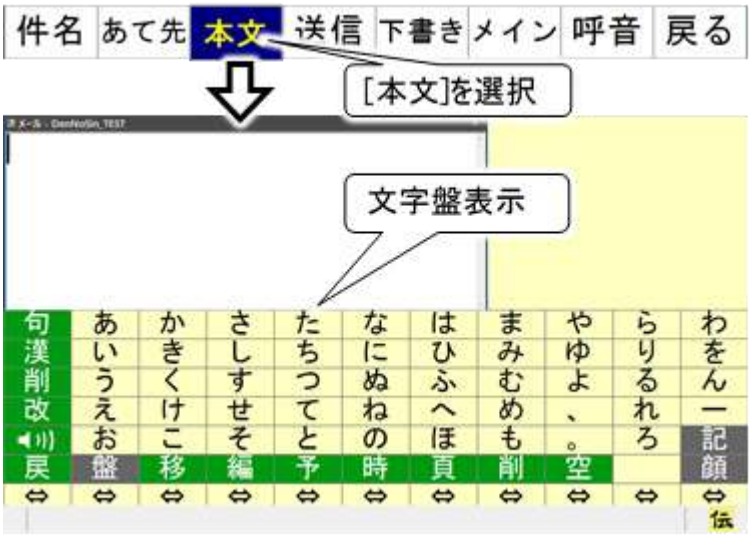
4 あて先選択画面のメニューより[戻る]を選択して、送信メール編集画面に戻ります。

補足	TO:メールを送る相手です。複数設定可能です。 CC:「TO」に設定した人へメールしたことを他の人にも知らせたい場合、メールを送った相手と区別するために、「CC」を使います。 BCC:「BCC」設定されたメールアドレスは受信者には表示されません。受信者へ、他の受信者のメールアドレスがわからないようにする場合に使います。
制限	あて先には、必ず「TO」を最低 1 アドレスは指定してください。「TO」の指定がないと送信できません。

■ メールの本文を入力する

1 送信メール編集画面のメニューより[本文]を選択すると、画面下に文字盤が表示され、「本文」の入力ができるようになります。

編集時は、「件名」と「あて先」は非表示になります。



2 文字盤よりメールの内容を入力してください。
文字盤での入力方法は 68 ページの「文章を作成する」で説明している方法と同じなので、そこを参照ください。

3 文字盤より[戻]を選択すると、文字盤が閉じて、元の画面に戻ります。

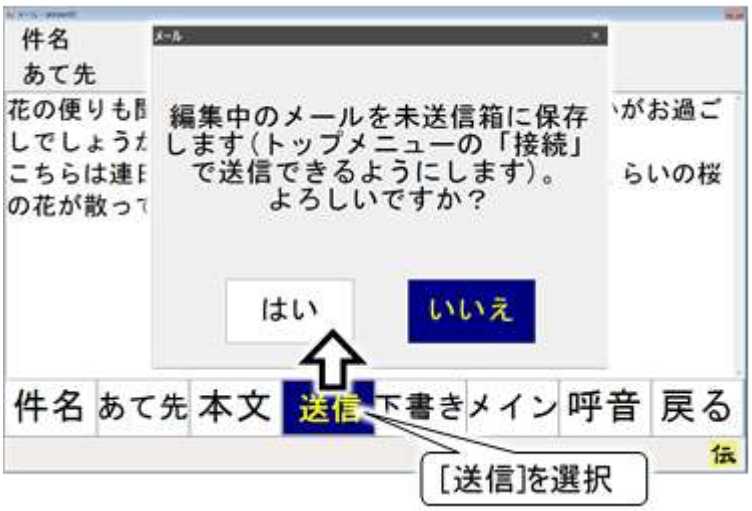
電子メール

作成したメールの保存（送信準備）

■ 作成したメールを送信する場合（添付ファイルなし）

1 送信メール編集画面のメニューより[送信]を選択すると、確認画面が表示されます。

2 [はい]を選択すると、作成したメールが、送信箱の「未送信」に保存されます。
トップメニューより[接続]を選択した場合、この「未送信」にあるメールは全て送信されます。



■ 作成したメールを送信する場合（添付ファイルあり）

1 送信メール編集画面のメニューより[送信]を選択すると、確認画面が表示されます。

2 [はい]を選択すると、添付ファイルの確認画面が表示されます。

3 [はい]を選択すると、作成したメールが、添付ファイルを添付して送信箱の「未送信」に保存されます。

補足

ファイルを添付する場合

「送信添付」フォルダに、事前に添付ファイルをコピーする必要があります。
詳細は 346 ページの「メールにファイルを添付する」を参照してください。
ファイルを添付せずに送信箱の「未送信」に保存しても、「送信添付」フォルダに添付ファイルをコピー後、メールの再編集を行い、ファイルを添付することもできます。

注意

「送信添付」フォルダのファイルの削除

添付ファイルは、メールに添付後「ごみ箱」へ移動します。
「ごみ箱」のファイルを元に戻す場合は、108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照してください。

■ 作成したメールを後で送信または送信しない場合

1 送信メール編集画面のメニューより[下書き]を選択すると、確認画面が表示されます。

2 [はい]を選択すると、作成したメールが、送信箱の「下書き」に保存されます。
後で読み出して編集することが可能です。

補足

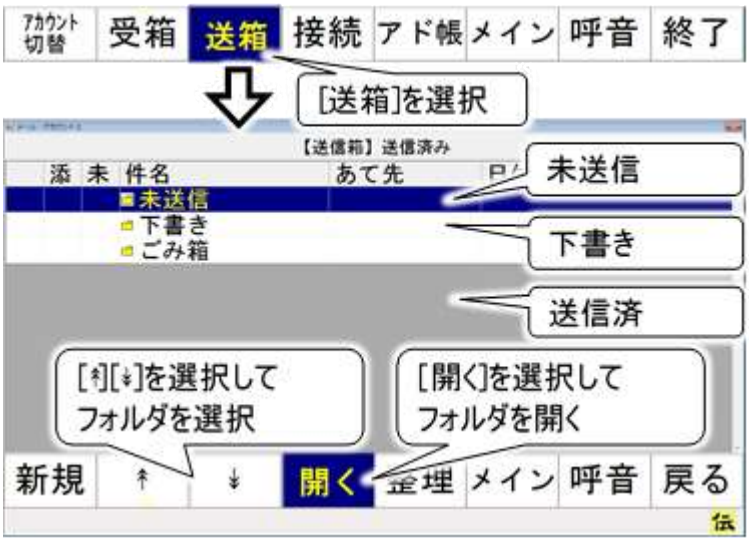
添付ファイルの送信

添付ファイルは、送信メール編集画面のメニューより[送信]を選択した時に添付されます。「下書き」に保存した場合は添付されません。

電子メール

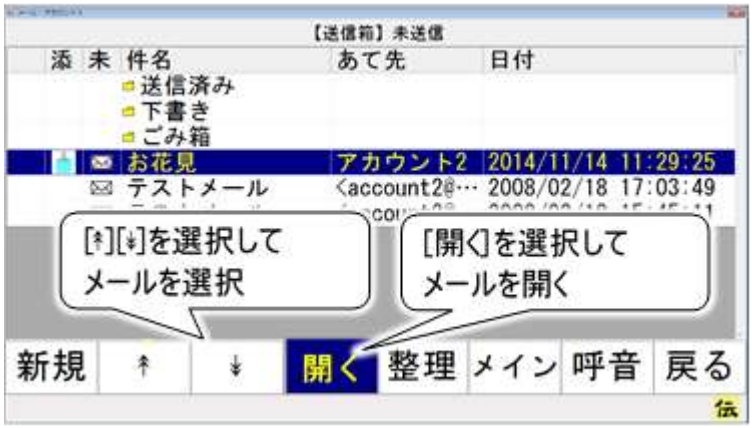
保存したメールを開く（メールの再編集）

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[送箱]を選択すると、送信箱画面を表示します。



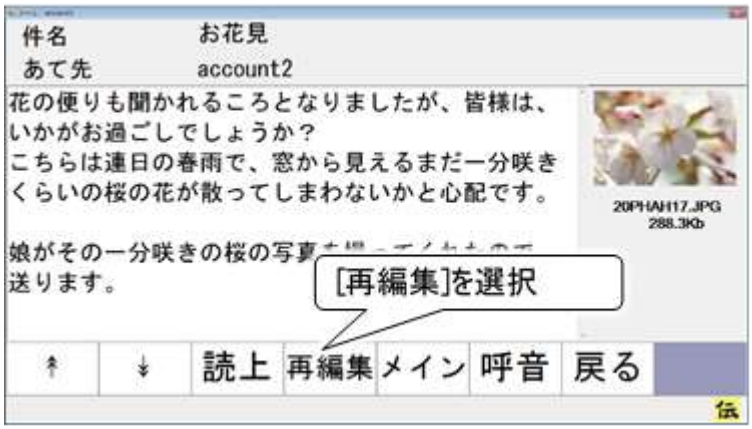
2 メニューより[↑][↓]を選択して、送信メールの保存先を選択します。
342 ページの「作成したメールの保存」で、[送信]を選択して保存した場合は「未送信」フォルダにメールが保存されています。
[下書き] を選択して保存した場合は、「下書き」フォルダにメールが保存されています。
[送信]を選択して保存した後、メールの送受信を行った場合は、「送信済み」フォルダにメールが保存されています。

3 フォルダを選択したら、[開く]を選択してフォルダを開きます。
メニューより[↑][↓]を選択して、メールを選択します。さらに、[開く]を選択すると、送信メール表示画面が表示されます。
開くフォルダを間違えた場合は、送信メールリストから「上位フォルダへ」を選択して、さらに[開く]を選択すると「送信箱」に戻ります。



4 送信メール表示画面のメニューより[再編集]を選択すると、送信メール編集画面を表示します。

この画面から、送信メールの再編集ができます。
メールの編集は、339 ページの「メールの作成」を参照ください。



補足

「下書き」に保存されたメール

「下書き」フォルダのメールは、再編集後、送信すると(「未送信」フォルダへ保存)、「下書き」フォルダから削除されます。

ただし、メール設定のオプションで「下書きメールは送信しても下書きフォルダから削除しない」を設定しておくと、再編集後のメールが「未送信」フォルダへ保存されても、「下書き」フォルダのメールはそのまま残ります。

同じ様なメールを何回も送る場合、このような設定をしておくと、「下書き」フォルダのメールが何回も使用できて便利です。

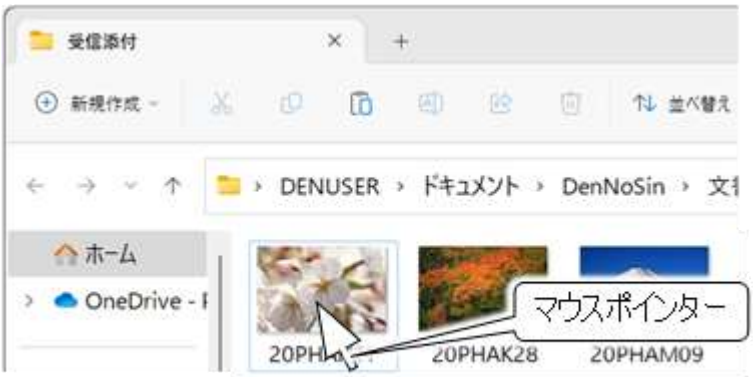
電子メール

メールにファイルを添付する

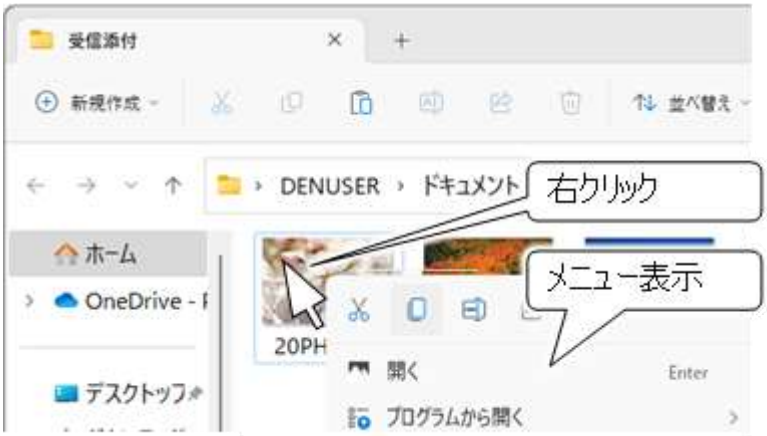
送信メールにファイルを添付する場合は、Windows 操作機能を使い、下記手順で「送信添付」フォルダに添付ファイルを入れてください。
ここで使用する Windows 操作機能については、400 ページの「マウスを操作する」、399 ページの「文字を入力する」等を参照ください。

1 添付したいファイルのあるフォルダをマウスで開きます。

（マウス操作盤は、Windows 操作のトップメニューから「基本マウス」を選択して表示）



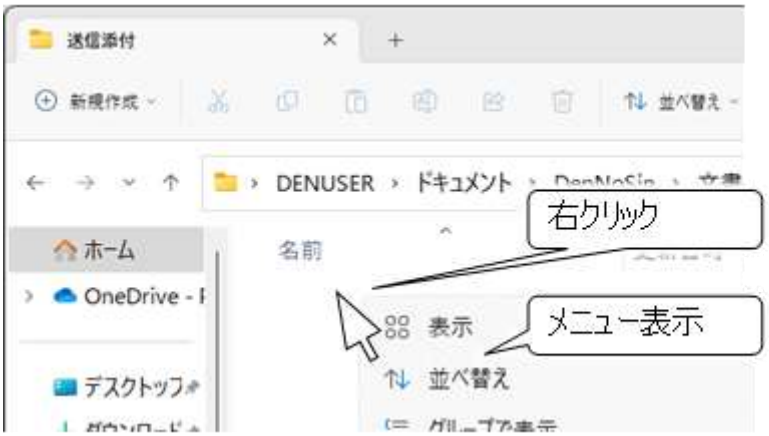
2 添付したいファイルにマウスポインターを合わせ、「右クリック」を行うと、メニューが表示されます。



3 メニューの[コピー]アイコンにマウスポインターを合わせ、「左クリック」します。

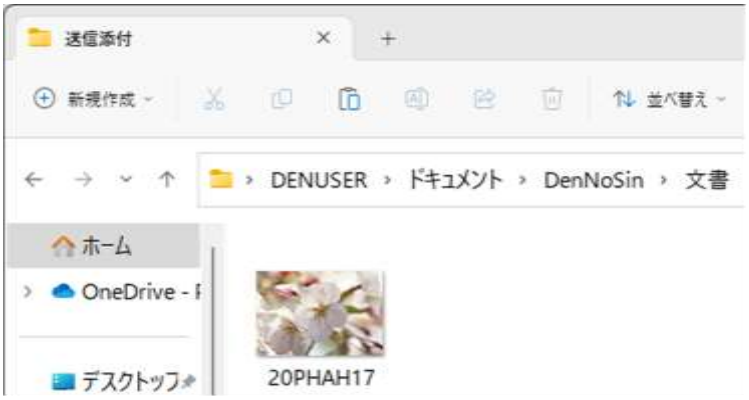
4 次にデスクトップ上にある「「伝の心」送信メール添付」を「左ダブル」で開きます。

5 「送信添付」フォルダが開くので、フォルダ内のファイルやフォルダの無いところにマウスポインターを合わせ、「右クリック」を行うと、メニューが表示されます。



6 メニューの[貼り付け]アイコンにマウスポインターを合わせ、「左クリック」します。

7 添付したいファイルが、「送信添付」フォルダにコピーされます。



補足	**添付ファイルの送信** 添付ファイルは、送信メール編集画面のメニューより[送信]を選択した時に添付されます。
注意	**「送信添付」フォルダのファイルの削除** 添付ファイルは、メールに添付後「ごみ箱」へ移動します。 「ごみ箱」のファイルを元に戻す場合は、108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照してください。

電子メール

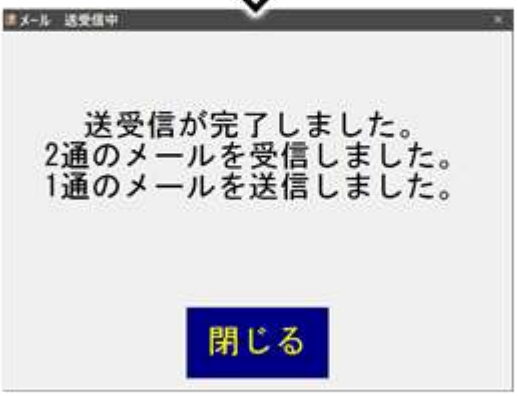
メールの送受信（回線接続）

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[接続]を選択すると、下記画面を表示します。

2 [はい]を選択すると、メールサーバーに接続し、自分宛のメールを受信し受信箱に格納した後、送信箱にあるメールの送信を行ないます。

送受信中は右記画面を表示します。

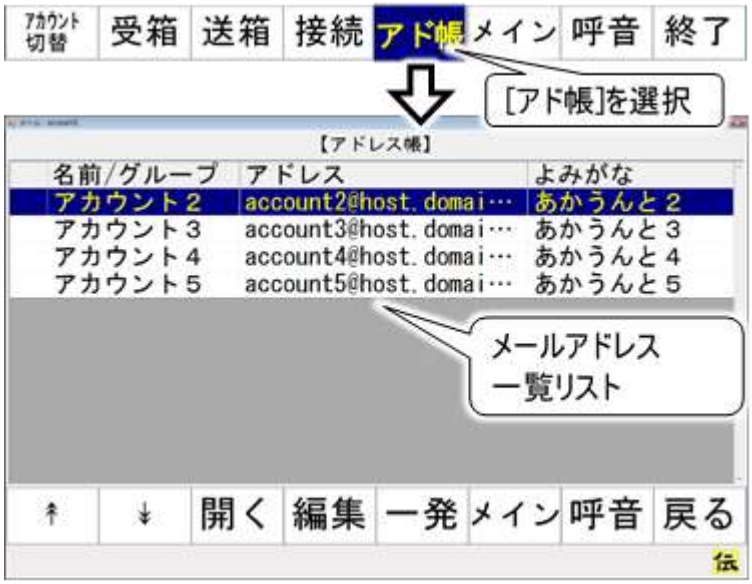
3 メールの送受信が終了すると、右記のような画面を表示するので[閉じる]を選択してください。



アドレス帳の編集

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[アド帳]を選択すると、アドレス帳画面を表示します。

2 メールアドレス一覧リストには、登録済みのメールアドレス一覧が表示されます。
この画面から、メールアドレスの新規登録/編集/削除ができます。
また、アドレスグループも新規登録/編集/削除もできます。



補足

メールアドレスとアドレスグループ

メールアドレスを複数集めてアドレスグループとして登録することができます。
アドレスグループは、ある家族全員にメールを出したい場合などに便利です。
「〇〇家」というようなアドレスグループを作成し、そのグループに家族全員のメールアドレスを登録しておけば、あて先選択時にそのグループを選択するだけで、その家族全員のメールアドレスが選択されます。

補足

受信メールからのメールアドレス登録

受信したメールの送信者のアドレスをアドレス帳に登録することができます。
受信メール表示画面の[その他]を選択することによって切り替わるその他メニューより[@]を選択すると、メールの送信者のアドレス情報を表示したアドレス編集画面を表示します。350 ページの「新しいメールアドレスを登録する」③～⑥と同様にして、メールアドレスの登録を行ってください。

補足

メールアドレスの一括登録

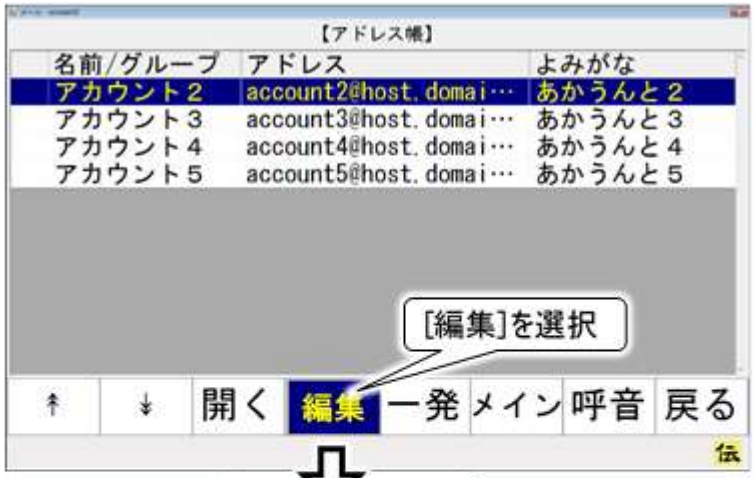
メールアドレス登録ツールを使用して指定したアカウントにメールアドレスを 100 件までまとめて追加することができます。
事前にメールアドレスのリストを CSV ファイル形式にて作成することが必要ですが、初めて「伝の心」のメールを使用する場合、以前使っていたメールソフトのアドレス帳などを CSV ファイル形式にまとめることができれば、簡単に登録できるので便利です。

詳細は 452 ページの「メールアドレス登録ツール」を参照ください。

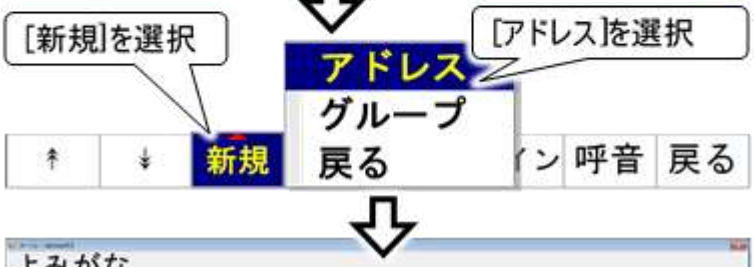
電子メール

新しいメールアドレスを登録する

1 アドレス帳画面のメニューより[編集]を選択すると、メニューが編集メニューに切り替わります。



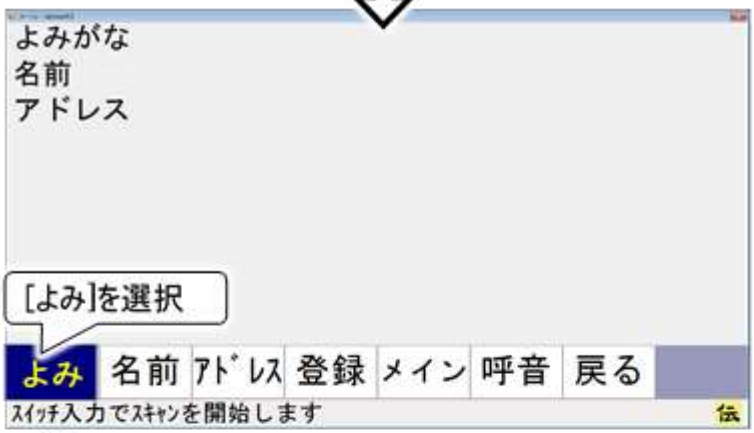
2 編集メニューより[新規]を選択するとサブメニューが表示されるので、[アドレス]を選択してください。アドレス編集画面を表示します。



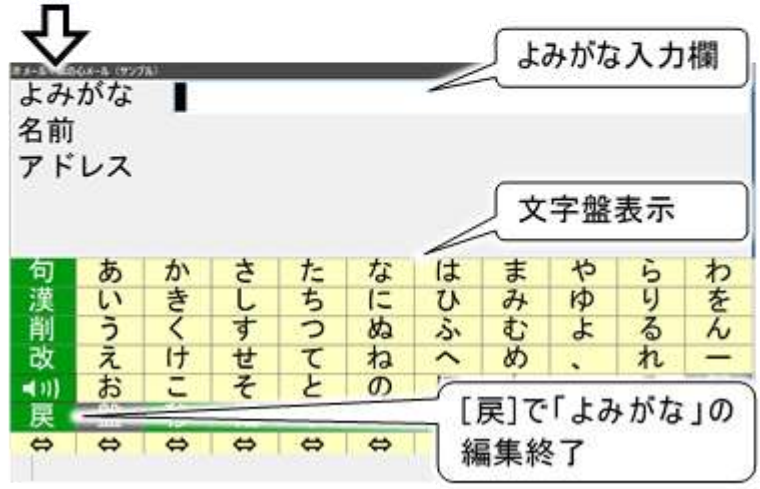
3 アドレス編集画面のメニューより[よみ]を選択すると、画面下に文字盤が表示され、「よみがな」の入力ができるようになります。

文字盤で文字を入力すると、よみがな入力欄に文字が表示されます。

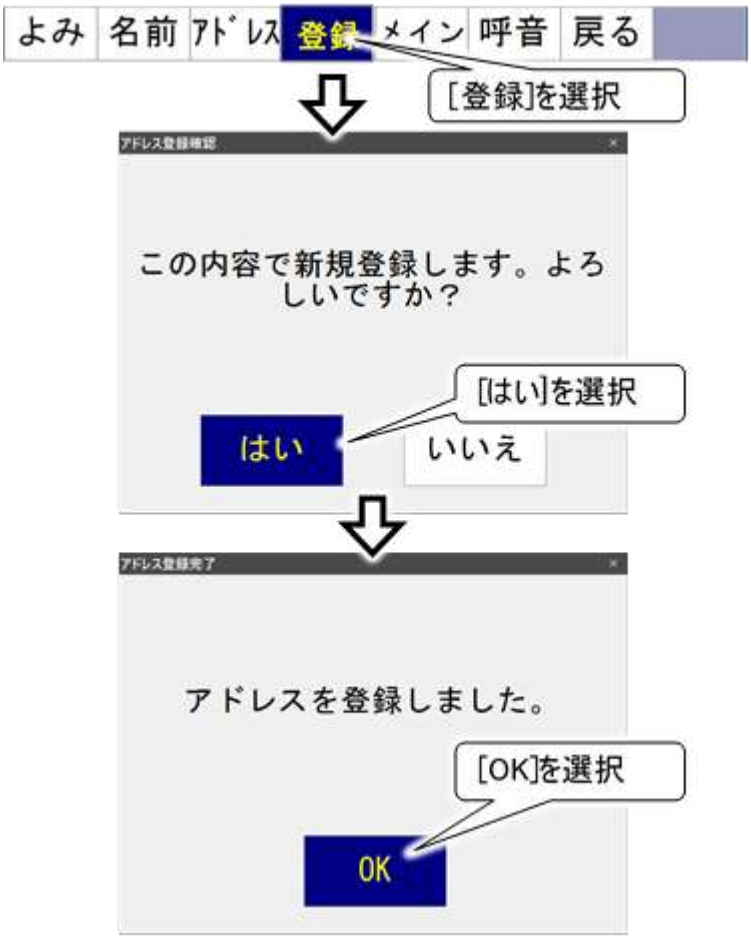
文字盤の[戻]を選択すると、文字盤が閉じて、アドレス編集画面に戻ります。



4 同様にして、[名前]を選択すると「名前」の編集が行えます。
また、[アドレス]を選択すると「アドレス」の編集が行えます。



5 アドレス編集画面のメニューより[登録]を選択すると、確認画面が表示されます。



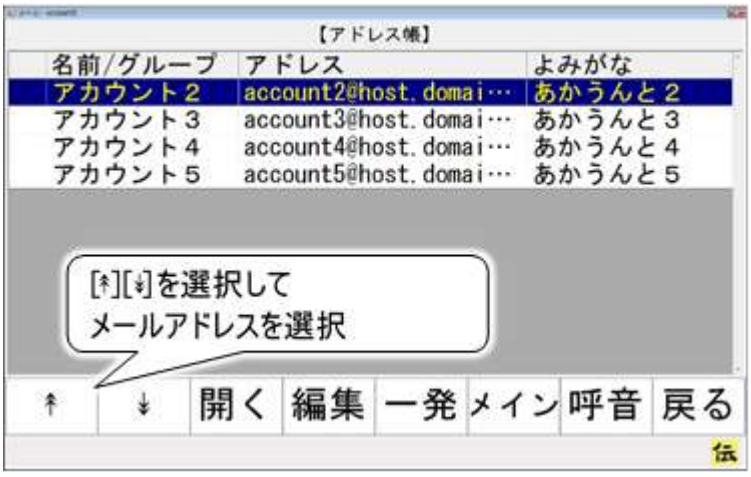
6 確認画面で[はい]を選択すると、メールアドレスが登録され、登録完了画面が表示されます。

[OK]を選択してください。

電子メール

メールアドレスの登録内容を変更する

1 アドレス帳画面のメニューより[↟]または[↡]を選択すると、メールアドレス一覧リストのスキャンカーソルが下から上方向、または上から下方向に順次移動していきます。
選択したいメールアドレスのところでもう一度スイッチを入力すると、スキャンカーソルの移動はそこで停止します。

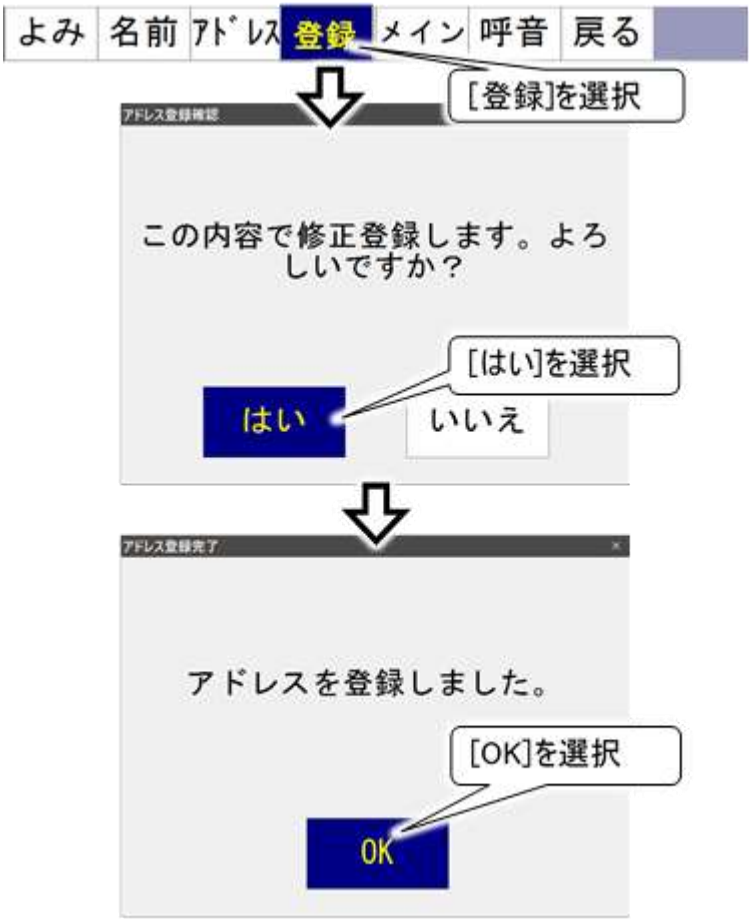


2 アドレス帳画面のメニューより[開く]を選択すると、アドレス情報表示画面が表示され、スキャンカーソル位置のメールアドレスの情報が表示されます。

3 アドレス情報表示画面のメニューより[修正] を選択すると、アドレス編集画面を表示します。

4 350 ページの「新しいメールアドレスを登録する」と同様に、変更したい[よみ]、[名前]、[アドレス]を選択して、内容を修正してください。

5 修正が終わったら、アドレス編集画面のメニューより[登録]を選択すると、右記画面が表示されますので、[はい]を選択してください。



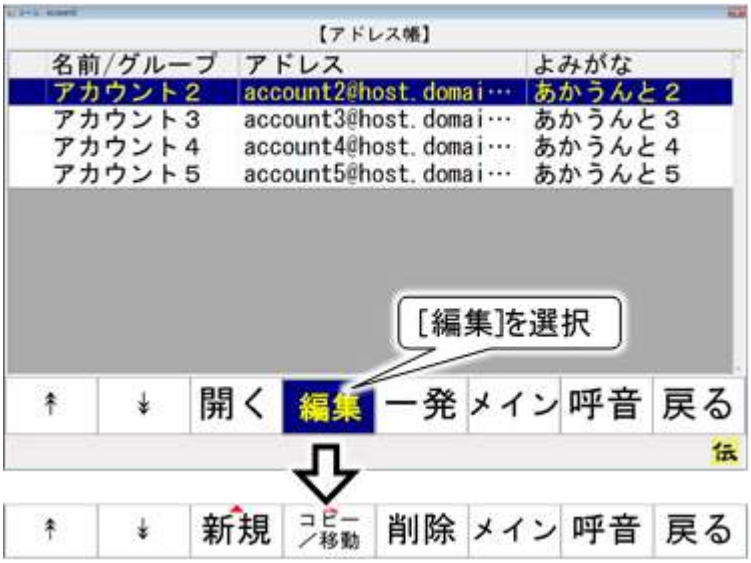
6 右記画面が表示されて、メールアドレスの修正が登録されます。

[OK]を選択してください。

電子メール

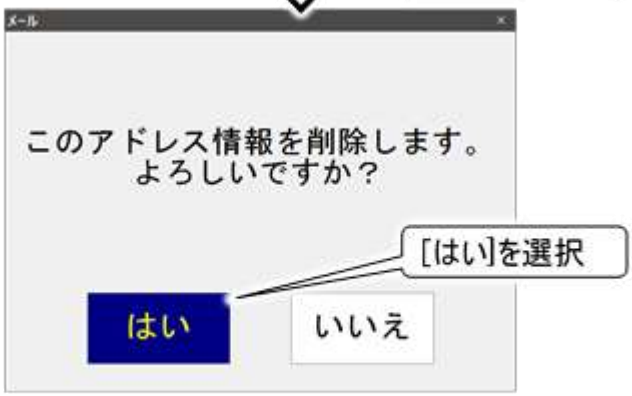
メールアドレスを削除する

1 アドレス帳画面のメニューより[編集]を選択すると、メニューが編集メニューに切り替わります。



2 編集メニューより[↑]または[↓]を選択して、削除するメールアドレスを選択します。

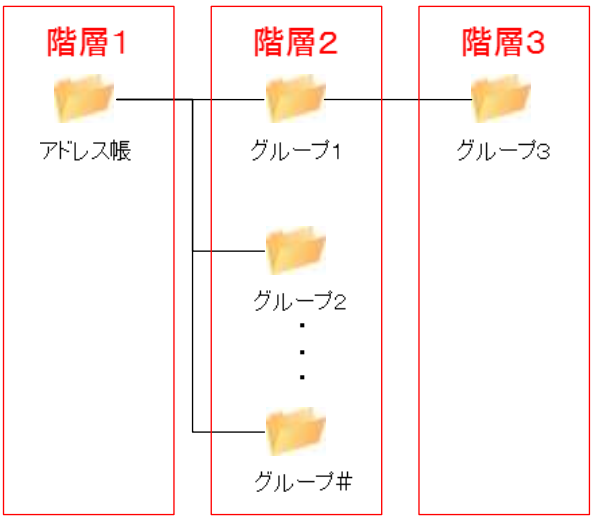
3 [削除]を選択すると確認画面が表示されますので、削除する場合は[はい]を選択してください。



アドレス帳の整理（アドレスグループの作成）

アドレス帳に登録したメールアドレスが増えて行くと、あて先を探すのに苦労します。
そんな時は、アドレス帳のなかにアドレスグループを作成して、アドレス帳を整理してみましょう。
識別のために固有の名称(グループ名)をつけることができ、関連するメールアドレスをまとめて一つのフォルダに入れることにより、効率的にあて先を選択することができます。
また、グループの中にさらにグループを作成することもでき、階層構造によって細かい分類を表現することもできます。

アドレス帳以下には、アドレス帳を含めて3階層までグループの作成が可能です。



制限	階層2、階層3のグループ数の制限はありませんが、あまり多くのグループを作成すると、画面の表示や操作が遅くなることがあります。

電子メール

新しいアドレスグループを登録する

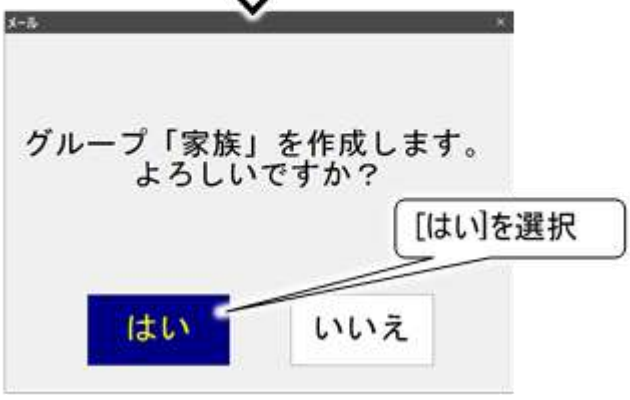
1 アドレス帳画面のメニューより[編集]を選択すると、メニューが編集メニューに切り替わります。

2 編集メニューより[新規]を選択するとサブメニューが表示されるので、[グループ]を選択してください。

グループ名編集画面を表示します。

文字盤で文字を入力すると、入力欄に文字が表示されます。

3 文字盤の[戻]を選択すると、文字盤が閉じて、確認画面が表示されます。
アドレスグループの名前を確認して、この名前で新規作成する場合は[はい]を選択してください。



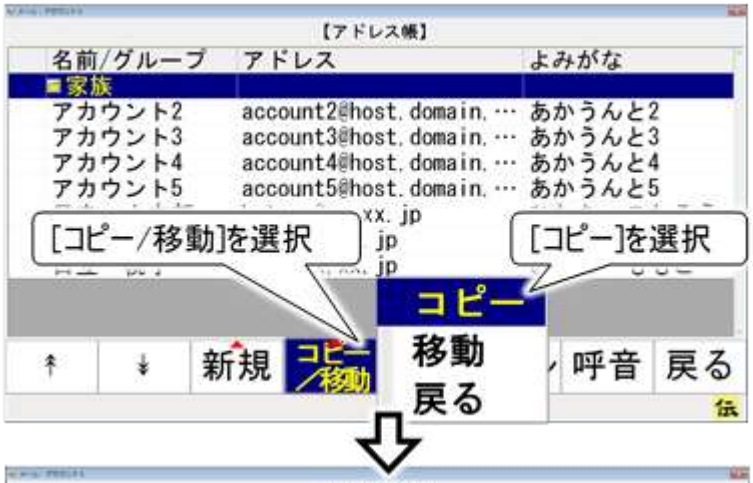
4 アドレス帳画面に戻って、アドレスグループが作成されます。

電子メール

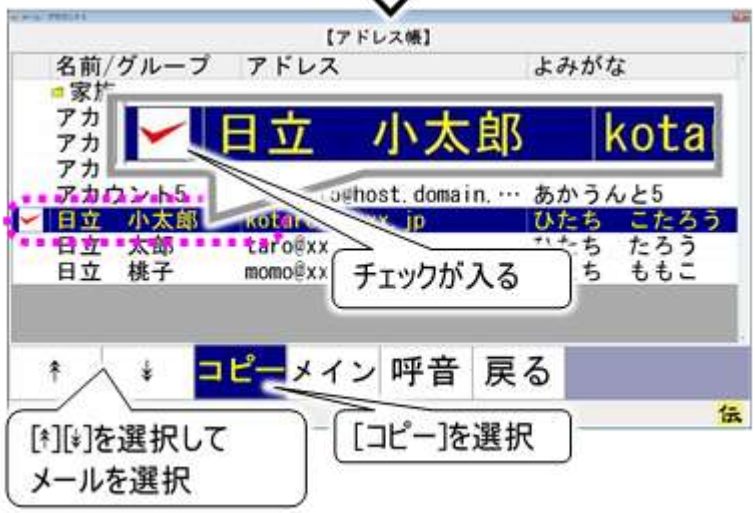
アドレスグループにメールアドレスをコピー（複写）する

アドレスグループを作成したら、下記の手順で関連するメールアドレスをアドレスグループにコピーしましょう。メールアドレスをアドレスグループにコピーする場合は、アドレス帳に登録されているメールアドレスそのものは移動しません。

1 アドレス帳画面の編集メニューより[コピー/移動]を選択し、さらにサブメニューより[コピー]を選択します。



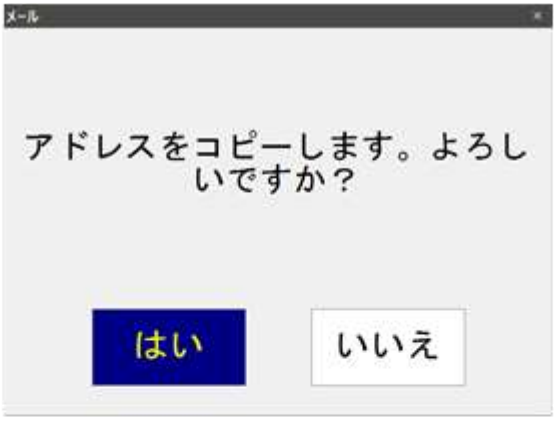
2 メニューがコピーメニューに切り替わるので、[↟]または[↡]を選択して、コピーするメールアドレスを選択します。



3 コピーメニューより[コピー]を選択すると、選択した項目の左端に✔チェックが入って、コピー対象になります。
選択を間違えた場合は、もう一度選択すると✔チェックが外れて、コピー対象から外れます。

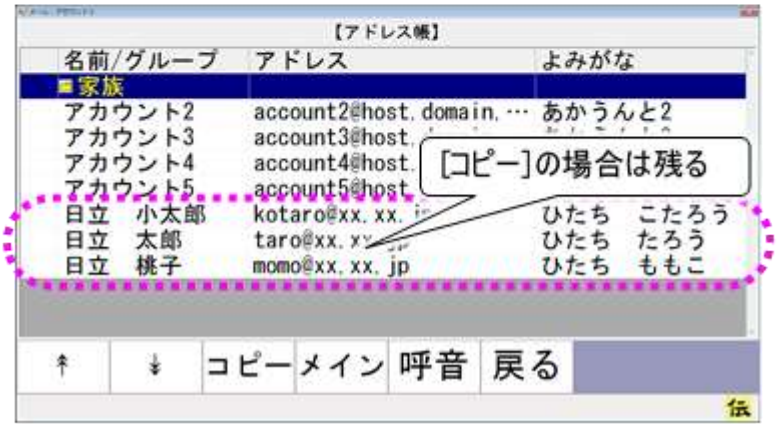
4 コピーしたいグループを[↟][↡]で選択して、[コピー]を選択すると、確認画面が表示されます。

5 はいを選択すると、左端に✔チェックが入っているメールが、選択したグループにコピーされます。



6 グループにコピーされると、メール左端の✔チェックは外れます。

※[コピー]の場合は、選択したアドレスはそのまま残ります。

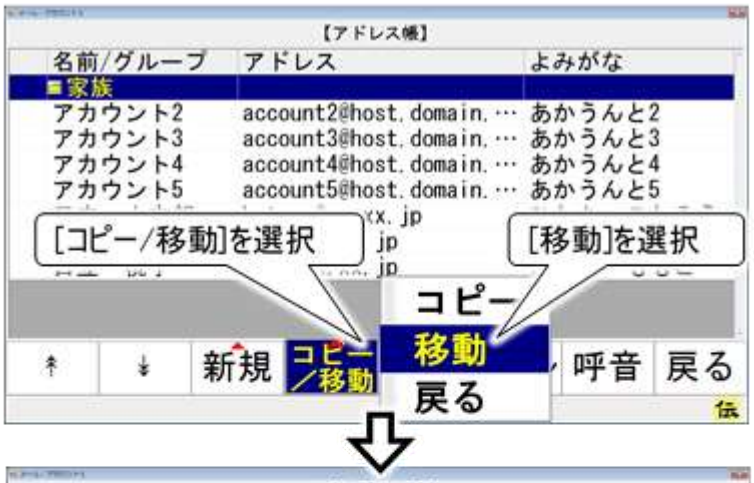


電子メール

アドレスグループにメールアドレスを移動する

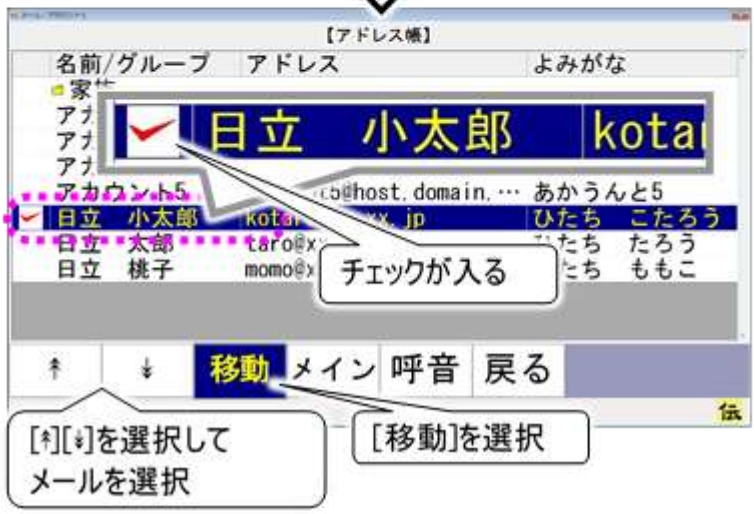
アドレスグループにメールアドレスを移動することもできます。メールアドレスをアドレスグループに移動する場合は、アドレスグループを削除するときに、アドレス帳に登録されているメールアドレスそのものが削除されるので注意してください。

1 アドレス帳画面の編集メニューより[コピー/移動]を選択し、さらにサブメニューより[移動]を選択します。



2 メニューが移動メニューに切り替わるので、[↟]または[↡]を選択して、移動するメールアドレスを選択します。

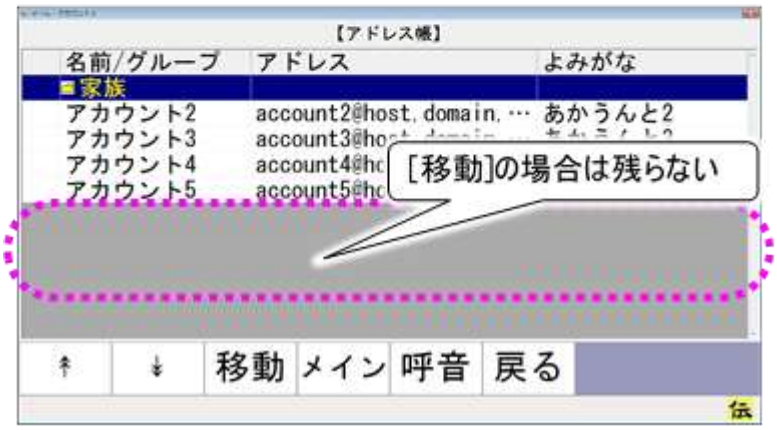
3 移動メニューより[移動]を選択すると、選択した項目の左端に✔チェックが入って、移動対象になります。選択を間違えた場合は、もう一度選択すると✔チェックが外れて、移動対象から外れます。



4 移動したいグループを[↟][↡]で選択して、[移動]を選択すると、確認画面が表示されます。

5 はいを選択すると、左端に✔チェックが入っているメールが、選択したグループに移動します

6 グループに移動すると、メール左端の✔チェックは外れ、選択したアドレスはアドレスグループに移動するので、表示から消えます。



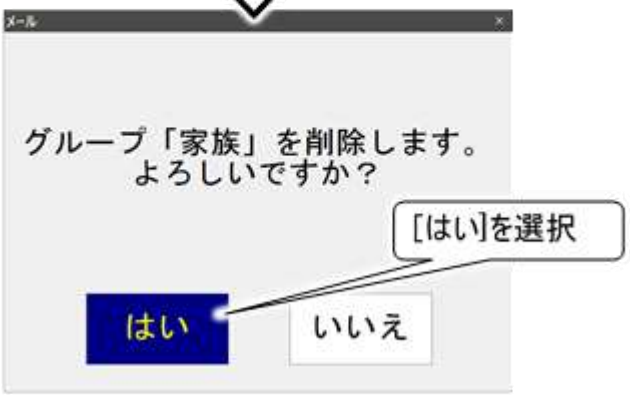
電子メール

アドレスグループを削除する

1 アドレス帳画面のメニューより[編集]を選択すると、メニューが編集メニューに切り替わります。

2 編集メニューより[↑]または[↓]を選択して、削除するアドレスグループを選択します。

3 [削除]を選択すると確認画面が表示されますので、削除する場合は[はい]を選択してください。

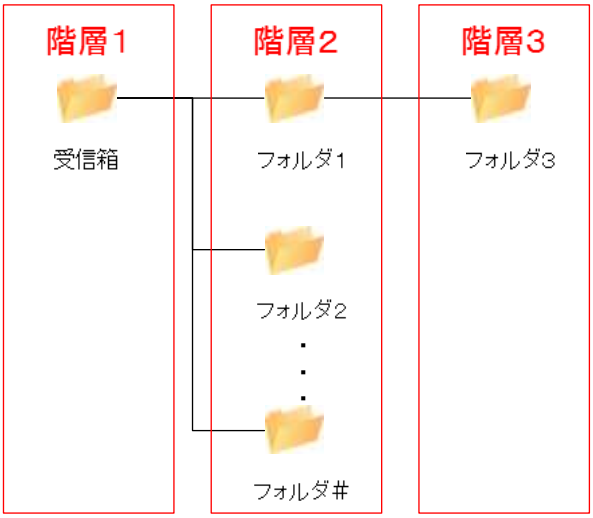


注意 アドレスグループを削除すると、グループ内のメールアドレスも削除されます。メールアドレスをアドレスグループに登録する際、[移動]で登録した場合はご注意ください。

受信箱の整理

受信したメールが増えて行くと、読みたいメールを探すのに苦労します。
そんな時は、受信箱のなかにフォルダを作成して、受信メールを整理してみましょう。
フォルダは文書（受信メール）の分類・整理するための保管場所です。識別のために固有の名称(フォルダ名)をつけることができ、関連する複数の受信メールをまとめて一つのフォルダに入れることにより、効率的に受信メールを管理することができます。
また、フォルダの中にさらにフォルダを作成することもでき、階層構造によって細かい分類を表現することもできます。

受信箱以下には、受信箱を含めて3階層までフォルダの作成が可能です。



制限

階層2、階層3のフォルダ数の制限はありませんが、あまり多くのフォルダを作成すると、画面の表示や操作が遅くなることがあります。

電子メール

フォルダを作成する

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[受箱]を選択すると、受信箱画面を表示します。

画面には、選択中のアカウントの受信メールとフォルダの一覧を表示します。

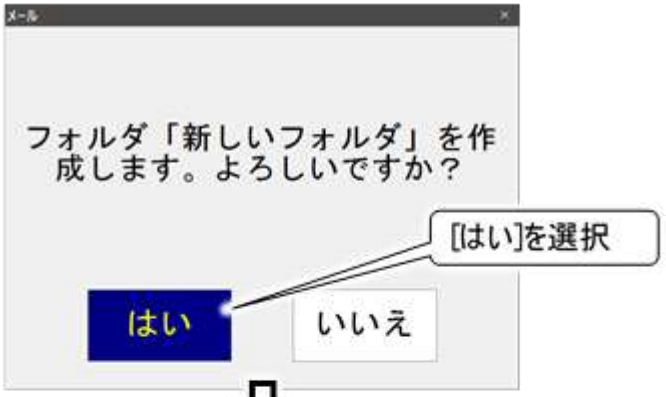
受信箱画面のメニューより[整理]を選択すると、メニューが整理メニューに切り替わります。

2 整理メニューより[フォルダ作成]を選択すると、フォルダ名入力画面が表示されます。

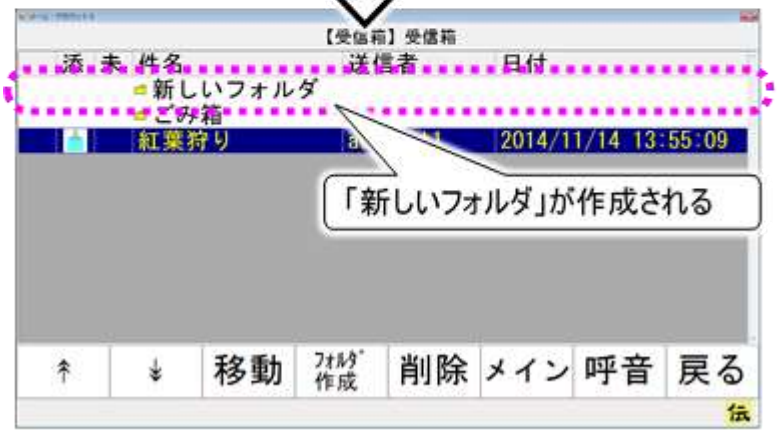
画面下の文字盤より文字を入力して、フォルダ名称を入力します。

制限 フォルダ名は1文字以上32文字までです。

3 文字盤の[戻]を選択すると、確認画面が表示されます。



4 [はい]を選択すると、受信箱に「新しいフォルダ」が作成されて、受信箱画面に戻ります。



電子メール

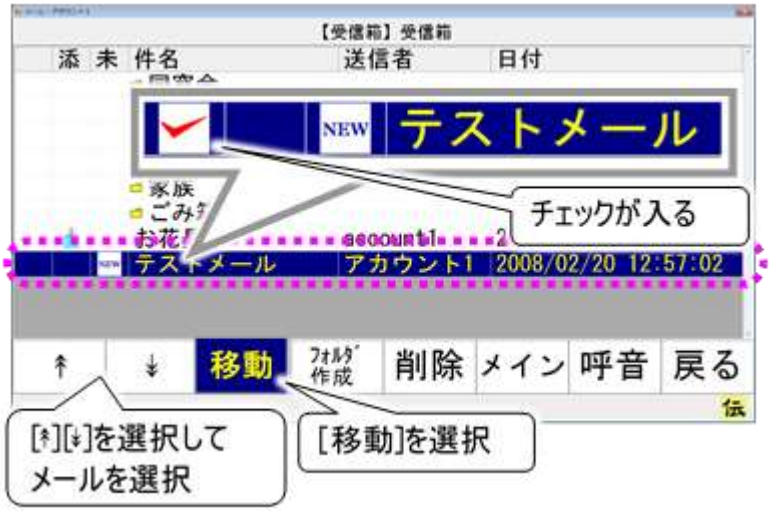
メールを移動する

フォルダを作成したら、下記の手順で関連するメールをフォルダに入れましょう。

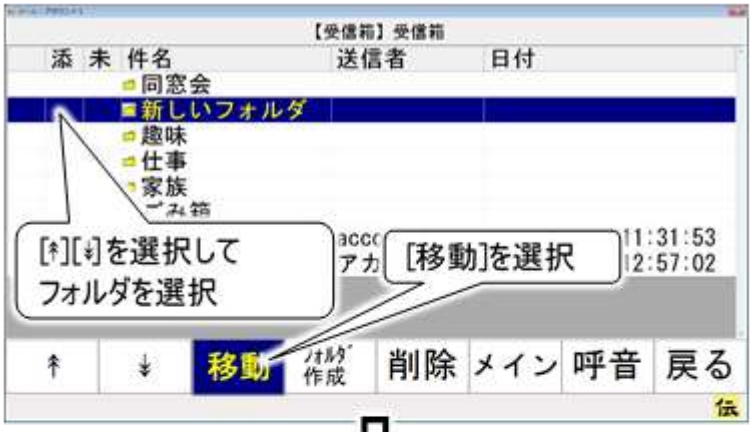
1 整理メニューより[↑][↓]を選択して、移動するメールを選択します。

2 整理メニューより[移動]を選択すると、選択した項目の左端に✔チェックが入って、移動対象になります。

選択を間違えた場合は、もう一度選択すると✔チェックが外れて、移動対象から外れます。



3 移動したいフォルダを[↑][↓]で選択して、[移動]を選択すると、確認メッセージが表示されます。



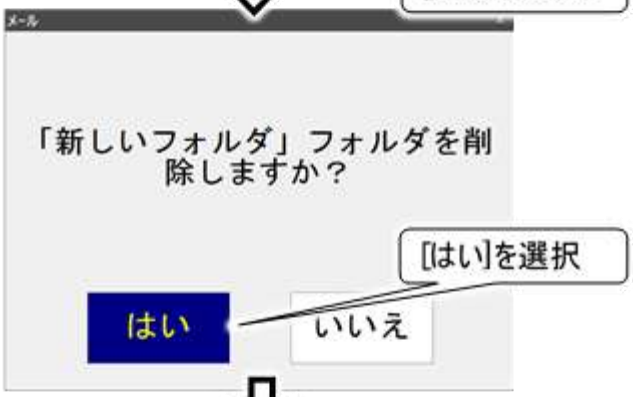
4 [はい]を選択すると、左端に✔チェックが入っているメールが、選択したフォルダに移動します。

フォルダを削除する

不要になったフォルダは削除ができます。ここでは「新しいフォルダ」フォルダを削除してみます。

1 整理メニューより[↑][↓]を選択して、削除するフォルダを選択します。

2 整理メニューより[削除]を選択すると、確認画面が表示されます。



3 [はい]を選択すると、選択していたフォルダが削除されて、受信箱画面に戻ります。

補足	フォルダを削除すると、フォルダ内のメールも同時に削除されます。 削除されたフォルダ、メールは、「ごみ箱」フォルダへ移動します。
注意	「ごみ箱」フォルダ内のフォルダを削除すると、フォルダ、フォルダ内のメールは完全に消去されます。元には戻せないので、注意してください。

電子メール

メールを削除する

不要なメールは、削除することができます。

■ 受信箱のリストから削除する

1 受信箱画面のメニューより[整理]を選択して、メニューを整理メニューに切り替えます。

2 整理メニューより[↑]または[↓]を選択して、削除するメールを選択します。

3 削除するメールを選択したら、[削除]を選択します。

4 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択するとメールの削除が行われます。

補足	削除したメールは「ごみ箱」フォルダへ移動します。
注意	「ごみ箱」フォルダ内のメールを削除すると、そのメールは完全に消去されます。元には戻せないので、注意してください。

■ 受信メール表示画面から削除する

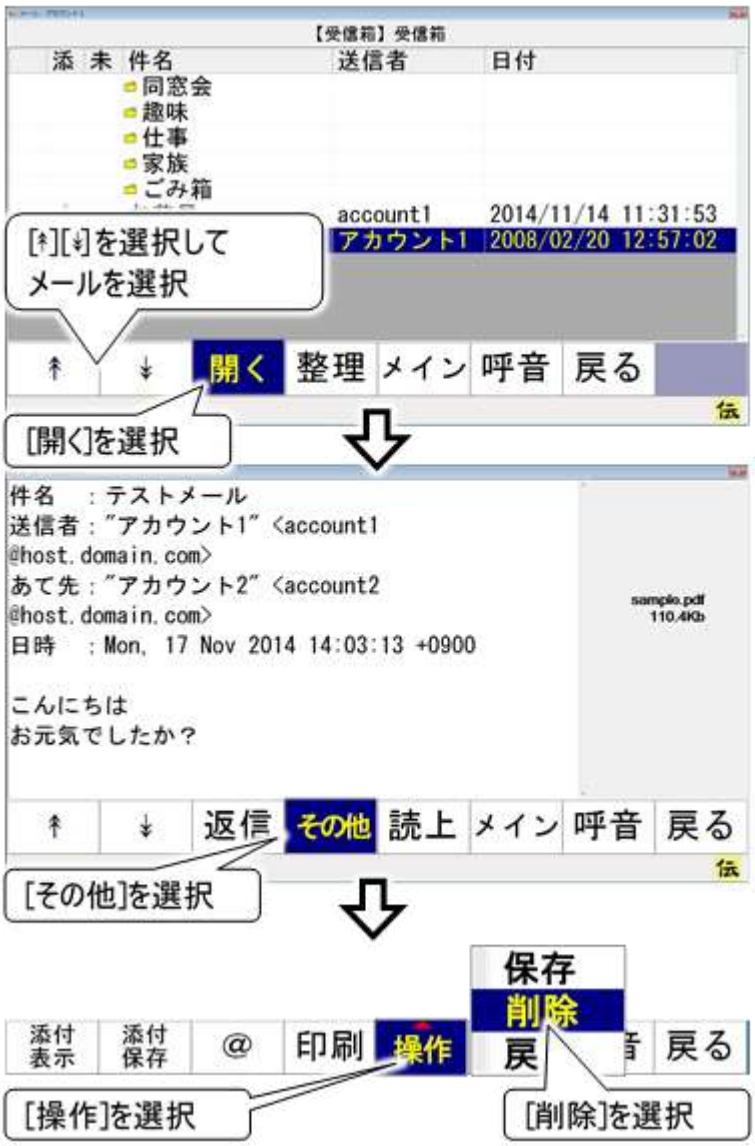
1 受信箱画面のメニューより[↟]または[↡]を選択して、削除するメールを選択します。

2 受信箱画面のメニューより[開く]を選択して、受信メール画面を表示します。

3 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

4 その他メニューより[操作]を選択するとサブメニューが表示されるので、[削除]を選択します。

5 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択するとメールの削除が行われます。



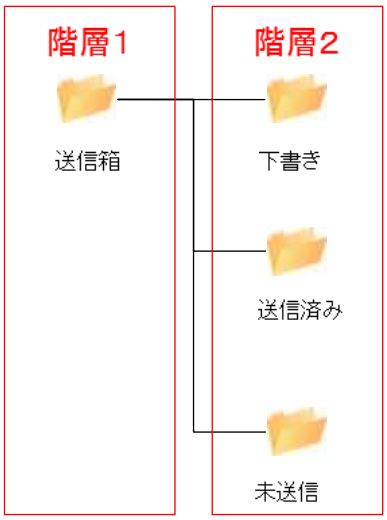
補足	削除したメールは「ごみ箱」フォルダへ移動します。
注意	「ごみ箱」フォルダ内のメールを削除すると、そのメールは完全に消去されます。元には戻せないので、注意してください。

電子メール

送信箱の整理

送信箱は受信箱と違って、送信箱したのなかにフォルダを作成できません。しかし、送信済みメールが増えて行くと、読み直したいメールを探すのに苦労します。
そんな時は、送信箱のなかを整理してみましょう。要らないメールを削除したり、保存先を変更したりできます。

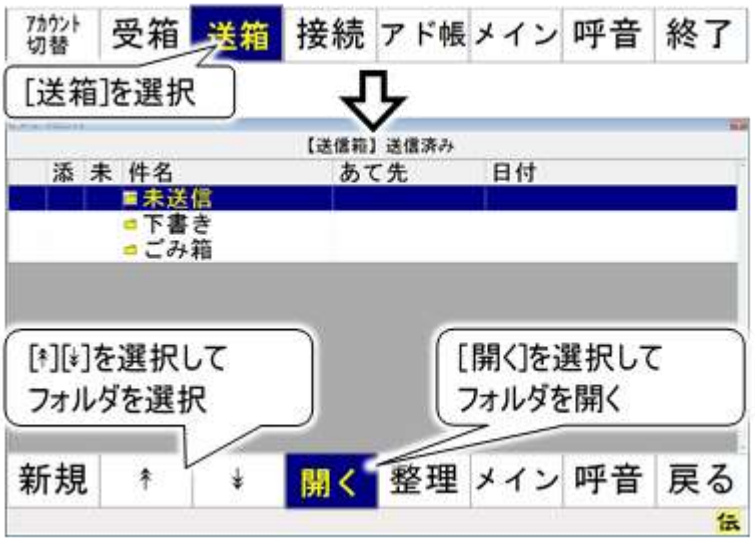
送信箱以下には、送信箱を含めて2階層のフォルダがあります。



メールを移動する

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[送箱]を選択すると、送信箱画面を表示します。画面には、選択中のアカウントの送信済みメールとフォルダの一覧を表示します。

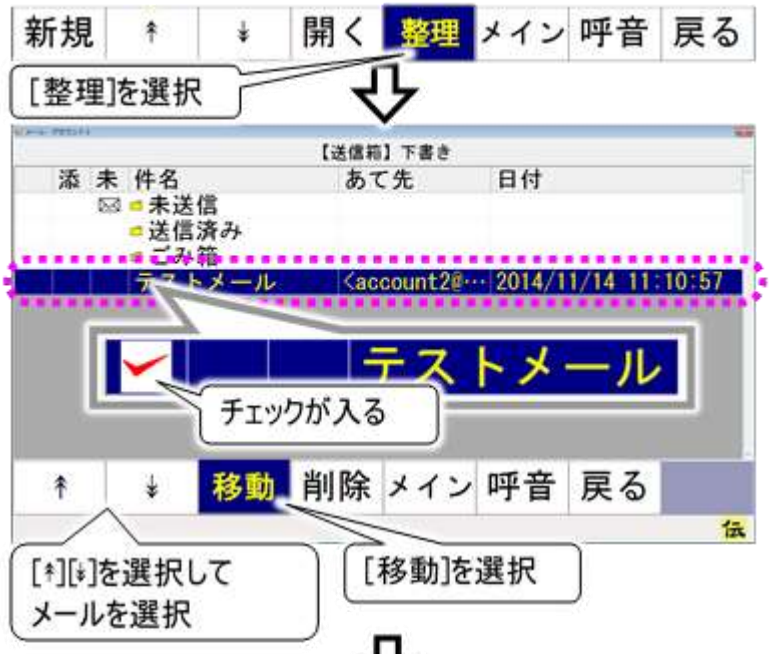
2 送信箱画面のメニューより[↑][↓]を選択して、移動したい送信メールの保存先を選択し、[開く]を選択してフォルダを開きます。



3 メニューより[整理]を選択して、メニューを整理メニューに切り替えます。

4 整理メニューより[↑][↓]を選択して、移動したい送信メールを選択し、[移動]を選択すると、選択した項目の左端に✔チェックが入って、移動対象になります。

選択を間違えた場合は、もう一度選択すると✔チェックが外れて、移動対象から外れます。



5 メールを移動したいフォルダを[↑][↓]で選択して、[移動]を選択すると、確認メッセージが表示されます。

[はい]を選択すると、左端に✔チェックが入っているメールが、選択したフォルダに移動します。

電子メール

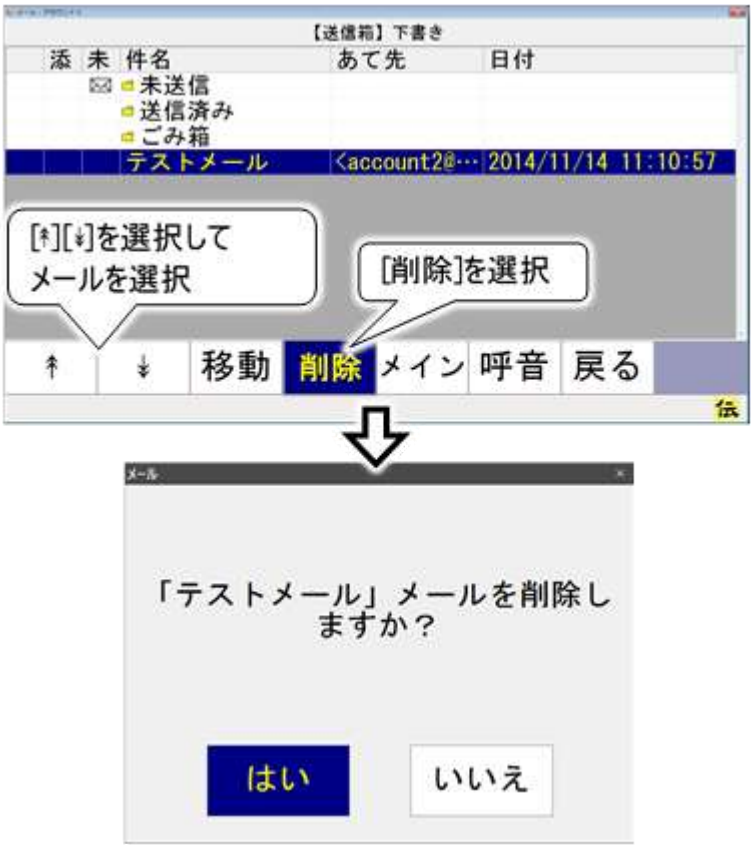
メールを削除する

送信済みメールなどは、定期的に要らないメールを削除すると閲覧時に見やすくなります。

1 371 ページの「メールを移動する」の①～③と同様にして、送信箱画面のメニューより[↑][↓]を選択して削除したい送信メールの保存先を開き、メニューを整理メニューに切り替えます。

2 メニューより[↑][↓]を選択してメールを選択し、[削除]を選択します。

3 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択するとメールの削除が行われます。



補足	削除したメールは「ごみ箱」フォルダへ移動します。
注意	「ごみ箱」フォルダ内のメールを削除すると、そのメールは完全に消去されます。元には戻せないので、注意してください。

ごみ箱を空にする

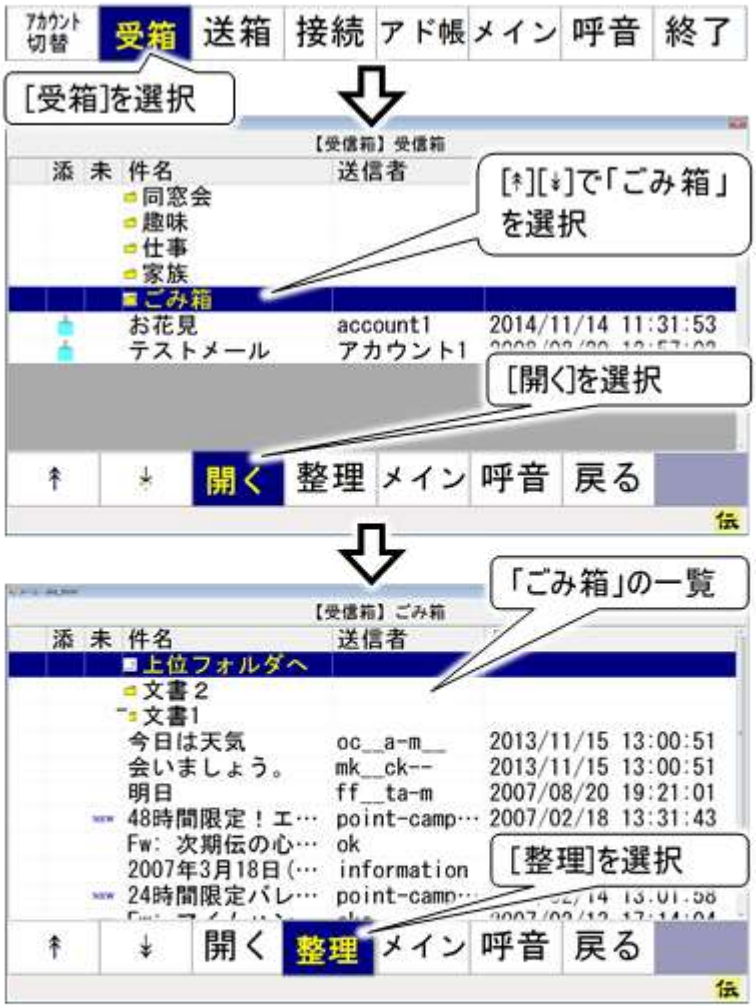
受信箱や送信箱で削除したメールやフォルダは、ごみ箱に入ります。しかし、ごみ箱の中身が増えてくると、メールを起動したり終了したりするのに時間がかかるようになってきます。
ごみ箱は定期的に空にしましょう。
ごみ箱は受信箱と送信箱のどちらからでも開くことができます。

受信箱でごみ箱を空にする

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[受信箱]を選択すると、受信箱画面を表示します。画面には、選択中のアカウントの受信メールとフォルダの一覧を表示します。

2 受信箱画面のメニューより[↑]または[↓]を選択すると、受信メールとフォルダの一覧リストのスキャンカーソルが下から上方向、または上から下方向に順次移動していきます。
「ごみ箱」のところでもう一度スイッチを入力すると、スキャンカーソルの移動はそこで停止します。
[開く]を選択すると、「受信箱」から「ごみ箱」に画面が切り替わります。

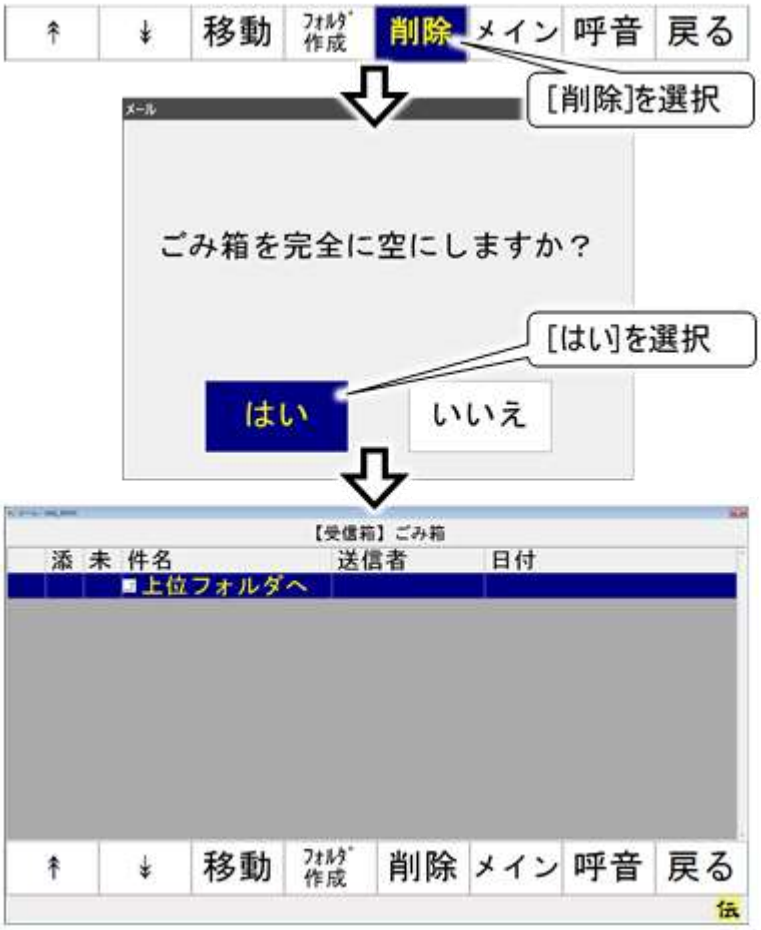
3 受信箱画面のメニューより[整理]を選択して、メニューを整理メニューに切り替えます。



電子メール

4 整理メニューより[削除]を選択すると、確認画面が表示されます。

5 [はい]を選択すると、ごみ箱のファイル・フォルダの全てが削除されて、ごみ箱画面に戻ります。



⚠ 注意	「ごみ箱」フォルダ内のメールを削除すると、そのメールは完全に消去されます。元には戻せないので、注意してください。

送信箱でごみ箱を空にする

1 電子メールメイン画面のトップメニューより、[送箱]を選択すると、送信箱画面を表示します。画面には、選択中のアカウントの送信済みメールとフォルダの一覧を表示します。

2 送信箱画面のメニューより[↑]または[↓]を選択して、受信メールとフォルダの一覧リストのスキャンカーソルを下から上方向、または上から下方向に順次移動させます。

「ごみ箱」のところでもう一度スイッチを入力すると、スキャンカーソルの移動はそこで停止します。

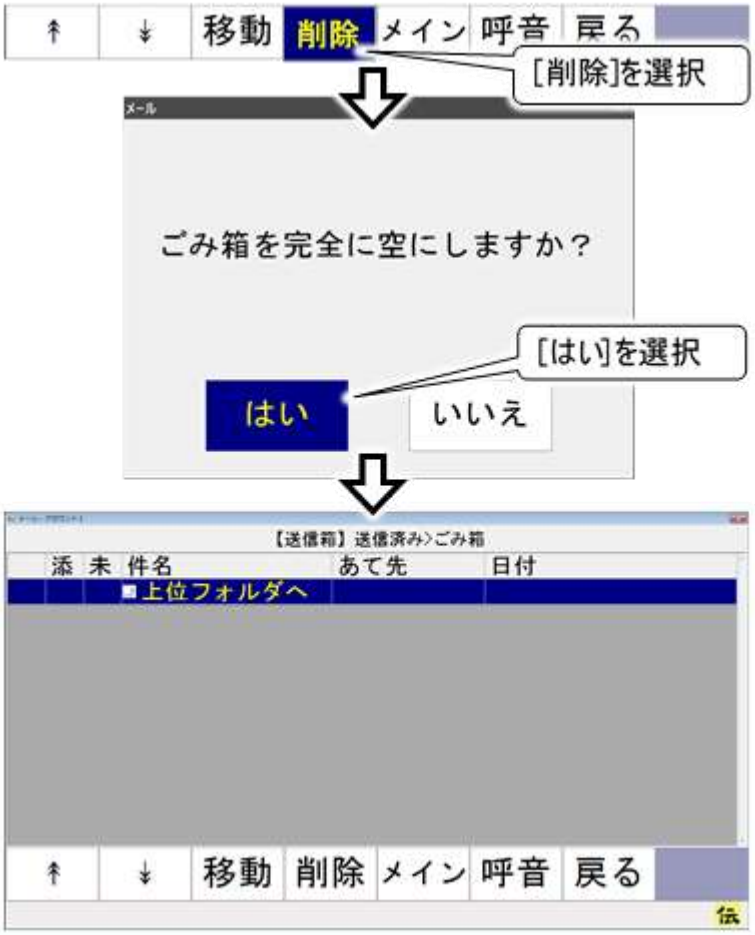
[開く]を選択すると、「送信済み」から「ごみ箱」に画面が切り替わります。

電子メール

3 次にメニューより[整理]を選択して、メニューを整理メニューに切り替えます。

4 整理メニューより[削除]を選択すると、確認画面が表示されます。

5 [はい]を選択すると、ごみ箱のファイル・フォルダの全てが削除されて、ごみ箱画面に戻ります。



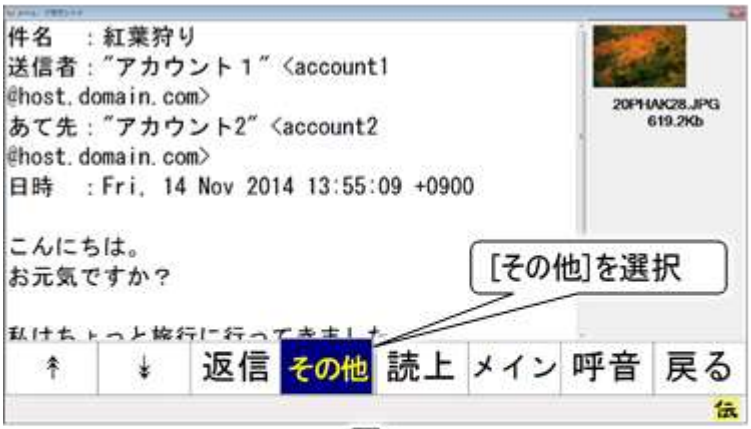
⚠ **注意**	「ごみ箱」フォルダ内のメールを削除すると、そのメールは完全に消去されます。元には戻せないので、注意してください。

その他の機能

受信メール（本文）を印刷する

受信したメールは、印刷することができます。（プリンター有の機種のみ）

1 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

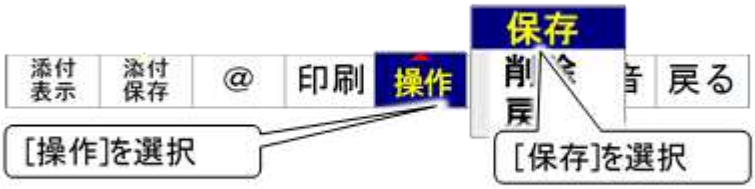


2 その他メニューより[印刷]を選択すると、メールの本文の印刷が行われます。

受信メールを保存する

1 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

2 その他メニューより[操作]を選択すると、サブメニューが表示されるので[保存]を選択します。



3 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択するとメールの保存が行われます。

補足

保存したメールは「c:¥Users¥DENUSER¥Documents¥DenNoSin¥文書¥受信添付」フォルダに保存されます。
「c:¥Users¥DENUSER¥Documents¥DenNoSin¥文書¥受信添付」フォルダは、デスクトップの「「伝の心」受信メール添付」を開くと、開きます。

電子メール

受信メール（添付画像）を印刷する

受信したメールに添付の画像ファイルも印刷することができます。（プリンター有の機種のみ）

1 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

2 その他メニューから[添付表示] を選択すると、添付画像表示画面を表示します。

※添付画像がある場合のみ表示されます。

3 [前頁]または[次頁]を選択して、印刷したい画像を表示させます。

4 [印刷]を選択すると、添付画像ファイルの印刷が行われます。

受信メール（添付画像）を保存する

1 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

2 その他メニューより[添付保存]を選択します。

3 確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択するとメールの保存が行われます。

補足

保存した画像は「c:¥Users¥DENUSER¥Documents¥DenNoSin¥文書¥受信添付」フォルダに保存されます。
「c:¥Users¥DENUSER¥Documents¥DenNoSin¥文書¥受信添付」フォルダは、デスクトップの「「伝の心」受信メール添付」を開くと、開きます。

受信メールからのメールアドレスを登録する

1 受信メール画面のメニューより[その他]を選択して、その他メニューに切り替えます。

2 その他メニューより[@]を選択します。

3 アドレス登録画面に移動し、受信メールの送信者の名前とアドレスがアドレス登録画面に表示されます。

4 [登録]を選択すると、送信者のアドレスを表示された通りの内容で登録します。
[戻る]を選択すると、受信メール画面に戻ります。

補足

アドレス帳の編集

送信者のアドレスを編集する場合は、[よみ][名前][アドレス]等を選択して編集してください。
詳細は、356 ページの「新しいアドレスグループを登録する」の③～⑥を参照してください。

ホームページ閲覧

ホームページの起動と終了

制限	閲覧するホームページによっては、操作ができない場合もあります。 初回起動時にその旨を表示した「承諾して起動しますか？」のメッセージ表示がありますので、[はい]を選択するとブラウザ操作が起動します。[いいえ]を選択するとメインメニューに戻りますのでご注意ください。 「承諾して起動しますか？」のメッセージ表示を次回から表示したくない場合は、このメッセージ表示で[はい]を選択後の「次回からこのメッセージを表示しない」メッセージ表示で[はい]を選択してください。
制限	**タッチモードの場合** ブラウザ操作は使用できません。

■ ホームページ閲覧を始める

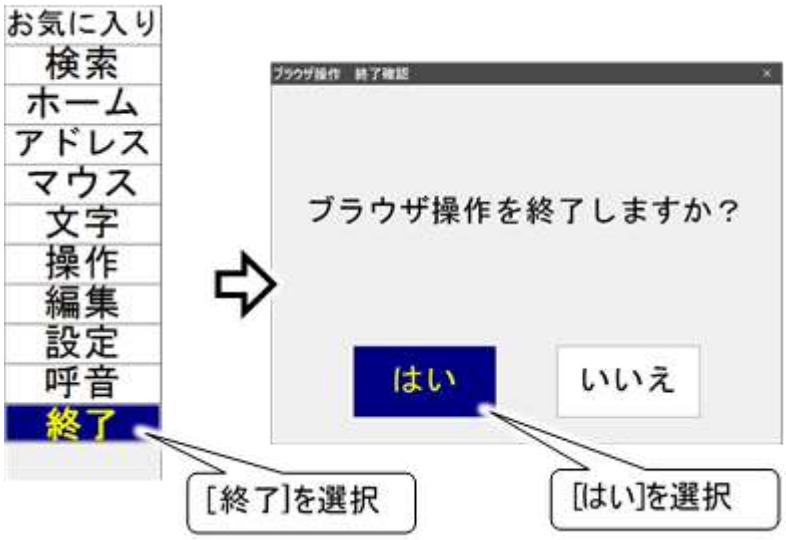
1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[応用操作] -[ブラウザ操作]を選択します。

2 マイクロソフト Edge（以下 Edge）が起動して、ブラウザ操作画面が Edge 画面の左側に表示されます。

■ ホームページ閲覧を終わる

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[終了]を選択します。
確認メッセージが表示されますので、[はい]を選択してください。

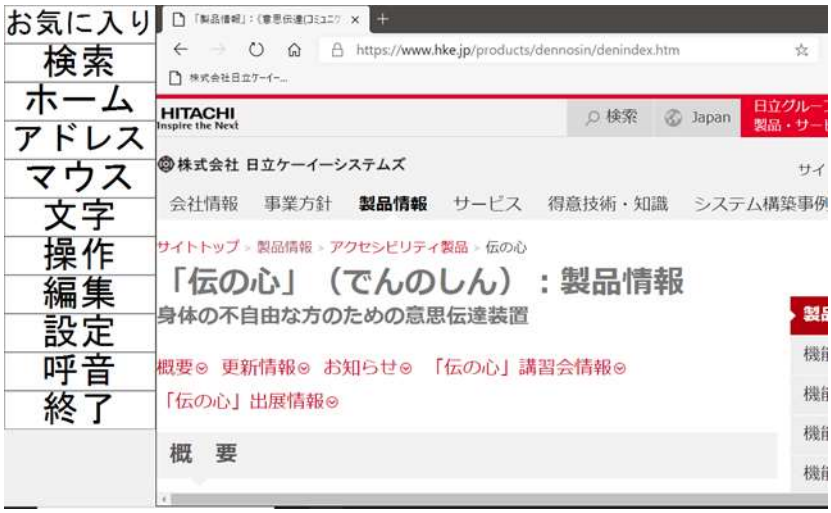
2 ブラウザ操作画面を終了して、「伝の心」トップ画面に戻ります。



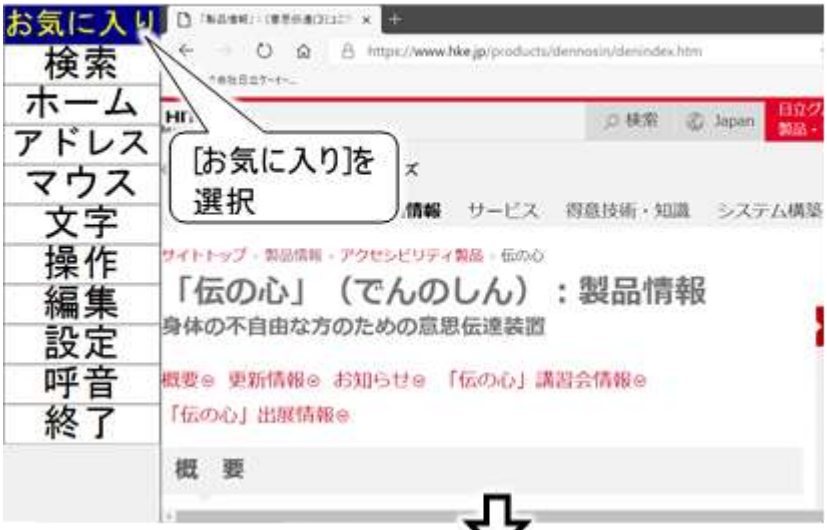
「お気に入り」を追加する

「伝の心」のホームページをお気に入りに追加してみましょう。

1 384 ページの「ホームページ内のリンク項目の選択」などを参照して、「伝の心」のホームページを開きます。



2 ブラウザ操作画面のトップメニューより[お気に入り]を選択します。



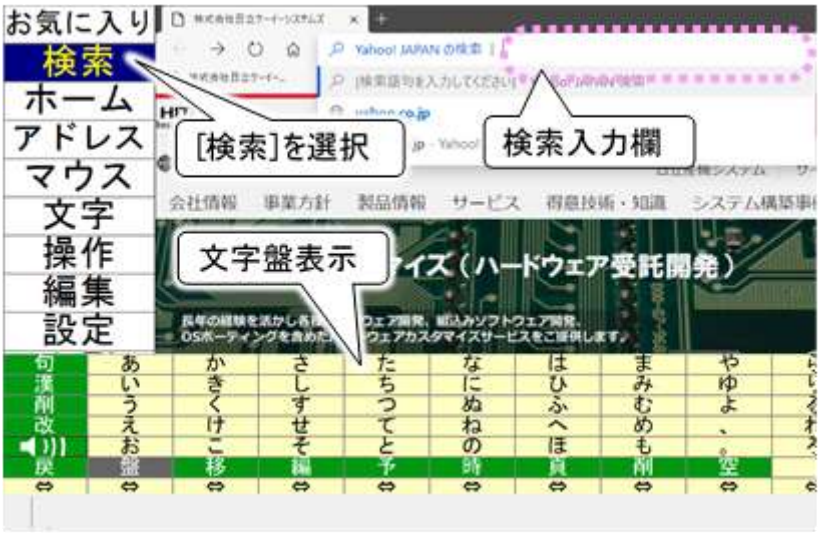
3 「伝の心」のホームページが、お気に入りリストに追加されます。

ホームページ閲覧

ウェブ検索を行う

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[検索]を選択します。

2 検索入力欄に入力カーソルを移動し、文字盤を画面下に表示します。



3 文字盤から入力された文字は、検索入力欄に入力されます。

4 文字列を確定した後、[改]を選択して改行入力すれば、ウェブ検索が始まり、結果がEdge画面に表示されます。

5 文字盤を[戻]の選択で終了させると、トップメニューへ戻るので、検索結果の画面を操作できるようになります。

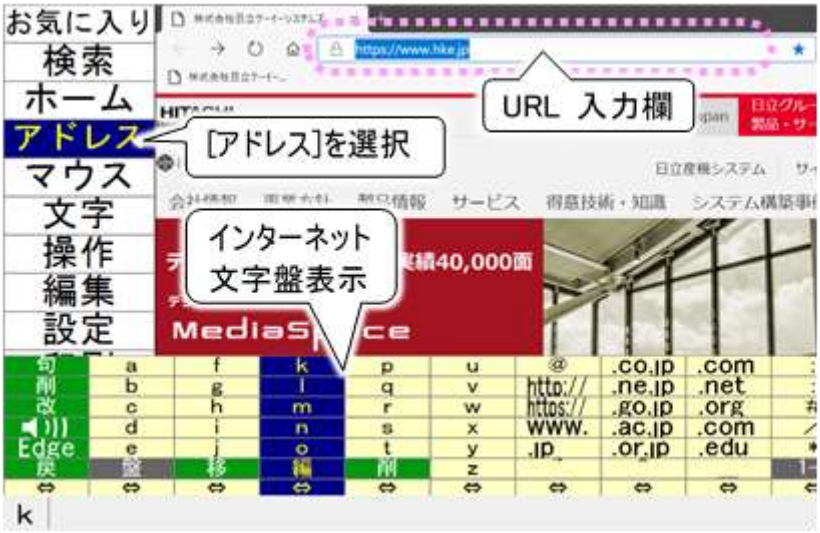
補足

④の後、続けてウェブ検索する場合は、文字盤の[戻]を選択して一旦トップメニューに戻り、再度①～⑤を繰り返してください。
また、文字盤を「インターネット文字盤」に切り替えて、文字盤の[Edge]を選択して、さらにサブメニューより[検索]を選択することによって、検索入力欄に再び入力カーソルが移動します。
どちらでも、操作しやすい方法を選んで行ってください。

ホームページ閲覧

アドレスを入力してホームページを表示する

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[アドレス]を選択します。



2 URL 入力欄に入力カーソルが移動し、インターネット文字盤を画面下に表示します。

3 文字盤から入力された文字は、URL 入力欄に入力されます。

4 文字列を確定した後、[改]を選択して改行入力すれば、入力されたアドレスのホームページがEdge 画面に表示されます。

5 文字盤を[戻]の選択で終了させると、メインメニューへ戻るので、表示したホームページの画面を操作できるようになります。

補足	④の後、続けて URL を入力する場合は、文字盤の[戻]を選択して一旦トップメニューに戻り、再度①～⑤を繰り返してください。 また、インターネット文字盤の[Edge]を選択して、さらにサブメニューより[アドレス]を選択することによって、URL 入力欄に再び入力カーソルが移動します。 どちらでも、操作しやすい方法を選んで行ってください。

ホームページ閲覧

ホームページ内のリンク項目の選択

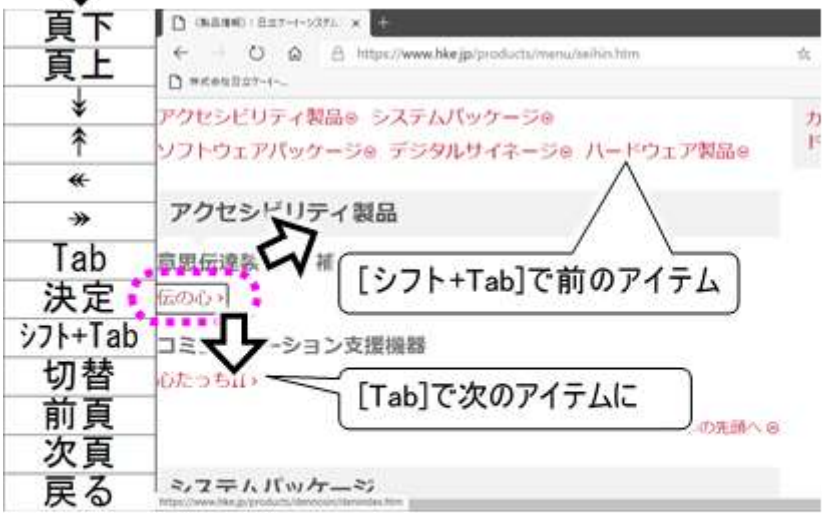
ホームページの画面には、リンク項目（ここをクリックすると項目に登録されているホームページに移動する）が多数あります。ここでは、そのリンク項目を選択してリンク先のホームページに移動する方法を説明します。

アイテムの順次選択

ホームページの画像、リンク等のアイテムは、順次選択していくことができます。

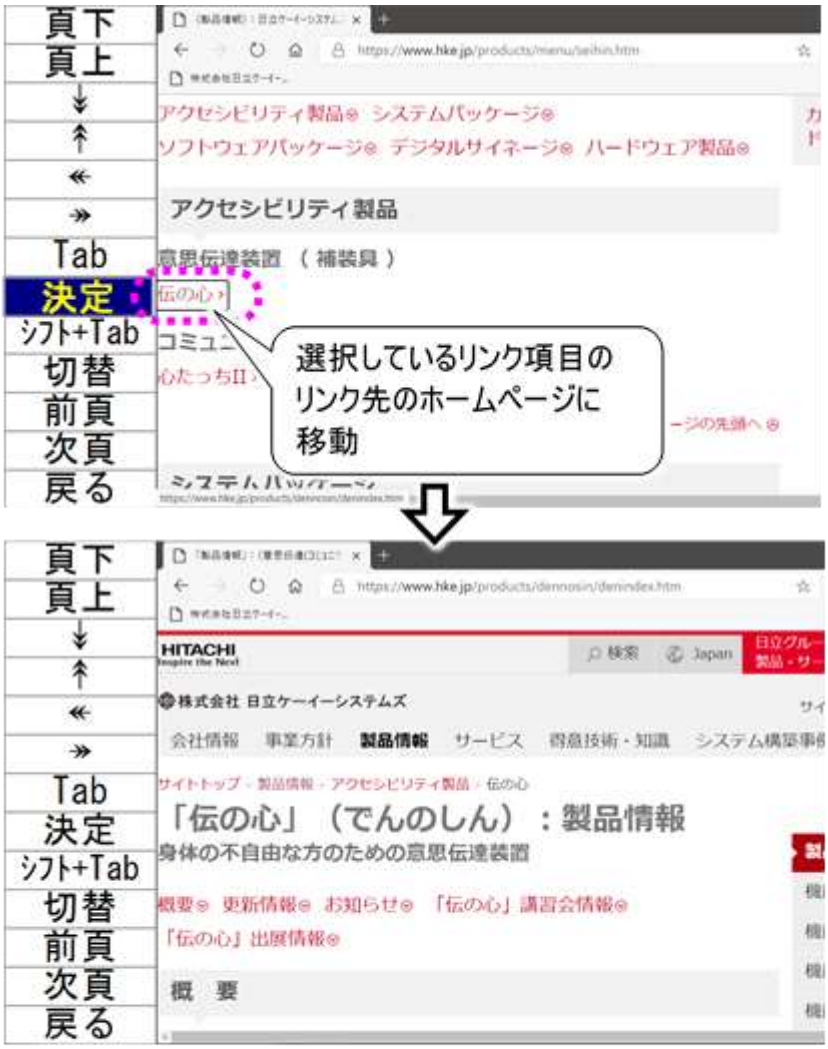
1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[操作]を選択すると、トップメニューが操作メニューに切り替わります。

2 操作メニューより[Tab][シフト+Tab]を選択すると、アイテムの選択が切り替わって行きます。
※現在選択しているアイテムは黒枠で囲まれています。



3 選択アイテムは順次、次のアイテムまたは前のアイテムに切り替わっていくので、選択したいリンク項目で再度スイッチ入力をすると、切り替えが停止します。

4 操作メニューより[決定]を選択すると、選択しているリンク項目のリンク先のホームページに移動します。



ホームページ閲覧

マウス操作での選択

リンク項目はマウスでクリックすることもできます。

補足	アローモードのマウス操作盤は、実際の表示は黒枠の表示はありませんが、色付きの部分以外は透明なので、説明の都合上、黒枠をつけて示しています。

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[マウス]を選択すると、マウスポインターの位置にマウス操作盤が表示されます。

ブラウザ操作画面のメニューは非表示になります。

2 マウスの操作は、400 ページの「ウィンドウズ操作の基本」の「マウスを操作する」と同じです。

【アローモードの場合】
マウス操作盤の中心にリンク項目が来るように、マウス操作盤を移動させます。

【クロスラインモードの場合】
マウスポインターがリンク項目の上にくるように縦と横の移動を行います。

3

【アローモードの場合】
マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力すると、サブメニューが表示されます。

【クロスラインモードの場合】
縦と横の移動を決定すると、サブメニューを表示します。

サブメニューより[左クリック]を選択すると、リンク項目のマウスクリックが行われて、リンク先のホームページに移動します。

ホームページの入力項目に文字を入力する

ホームページには、文字入力を必要とするページもあります。「伝の心」では、文字盤を呼び出して、テキストボックス等の入力項目に文字を入力することができます。

1

384 ページの「ホームページ内のリンク項目の選択」と同様にして、マウス操作盤の中心に入力項目が来るようにマウス操作盤を移動します。

【アローモードの場合】
マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力すると、サブメニューが表示されます。

【クロスラインモードの場合】
縦と横の移動を決定すると、サブメニューを表示します。

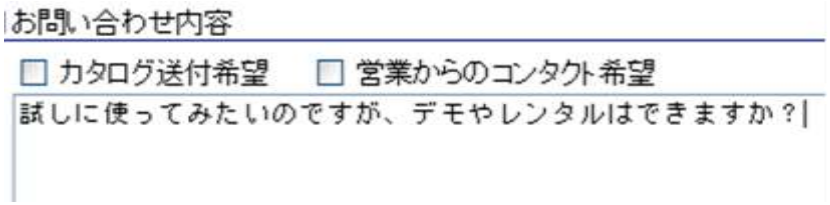
マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択し、入力項目に入力カーソルを移動します。

ホームページ閲覧

2 ブラウザ操作画面のトップメニューより[文字]を選択すると、文字盤を画面下に表示します。

補足	**文字盤の表示方法** 文字盤は、編集メニューまたはマウス操作盤メニューの[文字]を選択しても表示されます。ここから文字盤を表示させても同じように文字入力ができます。 コンテンツエリアの文字のコピーや貼り付け等の編集を行う場合は、編集メニューからの表示が便利です。
補足	ブラウザ操作画面での文字入力では、一部動作しない機能があります(※文字の入力対象によって異なります)。詳細は 88 ページの「文字盤の機能一覧」を参照してください。
制限	URL 入力欄の文字入力は、[文字]で表示される文字盤ではできません。[アドレス]や[検索]で表示される文字盤で入力ください。

3 文字盤から入力された文字は、入力カーソルのある入力項目に入力されます。



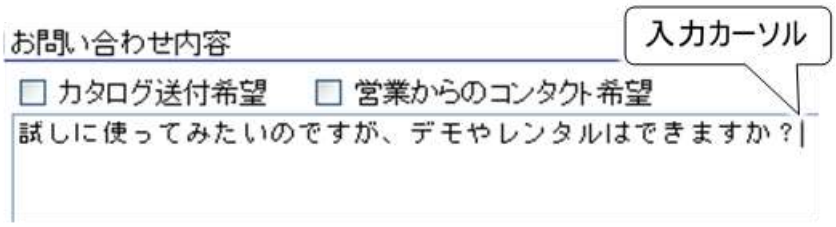
4 文字盤を[戻]の選択で終了させると、編集メニューに戻ります。

編集メニューをもっと活用する

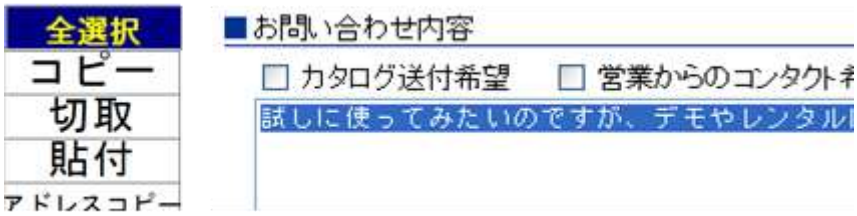
コンテンツエリアの入力項目に文字を入力した後、全部取り消したい場合や、他の入力項目に同じ文章を入力したい場合には、下記のようにすると便利です。

■ 入力項目の文字を全部切り取る

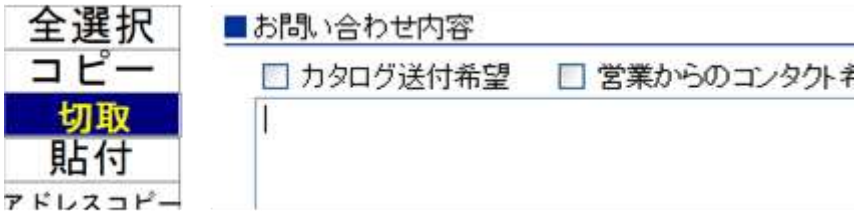
1 右記のように、テキストボックスに文字が入力されて、入力カーソルがテキストボックスにある状態で、編集メニューより[全選択]を選択します。



2 テキストボックスの文字が全部反転表示になります。



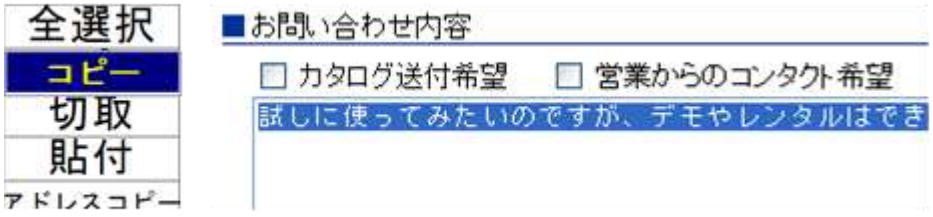
3 編集メニューより[切取]を選択すると、反転表示の文字が全部切り取られます。



■ 入力項目の文字をコピーして張り付ける

1 前項「■入力項目の文字を全部切り取る」の①～②と同様にして、テキストボックスの文字を全部反転表示させます。

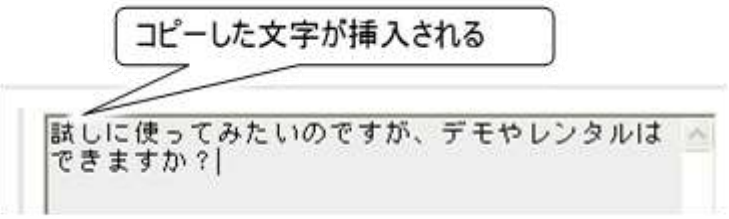
2 編集メニューより［コピー]を選択します。



ホームページ閲覧

3 384 ページの「ホームページ内のリンク項目の選択」を参照して、コピーした文字を貼り付けたい入力項目を選択します。

4 編集メニューより[貼付]を選択すると、コピーした文字が入力項目に挿入されます。



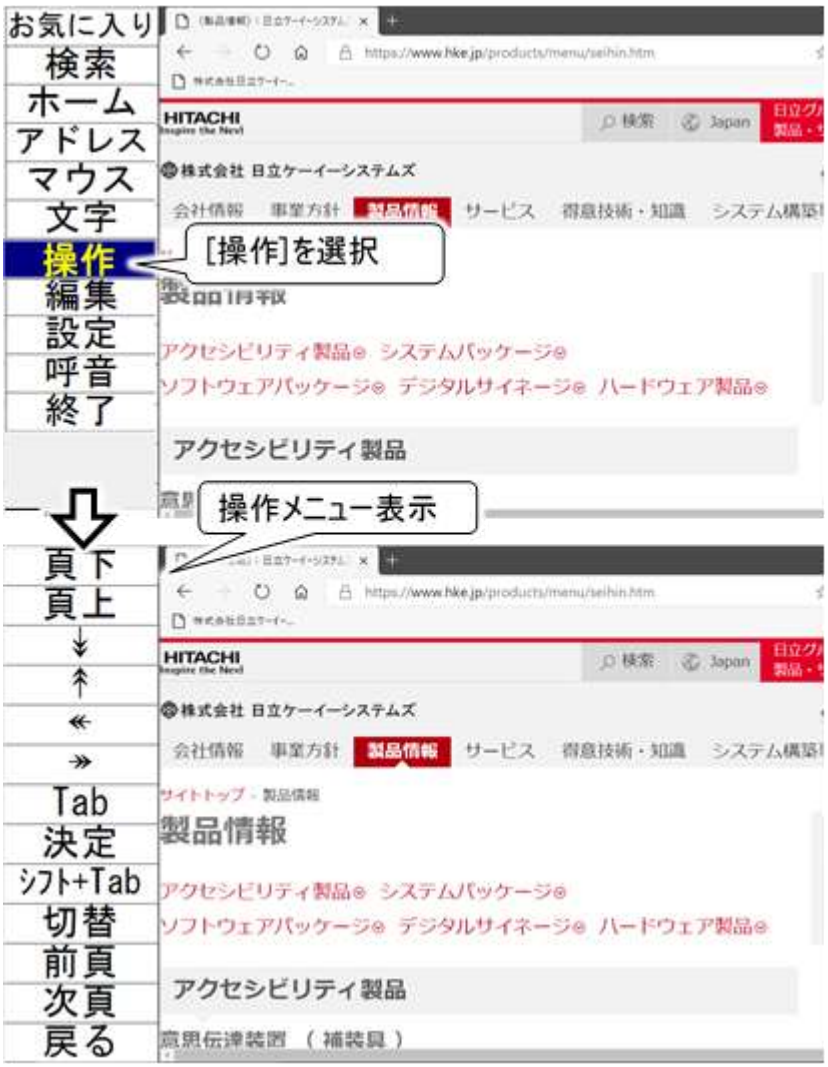
その他の機能

画面のスクロール

ホームページの1画面が縦や横に広い場合は、全ての画面は表示できません。
この場合、縦や横のスクロールバーを動かして、見たい部分を表示します。

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[操作]を選択すると、トップメニューが操作メニューに切り替わります。

2 操作メニューより[頁下][頁上][↡][↟][↞][↠]を選択して選択したいリンク項目を表示させます。



操作メニュー	説明
頁下	再度スイッチ入力があるまで、現在のページを1ページ分ずつ下に移動します。
頁上	再度スイッチ入力があるまで、現在のページを1ページ分ずつ上に移動します。
↡	再度スイッチ入力があるまで、現在のページを下の方向に移動します。
↟	再度スイッチ入力があるまで、現在のページを上の方向に移動します。
↞	再度スイッチ入力があるまで、現在のページを左の方向に移動します。
↠	再度スイッチ入力があるまで、現在のページを右の方向に移動します。

ホームページ閲覧

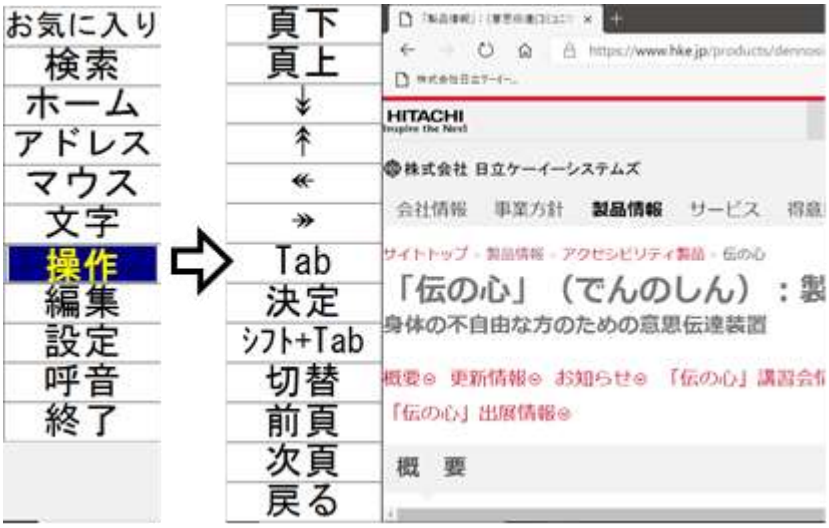
ページの移動（前頁／次頁／ホーム）

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[ホーム]を選択すると、Edge の「ホーム」に設定されているページを表示します。

2 ブラウザ操作画面のトップメニューより[操作]を選択して、操作メニューに切り替えます。

3 [前頁]を選択すると、前ページを表示します。

4 [次頁]を選択すると、次ページを表示します。



ページの切り替え（タブ切り替え）

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[操作]を選択して、操作メニューに切り替えます。
さらに、操作メニューより[切替]を選択して、切替メニューに切り替えます。

2 ［タブ切替]を選択すると、Edge画面のタブを切り替えます。スキャン間隔で順次切り替えて行くので、切り替えたいタブのところでもう一度スイッチ入力します。

3 ［タブ閉］を選択すると、現在表示しているタブを閉じます。

制限	タブが1つしかない場合、[タブ閉］を選択すると、Edge 画面が閉じます。 Edge 画面が閉じている状態で、[タブ閉］を選択すると、Edge 画面が起動します。 ご注意ください。

ホームページ閲覧

ホームページ画面の切替（複数の Edge の切り替え）

ホームページのリンク項目の選択によって、新しい画面でホームページ画面が開く場合があります。このような場合、この機能を使うと、元のホームページ画面に簡単に戻れます。

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[操作]を選択して、操作メニューに切り替えます。
さらに、操作メニューより[切替]を選択して、切替メニューに切り替えます。

2 [Win 切替]を選択すると、Edge 画面を切り替えます。スキャン間隔で順次切り替えて行くので、切り替えたい画面のところでもう一度スイッチ入力します。

3 [Win 閉] を選択すると、現在表示している Edge 画面を閉じます。

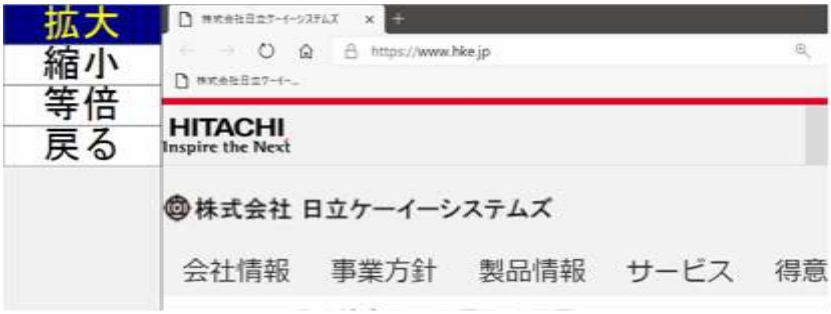
制限	Edge 画面が全て閉じている状態で、[Win 閉] を選択すると、Edge 画面が起動します。

ホームページ画面の拡大／縮小

制限 拡大／縮小の対象は、ホームページの内容です。Edge の検索入力欄や URL 入力欄などは拡大されません。

1 ブラウザ操作画面のトップメニューより[設定]を選択して、設定メニューに切り替えます。

2 [拡大]を選択すると、ホームページの画面が拡大します。



3 [縮小]を選択すると、ホームページの画面が縮小します。

4 「等倍」を選択すると、ホームページの画面サイズが 100%に戻ります。

ホームページ閲覧

デスクトップ画面の操作を行う（ウィンドウズ操作）

この機能を使うと、スイッチ入力だけでデスクトップ画面の操作が可能になります。システム装置の利用可能な機能が広がり、便利です。
この章では、この機能の操作方法について説明します。

ウィンドウズ操作の基本

始める／終わる

制限	ご購入時の設定では、Windows 操作はメインメニューにありません。220 ページの「ウィンドウズ操作機能のメニューを有効にする」を参照して、メインメニューに追加してください。
制限	操作するアプリによっては、操作ができない場合もあります。 初回起動時にその旨を表示した「承諾して起動しますか？」のメッセージ表示がありますので、[はい]を選択すると Windows 操作が起動します。[いいえ]を選択するとメインメニューに戻りますのでご注意ください。 「承諾して起動しますか？」のメッセージ表示を次回から表示したくない場合は、このメッセージ表示で[はい]を選択後の「次回からこのメッセージを表示しない」メッセージ表示で[はい]を選択してください。
制限	**タッチモードの場合** Windows 操作は使用できません。

■ Windows 操作を始める

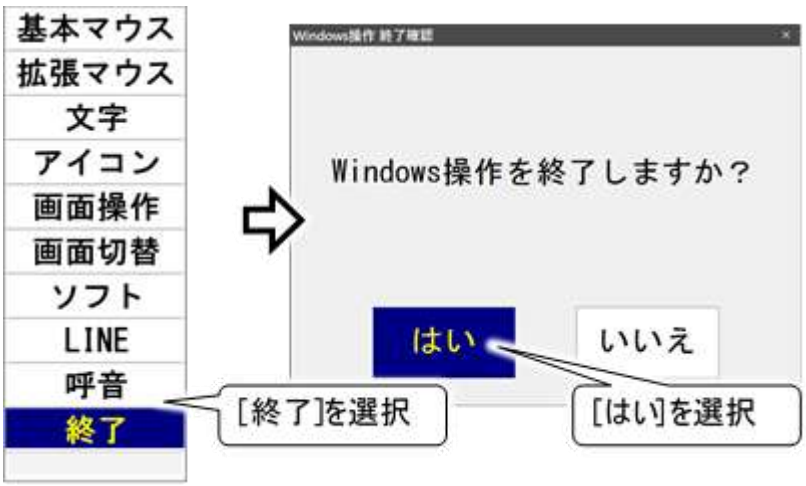
1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[応用操作]- [Windows 操作]を選択します。

2 Windows 操作画面がデスクトップ画面の左側に表示されます。

■ Windows 操作を終わる

1 Windows 操作画面のトップメニューより[終了]を選択すると、確認メッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

2 Windows 操作画面を終了して、「伝の心」トップ画面に戻ります。



文字を入力する

Windows 操作画面では、現在、操作の対象になっている画面（アクティブウィンドウ）に、文字を入力することができます。具体的な例は「テキスト文書（メモ帳）で文字入力を行う」で説明します。
ここでは、文字入力の基本操作を説明します。

文字盤の選択

1 Windows 操作画面のトップメニューより[文字]を選択すると画面下に文字盤が表示されます。
文字盤は「ひらがな文字盤」が表示されます。

Windows 操作画面のメニューは非表示になります。

2 この画面から文字盤を切り替える場合は、[盤]を選択して下さい。サブメニューが表示されるので、使用したい文字盤を選択します。

Windows 操作画面のトップメニューに戻る場合は[戻]を選択して下さい。

文字盤が閉じて、Windows 操作画面のメニューが表示されます。

参照	文字盤の種類については 77 ページの「カタカナ、英文字、数字、記号を入力する（文字盤の一覧）」で説明しています。 文字盤の機能については 88 ページの「文字盤の機能一覧」で説明しています。
補足	Windows 操作画面での文字入力では、一部動作しない機能があります（※文字の入力対象によって異なります）。詳細は 88 ページの「文字盤の機能一覧」を参照してください。

ウィンドウズ操作の基本

マウスを操作する

Windows 操作の基本には、マウス操作は欠かせません。
ここでは、Windows 操作画面におけるマウスの基本操作を説明します。

補足	マウス操作盤は、実際の表示は黒枠の表示はありませんが、色付きの部分以外は透明なので、説明の都合上、黒枠をつけて示しています。
制限	マウス操作盤の対象となるアプリによっては、実際のマウス操作と同じ動作を行わない場合があります。

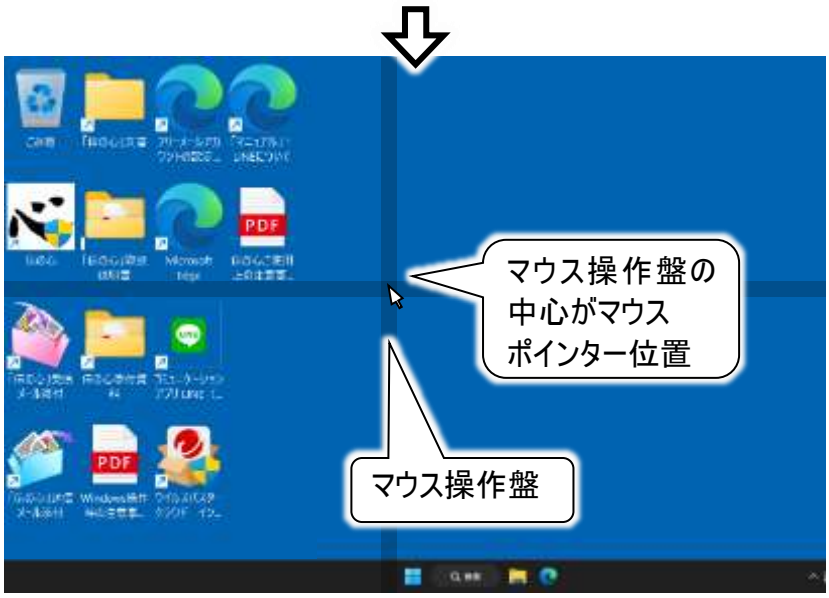
マウス操作盤の起動と終了

1 Windows 操作画面のトップメニューより[基本マウス]または[拡張マウス]を選択するとマウスポインターの位置にマウス操作盤が表示されます。

Windows 操作画面のメニューは非表示になります。

2 **【アローモードの場合】**
マウス操作盤は、4 方向または 8 方向の矢印を持ち、上から時計回りに矢印をスキャンし、矢印を 1 回ずつスキャンしたあと、中央の円をスキャンして、また、矢印のスキャンに戻ります。

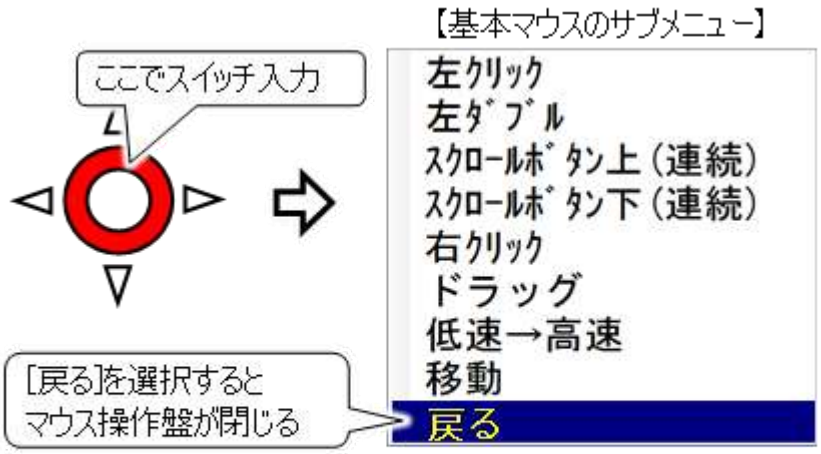
【クロスラインモードの場合】
マウス操作盤は、マウスポインター位置にて交わる縦横のラインになります。
現在のマウスポインター位置から横または縦方向に自動的に動いていきます。画面の端に到達した場合、折り返して移動します。



3

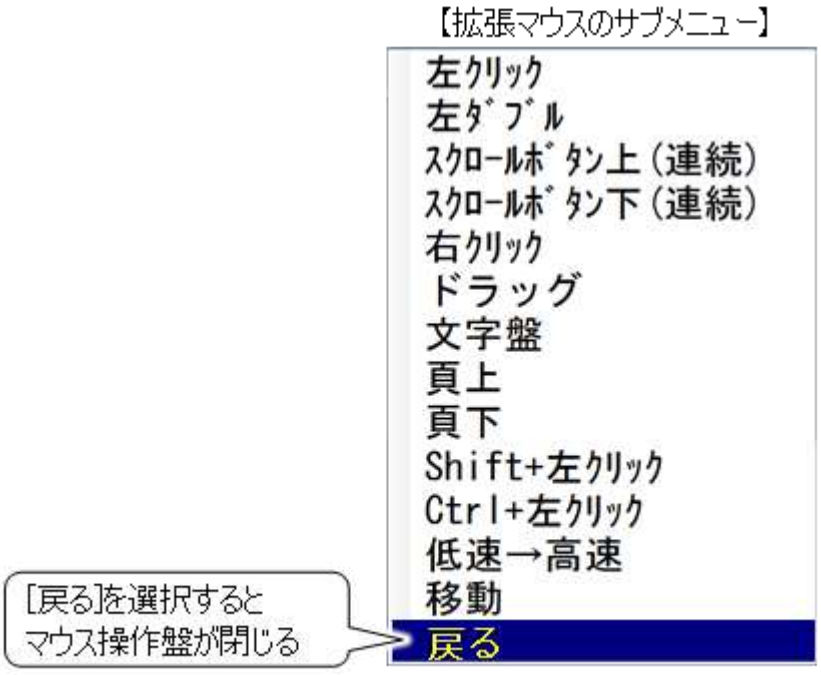
【アローモードの場合】
マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力すると、サブメニューを表示します。

【クロスラインモードの場合】
縦と横の移動を決定すると、サブメニューを表示します。



4

サブメニューから[戻る]を選択するとマウス操作盤が閉じます。Windows 操作画面のトップメニューが表示され、Windows 操作画面にスキャンカーソルが戻ります。



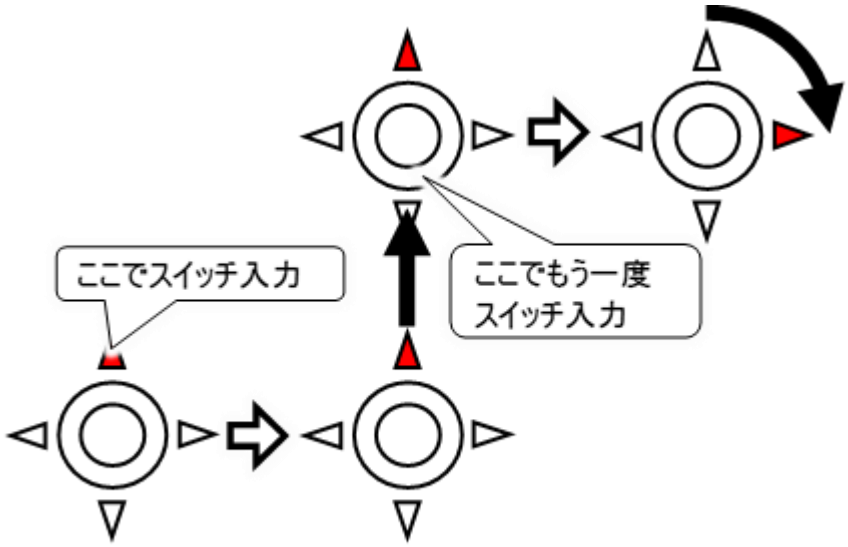
ウィンドウズ操作の基本

補足	**マウスのサブメニューについて** マウスのサブメニューの内容は編集することが可能です。ここでは、ご購入時の状態で記載しています。マウスのサブメニュー設定の方法は、283 ページの「マウス操作のサブメニュー設定」にて説明しています。
制限	**スクロールボタンについて** アプリによっては、ウィンドウがスクロールしない場合があります。

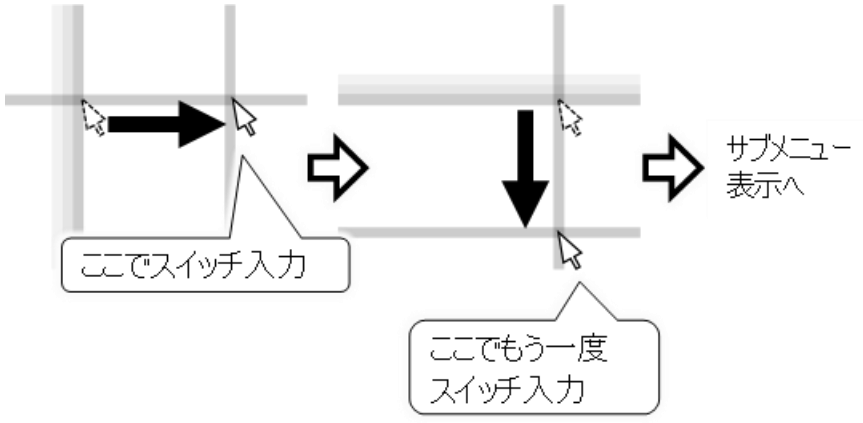
マウスの移動

1 Windows 操作画面のトップメニューより[基本マウス]または[拡張マウス]を選択してマウス操作盤を表示します。

2 **【アローモードの場合】**
マウス操作盤の 4 方向または 8 方向の矢印のいずれかにスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力すると、その方向にマウス操作盤が移動します。もう一度スイッチ入力すると、マウス操作盤の移動が停止して、矢印のスキャンに戻ります。



【クロスラインモードの場合】
縦または横のラインが自動的に動いている時にスイッチ入力すると、縦から横または横から縦にラインの移動が切り替わります。もう一度スイッチ入力すると、マウス操作盤の移動が停止して、サブメニューが表示されます。

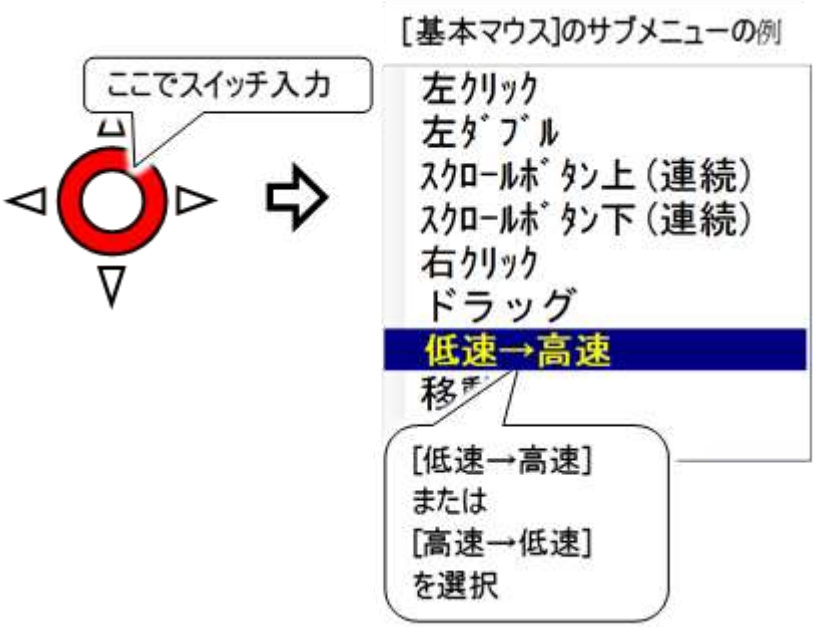


補足	**基本マウスと拡張マウスについて** サブメニューに表示される項目が違うだけで、マウス移動の手順は同じです。 サブメニューの内容は、変更することが可能です。設定の方法は、283 ページの「マウス操作のサブメニュー設定」にて説明しています。

補足	**4 方向の矢印と 8 方向の矢印について** 4 方向か 8 方向か選択することが可能です。設定の方法は、280 ページの「アローモードの設定」にて説明しています。
補足	**クロスラインモードの移動方向について** 縦から始まるか横から始まるかは選択することが可能です。設定の方法は 282 ページの「クロスラインモードの設定」にて説明しています。

マウス移動速度の変更

1 Windows 操作画面のトップメニューより[基本マウス]または[拡張マウス]を選択してマウス操作盤を表示します。



2 **【アローモードの場合】**
マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力すると、サブメニューを表示します。

【クロスラインモードの場合】
縦と横の移動を決定すると、サブメニューを表示します。

3 現在の速度が低速の場合は[低速→高速]、現在の速度が高速の場合は[高速→低速]のメニューが表示されるので、これを選択します。

4 現在の速度が低速の場合は高速に、現在の速度が高速の場合は低速になります。

5 **【アローモードの場合】**
クリック後は再度マウス操作盤のスキャンが始まります。

【クロスラインモードの場合】
クリック後は縦と横のマウスポインターの移動が自動的に始まります。

ウィンドウズ操作の基本

マウスクリック

1

Windows 操作画面のトップメニューより[基本マウス]または[拡張マウス]を選択して、マウス操作盤を表示します。

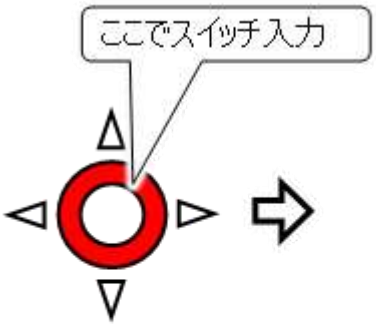
2

【アローモードの場合】

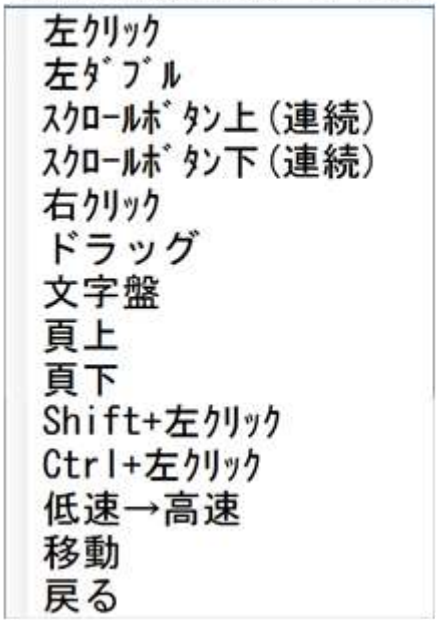
マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力すると、サブメニューを表示します。

【クロスラインモードの場合】

縦と横の移動を決定すると、サブメニューを表示します。



[拡張マウス]のサブメニューの例



3

[左クリック][左ダブル][右クリック][Shift+左クリック][Ctrl+左クリック]のいずれかを選択します。

サブメニュー	説明
左クリック	現在位置で左クリックを行います。
左ダブル	現在位置で左ダブルクリックを行います。
右クリック	現在位置で右クリックを行います。
Shift+左クリック	現在位置で「Shift」キーを押しながら左クリックを行います。
Ctrl+左クリック	現在位置で「Ctrl」キーを押しながら左クリックを行います。

4

【アローモードの場合】

クリック後は再度マウス操作盤のスキャンが始まります。

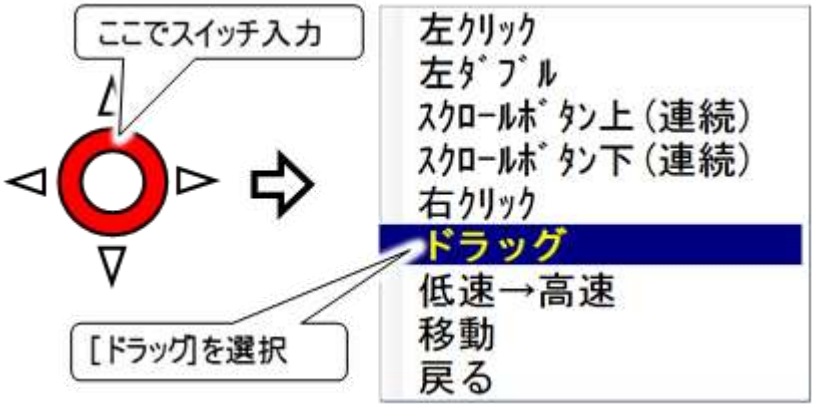
【クロスラインモードの場合】

クリック後は縦と横のマウスポインターの移動が自動的に始まります。

マウスドラッグ＆ドロップ

1 Windows 操作画面のトップメニューより[基本マウス]または[拡張マウス]を選択して、マウス操作盤を表示します。

2 **【アローモードの場合】**
マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力して、サブメニューから[ドラッグ]を選択します。

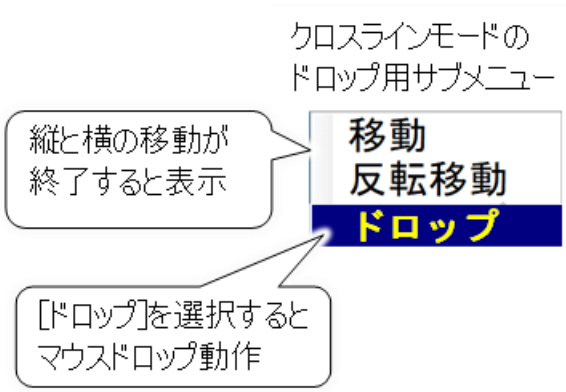


【クロスラインモードの場合】
縦と横の移動を決定すると、サブメニューが表示されるので、サブメニューから[ドラッグ]を選択します。
これで、現在位置でのマウスの左ボタンを押しっぱなしの状態になりました。（マウスドラッグ）

3 「マウスの移動」を参照して、マウス操作盤を移動させます。

4 **【アローモードの場合】**
マウスの移動が終わったら、マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力します。現在位置での、マウスの左ボタンを離す操作がされます。（マウスドロップ）

【クロスラインモードの場合】
縦と横の移動を決定すると、ドロップ用のサブメニューが表示されます。
サブメニューから[ドロップ]を選択すると、現在位置でのマウスの左ボタンを離す操作がされます。（マウスドロップ）
また[移動][反転移動]を選択すると、ドラッグ動作のままマウスの移動が再開します。

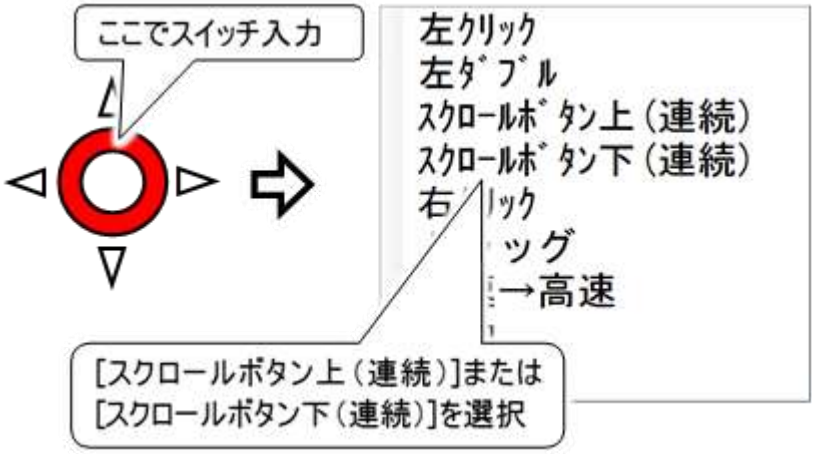


ウィンドウズ操作の基本

マウススクロール

1

Windows 操作画面のトップメニューより[基本マウス]または[拡張マウス]を選択して、マウス操作盤を表示します。



2

【アローモードの場合】

マウス操作盤の中央の円にスキャンカーソルがあるときにスイッチ入力して、サブメニューから[スクロールボタン上（連続）]または[スクロールボタン下（連続）]を選択します。

【クロスラインモードの場合】

縦と横の移動を決定すると、サブメニューが表示されるので、サブメニューから[スクロールボタン上（連続）]または[スクロールボタン下（連続）]を選択します。

3

再度スイッチ入力するまで、スクロールボタンに対応している画面でウィンドウが上または下にスクロールします。

制限

スクロールボタンについて

アプリによっては、ウィンドウがスクロールしない場合があります。

登録したプログラムを呼び出す

支援者用設定において登録しておいたプログラムを、呼び出すことが可能です。
登録の方法は、278 ページの「ウィンドウズ操作の設定（ソフト項目の登録）」にて説明しています。

注意

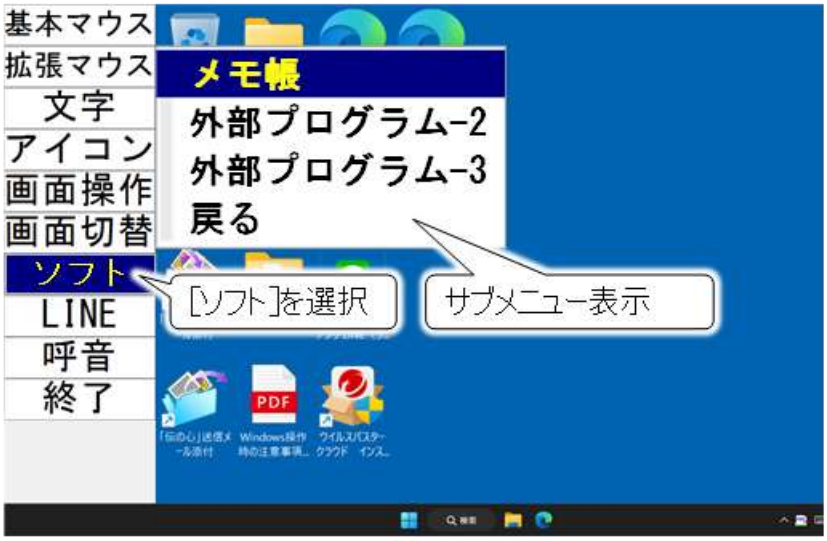
[伝の心を非表示にする]設定について

278 ページの「ウィンドウズ操作の設定（ソフト項目の登録）」にて[伝の心を非表示にする]にチェック を入れると、 [ソフト]にて呼びだした際に、**ウィンドウズ操作メニューを非表示にします。**呼び出したアプリが終了しないと、ウィンドウズ操作メニューが表示できません。またその間**スイッチでの操作はできませんのでご注意ください。**

この設定は、「伝の心」のスイッチ以外でウィンドウズ操作を行うアプリを[ソフト]に登録した場合などにご利用ください。

1 Windows 操作画面のトップメニューより[ソフト]を選択して、サブメニューを開きます。

2 ご購入時の設定は、何も登録されていません。右記は[メモ帳]（notepad）が登録されている場合です。

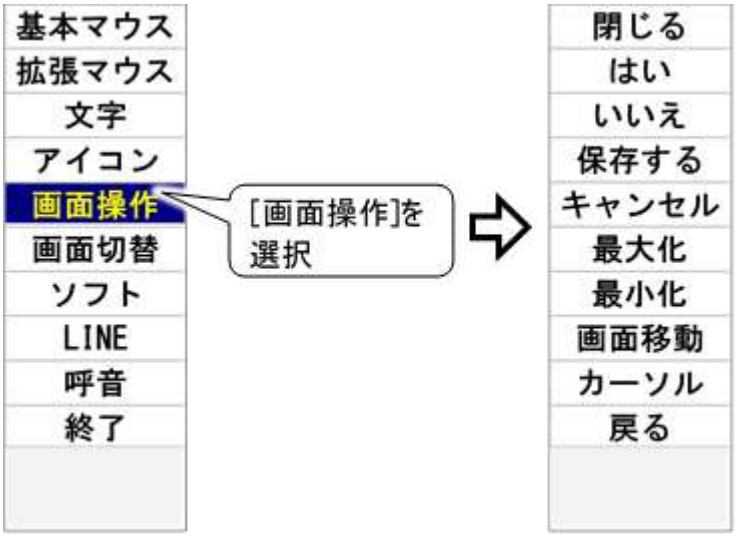


3 [メモ帳]を選択するとメモ帳が表示されます。

相手画面の位置や大きさを変える

現在、操作の対象になっている画面（アクティブウィンドウ）を操作することが出来ます。

1 Windows 操作画面のトップメニューより[画面操作]を選択すると、トップメニューが画面操作メニューに切り替わります。



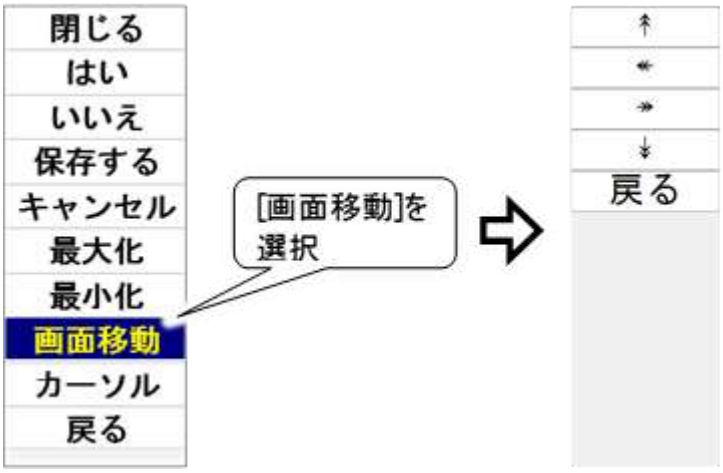
2 各項目の機能は下記の通りです。

画面操作メニュー	説明
閉じる	操作の対象になっている画面を終了します。
はい	操作の対象になっている画面にはいボタンがあった場合、はいボタンを押下する動作を行います。
いいえ	操作の対象になっている画面にいいえボタンがあった場合、いいえボタンを押下する動作を行います。
保存する	操作の対象になっている画面に保存するボタンがあった場合、保存するボタンを押下する動作を行います。
キャンセル	操作の対象になっている画面にキャンセルボタンがあった場合、キャンセルボタンを押下する動作を行います。 また、[Esc]キー押下と同じ機能を持ちます。
最大化	操作の対象になっている画面を最大化します。 すでに最大化されている場合、および最大化ボタンがサポートされていない画面の場合は通常画面に戻ります。
最小化	操作の対象になっている画面を最小化します。
画面移動	移動サブメニューに切り替えます。 操作の対象になっている画面を上下左右に動かします。
カーソル	カーソル移動サブメニューを表示します。 操作の対象になっている画面内のカーソルを上下左右に動かします。
戻る	ウィンドウ操作を終了し、トップメニューに戻ります。

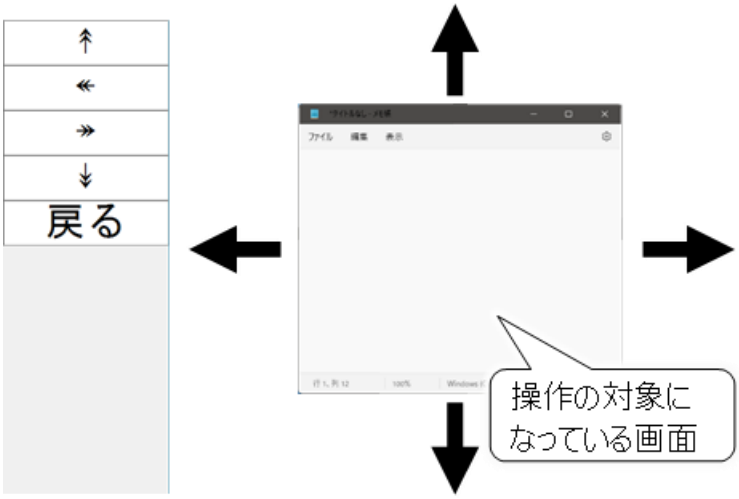
相手画面の位置や大きさを変える

画面の移動

1 ウィンドウ操作メニューより[画面移動]を選択すると、画面操作メニューが移動サブメニューに切り替わります。



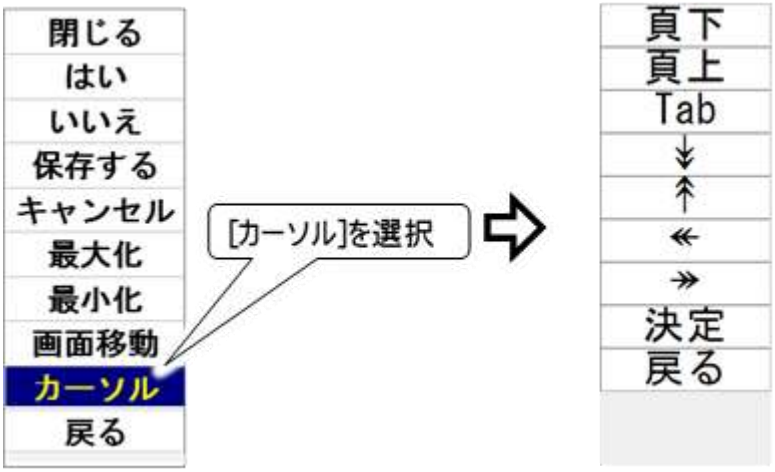
2 選択した矢印の方向に画面が移動します。



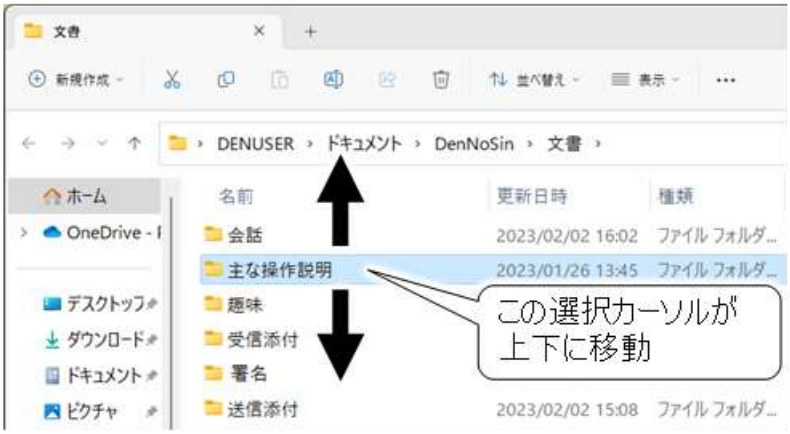
相手画面の位置や大きさを変える

カーソルの移動

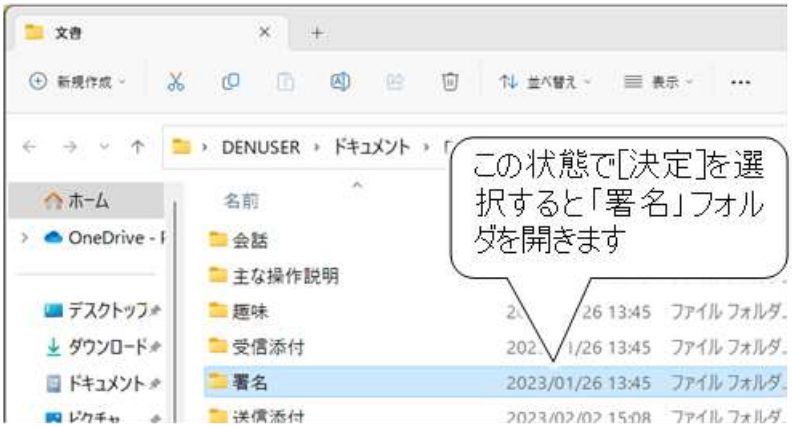
1 画面操作メニューより[カーソル]を選択すると、画面操作メニューがカーソル移動サブメニューに切り替わります。
選択項目は[頁下] [頁上] [TAB] [↑] [←] [→] [↓] [決定] [戻る]です。



2 [頁下][頁上]で操作の対象になっている画面内部のカーソルのスクロール、[↑] [←][→][↓]で、選択した矢印の方向にカーソルが移動します。



3 [TAB]で操作の対象になっている画面内部の選択の切り替え、[決定]で選択されているファイルやフォルダを開いたり、実行したりすることができます。



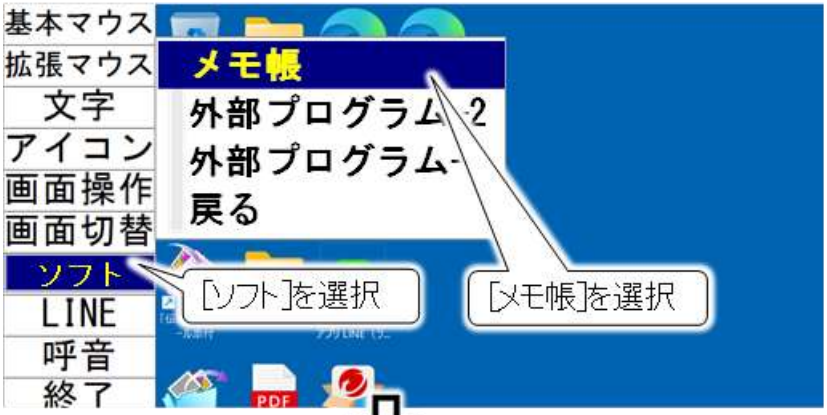
テキスト文書（メモ帳）で文字入力を行う

Windows 操作の機能を使って、メモ帳に文字を入力してみましょう。

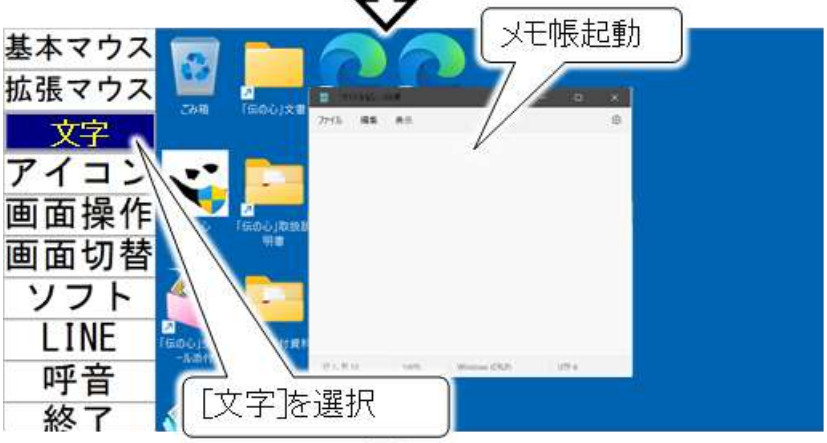
メモ帳の起動

1 278 ページの「ウィンドウズ操作の設定（ソフト項目の登録）」を参照して、メモ帳を登録します。

2 407 ページの「登録したプログラムを呼び出す」を参照して、メモ帳を呼び出します。



3 399 ページの「文字を入力する」を参照して、画面下に文字盤を表示します。



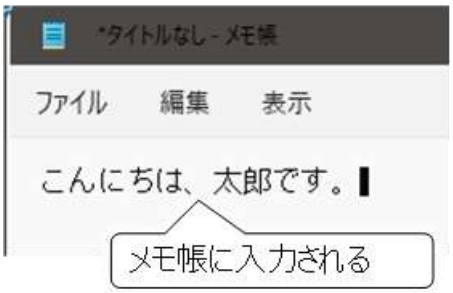
4 これで、メモ帳に文字データを入力する準備ができました。

テキスト文書（メモ帳）で文字入力を行う

文字盤からの文字入力

1 「ひらがな文字の入力（文字盤入力）」と「漢字入力の基本操作」を参照して、「こんにちは、太郎です。」と文字盤から入力します。

2 メモ帳に「こんにちは、太郎です。」と入力されました。



デスクトップのアイコンを簡単に選択して実行する

1 Windows 操作画面のトップメニューより[アイコン]を選択すると、トップメニューがアイコンスキャンメニューに切り替わります。デスクトップのアイコンが全て見えるように、現在表示されている画面が全て最小化されます。

2 アイコンスキャンメニューより[↟]または[↡]を選択すると、デスクトップのアイコンが下から上方向、または上から下方向に順次選択されていきます。目当てのアイコンのところでもう一度スイッチを入力すると、アイコン選択の移動はそこで停止します。

3 アイコンスキャンメニューより[実行]を選択すると、選択したアイコンを実行します。
また、アイコンスキャンメニューはトップメニューに戻ります。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)(以下 LINE と略します。)を利用するために、まず、最初に次の手順でインターネットの設定、LINE のインストールを行います。

補足	**LINE のセットアップについて** マウス操作盤にて、「伝の心」側のセットアップは可能ですが、「伝の心」以外の操作も必要となります。 必ず支援者の方と一緒に行ってください。

1 「新しいネットワークのセットアップ」等を利用して、インターネットに接続可能な環境を構築します。

制限	インターネットに接続可能な環境の構築は、ご契約のインターネット接続業者より受け取られた設定資料に基づいて、行ってください。不明点は、ご契約のインターネット接続業者にお問い合わせください。
制限	ネットワーク接続機器(モデム・ルーター・ハブ等)をご使用になる場合は、それぞれの機器について設定が必要です。ネットワーク接続機器の不明点は、ご購入先にお問い合わせください。

2 デスクトップのショートカットアイコン「「マニュアル」:LINE について」をダブルクリックします。

3 「伝の心」Web サイトの「機能別マニュアル」が開きます。

「伝の心」Web サイトの「機能別マニュアル」にて「LINE について」をクリックします。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

4 LINE のインストール方法や設定方法などが記載されているマニュアルが表示されます。

5 記載内容を参考にして、LINE をセットアップしてください。また、Windows 操作のメニュー[LINE]から LINE を使用する場合、幾つかの注意事項と制限事項がありますので、下記ご一読ください。

制限	**LINE の操作支援について** Windows 操作のメニュー[LINE]で表示される LINE 文字盤は、LINE の操作を支援いたしますが、LINE の操作を保障するものではありません。LINE のバージョンによっては本書に記載されている通りに動作しないこともあります。
注意	**ログイン画面について** 自動ログインを設定していても、明示的にログアウトしたり、ネットワークエラーでログイン失敗したり、アップデートなどの理由で LINE アプリを再起動した時は、LINE 起動時にログイン画面が表示されます。 表示された文字盤からパスワード入力後、LINE 文字盤の[決]を選択してログインしてください。
制限	友だちに追加したい相手には、LINE ID と、ID による友だち追加を許可の設定を、相手側で事前に行ってもらってください。
注意	**投稿する相手を確認しましょう** トークの相手が正しいかどうか、投稿する前に確認しましょう。 LINE 画面右側の友だちリストまたはトークルームリストの背景に色がついている相手が現在のトークの相手となります。
制限	LINE 操作画面に文字が残っている場合、トークルームや友達の変更ができません。また、スタンプ画面が表示できない場合があります。一度 LINE 操作画面の文字を空にして[👤]や[💬]、[☺]を選択してください。
補足	**LINE のタイムラインについて** タイムラインの投稿や公開設定はマウス操作になりますので、ご自身でマウス操作盤にて行うか、支援者の方に行ってもらってください。
補足	**LINE の設定について** LINE 画面左下の「・・・」アイコンから表示されるメニューに「設定」があります。ここから LINE の設定画面が表示可能です。
注意	**トーク履歴の保存期間について** トーク履歴の保存期間は 1 ヵ月程度です。古いトークの内容は順次削除されていきます。ご注意ください。 トーク履歴をテキストファイルとして保存する方法は LINE のヘルプセンターでご確認ください。LINE のヘルプセンターの表示方法は 426 ページの「LINE のヘルプを表示する」を参照ください。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

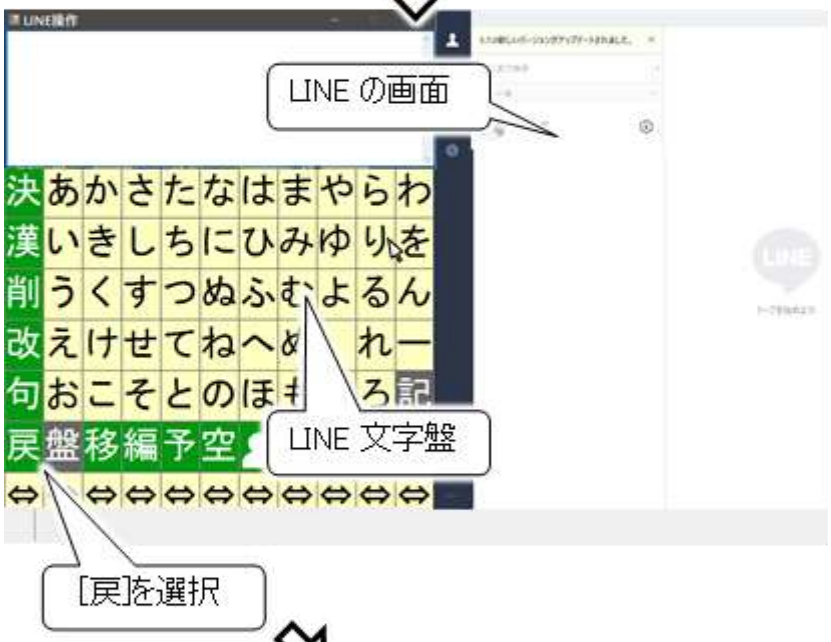
LINE の起動と終了

Windows 操作からの起動と終了

1 Windows 操作画面のトップメニューより[LINE]を選択すると、LINE 操作画面と LINE 文字盤が表示され、LINE が起動します。

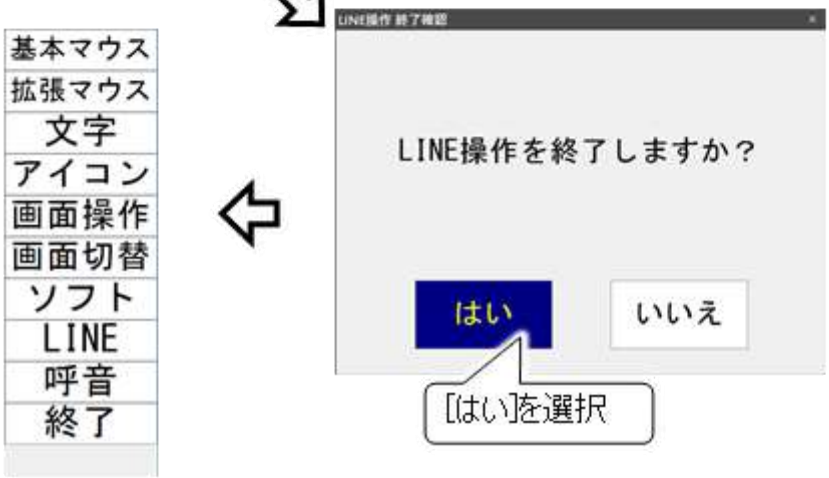
Windows 操作画面のメニューは非表示になります。

2 Windows 操作画面のメニューに戻る場合は、LINE 文字盤の[戻]を選択します。



3 確認画面が表示されるので、[はい]を選択します。

4 LINE 操作画面を終了して、Windows 操作画面のメニューに戻ります



コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

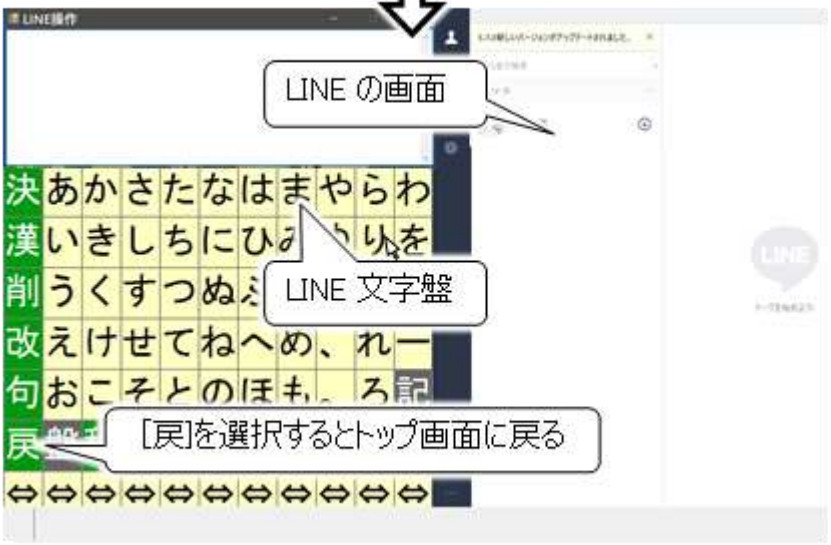
メインメニューからの起動と終了

支援者用設定において、メインメニューから LINE 操作画面を呼び出す設定を行うことが可能です。
設定の方法は、221 ページの「電子メール機能・LINE 操作機能のメニューを表示する」にて説明しています。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[LINE]を選択すると、LINE 操作画面と LINE 文字盤が表示され、LINE が起動します。

2 「伝の心」トップ画面に戻る場合は、LINE 文字盤の[戻]を選択します。

3 確認画面が表示されるので、[はい]を選択すると、LINE 操作画面を終了して、「伝の心」トップ画面に戻ります。



制限

LINE 画面が表示される前に、起動中のメッセージで「戻る」ボタンを選択すると、「伝の心」トップ画面に戻りますが、「伝の心」トップ画面の上に LINE 画面が表示される場合があります。その状態でも伝の心の操作は可能です。
また、何かメニューを選択することによって LINE 画面の表示が後になりますので、そのまま操作可能です。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

LINE の友だち追加

LINE の友だち追加の一例（LINE ID で検索して友だち追加）を下記に説明します。

制限	友だちに追加したい相手には、LINE ID と、ID による友だち追加を許可の設定を、相手側で事前に行ってもらってください。 年齢確認の表示がされる場合は、スマホ版の LINE の設定から「年齢確認」をタップして「年齢確認」を行ってください。PC 版 LINE のみで行っている場合は、デスクトップの「LINE について」から参照される機能別マニュアル「LINE について」に対応方法が記載されておりますのでご確認ください。
制限	**タッチモードの場合** LINE 文字盤に[👤+]（人型のアイコンは表示されません。LINE 画面の友だち追加アイコンを直接クリックしてください。

1 416 ページの「LINE の起動と終了」を参照して LINE 操作画面を表示したら、
LINE 文字盤の[👤+]（人型のアイコンに+マーク）を選択します。

2 文字盤と LINE 操作画面が非表示になり、右側 LINE 画面に「友だち追加リスト」が表示されます。
また、マウス操作盤が表示され、マウス操作が可能になります。

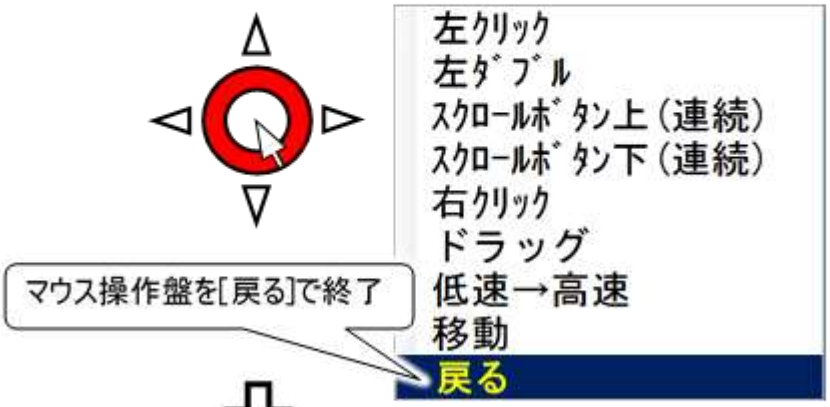
3 LINE 画面の上部「友だち検索」にマウスポインターを合わせて、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択してください。

マウス操作盤の使用方法は、400 ページの「マウスを操作する」を参照ください。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

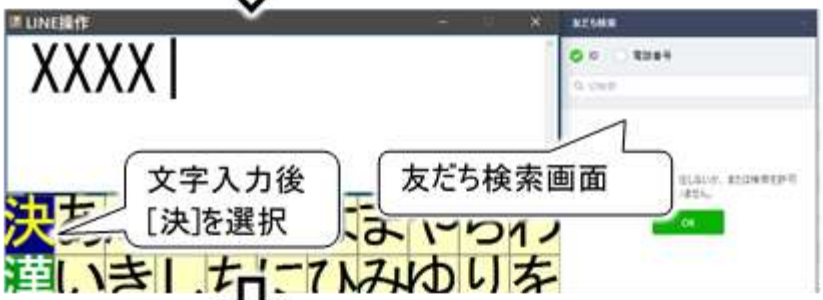
4 友だち検索画面が表示されますので、「ID」にチェック☑が入っていない場合には、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択して入れます。

5 マウス操作盤のサブメニューより[戻る]を選択して、マウス操作盤を終了させます。

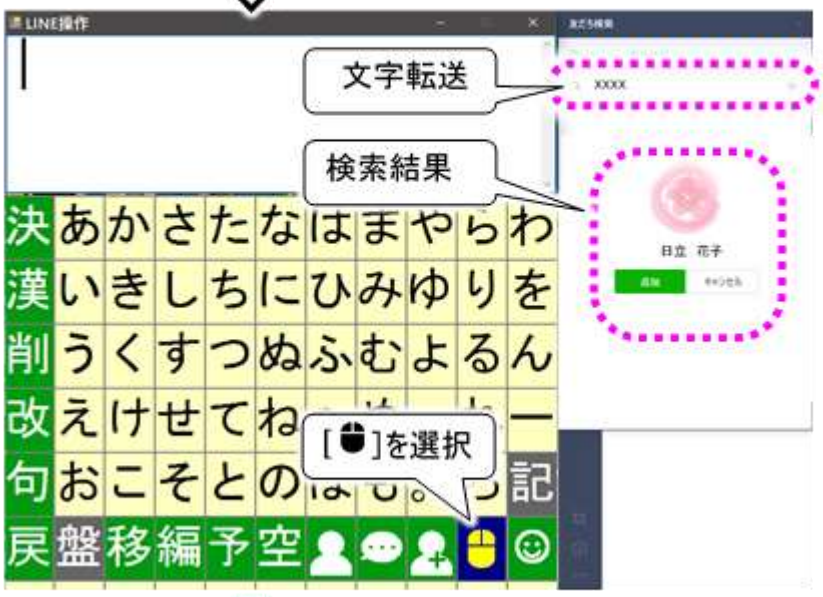


6 LINE 文字盤と LINE 操作画面が再び表示されるので、追加したい友だちの LINE ID を文字盤で入力します。

文字入力の方法については、68 ページの「文字入力の基本操作」を参照ください。



7 文字入力後、LINE 文字盤より[決]を選択すると、LINE 操作画面の文字が友だち検索画面に転送されます。



8 検索結果が友だち検索画面に表示されますので、LINE 文字盤の[ ](マウスのアイコン)を選択してマウス操作盤を表示します。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

補足

友だち検索画が画面の裏に表示される場合

LINE のバージョンによっては、LINE 操作画面の文字が友だち検索画面に転送された後、友だち検索画面が非表示（実際には LINE 画面の裏にあります）になる場合があります。[ ]（マウスのアイコン）や[ ]（人型のアイコンに+マーク）を選択すると再表示されますので、操作を続けることが可能です。

9 友だち検索画面の追加ボタンにマウスポインターを合わせて、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択すれば、友だちリストに追加されます。

10 友だち検索を途中で止めたり、友だち追加後、友だち検索画面やホーム画面などが LINE 画面の左に残っていたりする場合は、
友だち検索画面やホーム画面右上の「×」を、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択して閉じてください。

11 LINE 画面の左に画面が残っていないことを確認して、マウス操作盤のサブメニューより[戻る]を選択して、文字盤に戻ってください。

補足

電話番号検索について

ID 以外にも、相手の電話番号で友だち追加が可能です。
この場合、友だちに追加したい相手には、LINE の「設定＞友だち＞友だちへの追加を許可」の設定を、相手側で事前に行ってもらってください。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

LINE の友だちリストからトークを開始する

友だちを追加したら、友だちリストからトークを始められます。

1 416 ページの「LINE の起動と終了」を参照して LINE 操作画面を表示したら、LINE 文字盤の[👤](人型のアイコン)を選択します。

右側の LINE 画面は、友だちリストが表示されます。

2 文字盤側はサブメニューが表示されるので[↑]または[↓]を選択すると、友だちリストの選択位置が上または下に順次移動していきます。

3 トークしたい相手のところでスイッチ入力すると、選択位置の移動は止まり、右下に投稿画面が表示されます。

4 右下に投稿画面が表示されない場合は、418 ページの「LINE の友だち追加」を参照して LINE 文字盤の[🖱](マウスのアイコン)を選択してマウス操作盤を表示し、右側 LINE 画面の トーク ボタンにマウスポインターを合わせて、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択すれば、右下に投稿画面が表示されます。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

LINE のトークルームリストからトークを開始する

友だちリストからトークを開始したら、次回からはトークルームリストの選択でトークが行えます。

制限	LINE 操作画面に文字が残っている場合、トークルームや友達の変更ができません。一度 LINE 操作画面の文字を空にして[👤]や[💬]を選択してください。

1

416 ページの「LINE の起動と終了」を参照して LINE 操作画面を表示したら、LINE 文字盤の[💬]（吹き出しのアイコン）を選択します。

右側の LINE 画面は、トークルームリストが表示されます。

2

文字盤側はサブメニューが表示されるので[↟]または[↡]、を選択すると、トークルームリストの選択位置が上または下に順次移動していきます。

トークしたい相手のところでスイッチ入力すると、選択位置の移動は止まります。

また、[先頭][末尾]を選択すると、トークルームリストの先頭または末尾に選択位置が移動します。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

LINE で文字入力して投稿する

421 ページの「LINE の友だちリストからトークを開始する」や 422 ページの「LINE のトークルームリストからトークを開始する」を行って、LINE 画面の右下に投稿画面が表示されている状態では、文字盤より文字入力を行い、投稿することができます。

注意

投稿する相手を確認しましょう

トークの相手が正しいかどうか、投稿する前に確認しましょう。
LINE 画面右側の友だちリストまたはトークルームリストの背景に色がついている相手が現在のトークの相手となります。

1 投稿したい内容を文字盤で入力します。

文字入力の方法については、68 ページの「文字入力の基本操作」を参照ください。

2 文字入力後、LINE 文字盤より[決]を選択すると、LINE 操作画面の文字が投稿画面に転送され、投稿されます。

注意

未確定文字列について

LINE 操作画面の未確定文字列が2行に渡る場合、未確定文字が文字盤の下に隠れてしまう場合があります。
未確定文字は、小まめに変換/確定を行ってください。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

LINE でスタンプを投稿する

421 ページの「LINE の友だちリストからトークを開始する」や 422 ページの「LINE のトークルームリストからトークを開始する」を行って、LINE 画面の右下に投稿画面が表示されている状態では、スタンプも投稿することができます。

制限	LINE 操作画面に文字が残っている場合、スタンプ画面が表示できない場合があります。一度 LINE 操作画面の文字を空にして[☺]を選択してください。
制限	**タッチモードの場合** LINE 文字盤に[☺]は表示されません。LINE 画面スタンプアイコンを直接クリックしてスタンプ画面を表示させてください。

1 416 ページの「LINE の起動と終了」を参照して LINE 操作画面を表示したら、LINE 文字盤の[☺](顔のアイコン)を選択します。

2 文字盤と LINE 操作画面が非表示になり、スタンプリストが表示されます。
また、マウス操作盤が表示され、マウス操作が可能になります。

3 マウス操作盤のサブメニューから[スクロールボタン上(連続)]または[スクロールボタン下(連続)]を選択して、スタンプリストがスクロールします。

4 投稿したいスタンプにマウスポインターを合わせて、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択すれば、スタンプが投稿されます。

5 マウス操作盤のサブメニューより[戻る]を選択すると、LINE 文字盤に戻ります。

LINE で絵文字を投稿する

424 ページの「LINE でスタンプを投稿する」と同様にして、絵文字も投稿することができます。

制限	LINE 操作画面に文字が残っている場合、スタンプ画面が表示できない場合があります。一度 LINE 操作画面の文字を空にして[☺]を選択してください。
制限	**タッチモードの場合** LINE 文字盤に[☺]は表示されません。LINE 画面スタンプアイコンを直接クリックしてスタンプ画面を表示させてください。

1 424 ページの「LINE でスタンプを投稿する」を参照して、スタンプリストとマウス操作盤を表示します。

2 スタンプリストの上部「絵文字」タブにマウスポインターを合わせて、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択して、スタンプリストを絵文字リストに切り替えます。

3 入力したい絵文字にマウスポインターを合わせ、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択すれば、投稿画面に絵文字が入力されます。

4 次に、マウス操作盤のサブメニューより[戻る]を選択して、LINE 文字盤に戻ります。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

5 文字盤から[改]→[改行１回]を選択して改行を入力後、[決]を選択すると、投稿画面の絵文字が投稿されます。

LINE のヘルプを表示する

LINE の使用方法や機能の説明は LINE のヘルプセンター（※ブラウザが起動します。）で確認できます。ヘルプセンターの表示方法をご紹介します。

制限

タッチモードの場合

LINE 文字盤に[ ]（マウスのアイコン）は表示されません。LINE 画面を直接クリックして操作してください。

1 416 ページの「LINE の起動と終了」を参照して LINE 操作画面を表示したら、
LINE 文字盤の[ ]（マウスのアイコン）を選択してマウス操作盤を表示します。

2 LINE 画面左下の「･･･」アイコンにマウスポインターを合わせ、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]してメニューを表示します。

コミュニケーションアプリ LINE(ライン)を使う

3 表示されたメニューから、「ヘルプ」にマウスポインターを合わせ、マウス操作盤のサブメニューより[左クリック]を選択すると、ブラウザが起動して LINE のヘルプセンターが表示されます。

補足

LINE の設定について

LINE 画面左下の「・・・」アイコンから表示されるメニューに「設定」があります。
ここから LINE の設定画面が表示可能です。

保守ツールを使う

ここでは、支援者の方によるデータのバックアップ、「伝の心」のソフトウェアのリセット、データの削除などの高度な操作について説明します。
ツールの操作は、本章に記載の注意事項をよく確認して行ってください。
ここでの操作は全てマウスで行います（スイッチ操作はできません）。

保守ツールについて

保守ツールについて

ここでの設定は、支援者の方にマウス操作で設定して頂きます。まず下記の手順で、支援者用設定画面を表示させてください。

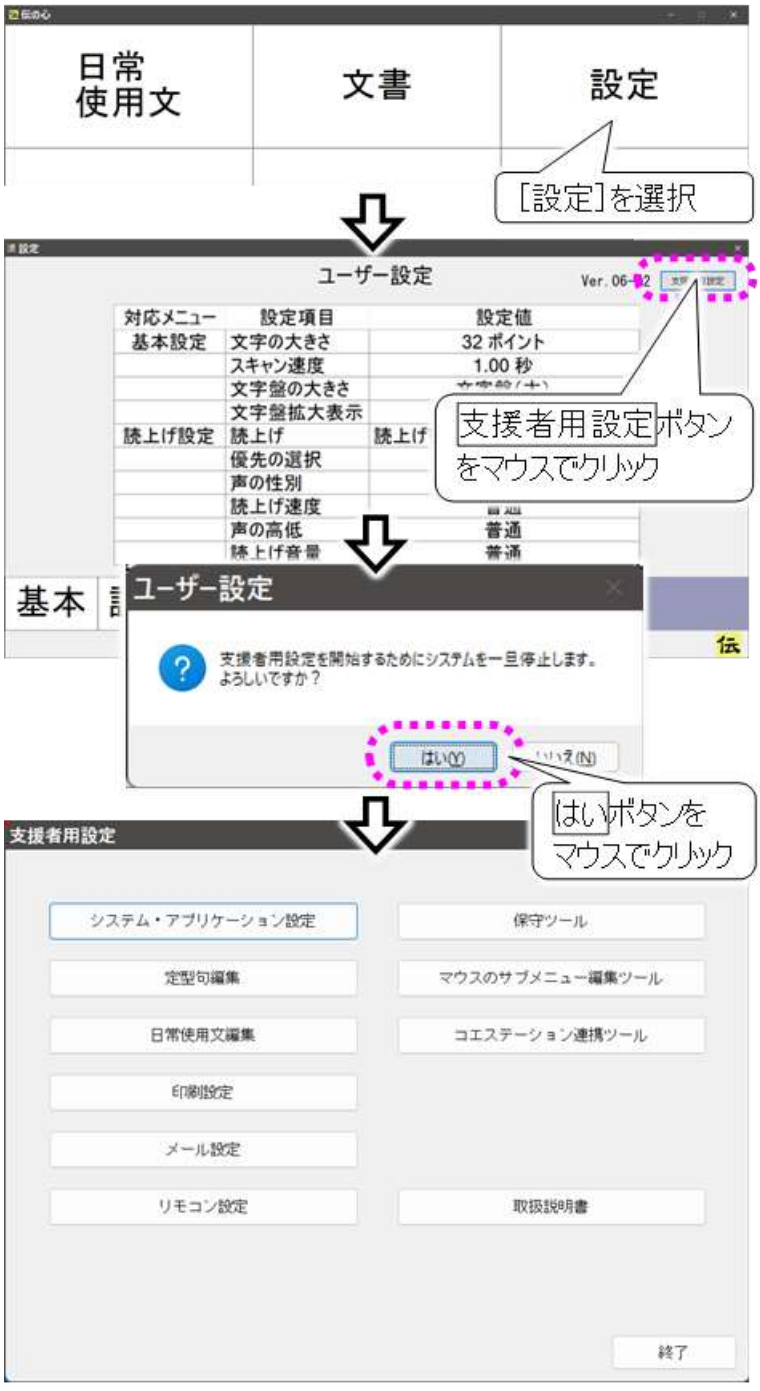
制限	伝の心設定画面を表示する前に、メインメニュー以外の画面を全て終了させてください。([終了]メニューを選択)終了していないと、終了を促す確認メッセージが表示され、伝の心設定画面は表示されません。

1 「伝の心」トップ画面のメインメニューより[設定]を選択します。

2 伝の心設定画面が表示されるので、画面右上の支援者用設定ボタンをマウスでクリックしてください。

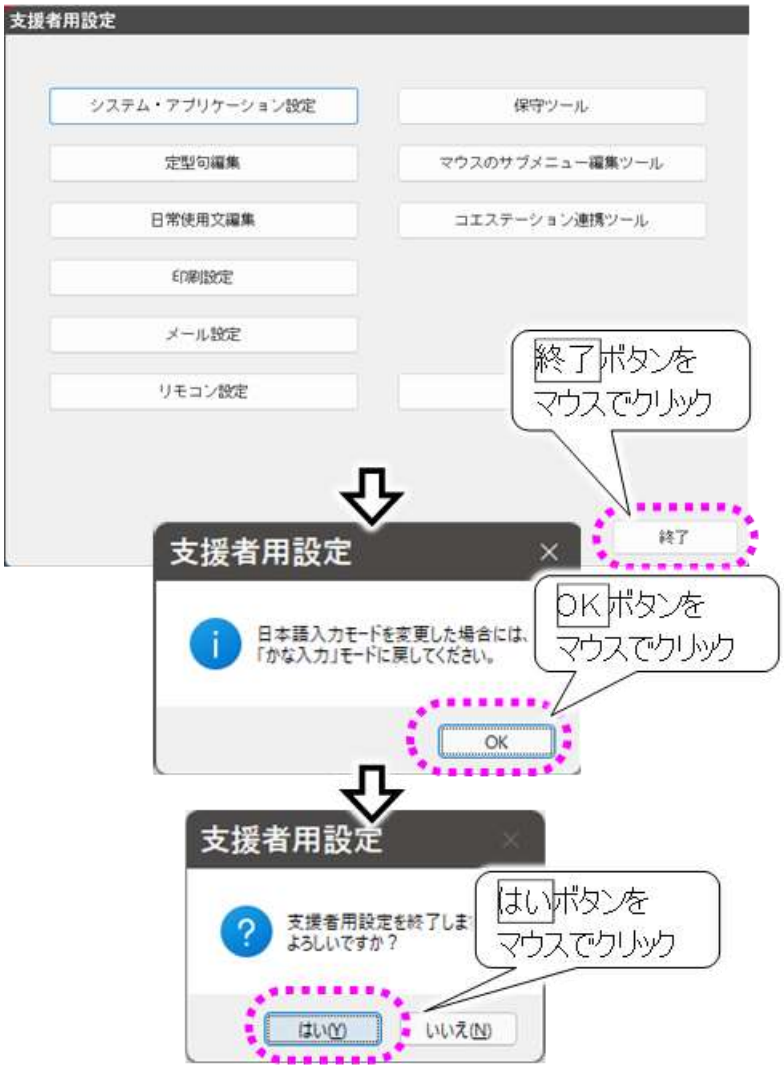
3 確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。

4 支援者用設定画面が表示されます。



5 支援者用設定画面を終了するときは、終了ボタンをマウスでクリックしてください。

6 確認画面が表示されるので、OK→はいボタンを順にマウスでクリックしてください。支援者用設定画面が閉じて、設定が反映されます。



7 設定中は「設定を反映しています。しばらくお待ちください」画面を表示します。

制限

入力モード「ローマ字入力／かな入力」について

マウス操作で文字入力をする場合、入力モードは「かな入力」になっています。このモードを「ローマ字入力」に変更した場合は、**「かな入力」に必ず戻してください。**「伝の心」の文字盤は入力モードが「かな入力」でないと、正常に動作しません。

保守ツールについて

保守ツールで出来る事

■ ユーザーデータのバックアップ

ユーザーが作成した「伝の心」に関するデータを任意のタイミングで外部メモリに保存できます。

■ 伝の心を出荷時の状態に戻す

「伝の心」のソフトウェアを出荷時の状態に戻します。
「伝の心」のソフトウェア内で設定した設定を全て出荷時の状態に戻します。
ユーザーが作成した「伝の心」に関するデータを削除します。

この機能は、以下の場合にお使いください。

・「伝の心」からエラーメッセージが表示され、明らかにソフトウェアが壊れていると思われる時。
・何らかの理由で「伝の心」のソフトウェアの一部を削除してしまった場合。
・「伝の心」の設定を最初からやり直したい時。

制限	出荷時の状態に戻るファイル等は、伝の心のソフトウェアに関するもののみで、システム装置の設定等は戻りません。出荷時の状態に戻すファイルの詳細は 443 ページの「出荷時の状態に戻すファイルについて」をご参照ください。
制限	システム装置の設定変更に起因した不具合は、「伝の心」ソフトウェアを出荷時の状態に戻すことで解消されません。
制限	不具合が発生している場合、「伝の心」ソフトウェアを出荷時の状態に戻すことで、不具合が解決しない場合もございます。またそれを保証するものではありませんのであらかじめご了承ください。

■ メールの一時ファイルのリセット

メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を削除して、再作成することができます。
メールのファイルの閲覧、移動、削除などのファイル操作ができなくなった場合に有効な場合があります。

■ メールアドレスの一括登録

メールアドレス登録ツールを使用して指定したアカウントにメールアドレスを 100 件までまとめて追加することができます。
事前にメールアドレスのリストを CSV ファイル形式にて作成することが必要ですが、初めて「伝の心」のメールを使用する場合、以前使っていたメールソフトのアドレス帳などを CSV ファイル形式にまとめることができれば、簡単に登録できるので便利です。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

ユーザーデータの取り扱い時は、下記注意事項を必ずご確認ください。

補足

ユーザーデータをバックアップする方法について

定期的にバックアップする場合

225 ページの「バックアップの設定を行う」にて伝の心の終了時に定期的にバックアップを行う設定が可能です。

今すぐバックアップする場合

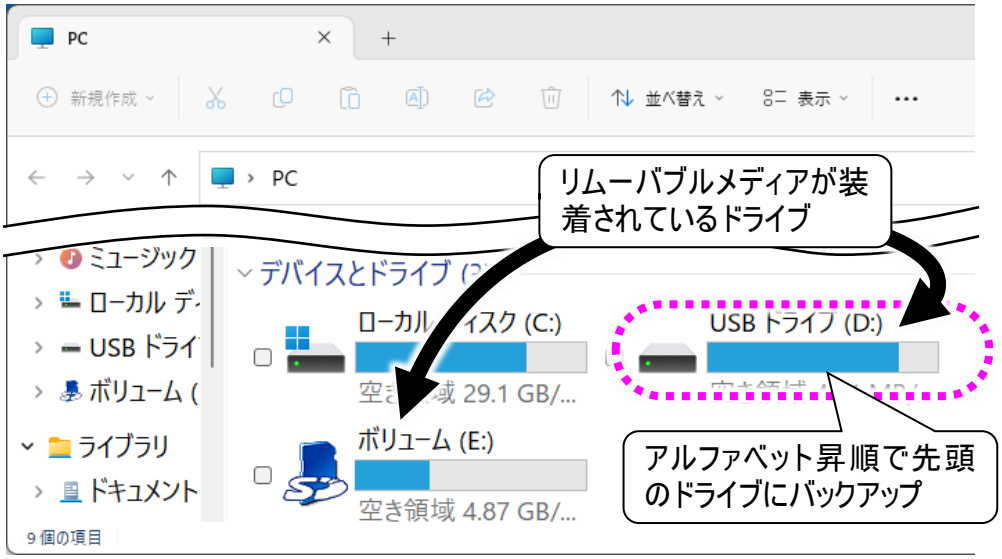
保守ツールにて、伝の心の終了時に定期的にバックアップを行う保存先に保存可能です。詳細は 436 ページの「保守ツールからのバックアップ」を参照ください。

また、バックアップツールを用いて行うと、保存場所を指定できます。詳細は 437 ページの「バックアップツールを使用したバックアップ」を参照ください。

補足

USB メモリをバックアップ先にした場合のバックアップ先ドライブについて

定期的にバックアップする場合、保守ツールからバックアップする場合、バックアップ先は、**最初に見つかった書き込み可能なリムーバブルメディアの装着されているドライブ**です。下の図では、リムーバブルメディアが装着されているドライブは「D:」と「E:」で、「伝の心」はアルファベット昇順で検索するので、バックアップ先のドライブは「D:」となります。



※バックアップツールを使ってバックアップする場合は、保存先を指定できます。

制限

伝の心のユーザーデータをバックアップする機能は、バックアップメディアのデータを保証するものではありません。バックアップメディアに記録されたデータの破壊、消失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

制限

バックアップデータが USB メモリの容量よりも大きくなった場合は、別途容量の大きい USB メモリをご購入ください。但し、お客様がご購入された USB メモリに関する保証は、いかなる場合もその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

制限

DVD にバックアップされたデータをリストアすると、ユーザーデータの属性が「読み取り専用」になってしまうので、**DVD にユーザーデータをバックアップしないでください。**

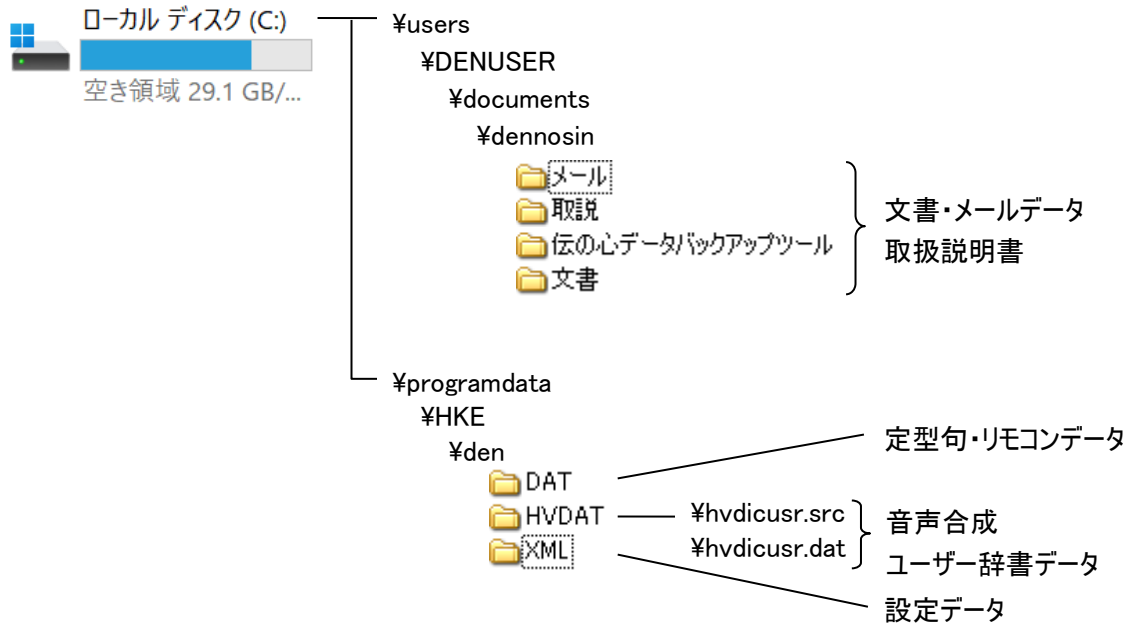
ユーザーデータのバックアップ・リストア

バックアップするデータについて

バックアップするデータは下記の通りです。

- 「伝の心」の「文書」「メール」「定型句」「リモコン」のデータ
- 「伝の心」取扱説明書（電子マニュアル）
- 音声合成ユーザー辞書データ
- 「伝の心」各種設定データ

バックアップ元のファイル構成



制限

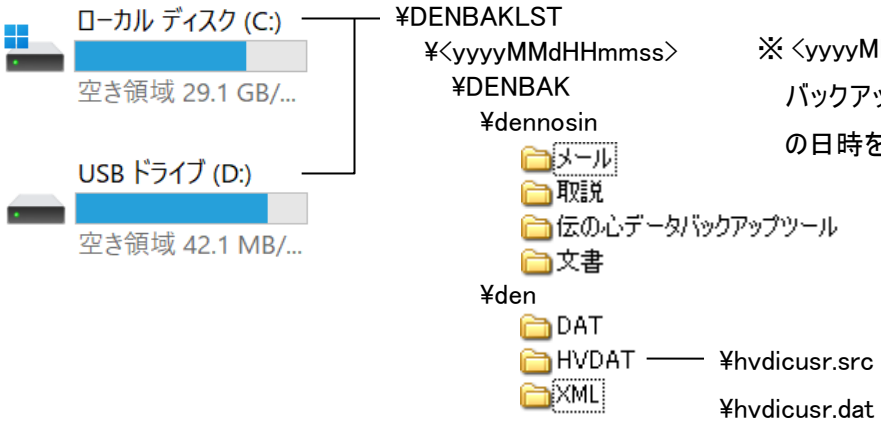
予測入力の設定について

予測入力の設定は、MicrosoftIME の設定を直接変更しているため、設定をバックアップできません。リストアツール等で他の設定を戻した場合は、292 ページの「予測入力を使う」を参照して設定を確認し、必要であれば再設定を行ってください。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

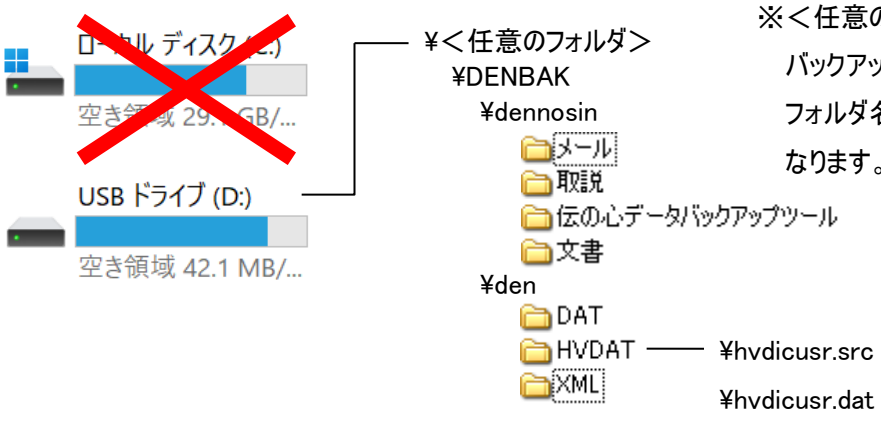
バックアップ先のファイル構成

「伝の心」終了時・または保守ツールからのバックアップ先



※<yyyyMMdHHmmss>は
バックアップ処理実行時
の日時を示します。

バックアップツールを使った場合のバックアップ先



※<任意のフォルダ>は
バックアップツールで指定した
フォルダ名またはドライブ名と
なります。

制限	**バックアップツールを使った場合の保存先制限について** バックアップツールを使用してバックアップを行う場合は、「C:」ドライブを指定することができません。外付けのリムーバルメディアを指定ください。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

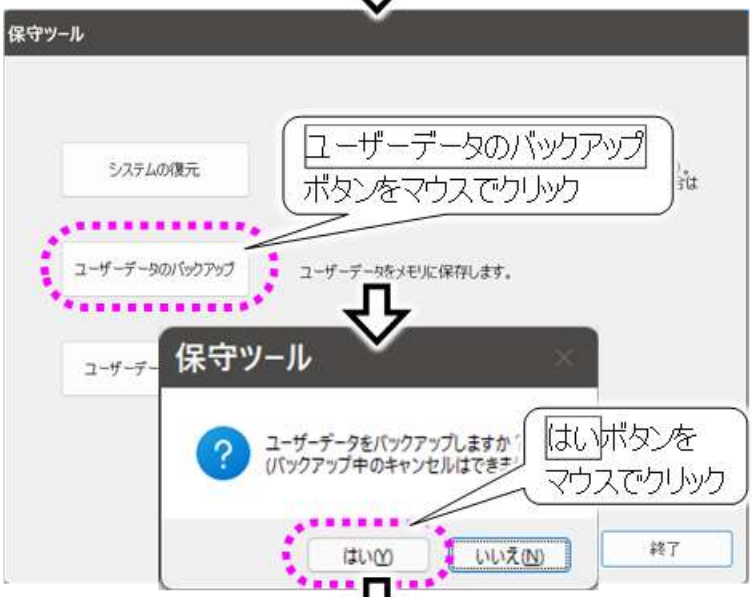
バックアップの実行

保守ツールからのバックアップ

1 430 ページの「保守ツールについて」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の保守ツールボタンをマウスでクリックすると、保守ツール画面が表示されます。

3 ユーザーデータのバックアップボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。



4 ユーザーデータのバックアップが始まります。

5 バックアップが終了すると、終了メッセージが表示されますので、OKボタンをマウスでクリックしてください。
保守ツール画面に戻ります。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

伝の心終了時のバックアップ

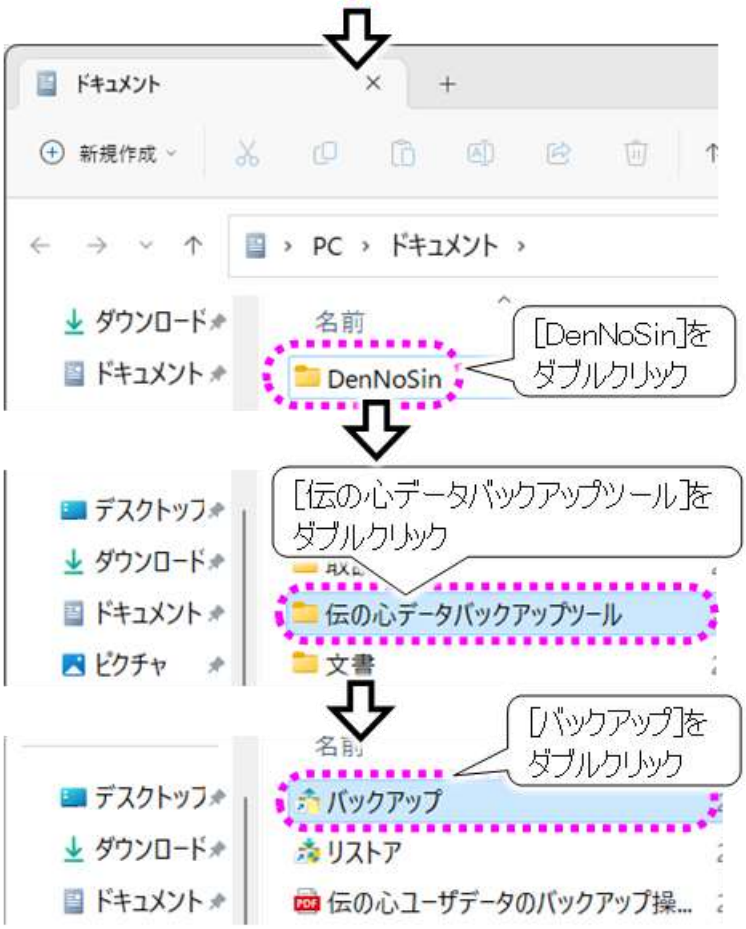
伝の心の終了時に定期的に、または任意の終了時にバックアップを行う設定が可能です。225 ページの「バックアップの設定を行う」をご参照ください。

バックアップツールを使用したバックアップ

システム装置は起動したが「伝の心」が起動しないなどのトラブル時に、バックアップツールのみを起動させてバックアップする方法です。

1 デスクトップ画面下の[エクスプローラー]アイコンをマウスで右クリックするとサブメニューが表示されるので、[ドキュメント]をマウスでクリックすると、ドキュメント画面が表示されます。

2 ドキュメント画面にて、
「DenNoSin」→
「伝の心データバックアップツール」
→「バックアップ」
の順番にマウスでダブルクリックしていきます。



ユーザーデータのバックアップ・リストア

3 「ユーザーデータのバックアップ」画面が表示されるので、バックアップメディアのフォルダ名を入力し、OK ボタンをマウスでクリックしてください。

※本ツールでは C ドライブには
バックアップはできません。

4 確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。
バックアップが始まります。

本ツールを使用した場合は、バックアップ中の表示は表示されませんのでご注意ください。

5 バックアップが終了すると、右記画面が表示されますので、OK ボタンをマウスでクリックして画面を閉じます。

6 バックアップメディアのドライブ名、フォルダ名が分からない場合は、
PC 画面を表示して確認します。

デスクトップ画面下の[エクスプローラー]アイコンをマウスで右クリックしてサブメニューを表示し、
[エクスプローラー]をマウスでクリックすると、PC 画面が表示されます。

ドライブ名が表記されておりますので、ご確認ください。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

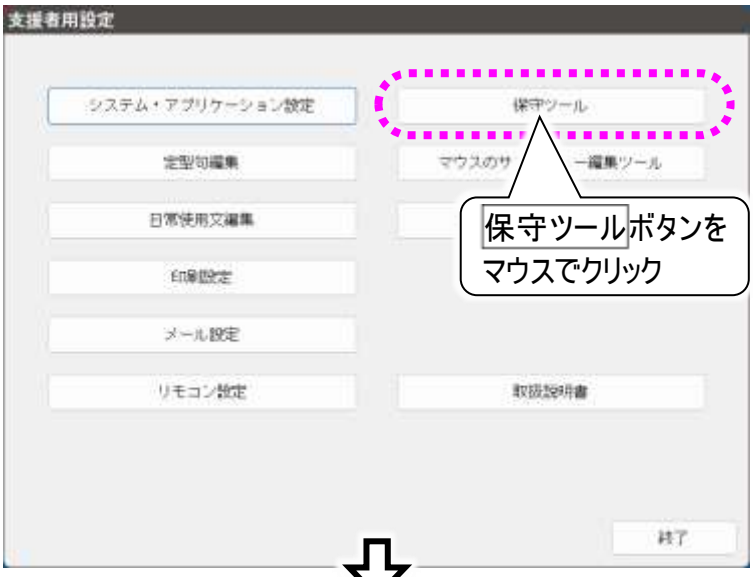
バックアップしたユーザーデータを戻す

436 ページの「バックアップの実行」や「伝の心」終了時のバックアップ、バックアップツールによるバックアップでバックアップしたデータは、リストアツールで元の場所に戻すことが可能です。

保守ツールからのリストア

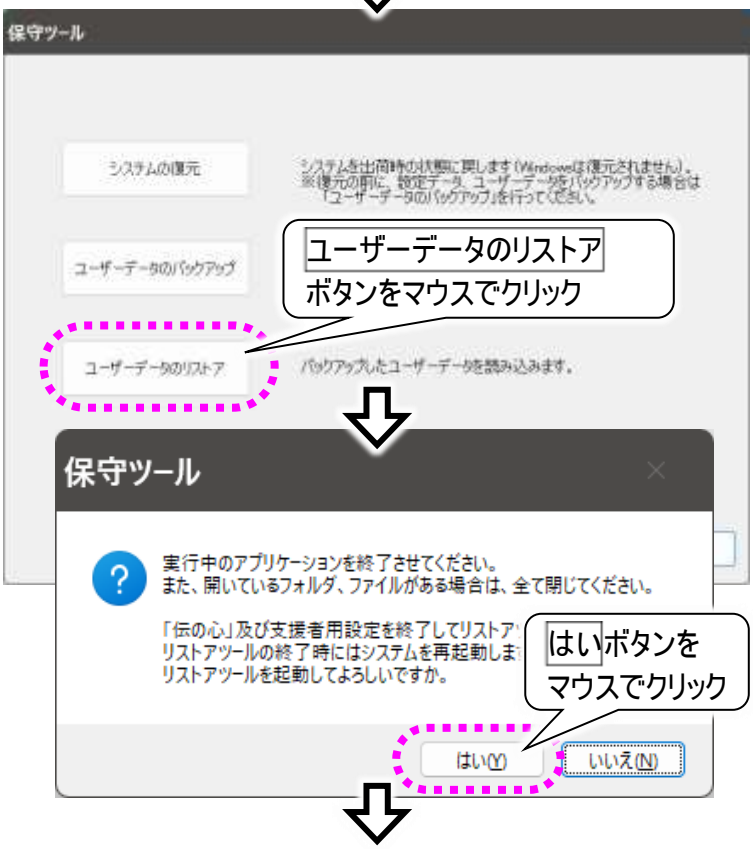
1 430 ページの「保守ツールについて」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の保守ツールボタンをマウスでクリックすると、保守ツール画面が表示されます。



3 ユーザーデータのリストアボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、
支援者用設定以外のアプリケーションを実行している場合は終了させてください。
ファイルやフォルダが開いている場合も、全て閉じてください。

他のプリケーションを実行している場合やファイルやフォルダが開いている場合、リストアに失敗する場合があります。

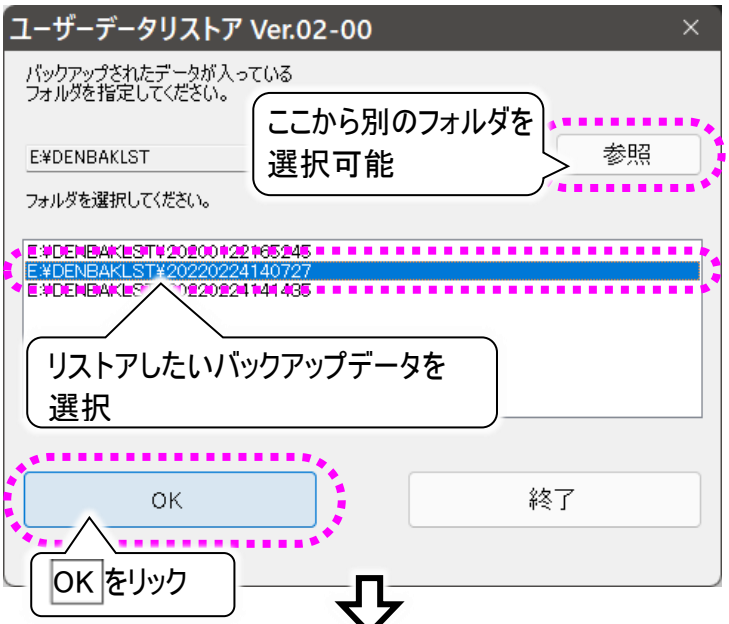


4 はいボタンをマウスでクリックすると、支援者用設定画面を閉じてユーザーデータリストア画面が表示されます。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

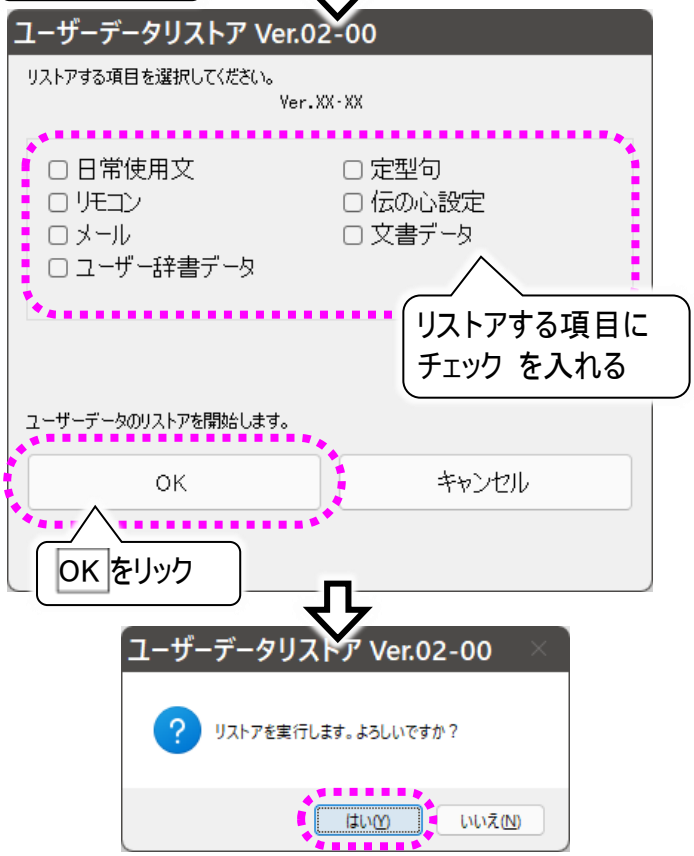
5 アルファベット昇順で検索して、最初に見つかったリムーバブルメディアが装着されているドライブに「DENBAKLST」フォルダがあれば、リストアツール画面に「DENBAKLST」フォルダのアドレスと、「DENBAKLST」以下のバックアップデータのリストを表示します。
リムーバブルメディアが見つからなかった場合は、「C:」ドライブの「DENBAKLST」フォルダを検索します。
リムーバブルメディアに「DENBAKLST」フォルダがなかった場合、「DENBAKLST」フォルダにリストア可能なバックアップデータがなかった場合は、アドレス欄もバックアップデータのリストも空欄になります。

6 バックアップデータのリストからリストアしたいバックアップデータを選択します。
リスト表示されているバックアップデータがリストアしたいバックアップデータではない場合は、参照ボタンをマウスでクリックしてリストアしたいバックアップデータの入っているフォルダを選択します。
※「DENBAK」フォルダが入っているフォルダを指定ください。



7 バックアップデータを選択したら、OKボタンをマウスでクリックします。

リストア項目の選択画面が表示されるので、リストアする項目にチェック☑を入れて OK ボタンをマウスでクリックします。



8 確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。
ユーザーデータのリストアが始まります。

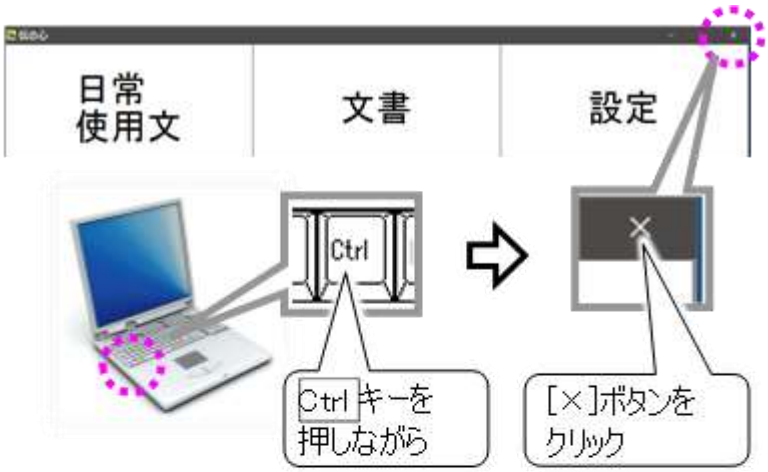
ユーザーデータのバックアップ・リストア

9 リストアが終了すると、完了メッセージが表示されますので、OK ボタンをマウスでクリックしてください。

10 ユーザーデータリストア画面に戻ってくるので、終了ボタンをマウスでクリックしてください。
システム装置が再起動します。

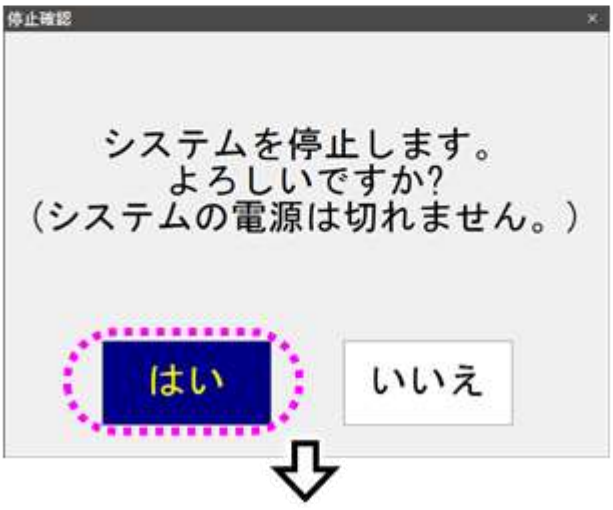
リストアツールを使用したリストア

システム装置は起動したが「伝の心」が起動しないなどのトラブル時に、リストアツールのみを起動させてバックアップデータをリストアする方法です。



1 まず、「伝の心」トップ画面より、「伝の心」ソフトウェアのみ終了させます。

キーボードの Ctrl キーを押しながら「伝の心」トップ画面の右上[×]ボタンをマウスでクリックします。

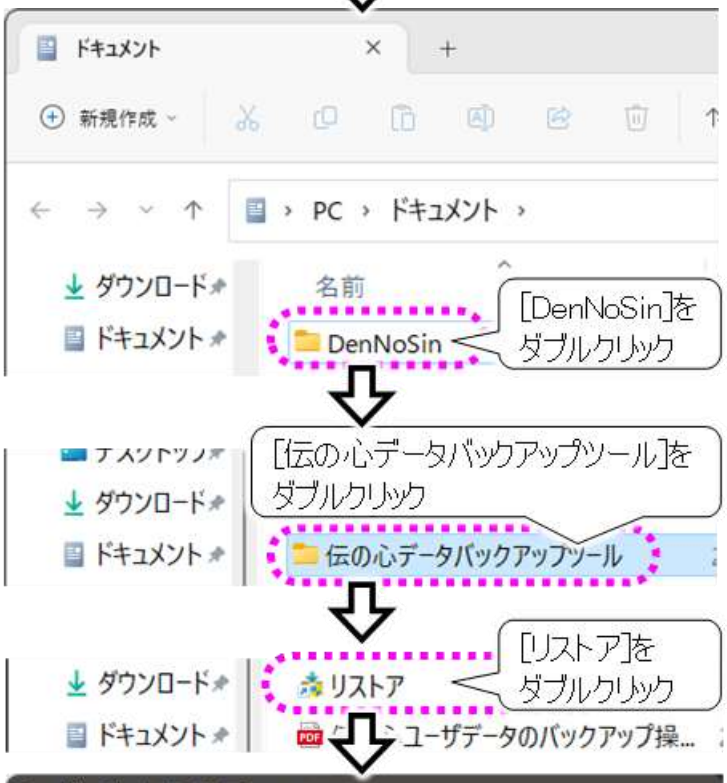


2 確認メッセージが表示されるので、はいを選択すると、「伝の心」ソフトウェアのみが終了し、デスクトップ画面が表示されます。

ユーザーデータのバックアップ・リストア

3 デスクトップ画面下の[エクスプローラー]アイコンをマウスで右クリックするとサブメニューが表示されるので、[ドキュメント]をマウスでクリックすると、ドキュメント画面が表示されます。

ドキュメント画面にて、「DenNoSin」→「伝の心データバックアップツール」→「リストア」の順番にマウスでダブルクリックしていきます。



4 ユーザーデータリストア画面が表示されます。
操作方法は 439 ページの「保守ツールからのリストア」5 項～9 項と同様です。

ただし、ユーザーデータリストア画面を閉じてもシステム装置の再起動は行われません。

伝の心の復元

伝の心の復元

「伝の心」ソフトウェアをご購入時の状態に戻すことができます。

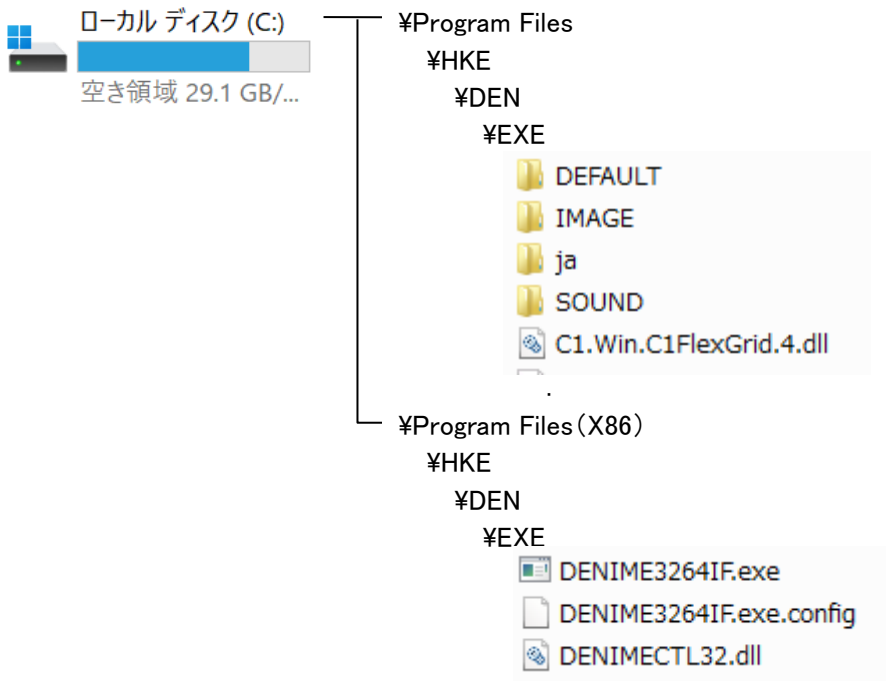
制限	出荷時の状態に戻るファイル等は、伝の心のソフトウェアに関するもののみで、システム装置の設定等は戻りません。出荷時の状態に戻すファイルの詳細は下の「出荷時の状態に戻すファイルについて」をご参照ください。
制限	不具合が発生している場合、「伝の心」ソフトウェアを出荷時の状態に戻すことで、不具合が解決しない場合もございます。またそれを保証するものではありませんのであらかじめご了承ください。

出荷時の状態に戻すファイルについて

出荷時の状態に戻すファイルは下記の通りです。

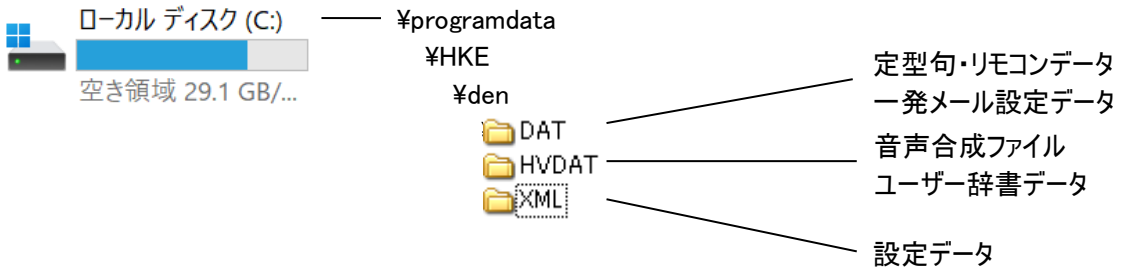
- プログラム
  「伝の心」ソフトウェア本体
- 設定データ
  「伝の心」各種設定データ
  「定型句」「リモコン」「一発メール設定」のデータ
  音声合成ユーザー辞書データ
- ユーザーデータ
  「文書」ファイル、「メール」アカウント設定データ・送受信データ・アドレス帳
  「伝の心」取扱説明書（電子マニュアル）

プログラム復元項目

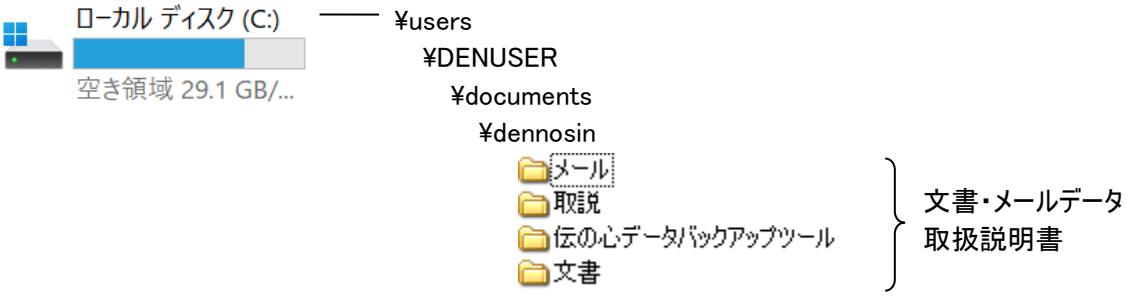


伝の心の復元

設定データ復元項目



ユーザーデータ復元項目



「伝の心」ソフトウェアを復元する

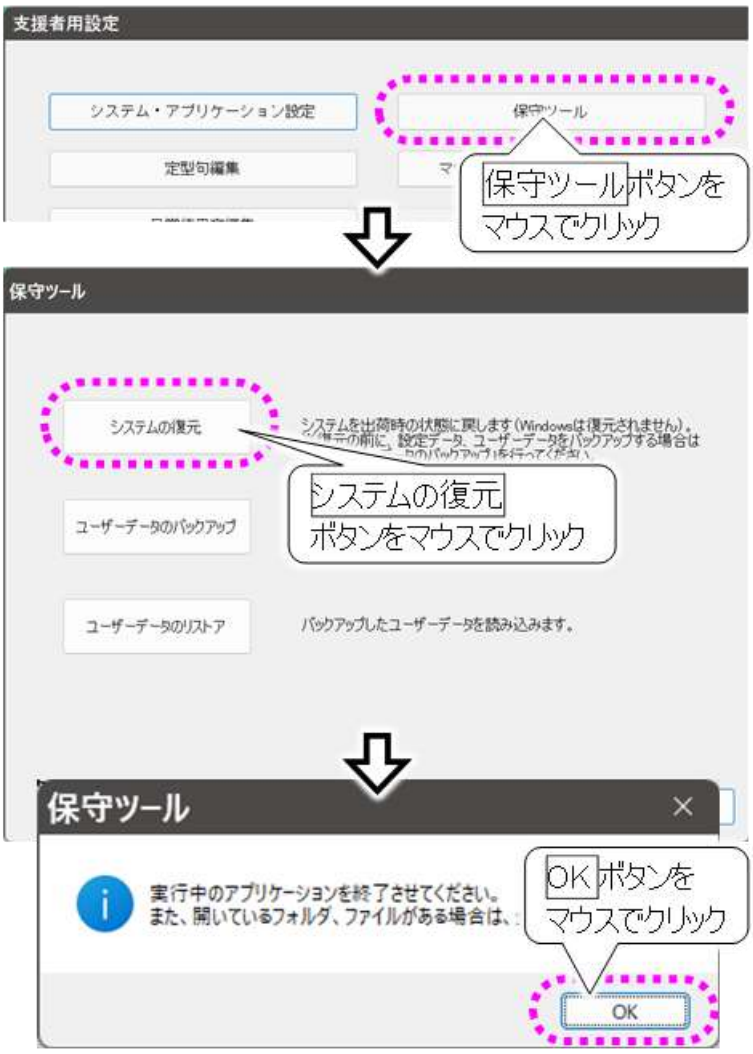
⚠ 注意	「伝の心」ソフトウェアを出荷時の状態に戻す場合、作成したデータは削除されます（元に戻すことはできません）。本機能をご使用になる前に、バックアップを取ることをお勧めします。バックアップについては、436 ページの「バックアップの実行」を参照ください。

1 430 ページの「保守ツールについて」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の保守ツールボタンをマウスでクリックすると、保守ツール画面が表示されます。

3 システムの復元ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されます。
支援者用設定以外のアプリケーションを実行している場合は終了させてください。
ファイルやフォルダが開いている場合も、全て閉じてください。

4 OK ボタンをマウスでクリックすると、
システムの復元画面が表示されます。



⚠ 注意	支援者用設定以外のアプリケーションを実行していたり、ファイルやフォルダを開いていたりする場合、「伝の心」の復元が失敗する場合があります。

伝の心の復元

設定項目		機能
全てを復元		復元するファイル全てを出荷時の状態に戻す
復元項目の選択	プログラム	443 ページの「出荷時の状態に戻すファイルについて」に記載の「プログラム復元項目」のみ、出荷時の状態に戻す。
	設定データ	443 ページの「出荷時の状態に戻すファイルについて」に記載の「設定データ復元項目」のみ、出荷時の状態に戻す。詳細は下表に示す。
	リモコンデータ	リモコンデータとリモコン画面の設定
	定型句データ	定型句データ
	日常使用文	日常使用文の設定
	ユーザー辞書データ	日立音声合成のユーザー辞書データ
	一発メール設定を含む伝の心設定	一発メールの設定、エンドユーザー設定、システム・アプリケーション設定、印刷設定、マウスのサブメニュー編集ツールでの設定
	ユーザーデータ	443 ページの「出荷時の状態に戻すファイルについて」に記載の「ユーザーデータ復元項目」のみ、出荷時の状態に戻す。 ※メール設定、メールデータはここに含まれます。

5 復元したい項目にチェック☑を入れて、実行ボタンをマウスでクリックしてください。

6 確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。

7 「伝の心」の復元が始まります。

8 「伝の心」の復元が終了すると、終了メッセージが表示されますので、OK ボタンをマウスでクリックしてください。
保守ツール画面に戻ります。

メールの一時ファイルの再作成

メールの一時ファイルの再作成

メールの一時ファイル（キャッシュファイル）は、「受信箱」「送信箱」などメールのフォルダ情報やファイルリストなどの情報が入ったファイルです。このファイルはメールファイルをより早く表示するために使用されます。
このファイルが何らかの理由で破損したり、実際のメールのフォルダ情報やファイルリストなどの情報と異なったりした場合は、メールが表示できなくなったり、メールが送信できなくなったりといった不具合が発生する場合があります。
その場合、メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成することをお勧めします。

⚠ 注意	メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成する場合、メールが全て「未読」または「既読」となってしまいます。 ※「未読」にするか「既読」にするかは選択可能です。

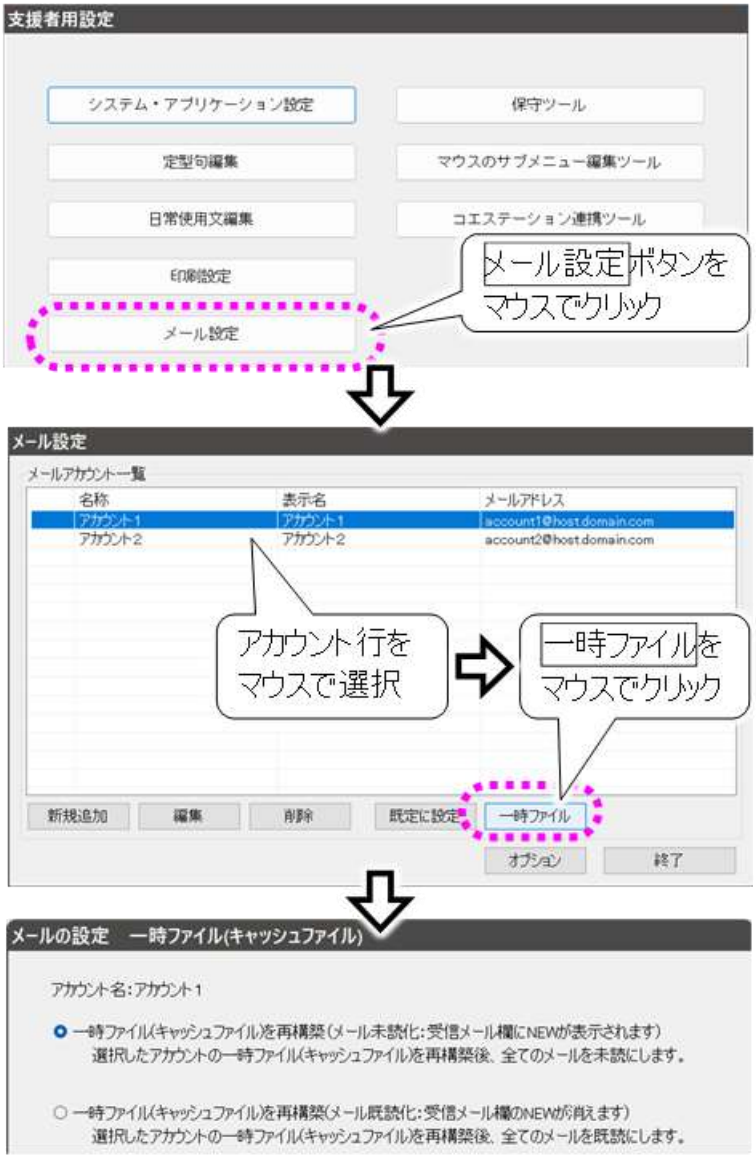
一時ファイルの設定

メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成は、メール設定画面より行います。
メール設定画面は下記の手順で表示します。

1 430 ページの「保守ツールについて」を参照して、支援者用設定画面を表示させます。

2 支援者用設定画面の[メール設定]ボタンをマウスでクリックすると、メール設定画面が表示されます。

3 メールの一時ファイル（キャッシュファイル）の設定を行いたいアカウント行を選択し、[一時ファイル]ボタンをマウスでクリックすると、メール設定一時ファイル画面が表示されます。



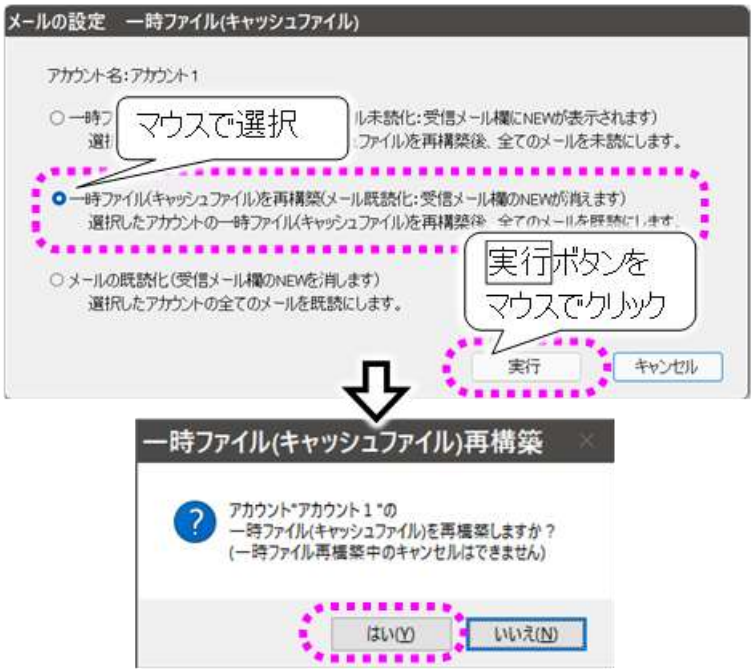
メールの一時ファイルの再作成

一時ファイルの再作成（メールは既読）

ここでは、メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成し、メールを全て既読にする手順について説明します。

1 メール設定キャッシュ画面にて、「一時ファイル（キャッシュファイル）を再構築（メール既読化）」を選択します。

2 実行ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。



注意 一時ファイル（キャッシュファイル）の再構築中はキャンセルできないので、ご注意ください。

3 メールの一時ファイル（キャッシュファイル）の再作成が始まります。

4 メールの一時ファイル（キャッシュファイル）の再作成が終了すると、終了メッセージが表示されますので、OKボタンをマウスでクリックしてください。
メール設定設定画面に戻ります。

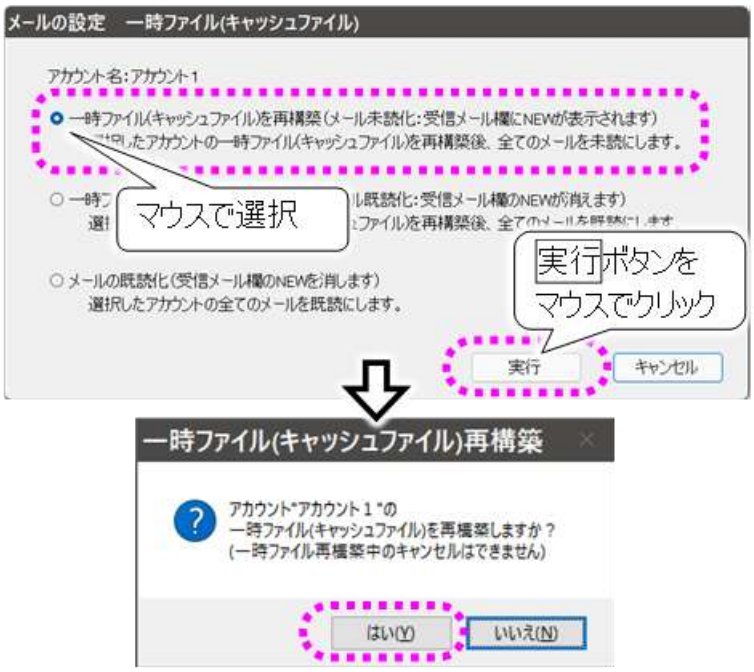
メールの一時ファイルの再作成

一時ファイルの再作成（メールは未読）

ここでは、メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成し、メールを全て未読にする手順について説明します。

1 メール設定キャッシュ画面にて、「一時ファイル（キャッシュファイル）を再構築（メール未読化）」を選択します。

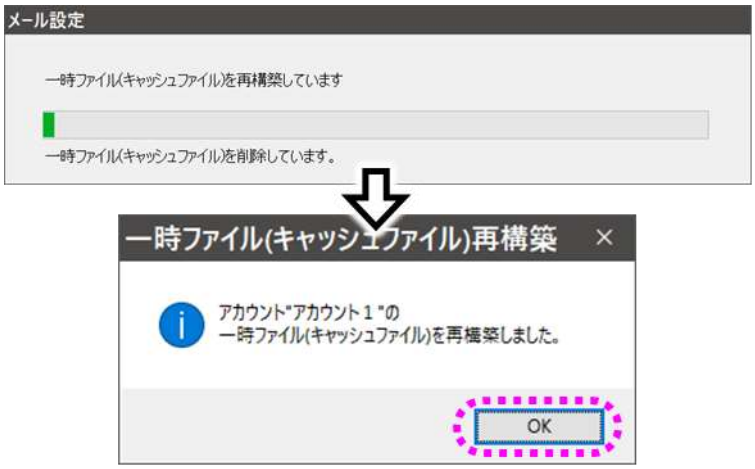
2 実行ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。



注意 一時ファイル（キャッシュファイル）の再構築中はキャンセルできないので、ご注意ください。

3 メールの一時ファイル（キャッシュファイル）の再作成が始まります。

4 メールの一時ファイル（キャッシュファイル）の再作成が終了すると、終了メッセージが表示されますので、OKボタンをマウスでクリックしてください。メール設定画面に戻ります。



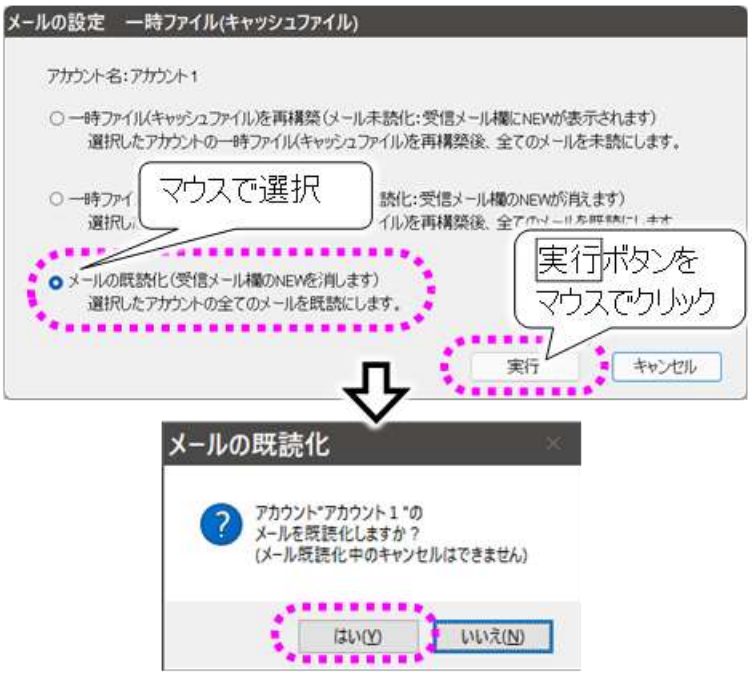
メールの一時ファイルの再作成

メールの既読化のみ行う

メールの一時ファイル（キャッシュファイル）の再作成は行わず、メールの既読化のみ行うことも可能です。

1 メール設定キャッシュ画面にて、「メールの既読化」のみにチェック☑をいれます。

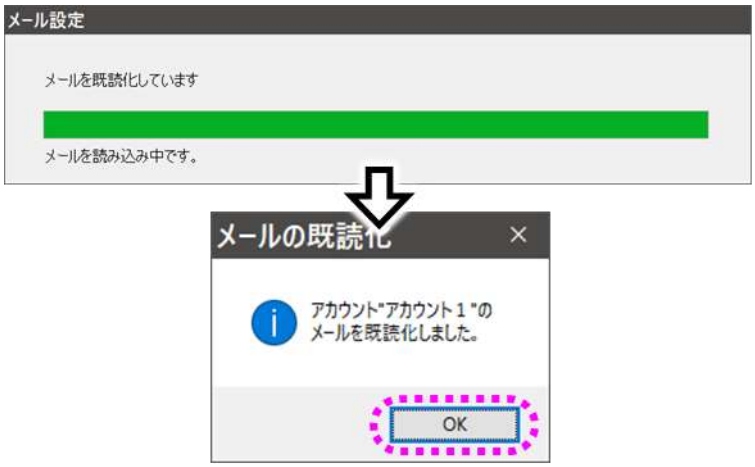
2 実行ボタンをマウスでクリックすると、確認画面が表示されるので、はいボタンをマウスでクリックしてください。



注意 メールの既読化中はキャンセルできないので、ご注意ください。

3 全メールの既読化が始まります。

4 全メールの既読化が終了すると、終了メッセージが表示されますので、OK ボタンをマウスでクリックしてください。
メール設定画面に戻ります。



メールアドレス登録ツール

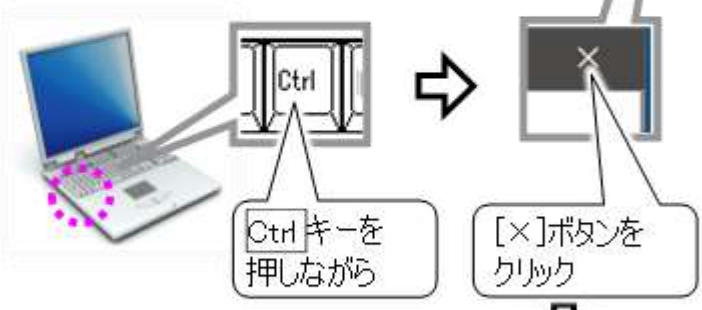
メールアドレス登録ツール

「伝の心」メール機能のアドレス帳画面からメールアドレスを登録できますが、「メールアドレス登録ツール」を使用すると、メールアドレスを 100 件までまとめて「伝の心」メールのアドレス帳に追加することが可能です。ただしここでの設定は、支援者の方にマウス操作で設定して頂きます。

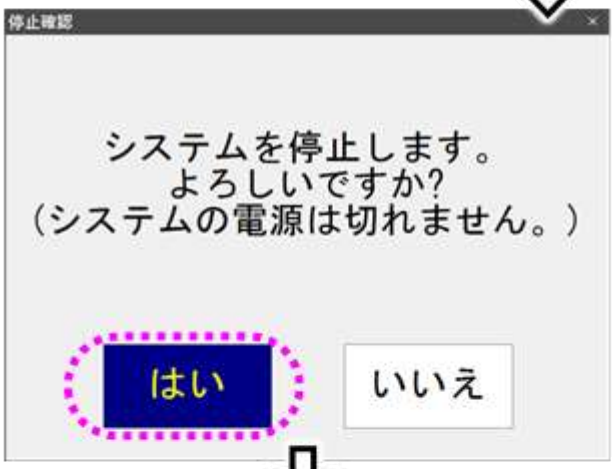
メールアドレス登録ツールの起動と終了

1 まず、「伝の心」トップ画面より、「伝の心」ソフトウェアのみ終了させます。

キーボードの Ctrl キーを押しながら「伝の心」トップ画面の右上[×]ボタンをマウスでクリックします。

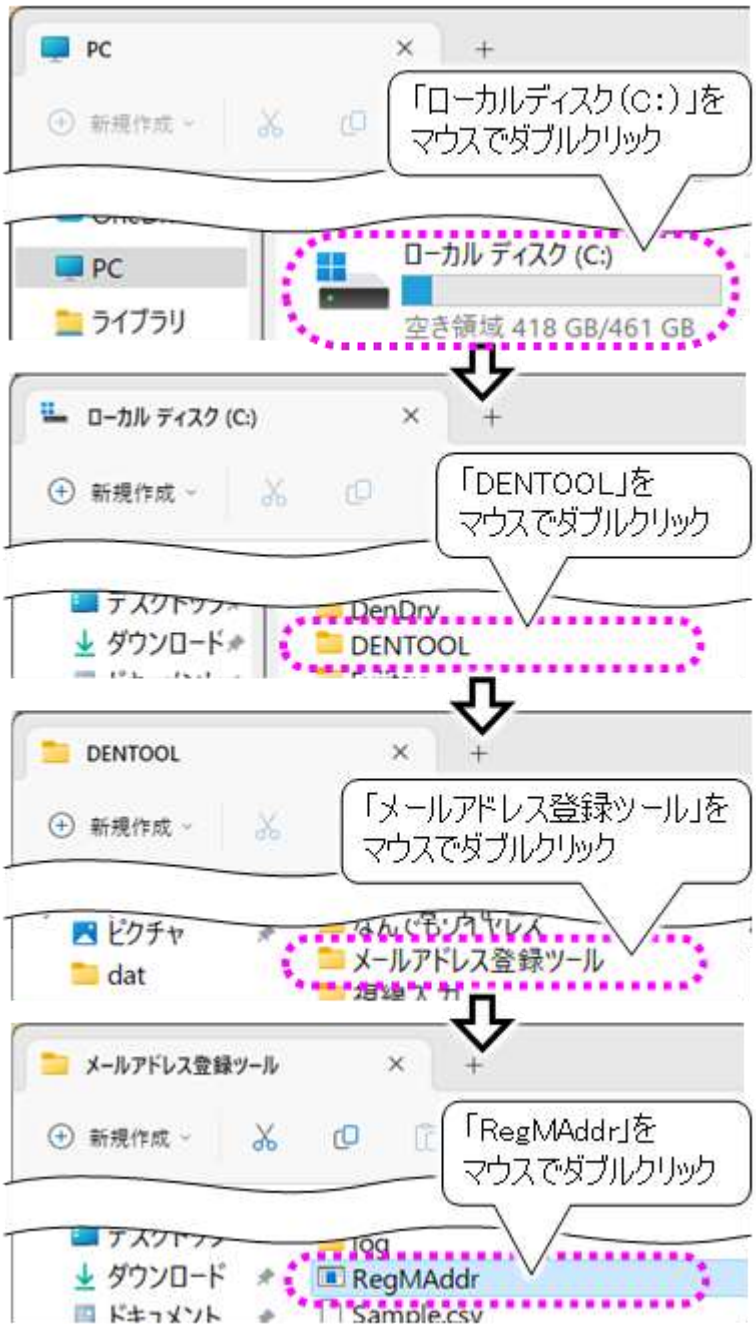


2 確認メッセージが表示されるので、はいを選択すると、「伝の心」ソフトウェアのみが終了し、デスクトップ画面が表示されます。



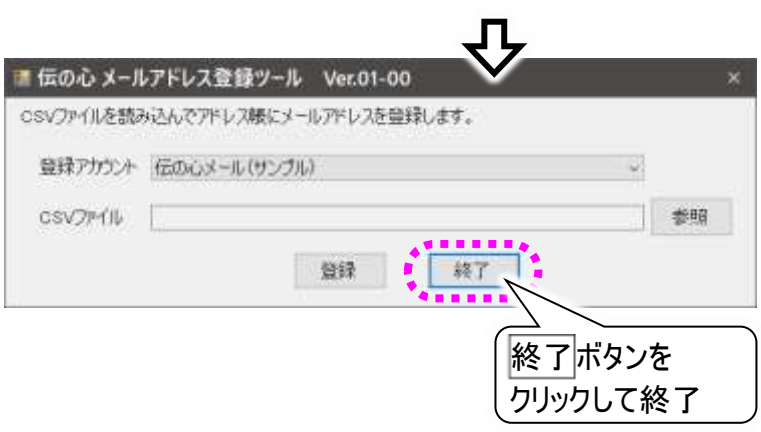
3 デスクトップ画面中央下の[エクスプローラー]アイコンをマウスでクリックすると、PC 画面が表示されます。
(※アイコンを右クリックして表示されたメニューから「エクスプローラー」を選択しても同様です。)

4 PC 画面の「ローカルディスク（C：）」→「DENTOOL」→「メールアドレス登録ツール」→「RegMAddr」を順にマウスでダブルクリックすると、メールアドレス登録ツールが起動します。



5 メールアドレス登録ツール画面を終了するときは、終了ボタンをマウスでクリックしてください。

画面が閉じます。



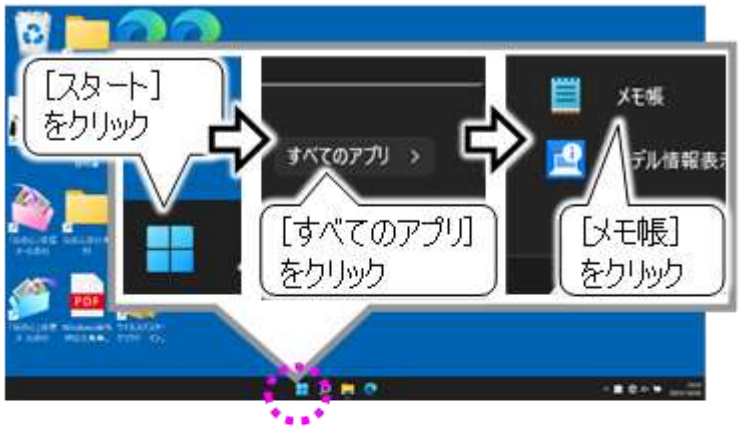
メールアドレス登録ツール

メールアドレス一覧の CSV ファイルを作成する

「メールアドレス登録ツール」では事前にメールアドレスの一覧を CSV 形式のファイルにて作成する必要があります。ここではまず、メールアドレスの一覧ファイルを作成してみます。

制限	「メールアドレス登録ツール」では、アドレスグループの登録や既にあるアドレスグループへのメールアドレスの登録はできません。アドレスグループに関する登録は、355 ページの「アドレス帳の整理（アドレスグループの作成）」にて行ってください。

1 画面中央下の[スタート]アイコンをマウスでクリックするとスタートメニューが表示されるので、
「すべてのアプリ」→「メモ帳」の順にマウスでクリックすると、
メモ帳が開きます。



2 メモ帳にて、メールアドレスを入力していきます。
右記は[メールアドレス登録ツール]フォルダにあるサンプルファイルの内容です。

書式は、左から「名前」、「よみがな」、「アドレス」の順に記載し、区切りには半角カンマ「,」を入力します。また 1 行、1 アドレスで記載します。

100 件まで登録可能なので、記載は 100 行までにします。それ以上登録するメールアドレスがある場合は、101 件目からは別のファイルを作成して記載してください。

メールアドレス登録ツール

3 メールアドレスの一覧を作成したら、CSV ファイル形式で保存します。

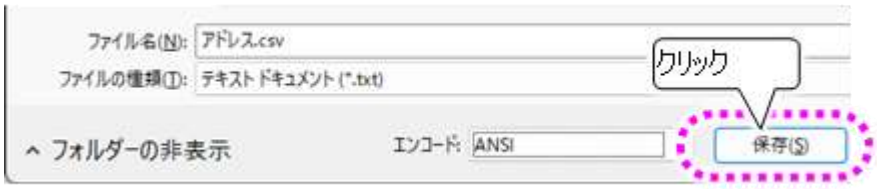
メモ帳のメニューから、
[ファイル]→[名前を付けて保存]を順に選択します。

4 右記の画面が表示されるので、保存場所を選択し、「ファイル名」に任意の名前を付けます

この時、右記
「アドレス.csv」のように名前の後に半角で 「.csv」を入力します。

5 次に「エンコード」の右端の v をクリックして「ANSI」を選択してください。

6 保存ボタンをマウスでクリックすると、指定の場所にメールアドレスの一覧の CSV ファイルが作成されます。



メールアドレス登録ツール

CSV ファイルからメールアドレス登録する

ここでは一例として、「メールアドレス登録ツール」フォルダにあるサンプルファイルを利用して、メールアドレスを登録してみます。

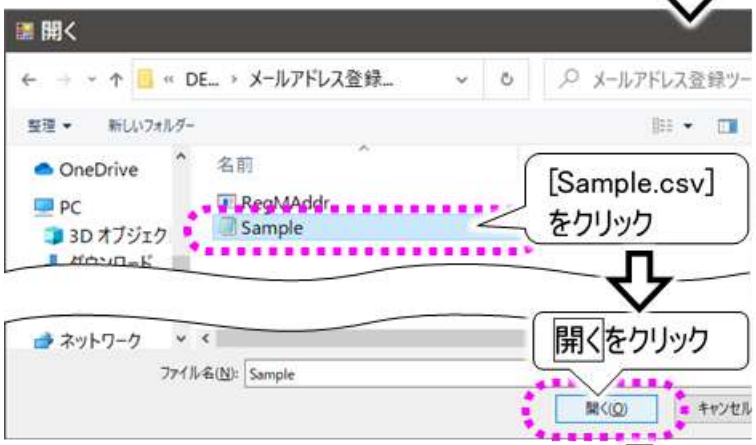
1 まずメールアドレスを登録するアカウントを選択します。

メールアドレス登録ツール画面にて、「登録アカウント」の右端 v をクリックしてアカウント名リストを表示し、アカウントを選択します。

2 次に CSV ファイルを選択します。

参照ボタンをクリックしてファイル選択の画面を表示させます。

3 「C:¥DENTOOL¥メールアドレス登録ツール」の下に「Sample.csv」ファイルがあるので、「Sample.csv」をマウスでクリックし、開くボタンをクリックします。



4 メールアドレス登録ツール画面の CSV ファイルに「Sample.csv」ファイルが表示されます。

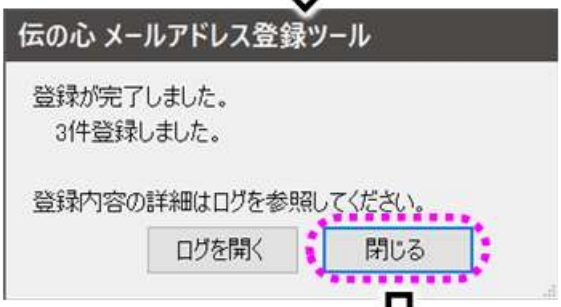
メールアドレス登録ツール

5 登録ボタンをクリックします。

6 登録中は右記の登録中の画面を表示します。

登録が終了すると、右記のような結果表示の画面が表示されます。

詳細な結果が見たい場合は、
ログを開くボタンをクリックします。



7 閉じるボタンのクリックで⑤項のメールアドレス登録ツール画面に戻ります。

メールアドレス登録ツール

サンプルファイルの内容

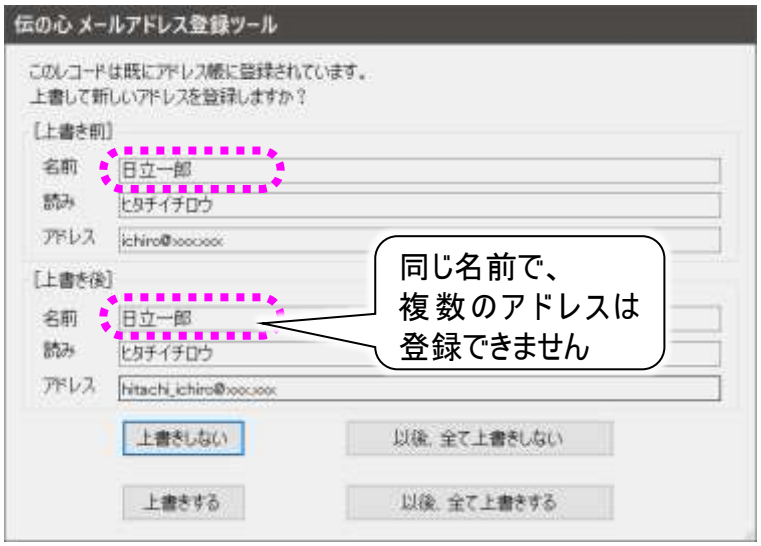
サンプルファイルは下記の内容になっています。

書式は、左から「名前」、「よみがな」、「アドレス」の順に記載し、区切りには半角カンマ「,」を入力します。また1行、1アドレスで記載します。

サンプルファイルを登録すると右記のようにアドレス帳に登録されます。

同名のアドレス登録について

同じ名前で複数のアドレスをお持ちの場合、同じ名前で登録しようとすると、右記のように上書き登録確認の画面が表示されます。



1 上書きするを選択すると、[上書き前]のアドレスがなくなってしまうので、両方登録したい場合は上書きしないを選択して登録をキャンセルし、先に進みます。

補足 結果表示の画面にはキャンセルの件数は表示されないので、ログを開くを選択して、登録をキャンセルしたデータを確認してください。

補足

以後、全て上書きすると以後、全て上書きしないについて

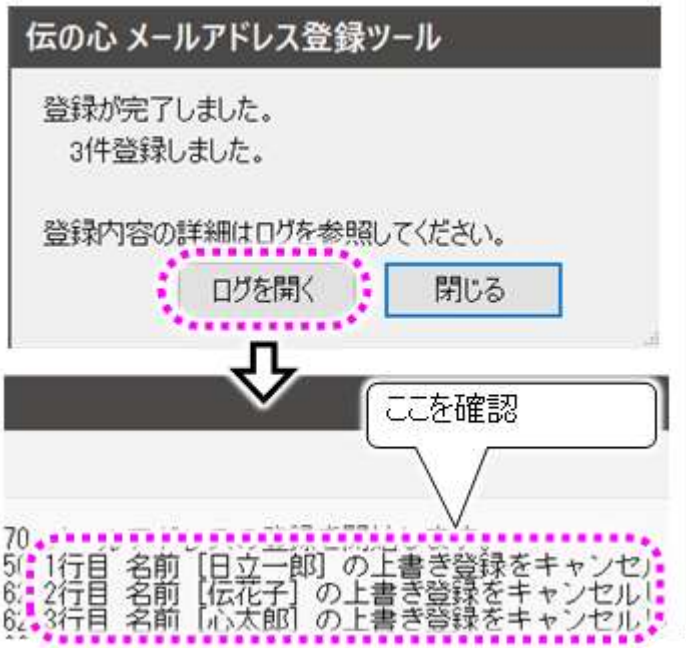
上書き登録確認の画面で以後、全て上書きするを選択すると、以後同じ名前があっても、上書き登録確認の画面は表示されず、上書きします。
以後、全て上書きしないを選択した場合も同様で、上書き登録確認の画面は表示されず、登録はキャンセルされます。
結果表示の画面にはキャンセルの件数は表示されないので、ログを開くを選択して、登録をキャンセルしたデータを確認してください。

2

登録完了後、結果表示の画面から、ログを開くボタンをクリックして、登録をキャンセルしたデータを確認してください。

登録は何度でもできるので、登録できなかったデータは CSV ファイルを編集して「名前」を変更します。

複数のアドレスを登録する場合は、名前を「〇〇自宅」「〇〇会社」「〇〇携帯」など工夫して登録してください。



補足

変更したアドレスだけ別の CSV ファイルにすると、登録時、変更していないアドレスの上書き登録確認の画面が表示されなくなります。

メールアドレス登録ツール

困ったときには

「伝の心」を取り扱う上で、操作を間違えたり、うまく動かないと思った場合の対処法を説明します。

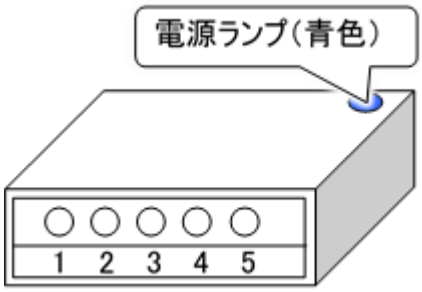
故障かなと思ったときには

スイッチで操作ができない

●スイッチは、なんでもスイッチ USB プラスに正しく接続されていますか？
⇒なんでもスイッチ USB プラスの1番～3 番の何れかのポートに接続します。
※4 番・5 番は出力用なので、スイッチ操作には使用できません。
ケーブルを確認し、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。

●なんでもスイッチ USB プラスのディップスイッチの設定は正しいですか？
⇒ディップスイッチのないものは、1番～3 番ポートがスイッチ入力で使用可能です。
ディップスイッチのあるものは、設定によって変更されるので、563 ページの「スイッチの外部出力について」を参照して、設定を確認してください。

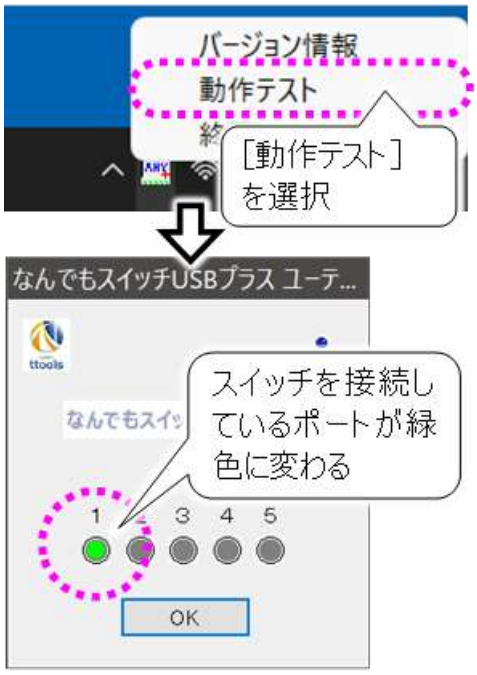
●なんでもスイッチ USB プラスはシステム装置の USB ポートに正しく接続されていますか？
⇒なんでもスイッチ USB プラスの電源ランプ（青色）を確認してください。
ケーブルを確認し、電源ランプ（青色）が点灯しない場合は「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。



●なんでもスイッチ USB プラスユーティリティはタスクトレイにありますか？
⇒[スタート]→ [なんでもスイッチ USB プラス接続ユーティリティ]→[なんでもスイッチ USB プラス接続ユーティリティ]の順に選択して、なんでもスイッチ USB プラス接続ユーティリティを起動させてください。

●動作テストは問題ありませんでしたか？
⇒タスクトレイのなんでもスイッチ USB プラスユーティリティをマウスで右クリックして、[動作テスト]を選択してください。

スイッチ入力するとスイッチを接続しているポート番号が緑色に変わることを確認してください。
問題がある場合は、ケーブルを確認し、緑色にならない場合は「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。



●USB ケーブルを抜き差ししませんでしたか？
⇒プラグ＆プレイに対応していますが、短い間隔で抜き差しをおこなうと、まれに動作しないことがあります。ゆっくりと抜いてから挿しなおすと復帰します。それでもうまく動かない時は、「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。

●システム装置側の USB ポートの故障かもしれません
⇒なんでもスイッチ USB プラスは「伝の心」のどの USB ポートに接続しても動作可能になっています。今接続している USB ポートが故障している場合、別のポートに接続すると復帰します。

●お使いのスイッチは故障していませんか？
⇒なんでもスイッチ USB プラス、USB ケーブル、システム装置に問題がない場合、なんでもスイッチ USB に接続されているスイッチが故障していることも考えられます。故障の判断が付かない場合は、スイッチのご購入先にご相談ください。

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-switch01.htm

リモコンで機器の操作ができない

●「リモコンに問題が発生しました。接続を確認してください。」メッセージが表示されましたか？
⇒なんでも IR2 の電源ランプ（青色）を確認してください。
ケーブルを確認し、電源ランプ（青色）が点灯しない場合「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。

●なんでも IR2 は正しく接続されていますか？
⇒なんでも IR2 の電源ランプ（青色）を確認してください。
ケーブルを確認し、電源ランプ（青色）が点灯しない場合「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。

●リモコンの設定／登録は間違えていませんか？
⇒239 ページの「リモコンの設定を行う」を参照して、設定や登録を確認してください。

●システム装置側の USB ポートの故障かもしれません
⇒なんでも IR2 は「伝の心」のどの USB ポートに接続しても動作可能になっています。今接続している USB ポートが故障している場合、別のポートに接続すると復帰します。

●リモコンの充電ユニットが寿命かもしれません。
⇒なんでも IR2 の充電ユニットの寿命は、使用状況にもよりますが、約 5 年です。
ご購入先にご連絡いただければ、充電ユニットの交換が可能です。（※別途有償）
※充電ユニットの交換によって、テレビ・ビデオなどの登録データ、パネルの設定等が消えることはありません。

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-rm01.htm

故障かなと思ったときには

ホームページの閲覧ができない

●インターネットの設定は間違えていませんか？
⇒ご使用のインターネットの設定を確認の上、正しい設定にして、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。
インターネットの設定方法は 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照ください。

●ブラウザの設定は間違えていませんか？
⇒ご使用のインターネットの接続設定を確認の上、正しい設定にして、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。
インターネットの接続設定につきましては、ご契約先までお問い合わせください。

●ネットワークに接続できないことが原因かもしれません。
⇒「ネットワークに接続できない」を参照してください。

メールが送信／受信できない

●インターネットの設定は間違えていませんか？
⇒ご使用のインターネットの設定を確認の上、正しい設定にして、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。
インターネットの設定方法は 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照ください。

●メールアカウントの設定は間違えていませんか？
⇒ご使用のメールアカウントの設定を確認の上、正しい設定にして、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。
メールアカウントの設定方法は 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照ください。

●ネットワークに接続できないことが原因かもしれません。
⇒「ネットワークに接続できない」を参照してください。

●エラーメッセージが表示されませんでしたか？
⇒下記、対応表を参照してください。

エラーメッセージ	原因／対策
アカウント“＊＊＊”読み込み時にエラーが発生しました。～	＊＊＊はアカウント名、～はエラーの詳細です。 【原因】 アカウント設定ファイルが正しく設定されていない場合に発生します。 【対策】 「伝の心」のメール設定画面から、メールアカウントを再登録してください。

エラーメッセージ	原因／対策
アカウントが登録されていません。	【原因】 メールアカウントが1つも作成されていません。 【対策】 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、メールアカウントを登録してください。
受信に失敗しました。 アカウントの設定を確認してください。	【原因】 アカウントの設定が間違えています。 【対策】 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、メールアカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。
送信に失敗しました。 アカウントの設定を確認してください。	
受信中、通信に失敗しました。 回線を確認してください。	【原因】 ネットワークにつながっていない場合などが考えられます。 【対策】 「ネットワークに接続できない」を参照してください。
送信中、通信に失敗しました。 回線を確認してください。	
受信中、通信に失敗しました（＊＊＊）。 回線を確認してください。	＊＊＊ は、エラー コードです。 【原因】 ネットワークにつながっていない、サーバーがダウンしている場合等が考えられます。 【対策】 まず、「ネットワークに接続できない」を参照してください。 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、全ての項目が正しく設定されているか確認してください。 サーバーがダウンしているかどうかの確認は、ご契約のインターネット接続業者にお問い合わせください。 それでも解決しない場合は、ご購入先に、点検と修理をご相談ください。
送信中、通信に失敗しました（＊＊＊）。 回線を確認してください。	
受信（送信）中、接続を拒否されました（10061）。 アカウント、およびサーバーの設定を確認してください。	【原因】 サーバーの設定を間違えている等が考えられます。 【対策】 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、全ての項目が正しく設定されているか確認してください。
受信（送信）サーバーに接続できませんでした（10065）。 回線とサーバーの設定を確認してください。	【原因】 ネットワークにつながっていない、サーバーの設定を間違えている等が考えられます。 【対策】 まず、「ネットワークに接続できない」を参照してください。 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、全ての項目が正しく設定されているか確認してください。
受信（送信）サーバーに接続できないか、接続したサーバーが受信（送信）サーバーではありませんでした（11004）。 回線とサーバーの設定を確認してください。	

故障かなと思ったときには

エラーメッセージ	原因／対策
受信中、サーバーからエラー応答が返ってきました。 設定を確認してください。	【原因】 POPサーバーからのエラー応答です。 【対策】 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、メールアカウント、パスワードを正しく設定しているか確認してください。 それでも解決しない場合は、ご購入先に、点検と修理をご相談ください。
送信中、サーバーからエラー応答が返ってきました。 ＊＊＊	＊＊＊ は、エラー メッセージです。 【原因】 SMTP サーバーからのエラー応答です。 【対策】 325 ページの「メールアカウントの設定」を参照して、メールアカウント、パスワードを正しく設定しているか確認してください。 それでも解決しない場合は、ご購入先に、点検と修理をご相談ください。
ダイヤルアップに失敗しました。 モデムの接続、“接続設定”の設定、またはウィンドウズの“ダイヤルアップ”を確認してください。	【原因】 電話回線が接続されていない、モデムが接続されていない、“接続設定”で有効な接続を選択していない、などが考えられます。 【対策】 「ネットワークに接続できない」を参照してください。

●エラーになって入る未送信メールが原因かもしれません

⇒送信できなかったメール（エラーメール）が送信を止めて入る可能性もあります。「未送信」フォルダを一度空にして、再度送信メールを作成してみてください。

送信箱のメールの削除方法は 370 ページの「送信箱の整理」を参照ください。

メールの移動・削除・閲覧ができない

●移動や削除ができない場合は、メールの一時ファイル（キャッシュファイル）が壊れているかもしれません。

⇒メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成すると解決する場合があります。

再作成の方法は、448 ページの「メールの一時ファイルの再作成」を参照してください。

⚠ 注意	メールの一時ファイル（キャッシュファイル）を再作成する場合、メールが全て「未読」または「既読」となってしまいます。 ※「未読」にするか「既読」にするかは選択可能です。

●移動はできるが閲覧できない場合は、メールのファイルが破損している可能性があります。

⇒受信メールなら、送信元に再送してもらってください。

⇒送信メールなら、メールを再作成してみてください。

故障かなと思ったときには

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-em11.htm

ネットワークに接続できない

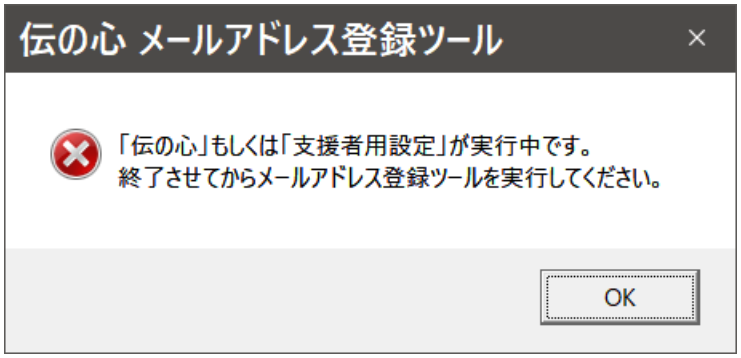
●ネットワークケーブルが外れていませんか？
⇒ケーブルを確認し、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。

●ケーブルが断線していませんか？
⇒ケーブルを交換し、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。

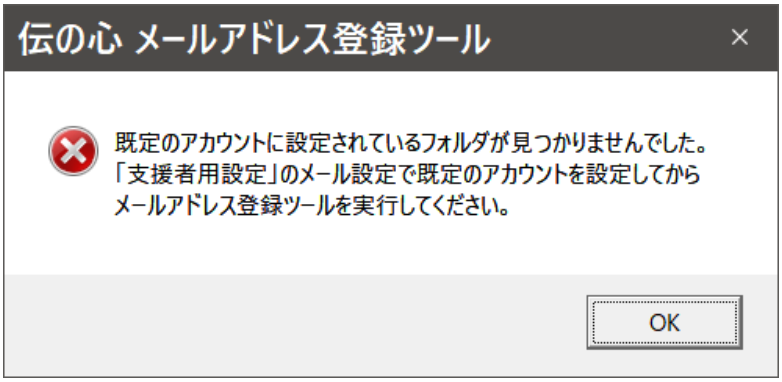
●ネットワークの設定を間違えていませんか？
⇒ご使用のネットワーク環境（モデム・ルーター・ハブ等）を確認の上、正しいネットワークの設定にして、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れて下さい。
各ネットワーク機器の設定につきましては、ご購入先までお問い合わせください。

「メールアドレス登録ツール」が起動しない

●「「伝の心」もしくは「支援者用設定」が実行中です。」と表示される場合
⇒「伝の心」もしくは「支援者用設定」が実行中の場合は「メールアドレス登録ツール」は起動できません。
「支援者用設定」の終了、「伝の心」の停止を行ってから、「メールアドレス登録ツール」を起動してください。
「伝の心」の停止方法は、452 ページの「メールアドレス登録ツールの起動と終了」を参照ください。



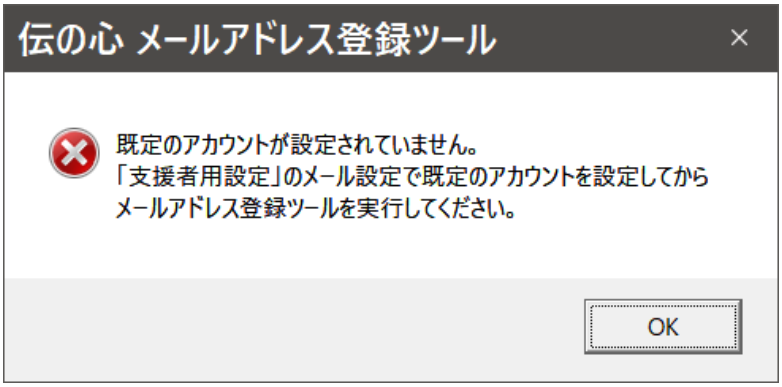
●「既定のアカウントに設定されているフォルダが見つかりませんでした。」と表示される場合
⇒支援者用設定の「メール設定」にて、既定のアカウントを削除しませんでしたか？
「メール設定」を確認して、必要に応じて既定のアカウントを変更してください。



故障かなと思ったときには

●「既定のアカウントが設定されていません。」と表示される場合

⇒メールアカウントが 1 つもない場合に表示されます。
支援者用設定の「メール設定」にて、アカウントの作成、設定を行ってください。



故障かなと思ったときには

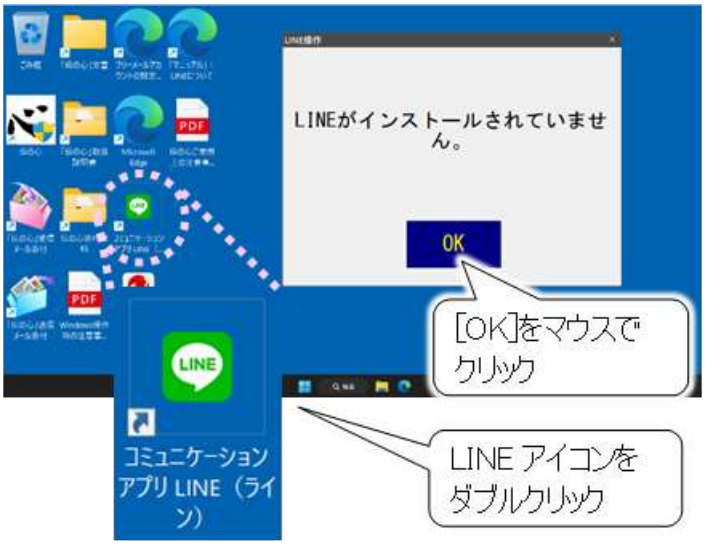
LINE が起動しない

●LINE は正しくインストールされていますか？

⇒右記メッセージが表示されて起動しない場合は、LINE が正しくインストールされていません。

⇒デスクトップに「コミュニケーションアプリ LINE（ライン）」アイコンがありますので、そこからダウンロードしてインストール可能です。

ダウンロード、インストールの方法は、デスクトップの「伝の心 添付資料」フォルダの「LINE について」をご参照ください。



●ネットワークに接続できないことが原因かもしれません。

⇒467 ページの「ネットワークに接続できない」を参照してください。

●LINE 起動中にアップデートが発生し LINE の再起動が必要な場合、右記のようなメッセージ画面が表示されます。

⇒メッセージ画面はスイッチで直接操作できません。起動中画面の戻るボタンにスキャンカーソルがありますので、スイッチ入力をして Windows 操作メニューに戻ってください。

※メインメニューの[LINE]から起動した場合は、メインメニューに戻った後、[Windows 操作]を選択してください。

Windows 操作メニューに戻ったら、[基本マウス]を選択します。

確認ボタンを[左クリック]して LINE の再起動を行ってください。

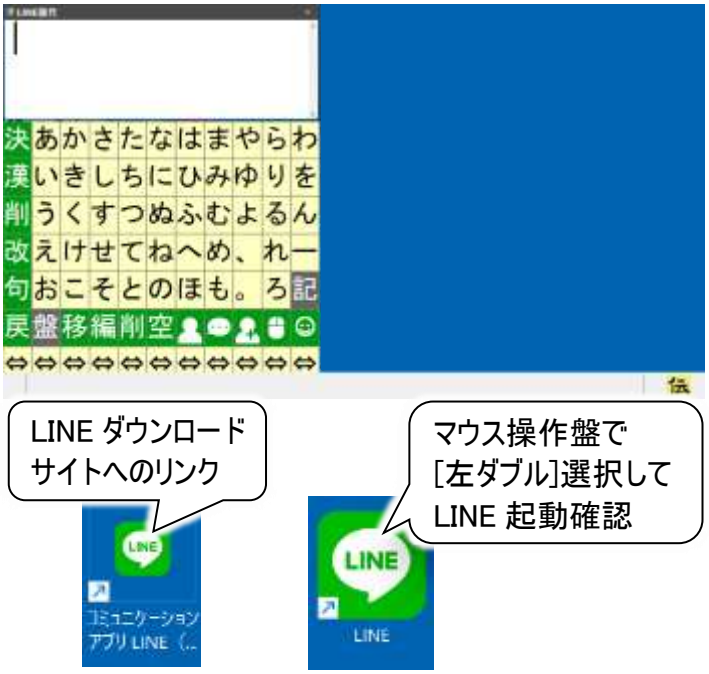
メッセージ画面と[基本マウス]の操作についての詳細は、485 ページの「メッセージ画面が操作できない」を参照ください。

故障かなと思ったときには

●LINE 文字盤のみ起動して LINE 画面は表示されない。
⇒ネットワークが不安定になっている可能性があります。
467 ページの「ネットワークに接続できない」を参照してください。

⇒LINE の起動に失敗しているかもしれません。
文字盤の[戻]を選択して、一度前のメニューに戻り、再度「LINE」を選択してみてください。

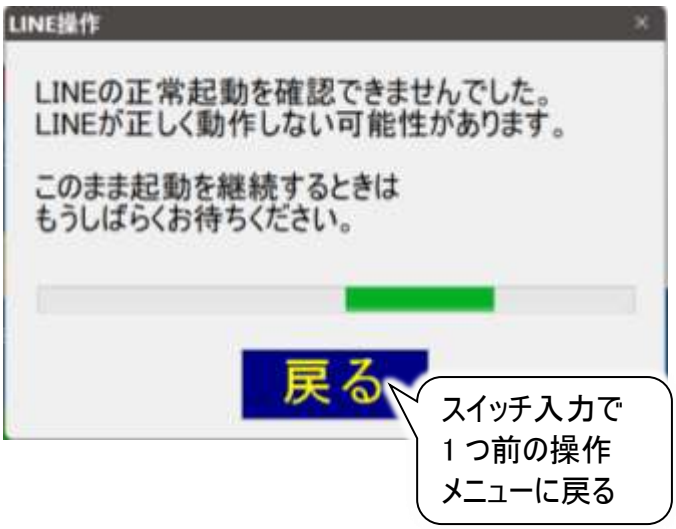
⇒デスクトップの「LINE」アイコンからも LINE が起動しない場合は、LINE を再インストールしてください。



LINE 起動中画面にメッセージが表示される

●LINE の起動に時間がかかっている場合があります。
⇒ネットワークが不安定になっている可能性があります。
467 ページの「ネットワークに接続できない」を参照してください。

⇒469 ページの「LINE が起動しない」も参照してください。



故障かなと思ったときには

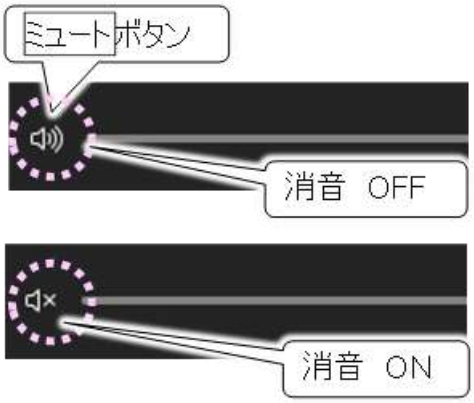
音声がでない／音量が大きい、または小さい

●音量ボリュームが小さく、または大きくなっていませんか？
⇒音量ボリュームのあるシステム装置をご使用の場合は、音量ボリュームを調整してください。

●Windows の音量が、小さく、または大きくなっていませんか？
⇒タスクトレイの音量をマウスでクリックして、音量画面を表示させてください。
スライドバーを右に移動させると、音量が大きくなります。
逆に、スライドバーを左に移動させると、音量が小さくなります。

⇒キーボードからも音量の調整ができます。詳細は、ご使用のシステム装置の取扱説明書をご覧ください。

●Windows の音量が、消音設定になっていませんか？
⇒タスクトレイの音量をマウスでクリックして、音量画面を表示させてください。
ミュートボタンをマウスでクリックすることによって、消音設定が可能です。



⇒キーボードからも消音の調整ができます。詳細は、ご使用のシステム装置の取扱説明書をご覧ください。

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-pc04.htm

故障かなと思ったときには

印刷ができない

●プリンターケーブルが外れていませんか？
⇒プリンターケーブルを確認し、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れてください。

●プリンターの電源コードが外れていませんか？
⇒プリンターの電源コードを確認し、必要ならば「伝の心」の電源を切って、もう一度電源を入れてください。

●プリンターの電源は入っていますか
⇒プリンター電源を確認してください。

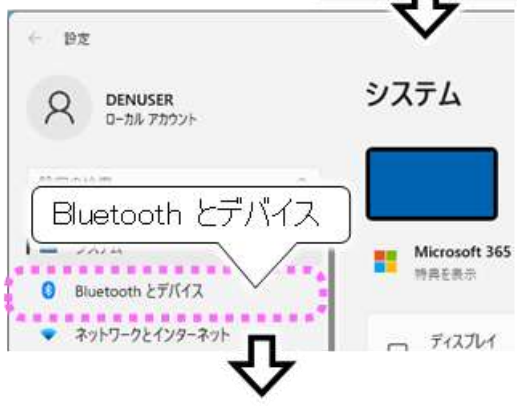
●「伝の心」で選択されているプリンターと、接続しているプリンターは一致していますか？
⇒161 ページの「印刷の設定」を参照して、プリンターを確認してください。

●プリンターに異常が発生していませんか？
⇒テストページの印刷を行うと、エラーが発生している場合はプリンター情報画面が表示され、エラーの詳細が表示されます。ご使用のプリンターの取扱説明書を参照して、対処してください。

テストページの印刷手順は下記の通りです。

① スタート]→[設定]を選択して設定画面を開きます。

② 設定画面で[Bluetooth とデバイス] を選択して、Bluetooth とデバイス画面を開きます。



③ Bluetooth とデバイス画面の右メニューから[プリンターとスキャナー]を選択し、プリンターとスキャナー画面を開きます。

④ プリンターとスキャナー画面の右側の設定画面から使用しているプリンターをクリックします。

⑤ プリンター名の画面が表示されるので、「テストページの印刷」をクリックすると、テストページが印刷されます。

※テストページの印刷は、「伝の心」のプリンター設定画面（167 ページ参照）のプロパティボタンをマウスでクリックすることによって表示されるプリンターのプロパティ画面はからも印刷可能です。

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-pr01.htm

印刷がかすれる／違う色になる／インクが出ない

●プリンターヘッドが目詰まりしていませんか？
⇒ご使用のプリンターの取扱説明書を参照して、プリンターヘッドのクリーニングを行ってください。

●プリンターのインクが少なくなっている又はなくなっていませんか？
⇒ご使用のプリンターの取扱説明書を参照して、インク残量を確認してください。必要ならばインクカートリッジの交換を行ってください。

故障かなと思ったときには

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-pr02.htm

故障かなと思ったときには

文字盤で選択した文字が編集域に入力されない

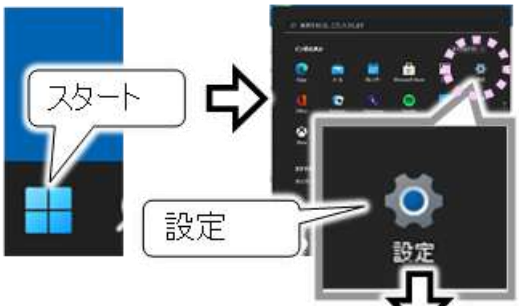
●文字盤の操作をマウス操作で行っていませんか？

⇒[戻]を**マウス操作で**選択して、文字盤を一度終了させます。その後、**スイッチ操作で**再度文字盤を表示させてください。

●日本語入力システムの入力モードが「ローマ字」になっていませんか？

⇒日本語入力システムの入力モードを確認してください。

①[スタート]→[設定] を選択して、設定画面を開きます。



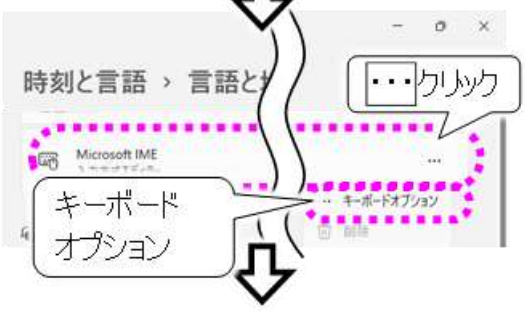
②設定画面の[時刻と言語]をクリックして時刻と言語画面を開きます。

③時刻と言語画面の右メニューから[言語と地域]を選択し、言語と地域画面を表示します。

④言語と地域画面の「日本語」の右端･･･ボタンをクリックすると、メニューが表示されます。

⑤表示されたメニューから「言語のオプション」を選択して、オプション画面を表示します。

⑥オプション画面の「Microsoft IME」の右端･･･ボタンをクリックすると、メニューが表示されます。



⑦表示されたメニューから「キーボードオプション」を選択して、Microsoft IME 画面を表示します。

故障かなと思ったときには

⑧Microsoft IME 画面の「全般」をクリックして、全般画面を表示します。

⑨全般画面にて、「ハードウェアキーボードでかな入力を使う」を確認してください。
⑩[オン]になっていない場合は、マウスでクリックして[オン]にしてください。
⑪設定画面は右上の[×]のマウスクリックで閉じてください。

予測入力ができない／予測候補が表示されない

●文字盤に[予]の表示はありますか？
⇒予測入力を使用する設定を行わないと、文字盤に[予]の表示がされません。
292 ページの「予測入力を使う」にて設定を行ってください。

⇒ブラウザ操作では使用できませんので、文字盤の[予]が非表示となります。

●日本語入力システムの設定を変更していませんか？
⇒日本語入力システムの予測入力を確認してください。
①475 ページの「文字盤で選択した文字が編集域に入力されない」の①～⑧項を参照して、全般画面を表示します。
② 全般画面の一番下「詳細設定を開く」をクリックします。

③ Microsoft IME の詳細設定画面が表示されるので、「予測入力」タブを選択します。

④ 予測入力の設定を確認します。

⑤「予測候補を表示するまでの文字数」を確認します。
この文字数分未確定文字を入力しないと、予測候補リストは自動で表示されません。

故障かなと思ったときには

システム装置の電源が入らない

●システム装置の電源コードが外れていませんか？
⇒電源コード、電源を確認してください。外れかけている場合、一度外して挿し直してください。

●システム装置のランプは点灯していますか？
⇒システム装置の取扱説明書を参照して、電源ボタン、電源ランプを確認してください。

●内部電源のリセットが必要な場合があります。
⇒システム装置の取扱説明書を参照して、電源コード、AC アダプター、バッテリーを外し、1 分程度放置してください。再度電源を入れて、問題が解決しているかどうか確認してください。

●バッテリーが劣化しているかもしれません。
⇒システム装置の取扱説明書を参照して、バッテリーだけを取り外して、もう一度電源を入れて下さい。電源が入る場合は、バッテリーの交換が必要です。ご購入先に、ご相談ください。

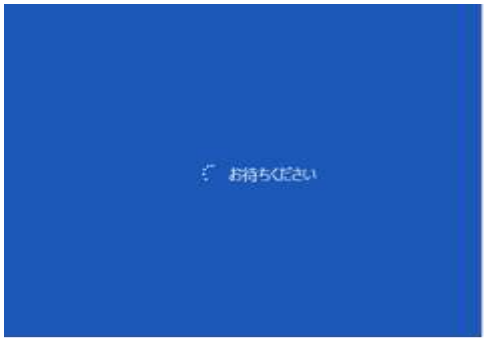
「伝の心」が起動しない

●システム装置の電源は入っていますか？
⇒システム装置の取扱説明書を参照して、電源ボタン、電源ランプを確認してください。

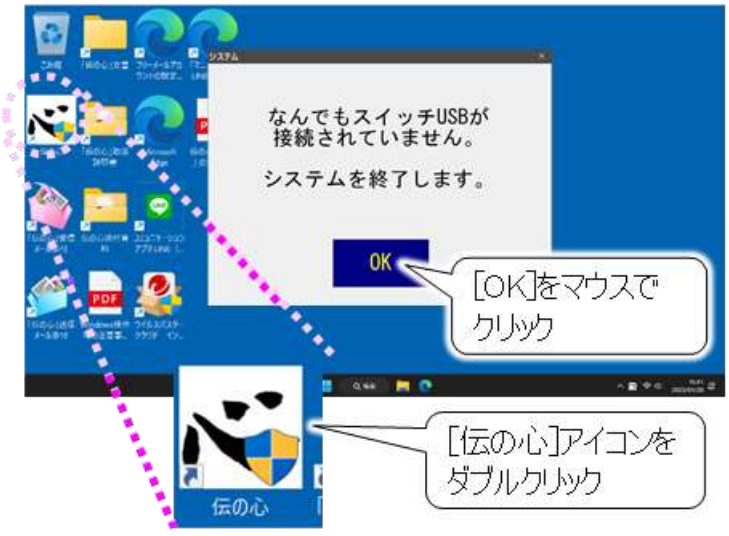
●システム装置の電源投入後、メッセージが表示されてそれから先に進まない
⇒システム装置の故障が考えられます。ご購入先に、点検と修理をご相談ください。

●Windows 起動画面で停止して、それから先に進まない。

⇒システム装置の故障が考えられます。ご購入先に、点検と修理をご相談ください。



●デスクトップ画面は表示するが、右記メッセージが表示されて「伝の心」は起動しない。
⇒スイッチの接続がされていない状態で、システム装置を起動すると、「伝の心」は起動しません。
「スイッチで操作ができない」の項を参照して、スイッチの接続を確認してください。
その後、デスクトップ画面の[伝の心]アイコンをダブルクリックして、「伝の心」を起動してください。



故障かなと思ったときには

●デスクトップ画面の[伝の心]アイコンをダブルクリックしても、「伝の心」は起動しない。(無反応)
⇒保守ツールを使用して、「伝の心」ソフトを再インストールしてください。

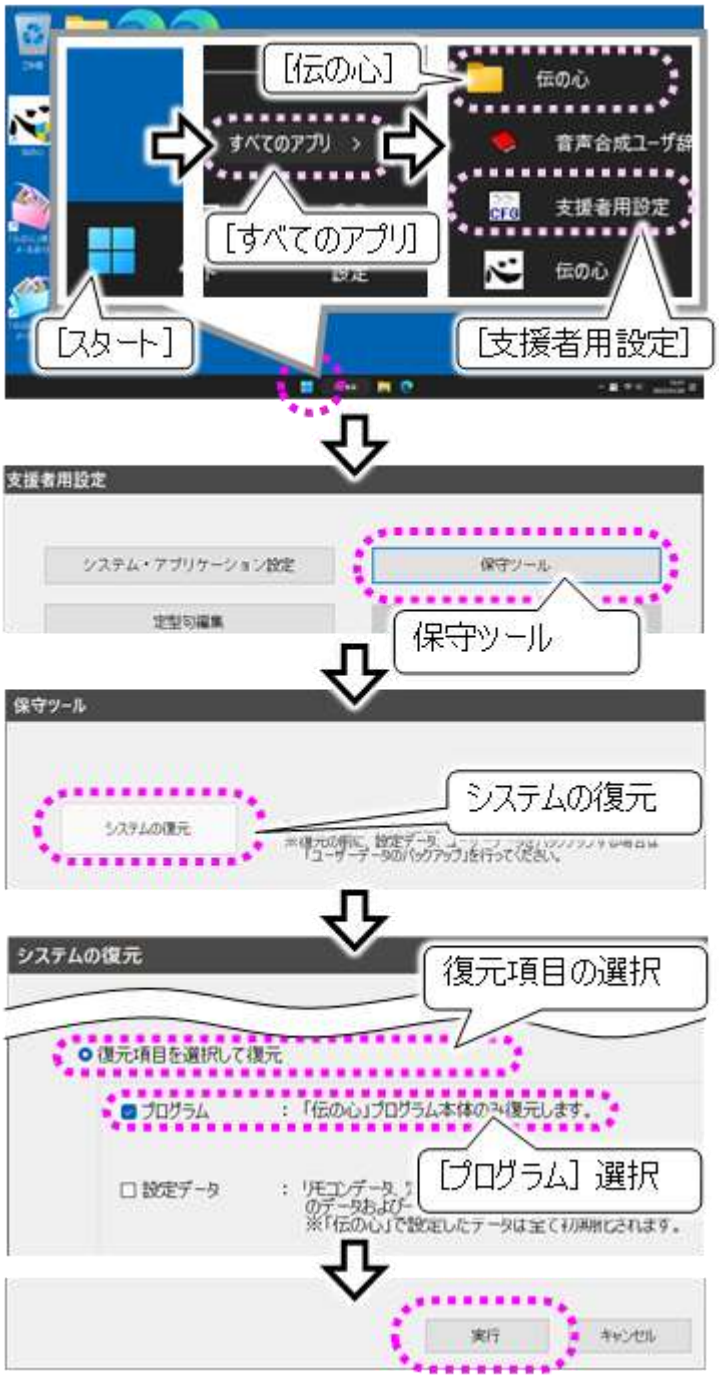
① デスクトップ画面中央下のアイコン[スタート]→[すべてのアプリ]→[伝の心]→[支援者用設定]を順にクリックして、支援者用設定画面を表示します。

② 支援者用設定画面の保守ツールボタンをマウスでクリックすると、保守ツール画面が表示されます。

③ システムの復元ボタンをマウスでクリックすると、システムの復元画面が表示されます。

④ [復元項目を選択して復元]を選択し、[プログラム]にチェック☑を入れます。

⑤ 実行ボタンをマウスでクリックします。



●保守ツールを使用して、「伝の心」ソフトを再インストールしても、「伝の心」は起動しない。
⇒保守ツールを使用して、「伝の心」設定データを出荷時の状態に戻してみてください。
前述のシステムの復元画面で、[設定データ]にチェック☑を入れて実行ボタンをマウスでクリックします。

⚠ 注意	「伝の心」設定データを出荷時の状態に戻す場合、作成したデータは削除されます(元に戻すことはできません)。本機能をご使用になる前に、バックアップを取ることをお勧めします。バックアップについては、436 ページの「バックアップの実行」を参照ください。

故障かなと思ったときには

※また、右記の QR コードまたは下記の URL から、「伝の心」トラブルシュートのサイトをご参照可能です。

https://www.hke.jp/products/dennosin/den_manual2/den-ho03.htm

故障かなと思ったときには

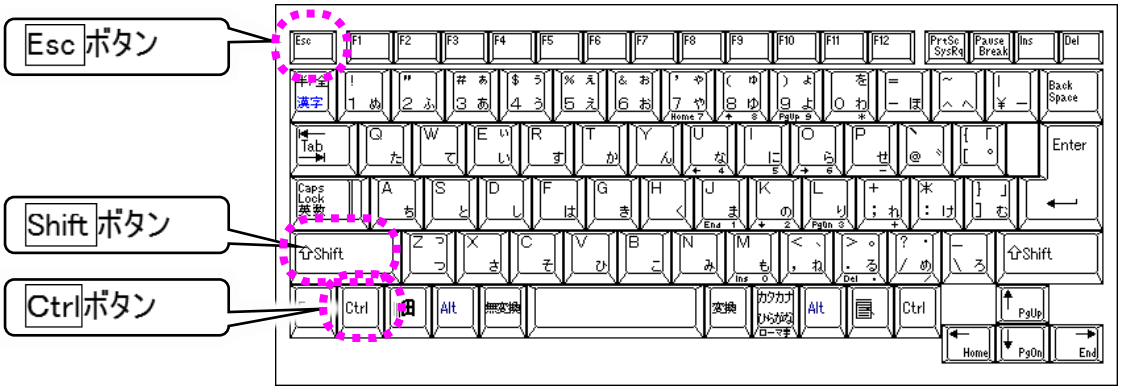
「伝の心」の操作ができなくなった

●スイッチでの入力はできていますか？

⇒462 ページの「スイッチで操作ができない」を参照して、スイッチ入力を確認してください。

●「伝の心」が正常に動作しているか確認してみましょう。

⇒キーボードのCtrlと Shift キーを押しながら Esc キーを押して、タスクマネージャ画面を表示します。

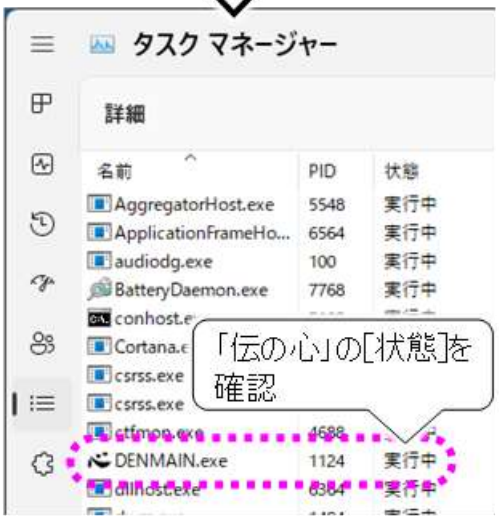


[詳細]アイコンをクリックして、「伝の心」の[状態]を確認しましょう。

「伝の心」が正常に動作している場合、「伝の心」の[状態]は「実行中」と表示されます。

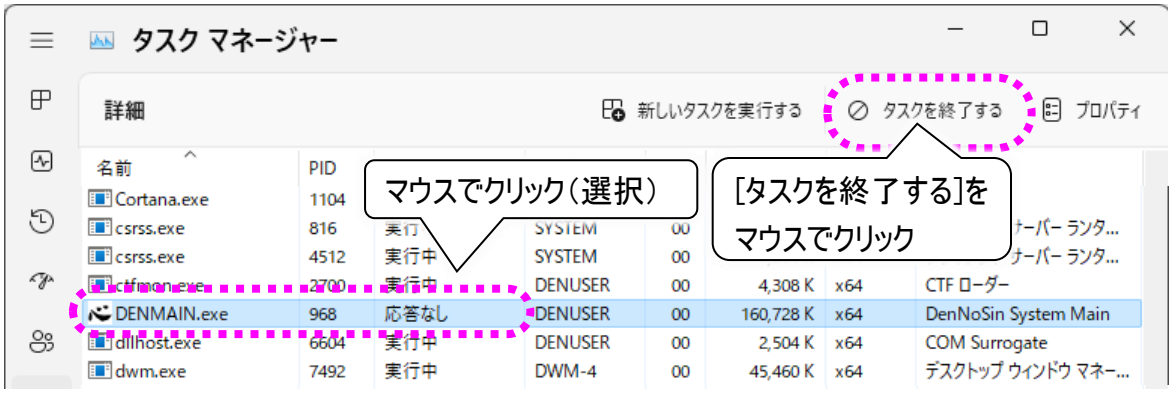
この状態で「伝の心」から操作（スイッチ入力不可）ができなくなった場合は、ご使用のスイッチ、ケーブルの接続不良、なんでもスイッチ USB が認識されていないなどの原因が考えられます。

タスクマネージャ画面の左上×ボタンをマウスでクリックして、タスクマネージャ画面を終了させます。



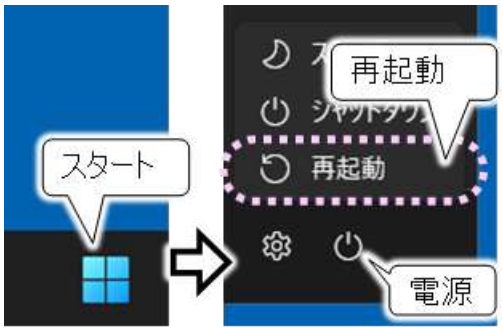
故障かなと思ったときには

●タスクマネージャ画面の「伝の心」の[状態]が「応答なし」になっていませんか？



⇒「伝の心」またはWindowsの再起動を行なう場合には、タスクマネージャ画面の[タスクの終了]ボタンをマウスでクリックすると「伝の心」が終了し、デスクトップ画面に戻ります。

[スタート]→[電源]→[再起動]を選択して、「伝の心」を起動しなおします。



●タスクマネージャ画面も表示できないし、マウス操作もできない。

⇒システム装置のオペレーティングシステムに、何らかの問題が発生したと考えられます。
ハードディスクのアクセスランプが点灯していないのを確認し、電源を強制的に切断（電源ボタンを3秒以上長押し）してください。
その後、1 分程度待って、再度電源を入れてください。

⚠ 注意	ハードディスクのアクセス中（アクセスランプが点灯）に電源を切断すると、ハードディスクに保存してあるデータの破損およびハードディスクが故障する場合があります。ハードディスクアクセス中は、処理が停止するまで待ってください。

故障かなと思ったときには

「伝の心」を終了できない

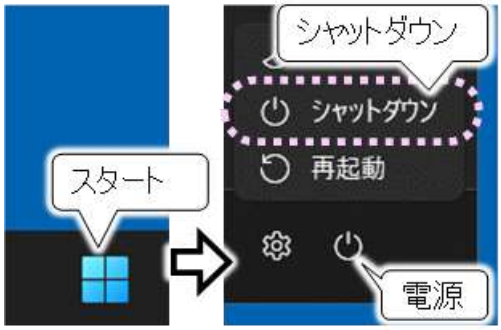
●スイッチでの入力はできていますか？

⇒462 ページの「スイッチで操作ができない」を参照して、スイッチ入力を確認してください。

●タスクマネージャ画面は表示できますか？

⇒480 ページの「「伝の心」の操作ができなくなった」を参照して、タスクマネージャ画面を表示させ、「伝の心」を終了させます。

[スタート]→[電源]→[シャットダウン]を選択して、システム装置の電源を切ります。



●タスクマネージャ画面も表示できないし、マウス操作もできない。

⇒システム装置のオペレーティングシステムに何らかの問題が考えられます。
ハードディスクのアクセスランプが点灯していないのを確認し、電源を強制的に切断（電源ボタンを3秒以上長押し）してください。
再度電源を入れる場合、1 分程度待ってから行ってください。

⚠ 注意	ハードディスクのアクセス中（アクセスランプが点灯）に電源を切断すると、ハードディスクに保存してあるデータの破損およびハードディスクが故障する場合があります。ハードディスクアクセス中は、処理が停止するまで待ってください。

操作を間違えてしまった時には

パネル／メニューの選択操作で、選択を間違えてしまった

●間違えたアイコンを選択してしまった場合は
⇒[戻る]または[終了]を選択して、前の画面に戻ります。

●間違えた列を選択してしまった場合は
⇒しばらく待ちましょう。再度、列スキャンが始まります。

パネル／メニューの選択操作（スイッチ入力）で、マウス操作してしまった

●スキャンカーソルが消えてしまった場合は
⇒[戻る]または[終了]を**マウス操作で**選択して、前の画面に一度戻ります。その後、スイッチ操作で再度画面を表示させてください。

●文字盤のマウス操作で、編集域に文字が入力されない場合は
⇒[戻]を**マウス操作で**選択して、文字盤を一度終了させます。その後、**スイッチ操作で**再度文字盤を表示させてください。

●特に問題がなさそうな場合は
⇒速やかに、**スイッチ操作**に戻してください。

文書作成（編集パネル）で、間違えて文字列を切り取ってしまった

●[切取り]を選択した直後の場合は
⇒同じ列の[元に戻]を選択すると、文字列を切り取る前の状態に戻ります。

●[切取り]を選択した後、文字入力や漢字変換など文書編集をしてしまった場合は
⇒[切取り]の後行った文書編集に[コピー]や[切取り]が無かった場合は、元に戻せる場合があります。文字列を戻したい位置に入力カーソルを移動させ、[貼付け]を選択すると、切り取った文字列が入力カーソルの位置に挿入されます。

定型句／漢字入力等の候補選択で間違えた候補を選択してしまった

●定型句リストの選択ミス
⇒80 ページの「定型句入力を間違えた時」または 81 ページの「定型句入力を中止したい時」を参照してください。再選択または選択の中止ができます。

●漢字変換候補リストの選択ミス
⇒84 ページの「漢字入力の基本操作」を参照してください。再選択または選択の中止ができます。

●予測候補リストの選択ミス
⇒82 ページの「予測入力を使う」を参照してください。再選択または選択の中止ができます。

間違えて文書／メールを削除してしまった

●文書を削除してしまった場合は
⇒デスクトップのゴミ箱にあります。108 ページの「誤って文書を削除した場合」を参照して元に戻すことができます。

操作を間違えてしまった時には

●メールを削除してしまった場合は
⇒「メールボックス」の「ごみ箱」に格納されています。
ただし、「ごみ箱」に格納されているメールを削除してしまった場合は、元に戻せません。

間違えてフォルダを開けてしまった

●文書画面やメール画面で選択したフォルダから移動したい
⇒リストには[上位フォルダへ]という項目があります。これをメニューの[↑][↓]等で選択して、[選択]を選択すると、一つ上のフォルダに戻ることができます。

「支援者用設定」で間違えて「伝の心を非表示にする」設定をしてしまった

●Windows 操作の「ソフト」に登録したアプリを起動したら、Windows 操作のメニューが消えて、スイッチ操作ができなくなった場合は
⇒スイッチの長押しでメニューが表示されます。長押し時間は、押し続け監視時間と同様です。また押し続け監視をしない設定になっている場合は、長押し時間は 10 秒になります。
ただし、スイッチによっては長押しができないものもありますのでご注意ください。
押し続け監視時間の設定は 232 ページの「スイッチ押し続け監視の設定」を参照ください。
⇒278 ページの「ウィンドウズ操作の設定（ソフト項目の登録）」を参照して「伝の心を非表示にする」のチェックボックスのチェックを外してください。

保守ツールで間違えて伝の心を出荷時の状態に戻してしまった

●プログラムを出荷時の状態に戻してしまった場合は
⇒設定やユーザーデータの削除は行いませんので、特に問題ありません。

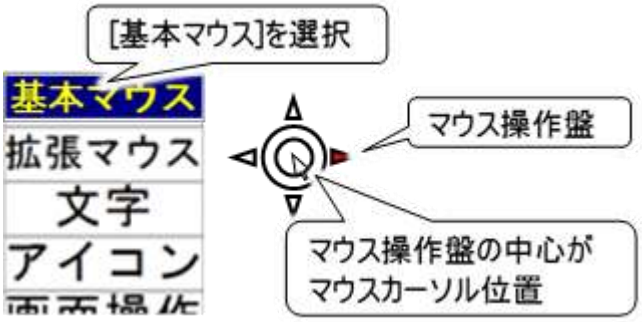
●設定データやユーザーデータを出荷時の状態に戻してしまった場合は
⇒設定やユーザーデータは元に戻せません。
ただし、ユーザーデータのバックアップを行っていた場合は、そのバックアップデータに戻すことが可能です。詳細は 439 ページの「バックアップしたユーザーデータを戻す」を参照してください。

メッセージ画面が操作できない

「伝の心」をご使用中に、他のソフトからメッセージ画面が表示されることがあります。プリンターのエラーメッセージもそのひとつです。これらのメッセージ画面を閉じる場合は、「伝の心」の Windows 操作機能をご使用ください。
下記は、プリンターのエラーメッセージ画面を閉じる方法です。

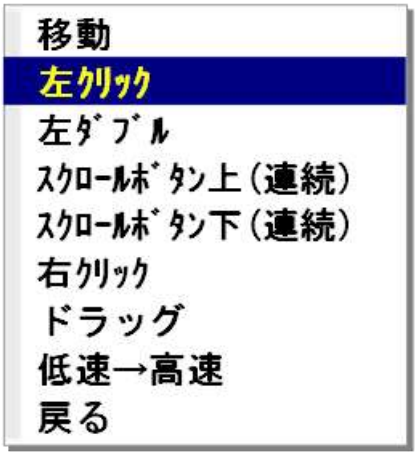
①「伝の心」のメインメニューから、[応用操作]を選択するとサブメニューが表示されるので、そこから[Windows 操作]を選択します。

②Windows 操作画面がデスクトップ画面の左側に表示されるので、メニューより[基本マウス]を選択すると、マウスポインターの位置にマウス操作盤が表示されます。



③400 ページの「マウスを操作する」を参照してマウスポインターを画面右上の×ボタンに移動させて、マウスの[左クリック]を選択すると、メッセージ画面は閉じます。

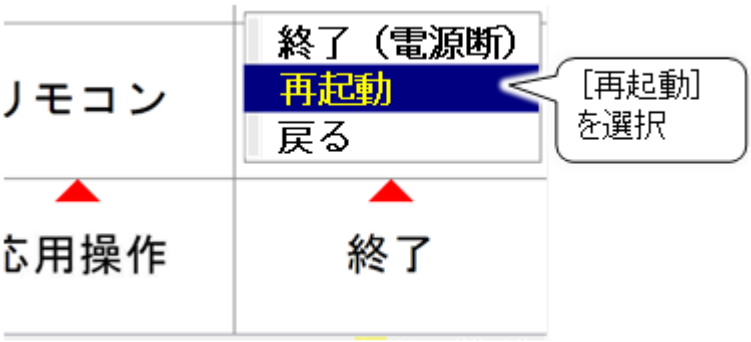
④印刷を中止したい場合は、印刷中止ボタンに移動させて、マウスの[左クリック]を選択してください。
印刷が中止されて、メッセージ画面は閉じます。



「伝の心」を再起動するには

「伝の心」で使用している OS では、稀に一時的な誤動作が発生することがあります。その場合、システム装置の再起動で問題が解決することがあります。

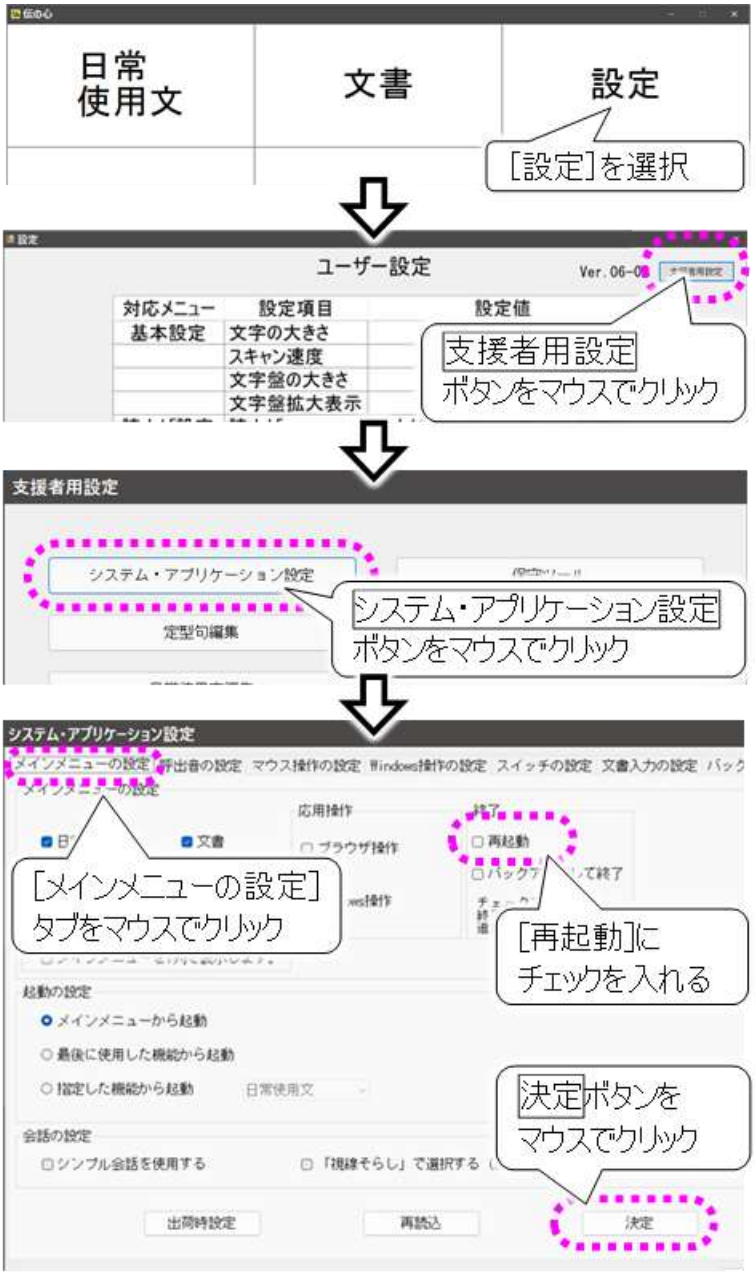
「伝の心」のメインメニューから、[終了]を選択するとサブメニューが表示されるので、そこから[再起動]を選択します。



サブメニューに「再起動」がない場合は、支援者用設定より下記の手順で表示できるようにします。

①「伝の心」のメインメニューから、[設定]を選択し、
表示される設定画面の右上支援者用設定ボタンをマウスクリックすると、
支援者用設定画面が表示できます。

②支援者用設定画面から、システム・アプリケーション設定ボタンをマウスでクリックすると、
システム・アプリケーション設定画面が表示されるので、
[再起動]にチェックを入れて決定ボタンをマウスでクリックしてください。



その他

日常のお手入れや補足事項について説明します。

日常のお手入れ

- 「伝の心」は汚れたら清掃を行ってください。やわらかい布で乾拭きします。乾拭きで汚れが取れないときは、中性洗剤または、水で濡らし固く絞った布で拭きます。水拭き後、乾拭きをして水気を十分に取ってください。
- 研磨剤の入った洗剤は使わないでください。装置に傷がつきます。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。すきまからしみこんで内部装置の故障の原因になります。
- 「伝の心」の設置場所、又はその周辺は定期的に清掃して下さい。
- 機械内部などは、本書で説明している部分以外の清掃はご購入先にご相談ください。

- リモコンユニット（なんでも IR2）の赤外線は先端から30° 程度の範囲に懐中電灯の明かりのように照射します。操作する機器の受光部がこの範囲に収まるように設置してください。
- 機器によって受光感度が異なります。仕様上は7mまで届くようになっておりますが、反応しない場合は距離等を調節してみてください。
- 充電ユニット交換をあらわす症状が出ていなくても、充電機能が劣化してくると赤外線の到達距離が短くなります。ご自身の判断にて交換依頼をお願い致します（※充電ユニットの交換はお客様自身で交換できない仕様になっており、別途有償となっております）。
- 赤外線リモコンは、屋外光や光度の高い照明器具などにより誤動作や操作不能の原因になる場合がありますので、リモコン操作・リモコンデータの登録をする際は室内の環境にご注意ください。

※ 充電ユニットの交換によって、テレビ・ビデオなどの登録データ、パネルの設定等が消えることはありません。

USB メモリについて

- 「伝の心」のユーザーデータをバックアップする用途に用いるために、お客様が用意した USB メモリを使用することができます。（支援者用設定にて変更可能です）ご購入時の状態では、一週間毎に「伝の心」のユーザーデータをシステム装置のバックアップフォルダにコピーする仕様になっております。
- 「伝の心」のユーザーデータをバックアップするタイミングは「伝の心」終了時です。USB メモリにバックアップする設定に変更した場合、「伝の心」終了時には、USB メモリの抜き差しを行わないでください。データが破損する恐れがあります。
- SD カード等をシステム装置に接続されたり、システム装置に接続した USB メモリのドライブレターを変更したりすると、USB メモリにバックアップできなくなる事がありますのでご注意ください。
- USB メモリの寿命は、ご使用の USB メモリによって異なります。また使用環境によってはその寿命は短くなる事もあります。記録されたデータの破壊、消失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 免責事項

●USB メモリに記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

●お客様がご購入された USB メモリに関する保証は、いかなる場合も弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 記憶されたデータについて

●USB メモリのデータのバックアップを必ず他のメディアに作成してください。記録されたデータの破壊、消失については、故障や損害の内容、原因に関わらず弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ ご使用上の注意事項

●ご使用になられる USB メモリの注意事項、使用方法、また本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、安全上の注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

●OS が表示するメモリ容量は、実際のメモリ容量と異なる場合があります。

●USB メモリを廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。条例の内容については、各地方自治体にお問い合わせください。

主な操作説明について

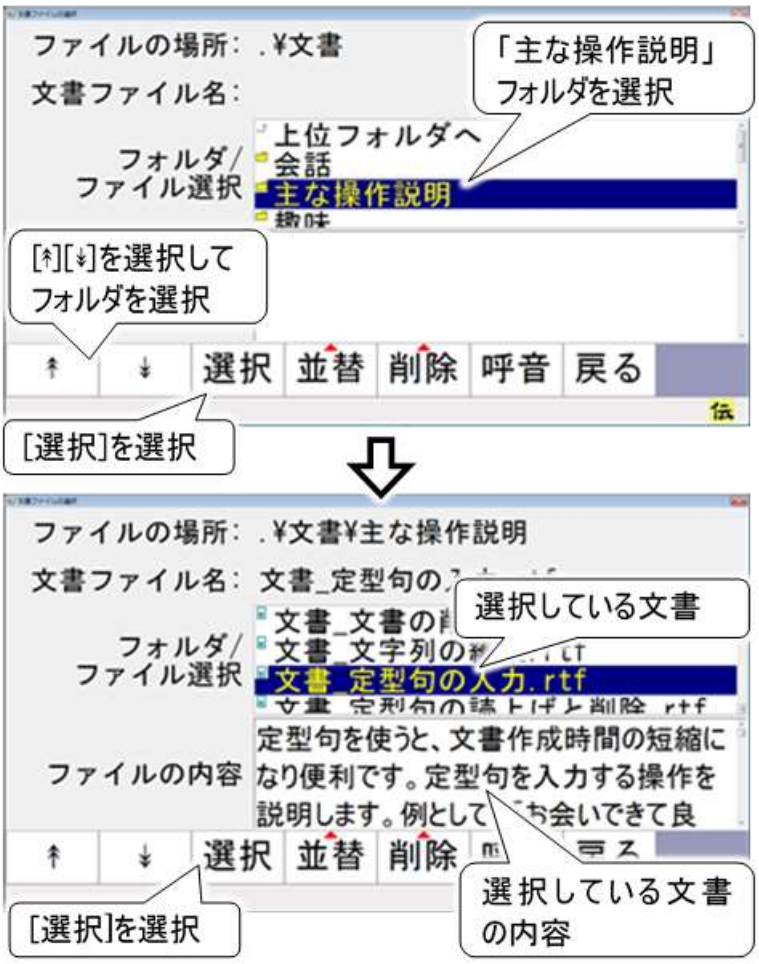
詳細な操作方法については、本書を参照してください。
また、主な操作説明を「伝の心」の文書画面から読み出すことができます。
以下は、その方法を示します。

1 文書画面のトップメニューより、[文書]を選択するとサブメニューが表示されるので、[読込]を選択します。

2 文書ファイルの選択画面が表示されるので、メニューより[↑]または[↓]を選択して、フォルダ/ファイル選択リストから「主な操作説明」フォルダを選択します。

メニューより[選択]を選択すると、「主な操作説明」フォルダの中身がフォルダ/ファイル選択リストに表示されます。

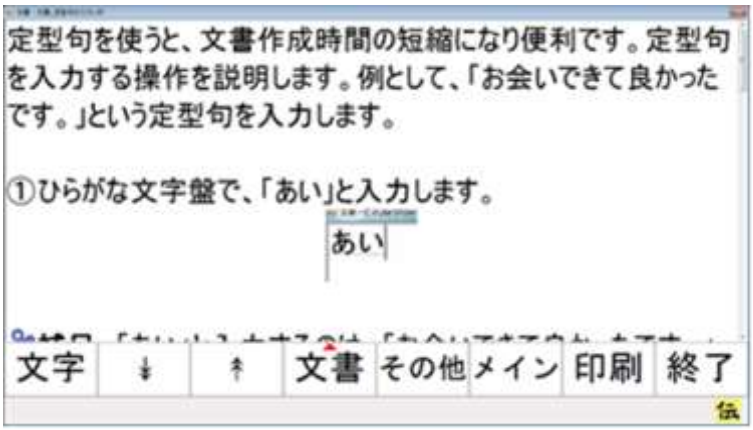
3 読み出したいファイルを前項と同様に選択して、メニューより[選択]を選択します。



主な操作説明について

4 選択している文書が読み込まれて、文書画面に戻ります。

5 [↟][↡]を選択すると文書が上下にスクロールします。
[文字]を選択して文字盤を表示し、文字盤の[声]を選択することで、文書を読み上げることもできます。（141 ページの「編集中の文章を読み上げる」参照）



日常使用文パネル一覧

ここでは、日常使用文パネルの、ご購入時の一覧を示します。日常使用文を使用する前や日常使用文の編集時などに参照ください。

日常使用文パネル１の構成と説明

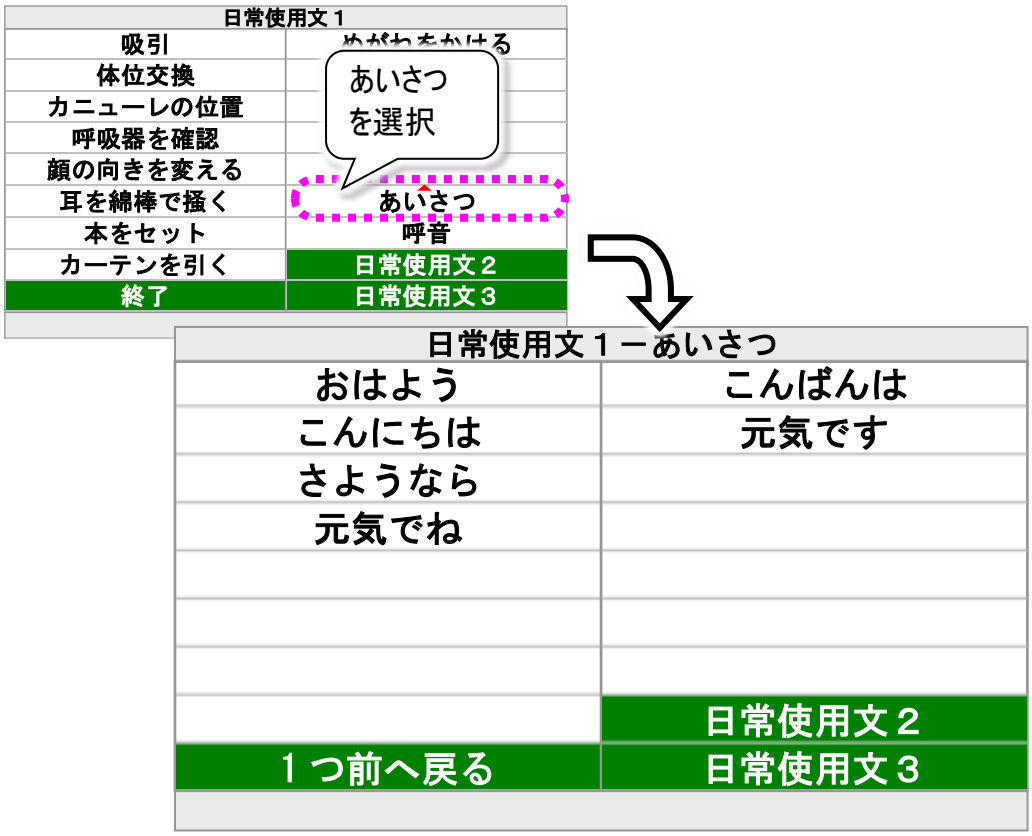
日常使用文パネル１

日常使用文１	
吸引	めがねをかける
体位交換	ベッドを昇降
カニューレの位置	目が疲れる
呼吸器を確認	
顔の向きを変える	
耳を綿棒で掻く	あいさつ
本をセット	呼音
カーテンを引く	日常使用文２
終了	日常使用文３

日常使用文パネル1	サブパネル	機能
吸引	―――	“吸引してください”
体位交換	―――	“体位交換してください”
カニューレの位置	―――	“カニューレの位置を変更してください”
呼吸器を確認	―――	“呼吸器を確認してください”
顔の向きを変える	―――	“顔の向きを変えてください”
耳を綿棒で掻く	―――	“耳を綿棒で掻いてください”
本をセット	―――	“本をセットしてください”
カーテンを引く	―――	“カーテンを引いてください”
メガネをかける	―――	“メガネをかけてください”
ベッドを昇降	―――	“ベッドを昇降してください”
目が疲れる	―――	“目が疲れてきました”
あいさつ	あいさつパネル	あいさつパネルを表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	日常使用文画面を閉じます。
日常使用文2	―――	日常使用文パネル2を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル１→▽あいさつパネル



あいさつパネル	サブパネル	機能
おはよう	―――	“おはよう”
こんにちは	―――	“こんにちは”
こんばんは	―――	“こんばんは”
さようなら	―――	“さようなら”
元気です	―――	“元気です”
元気でね	―――	“元気でね”
１つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル1に戻ります。
日常使用文２	―――	日常使用文パネル2を表示します。
日常使用文３	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 2 の構成と説明

日常使用文パネル 2

「日常使用文」の各画面で[日常使用文 2]を選択すると表示されます。

日常使用文２	
下肢	あいさつ
上肢	感情
体幹	体調
顔面	返事
視覚、聴覚、体感	コメント
寝具	程度、方向
家具	呼音
家電製品	日常使用文１
終了	日常使用文３

日常使用文パネル2	サブパネル	機能
下肢	下肢パネル	下肢パネルを表示します。
上肢	上肢パネル	上肢パネルを表示します。
体幹	体幹パネル	体幹パネルを表示します。
顔面	顔面パネル	顔面パネルを表示します。
視覚、聴覚、体感	視覚、聴覚、体感パネル	視覚、聴覚、体感パネルを表示します。
寝具	寝具パネル	寝具パネルを表示します。
家具	家具パネル	家具パネルを表示します。
家電製品	家電製品パネル	家電製品パネルを表示します。
あいさつ	あいさつパネル	あいさつパネルを表示します。
感情	感情パネル	感情パネルを表示します。
体調	体調パネル	体調パネルを表示します。
返事	返事パネル	返事パネルを表示します。
コメント	コメントパネル	コメントパネルを表示します。
程度、方向	程度、方向パネル	程度、方向パネルを表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	日常使用文画面を閉じます。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽足首パネル

下肢パネル	サブパネル	機能
足首	足首が痛い	“足首が痛いです”
	足首が痒い	“足首が痒いです”
	足首が痺れる	“足首が痺れます”
	足首が熱い	“足首が熱いです”
	足首が冷える	“足首が冷えます”
	足首を曲げる	“足首を曲げてください”
	足首を伸ばす	“足首を伸ばしてください”
	足首を開く	“足首を開いてください”
	足首を高く	“足首を高くしてください”
	足首を低く	“足首を低くしてください”
	足首を戻す	“足首を戻してください”
	１つ前へ戻る	下肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
脚	497 頁参照	脚パネルを表示します。
膝	498 頁参照	膝パネルを表示します。
足の指先	499 頁参照	足の指先パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽脚パネル

下肢パネル	サブパネル	機能
足首	496 頁参照	足首パネルを表示します。
脚	脚が痛い	“脚が痛いです”
	脚が痒い	“脚が痒いです”
	脚が痺れる	“脚が痺れます”
	脚が熱い	“脚が熱いです”
	脚が冷える	“脚が冷えます”
	脚を曲げる	“脚を曲げてください”
	脚を伸ばす	“脚を伸ばしてください”
	脚を開く	“脚を開いてください”
	脚を閉じる	“脚を閉じてください”
	脚を高く	“脚を高くしてください”
	脚を低く	“脚を低くしてください”
	脚を戻す	“脚を戻してください”
	１つ前へ戻る	下肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
膝	498 頁参照	膝パネルを表示します。
足の指先	499 頁参照	足の指先パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽膝パネル

下肢パネル	サブパネル	機能
足首	496 頁参照	足首パネルを表示します。
脚	497 頁参照	脚パネルを表示します。
膝	膝が痛い	“膝が痛いです”
	膝が痒い	“膝が痒いです”
	膝が痺れる	“膝が痺れます”
	膝が熱い	“膝が暑いです”
	膝が冷える	“膝が冷えます”
	膝を曲げる	“膝を曲げてください”
	膝を伸ばす	“膝を伸ばしてください”
	膝を開く	“膝を開いてください”
	膝を閉じる	“膝を閉じてください”
	膝を高く	“膝を高くしてください”
	膝を低く	“膝を低くしてください”
	膝を戻す	“膝を戻してください”
	１つ前へ戻る	下肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
足の指先	499 頁参照	足の指先パネルを表示します。

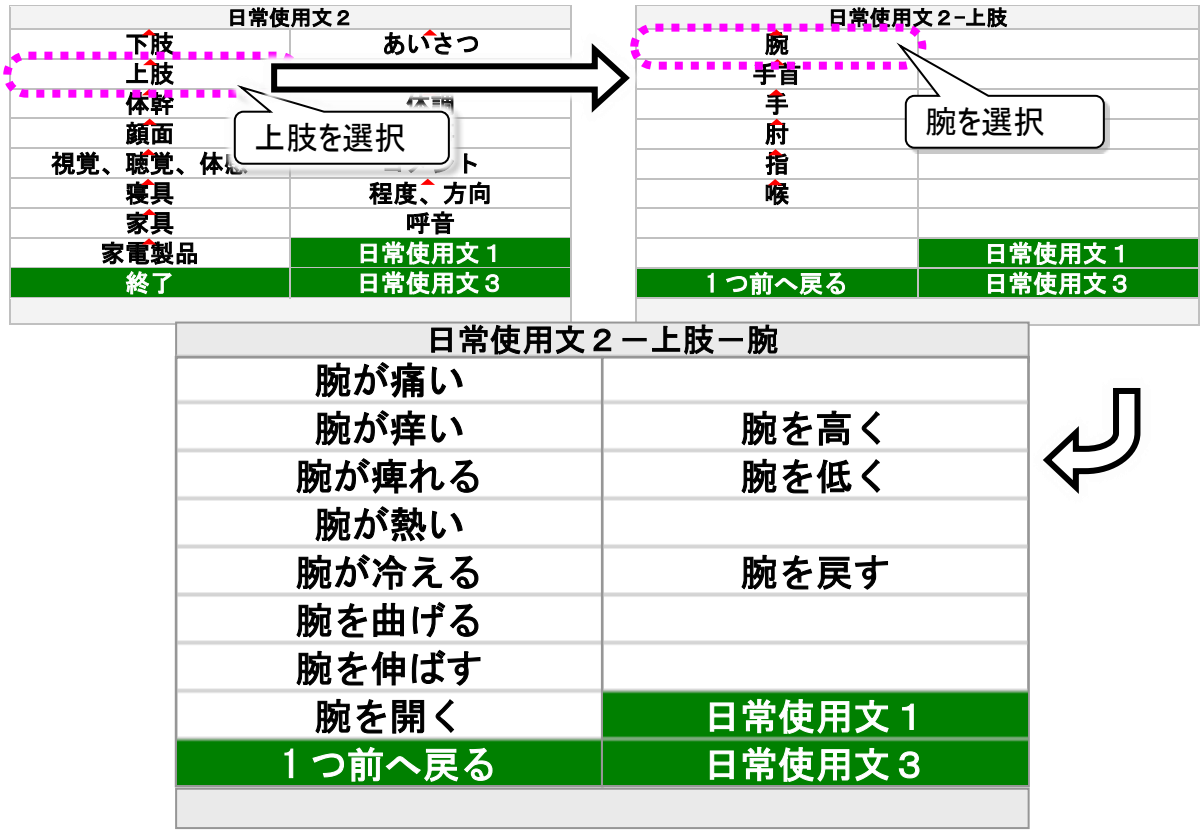
日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 2→▽下肢パネル→▽足の指先パネル

下肢パネル	サブパネル	機能
足首	496 頁参照	足首パネルを表示します。
脚	497 頁参照	脚パネルを表示します。
膝	498 頁参照	膝パネルを表示します。
足の指先	足の指先が痛い	“足の指先が痛いです”
	足の指先が痒い	“足の指先が痒いです”
	足の指先が痺れる	“足の指先が痺れます”
	足の指先が熱い	“足の指先が熱いです”
	足の指先が冷える	“足の指先が冷えます”
	足の指先を曲げる	“足の指先を曲げてください”
	足の指先を伸ばす	“足の指先を伸ばしてください”
	足の指先を開く	“足の指先を開いてください”
	足の指先を戻す	“足の指先を戻してください”
	１つ前へ戻る	下肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

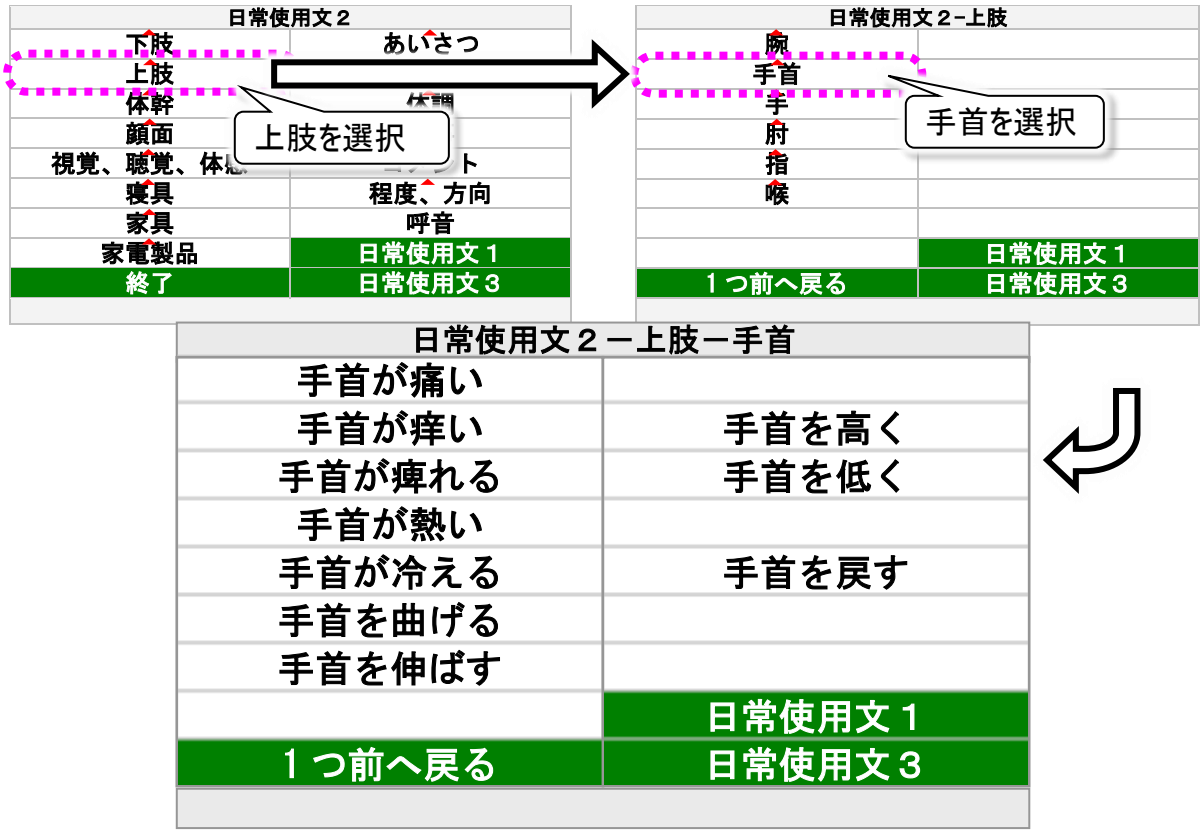
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽腕パネル



上肢パネル	サブパネル	機能
腕	腕が痛い	“腕が痛いです”
	腕が痒い	“腕が痒いです”
	腕が痺れる	“腕が痺れます”
	腕が熱い	“腕が熱いです”
	腕が冷える	“腕が冷えます”
	腕を曲げる	“腕を曲げてください”
	腕を伸ばす	“腕を伸ばしてください”
	腕を開く	“腕を開いてください”
	腕を高く	“腕を高くしてください”
	腕を低く	“腕を低くしてください”
	腕を戻す	“腕を戻してください”
	１つ前へ戻る	上肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
手首	501 頁参照	手首パネルを表示します。
手	502 頁参照	手パネルを表示します。
肘	503 頁参照	肘パネルを表示します。
指	504 頁参照	指パネルを表示します。
喉	505 頁参照	喉パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

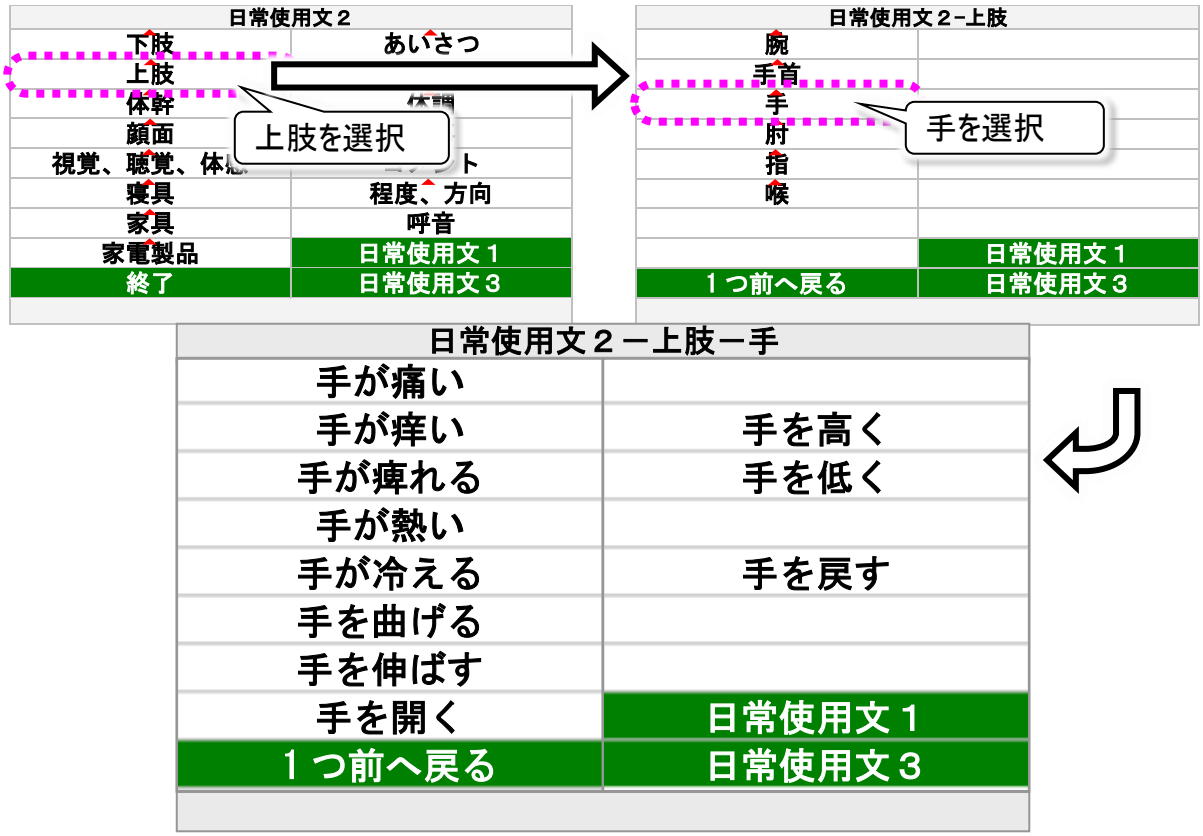
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽手首パネル



上肢パネル	サブパネル	機能
腕	500 頁参照	腕パネルを表示します。
手首	手首が痛い	“手首が痛いです”
	手首が痒い	“手首が痒いです”
	手首が痺れる	“手首が痺れます”
	手首が熱い	“手首が熱いです”
	手首が冷える	“手首が冷えます”
	手首を曲げる	“手首を曲げてください。”
	手首を伸ばす	“手首を伸ばしてください”
	手首を高く	“手首を高くしてください”
	手首を低く	“手首を低くしてください”
	手首を戻す	“手首を戻してください”
	１つ前へ戻る	上肢パネルに戻ります。
	日常使用文１	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文３	日常使用文パネル3を表示します。
手	502 頁参照	手パネルを表示します。
肘	503 頁参照	肘パネルを表示します。
指	504 頁参照	指パネルを表示します。
喉	505 頁参照	喉パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

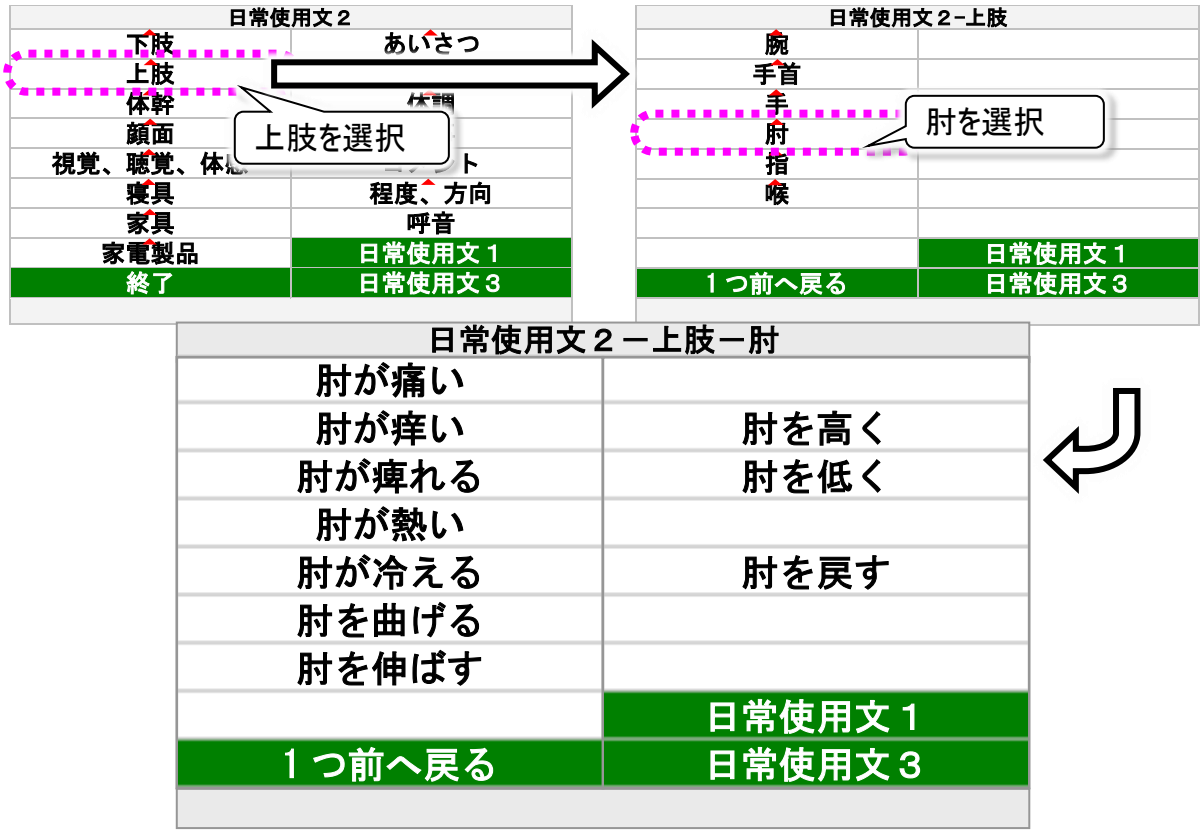
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽手パネル



上肢パネル	サブパネル	機能
腕	500 頁参照	腕パネルを表示します。
手首	501 頁参照	手首パネルを表示します。
手	手が痛い	“手が痛いです”
	手が痒い	“手が痒いです”
	手が痺れる	“手が痺れます”
	手が熱い	“手が熱いです”
	手が冷える	“手が冷えます”
	手を曲げる	“手を曲げてください”
	手を伸ばす	“手を伸ばしてください”
	手を開く	“手を開いてください”
	手を高く	“手を高くしてください”
	手を低く	“手を低くしてください”
	手を戻す	“手を戻してください”
	１つ前へ戻る	上肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
肘	503 頁参照	肘パネルを表示します。
指	504 頁参照	指パネルを表示します。
喉	505 頁参照	喉パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

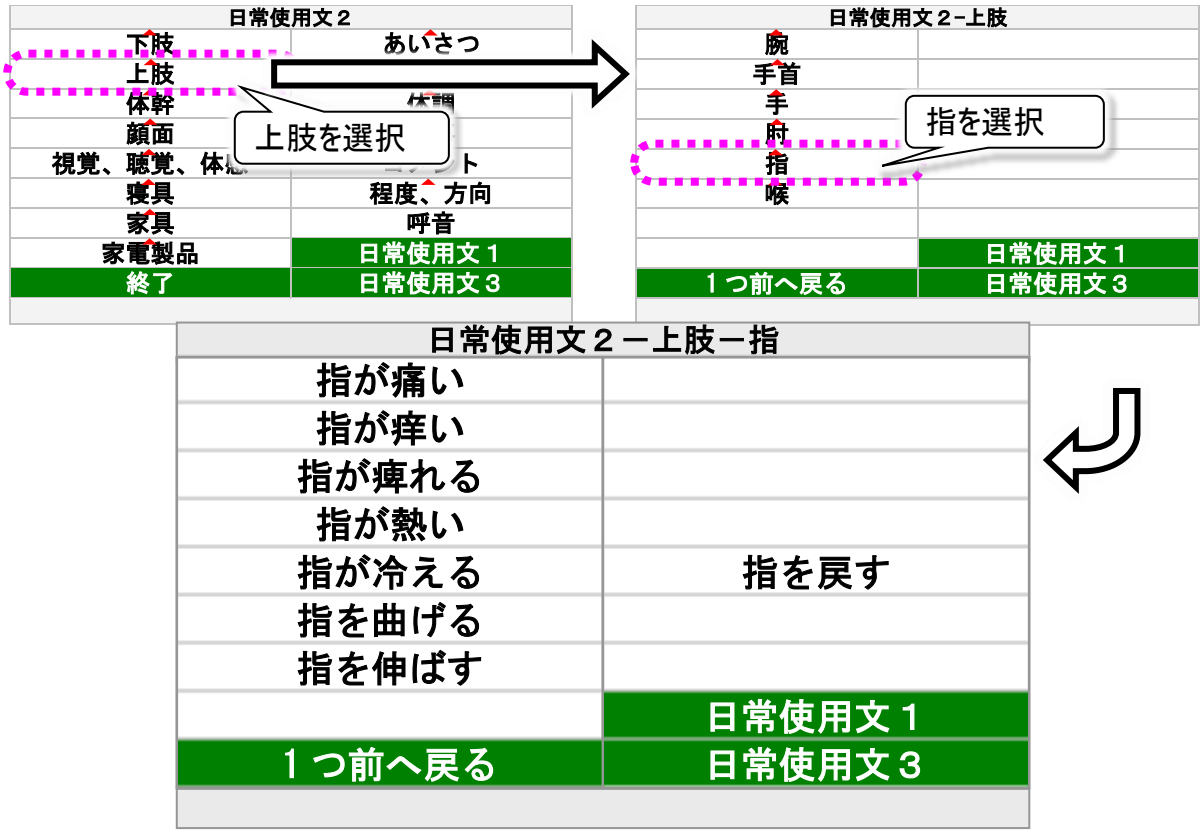
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽肘パネル



上肢パネル	サブパネル	機能
腕	500 頁参照	腕パネルを表示します。
手首	501 頁参照	手首パネルを表示します。
手	502 頁参照	手パネルを表示します。
肘	肘が痛い	“肘が痛いです”
	肘が痒い	“肘が痒いです”
	肘が痺れる	“肘が痺れます”
	肘が熱い	“肘が熱いです”
	肘が冷える	“肘が冷えます”
	肘を曲げる	“肘を曲げてください”
	肘を伸ばす	“肘を伸ばしてください”
	肘を高く	“肘を高くしてください”
	肘を低く	“肘を低くしてください”
	肘を戻す	“肘を戻してください”
	１つ前へ戻る	上肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
指	504 頁参照	指パネルを表示します。
喉	505 頁参照	喉パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

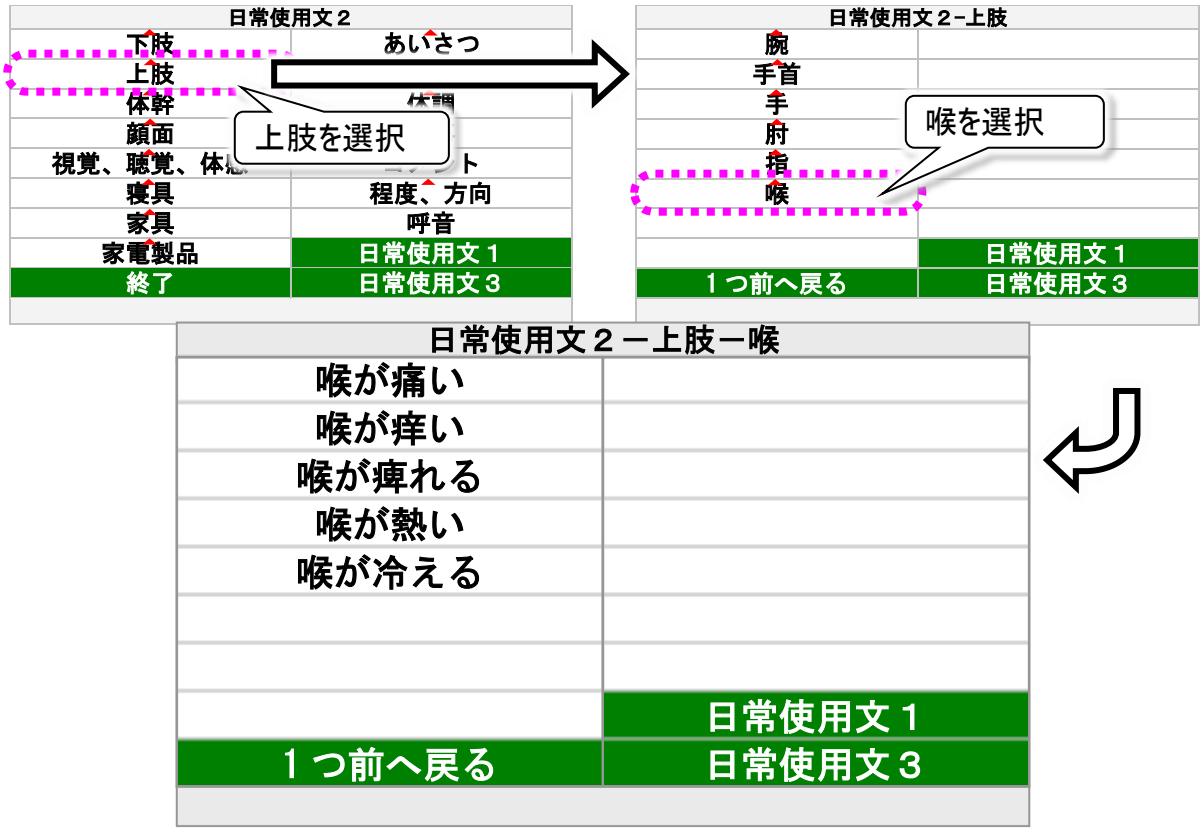
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽指パネル



上肢パネル	サブパネル	機能
腕	500 頁参照	腕パネルを表示します。
手首	501 頁参照	手首パネルを表示します。
手	502 頁参照	手パネルを表示します。
肘	503 頁参照	肘パネルを表示します。
指	指が痛い	“指が痛いです”
	指が痒い	“指が痒いです”
	指が痺れる	“指が痺れます”
	指が熱い	“指が熱いです”
	指が冷える	“指が冷えます”
	指を曲げる	“指を曲げてください”
	指を伸ばす	“指を伸ばしてください”
	指を戻す	“指を戻してください”
	１つ前へ戻る	上肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
喉	505 頁参照	喉パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

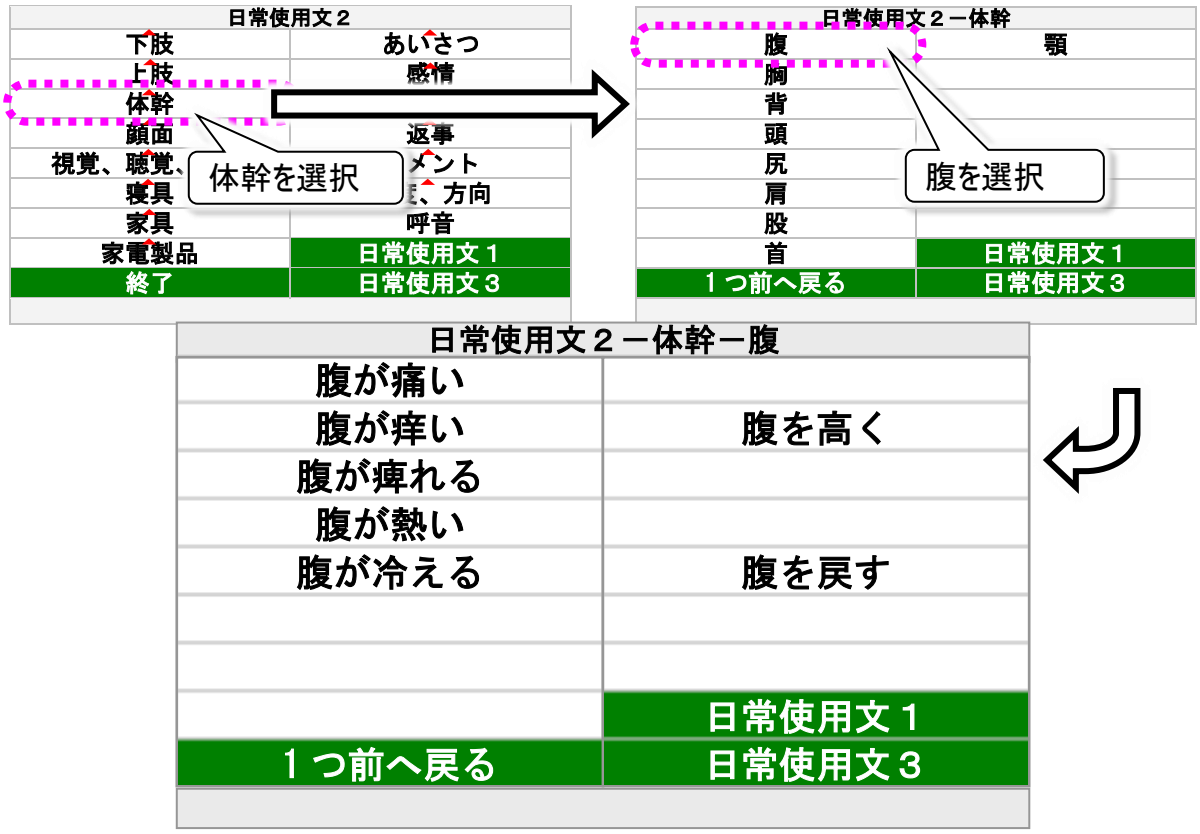
日常使用文パネル 2→▽上肢パネル→▽喉パネル



上肢パネル	サブパネル	機能
腕	500 頁参照	腕パネルを表示します。
手首	501 頁参照	手首パネルを表示します。
手	502 頁参照	手パネルを表示します。
肘	503 頁参照	肘パネルを表示します。
指	504 頁参照	指パネルを表示します。
喉	喉が痛い	“喉が痛いです”
	喉が痒い	“喉が痒いです”
	喉が痺れる	“喉が痺れます”
	喉が熱い	“喉が熱いです”
	喉が冷える	“喉が冷えます”
	１つ前へ戻る	上肢パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

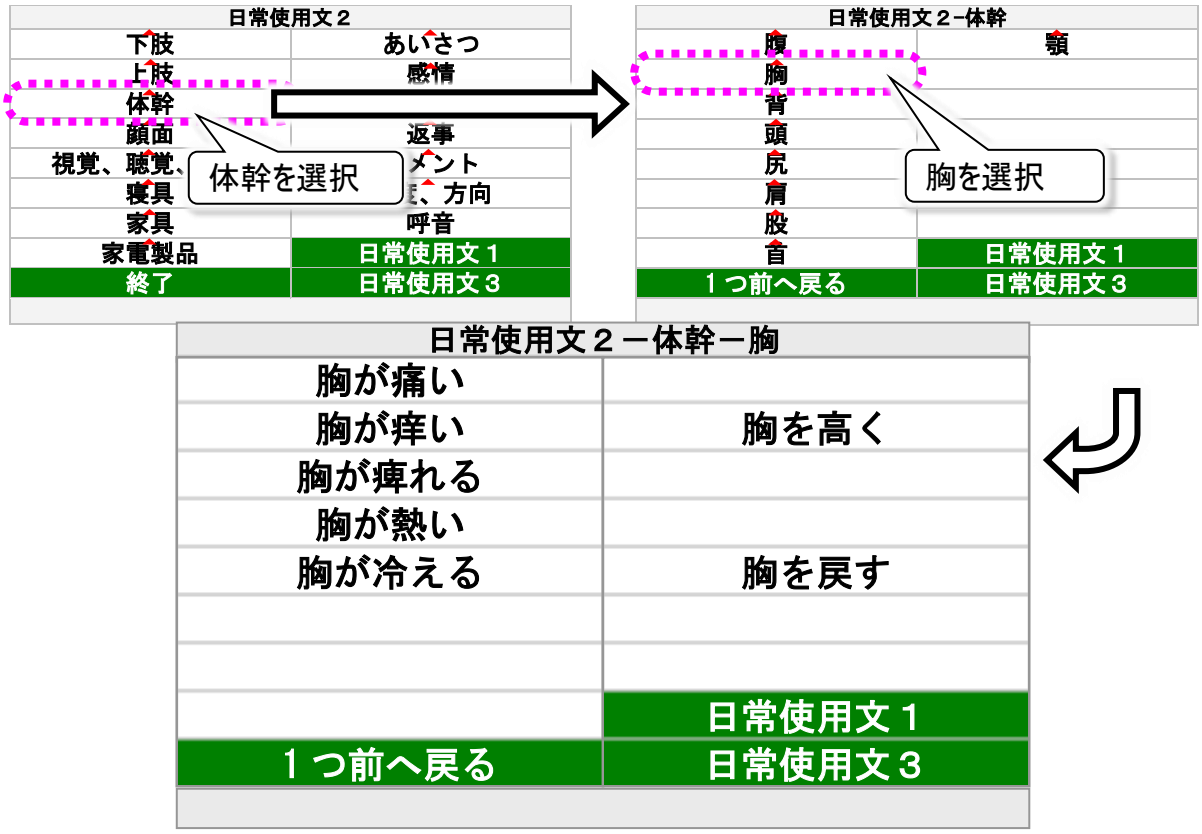
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽腹パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	腹が痛い	“腹が痛いです”
	腹が痒い	“腹が痒いです”
	腹が痺れる	“腹が痺れます”
	腹が熱い	“腹が熱いです”
	腹が冷える	“腹が冷えます”
	腹を高く	“腹を高くしてください”
	腹を戻す	“腹を戻してください”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

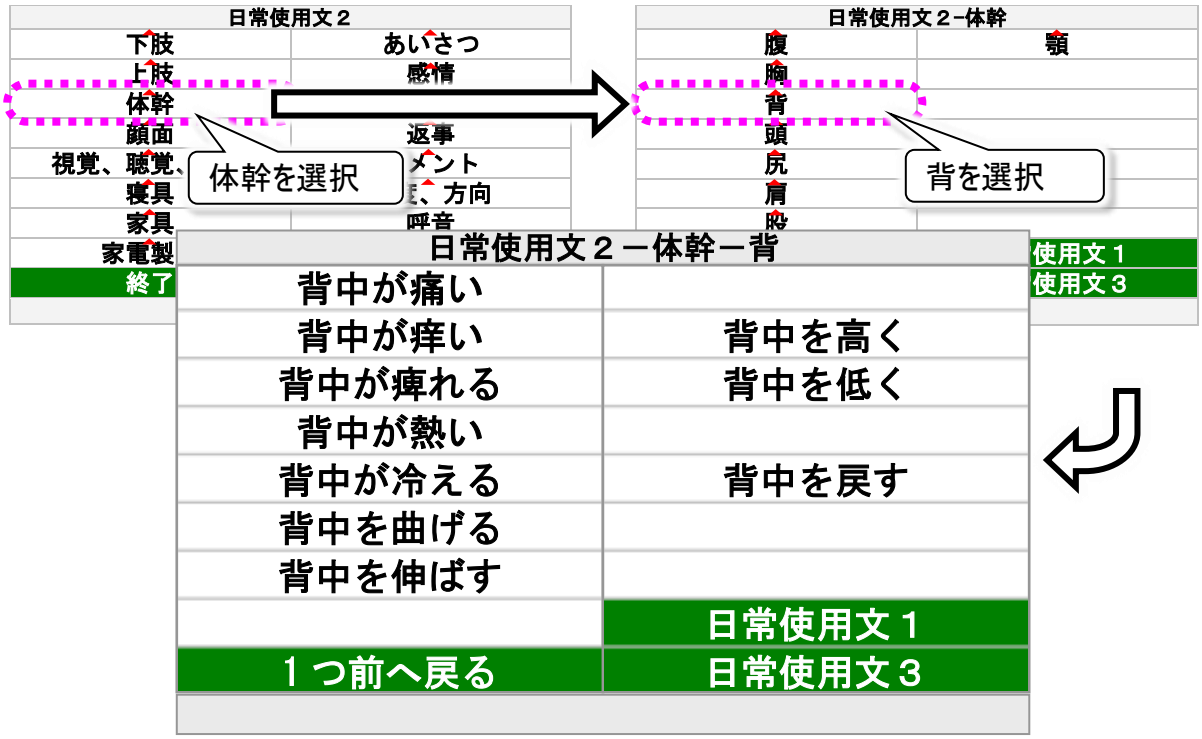
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽胸パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	胸が痛い	“胸が痛いです”
	胸が痒い	“胸が痒いです”
	胸が痺れる	“胸が痺れます”
	胸が熱い	“胸が熱いです”
	胸が冷える	“胸が冷えます”
	胸を高く	“胸を高くしてください”
	胸を戻す	“胸を戻してください”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

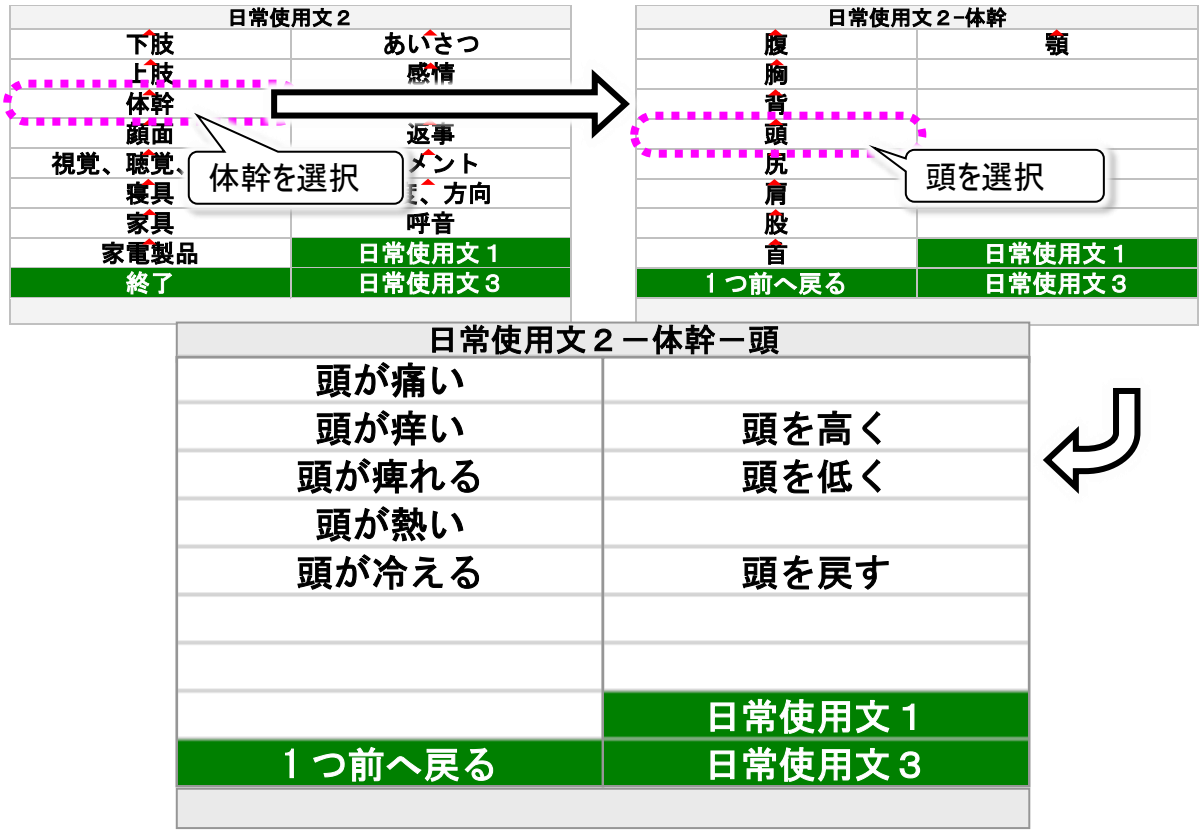
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽背パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	背中が痛い	“背中が痛いです”
	背中が痒い	“背中が痒いです”
	背中が痺れる	“背中が痺れます”
	背中が熱い	“背中が熱いです”
	背中が冷える	“背中が冷えます”
	背中を曲げる	“背中を曲げてください”
	背中を伸ばす	“背中を伸ばしてください”
	背中を高く	“背中を高くしてください”
	背中を低く	“背中を低くしてください”
	背中を戻す	“背中を戻してください”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

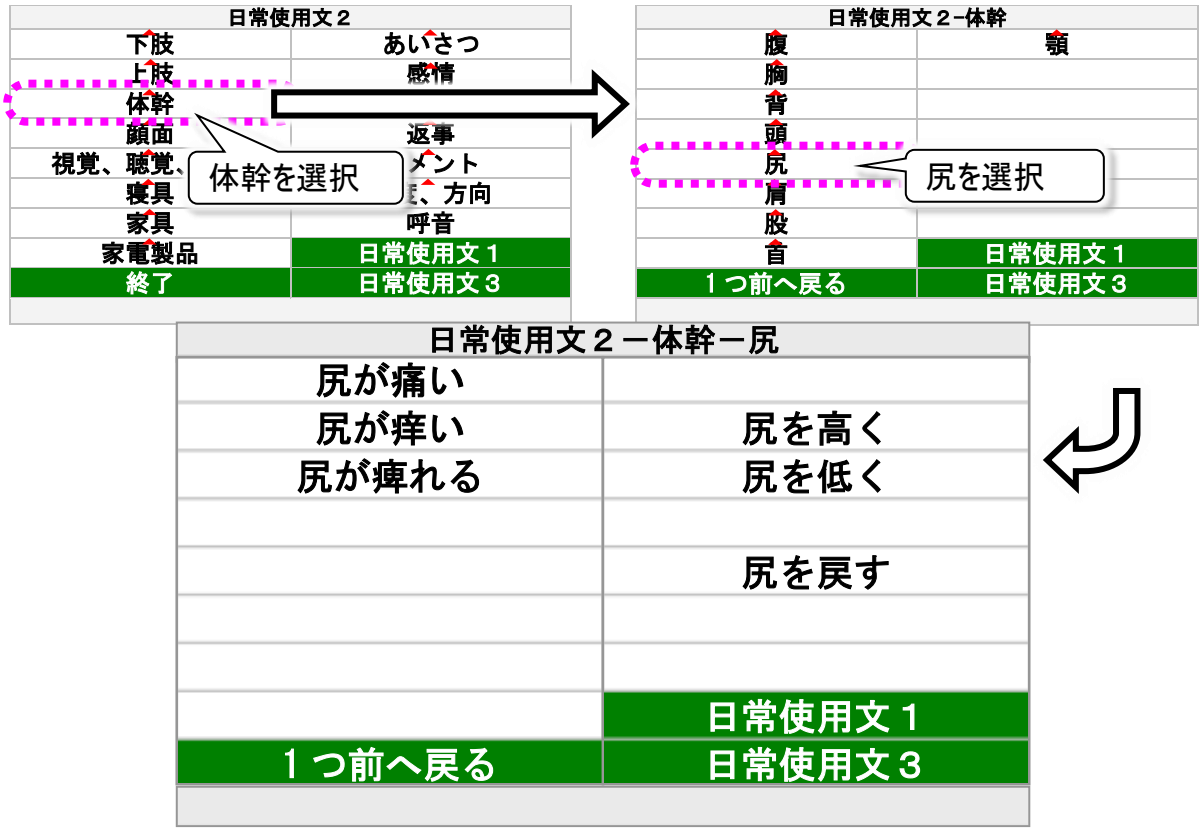
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽頭パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	頭が痛い	“頭が痛いです”
	頭が痒い	“頭が痒いです”
	頭が痺れる	“頭が痺れます”
	頭が熱い	“頭が熱いです”
	頭が冷える	“頭が冷えます”
	頭を高く	“頭を高くしてください”
	頭を低く	“頭を低くしてください”
	頭を戻す	“頭を戻してください”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文１	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文３	日常使用文パネル3を表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

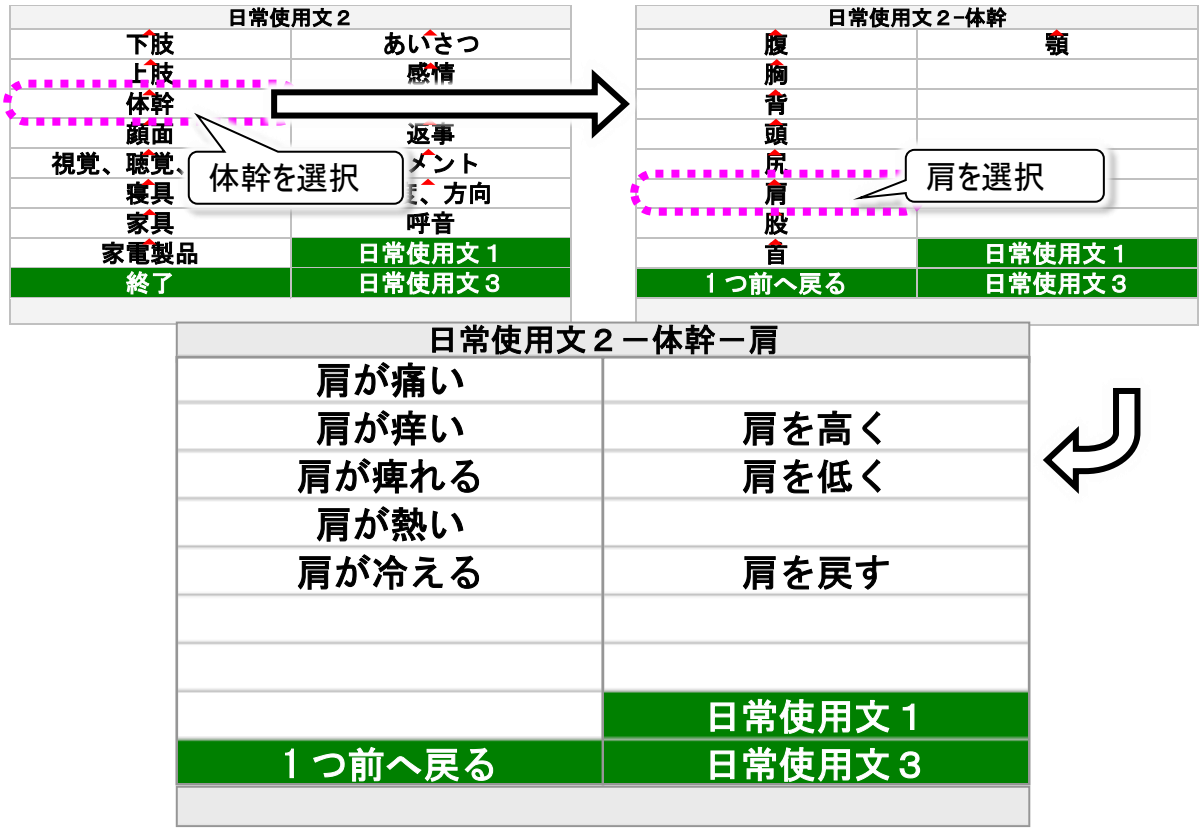
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽尻パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	尻が痛い	“尻が痛い”
	尻が痒い	“尻が痒い”
	尻が痺れる	“尻が痺れる”
	尻を高く	“尻を高く”
	尻を低く	“尻を低く”
	尻を戻す	“尻を戻す”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

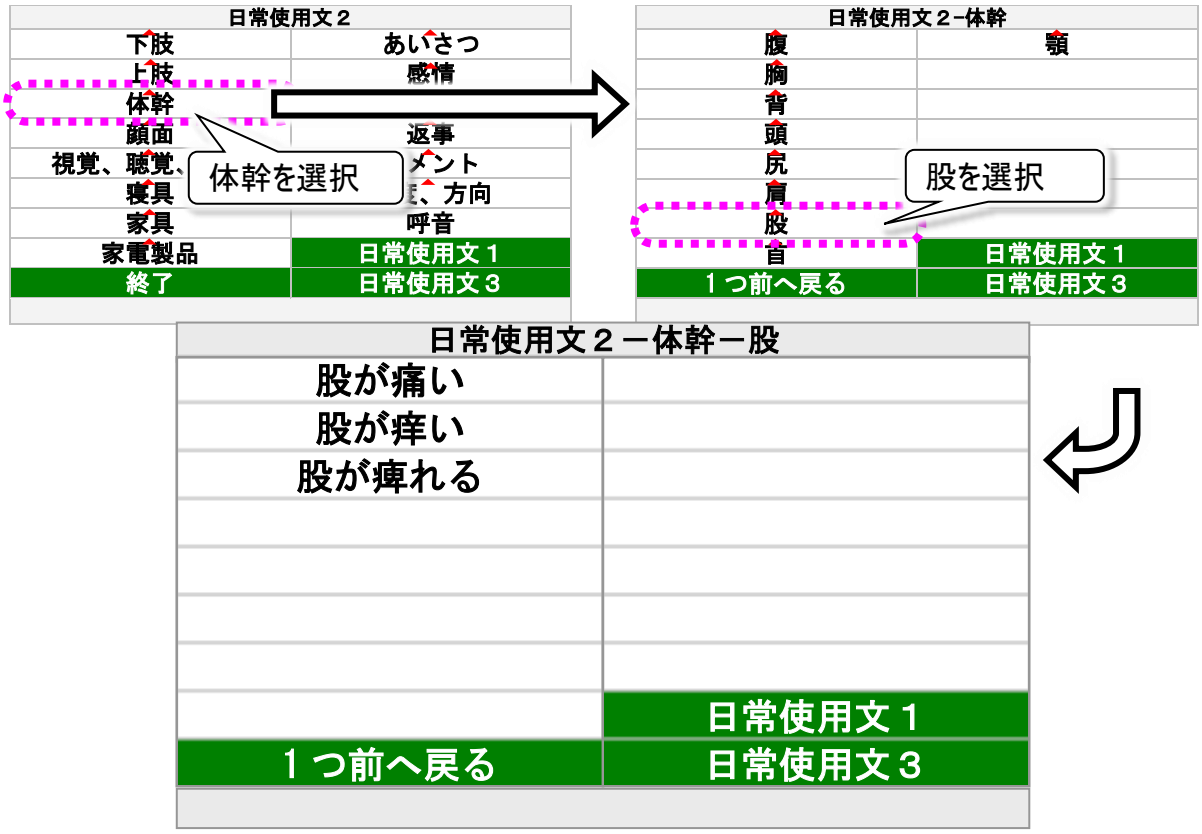
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽肩パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	肩が痛い	“肩が痛いです”
	肩が痒い	“肩が痒いです”
	肩が痺れる	“肩が痺れます”
	肩が熱い	“肩が熱いです”
	肩が冷える	“肩が冷えます”
	肩を高く	“肩を高くしてください”
	肩を低く	“肩を低くしてください”
	肩を戻す	“肩を戻してください”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

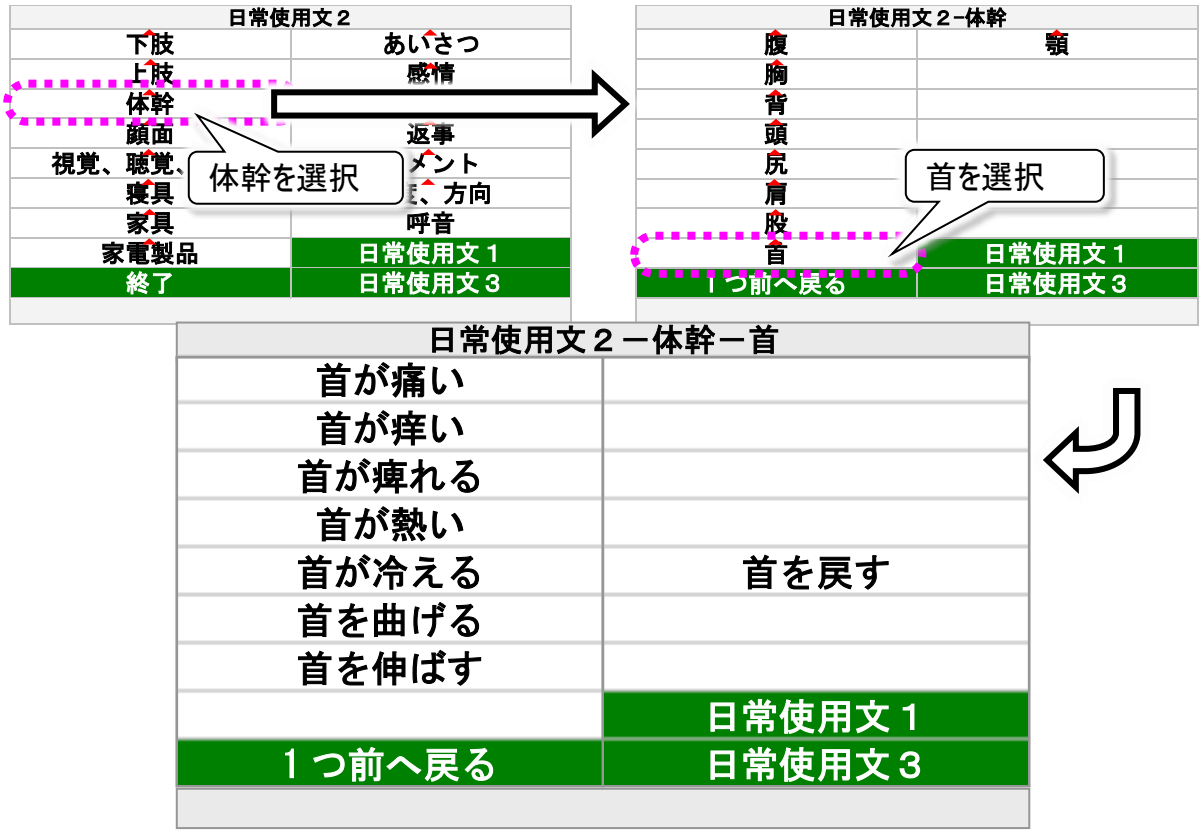
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽股パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	股が痛い	“股が痛いです”
	股が痒い	“股が痒いです”
	股が痺れる	“股が痺れます”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

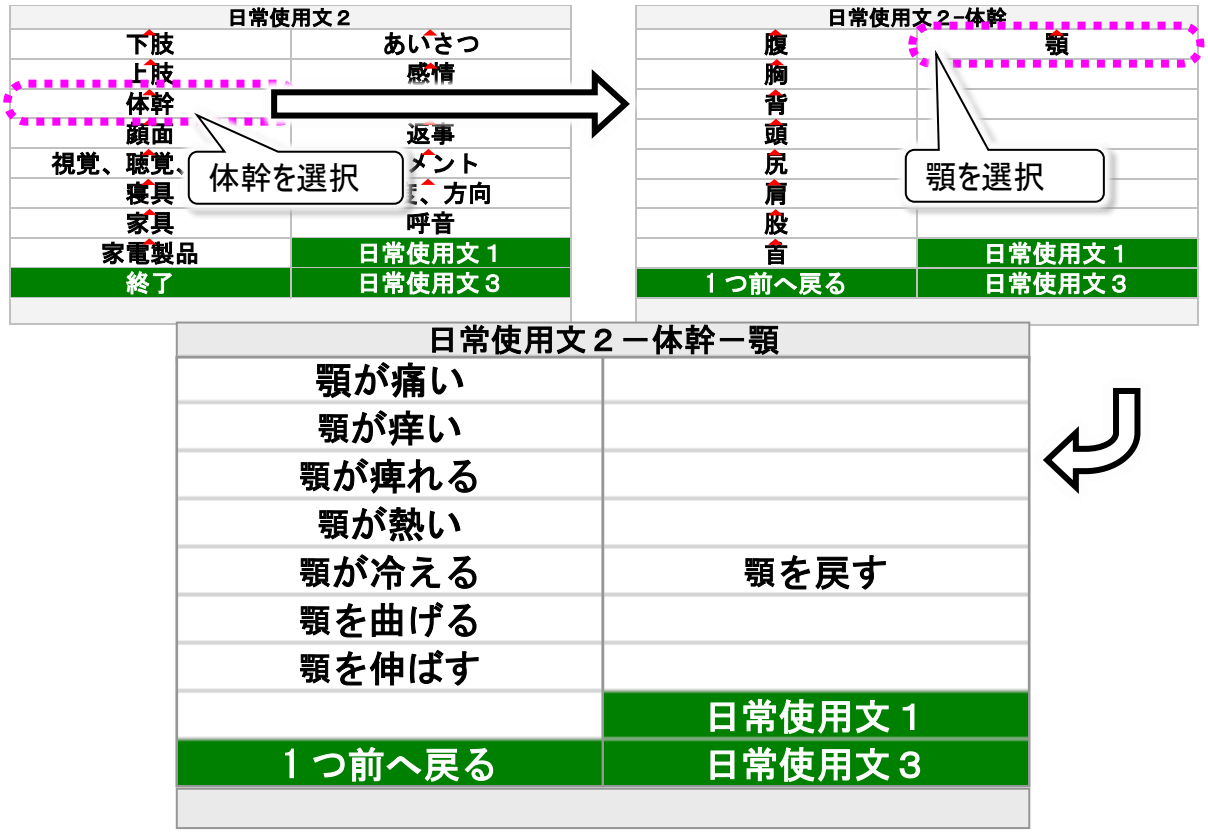
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽首パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	首が痛い	“首が痛いです”
	首が痒い	“首が痒いです”
	首が痺れる	“首が痺れます”
	首が熱い	“首が熱いです”
	首が冷える	“首が冷えます”
	首を曲げる	“首を曲げてください”
	首を伸ばす	“首を伸ばしてください”
	首を戻す	“首を戻してください”
	1 つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
顎	514 頁参照	顎パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

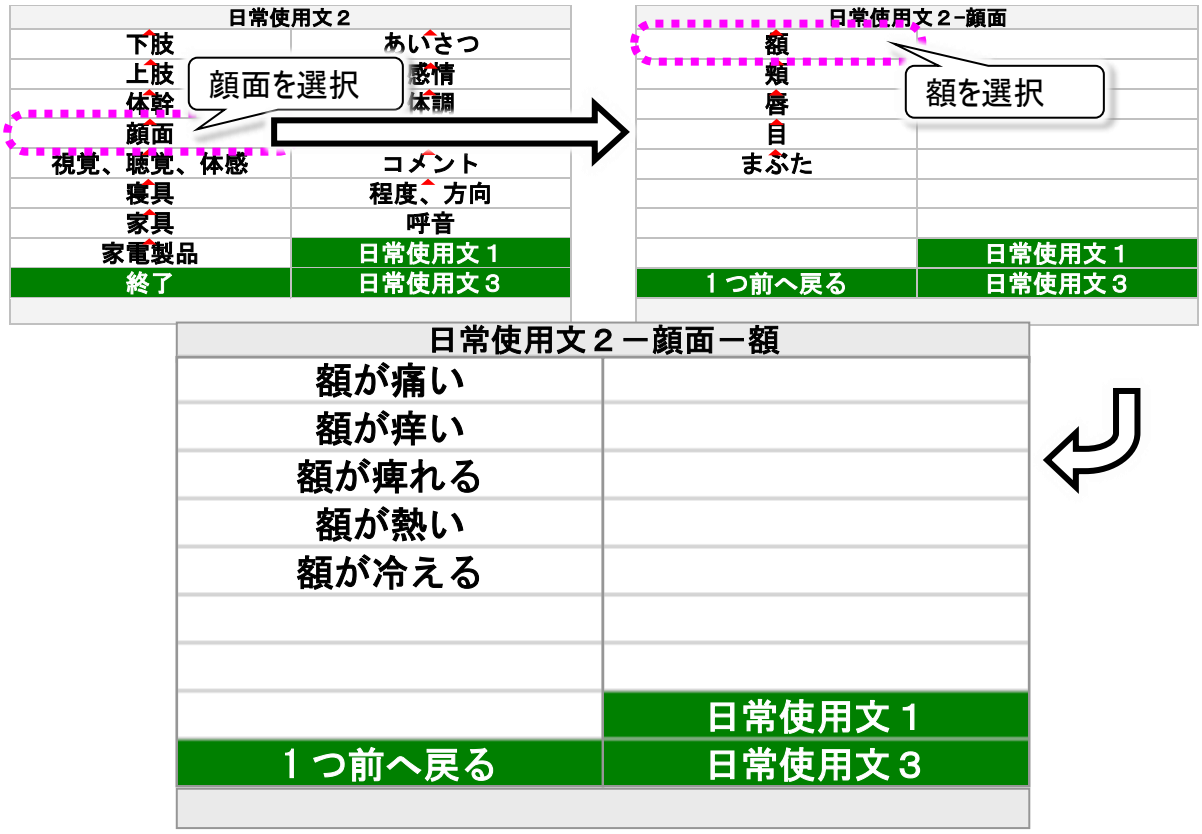
日常使用文パネル 2→▽体幹パネル→▽顎パネル



体幹パネル	サブパネル	機能
腹	506 頁参照	腹パネルを表示します。
胸	507 頁参照	胸パネルを表示します。
背	508 頁参照	背パネルを表示します。
頭	509 頁参照	頭パネルを表示します。
尻	510 頁参照	尻パネルを表示します。
肩	511 頁参照	肩パネルを表示します。
股	512 頁参照	股パネルを表示します。
首	513 頁参照	首パネルを表示します。
顎	顎が痛い	“顎が痛いです”
	顎が痒い	“顎が痒いです”
	顎が痺れる	“顎が痺れます”
	顎が熱い	“顎が熱いです”
	顎が冷える	“顎が冷えます”
	顎を曲げる	“顎を曲げてください”
	顎を伸ばす	“顎を伸ばしてください”
	顎を戻す	“顎を戻してください”
	１つ前へ戻る	体幹パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

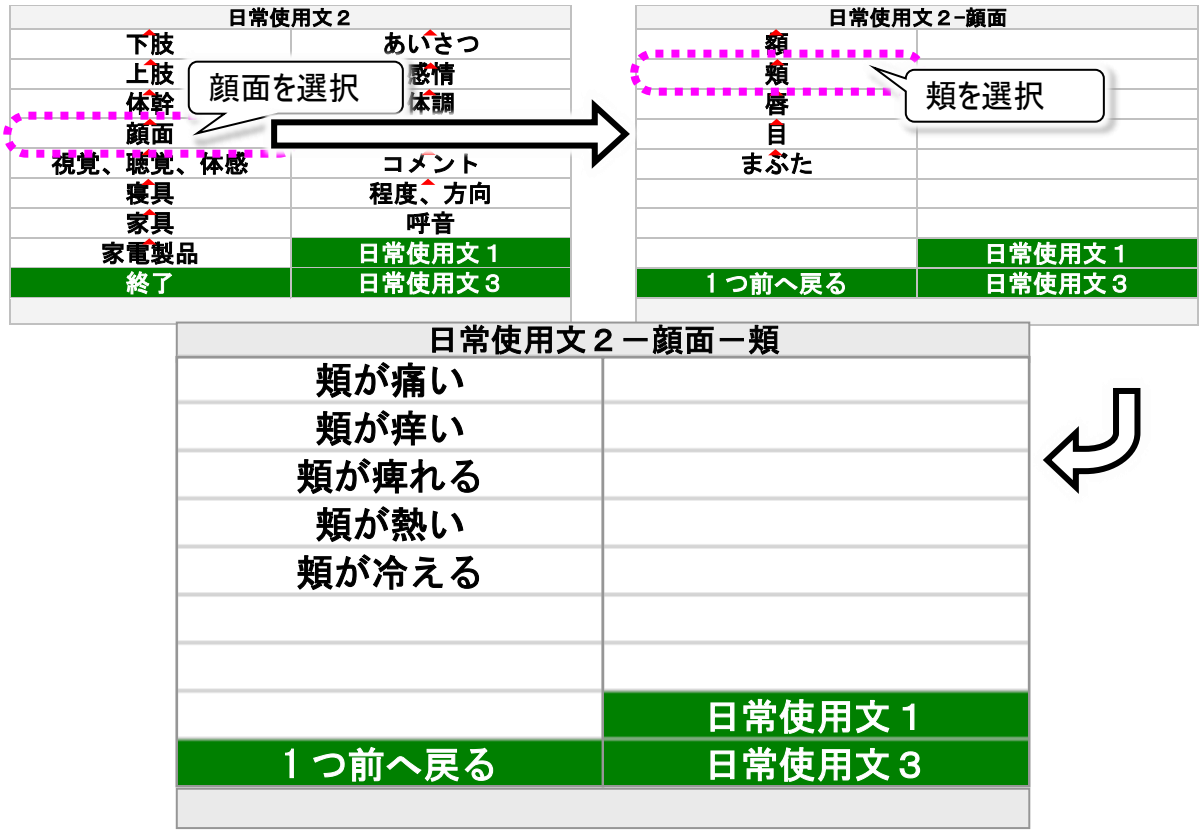
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽額パネル



顔面パネル	サブパネル	機能
額	額が痛い	“額が痛いです”
	額が痒い	“額が痒いです”
	額が痺れる	“額が痺れます”
	額が熱い	“額が熱いです”
	額が冷える	“額が冷えます”
	１つ前へ戻る	顔面パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
頬	516 頁参照	頬パネルを表示します。
唇	517 頁参照	唇パネルを表示します。
目	518 頁参照	目パネルを表示します。
まぶた	519 頁参照	まぶたパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

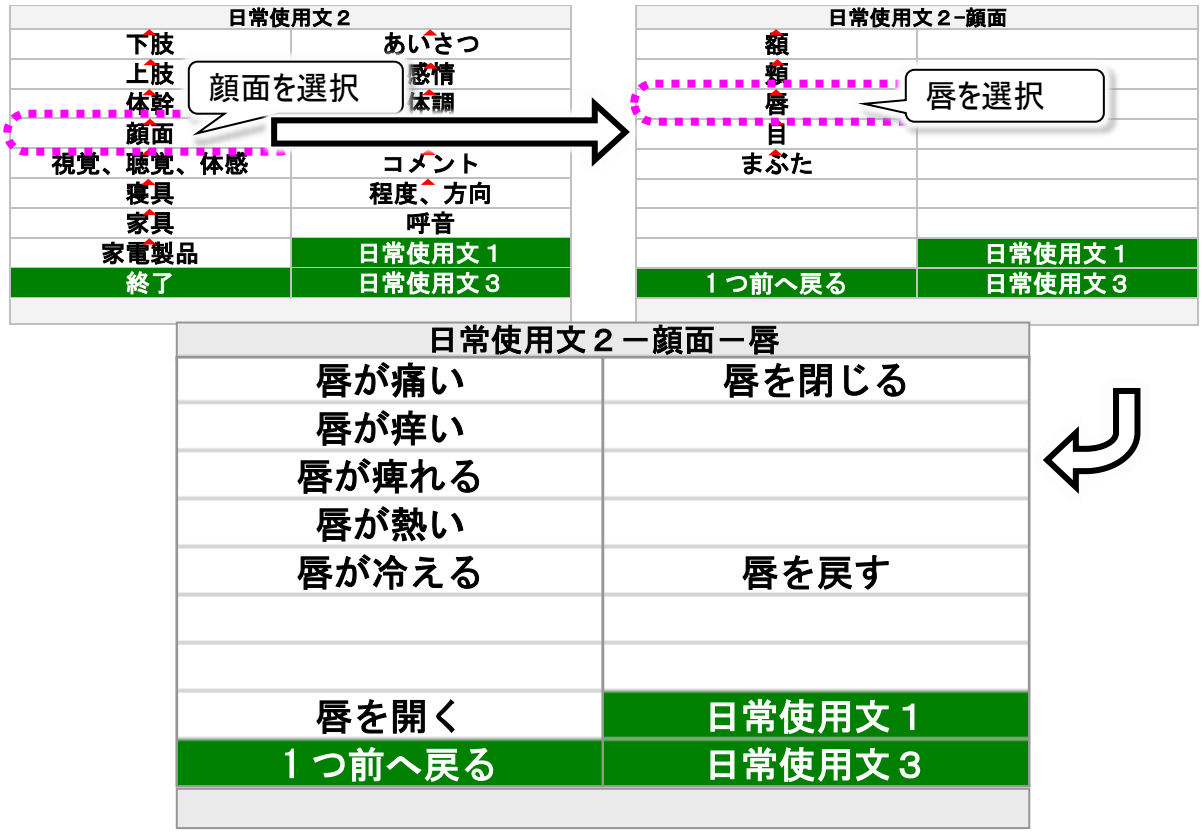
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽頬パネル



顔面パネル	サブパネル	機能
額	515 頁参照	額パネルを表示します。
頬	頬が痛い	“頬が痛いです”
	頬が痒い	“頬が痒いです”
	頬が痺れる	“頬が痺れます”
	頬が熱い	“頬が熱いです”
	頬が冷える	“頬が冷えます”
	１つ前へ戻る	顔面パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
唇	517 頁参照	唇パネルを表示します。
目	518 頁参照	目パネルを表示します。
まぶた	519 頁参照	まぶたパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

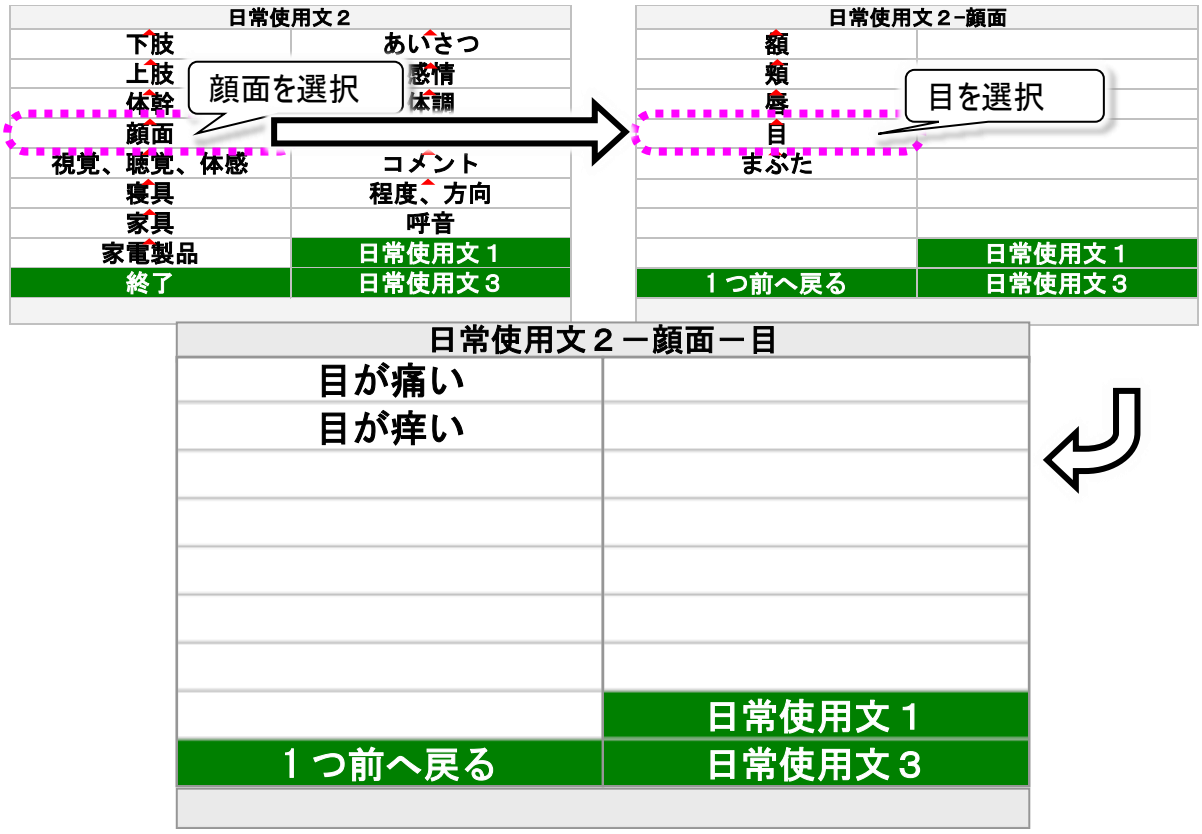
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽唇パネル



顔面パネル	サブパネル	機能
額	515 頁参照	額パネルを表示します。
頬	516 頁参照	頬パネルを表示します。
唇	唇が痛い	“唇が痛いです”
	唇が痒い	“唇が痒いです”
	唇が痺れる	“唇が痺れます”
	唇が熱い	“唇が熱いです”
	唇が冷える	“唇が冷えます”
	唇を開く	“唇を開いてください”
	唇を閉じる	“唇を閉じてください”
	唇を戻す	“唇を戻してください”
	１つ前へ戻る	顔面パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
目	518 頁参照	目パネルを表示します。
まぶた	519 頁参照	まぶたパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

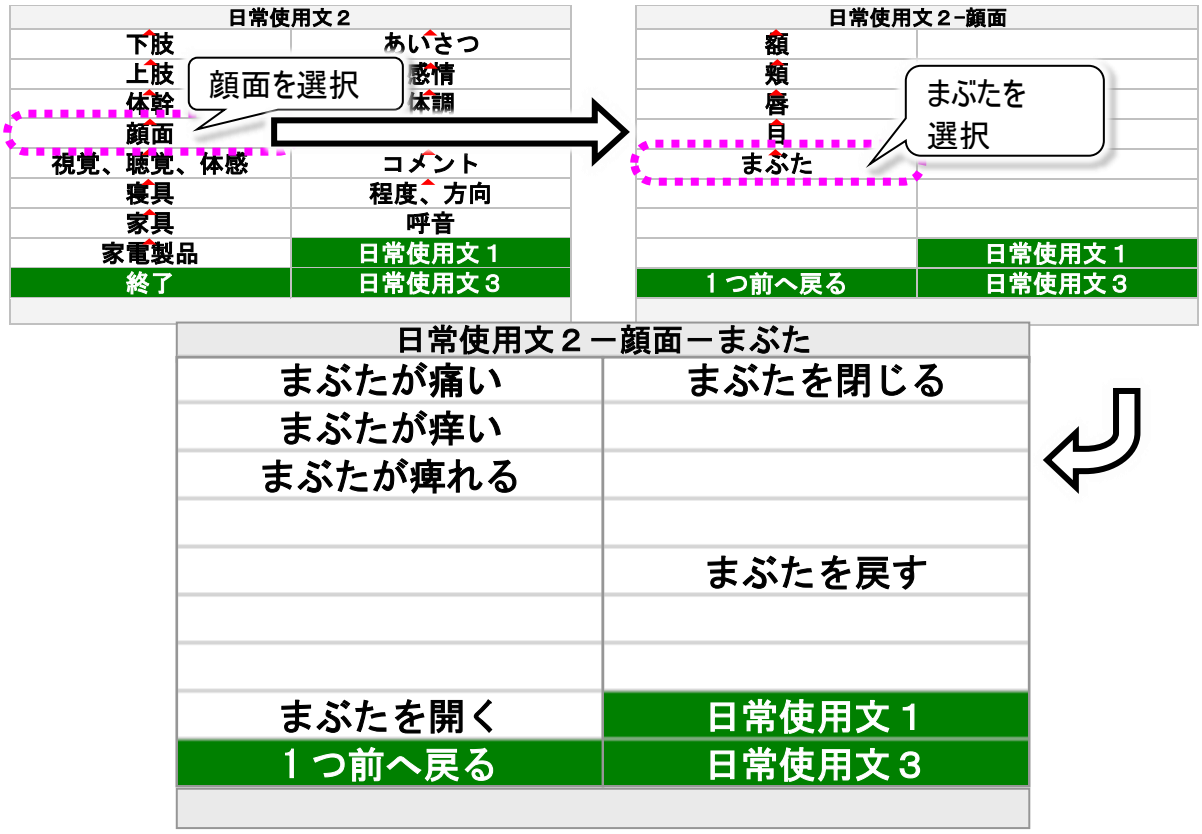
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽目パネル



顔面パネル	サブパネル	機能
額	515 頁参照	額パネルを表示します。
頬	516 頁参照	頬パネルを表示します。
唇	517 頁参照	唇パネルを表示します。
目	目が痛い	“目が痛いです”
	目が痒い	“目が痒いです”
	1 つ前へ戻る	顔面パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
まぶた	519 頁参照	まぶたパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

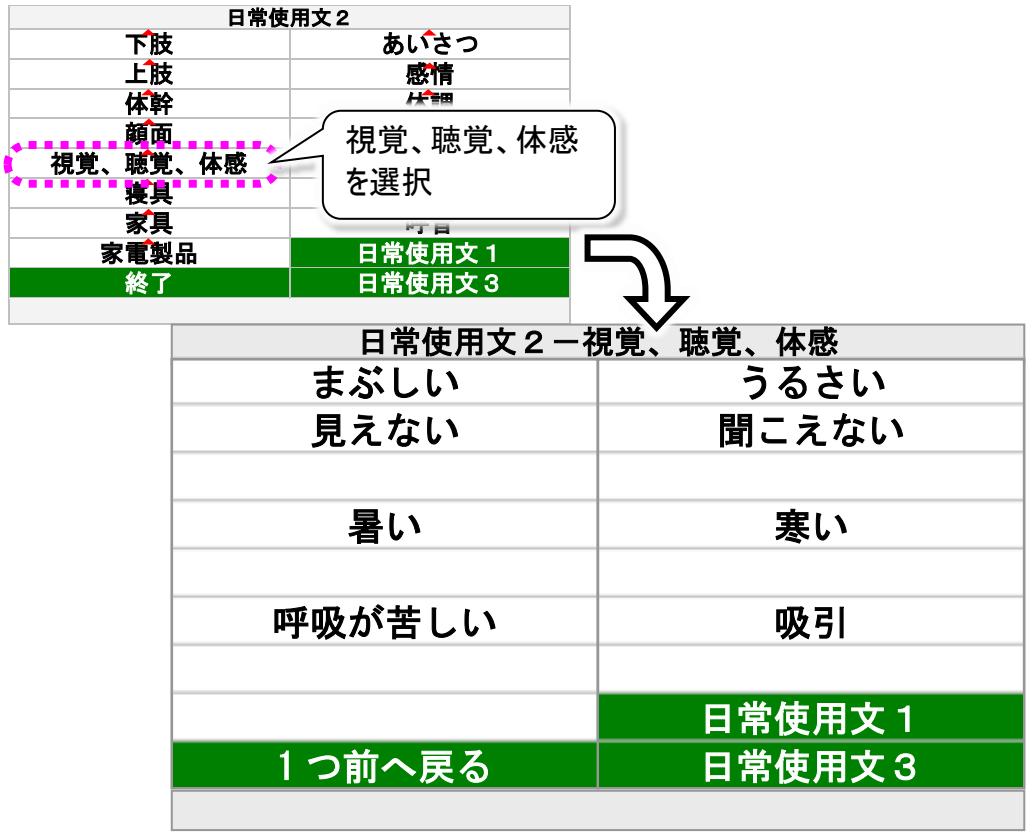
日常使用文パネル 2→▽顔面パネル→▽まぶたパネル



顔面パネル	サブパネル	機能
額	515 頁参照	額パネルを表示します。
頬	516 頁参照	頬パネルを表示します。
唇	517 頁参照	唇パネルを表示します。
目	518 頁参照	目パネルを表示します。
まぶた	まぶたが痛い	“まぶたが痛いです”
	まぶたが痒い	“まぶたが痒いです”
	まぶたが痺れる	“まぶたが痺れます”
	まぶたを開く	“まぶたを開いてください”
	まぶたを閉じる	“まぶたを閉じてください”
	まぶたを戻す	“まぶたを戻してください”
	１つ前へ戻る	顔面パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

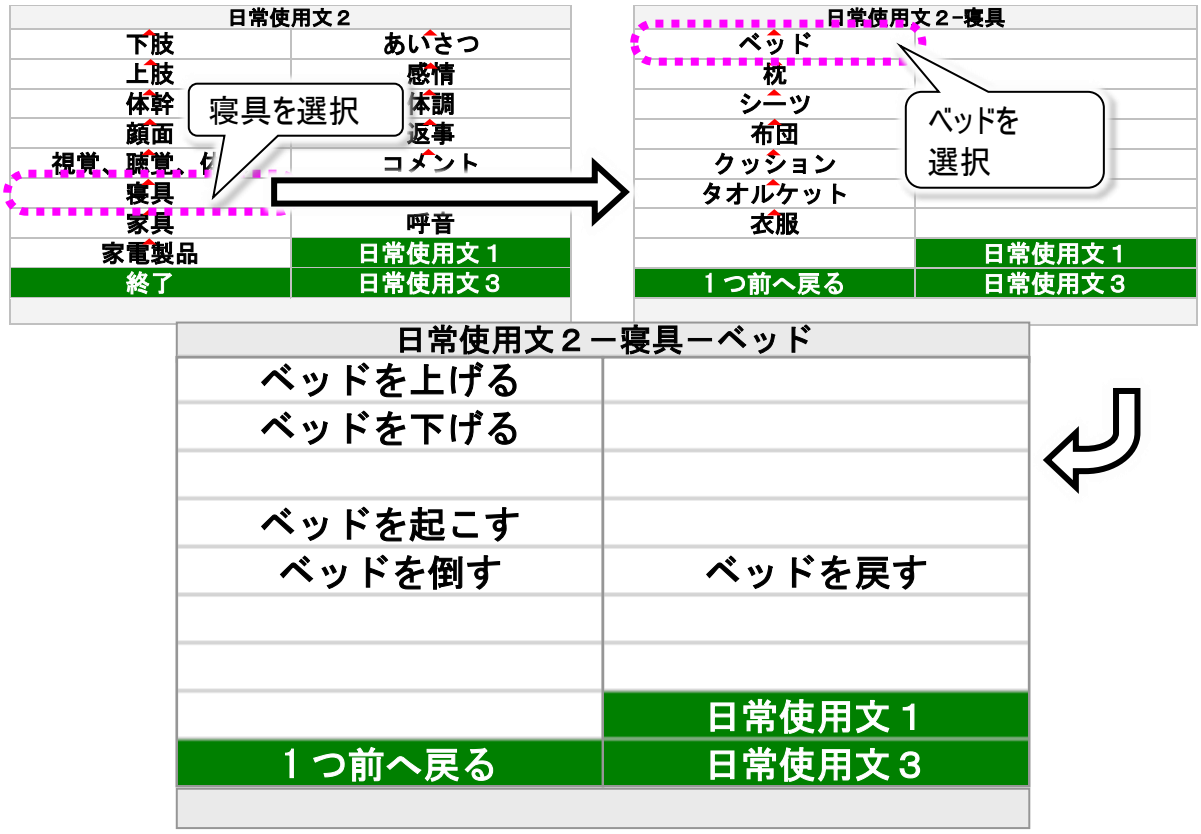
日常使用文パネル 2→▽視覚、聴覚、体感パネル



視覚、聴覚、体感パネル	サブパネル	機能
まぶしい	―――	“まぶしいです”
見えない	―――	“見えません”
うるさい	―――	“うるさいです”
聞こえない	―――	“聞こえません”
暑い	―――	“暑いです”
寒い	―――	“寒いです”
呼吸が苦しい	―――	“呼吸が苦しいです”
吸引	―――	“吸引してください”
１つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文１	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文３	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

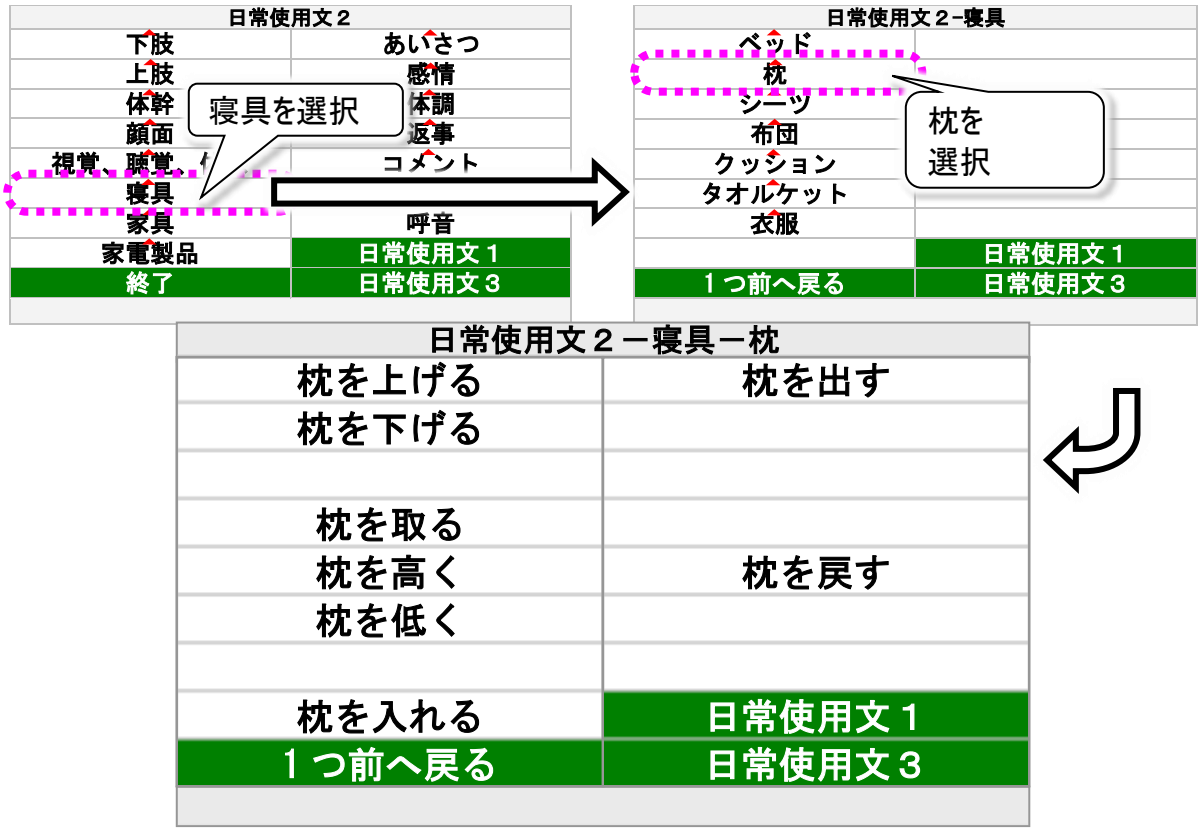
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽ベッドパネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	ベッドを上げる	“ベッドを上げてください”
	ベッドを下げる	“ベッドを下げてください”
	ベッドを起こす	“ベッドを起こしてください”
	ベッドを倒す	“ベッドを倒してください”
	ベッドを戻す	“ベッドを戻してください”
	１つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
枕	522 頁参照	枕パネルを表示します。
シーツ	523 頁参照	シーツパネルを表示します。
布団	524 頁参照	布団パネルを表示します。
クッション	525 頁参照	クッションパネルを表示します。
タオルケット	526 頁参照	タオルケットパネルを表示します。
衣服	527 頁参照	衣服パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

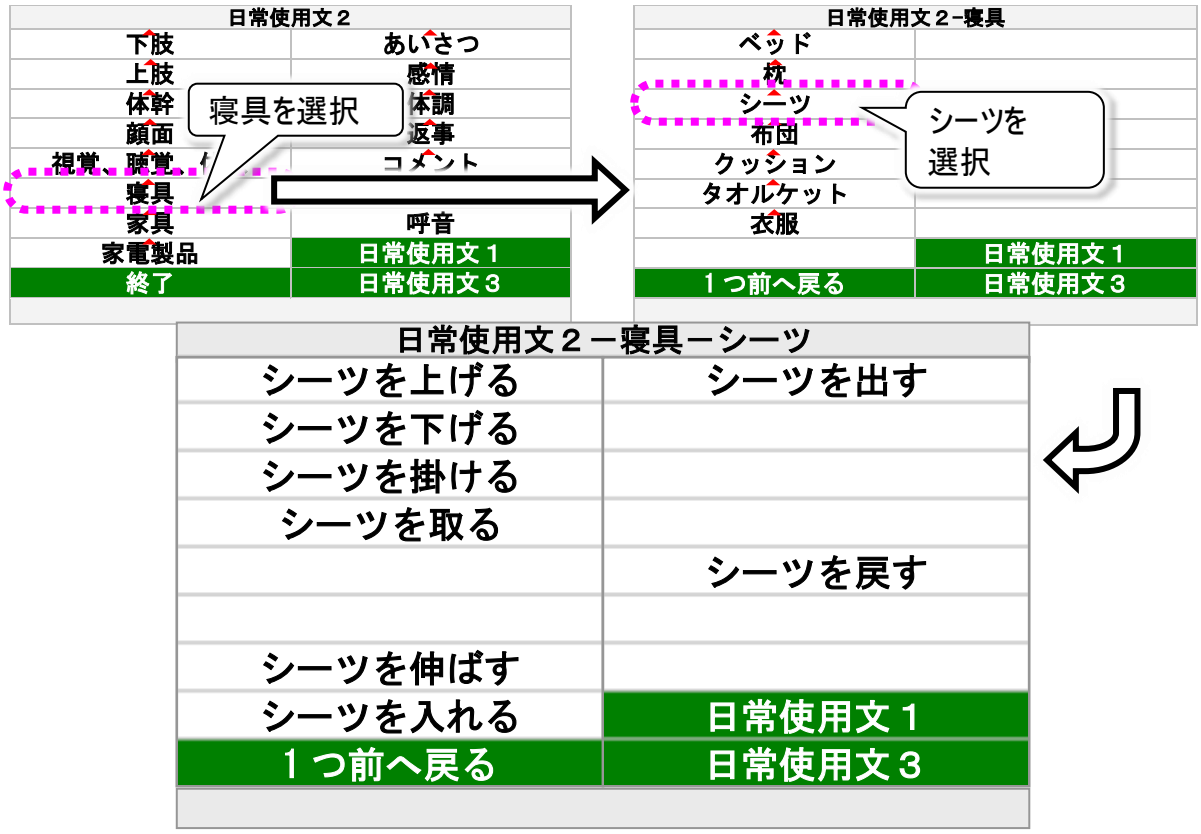
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽枕パネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	521 頁参照	ベッドパネルを表示します。
枕	枕を上げる	“枕を上げてください”
	枕を下げる	“枕を下げてください”
	枕を取る	“枕を取ってください”
	枕を高く	“枕を高くしてください”
	枕を低く	“枕を低くしてください”
	枕を入れる	“枕を入れてください”
	枕を出す	“枕を出してください”
	枕を戻す	“枕を戻してください”
	１つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
シーツ	523 頁参照	シーツパネルを表示します。
布団	524 頁参照	布団パネルを表示します。
クッション	525 頁参照	クッションパネルを表示します。
タオルケット	526 頁参照	タオルケットパネルを表示します。
衣服	527 頁参照	衣服パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

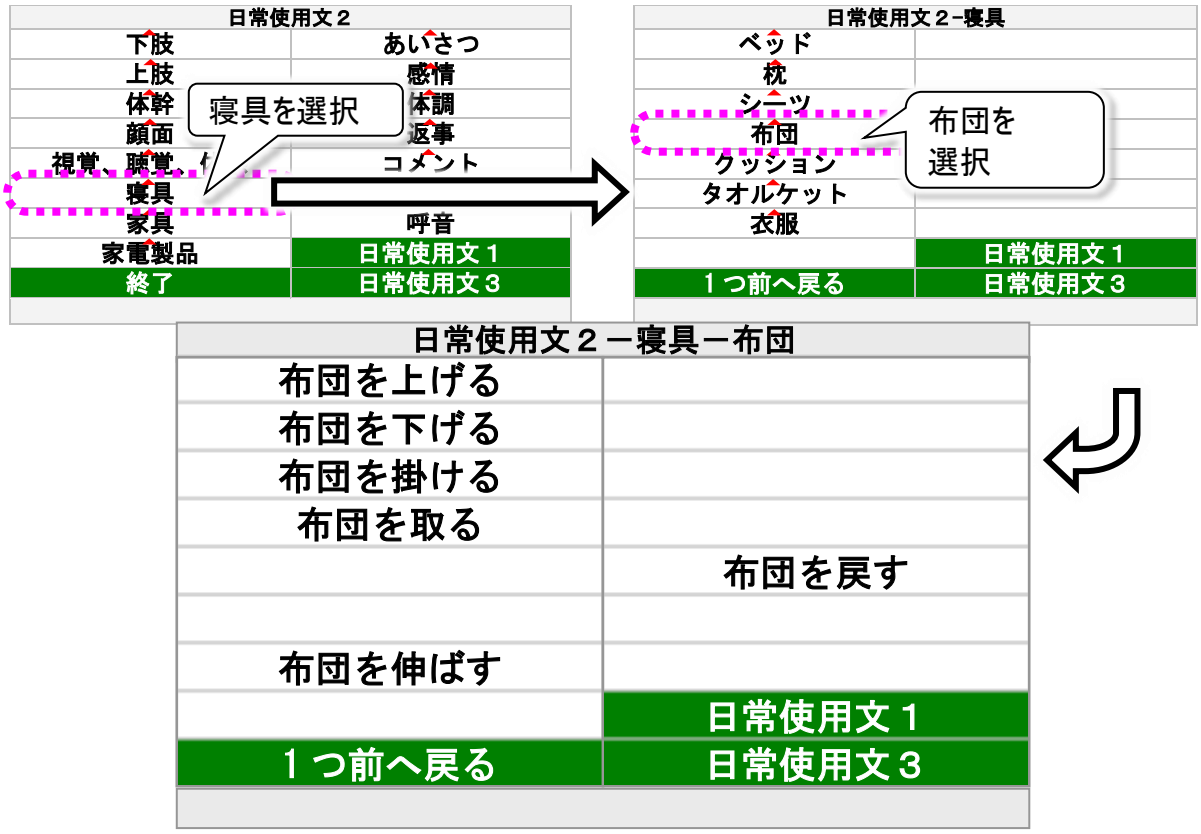
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽シーツパネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	521 頁参照	ベッドパネルを表示します。
枕	522 頁参照	枕パネルを表示します。
シーツ	シーツを上げる	“シーツを上げてください”
	シーツを下げる	“シーツを下げてください”
	シーツを掛ける	“シーツを掛けてください”
	シーツを取る	“シーツを取ってください”
	シーツを伸ばす	“シーツを伸ばしてください”
	シーツを入れる	“シーツを入れてください”
	シーツを出す	“シーツを出してください”
	シーツを戻す	“シーツを戻してください”
	１つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文１	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文３	日常使用文パネル3を表示します。
布団	524 頁参照	布団パネルを表示します。
クッション	525 頁参照	クッションパネルを表示します。
タオルケット	526 頁参照	タオルケットパネルを表示します。
衣服	527 頁参照	衣服パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

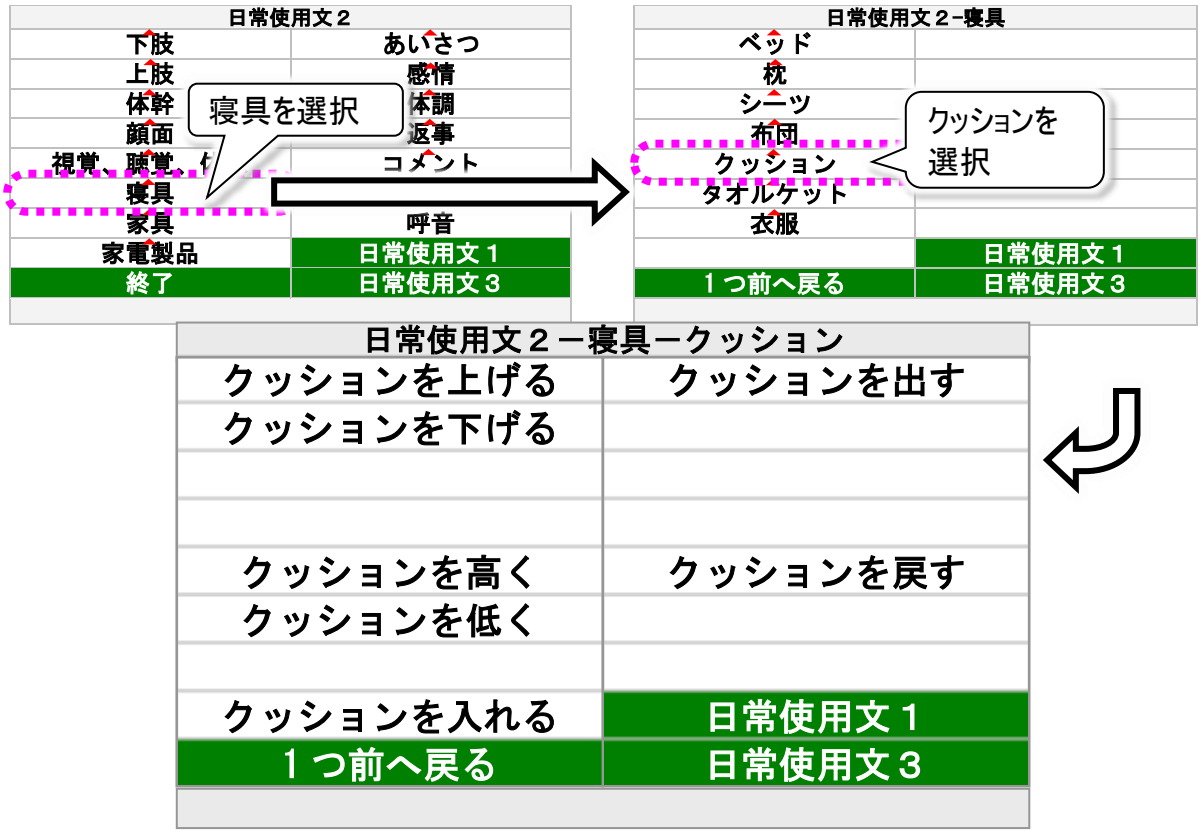
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽布団パネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	521 頁参照	ベッドパネルを表示します。
枕	522 頁参照	枕パネルを表示します。
シーツ	523 頁参照	シーツパネルを表示します。
布団	布団を上げる	“布団を上げてください”
	布団を下げる	“布団を下げてください”
	布団を掛ける	“布団を掛けてください”
	布団を取る	“布団を取ってください”
	布団を伸ばす	“布団を伸ばしてください”
	布団を戻す	“布団を戻してください”
	1 つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
クッション	525 頁参照	クッションパネルを表示します。
タオルケット	526 頁参照	タオルケットパネルを表示します。
衣服	527 頁参照	衣服パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

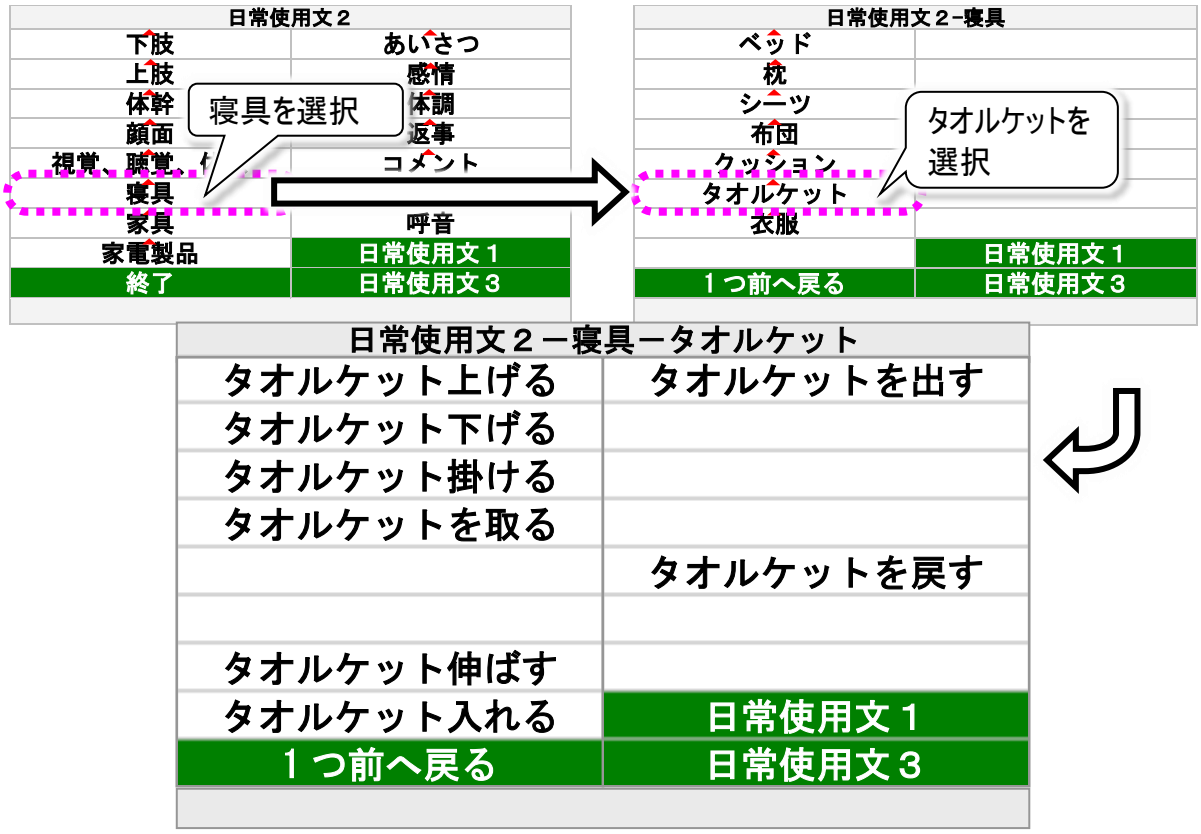
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽クッションパネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	521 頁参照	ベッドパネルを表示します。
枕	522 頁参照	枕パネルを表示します。
シーツ	523 頁参照	シーツパネルを表示します。
布団	524 頁参照	布団パネルを表示します。
クッション	クッションを上げる	“クッションを上げてください”
	クッションを下げる	“クッションを下げてください”
	クッションを高く	“クッションを高くしてください”
	クッションを低く	“クッションを低くしてください”
	クッションを入れる	“クッションを入れてください”
	クッションを出す	“クッションを出してください”
	クッションを戻す	“クッションを戻してください”
	１つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文１	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文３	日常使用文パネル3を表示します。
タオルケット	526 頁参照	タオルケットパネルを表示します。
衣服	527 頁参照	衣服パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

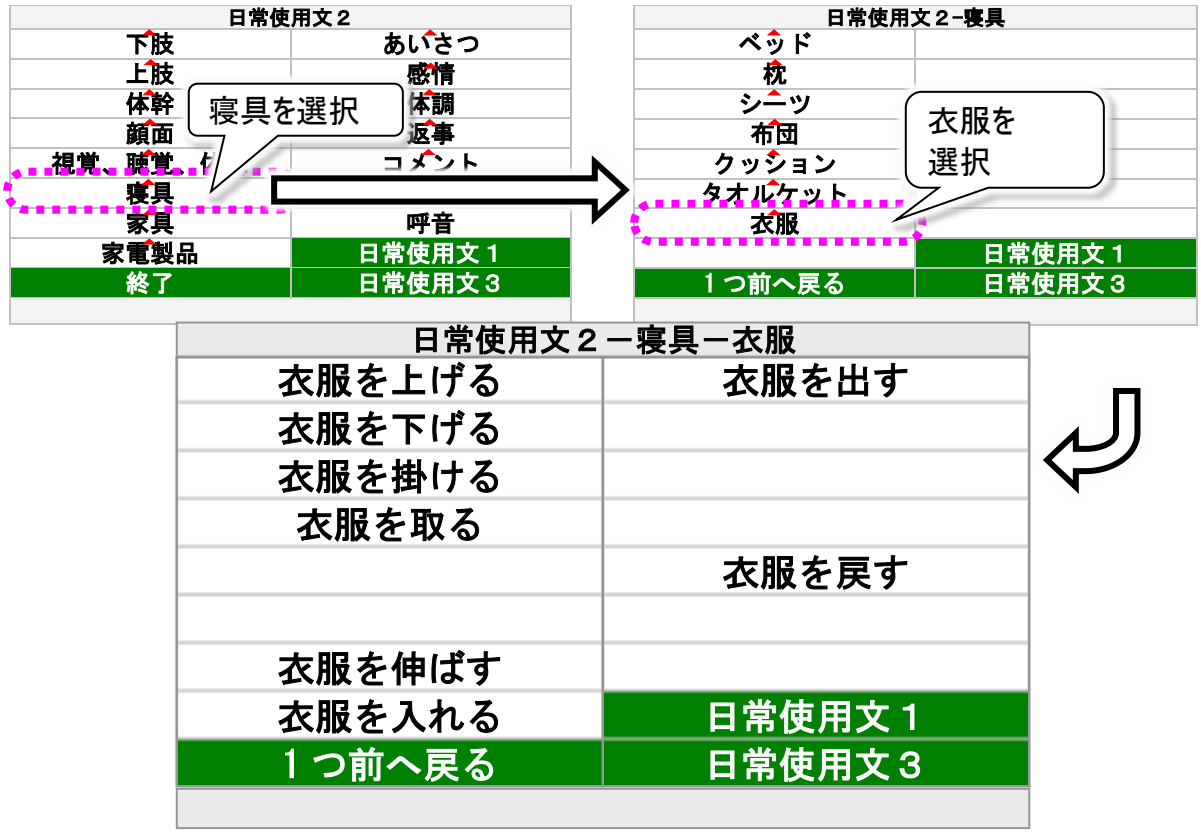
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽タオルケットパネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	521 頁参照	ベッドパネルを表示します。
枕	522 頁参照	枕パネルを表示します。
シーツ	523 頁参照	シーツパネルを表示します。
布団	524 頁参照	布団パネルを表示します。
クッション	525 頁参照	クッションパネルを表示します。
タオルケット	タオルケット上げる	“タオルケットを上げてください”
	タオルケット下げる	“タオルケットを下げしてください”
	タオルケット掛ける	“タオルケットを掛けてください”
	タオルケットを取る	“タオルケットを取ってください”
	タオルケット伸ばす	“タオルケットを伸ばしてください”
	タオルケット入れる	“タオルケットを入れてください”
	タオルケットを出す	“タオルケットを出してください”
	タオルケットを戻す	“タオルケットを戻してください”
	１つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文１	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文３	日常使用文パネル3を表示します。
衣服	527 頁参照	衣服パネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

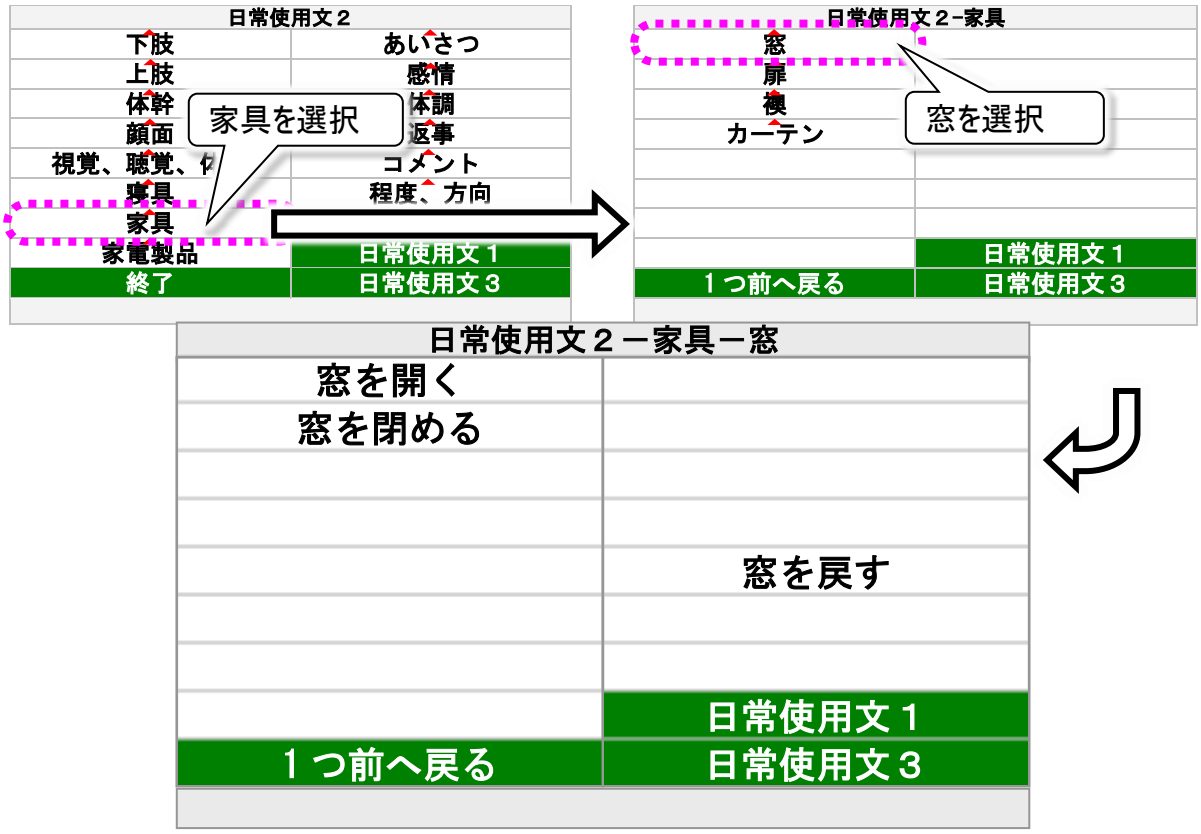
日常使用文パネル 2→▽寝具パネル→▽衣服パネル



寝具パネル	サブパネル	機能
ベッド	521 頁参照	ベッドパネルを表示します。
枕	522 頁参照	枕パネルを表示します。
シーツ	523 頁参照	シーツパネルを表示します。
布団	524 頁参照	布団パネルを表示します。
クッション	525 頁参照	クッションパネルを表示します。
タオルケット	526 頁参照	タオルケットパネルを表示します。
衣服	衣服を上げる	“衣服を上げてください”
	衣服を下げる	“衣服を下げてください”
	衣服を掛ける	“衣服を掛けてください”
	衣服を取る	“衣服を取ってください”
	衣服を伸ばす	“衣服を伸ばしてください”
	衣服を入れる	“衣服を入れてください”
	衣服を出す	“衣服を出してください”
	衣服を戻す	“衣服を戻してください”
	１つ前へ戻る	寝具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

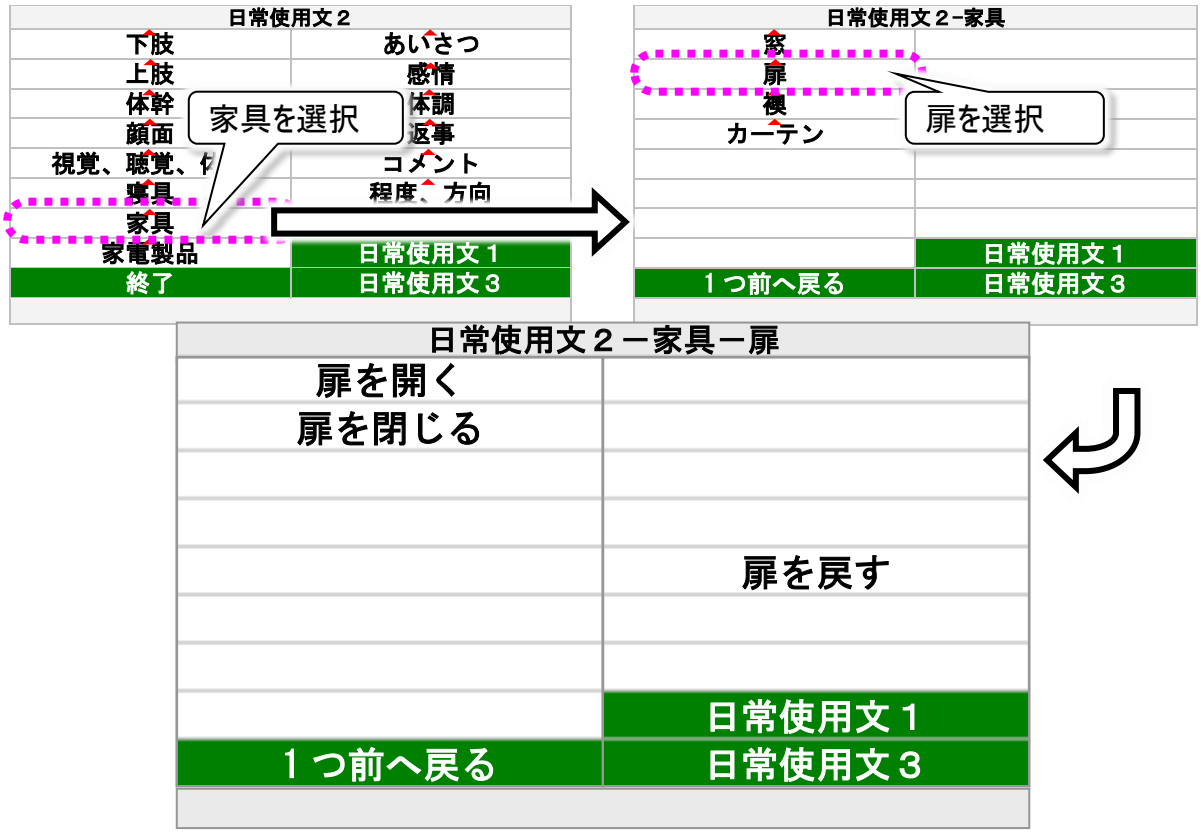
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽窓パネル



家具パネル	サブパネル	機能
窓	窓を開く	“窓を開いてください”
	窓を閉める	“窓を閉めてください”
	窓を戻す	“窓を戻してください”
	１つ前へ戻る	家具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
扉	529 頁参照	扉パネルを表示します。
襖	530 頁参照	襖パネルを表示します。
カーテン	531 頁参照	カーテンパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

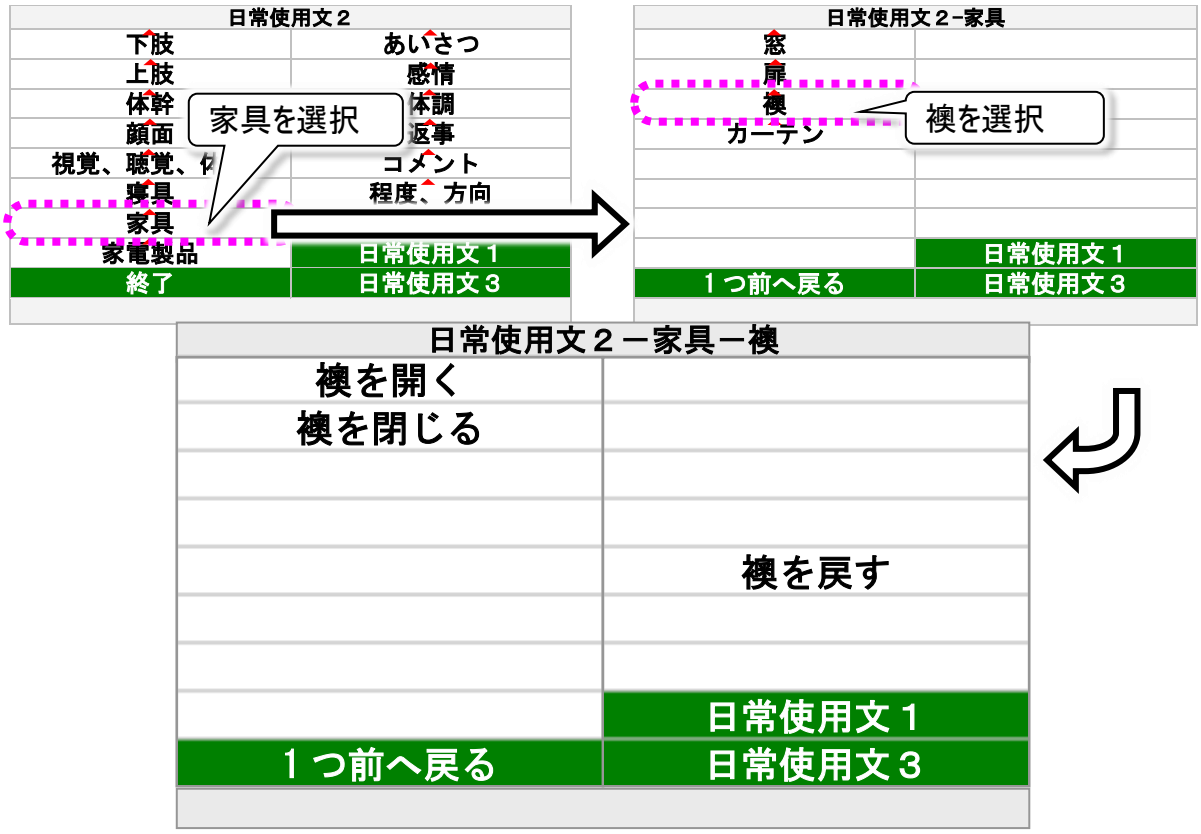
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽扉パネル



家具パネル	サブパネル	機能
窓	528 頁参照	窓パネルを表示します。
扉	扉を開く	“扉を開いてください”
	扉を閉じる	“扉を閉じてください”
	扉を戻す	“扉を戻してください”
	1 つ前へ戻る	家具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
襖	530 頁参照	襖パネルを表示します。
カーテン	531 頁参照	カーテンパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

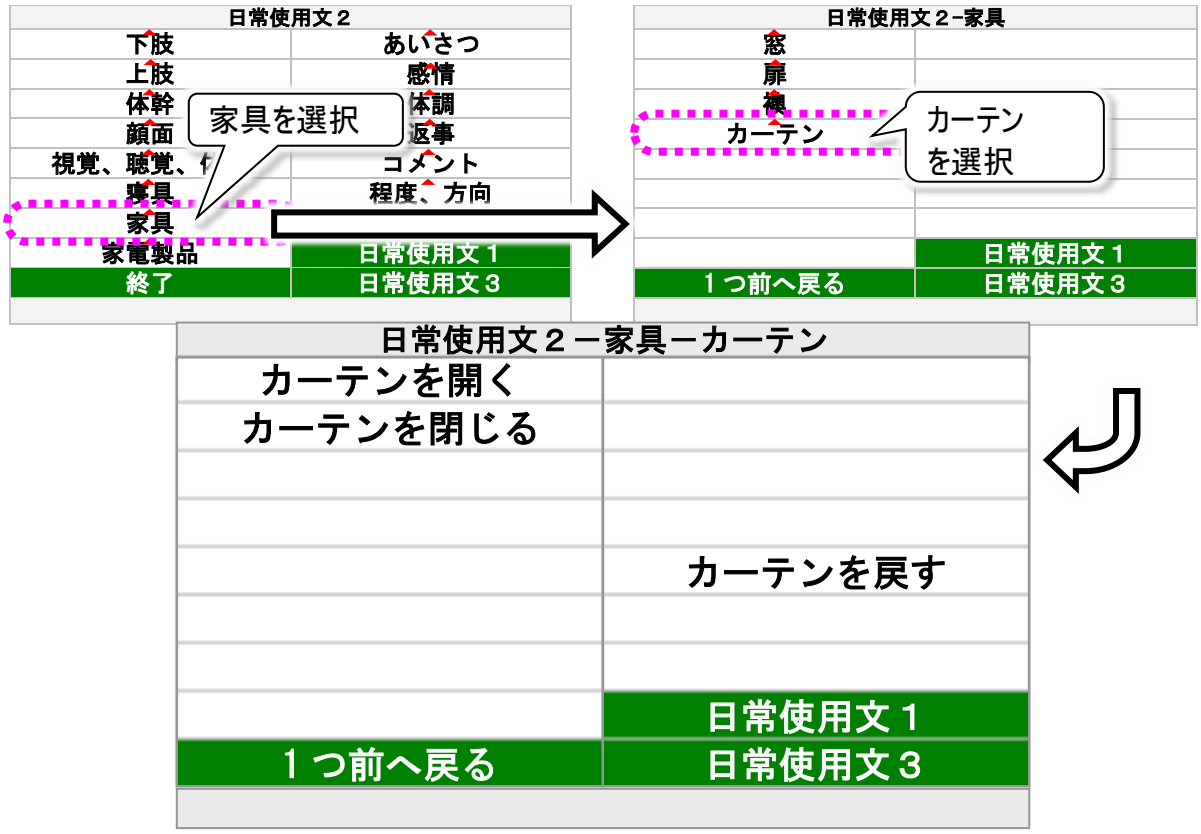
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽襖パネル



家具パネル	サブパネル	機能
窓	528 頁参照	窓パネルを表示します。
扉	529 頁参照	扉パネルを表示します。
襖	襖を開く	“襖を開いてください”
	襖を閉じる	“襖を閉じてください”
	襖を戻す	“襖を戻してください”
	１つ前へ戻る	家具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
カーテン	531 頁参照	カーテンパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

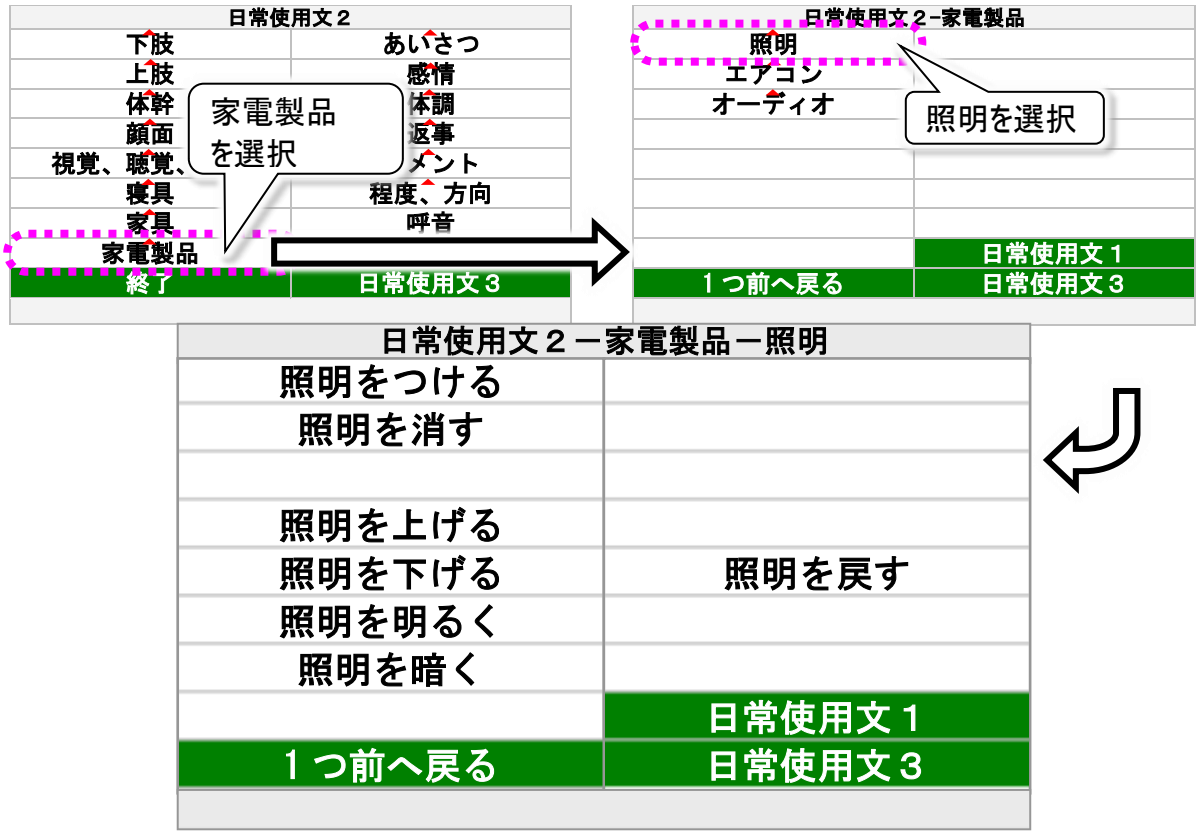
日常使用文パネル 2→▽家具パネル→▽カーテンパネル



家具パネル	サブパネル	機能
窓	528 頁参照	窓パネルを表示します。
扉	529 頁参照	扉パネルを表示します。
襖	530 頁参照	襖パネルを表示します。
カーテン	カーテンを開く	“カーテンを開いてください”
	カーテンを閉じる	“カーテンを閉じてください”
	カーテンを戻す	“カーテンを戻してください”
	１つ前へ戻る	家具パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

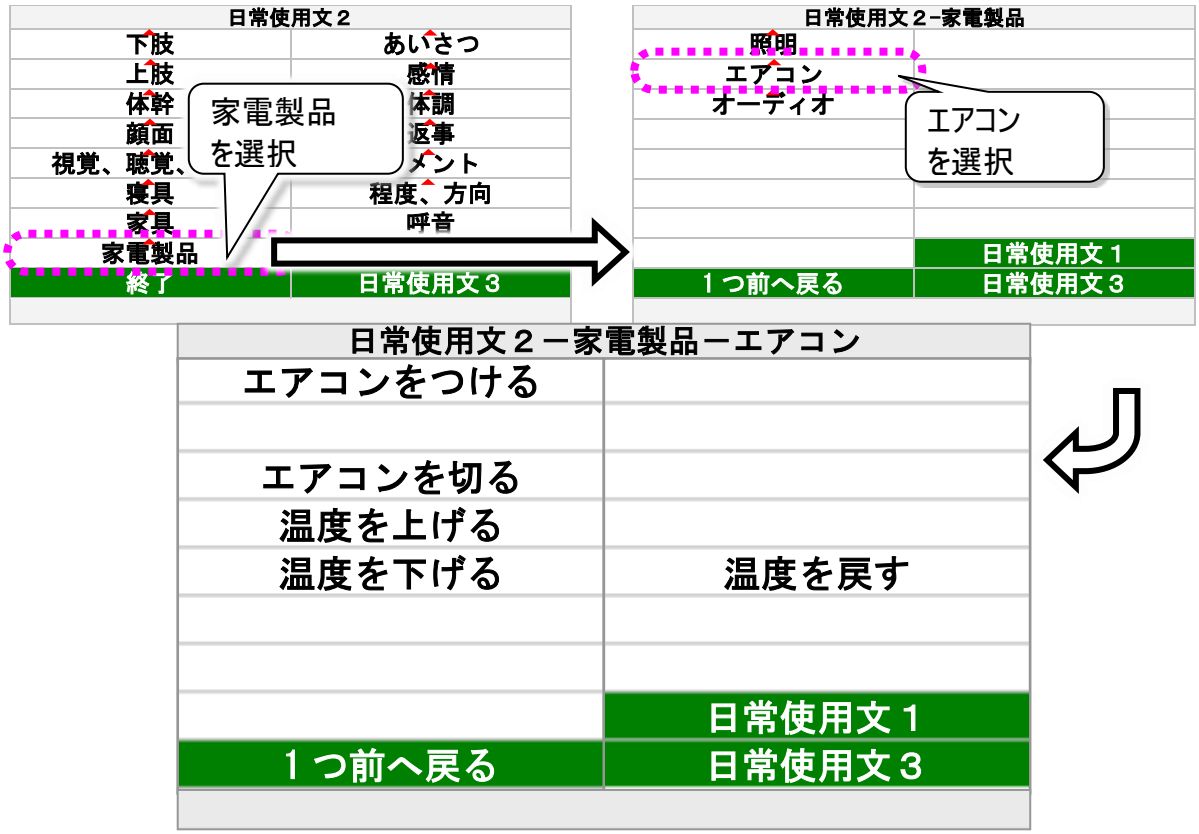
日常使用文パネル 2→▽家電製品パネル→▽照明パネル



家電製品パネル	サブパネル	機能
照明	照明をつける	“照明をつけてください”
	照明を消す	“照明を消してください”
	照明を上げる	“照明を上げてください”
	照明を下げる	“照明を下げてください”
	照明を明るく	“照明を明るくしてください”
	照明を暗く	“照明を暗くしてください”
	照明を戻す	“照明を戻してください”
	１つ前へ戻る	家電製品パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
エアコン	533 頁参照	エアコンパネルを表示します。
オーディオ	534 頁参照	オーディオパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

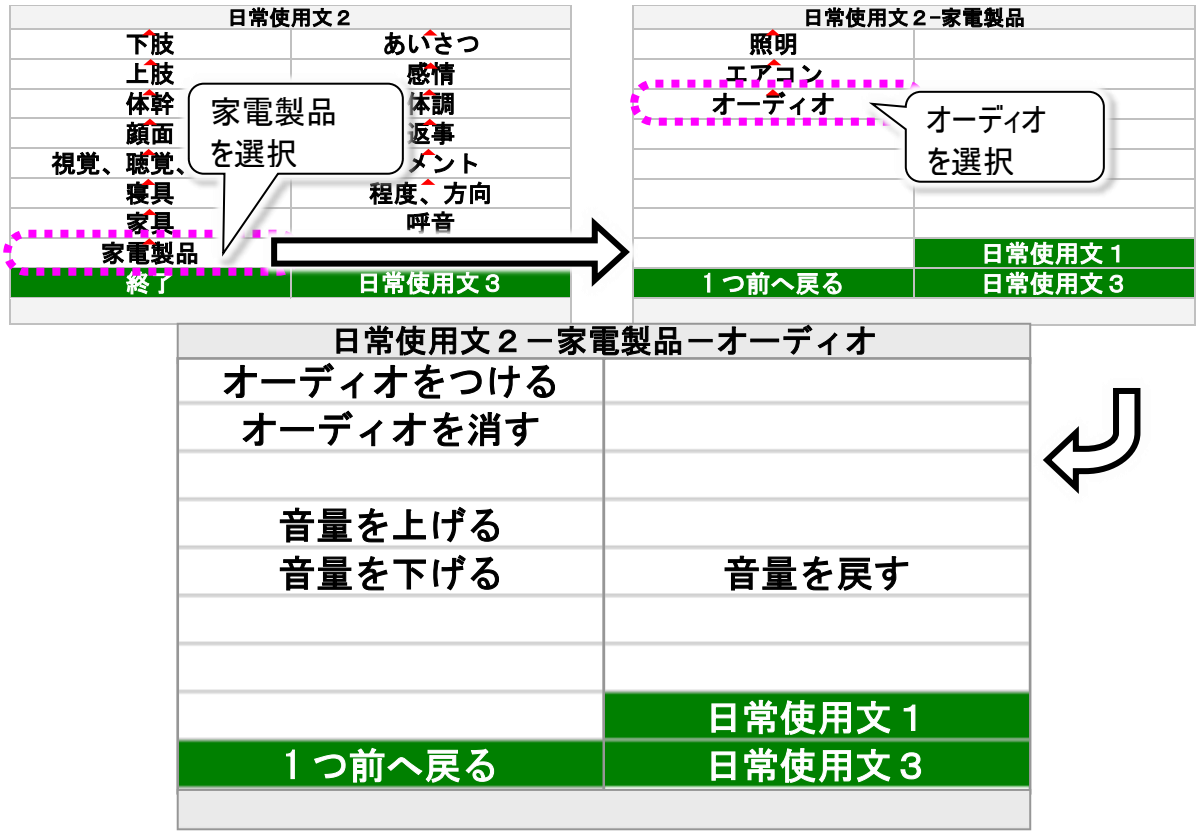
日常使用文パネル 2→▽家電製品パネル→▽エアコンパネル



家電製品パネル	サブパネル	機能
照明	532 頁参照	照明パネルを表示します。
エアコン	エアコンをつける	“エアコンをつけてください”
	エアコンを切る	“エアコンを切ってください”
	温度を上げる	“温度を上げてください”
	温度を下げる	“温度を下げてください”
	温度を戻す	“温度を戻してください”
	１つ前へ戻る	家電製品パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。
オーディオ	534 頁参照	オーディオパネルを表示します。

日常使用文パネル一覧

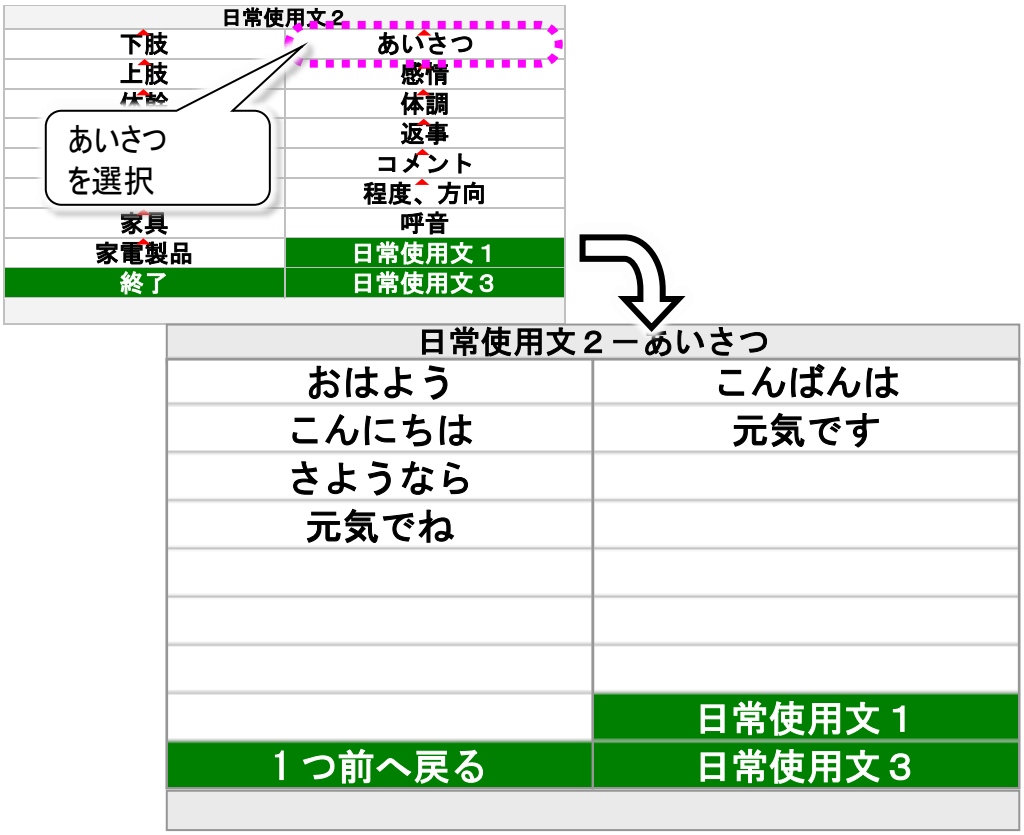
日常使用文パネル 2→▽家電製品パネル→▽オーディオパネル



家電製品パネル	サブパネル	機能
照明	532 頁参照	照明パネルを表示します。
エアコン	533 頁参照	エアコンパネルを表示します。
オーディオ	オーディオをつける	“オーディオをつけてください”
	オーディオを消す	“オーディオを消してください”
	音量を上げる	“音量を上げてください”
	音量を下げる	“音量を下げてください”
	音量を戻す	“音量を戻してください”
	１つ前へ戻る	家電製品パネルに戻ります。
	日常使用文1	日常使用文パネル1を表示します。
	日常使用文3	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

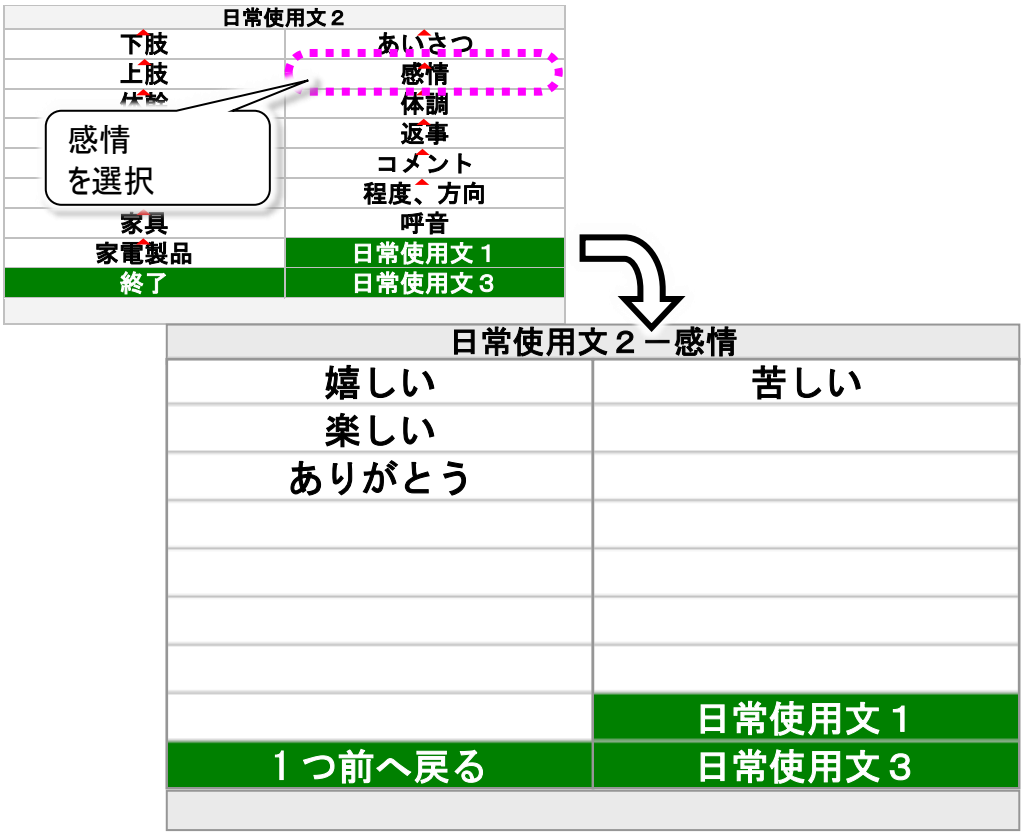
日常使用文パネル 2→▽あいさつパネル



あいさつパネル	サブパネル	機能
おはよう	―――	“おはよう”
こんにちは	―――	“こんにちは”
こんばんは	―――	“こんばんは”
さようなら	―――	“さようなら”
元気です	―――	“元気です”
元気でね	―――	“元気でね”
１つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文１	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文３	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

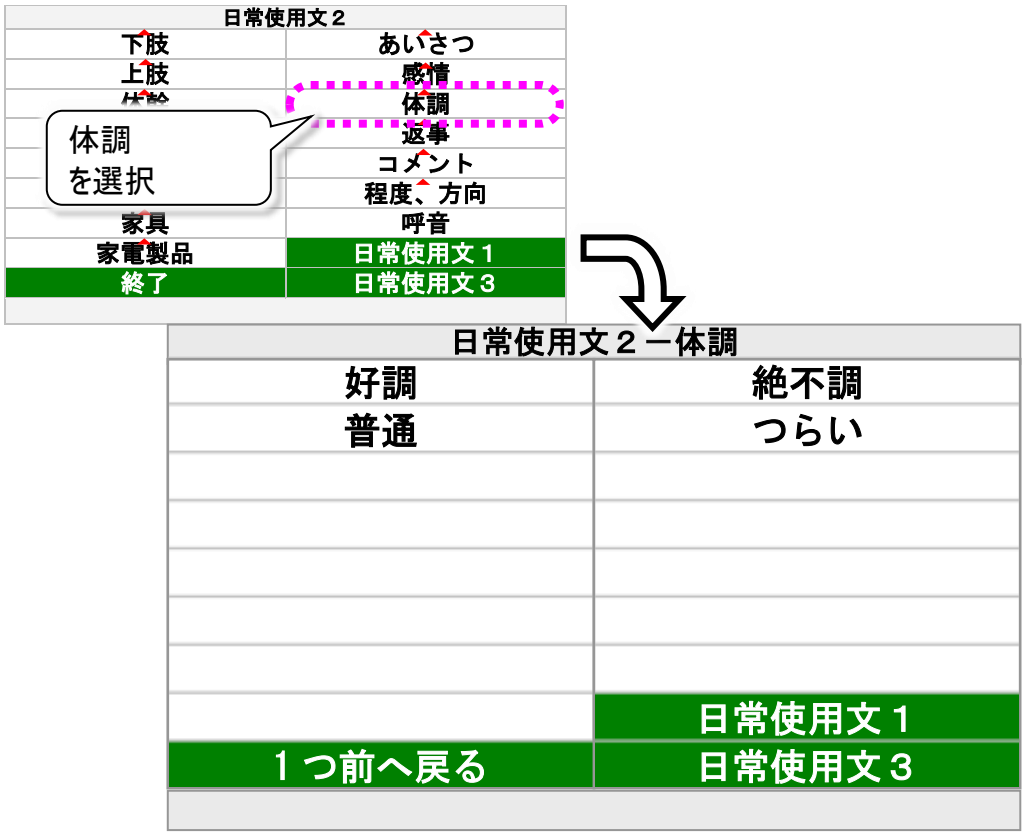
日常使用文パネル 2→▽感情パネル



感情パネル	サブパネル	機能
嬉しい	―――	“嬉しいです”
楽しい	―――	“楽しいです”
ありがとう	―――	“ありがとう”
苦しい	―――	“苦しいです”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

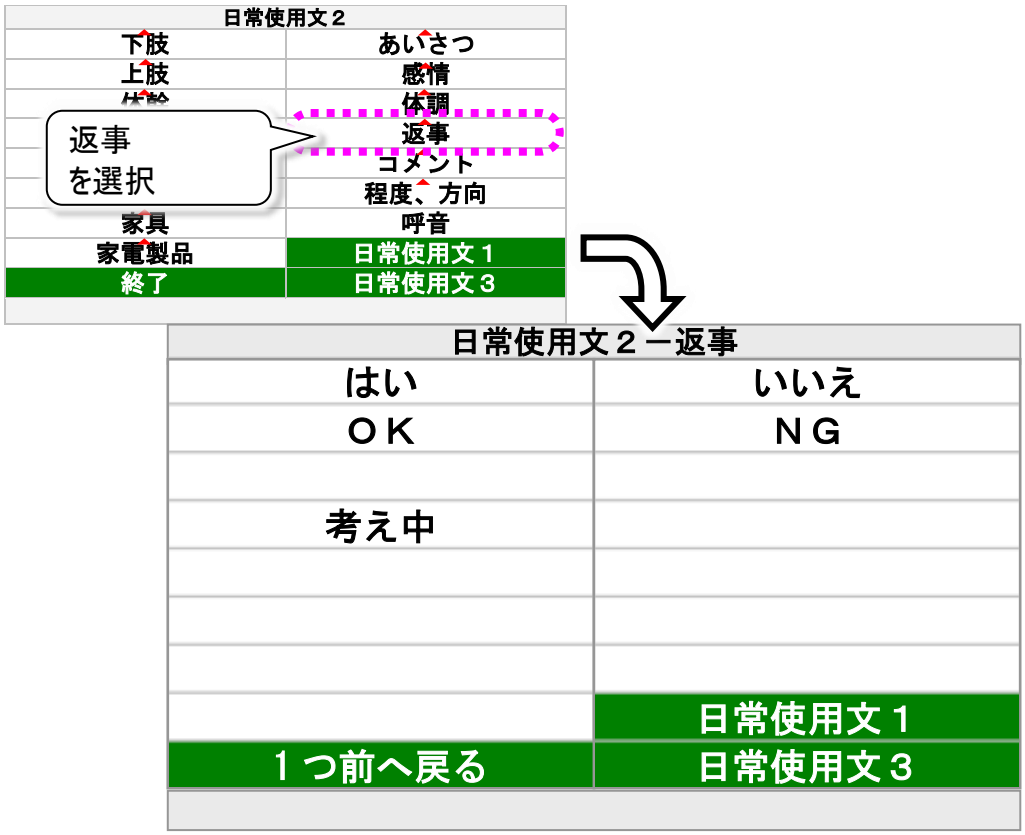
日常使用文パネル 2→▽体調パネル



体調パネル	サブパネル	機能
好調	―――	“好調です”
普通	―――	“普通です”
絶不調	―――	“絶不調です”
つらい	―――	“つらいです”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

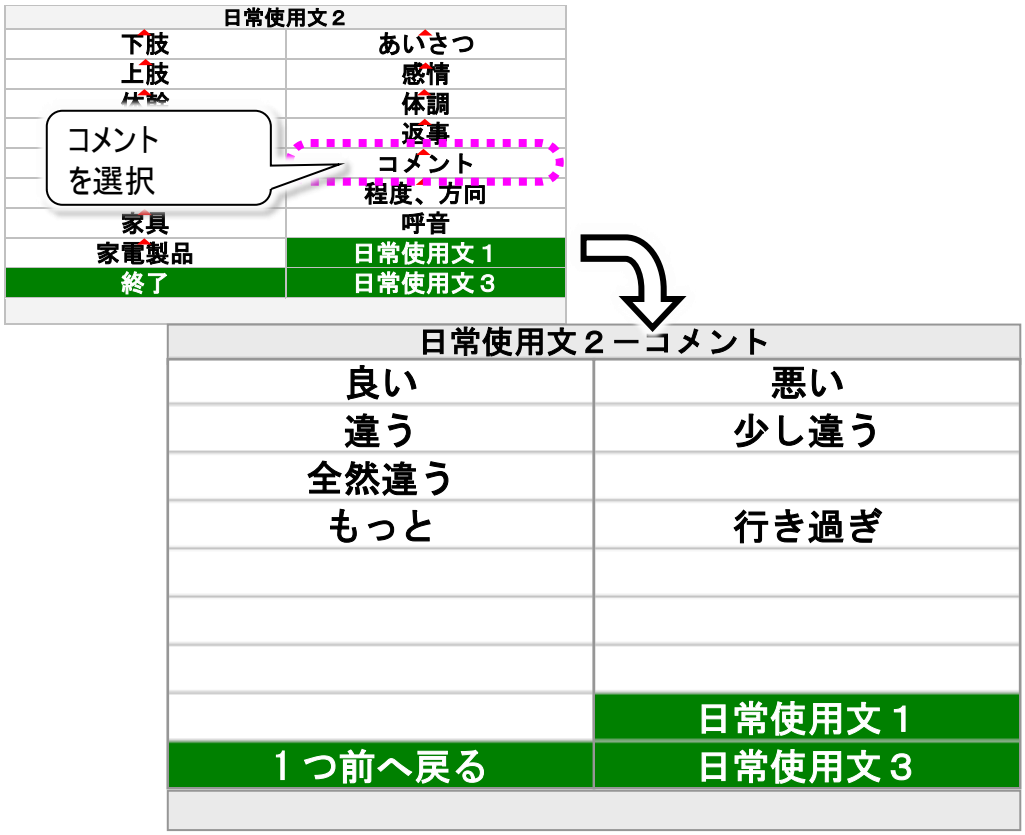
日常使用文パネル 2→▽返事パネル



返事パネル	サブパネル	機能
はい	―――	“はい”
いいえ	―――	“いいえ”
OK	―――	“OK です”
NG	―――	“NG です”
考え中	―――	“考え中です”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

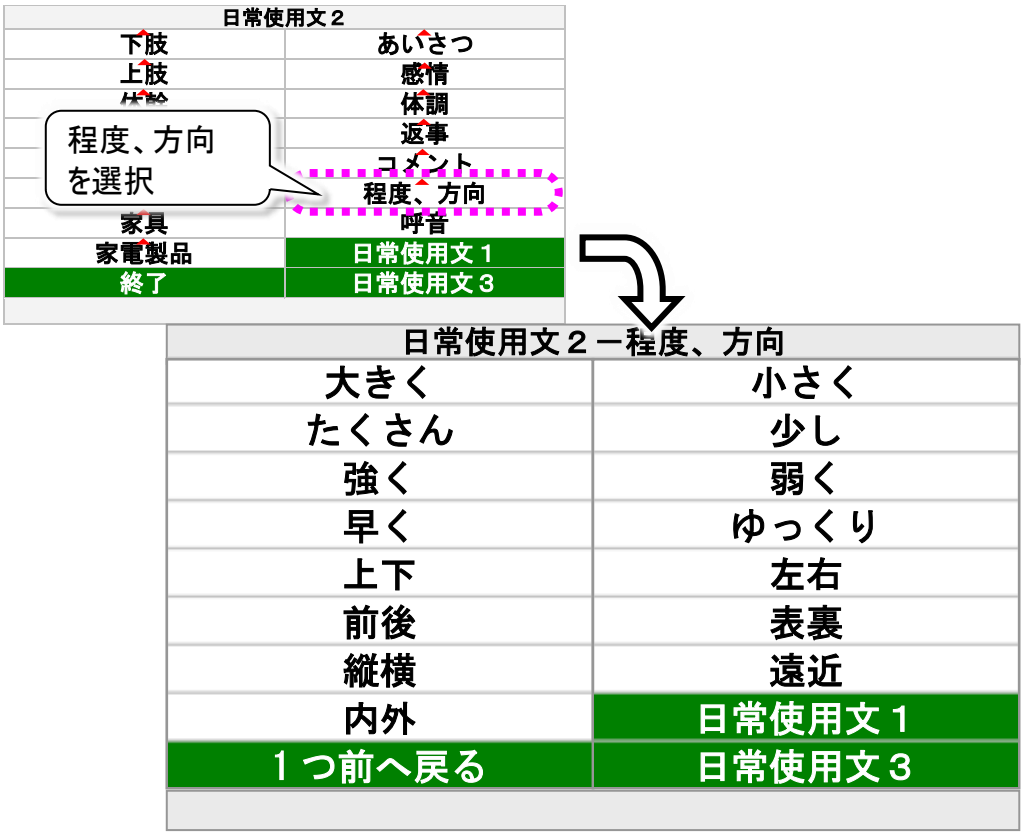
日常使用文パネル 2→▽コメントパネル



コメントパネル	サブパネル	機能
良い	―――	“良いです”
悪い	―――	“悪い”
違う	―――	“違います”
少し違う	―――	“少し違います”
全然違う	―――	“全然違います”
もっと	―――	“もっとお願いします”
行き過ぎ	―――	“行き過ぎです”
１つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文１	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文３	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 2→▽程度、方向パネル



程度、方向パネル	サブパネル	機能
大きく	―――	“大きく”
小さく	―――	“小さく”
たくさん	―――	“たくさん”
少し	―――	“少し”
強く	―――	“強く”
弱く	―――	“弱く”
早く	―――	“早く”
ゆっくり	―――	“ゆっくり”
上下	―――	“上下”
左右	―――	“左右”
前後	―――	“前後”
表裏	―――	“表裏”
内外	―――	“内外”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル2に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文3	―――	日常使用文パネル3を表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 3 の構成と説明

日常使用文パネル 3 は、登録文はスマートスピーカー・スマートフォンへの呼びかけサンプルしかありません。お客様独自の日常使用文集を作成して、ご利用ください。
日常使用文の新規登録／変更／削除の方法は、298 ページの「「日常使用文」の編集をする」で説明しています。

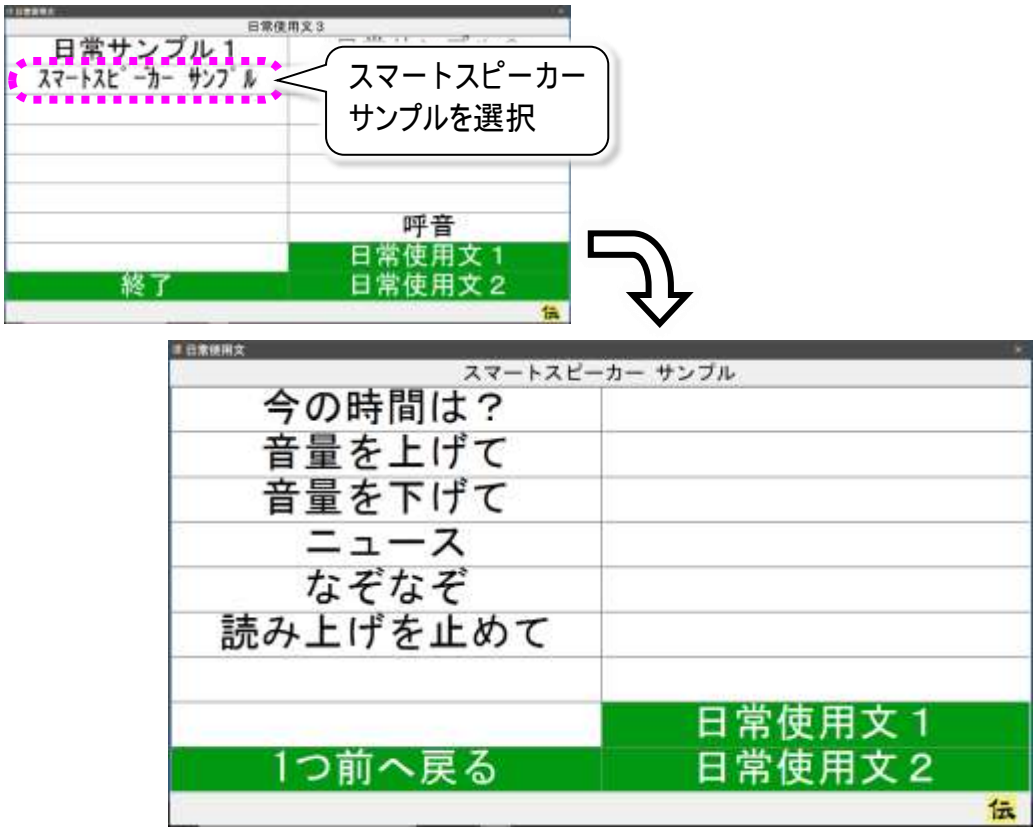
日常使用文パネル 3

「日常使用文」の各画面で[日常使用文 3]を選択すると表示されます。

日常使用文パネル 3	サブパネル	機能
日常サンプル 1	―――	“日常使用文の登録サンプルです”
日常サンプル 2	―――	“日常使用文の登録サンプルです”
スマートスピーカー サンプル	スマートスピーカー サンプルパネル	スマートスピーカーサンプルパネルを表示します。
iPhone サンプル	iPhone パネル	iPhone パネルを表示します。
"HeySiri" を設定	"HeySiri" を設定 パネル	"HeySiri"を設定パネルを表示します。
呼音	―――	呼び出し音を鳴らします。
終了	―――	日常使用文画面を閉じます。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文2	―――	日常使用文パネル2を表示します。

日常使用文パネル一覧

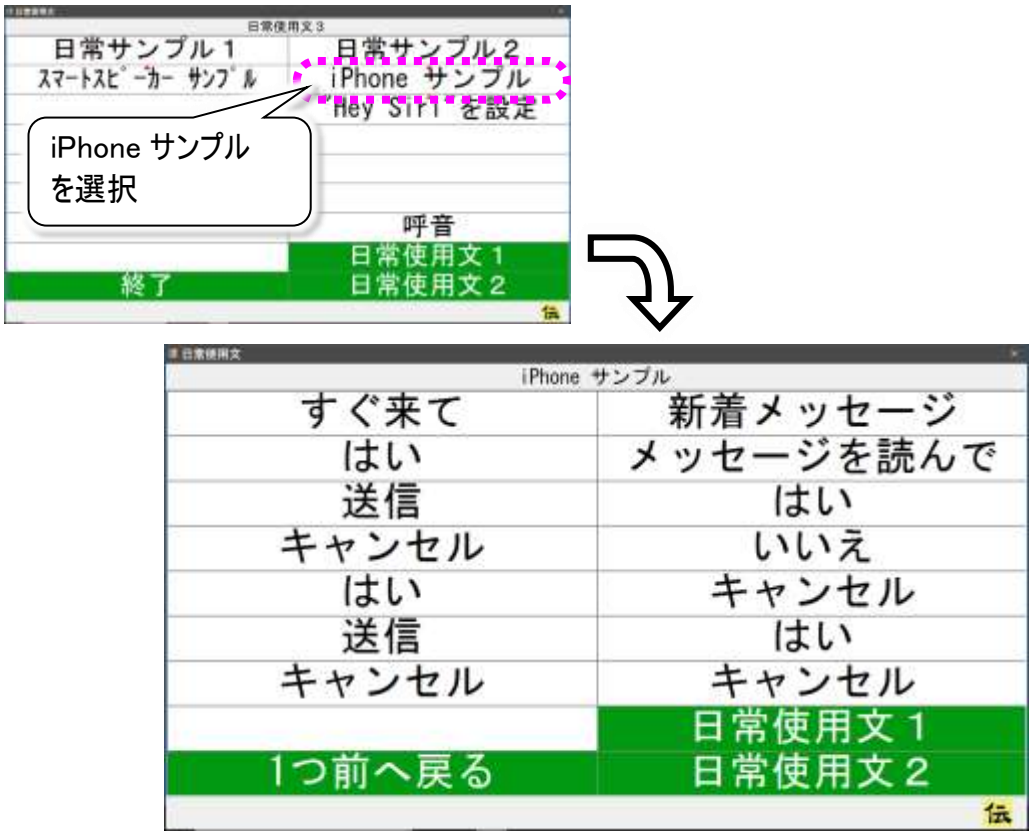
日常使用文パネル 3→▽スマートスピーカーサンプルパネル



スマートスピーカー サンプルパネル	サブパネル	機能
今の時間は？	―――	“今の時間は”
音量を上げて	―――	“音量を上げて”
音量を下げて	―――	“音量を下げて”
ニュース	―――	“ニュースを教えて”
なぞなぞ	―――	“なぞなぞ出して”
読み上げを止めて	―――	“止めて”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル3に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文2	―――	日常使用文パネル2を表示します。

日常使用文パネル一覧

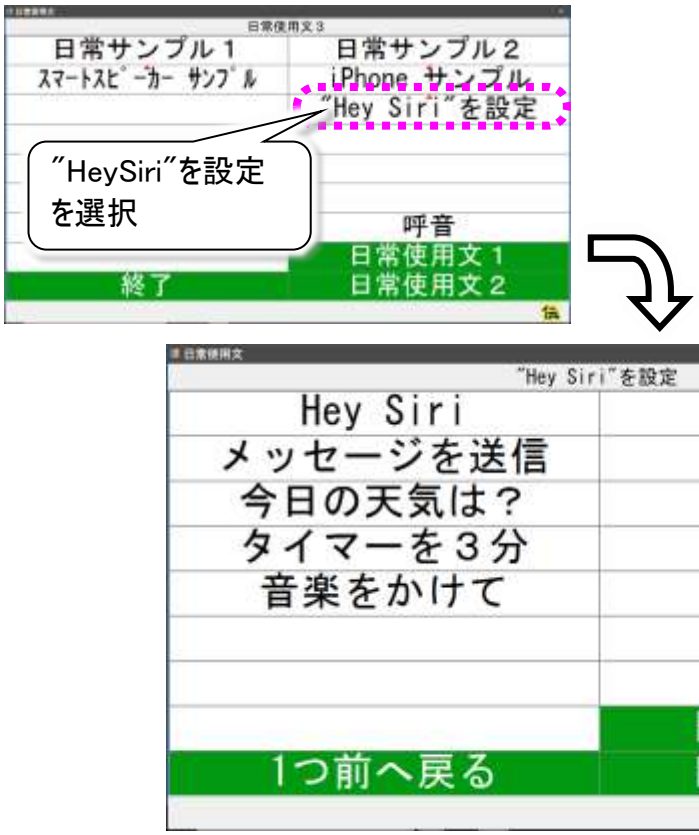
日常使用文パネル 3→▽iPhone サンプルパネル



iPhone パネル	サブパネル	機能
すぐ来て	―――	“太郎さんにすぐ来てとメッセージ”
はい	―――	“はい”
いいえ	―――	“いいえ”
送信	―――	“送信”
キャンセル	―――	“キャンセル”
新着メッセージ	―――	“新着メッセージを読んで”
メッセージを読んで	―――	“太郎さんからのメッセージを読んで”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル3に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文2	―――	日常使用文パネル2を表示します。

日常使用文パネル一覧

日常使用文パネル 3→▽"HeySiri"を設定パネル



iPhone パネル	サブパネル	機能
Hey Siri	―――	“Hey Siri”
メッセージを送信	―――	“メッセージを送信”
今日の天気は？	―――	“今日の天気は？”
タイマーを3分	―――	“タイマーを3分にセット”
音楽をかけて	―――	“音楽をかけて”
1つ前へ戻る	―――	日常使用文パネル3に戻ります。
日常使用文1	―――	日常使用文パネル1を表示します。
日常使用文2	―――	日常使用文パネル2を表示します。

ここでは、リモコンパネルのパネルボタンに割り当てられているリモコンデータの、ご購入時の一覧を示します。リモコンテスト時にリモコンデータを再登録しなければならないボタンがあった場合など、リモコンデータの再登録時に参照ください。

テレビ　パネルのリモコンデーター一覧（ご購入時）

■ パネル名：テレビ（メインパネル）　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
入力切換	日立	テレビ	入力切替	
地デジ	日立	テレビ	地上デジタル	
BS	日立	テレビ	BS デジタル	
CS	日立	テレビ	CS デジタル	
CH↑	日立	テレビ	チャンネル+	
CH↓	日立	テレビ	チャンネル−	
画面表示	日立	テレビ	画面表示	
オフタイマー	日立	テレビ	オフタイマー	※リモコンデータ無し。
音↑	日立	テレビ	音量+	
音↓	日立	テレビ	音量−	
消音	日立	テレビ	消音	
音声切換	日立	テレビ	音声切換	

■ パネル名：テレビ（サブパネル）地デジ CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
音↑	日立	テレビ	音量+	
音↓	日立	テレビ	音量−	
1	日立	テレビ	地上デジ CH01	
2	日立	テレビ	地上デジ CH02	
3	日立	テレビ	地上デジ CH03	
4	日立	テレビ	地上デジ CH04	
5	日立	テレビ	地上デジ CH05	
6	日立	テレビ	地上デジ CH06	
7	日立	テレビ	地上デジ CH07	
8	日立	テレビ	地上デジ CH08	
9	日立	テレビ	地上デジ CH09	
10	日立	テレビ	地上デジ CH10	
11	日立	テレビ	地上デジ CH11	
12	日立	テレビ	地上デジ CH12	

リモコンデータについて

■ パネル名:テレビ(サブパネル)BS デジ CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
音↑	日立	テレビ	音量+	
音↓	日立	テレビ	音量−	
BS 1	日立	テレビ	BS デジ CH01	
BS 2	日立	テレビ	BS デジ CH02	
BS 3	日立	テレビ	BS デジ CH03	
BS 4	日立	テレビ	BS デジ CH04	
BS 5	日立	テレビ	BS デジ CH05	
BS 6	日立	テレビ	BS デジ CH06	
BS 7	日立	テレビ	BS デジ CH07	
BS 8	日立	テレビ	BS デジ CH08	
BS 9	日立	テレビ	BS デジ CH09	
BS 10	日立	テレビ	BS デジ CH10	
BS 11	日立	テレビ	BS デジ CH11	
BS 12	日立	テレビ	BS デジ CH12	

■ パネル名:テレビ(サブパネル)CS デジ CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
音↑	日立	テレビ	音量+	
音↓	日立	テレビ	音量−	
CS 1	日立	テレビ	CS デジ CH01	
CS 2	日立	テレビ	CS デジ CH02	
CS 3	日立	テレビ	CS デジ CH03	
CS 4	日立	テレビ	CS デジ CH04	
CS 5	日立	テレビ	CS デジ CH05	
CS 6	日立	テレビ	CS デジ CH06	
CS 7	日立	テレビ	CS デジ CH07	
CS 8	日立	テレビ	CS デジ CH08	
CS 9	日立	テレビ	CS デジ CH09	
CS 10	日立	テレビ	CS デジ CH10	
CS 11	日立	テレビ	CS デジ CH11	
CS 12	日立	テレビ	CS デジ CH12	

■ パネル名：テレビ（サブパネル）操作　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
メニュー	日立	テレビ	メニュー	
番組表	日立	テレビ	番組表	
番組情報	日立	テレビ	番組情報	※リモコンデータ無し。
データ放送	日立	テレビ	データ放送	
↓	日立	テレビ	↓	
↑	日立	テレビ	↑	
→	日立	テレビ	→	
←	日立	テレビ	←	
決定	日立	テレビ	決定	
戻る	日立	テレビ	戻る	
青	日立	テレビ	青ボタン	
赤	日立	テレビ	赤ボタン	
緑	日立	テレビ	緑ボタン	
黄	日立	テレビ	黄ボタン	

■ パネル名：テレビ（サブパネル）録再　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
地デジ	日立	テレビ	地上デジタル	
BS	日立	テレビ	BS デジタル	
録画番組	日立	テレビ	録画番組	
番組表	日立	テレビ	番組表	
再生	日立	テレビ	再生	
一停	日立	テレビ	一時停止	
停止	日立	テレビ	停止	
↓	日立	テレビ	↓	
↑	日立	テレビ	↑	
→	日立	テレビ	→	
←	日立	テレビ	←	
決定	日立	テレビ	決定	
戻る	日立	テレビ	戻る	
巻戻	日立	テレビ	巻戻し	
早送	日立	テレビ	早送り	
前スキ	日立	テレビ	前スキップ	
後スキ	日立	テレビ	後スキップ	

リモコンデータについて

簡単テレビ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ **パネル名：簡単テレビ　ご購入時**

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	テレビ	電源	
音↑	日立	テレビ	音量+	
音↓	日立	テレビ	音量−	
CH↑	日立	テレビ	チャンネル+	
CH↓	日立	テレビ	チャンネル−	
1	日立	テレビ	地上デジ CH01	
2	日立	テレビ	地上デジ CH02	
3	日立	テレビ	地上デジ CH03	
4	日立	テレビ	地上デジ CH04	
5	日立	テレビ	地上デジ CH05	
6	日立	テレビ	地上デジ CH06	
7	日立	テレビ	地上デジ CH07	
8	日立	テレビ	地上デジ CH08	
9	日立	テレビ	地上デジ CH09	
10	日立	テレビ	地上デジ CH10	
11	日立	テレビ	地上デジ CH11	
12	日立	テレビ	地上デジ CH12	
入力切換	日立	テレビ	入力切替	

ビデオ　パネルのリモコンデーター一覧（ご購入時）

■ パネル名:ビデオ(メインパネル)　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
入力切換	日立	ビデオ	入力切替	
地デジ	日立	ビデオ	地上デジ	※リモコンデータ無し。
BS	日立	ビデオ	BS	※リモコンデータ無し。
CS	日立	ビデオ	CS	※リモコンデータ無し。
CH↑	日立	ビデオ	チャンネル+	
CH↓	日立	ビデオ	チャンネル−	
画面表示	日立	ビデオ	画面表示	※リモコンデータ無し。
HDD	日立	ビデオ	HDD	※リモコンデータ無し。
BD/DVD	日立	ビデオ	BD/DVD	※リモコンデータ無し。
音声切換	日立	ビデオ	音声切換	※リモコンデータ無し。

■ パネル名:ビデオ(サブパネル)地デジ CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
音↑	日立	ビデオ	音量+	※リモコンデータ無し。
音↓	日立	ビデオ	音量−	※リモコンデータ無し。
1	日立	ビデオ	地上デジ CH01	※リモコンデータ無し。
2	日立	ビデオ	地上デジ CH02	※リモコンデータ無し。
3	日立	ビデオ	地上デジ CH03	※リモコンデータ無し。
4	日立	ビデオ	地上デジ CH04	※リモコンデータ無し。
5	日立	ビデオ	地上デジ CH05	※リモコンデータ無し。
6	日立	ビデオ	地上デジ CH06	※リモコンデータ無し。
7	日立	ビデオ	地上デジ CH07	※リモコンデータ無し。
8	日立	ビデオ	地上デジ CH08	※リモコンデータ無し。
9	日立	ビデオ	地上デジ CH09	※リモコンデータ無し。
10	日立	ビデオ	地上デジ CH10	※リモコンデータ無し。
11	日立	ビデオ	地上デジ CH11	※リモコンデータ無し。
12	日立	ビデオ	地上デジ CH12	※リモコンデータ無し。

リモコンデータについて

■ パネル名:ビデオ(サブパネル)BS デジ CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
音↑	日立	ビデオ	音量+	※リモコンデータ無し。
音↓	日立	ビデオ	音量-	※リモコンデータ無し。
BS 1	日立	ビデオ	BS デジ CH01	※リモコンデータ無し。
BS 2	日立	ビデオ	BS デジ CH02	※リモコンデータ無し。
BS 3	日立	ビデオ	BS デジ CH03	※リモコンデータ無し。
BS 4	日立	ビデオ	BS デジ CH04	※リモコンデータ無し。
BS 5	日立	ビデオ	BS デジ CH05	※リモコンデータ無し。
BS 6	日立	ビデオ	BS デジ CH06	※リモコンデータ無し。
BS 7	日立	ビデオ	BS デジ CH07	※リモコンデータ無し。
BS 8	日立	ビデオ	BS デジ CH08	※リモコンデータ無し。
BS 9	日立	ビデオ	BS デジ CH09	※リモコンデータ無し。
BS 10	日立	ビデオ	BS デジ CH10	※リモコンデータ無し。
BS 11	日立	ビデオ	BS デジ CH11	※リモコンデータ無し。
BS 12	日立	ビデオ	BS デジ CH12	※リモコンデータ無し。

■ パネル名:ビデオ(サブパネル)CS デジ CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
音↑	日立	ビデオ	音量+	※リモコンデータ無し。
音↓	日立	ビデオ	音量-	※リモコンデータ無し。
CS 1	日立	ビデオ	CS デジ CH01	※リモコンデータ無し。
CS 2	日立	ビデオ	CS デジ CH02	※リモコンデータ無し。
CS 3	日立	ビデオ	CS デジ CH03	※リモコンデータ無し。
CS 4	日立	ビデオ	CS デジ CH04	※リモコンデータ無し。
CS 5	日立	ビデオ	CS デジ CH05	※リモコンデータ無し。
CS 6	日立	ビデオ	CS デジ CH06	※リモコンデータ無し。
CS 7	日立	ビデオ	CS デジ CH07	※リモコンデータ無し。
CS 8	日立	ビデオ	CS デジ CH08	※リモコンデータ無し。
CS 9	日立	ビデオ	CS デジ CH09	※リモコンデータ無し。
CS 10	日立	ビデオ	CS デジ CH10	※リモコンデータ無し。
CS 11	日立	ビデオ	CS デジ CH11	※リモコンデータ無し。
CS 12	日立	ビデオ	CS デジ CH12	※リモコンデータ無し。

■ パネル名:ビデオ(サブパネル)操作　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
メニュー	日立	ビデオ	メニュー	※リモコンデータ無し。
番組表	日立	ビデオ	番組表	※リモコンデータ無し。
番組情報	日立	ビデオ	番組情報	※リモコンデータ無し。
データ放送	日立	ビデオ	データ放送	※リモコンデータ無し。
↓	日立	ビデオ	↓	※リモコンデータ無し。
↑	日立	ビデオ	↑	※リモコンデータ無し。
→	日立	ビデオ	→	※リモコンデータ無し。
←	日立	ビデオ	←	※リモコンデータ無し。
決定	日立	ビデオ	決定	※リモコンデータ無し。
戻る	日立	ビデオ	戻る	※リモコンデータ無し。
青	日立	ビデオ	青ボタン	※リモコンデータ無し。
赤	日立	ビデオ	赤ボタン	※リモコンデータ無し。
緑	日立	ビデオ	緑ボタン	※リモコンデータ無し。
黄	日立	ビデオ	黄ボタン	※リモコンデータ無し。

■ パネル名:ビデオ(サブパネル)録再　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
地デジ	日立	ビデオ	地上デジタル	※リモコンデータ無し。
BS	日立	ビデオ	BS デジタル	※リモコンデータ無し。
録画番組	日立	ビデオ	録画番組	※リモコンデータ無し。
番組表	日立	ビデオ	番組表	※リモコンデータ無し。
再生	日立	ビデオ	再生	
一停	日立	ビデオ	一時停止	
停止	日立	ビデオ	停止	
↓	日立	ビデオ	↓	※リモコンデータ無し。
↑	日立	ビデオ	↑	※リモコンデータ無し。
→	日立	ビデオ	→	※リモコンデータ無し。
←	日立	ビデオ	←	※リモコンデータ無し。
決定	日立	ビデオ	決定	※リモコンデータ無し。
戻る	日立	ビデオ	戻る	※リモコンデータ無し。
巻戻	日立	ビデオ	巻戻し	
早送	日立	ビデオ	早送り	
前スキ	日立	ビデオ	前スキップ	※リモコンデータ無し。
後スキ	日立	ビデオ	後スキップ	※リモコンデータ無し。

リモコンデータについて

簡単ビデオ　パネルのリモコンデーター一覧（ご購入時）

■ **パネル名：簡単ビデオ　ご購入時**

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	ビデオ	電源	
録画	日立	ビデオ	録画	
再生	日立	ビデオ	再生	
一停	日立	ビデオ	一時停止	
巻戻	日立	ビデオ	巻戻し	
早送	日立	ビデオ	早送り	
停止	日立	ビデオ	停止	
録画番組	日立	ビデオ	録画番組	※リモコンデータ無し。
↓	日立	ビデオ	↓	※リモコンデータ無し。
↑	日立	ビデオ	↑	※リモコンデータ無し。
→	日立	ビデオ	→	※リモコンデータ無し。
←	日立	ビデオ	←	※リモコンデータ無し。
決定	日立	ビデオ	決定	※リモコンデータ無し。
戻る	日立	ビデオ	戻る	※リモコンデータ無し。
前スキ	日立	ビデオ	前スキップ	※リモコンデータ無し。
後スキ	日立	ビデオ	後スキップ	※リモコンデータ無し。

エアコン　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ パネル名：エアコン（メインパネル） ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
暖房 20℃	日立	エアコン	暖房 20℃	
暖房 22℃	日立	エアコン	暖房 22℃	
暖房 24℃	日立	エアコン	暖房 24℃	
暖房 26℃	日立	エアコン	暖房 26℃	
暖房 28℃	日立	エアコン	暖房 28℃	
冷房 18℃	日立	エアコン	冷房 18℃	
冷房 20℃	日立	エアコン	冷房 20℃	
冷房 22℃	日立	エアコン	冷房 22℃	
冷房 24℃	日立	エアコン	冷房 24℃	
冷房 26℃	日立	エアコン	冷房 26℃	
除湿 18℃	日立	エアコン	除湿 18℃	
除湿 20℃	日立	エアコン	除湿 20℃	
除湿 22℃	日立	エアコン	除湿 22℃	
除湿 24℃	日立	エアコン	除湿 24℃	
除湿 26℃	日立	エアコン	除湿 26℃	
停止	日立	エアコン	停止	
除湿 40%	日立	エアコン	除湿 40%	※リモコンデータ無し。
除湿 50%	日立	エアコン	除湿 50%	※リモコンデータ無し。
除湿 60%	日立	エアコン	除湿 60%	※リモコンデータ無し。
除湿 70%	日立	エアコン	除湿 70%	※リモコンデータ無し。

リモコンデータについて

ゲーム機　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ **パネル名：ゲーム機　ご購入時**

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
STR	ダブル技研	ゲーム	Start	
↓	ダブル技研	ゲーム	↓	
↑	ダブル技研	ゲーム	↑	
→	ダブル技研	ゲーム	→	
←	ダブル技研	ゲーム	←	
SEL	ダブル技研	ゲーム	Select	
○	ダブル技研	ゲーム	○	
□	ダブル技研	ゲーム	□	
△	ダブル技研	ゲーム	△	
×	ダブル技研	ゲーム	×	
L1	ダブル技研	ゲーム	L1	
L2	ダブル技研	ゲーム	L2	
L3	ダブル技研	ゲーム	L3	※リモコンデータ無し。
R1	ダブル技研	ゲーム	R1	
R2	ダブル技研	ゲーム	R2	
R3	ダブル技研	ゲーム	R3	※リモコンデータ無し。

DVD　パネルのリモコンデーター一覧（ご購入時）

■ パネル名：DVD　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	日立	DVD	電源	
再生	日立	DVD	再生	
停止	日立	DVD	停止	
早送	日立	DVD	早送り	
巻戻	日立	DVD	巻き戻し	
次スキ	日立	DVD	次スキップ	
前スキ	日立	DVD	前スキップ	
一停	日立	DVD	一時停止	
↓	日立	DVD	↓	
↑	日立	DVD	↑	
→	日立	DVD	→	
←	日立	DVD	←	
決定	日立	DVD	決定	
メニュー	日立	DVD	DVD メニュー	

リモコンデータについて

ビデオカメラ　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ パネル名:ビデオカメラ(メインパネル)　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
1	キャノン	リモコンビデオカメラ	1	
2	キャノン	リモコンビデオカメラ	2	
3	キャノン	リモコンビデオカメラ	3	
4	キャノン	リモコンビデオカメラ	4	
5	キャノン	リモコンビデオカメラ	5	
6	キャノン	リモコンビデオカメラ	6	
拡大(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	拡大	繰り返し:有効
拡大	キャノン	リモコンビデオカメラ	拡大	
縮小	キャノン	リモコンビデオカメラ	縮小	
縮小(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	縮小	繰り返し:有効
↑(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	上	繰り返し:有効
↑	キャノン	リモコンビデオカメラ	上	
↓	キャノン	リモコンビデオカメラ	下	
↓(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	下	繰り返し:有効
←(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	左	繰り返し:有効
←	キャノン	リモコンビデオカメラ	左	
→	キャノン	リモコンビデオカメラ	右	
→(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	右	繰り返し:有効

■ パネル名:ビデオカメラ(サブパネル)設定　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
1 へ記憶	キャノン	リモコンビデオカメラ	1 へ記憶	
2 へ記憶	キャノン	リモコンビデオカメラ	2 へ記憶	
3 へ記憶	キャノン	リモコンビデオカメラ	3 へ記憶	
4 へ記憶	キャノン	リモコンビデオカメラ	4 へ記憶	
5 へ記憶	キャノン	リモコンビデオカメラ	5 へ記憶	
6 へ記憶	キャノン	リモコンビデオカメラ	6 へ記憶	
電源	キャノン	リモコンビデオカメラ	電源	
フォーカス▲(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	遠く	繰り返し:有効
フォーカス▲	キャノン	リモコンビデオカメラ	遠く	
フォーカス▼	キャノン	リモコンビデオカメラ	近く	
フォーカス▼(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	近く	繰り返し:有効
明るく(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	明るさ	繰り返し:有効
暗く(連続)	キャノン	リモコンビデオカメラ	暗さ	繰り返し:有効
オートフォーカス	キャノン	リモコンビデオカメラ	オート	
マニュアルフォーカス	キャノン	リモコンビデオカメラ	マニュアル	

照明　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ パネル名：照明　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
全灯	日立	照明	全灯	※リモコンデータ無し。
消灯	日立	照明	消灯	※リモコンデータ無し。
明るく	日立	照明	明るさ+	※リモコンデータ無し。
暗く	日立	照明	明るさ−	※リモコンデータ無し。
スイッチ	日立	照明	スイッチ	

ページめくり機　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ パネル名：ページめくり機　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	ダブル技研	りーだぶる 2	電源	
左ページ	ダブル技研	りーだぶる 2	左めくり	
右ページ	ダブル技研	りーだぶる 2	右めくり	
にげ	ダブル技研	りーだぶる 2	にげ	
厚紙	ダブル技研	りーだぶる 2	厚さ調節	
たるみ	ダブル技研	りーだぶる 2	たるみ	

リモコンデータについて

地デジチューナー　パネルのリモコンデーター覧（ご購入時）

■ パネル名：地デジチューナ（メインパネル）CH 選択　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	PIXELA	地デジチューナ	電源	
CH↑	PIXELA	地デジチューナ	→	
CH↓	PIXELA	地デジチューナ	←	
1	PIXELA	地デジチューナ	1	
2	PIXELA	地デジチューナ	2	
3	PIXELA	地デジチューナ	3	
4	PIXELA	地デジチューナ	4	
5	PIXELA	地デジチューナ	5	
6	PIXELA	地デジチューナ	6	
7	PIXELA	地デジチューナ	7	
8	PIXELA	地デジチューナ	8	
9	PIXELA	地デジチューナ	9	
10	PIXELA	地デジチューナ	10	
11	PIXELA	地デジチューナ	11	
12	PIXELA	地デジチューナ	12	

■ パネル名：地デジチューナ（サブパネル）操作　ご購入時

パネルボタン名	リモコンデータ			備考
	メーカー名	機器名	ボタン名	
電源	PIXELA	地デジチューナ	電源	
メニュー	PIXELA	地デジチューナ	メニュー	
戻る	PIXELA	地デジチューナ	戻る	
↓	PIXELA	地デジチューナ	↓	
↑	PIXELA	地デジチューナ	↑	
→	PIXELA	地デジチューナ	→	
←	PIXELA	地デジチューナ	←	
決定	PIXELA	地デジチューナ	決定	
画面表示	PIXELA	地デジチューナ	画面表示	
画面モード	PIXELA	地デジチューナ	画面モード	
字幕切換	PIXELA	地デジチューナ	字幕切換	
音声切換	PIXELA	地デジチューナ	音声切換	

音声合成ユーザー辞書について

「スタート」メニューより「伝の心」ー「音声合成ユーザー辞書編集」の順番に選択し実行することにより、ユーザー辞書の編集を行なうことができます。本ユーザー辞書には、表記文字列（単語）、読み文字列（単語の読み）およびアクセント位置（単語のアクセント位置）を登録することができます。本ユーザー辞書に登録した表記文字列を、「伝の心」で読み上げた場合、指定した読み文字列を指定したアクセント位置で読み上げることができます。「伝の心」で作成した文章で特殊な読み方をする文字列などを本ユーザー辞書に登録しておくと便利です。

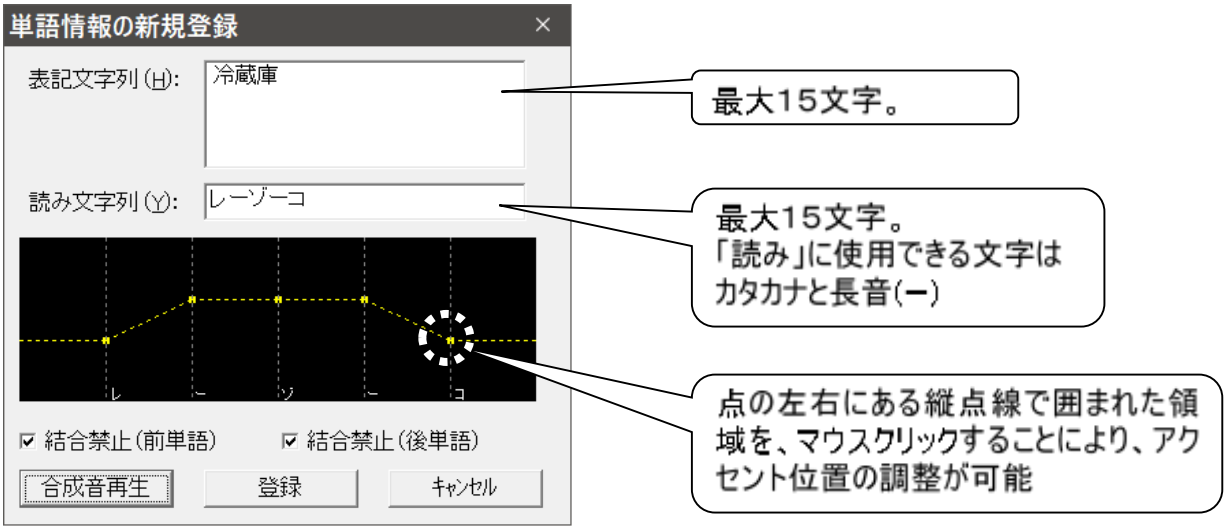
ユーザー辞書登録

「音声合成ユーザー辞書編集」を起動すると次のようなユーザー辞書編集を行なう画面が表示されます。ここで、表記文字列、読み文字列をユーザー辞書へ登録します。セットアップ直後は、111 単語が登録されています。

音声合成ユーザー辞書について

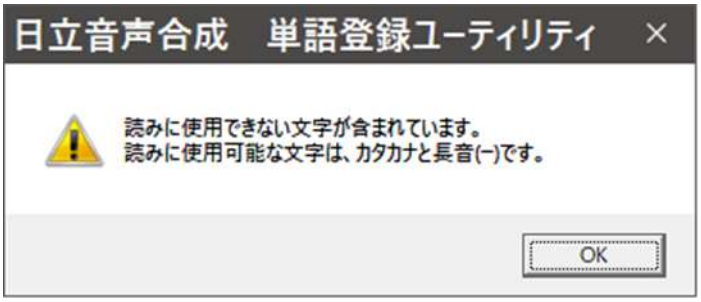
新規登録

表記文字列、読み文字列およびアクセント位置を新規にユーザー辞書に登録できます。
ユーザー辞書登録画面の新規登録ボタンをマウスでクリックすると、次のような画面が表示されます。



合成音再生ボタンを押すと、文字列の読み上げが行われ、その波形が表示されます。波形に表示された点を上下させることで、アクセント位置の調整が可能です。上下の移動は、点の左右にある縦点線で囲まれた領域を、マウスでクリックして行います。
登録可能な「表記文字列」および「読み文字列」の最大は15文字です。

「読み」に使用できる文字はカタカナと長音(ー)です。ひらがな等が入力されている場合は次のような画面が出て登録ができません。



また、次のような文字は、長音を用いることでより自然な読み上げになります。

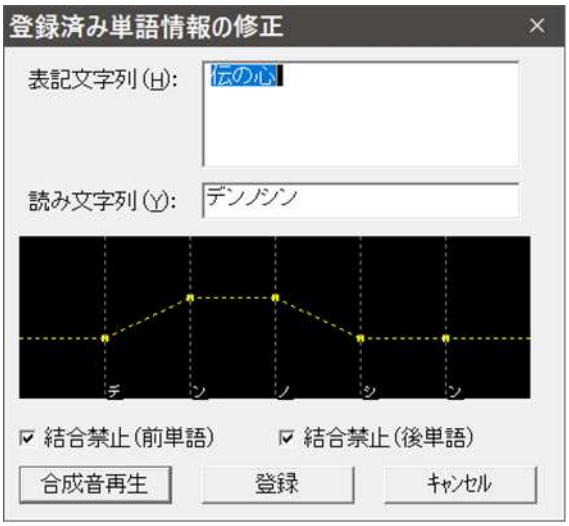
・「お」段の音に続く「う」
・「え」段の音に続く「い」

例)れいぞうこ　→　レーゾーコ

音声合成ユーザー辞書について

修正

既に登録してある表記文字列、読み文字列またはアクセント位置の変更を行ないます。
ユーザー辞書登録画面の修正ボタンをマウスでクリックする前に、修正を行なう表記文字列を選択してください。
修正ボタンをマウスでクリックすると、次のような画面が表示されます。



削除

ユーザー辞書登録画面の削除ボタンをマウスでクリックすると、既に登録してある表記文字列、読み文字列およびアクセント位置をユーザー辞書から削除します。
削除ボタンをマウスでクリックする前に、削除する表記文字を選択してください。
削除ボタンをマウスでクリックすると、次のような画面が表示されます。ここで、はいを選択すると削除されます。

音声合成ユーザー辞書について

閉じる

ユーザー辞書登録画面の閉じるボタンをマウスでクリックすると、音声合成ユーザー辞書編集処理を終了します。
ユーザー辞書の編集を行なった場合は、次のようなユーザー辞書更新の確認画面が表示されます。ここで、はいを選択すると編集した内容がユーザー辞書に反映されます。

スイッチの外部出力について

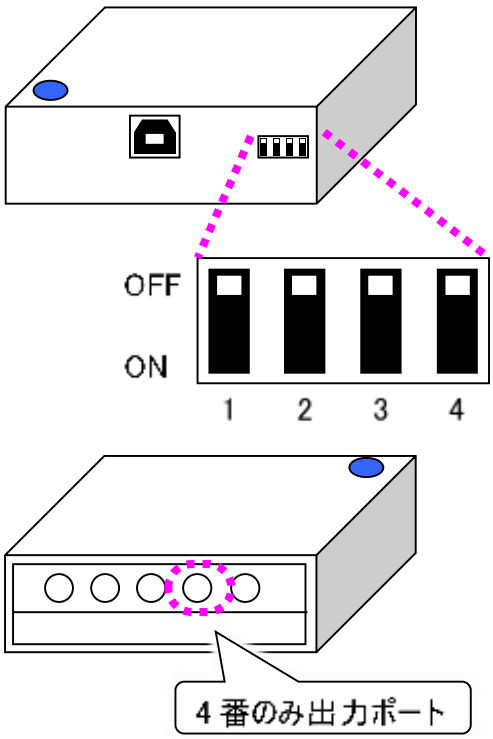
なんでもスイッチをなんでもスイッチプラスに変更すると、スイッチ接続ポート（入力ポート）を外部出力ポートに変更することができます。「伝の心」から呼び鈴などの外部装置の制御などにお使いください。

制限	**外部装置の設定** 呼び鈴などの外部装置はお客様でご用意願います。外部装置をご使用になる場合は、それぞれの機器について設定が必要な場合があります。呼び鈴などの外部装置の不明点は、ご購入先にお問い合わせください。また、外部装置の動作を保証するものではありませんので、ご注意願います。

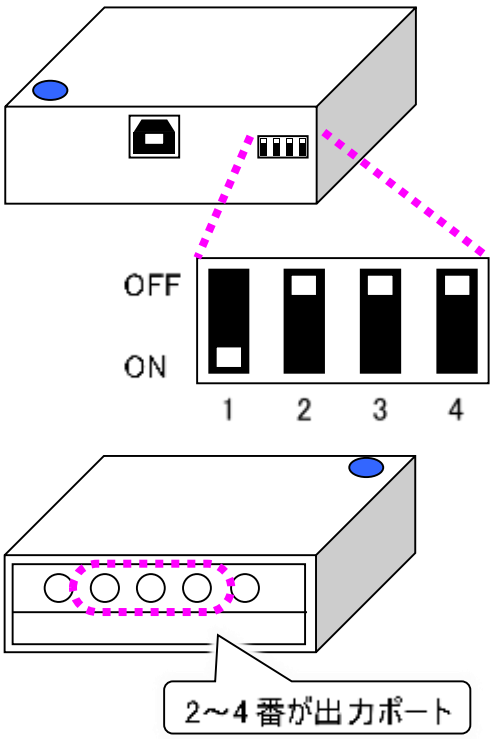
「伝の心」のメニューから外部出力する場合

なんでもスイッチプラスのご購入時の設定は、4番のみ出力ポートに設定されています。なんでもスイッチプラスのディップスイッチの設定で、出力ポートを増減可能です。

【出荷時設定】



【ディップスイッチ1:ONの場合の例】



「伝の心」の支援者用設定にて「外部出力の設定」を行うと、「伝の心」のメインメニューや「呼音」ボタンから外部出力を行うことが可能です。詳細は 236 ページの「外部出力の設定」を参照ください。

スイッチの外部出力について

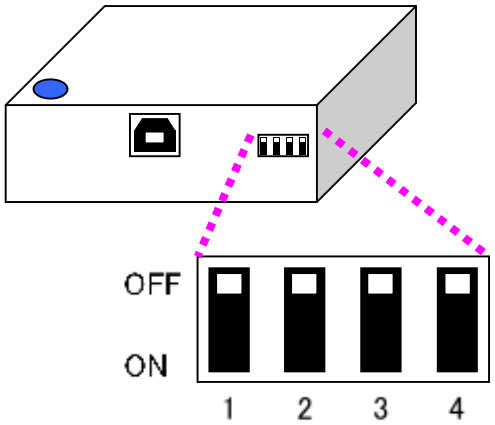
スイッチ入力の方法によって外部出力する場合

なんでもスイッチプラスの 5 番ポートは、なんでもスイッチプラスのディップスイッチの設定を行うと、入力側スイッチの長押しや 3 回連続押しなどの方法で、長押し 1 回につき 1 回、3 回連続押し 1 セットにつき 1 回、0.5 秒間信号出力させることが可能です。
なんでもスイッチプラスのご購入時の設定は出力しない設定になっています。

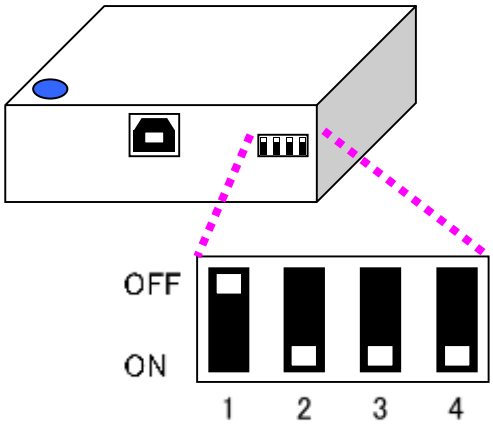
入力側スイッチの長押しで外部出力を行う

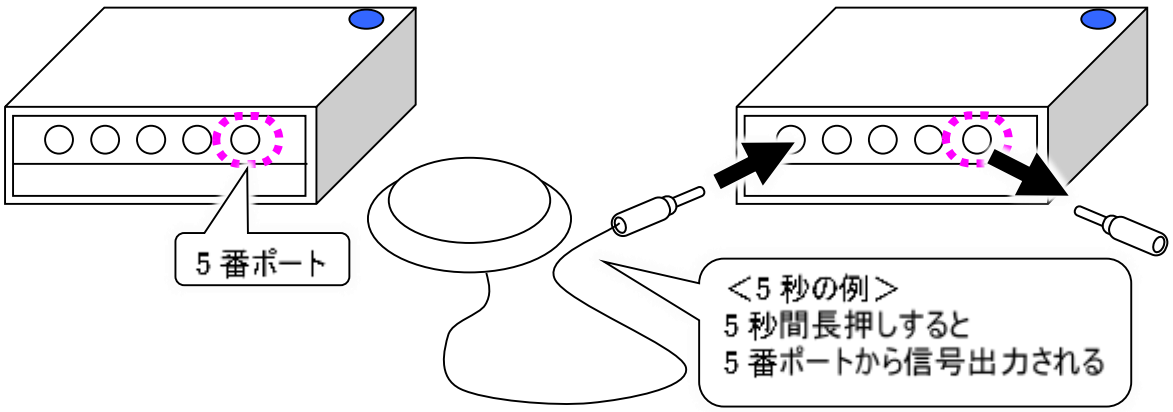
ディップスイッチは 2～4 を使用します。長押し時間は 2 秒、3 秒、5 秒の 3 種類の設定が可能です。

【出荷時設定】



【長押し時間:5 秒の例】





ディップスイッチ 2～4 の設定は、下表のとおりです。

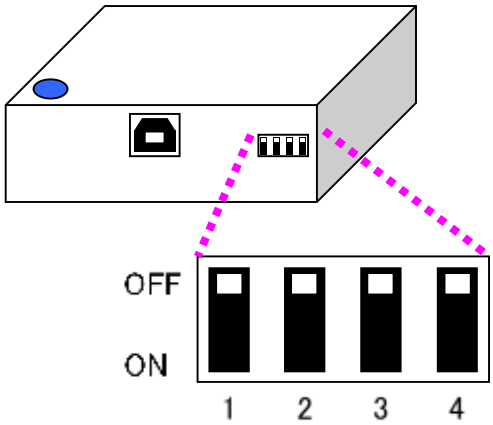
	ディップスイッチの設定		
長押し時間	2	3	4
2 秒	ON	ON	OFF
3 秒	ON	OFF	ON
5 秒	ON	ON	ON
5 番ポート出力無効	OFF	OFF	OFF

スイッチの外部出力について

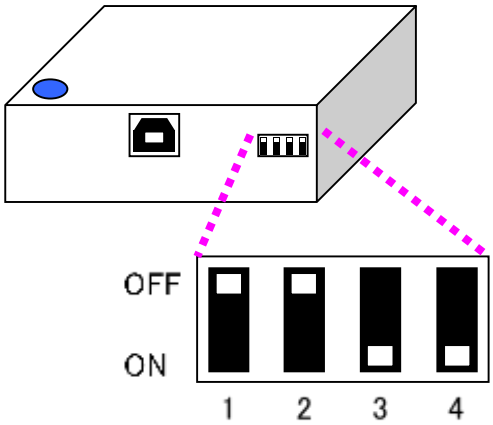
入力側スイッチの 3 回連続押しで外部出力を行う

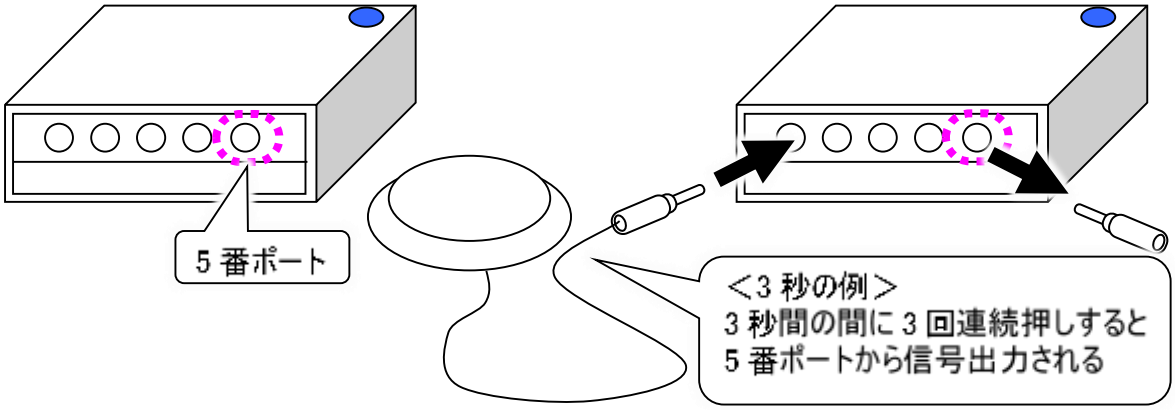
ディップスイッチは 2～4 を使用します。3 回連続押し時間は 1.5 秒、2 秒、3 秒の 3 種類の設定が可能です。

【出荷時設定】



【3 回連続押し時間:3 秒の例】





ディップスイッチ 2～4 の設定は、下表のとおりです。

	ディップスイッチの設定		
3 回連続押し時間	2	3	4
1.5 秒	OFF	ON	OFF
2 秒	OFF	OFF	ON
3 秒	OFF	ON	ON
5 番ポート出力無効	OFF	OFF	OFF

その他

「伝の心」をご購入時の状態に戻す

「伝の心」は、システム装置、意思伝達ソフトウェア、周辺機器で構成されております。
意思伝達ソフトウェアの復元により、「伝の心」のソフトウェアをご購入時の状態に戻すことはできますが、システム装置や周辺機器の設定はご購入時の状態に戻すことはできません。
「伝の心」では、「伝の心」システム全てをご購入時の状態に戻すための、システムリカバリーディスクは同梱致しておりません。システムリカバリーの場合、お客様の大切な設定情報、保存ファイル(文章)やメール情報などが全て削除されてしまうからです。

「伝の心」システム全てをご購入時の状態に戻す場合は、ご購入先にお問い合わせください。
販売会社がご訪問するか、または、工場に引き取りをさせていただき、作業を行わせて頂きます。

保守について

「伝の心」の保守については、ご購入先にお問い合わせください。

●対象商品:「伝の心」および、その付属品一式

有償部品について

消耗品以外に、破損、寿命等により部品交換する場合は、下記の部品を有償にて提供致します。
自分で部品交換、修理はしないでください。故障の際は、必ずご購入先にご連絡下さい。
システム装置の内部部品の交換の目安は、1 日 8 時間、1ヵ月 25 日使用時、約 5 年です。使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
また、液晶ディスプレイは、明るさが工場出荷時の約 1/2 に低下したときを寿命としています。長時間連続で使用すると、寿命が早くなりますのでご注意ください。
詳細は、各装置の取扱説明書に記載されていますので、併せてご確認ください。

●システム装置:バッテリー
ハードディスク/SSD(「伝の心」の型式によって異なります。)
DVDドライブ
キーボード・マウス
ファン
AC アダプター
メインボード
液晶ディスプレイ
●なんでも IR2:充電ユニット

意思伝達装置　伝の心
取扱説明書

第20版　2024年　7月

株式会社　日立ケーイーシステムズ

PC-DEN2A-20

無断転載を禁止します
落丁・乱丁の場合はお取り替えいたします。